大正十三年八月二日印刷
大正十三年八月五日發行

漢文叢書
史記三

編輯者　東京府下大久保町西大久保二百三十六番地
塚本哲三

發行兼印刷者　東京市神田區錦町一丁目十九番地
三浦理

印刷所　東京市神田區錦町三丁目九番地
有朋堂印刷部

發行所　東京市神田區錦町一丁目十九番地
有朋堂書店

中。君子不近。庶人不服者。所以漸然也。宣帝初立。推恩宣德。以本始元年中。盡復封燕王旦兩子。一子爲安定侯。立燕故太子建。爲廣陽王。以奉燕王祭祀。

史記第三（卷四十——卷六十）終

王旦。乃恐懼服レ罪。叩頭謝レ過。大臣欲レ和二合骨肉一。難三傷レ之以二法。其後旦復與二左將軍上官桀等一謀レ反。宣言曰。我次二太子一。太子不レ在。我當レ立。大臣共抑レ我云云。

大將軍光輔レ政。與二公卿大臣一議曰。燕王旦不三改レ過悔レ正。行レ惡不レ變。於レ是修レ法直斷。行二罰誅一。旦自殺。國除。如二其策指一。有司請レ誅二旦妻子一。孝昭以二骨肉之親一。不レ忍レ致レ法。寬二赦旦妻子一。免爲二庶人一。傳曰。蘭根與二白芷一。漸二之滫

大將軍光は政を輔け、公卿大臣と議して曰く、燕王旦は、過を改めて悔い正しうせず、惡を行うて變ぜずと。是に於て法を修めて直斷し、罰誅を行ふ。旦は自殺し、國除かる、其策(一)の指の如し。有司旦の妻子をも誅せんと請ふに、孝昭は骨肉の親を以て、法を致すに忍びず。旦の妻子を寬赦し、免じて庶人と爲せり。傳に曰く、蘭根と白芷(二)と、之を滫(三)中に漸せば、君子近づけず、庶人服せずとは。(四)漸の然らしむる所以なり。宣帝初めて立つや、恩を推し德を宣べ、本始元年中を以て、盡く復燕王旦の兩子を封ず。一子を安定侯(五)と爲す。燕の故の太子建を立てて廣陽(六)王と爲し、以て燕王の祭祀を奉ぜしめき。

(一) 封立の時の策文に戒しめられたる旨意の如くなりき　(二) 香草なり　(三) 米の洗ひ汁　(四) 漸次に浸潤す　(五) 直隷保定府　(六) 直隷順天府良郷縣

今通義。國家大禮。文章爾雅。謂レ王曰。古者天子。必内有二異姓大夫一。所三以正二骨肉一也。外有二同姓大夫一。所三以正二異族一也。周公輔二成王一。誅二其兩弟一。故治。武帝在時。尚能寛レ王。今昭帝始立。年幼。富二於春秋一。未レ臨レ政。委二任大臣一。古者誅罰不レ阿二親戚一。故天下治。方今大臣輔レ政。奉レ法直行。無レ敢所レ阿。恐不レ能レ寛レ王。王可二自謹一。無下自令二身死國滅一爲中天下笑上。於レ是燕

を正す所以なり。外に同姓の大夫有り、異族を正す所以なり。周公は成王を輔けて其兩弟を誅せり、故に治まりぬ。武帝の在りし時、尚能く王を寛うせり。今は昭帝始めて立ち、年幼なり、春秋に富む。未だ政に臨まずして大臣に委任す。古は誅罰、親戚に阿らず、故に天下治れり。方今大臣政を輔け法を奉じて直行し、敢て阿る(三)所無し。恐くは王を寛にする能はざらん。王自ら謹むべし、自ら身死し國滅びしめて、天下の笑と爲ること無れと。是に於て燕王旦は、乃ち恐懼して罪に服し、叩頭して過を謝す。大臣骨肉を和合せんと欲し、之を傷ふに法を以てするを難(四)れり。其後旦は復左將軍上官桀等と與に反を謀り、宣言して曰く、我は太子に次ぐ、太子在らずんば我當に立つべし。大臣共に我を抑ふ云云と。

(一) 字義の正解 (二) 天子の一統を正す (三) 顧慮し阿諛する所なし (四) 遠慮し差控ふ

發覺當誅。昭帝緣恩寬忍。抑案不揚。公卿使大臣請。遣宗正與太中大夫公戶滿意。御史二人皆往使燕。風喩之。到燕各異日更見責王。宗正者。主宗室諸劉屬籍。先見王爲列陳。道昭帝實武帝子狀。侍御史乃復見王。責之以正法。問王。欲發兵。罪名明白。當坐之。漢家有正法。王犯纖介小罪過。即行法直斷耳。安能寬王。驚動以文法。王意益下。心恐。

づ王に見えて爲に列陳し、(五)昭帝が實に武帝の子なる狀を道ふ。侍御史は乃ち復た王に見え、之を責むるに正法を以てし、王に問ふらく、兵を發せんと欲するは罪名明白なり。當に之に坐すべし。漢家正法有り、王が(六)纖介の小罪過を犯すも即ち法を行うて直に斷ぜんのみ、安ぞ能く王を寬にせんと。(七)驚動するに文法を以てす。王の意益々下り、心に恐る。

(一)弟を持つ者にあらずとの義　(二)霍光を指す　(三)案件なり　(四)それとなく說諭して悟らしむるなり　(五)事實を列べて陳述す　(六)瑣小に同じ　(七)驚かし感動せしむるに法律を以てす

公戶滿意習於經術。最後見王。稱引古

公戶滿意は經術に習へり。最後に王に見え、古今の通義、國家の大禮、文章(一)爾雅を稱引し、王に謂つて曰く、古は天子、必ず內に異姓の大夫有り、(二)骨肉

備者。無レ乏二武備一。常備二匈奴一也。非二教士一。不レ得レ從レ徵者。言下非レ習二禮義一不上レ得レ在二於側一也。會二武帝年老長一。而太子不幸薨。未レ有レ所レ立。而旦使來上レ書。請三身入宿二衞於長安一。孝武見二其書一。擊レ地怒曰。生レ子當レ置二之齊魯禮義之鄕一。乃置二之燕趙一。果有二爭心一。不レ讓之端見矣。於レ是使三使卽斬二其使者於闕下一。

見はると。是に於て使をして即ち其使者を闕下に斬らしめき。

(一) 瘦せて石多き惡地 (二) 孝行を知らず、策文の虐老獸心に應ず (三) 燕王の名 (四) 相讓らざるの端緒

會二武帝崩昭帝初立一。旦果作レ怨。而望二大臣一。自以長子。當レ立。與二齊王子劉澤等一謀レ爲二叛逆一。出レ言曰。我安得二弟在一者。今立者。乃大將軍子也。欲レ發レ兵。事

武帝崩じて昭帝初めて立つに會ふや、旦は果して怨を作して大臣を望み、自ら以へらく長子なり、當に立つべしと、齊王の子劉澤等と叛逆を爲すを謀る。言を出して曰く、我安ぞ弟(一)の在るを得る者ならん。今立てる者は乃ち大(二)將軍の子のみと。兵を發せんと欲す。事發覺して誅に當す。昭帝は恩に緣りて寬忍し、案を投へて揚げず、公卿は大臣をして請はしめ、宗正と太中大夫公戶滿意と御史と二人を遣り、偕に往いて燕に使せしめ、之に風喩(四)す。燕に到るに各口を異にし、更ゝ見えて王を責めき。宗正は宗室諸劉の屬籍を主る。先

燕土墝埆。北迫二匈奴一。其人民勇而少レ慮。故誡レ之曰。葷粥氏。無レ有二孝行一。而禽獸心。以竊盜。侵二犯邊民一。朕詔二將軍一。往征二其罪一。萬夫長。千夫長。三十有二君。皆來降レ旗奔レ師。葷粥徙レ域遠處。北州以安矣。悉二若心一。無レ作レ怨者。勿レ使二從レ俗以怨望一也。無レ俷德者。勿レ使二上背レ德也。無レ廢

燕の土は墝埆、北は匈奴に迫り、其人民は勇にして慮少し。故に之を誡めて曰く、葷粥氏(一)は孝行有る無くして、禽獸の心あり。以て竊盜して邊民を侵犯す、朕將軍に詔(二)して、往いて其罪を征せしむるに、萬夫の長、千夫の長、三十有二君、皆來りて旗を降し師に奔り、葷粥は域を徙して遠く處り、北州以て安かりきと。若の心を悉して怨を作す無れとは、俗に從つて以て怨望せしむる勿れとなり。德を俷る無れとは、上をして德に背かしむる勿れとなり。備を廢する勿れとは、武備を乏しくする無くして常に匈奴に備へよとなり。敎士に非ずんば徵に從ふを得ずとは、禮義に習ふに非ずんば、側に在るを得ずと言ふなり。武帝が年老い長じて、太子不幸にして薨ずるに會し、未だ立つる所有らざるに、而るに旦の使は來りて書を上り、身は入りて長安に宿衞せんと請ふ。孝武は其書(三)を見て、地に擊つて怒りて曰く、子を生まば當に之を齊魯禮義の鄕に置くべきに、乃ち之を燕趙に置く、果して爭心有り、讓らざるの端(四)

地。盡以封廣陵王胥四子。一子爲朝陽侯、一子爲平曲侯。一子爲南利侯。最愛少子弘。立以爲高密王。其後胥果作威福。通楚王使者。楚王宣言曰。我先元王高帝少弟也。封三十二城。今地邑益少。我欲與廣陵王。共發兵云。廣陵王爲上。我復王楚三十二城。如元王時。事發覺。公卿有司請行罰誅。天子以骨肉之故。不忍致法於胥。下詔書無治廣陵王。獨誅首惡楚王。傳曰。蓬生麻中。不扶自直。白沙在泥中。與之皆黑者。土地教化使之然也。其後胥復祝詛謀反。自殺國除。

王と共に兵を發せんと欲すと云ふ。廣陵王を上と爲さん、我復楚の三十二城に王たらんこと。元王の時の如くならんと。事發覺す。公卿有司は罰誅を行はんと請ふ。天子は骨肉の故を以て、法を胥に致すに忍びず。詔書を下して廣陵王を治する無からしめ、獨り首惡の楚王を誅す。傳に曰く、蓬は麻中に生ずれば、扶けざるも自ら直く、白沙泥中に在れば、之と與に皆黑しとは、土地教化の之をして然らしむるなり。其後に胥は復祝(五)詛して謀反し、自殺して國除かれたり。

(一) 河南南陽府 (二) 江蘇海州 (三) 河南汝寧府 (四) 山東萊州 (五) 呪詛す

則無長好佚樂馳騁弋獵淫康而近小人。常念法度。則無羞辱矣。三江五湖有魚鹽之利。銅山之富。天下所仰。故誡之曰。臣不作福者。勿使行財幣。厚賞賜。以立辟譽。爲四方所歸也。又曰臣不作威者。勿使因輕以倍義也。

㊀内政を[illegible]す　㊁精鋭にして輕薄　㊂迫り要求して漸く中國の俗に從はしむ　㊃仰ぎ視て恃む所　㊄福を作さざれとの言を說明せるなり

會孝武帝崩。孝昭帝初立。先朝廣陵王胥。厚賞賜金錢財幣。直三千餘萬。益地百里。邑萬戶。會昭帝崩。宣帝初立。緣恩行義。以本始元年中。裂漢

孝武帝崩じ、孝昭帝初めて立つに會し、先づ廣陵王胥を朝せしめ、厚く金錢財幣を賞賜す、直三千餘萬なり。地百里と邑萬戶を益せり。昭帝崩じて宣帝初めて立つに會ふや、恩に緣り義を行ひ、本始元年中を以て漢の地を裂き盡く以て廣陵王胥の四子を封ぜり。一子を朝陽侯と爲し、一子を平曲侯と爲し、一子を南利侯と爲し、最も少子弘を愛し、立てて以て高密王と爲せり。其後に胥は果して威福を作し、楚王の使者に通ずるに、楚王は宣言して曰く、我先元王は高帝の少弟なり。三十二城に封ぜらる。今地邑益〻少し。我は廣陵

遠哉。賢主昭然獨見。誡二齊王一。以レ愼レ內。誡二燕王一以二無レ作レ怨無レ俷レ德。誡二廣陵王一。以二愼レ外無レ作二威與一レ福。夫廣陵在二吳越之地。其民精而輕。故誡レ之曰。江湖之間。其人輕心。楊州保レ疆。三代之時迫要。使下從二中國俗一服上。不二大及一レ以二政教一。以レ意御レ之而已。無二侗好レ佚。無レ邇二宵人一。維法是

遠い哉、賢主は昭然として獨り見る。齊王を誡むるに内を愼むを以てし、燕王を誡むるに怨を作す無く、德を俷る無きを以てし、(一)廣陵王を誡むるに、外を愼みて威と福とを作す無きを以てせること。夫れ廣陵は吳越の地に在り、其民は(二)精にして輕なり。故に之を誡めて曰く、江湖の間は其人輕心なり、楊州は疆を保む。三代の時に(三)迫要して、中國の俗に從つて服せしむ。大いに政教を以てするに及ばず、意を以て之を御するのみ。侗にして佚を好む無れ、宵人を邇づくる無れ。維れ法とし是れ則とし、長く佚樂・馳騁・弋獵・淫康を好んで小人を近づくる無れ。常に法度を念へば則ち羞辱無しと。三江五湖は魚鹽の利、銅山の富有り、天下の(四)仰ぐ所なり。故に之を誡めて曰く、臣は福を作さざれと。(五)財幣を行ひ賞賜を厚うし、以て聲譽を立てて四方の歸する所と爲らしむる勿れと。又曰く、臣は威を作さざれと。輕に因りて以て義に倍かしむる勿れと。

封於北方者。取黒土。封於上方者。取黄土。各取其色物。裹以白茅。封以爲社。此始受封于天子者也。此之謂主土。主土者立社而奉之也。朕承祖考。祖者先也。考者父也。維稽古。維者度也。念也。稽者當也。當順古之道也。齊地多變詐。不習於禮義。故戒之曰。恭朕之詔。唯命不可爲常。人之好德。能明顯光。不圖于義。使君子怠慢。悉若心信執其中。天祿長終。有過不善。乃凶于而國。而害于若身。齊王之國。左右維持以禮義。不幸中年早夭。然全身無過。如其策意。傳曰。青采出於藍。而質青於藍者。教使然也。

の詔を恭めよ、唯命(四)は常と爲すべからず。人の徳を好むや、能く明に顯光なり、義に圖らずんば、君子をして怠慢ならしめん。若の心を悉して、信に其中を執れ、天祿永く終へん。過有りて善からざるは、乃ち而の國に凶にして、若の身に害あらんと。齊王の國に之くや、左右(五)維持するに禮義を以てせり。不幸にして中年に早く夭(六)せるも、然も身を全うして過無く、其策の意の如し。傳に曰く、青は藍より采り出でて、而も質は藍よりも青しとは、教の然らしむるなり。

(一) 國土を祀る神社　(二) 春秋伏臘なり、四季に祀るを言ふ　(三) 中央なり、かみがた　(四) 詔命を尋常なりと見ること勿れ　(五) 王の左右近侍の臣　(六) 早死を夭とす

下稱ニ齊不レ宜レ王云。

所レ謂受ニ此土一者、諸侯王始封者。必受ニ土於天子之社一。歸立レ之。以爲ニ國社一。以ニ歲時一祠レ之。春秋大傳曰、天子之國有ニ泰社一。東方青。南方赤。西方白。北方黑。上方黃。故將レ封ニ於東方一者。取ニ青土一。封ニ於南方一者、取ニ赤土一。封ニ於西方一者。取ニ白土一。

所謂此土を受くとは、諸侯王の始めて封ぜらるゝ者は、必ず土を天子の社(一)に受け、歸りて之を立て、以て國社と爲し、(二)歲時を以て之を祠る。春秋大傳に曰く、天子の國は泰社有り、東方は青、南方は赤、西方は白、北方は黑、(三)上方は黃なり。故に將に東方に封ぜられんとする者は、青土を取り、南方に封ずる者には赤土を取り、西方に封ずる者には白土を取り、北方に封ずる者には黑土を取り、上方に封ずる者には黃土を取り、各〻其色物を取り、裹むに白茅を以てし、封じて以て社と爲す。此れ始めて封を天子に受くる者なり。此れ之を主土と謂ふ。主土とは社を立てて之を奉ずるなり。朕祇考を承くと、祖とは先なり、考とは父なり。維稽古と、維とは度なり、念なり、稽とは當なり、古の道に當り、順ふなり。齊の地は變詐多く、禮義に習はず。故に之を戒めて曰く、朕

安所置之。王夫人曰。陛下在。妾又何等可言者。帝曰。雖然。意所欲欲於何所王之。王夫人曰。願置之雒陽。武帝曰。雒陽有武庫敖倉。天下衝阸漢國之大都也。先帝以來無子王於雒陽。者。去雒陽。餘盡可。王夫人不應。武帝曰。關東之國。無大於齊者。齊東負海。而城郭大。古時獨臨菑。中十萬戶。天下膏腴地。莫盛於齊者矣。王夫人以手擊頭。謝曰。幸甚。王夫人死。而帝痛之。使使者拜之。曰。皇帝謹使使太中大夫明。奉璧一。賜夫人。爲齊王太后。子閎王齊。年少無子。立不幸早死。國絕爲郡。天

曰く、雒陽は武庫・敖倉有り、天下の衝阸なり、漢國の大都なり。先帝以來、子の雒陽に王たる者無し。雒陽を去らば、餘は盡く可なりと。王夫人應せず。武帝曰く、關東の國は齊より大なる者無し。齊は東に海を負うて城郭大なり、古時獨り臨菑のみ中に十萬戶ありき。天下膏腴の地は、齊より盛んなる者莫しと。王夫人手を以て頭を擊つて謝して曰く、幸甚しと。王夫人死す。而して帝之を痛み、使者をして之を拜せしめて曰く、皇帝謹んで使太中大夫明をして、璧一を奉じて夫人に賜ひ、齊王の太后と爲らしむと。子閎齊に王たるに、年少く、子有る無し。立つも不幸にして早く死し、國絕えて郡と爲りき。天下は齊は王たるに宜しからずと稱せりと云ふ。

㊀武器庫と穀物倉と　㊁要衝に同じ

日而俱拜三子一爲レ王。封二一子於齊。一子於廣陵。一子於燕。各因二子才力智能及土地之剛柔。人民之輕重一。爲作レ策。以申二戒之一。謂レ王。世爲二漢藩輔一。保レ國治レ民。可レ不レ敬與。王其戒レ之。夫賢主所レ作。固非三淺聞者所二能知一。非二博聞彊記君子者一。所レ不レ能三究二竟其意一。至二其次序。分絶。文字之上下。簡之參差長短一。皆有レ意。人莫二之能知一。謹論二次其眞草詔書一。編二于左方一。令下覽者自通二其意一而解中說之上。

長短に至るまで皆意有り。人之を能く知るもの莫し。謹んで其眞草の詔書を論次し、左方に編し、覽者をして自ら其意に通じて之を解說せしめん。

㊀封立に關する策文　㊁精神の在る處　㊂論しのべ戒しむ　㊃章句段落の類　㊄文簡の高低長短　㊅詔書の原本

王夫人者。趙人也。與二衞夫人一。並幸二武帝一。而生二子閎一。閎且二立爲一レ王。時其母病。武帝自臨問レ之曰。子當レ爲レ王。欲二

王夫人は趙の人なり。衞夫人と並に武帝に幸せられて、子閎を生めり。閎且に立ちて王爲らんとす。時に其母病めり。武帝自ら臨んで之に問うて曰く、子當に王と爲るべし、安所にか之を置かんと欲すると。王夫人曰く、陛下在り、妾又何等の言ふべき者あらんと。帝曰く、然りと雖も意の欲する所は、何所にか之を王とせんと欲するぞと。王夫人曰く、願くは之を雒陽に置かんと。武帝

疆而王室安。自レ古至レ今。所二由來一久矣。非レ有レ異也。故弗二論著一也。燕齊之事。無二足レ采者一。然封二立三王一。天子恭讓。羣臣守レ義。文辭爛然。甚可レ觀也。是以附二之世家一。

褚先生曰。臣幸得三以下文學上爲二侍郎一。好二覽觀大史公之列傳一。列傳中。稱下三王世家文辭可上レ觀。求二其世家一。終不レ能レ得。竊從下長老好二故事一者上。取二其封策書一。編二列其事一而傳レ之。令三後世得レ觀二賢主之指意一。蓋聞。孝武帝之時。同レ

褚先生曰く、臣幸にして文學を以て侍郎と爲るを得て、好んで太史公の列傳を覽觀するに、列傳の中に、三王世家の文辭觀るべきを稱せり。其世家を求むるに、終に得る能はず。竊に長老の故事を好む者に從ひ、其封策(一)の書を取り、其事を編列して之を傳へ、後世をして賢主の指意(二)を觀るを得しむ。蓋し聞く、孝武帝の時、日を同じうして倶に三子を拜して王と爲し、一子を齊に、一子を廣陵に、一子を燕に封ず。各々子の才力智能及び土地の剛柔と人民の輕重とに因りて、爲に策を作り、以て之を申戒(三)し、王に謂ふらく、世々漢の藩輔と爲れ、國を保ち民を治むる、敬せざるべけんや、王其れ之を戒めよと。夫れ賢主の作る所は、固に淺聞者の能く知る所に非ず。博聞彊記の君子者に非ずんば其意を究竟する能はざる所たり。其次序(四)・分絶・文字の上下(五)・簡の參差

間。其人輕心。楊州保疆。三代要服。不及以政。於戲。悉爾心。戰戰兢兢。乃惠乃順。毋侗好佚。毋邇宵人。維法維則。書云。臣不作威。不作福。靡有後羞。於戲保國艾民。可不敬與。王其戒之。右廣陵王策。

右は廣陵王の策なり。

(一) 赤は南方の色なり、廣陵は今の江蘇楊州の地なり (二) 洞庭以下の五湖なり、南方の泛稱 (三) 輕燥浮薄 (四) 形勢を恃んで自ら傲り治め難しと稱せらる (五) 王城より遐く離れて政法行屆かざる地とせり (六) 愚昧にして逸樂を好む (七) 小人に同じ (八) 威福を貪らざる時はの義、前共參照

太史公曰。古人有言曰。愛之欲其富。親之欲其貴。故王者疆土建國。封立子弟。所以褒親親。序骨肉。尊先祖。貴支體。廣同姓於天下也。是以形勢

太史公曰く、古人言へる有り、曰く、之を愛すれば其富を欲し、之を親めば其貴を欲すと。故に王者は土を疆り(一)國を建てて、子弟を封立す。(二)親親を褒し骨肉を序し、先祖を尊び(三)支體を貴くし、同姓を天下に廣むる所以なり。是を以て形勢彊くして王室安し、古より今に至るまで、由來する所久し、(四)異有るに非ざるなり、故に論著せず。燕齊の事は采るに足る者無し。然れども三王を封立するに、天子恭讓し、羣臣義を守り、文辭爛然甚だ觀るべし。是を以て之を世家に附す。

(一) 限なり、境に同じ (二) 宗族親和の道を褒賞す (三) 分家支族 (四) 異變

將率。徂征厥罪。萬夫長、千夫長。三十有二君皆來。降旗奔師。葷粥徙域。北州以綏。悉爾心。毋作怨。毋俷德。乃毋廢備。非敎士不得從徵。於戲保國艾民。可不敬與。王其戒之。右燕王策。

(一)玄は北方の色なり、葷は北方に居る　(二)北狄の一種族　(三)姦佞なる邊境の民　(四)有は又と同じ　(五)降參せしなり　(六)敗毀す　(七)北狄に對する戰備　(八)敎育を經たる士民

維六年四月。乙巳。皇帝使御史大夫湯。廟立子胥爲廣陵王。曰。於戲小子胥。受茲赤社。朕承祖考。維稽古建爾國家。封于南土。世爲漢藩輔。古人有言曰。大江之南。五湖之

維れ六年の四月乙巳、皇帝は御史大夫湯をして、廟に子胥を立てて廣陵王と爲さしめて曰く、於戲小子胥、茲の赤社を受けしむ。朕祖考に承けて、維れ古に稽へ、爾の國家を建てて南土に封ず。世ゝ漢の藩輔と爲れ。古人言へる有り曰く、大江の南、五湖の間は、其人(一)輕心なり。楊州は(二)彊を保つ、三代の要服なり、及ぼすに政を以てせずと。於戲爾の心を悉し、戰戰兢兢、乃ち惠に乃ち順に、(四)侗にして、佚を好む毋く宵人を邇づくる毋れ。維れ法とし維れ則とせよ。書に云ふ、臣は威を作さず福を作さざれば、後の羞有ること靡しと。於戲國を保ち民を艾むる、敬まざるべけんや。王其れ之を戒めよと。

怠。悉二爾心一。允執二其中一。天祿永終。厥有レ愆不レ臧。乃凶二于而國一。害二于爾躬一。於戲保レ國艾レ民可レ不レ敬與。王其戒レ之。右齊王策。

(一)祖宗の廟館 (二)靑は東の邑なり、東方の社に同じ (三)古の道を考へ度る (四)尋常の小事にあらず (五)君子皆怠りて我に歸服するなからん (六)中正の大道 (七)天與の福祿長く來らん (八)過失 (九)告諭の文

維六年。四月。乙巳。皇帝使下御史大夫湯。廟立二子旦一爲中燕王上。曰。於戲小子旦。受二茲玄社一。朕承二祖考一。維稽レ古建二爾國家一。封二于北土一。世爲二漢藩輔一。於戲。葷粥氏虐レ老獸心。侵犯寇盜。加以二姦巧邊萌一。於戲朕命二

維れ六年の四月乙巳、皇帝は御史大夫湯をして、廟に子旦を立てて燕王と爲さしめて曰く、於戲小子旦、茲玄社(一)を受けしむ。朕祖考を承け、維つて古に稽へ爾の國家を建てて、北土に封ず。世〻漢の藩輔と爲れ。於戲葷粥氏(二)は、老を虐して獸心あり、侵犯し寇盜し、加ふるに姦巧の邊萌(三)を以てす。於戲朕は將率に命じ、徂いて厥罪を征せしむるに、萬夫の長、千夫の長、三十有二君(四)、皆來りて旗(五)を降し師に奔り、葷粥域を徙し、北州以て綏し。爾の心を悉して、怨を作す毋く、德を倜る(六)毋く、乃ち備(七)を廢する毋れ。(八)教士に非ずんば、徵に從ふを得ず。於戲國を保ち民を艾むるは、敬せざるべけんや。王其れ之を戒めよと。

右は燕王の策なり。

圖。請ニ所レ立國名。禮儀別奏。臣昧死請。制曰。立ニ皇子閎ニ爲ニ齊王。旦爲ニ燕王。胥爲ニ廣陵王。四月。丁酉。奏ニ未央宮。六年。四月。戊寅朔。癸卯。御史大夫湯下ニ丞相。丞相下ニ中二千石。二千石下ニ郡太守諸侯相丞。書從レ事下ニ當レ用者ニ如ニ律令。

維六年。四月。乙巳。皇帝使ニ御史大夫湯。廟立ニ子閎ニ爲ニ齊王ニ曰。於戲。小子閎。受ニ玆青社。朕承ニ祖考。維稽レ古。建ニ爾國家。封ニ于東土。世爲ニ漢藩輔。於戲念哉。恭ニ朕之詔。惟命不レ于レ常。人之好レ德。克明顯光。義之不レ圖。俾ニ君子

維六年四月乙巳、皇帝は御史大夫湯をして、廟(一)に子閎を立てて齊王と爲さしめて曰く、於戲小子閎、玆の青社(二)を受けしむ。朕祖考を承け、維(三)りて古に稽へ、爾の國家を建てて、東土に封ず。世〻漢の藩輔と爲れ。於戲念へよや。朕の詔を恭め、惟命(四)は常にあらず、人の德を好むや、克く明に顯光あり。義を之れ圖らざれば、君子(五)をして怠らしめん。爾の心を悉して、允(六)に其中を執れ、天祿(七)永く終らん。厥れ愆(八)有りて臧からずんば、乃ち而の國に凶ならん、爾の躬にも害あらん。於戲國を保ち民を艾むる、敬はざるべけんや、王其れ之を戒めよと。

右は齊王の策(九)なり。

石。諫大夫博士臣慶等昧死。請ド立ニ皇子臣閎等ー爲中諸侯王上。陛下讓ニ文武ー。躬自切及ニ皇子未レ教。羣臣之議。儒者稱ニ其術ー。或誖ニ其心ー。陛下固辭弗レ許。家ニ皇子ー爲ニ列侯ー。臣靑翟等。竊與ニ列侯臣壽成等二十七人ー議。皆曰。以爲尊卑失レ序。高皇帝建ニ天下ー。爲ニ漢太祖ー。王ニ子孫ー廣ニ支輔ー。先帝法則弗レ改。所ニ以宣ニ至尊ー也。臣請令ド史官擇ニ吉日ー。具ニ禮儀ー上ュ。御史奏中輿地圖上。他皆如ニ前故事ー。制曰。可。四月。丙申。奏ニ未央宮ー。太僕臣賀。行ニ御史大夫事ー昧死言。太常臣充言。卜入ニ四月二十八日乙巳ー。可レ立ニ諸侯王ー。臣昧死奏ニ輿地

しめ、他(四)は皆前の故事の如くせんと。制して曰く、可なりと。四月丙申(五)未央宮に奏すらく、太僕臣賀は御史大夫の事を行ひ、昧死して言はん。太常臣充言ふ、卜するに、四月二十八日乙巳に入れば、諸侯王を立つべしと。臣昧死して輿地圖を奏し、立つる所の國名を請ふ。禮儀は別に奏せん。臣昧死して請ふと。制して曰く、皇子閎を立てて齊王と爲せ、旦を燕王と爲せ、胥を廣陵王と爲せと。四月丁酉未央宮に奏す。六年四月戊寅朔癸卯(六)、御史大夫湯は丞相に下し、丞相は中二千石に下し、二千石は郡太守諸侯相丞に下す。書は事に從ひ、當に用ふべき者に下すこと律令(七)の如くす。

(一) 四月六日 (二) 戻るが如く (三) 支族の補佐 (四) 他の手續 (五) 十九日なり (六) 二十六日 (七) 法律制令に從ふなり

應甚彰。今諸侯支子。封至諸侯王。臣靑翟。臣湯等。竊伏孰計之。皆以爲尊卑失序。使天下失望。不可。臣請立臣閎。臣旦。臣胥。爲諸侯王。

四月癸未。奏未央宮。留中不下。丞相臣靑翟。太僕臣賀行御史大夫事。太常臣充。太子太傅臣安行宗正事。昧死言。臣靑翟等前奏。太司馬臣去病上疏言。皇子未有號位。臣謹與御史大夫臣湯。中二千石二千

(二)四月癸未未央宮に奏するに、中に留めて下さず。丞相臣靑翟、太僕臣賀行御史大夫事、太常臣充、太子太傅臣安行宗正事は昧死して言ふ。臣靑翟等前に奏す、太司馬臣去病の上疏に、皇子未だ號位有らざるを言へり。臣謹んで御史大夫臣湯中二千石・二千石・諫大夫博士臣慶等と昧死し、皇子臣閎等を立てて諸侯王と爲さんことを請へり。陛下文武を讓り、躬自ら切に、皇子の未だ數へざるに及べり。羣臣の議も、儒者の其術を稱するも、或は其心に誖るか、陛下固く辭して許さず。皇子を家として列侯と爲せと。臣靑翟等、竊に列侯臣壽成等二十七人と議するに、皆曰く、以爲に尊卑序を失はんと。高皇帝天下を建てて漢の太祖と爲り、子孫を王とし支輔(三)を廣む。先帝の法則改めざるは、至尊を宣ぶる所以なり。臣請ふ史官をして吉日を擇び禮儀を具へて上つらしめ、御史をして輿地圖を奏せ

殊俗も、譯を重ねて朝し(一八)、澤は方外(一九)に及べり。故に珍獸至り嘉穀興り、天應甚だ彰はる。今諸侯の支子は封ぜられて諸侯王に至る、臣青翟、臣湯等、竊に伏して之を熟計するに、皆以爲らく、尊卑序を失ひ、天下をして望を失はしめん、不可なりと。臣は臣閎・臣旦・臣胥を立てて、諸侯王と爲さんことを請ふと。

(一) 四月朔日　(二) 以下五十餘字は前書の文字につき省略す　(三) 先土の體をつぎて嗣となる　(四) 康叔と伯禽とを指す　(五) 武庚祿父の亂を防止す　(六) 殺なり、鎭定の義　(七) 伏羲炎帝黄帝堯舜各々其爵位の制を殊にす　(八) 公侯伯子男　(九) 公侯伯　(一〇) 王と侯と　(一一) 幼少の義　(一二) 並び行ふなり　(一三) 西戎の國名　(一四) 漢軍に服從す　(一五) 輿車器械の費用は之を四夷にとりて漢民に賦せず　(一六) 大兵車なり、軍士の頭目を言ふ　(一七) 風化に從ひ流澤を受く　(一八) 譯語を重ぬ　(一九) 漢國の外四夷の地

親屬有十。武王繼體。周公輔成王。其八人皆以祖考之尊。建爲大國。康叔之年幼。周公在三公之位。而伯禽據國於魯。蓋爵命之時。未至成人。康叔後扞祿父之難。伯禽殄淮夷之亂。昔五帝異制。周爵五等。春秋三等。皆因時而序尊卑。高皇帝撥亂世反諸正。昭至德。定海內。封建諸侯。爵位二等。皇子或在襁褓。而立爲諸侯王。奉承天子。爲萬世法則。不可易。陛下躬親仁義。體行聖德。表裏文武。顯慈孝之行。廣賢能之路。內褒有德。外討彊暴。極臨北海。西湊月氏。匈奴西域。擧國奉師。輿械之費。不賦於民。虛御府之藏。以賞元戎。開禁倉。以賑貧窮。減戍卒之半。百蠻之君。靡不鄉風承流稱意。遠方殊俗。重譯而朝。澤及方外。故珍獸至。嘉穀興。天

二千石。諫大夫博士臣慶等。議。昧死奏下請立皇子。爲中諸侯王上。制曰。康叔親屬有十。而獨尊者褒有德也。周公祭天命郊。故魯有白牡騂剛之牲。羣公不毛。賢不肖差也。高山仰之。景行嚮之。朕甚慕焉。所以抑未成家。以列侯可。臣靑翟。臣湯。博士臣將行等。伏聞康叔

は(三)體を繼ぎ、周公は成王を輔く。其八人は皆祖考の尊を以て、建てて大國と成るに、康叔の年は幼なり。周公は三公の位に在りて、而して伯禽は國に魯に據れり。蓋し爵命の時は、未だ成人(四)に至らず。康叔は後に祿父(五)の難を扞ぎ、伯禽は淮夷の亂を(六)殄せり。昔は五帝(七)制を異にし、周は五等(八)を爵せり。春秋は三等(九)なり。皆時に因りて尊卑を序せしなり。高皇帝は亂世を撥き、諸を正に反し、至德を昭にし、海內を定めて諸侯を封建し、爵位二等(一〇)なり。皇子或は繈緥(一一)に在るも、而も立てて諸侯王と爲し、天子に奉承せしめ、萬世の法と爲せり。則ち易ふべからず。陛下躬ら仁義を親み、體に聖德を行ひ、文武を表裏し、(一二)慈孝の行を顯にし、賢能の路を廣め、內は有德を褒め、外は强暴を討ち、極く北海に臨み、西は月氏(一三)に湊るまで、匈奴西域、國を擧げて師を奉ず。(一四)輿械の費(一五)も民に賦せず、御府の藏を虛しうして以て元戎(一六)を賞し、禁倉を開いて以て貧窮を賑し、戍卒の半を減ず。百蠻の君も、(一七)風に嚮ひ流を承けて意に稱はざる靡く、遠方

帝王所以扶德施化。陛下奉承天統。明開聖緒。尊賢顯功。興滅繼絕。續蕭文終之後于酇。褒厲羣臣平津侯等。昭六親之序。明天施之屬。使諸侯王封君得推私恩分子弟戶邑。錫號尊建百有餘國。而家皇子爲列侯。則尊卑相踰。列位失序。不可以垂統於萬世。臣請立臣閎。臣旦。臣胥爲諸侯王。三月丙子。奏未央宮。制曰。康叔親屬有十。而獨尊者褒有德也。周公祭天命郊。故魯有白牡騂剛之牲。羣公不毛。賢不肖差也。高山仰之。景行嚮之。朕甚慕焉。所以抑未成家。以列侯可。

りと。

(一)元狩六年三月廿九日 (二)祖父 (三)鴻德なり (四)國家の統治完備す (五)聖道なり (六)蕭何の後嗣を繼ぎ立てしなり (七)公孫弘 (八)父母兄弟妻子 (九)屬は相屬する所の意、一本施を地に作る (一〇)燕世家參照 (一一)郊祭を指す (一二)白き牡と赤き牡との牲を用ふ (一三)毛色を一定せず (一四)大道は向ひ往くべし (一五)周制を慕ふ

四月戊寅。奏未央宮。丞相臣青翟。御史大夫臣湯。昧死言。臣青翟等。與列侯吏

四月戊寅未央宮に奏すらく、丞相臣青翟、御史大夫臣湯、昧死して言ふ、臣青翟等は、列侯吏二千石、諫大夫博士臣慶等と議し、昧死して皇子を立てて諸侯王と爲さんことを奏請するに、制して曰く、康叔は親屬云々、列侯を以てして可なりと。臣青翟、臣湯、博士臣將行等、伏して聞くに、康叔は親屬十有り。武王

大夫博士臣安等議曰。伏聞。周封二八百一。姫姓並列。奉二承天子一。康叔以二祖考一顯。而伯禽以二周公一立。咸爲二建國諸侯一。以相傅爲レ輔。百官奉レ憲。各遵二其職一。而國統備矣。竊以爲並二建諸侯一。所三以重二社稷一者。四海諸侯。各以二其職一。奉二貢祭一。支子不レ得レ奉二祭宗祖一禮也。封建使レ守二藩國一。

侯を並べ建て、社稷を重んずる所以の者は、四海諸侯、各々其職を以て貢祭を奉ずればなり。支子の宗祖を奉祭するを得ざるは禮なり。封建して藩國を守らしむるは、帝王の德を扶け化を施す所以なり。陛下は天統を奉承し、明に聖緒(七)を開き、賢を尊び功を顯にし、滅を興し絕を繼ぎ、(六)蕭文終の後を酇に繼がしめ、羣臣平津侯等を褒厲し、六親(八)の序を昭にし、天施の屬(九)を明にし、諸侯王封君をして、私恩を推して子弟に戸邑を分ち、號を錫ひ尊び建つるを得しむること、百有餘國なり。而るに皇子を家として列侯と爲さば、則ち尊卑相踰え、列位序を失はん。以て統を萬世に垂るべからず。臣請ふ、臣閎・臣旦・臣胥を立てて、諸侯王と爲さんと。三月丙子未央宮に奏す。制して曰く(一〇)、康叔は親屬十有り、而も獨り尊かりし者は有德を褒めしなり。周公は天を祭り郊(一一)を命ず、故に魯は白牡(一二)騂剛の牲有り、羣公(一三)は不毛なり。賢不肖の差あればなり。高山は仰ぎ、景行(一四)は嚮ふ、朕甚だ慕ふ(一五)。未だ成らざる家を抑ふる所以なり。列侯を以てすることを可な

師傅官。陛下恭讓不卹。羣臣私望。不敢越職而言。臣竊不勝犬馬心。昧死願。陛下詔有司。因盛夏吉時。定皇子位。唯願陛下幸察。制曰。下御史。臣謹與中二千石二千石臣賀等議。古者裂地立國。並建諸侯。以承天子。所以尊宗廟重社稷也。今臣去病上疏。不忘其職。因以宣恩。乃道天子卑讓自貶以勞天下。慮皇子未有號位。臣青翟。臣湯等宜奉義遵職。愚憧而不逮事。方今盛夏吉時。臣青翟。臣湯等。昧死請立皇子臣閎。臣旦。臣胥為諸侯王。昧死請所立國名。制曰。蓋聞。周封八百。姫姓並列。或子男附庸。禮支子不祭云。並建諸侯。所以重社稷。朕無聞焉。且天非為君生民也。朕之不德。海內未洽。乃以未教成者。彊君連城。即股肱何勸。其更議以列侯家之。

屬せり 一三 庶子 一四 上述の說を聞かず 一五 恩澤に霑被せず 一六 款懇を述ぬるなり 一七 大臣以下の忠臣を勸賞する能はざらん 一八 王たるに足らざるを曰ふ

三月丙子。奏未央宮。丞相臣青翟。御史大夫臣湯。昧死言。臣謹與列侯臣嬰齊。中二千石臣賀。諫

(一)三月丙子、未央宮に奏す。丞相臣青翟、御史大夫臣湯、昧死して言ふ、臣謹みて列侯臣嬰齊、中二千石二千石臣賀、諫大夫博士臣安等と議して曰く、伏して聞く、周は八百を封じて、姫姓並び列し、天子を奉承す。康叔は祖考を以て顯(二)れ、而して伯禽は周公を以て立つ。咸建國の諸侯と爲り、以て相傳へて輔と爲り百官は(三)憲を奉じて、各〻其職に遵ひ、而して(四)國統は備れり。竊に以爲に、諸

充大行令臣息太子少傅臣安行宗正事。昧死上言。大司馬去病上疏曰。陛下過聽。使臣去病待罪行間。宜專邊塞之思慮暴骸中野。無以報乃敢惟他議以干用事者。誠見陛下憂勞天下。哀憐百姓以自忘。虧膳貶樂損郎員。皇子賴天能勝衣趨拜。至今無號位

れず、因りて以て恩を宣べ、乃ち天子の卑く譲り、自ら貶して以て天下を勞するを道ひ、皇子の未だ號位有らざるを慮ふ。臣青翟、臣湯等、宜しく義を奉じて職に遵ふべきに、愚憧にして事に逮ばず。方今盛夏の吉時なり。臣青翟、臣湯等、昧死して、皇子臣閎、臣旦、臣胥を立てて、諸侯王と爲さんことを請ふ。昧死して立つる所の國名を請ふと。制して曰く、蓋し聞く、周は八百を封じて、姬姓並び列す。或は子男は附庸たり。禮に支子は祭らずと云ふ。諸侯を並べ建つるは、社稷を重んずる所以なりと。朕は聞くこと無し。且天は君の爲に民を生ぜしに非ざるなり。朕は之れ不德なり、海内未だ洽ねからず、乃ち未だ教へ成さざる者を以て、彊ひて連城に君とせば、即ち股肱は何をか勸めん。其れ更に議し、列侯を以て之を家せしめよと。

(一) 御史にして尚書令を兼ぬる者　(二) 右の上疏を進奏す　(三) 御史の下役の丞官名は非　(四) 行も亦衆官なり　(五) 本文には前出上疏の全文あり今略して云々の二字とす　(六) 公孫賀なり　(七) 天子の命を受く　(八) 愚見を謙宜す　(九) 愚昧に同じ　(一〇) 新に立つる所の國名　(一一) 八百諸侯　(一二) 子男のあるものは國立せずして德に附

樂。損二郎員一。皇子賴レ天。能勝レ衣趨拜。至レ今無二號位師傅官一。陛下恭讓不レ恤。羣臣私望不二敢越レ職而言一。臣竊不レ勝二犬馬心一。昧死願。陛下詔二有司一。因二盛夏吉時一。定二皇子位一。唯陛下幸察。臣去病昧死再拜。以聞二皇帝陛下一。

(一)この篇は褚少孫の補作なりといふ　(二)霍去病　(三)上言に同じ　(四)人言を過り聽いて愚臣を妄罪す　(五)軍陣の官に任ぜらる　(六)鴻造の厚恩　(七)軍事以外の事を議す　(八)他の政務官の權限を干犯す　(九)食膳を減じ音樂を損す　(十)士民に恭讓して皇子を憂ふる暇なし　(十一)皇子の號位を希望す　(十二)盛夏の吉日良辰

三月。乙亥。御史臣光。守尚書令。奏二未央宮一。制曰。下二御史一。六年三月戊申朔乙亥。御史臣光。守尚書令。丞非。下二御史一。書到言。丞相臣青翟。御史大夫臣湯。太常臣

三月乙亥、御史臣光、(一)守尚書令、未央宮に奏す。(二)制して曰く、御史に下せと。六年三月戊申朔乙亥、御史臣光守尚書令丞(三)非は御史に下す。書到りて言ふ、丞相臣青翟、御史大夫臣湯太常臣充、大行令臣息、太子少傅臣安(四)行宗正事は、昧死して上言す。大司馬去病、上疏して曰く、陛下過ちて聽く(五)云々と、唯願くは陛下幸に察せよと。制して曰く、御史に下せと。臣謹んで中二千石●二千石、臣(六)賀等と議するに、古は地を裂き國を立て、諸侯を並び建つるは、以て(七)天子を承けて、宗廟を尊び社稷を重んずる所以なり。今臣去病は疏を上りて其職を忘

大司馬臣去
病昧死再拜。
上二疏皇帝陛
下一。陛下過聽。
使三臣去病待二
罪行間一。宜下專二
邊塞之思慮一。
暴二骸中野一。無中
以報上。乃敢惟二
他議一。以干二用
事者一。誠見陛
下憂二勞天下一。
哀二憐百姓一。以
自忘、虧レ膳貶レ

卷六十

三王世家第三十(一)

大司馬臣去病(二)、昧死再拜して皇帝陛下に上(三)疏す。陛下(四)過つて聽き、臣去病をして(五)罪を行間に待たしむ。宜しく邊塞の思慮を專にして、骸を中野に暴すとも、以て(六)報ゆる無かるべし。乃ち敢て(七)他の議を惟ひ、以て(八)事を用ふる者を干さんや。誠に見る、陛下は天下を憂勞し、百姓を哀憐し、以て自ら忘れ、(九)膳を虧き樂を貶し、郎員を損し、皇子は天に賴り、能く衣に勝へて趨拜するに、今に至るまで號位師傅の官無し。陛下恭(一〇)讓して恤へず、羣臣私に(一一)望むも敢て職を越えて言はず。臣竊に犬馬の心に勝へず、昧死して願ふ、陛下有司に詔し、盛夏吉時(一二)に因りて、皇子の位を定めんことを。唯陛下幸に察せよ。臣去病昧死再拜して以て皇帝陛下に聞す。

金印。諸侯自除二御史廷尉正博士一。擬二於天子一。自二吳楚反後一。五宗王世。漢爲置二二千石一。去二丞相一曰レ相。銀印。諸侯獨得レ食二租稅一。奪二之權一。其後諸侯貧者。或乘二牛車一也。

去りて相と曰へり、銀印なり。諸侯は獨り租稅を食むを得るのみ、之が權を奪へるなり。其後諸侯の貧者、或は牛車に乘るもの(四)ありき。

(一) 租稅を徵收す (二) 任免す (三) 五宗十三國の世 (四) 賤者の乘なり貧の甚しきを言ふ

鼎四年。用二常山憲王子一爲二眞定王一。泗水思王商。以二元鼎四年一。用二常山憲王子一爲二泗水王一。十一年卒。子哀王安世立。十一年卒。無レ子。於レ是上憐二泗水王絕一。乃立二安世弟賀一爲二泗水王一。右四國本王皆王夫人兒姁子也。其後漢益二封其支子一。爲二六安王泗水王二國一。凡兒姁子孫。於レ今爲二六王一。

商は、元鼎四年を以て、常山憲王の子を用つて泗水王と爲り、十一年に卒し、子哀王安世立ち、十一年に卒し、子無し。是に於て上は泗水王の絕えたるを憐れみ、乃ち安世の弟賀を立てて泗水王と爲しき。

右四國の本王は、皆王夫人兒姁の子なり。其後、漢は其支子を益封して、六安王・泗水王と爲せり。二國は凡て兒姁の子孫なり。今に於て六王と爲れり。

(一) 孝武の年號

太史公曰。高祖時。諸侯皆賦。得三自除二內史以下一。漢獨爲置二丞相一黃

太史公曰く、高祖の時、諸侯皆賦し(一)、自ら內史以下を除するを得たり。漢獨り爲に丞相を置く、黃金の印なり。諸侯は自ら御史・廷尉正(二)・博士を除して、天子に擬す。吳楚の反してより後、五宗王(三)の世に、漢は爲に二千石を置き、丞相を

憲驗王后。及問王勃。請逮勃所與姦諸證左。王又匿之。吏求捕。勃太急。使人致擊笞掠。擅出漢所疑囚者。有司請誅憲王后修及王勃。上以修素無行。使棁陷之罪。勃無良師傅。不忍誅。有司請發王后修徙王勃。以家屬處房陵。上許之。勃王數月。遷于房陵。國絕。月餘。天子爲最親。乃詔有司曰。常山憲王蚤夭。后妾不和。適孼誣爭。陷于不義。以滅國。朕甚閔焉。其封憲王子平三萬戶爲眞定王。封子商三萬戶爲泗水王。

師傅無きなり。誅するに忍びずと。有司は王后修を廢し、王勃を徙し、家屬を以て房陵(七)に處らしめんと請ふ。上之を許す。勃は王たること數月、房陵に遷り、國絕えたり。月餘にして、天子は最親なりしが爲に、乃ち有司に詔して曰く、常山の憲王は蚤く夭し、后妾和せず、適孼(八)誣爭して不義に陷り、以て國を滅せり。朕甚だ閔む。其れ憲王の子平を三萬戶に封じ、眞定王と爲し、子商を三萬戶に封じて泗水王と爲せと。

(一) 博奕の遊戯　(二) 琴に似たる樂器　(三) 式部官の習禮　(四) 證據なり　(五) 鞭うつ刑罰　(六) 勝手に漢の疑惧とする囚人を亡げ去らしむ　(七) 蜀の地名　(八) 嫡子と庶子と相誣ひ爭ふ

眞定王平。元

眞定王平は、元鼎(一)四年を以て、常山憲王の子を用つて眞定王と爲る。泗水思王

憲王病甚。諸幸姬常侍レ病。故王后亦以二妬媢一。不二常侍一レ病。輒歸レ舍。醫進レ藥。太子勃不二自嘗一レ藥。又不二宿留侍一レ病。及二王薨一。王后太子乃至。憲王雅不下以二長子棁一爲中人數上。及レ薨。又不レ分二與財物一。郎或說二太子王后一。令下諸子與二長子棁一共分中財物上。太子王后不レ聽。太子代立。又不レ收二恤棁一。棁怨二王后太子一。

(一)即位の十二年　(二)太子　(三)寬容し釋放す　(四)一本に王字無し是なり　(五)嫉妬　(六)病室に留宿をなさず　(七)宮中の事務官　(八)收用し救恤す

漢使者視二憲王喪一。棁自言。憲王病時。王后太子不レ侍。及レ薨六日出レ舍。太子勃私姦。飲レ酒博戲擊レ筑。與二女子一載。馳二環城一過レ市。入レ牢視レ囚。天子遣二大行

漢の使者憲王の喪を視るに、棁自ら言ふらく、憲王の病める時、王后太子は侍せず。薨ずるに及び、六日に舍を出で、太子勃は私に姦し、酒を飲みて博戲し(一)、筑(二)を撃ち、女子と載り、城を馳せ環り、市を過ぎ、牢に入りて囚を視きと。天子は(三)大行騫をして王后を驗せしめ、及び王勃を問ひ、勃の與に姦する所の諸證左を逮せんと請ふに、王又之を匿す。吏は捕を求む。勃太だ急に人をして擊笞掠(五)を致さしめて、擅(六)に漢の疑ふ所の囚者を出す。有司は憲王后修及び王勃を誅せんと請ふ。上以ふに、修は素より行無し、棁をして之が罪に陷らしめたり。勃には良

常山憲王舜。以孝景中五年。用皇子爲常山王。舜最親。景帝少子。驕怠多淫。數犯禁。上常寬釋之。立三十二年卒。太子勃代立爲王。初憲王舜有所不愛姬。生長男梲。梲以母無寵故。亦不得幸於王。王后修生太子勃。王內多所幸姬。生子平子商。王王后希得幸。及

常山の憲王舜は、孝景の中(一)五年を以て、皇子を用つて常山王と爲れり。舜は最も親し、景帝の少子なり。(二)驕怠淫多く、數〻禁を犯す。上常に之を寬釋せり。(三)立つの三十二年に卒し、太子勃代り立つて王と爲る。初め憲王舜は、愛せざる所の姬有り、長男梲を生めり。梲は母の寵無きを以ての故に、亦王に幸せらるゝを得ず。王后修は太子勃を生めり。王は內に幸する所の姬多く、子平・子商を生む。(四)王王后は幸を得ること希なり。憲王の病甚しきに及び、諸幸姬常に病に侍す。故に王后も亦妬媢(五)を以て、常には病に侍せず、輒ち舍に歸る。醫の藥を進むるに、太子勃は自ら藥を嘗めず、又宿(六)し留りて病に侍せず。王薨ずるに及び、王后太子乃ち至れり。憲王は雅、長子梲を以て人の數と爲さず、薨ずるに及びて、又財物を分與せず。(七)郎或は太子王后に說き、諸子をして、長子梲と共に財物を分たしむるに、太子王后は聽かず。太子代り立つも、又梲を收恤(八)せず。梲は王后太子を怨めり。

治二淮南之事一。辭出レ之。寄於レ上最親。意傷レ之發レ病而死。不二敢置一レ後。於レ是上聞。寄有二長子者一。名賢。母無レ寵。少子名慶。母愛幸。寄常欲レ立レ之爲二不次一。因レ有レ過遂無レ言。上憐レ之。乃以レ賢爲二膠東王一。奉二康王嗣一。而封二慶於故衡山地一。爲二六安王一。膠東王賢立。十四年卒。謚爲二哀王一。子慶爲レ王。六安王慶以二元狩二年一。用二膠東康王子一爲二六安王一。

に言ふ無かりきと。上は之を憐み、乃ち賢を以て膠東王と爲し、康王の嗣を奉ぜしめ、慶を故の衡山の地に封じて六安王と爲す。膠東王賢立ち、十四年に卒す、謚して哀王と爲す、子慶、王と爲れり。六安王慶は、元狩二年(五)を以て、膠東の康王の子を用て、六安王と爲りき。

(一)伺ひ待つ　(二)心中に感傷す　(三)後嗣を定めず　(四)順序ならず　(五)孝武の年號

清河哀王乘。以二孝景中三年一。用二皇子一爲二清河王一。十二年卒。無レ後。國除。地入二于漢一。爲二清河郡一。

清河の哀王乘は、孝景の中三年(一)を以て、皇子を用つて清河王(二)と爲り、十二年に卒せり。後無く、國除かれ、地は漢に入りて、清河郡と爲れり。

(一)卽位の十年　(二)直隷廣平府

廣川王。十二年卒。子齊立爲レ王。齊有二幸臣桑距一。已而有レ罪欲レ誅レ距。距亡。王因禽二其宗族一。距怨レ王。乃上レ書告下王齊與二同產一姦上。自レ是之後。王齊數上レ書。告二言漢公卿及幸臣所忠等一。

を誅せんと欲せしに、距亡げたり。王因りて其宗族を禽にす。距は王を怨み、乃ち書を上りて、王齊が同產と姦するを告ぐ。是より後、王齊は數々書を上り、漢の公卿及び幸臣所忠等を告げ(二)言へり。

(一) 卽位の九年 (二) 其罪狀を告發するなり

膠東康王寄。以二孝景中二年一。用二皇子一爲二膠東王一。二十八年卒。淮南王謀反時。寄微聞二其事一。私作二樓車鏃矢戰守備一。候二淮南之起一。及二吏

膠東の康王寄は、孝景の中二年を以て、皇子を用つて膠東王と爲り、二十八年に卒せり。淮南王謀反の時、寄は微に其事を聞き、私に樓車・鏃矢戰守の備を作して、淮南の起るを候(一)てり。吏が淮南の事を治するに及び、辭之を出す。寄は上に於て最も親し、意(二)に之を傷み、病を發して死せり。敢て後(三)を置かず。是に於て上問ふ。寄に長子なる者有り、名は賢。母に寵無かりき。少子の名は慶、母愛幸せられき。寄は常に之を立てんと欲せしも、不次(四)と爲せり。過有るに因りて、遂

發之母唐姬。故程姬侍者。景帝召二程姬一。程姬有レ所レ辟不レ願レ進。而飾二侍者唐兒一使二夜進一。上醉不レ知。以爲二程姬一而幸レ之。遂有レ身。已乃覺レ非二程姬一也。及レ生レ子。因命曰レ發。以二孝景前二年一。用二皇子一爲二長沙王一。以二其母微無レ寵故一。王二卑濕貧國一。立二十七年卒。子康王庸立。二十八年卒。子鮒鮈立爲二長沙王一。右一國本王唐姬之子也。

は辟くる所有り、進むを願はず。而して侍者唐兒を飾りて夜進ましむ。上醉うて知らず、以て程姬と爲して之を幸せり。遂に身む有り、已にして乃ち程姬に非ざるを覺りき。子を生むに及びて、因りて命じて發と曰ふ。孝景の前二年を以て、皇子を用つて長沙王と爲る。其母が微にして寵無きの故を以て、卑濕の貧國に王たり。立つの二十七年に卒し、子康王庸立ち、二十八年に卒し、子鮒鮈立ちて、長沙王と爲りき。

右一國の本王は唐姬の子なり。

(一) 月經なり　(二) 湖南長沙府に屬する地方

廣川惠王越。以二孝景中二年一。用二皇子一爲二

廣川の惠王越は、孝惠の中二年を以て、皇子を用つて廣川王と爲り、十二年に卒す。子齊立ちて王と爲りき。齊に幸臣桑距といふ有り。已にして罪有り、距

趙更立太子。

中山靖王勝。以孝景前三年。用皇子爲中山王。十四年孝景帝崩。勝爲人樂酒好内。有子枝屬百二十餘人。常與兄趙王相非曰。兄爲王專代吏治事。王者當日聽音樂聲色。趙王亦非之曰。中山王徒日淫。不佐天子拊循百姓。何以稱爲藩臣。立四十二年卒。子哀王昌立。一年卒。子昆侈代爲中山王。右二國本王皆賈夫人之子也。

中山の靖王勝は、孝景の前三年を以て、皇子を用つて中山王と爲る。十四年孝景帝崩ず。勝は人と爲り、酒を樂しみ内を好み(一)、子枝(二)屬百二十餘人有り。常に兄の趙王と相非つて曰く、兄の王爲るや、專ら吏に代りて事を治むるのみ。王者は當に日に音樂聲色を聽くべしと。趙王亦之を非りて曰く、中山王は徒日に淫するのみ、天子を佐けて百姓を拊循(三)せず、何を以て稱して藩臣(四)と爲さんと。立つの四十二年に卒す。子哀王昌立ち、一年に卒し、子昆侈代りて中山王と爲りき。

右二國の本王は皆賈夫人の子なり。

(一)色を好む (二)子孫眷族 (三)撫育す (四)藩屏の臣

長沙定王發。

長沙の定王發、發の母は唐姬、故の程姬の侍者なり。景帝程姬を召すに、程姬

除二千石舍。多設疑事以作動之。得二千石失言中忌諱。輒書之。二千石欲治者。則以此迫劫。不聽。乃上書告。及汙以姦利事。彭祖立五十餘年。相二千石無能滿二歲。輒以罪去。大者死。小者刑。以故二千石莫敢治。而趙王擅權。使使即縣爲賈人權會。入多於國經租稅。以是趙王家多金錢。然所賜姬諸子亦盡之矣。彭祖取故江都易王寵姬王建所盜與姦淖姬者爲姬。甚愛之。彭祖不好治宮室禨祥。好爲吏事。上書願督國中盜賊。常夜從走卒行徼邯鄲中。諸使過客以彭祖險陂。莫敢留邯鄲。其太子丹與其女及同產姉姦。與其客江充有郤。充告丹。丹以故廢。

は故の江都易王の寵姬、王建(ノ)の盜みて與に姦せし所の淖姬(一三)といふ者を取りて、姬と爲し、甚だ之を愛す。彭祖は宮室禨祥(一四)を治するを好まず、吏事を爲すを好み、上書して國中の盜賊を督するを願ひ、常に夜は走卒を從へて、邯鄲の中を行徼(一五)す。諸使過客は、彭祖の險陂(一六)なるを以て、敢て邯鄲に留るもの莫し。其太子丹は、其女及び同產の姉と姦し、其客江充と郤有り。充は丹を告す(一七)、丹は故を以て廢せられ、趙は更に太子を立てたり。

(一)直隸冀州の地 (二)佞奸にして詭辯の人なり (三)擧動敬愼に過ぎて心背刻殘忍なり (四)詭詐の辯口 (五)黑布の賤服 (六)疑はしき事件を作りて動作窘窮せしむ (七)避諱すべき語句を失言する時 (八)脅迫 (九)犯し汚すに姦にして利に取るを以てす (一〇)仲買の類 (一一)經常の租入 (一二)消費し盡す (一三)前出 (一四)宮室を飾り禍福を推して福利を求むるの類 (一五)巡察す (一六)陰險邪惡 (一七)告訴す

孝景前二年。用二皇子一爲二廣川王。趙王遂反破後。彭祖王二廣川一四年。徙爲二趙王。十五年孝景帝崩。彭祖爲レ人巧佞卑諂。足恭而心刻深。好二法律一持二詭辯一以中レ人。彭祖多二內寵姬及子孫一。相二千石欲下奉二漢法一以治上。則害二於王家一。是以毎二相二千石至一。彭祖衣二皁布衣一自行迎。

破れし後、彭祖は廣川に王たること四年、徙りて趙王と爲りぬ。十五年に孝景帝崩ず。彭祖は人と爲り巧佞(二)にして卑く諂ひ、(三)足恭にして心刻深に、法律を好み(四)詭辯を持して、以て人に中つ。彭祖に內寵姬及び子孫多し。相・二千石は、漢法を奉じて以て治せんと欲すれば、則ち王家に害あり。是を以て相・二千石至る毎に、彭祖は皁布の衣を衣て自ら行き迎へ、二千石の舍を除ひ、多く(六)疑事を設けて以て之を作動(五)す。二千石の失言の忌諱(七)に中るを得れば、輒ち之を書す。二千石の治せんと欲する者あれば、則ち此を以て迫劫(八)し、聽かざれば乃ち書を上り告げ、及び汙すに姦利の事を以てす。彭祖は立ちて五十餘年なるに、相・二千石の能く二歲(九)に滿つるもの無く、輒ち罪を以て去り、大なる者は死し、小なる者は刑せらる。故を以て、二千石の敢て治するもの莫し。而して趙王は權を擅にし、使をして縣に卽き、賈人の爲に權會(一〇)せしむるに、入ること國經(一一)の租稅よりも多し。是を以て趙王の家に金錢多し。然れども賜ふ所の姬諸子は、亦之を盡せり(一二)。彭祖

子爲二兄弟之故一不レ忍。而端所レ爲滋甚。有司再請削二其國一去二大半一。端心慍遂爲レ無二訾省一。府庫壞漏。盡腐二財物一以二巨萬一計。終不レ得二收徙一。令二吏毋レ得レ收二租賦一。端皆去レ衞。封二其宮門一。從二一門一出游。數變二名姓一爲二布衣一。之二他郡國一。相二千石往者。奉二漢法一以治。端輒求二其罪一告レ之。無レ罪者詐藥二殺之一。所三以設レ詐究二變。彊足二以距レ諫。智足二以飾レ非。相二千石從レ王治。則漢繩以レ法。故膠西小國。而所二殺傷一二千石甚衆。立四十七年卒。竟無二男代レ後。國除地入二于漢一。爲二膠西郡一。右三國本王皆程姬之子也。

めて之を告げ、罪無き者は詐りて之を藥殺す。(六)詐を設け變を究むる所以なり。(七)彊は以て諫を距むに足り、智は以て非を飾るに足る。相・二千石は、王に從つて治すれば、則ち漢は繩すに法を以てす。故に膠西は小國なるも、殺傷する所の二千石甚だ衆し。立つの四十七年に卒し、竟に男の後に代るもの無し。國除かれ、地は漢に入り、膠西郡と爲りき。

右三國の本王は皆程姬の子なり。

(一) 道に悖り人を傷害するを好む (二) 生殖器官萎縮す (三) 捕へ誅して其母と子とに及ぶ (四) 金錢財物を記錄せず整理せず (五) 出遊巡歷するなり (六) 毒殺なり (七) 剛强

趙王彭祖。以二

趙王彭祖は、孝景の前二年を以て、皇子を用つて(一)廣川王と爲る。趙王遂反して

姦。事既聞。漢公卿請ニ捕治一レ建。天子不レ忍。使ニ大臣即訊一レ王。王服レ所レ犯。遂自殺。國除地入ニ于漢一爲ニ廣陵郡一。

膠西于王端。以ニ孝景前三年一。吳楚七國反破後。端用ニ皇子一爲ニ膠西王一。端爲レ人賊戾。又陰痿。一近ニ婦人一。病レ之數月。而有ニ愛幸少年爲一レ郎。爲レ郎者頃之與ニ後宮一亂。端禽ニ滅之一。及殺ニ其子母一。數犯ニ上法一。漢公卿數請レ誅レ端。天

膠西の于王端は、孝景の前三年を以て、呉楚七國の反して破れたる後に、端は皇子を用つて膠西王と爲れり。端は人と爲り賊戾に、又陰痿なり(二)。一たび婦人を近づくれば、之を病むこと數月なり。而も愛幸する少年の郎と爲れる有り。郎と爲れる者、頃之して後宮と亂る。端は之を禽滅し、及び其子母を殺す。數々上の法を犯す。漢の公卿數々端を誅せんと請ふ(三)。天子は兄弟の故の爲に忍びず。而も端の爲す所は滋々甚し。有司再び請ひ、其國を削つて大半を去る。端は心に慍り、遂に訾省無きを爲し(四)、府庫壞れ漏れ、盡く財物を腐すること、巨萬を以て計るも、終に收め徙すことを得ず。吏をして租賦を收むるを得る毋らしめ、端は皆衞を去り、其宮門を封じ、一門より出で游び、數々名姓を變じて布衣と爲り、他の郡國に之く(五)。相・二千石の往く者、漢法を奉じて以て治む。端輒ち其罪を求

賊。非レ上レ書願レ擊二匈奴一。上不レ許。非好二氣力一。治二宮觀一。招二四方豪傑一。驕奢甚。立二十六年卒。子建立爲レ王。七年自殺。淮南衡山謀反時。建頗聞二其謀一。自以爲レ國近二淮南一。恐一日發爲レ所レ幷。卽陰作二兵器一。而時佩二其父所レ賜將軍印一。載二天子旗一以出。易王死未レ葬。建有二所レ說易王寵美人淖姬一。夜使二人迎一。與姦二服舍中一。及二淮南事發一。治二黨與一。頗及二江都王建一。建恐。因使二人多持二金錢一事上レ絕二其獄一。而又信二巫祝一。使二人禱祠妄言一。建又盡與二其姊弟一

の將軍の印を佩び、天子の旗を載せて以て出づ。易王死して未だ葬らざるに、建の說ぶ所の易王の寵美人淖姬といふもの有り、夜人をして迎へしめて、與に服舍(六)の中に姦す。淮南の事發するに及び、黨與を治するに、頗る江都王建に及ぶ。建恐れ、因りて人をして多く金錢を持し、其獄を絕つ(七)を事とせしむ。而して又巫祝(八)を信じ、人をして禱祠して妄言(九)せしむ。建又盡く其姉弟(一〇)と姦す。事既に聞するや、漢の公卿は捕へて建を治せんと請ふ。天子忍びず。大臣をして卽きて王に訊はしむるに、王は犯す所に服して(一一)、遂に自殺せり。國除かれて地は漢に入り、廣陵郡と爲りぬ。

(一) 材幹氣力 (二) 孝武の年號 (三) 宮殿樓閣 (四) 淮南王衡山王 (五) 兵起らば倂合せられん (六) 喪に服しつつある家屋の中 (七) 罪跡を湮滅す (八) 巫子の類 (九) 無罪なることを言はしむ (一〇) 姉妹に同じ (一一) 罪に服す

徙爲二魯王一。好治二宮室苑囿狗馬一。季年好レ音。不レ喜二辭辯一。爲レ人吃。二十六年卒。子光代爲レ王。初好二音輿馬一。晩節嗇。惟恐レ不レ足二於財一。

恐れき。

(一)音樂　(二)文辭議論　(三)吝嗇

江都易王非。以二孝景前二年一。用二皇子一爲二汝南王一。吳楚反時。非年十五。有二材力一。上レ書願レ擊レ吳。景帝賜二非將軍印一擊レ吳。吳已破。二歲徙爲二江都王一。治二吳故國一。以二軍功一賜二天子旌旗一。元光五年。匈奴大入レ漢爲レ

江都の易王非は、孝景の前二年を以て、皇子を用つて汝南王と爲りき。吳楚反せし時、非は年十五のみ。(一)材力有り、書を上りて吳を擊たんことを願ふ。景帝は非に將軍の印を賜ひ、吳を擊たしむ。吳已に破るゝや、二歲に徙りて江都王と爲り、吳の故國を治む。軍功を以て天子の旌旗を賜ふ。(二)元光五年、匈奴大いに漢に入りて賊を爲す。非は書を上りて、匈奴を擊たんと願へども、上は許さず。非は氣力を好み、(三)宮觀を治め、四方の豪傑を招き、驕奢なること甚し。立ちて二十六年に卒し、子建立ちて王と爲り、七年にして自殺す。(四)淮南・衡山謀反の時、建は頗る其謀を聞き、自ら以爲らく、國は淮南に近し、恐らくは一日(五)發せば幷する所と爲らんと。卽ち陰に兵器を作り、而も時に其父の賜へる所

上徵レ榮。榮行。祖二於江陵北門一。既已上レ車。軸折車廢。江陵父老流レ涕。竊言曰。吾王不レ反矣。榮至。詣二中尉府簿一。中尉郅都責二訊王一。王恐自殺。葬二藍田一。燕數萬銜レ土置二冢上一。百姓憐レ之。榮最長。死無レ後。國除。地入二于漢一。爲二南郡一。右三國本王皆栗姬之子也

の簿(四)に詣る。中尉郅都は王を責め訊ふ。王恐れて自殺す、藍田に葬る。燕數萬あり、土を銜んで冢上に置く、百姓之を憐む。榮は最も長ぜり。死して後無し、國除かる。地は漢に入りて、南郡と爲りき。

右三國の本王は、皆栗姬の子なり

㊀ 卽位の四年 ㊁ 祖廟墻外の垣を壞りて王宮と爲せるなり ㊂ 道路の神を祭りて旅途の平安を祈ること ㊃ 罪狀を錄せる札

魯共王餘。以二孝景前二年一。用二皇子一爲二淮陽王一。二年。吳楚反。破後。以二孝景前三年一。

魯の共王餘は、孝景の前二年を以て、皇子を用つて淮陽王と爲る。二年に吳楚反す。破れて後、孝景の前三年を以て、徙りて魯王と爲り、好みて宮室苑囿狗馬を治め、季年に音(一)を好み、辭辯(二)を喜まず。人と爲り吃なり。二十六年に卒す。子光は代りて王と爲り、初めは音・輿馬を好み、晩節は嗇み(三)、惟財に足らざるを

次必於二儒者一。山東諸儒多從レ之游。二十六年卒。子共王不害立。四年卒。子剛王基代立。十二年卒。子項王授代立。

し、子項王授代り立つ。

㈠孝景の即位の二年　㈡被服にも動作の間にも儒者の行に從ふ

臨江哀王閼于。以二孝景帝前二年一。用二皇子一爲二臨江王一。三年卒。無レ後。國除爲レ郡。

臨江の哀王閼于は、孝景帝の前二年㈠を以て、皇子を用つて臨江王と爲り、三年に卒して後無し㈡、國は除かれて郡と爲りぬ。

㈠即位の二年　㈡子孫無し

臨江閔王榮。以二孝景前四年一。爲二皇太子一。四歲廢。用二故太子一。爲二臨江王一。四年。坐下侵二廟壖垣一爲上レ宮。

臨江の閔王榮は、孝景の前四年㈠を以て皇太子と爲り、四歲にして廢せらる。故の太子を用つて臨江王と爲す。四年に、㈡廟の壖垣を侵して宮と爲せるに坐し、上は榮を徵す。榮行いて江陵の北門に祖㈢し、既に已に車に上るに、軸折れて車廢せり。江陵の父老涕を流し、竊に言つて曰く、吾王反らじと。榮至り、中尉府

孝景皇帝子。凡十三人爲レ王。而母五人。同母者爲二宗親一。栗姬子曰二榮。德。閼于一。程姬子曰二餘。非。端一。賈夫人子曰二彭祖。勝一。唐姬子曰レ發。王夫人兒姁子曰二越。寄。乘。舜一。

河間獻王德。以二孝景帝前二年一。用二皇子一爲二河間王一。好二儒學一。被服造

卷五十九

五宗世家第二十九

孝景皇帝の子は凡て十三人王と爲りぬ。而して母は五人あり。同母の者を宗親と爲す。(一) 栗姬の子を榮・德・閼于と曰ひ、程姬の子を餘・非・端と曰ひ、賈夫人の子を彭祖・勝と曰ひ、唐姬の子を發と曰く、王夫人兒姁の子を越・寄・乘・舜と曰へり。

(一) 一宗の親

河間の獻王德は、孝景帝の前二年を以て、皇子を用つて河間王と爲る。儒學を好み、被服造次に、必ず儒者に於てす。(二) 山東の諸儒、多く之に從つて遊ぶ。二十六年に卒し、子共王不害立つ。四年に卒し、子剛王基代り立ち、十二年に卒

王不ㇾ知也。造
爲之者。獨其
幸臣羊勝公
孫詭之屬爲ㇾ
之耳。謹以伏ㇾ

如きのみと。

㊀ 經術に通曉せる士人 ㊁ 處置せしむ ㊂ 鞫問し得たる調査書類 ㊃ 說は悅なり ㊄ 食はんと欲する氣分 ㊅ 識見淺小の人

誅死。梁王無ㇾ恙也。景帝喜說曰。急趨謁二太后一。太后聞ㇾ之。立起坐。餐氣平復。故曰。不下通二經術上
知二古今之大禮一。不ㇾ可三以爲二三公及左右近臣一。少見之人。如下從二管中一闚上ㇾ天也。

刺レ之。置二其劍一。劍著レ身。視二其劍一新治。問二長安中削厲工一。工曰。梁郎某子來治二此劍一。以レ此知而發二覺之一。發二使者一捕二逐之一。獨梁王所レ欲レ殺大臣十餘人。文吏窮二本之一。謀反端頗見。太后不レ食。日夜泣不レ止。

景帝甚憂レ之。問二公卿大臣一。大臣以爲遣二經術吏一。往治レ之。乃可レ解。於レ是。遣二田叔呂季主一。往治レ之。此二人皆通二經術一。知二大禮一。來還至二霸昌廐一。取レ火悉燒二梁之反詞一。但空手來對二景帝一。景帝曰。何如。對曰。言二梁

景帝甚だ之を憂へ、公卿大臣に問ふに、大臣以爲らく、(一)經術の吏を遣り、往いて之を治せしめば乃ち解すべしと。是に於て田叔・呂季主を遣り、往いて之を治せしむ。(二)此二人は皆經術に通じ大禮を知り、來り還つて霸昌廐に至り、火を取りて悉く梁の反詞を燒き、但空手もて來りて景帝に對ふ。景帝曰く、何如と。對へて曰く、(三)梁王は知らずと言ふ。造爲せし者は、獨其幸臣羊勝・公孫詭の屬之を爲ししのみ。謹んで以て誅に伏し死して、梁王は恙無しと。景帝(四)喜說して曰く、急に趨つて太后に謁げよと。太后之を聞き、立どころに起坐し、(五)飡氣平復せり。故に曰く、經術に通じ、古今の大禮を知るにあらざれば、以て三公及び左右の近臣と爲すべからず。少見の人は、管中より天を闚ふが

王卽終(一)。欲ニ誰立一。太后曰。吾復立ニ帝子一。袁盎等以下宋宣公不レ立レ正生レ禍。禍亂後五世不レ絶。小不レ忍害ニ大義一狀上報ニ太后一。太后乃解說。卽使ニ梁王歸就一レ國。而梁王聞ニ其議出ニ于袁盎諸大臣所一怨望。使ニ人來殺ニ袁盎一。袁盎顧レ之曰。我所レ謂袁將軍者也。公得レ毋レ誤乎。刺者曰。是矣。

宋の宣公が正を立てずして禍を生じ、禍亂は後五世まで絶えず。小忍びざれば大義を害するの狀を以て太后に報ず。太后乃ち解說し(二)、卽ち梁王をして歸りて國に就かしめき。而るに梁王は、其議が袁盎と諸大臣との所より出でしを聞きて怨望し、人をして來りて袁盎を殺さしむ。袁盎之を顧みて曰く、我は所謂袁將軍といふ者なり、公は誤る毋きを得んやと。刺す者曰く、是なりと。之を刺して其劍を置く。劍は身に著けり(三)。其劍を視れば、新に治せしものなり(四)。長安中の削厲工(五)に問ふに、工曰く、梁の郎某の子、來りて此の劍を治せしめきと。此を以て知りて之を發覺す。使者を發して之を捕逐せしむ。獨梁王の殺さんと欲せし所の大臣は十餘人あり、文吏(六)之を窮本し、謀反の端頗る見はる。太后食はず、日夜泣いて止まず。

(一) 若し歿せばに同じ (二) さとりて理を解す (三) 身につきて離れず (四) 研ぎ上げたる劍 (五) 研師 (六) 司法の官吏

子帝問其狀。袁盎對曰、殷道親親。親親者立弟。周道尊尊。尊尊者立子。殷道質。質者法天。親其所親。故立弟。周道文。文者法地。尊者敬也。敬其本始。故立長子。周道太子死。立適孫。殷道太子死。立其弟。帝曰、於公何如。皆對曰、方今漢家法周。周道不得立弟。當立子。故春秋所以非宋宣公。宋宣公死。不立子而與弟。弟受國死。復反之。與兄之子。弟之子爭之。以爲我當代父後。即刺殺兄子。以故國亂。禍不絕。故春秋曰、君子大居正。宋之禍。宣公爲之。臣請見太后白之。

宣公を非りし所以なり。(七)宋の宣公死するや、子を立てずして弟に與へき。弟の國を受けて死するや、復之を反して、兄の子に與ふるに、弟の子之を爭ひ、以爲らく、我當に父の後に代るべしと。卽ち兄の子を刺殺せり。故を以て國亂れて、禍絶えざりき。故に春秋に曰く、君子は(八)正に居るを大とす。宋の禍は宣公之を爲すと。臣請ふ太后に見えて之を白さんと。

㊀下文參照　㊁皇帝の崩御に曰ふ　㊂國家委託の人物　㊃質實なり　㊄祖先を敬す　㊅袁盎を指す　㊆宋世家參照　㊇正道に順ひ居るを美とする意

袁盎等入見太后。太后言欲立梁王。梁

袁盎等入りて太后に見ゆ。太后は梁王を立てんと欲するを言ふ。梁王卽し終らば誰をか立てんと欲すると。太后曰く、吾復帝の子を立てんとすと。袁盎等、

蓋聞。梁王西入朝。謁竇太后。燕見與景帝俱。侍坐於太后前。語言私說。太后謂帝曰。吾聞殷道親親。周道尊尊。其義一也。安車大駕。用梁孝王爲寄。景帝跪席擧身。曰。諾。罷酒出。帝召袁盎諸大臣通經術者曰。太后言如是。何謂也。皆對曰。太后意欲立梁王爲帝太

蓋し聞く、梁王西して入朝し、竇太后に謁し、燕見は景帝と俱にし、太后の前に侍坐して、語言私說す。太后は帝に謂つて曰く、吾聞く殷道は親を親とし、(一)周道は尊を尊とすと。其義は一なり。(二)安車大駕せば、梁の孝王を用て寄と爲せと。(三)景帝は席に跪き身を擧げて曰く、諾と。酒を罷めて出づ。帝は袁盎と諸大臣との經術に通ずる者を召して曰く、太后の言は是の如し、何の謂ぞやと。皆對へて曰く、太后は意に梁王を立てて、帝の太子と爲さんと欲すと。帝は其狀を問ふに、袁盎對へて曰く、殷道の親を親とすとは弟を立つるなり、周道の尊を尊とすとは子を立つるなり。殷道は質なり、(四)質は天に法る。其の親とする所を親とす、故に弟を立つ。周道は文なり、文は地に法る。尊は敬なり、其本始(五)を敬す、故に長子を立つ。周道は太子死すれば適孫を立て、殷道は、太子死すれば其弟を立つと。帝曰く、公に於ては何如と。(六)皆對へて曰く、方今漢家は周に法れり。周道は弟を立つるを得ず、當に子を立つべし。故に春秋の宋の

賀㆓正月㆒法見。後三日。爲㆑王置酒。賜㆓金錢財物㆒。後二日復入小見。辭去。凡留㆓長安㆒不㆑過㆓二十日㆒。小見者燕㆓見于禁門內㆒。飲㆓於省中㆒。非㆔士人所㆓得入㆒也。今梁王西朝。因留。且㆓半歲㆒。入與㆓人主㆒同㆑輦。出與同㆑車。示風以㆓大言㆒。而實不㆑與。令㆘出㆓怨言㆒謀㆗畔逆㆖。乃隨而憂㆑之。不㆓亦遠㆒乎。非㆓大賢人㆒不㆑知㆓退讓㆒。今漢之儀法。朝見賀㆓正月㆒者。常一王與㆓四侯㆒俱。朝見十餘歲一至。今梁王常比年入朝。見久留。鄙語曰。驕子不㆑孝。非㆓惡言㆒也。故諸侯王當㆔爲置㆓良師傅。相忠言之士㆒。如㆓汲黯韓長孺等㆒。敢直言極諫。安得㆑有㆓患害㆒。

る所に非ず。今梁王は西に朝し、因りて留ること且に半歲ならんとす。入れば人主と輦を同じうし、出づれば與に車を同じうし、(二)示風するに大言を以てして實は與へず。怨言を出して(三)畔逆を謀らしめ、乃ち隨つて之を憂ふ、亦遠からずや。大賢人に非ずんば、退讓を知らざらん。今は漢の儀法、朝見して正月を賀する者は、常に一王と四侯と倶にす。朝見は十餘歲に一たび至るのみ。今や梁王は常に比年入朝し、見えて久しく留る。鄙語に曰く、(四)驕子は孝ならずと。惡言に非ざるなり。故に諸侯王は、當に爲に良師傅・相・忠言の士を置くべし。汲・黯・韓長孺等の如く、敢て直言極諫せば、安んぞ患害有るを得んや。

(一) 皮としきものと玉と　(二) 諷し示す　(三) 反逆に同じ　(四) 驕りて慢心したる子

與戲耳。周公曰。人主無二過擧一。不レ當レ有二戲言一。言レ之必行レ之。於レ是乃封二小弟一。以二應縣一。是後成王沒レ齒不三敢有二戲言一。言必行レ之。孝經曰。非レ法不レ言。非レ道不レ行。此聖人之法言也。今主上。不レ宜レ出二好言於梁王一。梁王上有二太后之重一。驕蹇日久。數聞二景帝好言千秋萬世之後傳一レ王。而實不レ行。

必ず之を行へり。孝經に曰く、法に非ずんば言はず、道に非ずんば行はずと。此れ聖人の法言なり。(六)今主上は宜しく好言を梁王に出すべからず、(七)梁王は上に太后の重有りて、(八)驕蹇日に久しく、數〻景帝の好言、千秋萬歲の後は王に傳へんといふを聞けり。而も實は行はず。

㊀帝王は戲言すべからずとの語を加へて見るべし　㊁唐叔虞なり　㊂過つて人を擧用すること無し　㊃河南汝州なり、皆世家の文と小異あり　㊄終生の義　㊅金言と云ふに同じ　㊆お坐なりの巧言　㊇驕傲なり

又諸侯王朝。見二天子一。漢法凡當二四見一耳。始到入小見。到二正月朔旦一。奉二皮薦璧玉一。

又諸侯王の朝して天子に見ゆる、漢法は凡て四見に當る。始め到り入りて小見す。正月朔旦に到り、(一)皮薦璧玉を奉じて正月を賀し、法見す。後三日、王の爲に置酒し、金錢財物を賜ふ。後二日、復入りて小見し、辭し去る。凡そ長安に留るは二十日に過ぎず。小見は禁門の内に燕見し、省中に飲む、士人の得て入

梁王爲二太子一。大臣不三時正二言其不可狀一。阿レ意治レ小。私說レ意。以受二賞賜一。非二忠臣一也。齊如二魏其侯竇嬰之正言一也。何以有二後禍一。景帝與レ王燕見。侍二太后一飲。景帝曰。千秋萬歲之後傳レ王。太后喜說。竇嬰在レ前。據レ地言曰。漢法之約。傳二子適孫一。今帝何以得三傳レ弟擅亂二高帝約一乎。於レ是景帝默然無レ聲。太后意不レ說。

太后喜說す。竇嬰前に在り、地に據りて言つて曰く、漢法の約は、子適孫に傳ふ。今は帝は何を以て弟(四)に傳へて擅に高帝の約を亂すを得んやと。是に於て景帝は默然として聲無く、太后は意說ばざりき。

(一)漢の宮廷　(二)小事に汲々たるなり　(三)太后の意を悅ばしむ　(四)席に拜伏するなり

故成王與二小弱弟一立二樹下一。取二一桐葉一以與レ之曰。吾用封レ汝。周公聞レ之。進見曰。天王封レ弟甚善。成王曰。吾直

故に成王が小弱弟と樹下に立つや、一桐葉を取りて以て之に與へて曰く、吾用(一)つて汝を封(二)ぜんと。周公之を聞き、進み見えて曰く、天王の弟を封ずる甚だ善しと。成王曰く、吾は直與に戯れしのみと。周公曰く、人主に過擧(三)無し、當に戯言有るべからず、之を言へば必ず之を行ふと。是に於て乃ち小弟を封ずるに應縣(四)を以てせり。是後成王は齒を沒ふるまで、敢て戯言有らず、言へば

孝王。雖下以二親愛之故一。王中膏腴之地上。然會二漢家隆盛百姓殷富一。故能植二其財貨一。廣二宮室一。車服擬二於天子一。然亦僭矣。

家の隆盛と百姓の殷富なるとに會へり。故に能く其財貨を植し、宮室を廣め、車(一)服天子に擬したり。然も亦僭(二)なり。

(一) 乘り物服裝 (二) 僭越

褚先生曰。臣爲レ郎時。聞三之於宮殿中老郎吏好レ事者稱二道之一也。竊以爲。今梁孝王怨望。欲レ爲二不善一者。事從レ中生。今太后女主也。以下愛二少子一故上欲レ令三

褚先生曰く、臣が郎爲りし時、之を宮殿の中の老郎吏の事を好める者の之を稱道するを聞けり。竊に以爲らく、今梁の孝王の怨望して、不善を爲さんと欲せし者は、事は中(一)より生ぜりと。今太后は女主なり、少子を愛するの故を以て、梁王をして太子と爲さしめんと欲するに、大臣は時に其不可の狀を正言せず、意に阿り小を治め、私に意を說ばして、以て賞賜を受く、忠臣に非ざるなり。齊しく(二)魏其侯竇嬰の正言(三)せしが如くせば、何を以てか後禍有らん。景帝は王と燕見し、太后に侍して飲むに、景帝曰く、千秋萬歲の後は王に傳へんと。

財物一以爲レ好。所レ殺發覺者百餘人。國皆知レ之。莫二敢夜行一。所レ殺者子。上書言。漢有司請レ誅。上不レ忍。廢以爲二庶人一。遷二上庸一。地入二于漢一爲二大河郡一。

㊀驕傲慓悍　㊁暮夜　㊂追剝なり　㊃惡事なりとも思はざるなり　㊄蜀の地なり

山陽哀王定者。梁孝王子。以二孝景中六年一爲二山陽王一。九年卒。無レ子。國除。地入二于漢一爲二山陽郡一。

山陽の哀王定は梁の孝王の子なり、孝景の中六年を以て山陽王と爲り、九年にして卒す。子無し、國除かる。地は漢に入りて、山陽郡と爲りき。

濟陰哀王不識者。梁孝王子。以二孝景中六年一爲二濟陰王一。一歲卒。無レ子。國除。地入二于漢一爲二濟陰郡一。

濟陰の哀王不識は、梁の孝王の子なり。孝景の中六年を以て濟陰王と爲り、一歲にして卒し、子無し、國除かる。地は漢に入りて、濟陰郡と爲れり。

太史公曰。梁

太史公曰く、梁の孝王は、親愛の故を以て膏腴の地に王たりと雖も、然も漢

濟川王明者。梁孝王子。以二桓邑侯一。孝景中六年爲二濟川王一。七歲。坐レ射二殺其中尉一。漢有司請レ誅。天子弗レ忍レ誅。廢レ明爲二庶人一。遷二房陵一。地入二于漢一爲レ郡。

濟川王明は、梁の孝王の子なり。桓邑侯を以て、孝景の中六年(一)に濟川王と爲る。七歲に其中尉を射殺するに坐し、漢の有司は誅を請ふ。天子は誅するに忍びず、明を廢して庶人と爲し、房陵(二)に遷す。地は漢に入りて郡と爲りき。

(一) 孝景帝十三年 (二) 蜀地なり

濟東王彭離者。梁孝王子。以二孝景中六年一爲二濟東王一。二十九年。彭離驕悍。無二人君禮一。昏暮私與二其奴亡命少年數十人一行剽。殺レ人取二

濟東王彭離は梁の孝王の子なり、孝景の中六年を以て濟東王と爲る。二十九年に彭離驕悍(一)なり、人君の禮無し。昏暮(二)に私に其奴と亡命の少年數十人と行剽(三)し、人を殺して財物を取り、以て奸(四)と爲す。殺す所の發覺したる者百餘人あり。國皆之を知り、敢て夜行するもの莫し。殺されし者の子上書して言す。漢の有司は誅を請ふ。上忍びず、廢して以て庶人と爲し、上庸(五)に遷す。地は漢に入りて、大河郡と爲りき。

而與淮陽太守客出同車。太守客出下車。類犴反殺其仇於車上而去。淮陽太守怒。以讓梁二千石。二千石以下求反甚急。執反親戚。反知國陰事。乃上變事。具告知王與大母爭樽狀。時丞相以下具知之。欲以傷梁長吏。其書聞天子。天子下吏。驗問有之。公卿請廢襄爲庶人。天子曰。李太后有淫行。而梁王襄無良師傅。故陷不義。乃削梁八城。梟任王后首于市。梁餘尚有十城。襄立三十九年卒。謚爲平王。子無傷立爲梁王也。

車上に殺して去れり。淮陽の太守怒り、以て梁の(二)二千石を讓む。二千石以下、反を求むること甚だ急に、反の親戚を執ふ。反は國の陰事(三)を知れり、乃ち變事を上り、具に王と大母と樽を爭ひしの狀を知るを告ぐ。時に丞相以下も具に之を知り、以て梁の長吏を傷はんと欲す。其書は天子に聞す。天子は吏に下して驗問(四)するに、之れ有り。公卿は襄を廢して庶人を爲さんと請ふに、天子曰く、李太后に淫行有り、而も梁王襄に良師傅無し、故に不義に陷れりと。乃ち梁の八城を削りて、任王后の首を市に梟す。梁の餘尚十城有り。襄は立つの三十九年に卒す、謚して平王と爲す。子無傷、立ちて梁王と爲りき。

(一) 孝武の年號 (二) 郡守の稱、梁にては監察長官 (三) 秘密の事情 (四) 吟味して證據だつ

欲レ得ニ罍樽一。平王大母李太后曰。先王有レ命無レ得下以ニ罍樽一與中人上。他物雖ニ百巨萬一。猶自恣也。任王后絶欲レ得レ之。平王襄直使下人開レ府取ニ罍樽一賜中任王后上。李太后大怒。漢使者來欲ニ自言一。平王襄及任王后遮止閉レ門。李太后與爭レ門措レ指。遂不レ得レ見ニ漢使者一。李太后亦私與ニ食宮長。及郎中尹霸等士一通亂。而王與ニ任王后一。以レ此使ニ人風ニ止李太后一。李太后內有ニ淫行一亦已。後病薨。病時。任后未ニ嘗請レ病。薨又不レ持レ喪。

直に人をして府を開き、罍樽を取りて任王后に賜はしむ。李太后大いに怒り、漢の使者來るや、自ら言はんと欲す。平王襄及び任王后は遮り止めて門を閉づ。李太后は與に門を爭ひ指を措み、(三)遂に漢の使者を見るを得ず。李太后も亦私に食宮の長及び(四)郎中尹霸等の士と通じ亂る。而して王と任王后とは、此を以て人をして李太后を(五)風止せしむ。李太后の內に淫行有りしも、亦已めり。後病みて薨ず。病める時に任后は未だ嘗て病を請はず、(六)薨ぜしに又喪を持せざりき。(七)

(一) 金もて雲雷を描き之を刻して染附たる酒樽なり (二) 甚だ極めての類 (三) 指を門扉にはさみつめらる (四) 宮內事務官 (五) 諷諫して止めしむ (六) 請問なり、見舞ふこと (七) 喪に服せず

元朔中。睢陽人類犴反者。人有レ辱ニ其父一。

元朔中、睢陽の人類犴反といふ者あり、人の其父を辱しむる有り。而して淮陽の(一)太守の客と出でて車を同じうす。太守の客出でて車を下るに、類犴反は其仇を

王。子定爲二山陽王。子不識爲二濟陰王。孝王未レ死時。財以二巨萬一計。不レ可レ勝レ數。及レ死藏府餘二黄金一尚四十餘萬斤。他財物稱レ是。梁共王三年。景帝崩。共王立七年卒。子襄立。是爲二平王。梁平王襄十四年。母曰二陳太后。共王母曰二李太后。李太后親平王之大母也。而平王之后。姓任。曰二任王后。任王后甚有レ寵二於平王襄。

餘すこと、尚四十餘萬斤、他の財物も是に稱ふ。梁の共王の三年、景帝崩ず。共王は立ちて七年に卒し、子襄立つ、是を平王と爲す。梁の平王襄の十四年、母を陳太后と曰ふ。共王の母を李太后と曰ふ。李太后は親(一)に平王の大母なり。而して平王の后は姓は任、任王后と曰ふ。任王后は甚だ平王襄に寵有り。

(一) 平王の實祖母なり

初孝王在時。有二罍樽直千金。孝王誡二後世一善保二罍樽一。無レ得二以與一レ人。任王后聞而

初め孝王在りし時、罍樽の直千金なるもの有り。孝王後世を誡むらく、善く罍樽を保て、以て人に與ふるを得る無れと。任王后聞いて罍樽を得んと欲す。平王の太母李太后曰く、先王命有り、罍樽を以て人に與ふるを得る無し。他物は百巨萬と雖も、猶自ら恣にせよと。任王后は絶(二)だ之を得んと欲す。平王襄は

帝益疏レ王。不レ同二車輦一矣。三十五年。冬。復朝。上疏欲レ留。上弗レ許。歸レ國。意忽忽不レ樂。北獵二良山一。有レ獻二牛足出二背上一。孝王惡レ之。六月中。病レ熱。六日卒。謚曰二孝王一。孝王慈孝。毎レ聞二太后病一。口不レ能レ食。居不レ安レ寢。常欲下留二長安一侍中太后上。太后亦愛レ之。及レ聞二梁王薨一。竇太后哭極哀。不レ食曰。帝果殺二吾子一。景帝哀懼不レ知レ所レ爲。與二長公主一計レ之。乃分レ梁爲二五國一。盡立二孝王男五人一爲レ王。女五人皆食二湯沐邑一。於レ是奏二之太后一。太后乃説。爲レ帝加二壹飡一。

に及びて、竇太后の哭する極めて哀しく、食せずして曰く、帝果して吾子を殺すと。景帝哀懼し、爲さん所を知らず。長公主と之を計り、乃ち梁を分つて五國と爲し、盡く孝王の男五人を立てて王と爲し、女五人は皆湯沐の邑を食ましめ、是に於て之を太后に奏するに、太后乃ち説び、帝の爲に壹飡(四)を加へき。

(一) 裝飾なき質素の車　(二) 斧と首切臺、轉じて死罪に處するなり　(三) 恍惚として喪心せるが如き貌　(四) 一度の食事を增す

梁孝王長子買爲二梁王一。是爲二共王一。子明爲二濟川王一。子彭離爲二濟東

梁の孝王の長子買を梁王と爲す、是を共王と爲す。子明を濟川王と爲し、子彭離を濟東王と爲し、子定を山陽王と爲し、子不識を濟陰王と爲す。孝王未だ死せざる時、財は巨萬を以て計り、數ふるに勝ふべからず。死に及んで藏府に黄金を

得レ釋。上怒稍解。

因上書請レ朝。旣至レ關、茅蘭說レ王。使下乘二布車一從二兩騎一入匿中於長公主園上漢使二使迎一レ王。王已入レ關。車騎盡居レ外。不レ知二王處一。太后泣曰。帝殺二吾子一。景帝憂恐。於レ是梁王伏二斧質於闕下一謝レ罪。然後太后景帝大喜相泣。復如レ故。悉召二王從官一入レ關。然景

因りて上書して朝を請ひ、旣に關に至るに、茅蘭は王に說き、布車に乘り兩騎を從へ、入りて長公主の園に匿れしむ。漢は使をして王を迎へしむるに、王已に關に入るも、車騎は盡く外に居りて、王の處を知らず。太后泣きて曰く、帝は吾子を殺すと。景帝憂恐す。是に於て梁王は斧質に闕下に伏して罪を謝し、然して後に太后景帝大いに喜んで相泣く。復故の如く、悉く王の從官を召して關に入らしむ。然れども景帝は益〻王を疏んじて、車輦を同じうせず。三十五年冬、復朝す。上疏して留らんと欲せしも、上許さず。國に歸る。意忽忽として樂まず。北のかた良山に獵せしに、牛足の背上に出でしを獻せしもの有り。孝王は之を惡めり。六月中に熱を病み、六日にして卒せり。諡して孝王と曰ふ。孝王は慈孝なりき。太后の病を聞く每に、口に食ふ能はず、居に寢に安んぜず。常に長安に留りて太后に侍せんと欲す。太后も亦之を愛せり。梁王の薨を聞く

漢宦官ニ無レ異。十一月。上廢二栗太子一。竇太后心欲下以二孝王一爲中後嗣上。大臣及袁盎等。有レ所レ關二說於景帝一。竇太后義格。亦遂不下復言中以二梁王一爲レ嗣事上。由レ此。以二事祕一世莫レ知。乃辭歸レ國。其夏四月上立二膠東王一爲二太子一。梁王怨二袁盎及議臣一。乃與二羊勝公孫詭之屬一。陰使三人刺二殺袁盎及他議臣十餘人一。逐二其賊一未レ得也。於レ是天子意二梁王一。逐レ賊果梁使レ之。乃遣三使冠蓋相二望於道一。覆二按梁一捕二公孫詭羊勝一。公孫詭羊勝匿二王後宮一。使者責二二千石一急。梁相軒丘豹。及內史韓安國進諫レ王。王乃令二勝詭皆自殺一出レ之。上由レ此怨二望於梁王一。梁王恐。乃使下韓安國因二長公主一謝中罪太后上。然後

の屬と、陰に人をして袁盎及び他の議臣十餘人を刺殺せしむ。其賊を逐へども、未だ得ず。是に於て天子は梁王を意ふ(八)。賊を逐ふに(九)果して梁之を使へるなり。乃ち使をして冠蓋(一〇)道に相望ましめて、梁を覆按(一一)せしめ、公孫詭・羊勝を捕へんとするに、公孫詭・羊勝は王の後宮に匿れき。使者は二千石を責むること急なり。梁の相軒丘豹及び內史韓安國は、進んで王を諫む。王乃ち勝と詭とをして皆自殺せしめて之を出す。上は此れ由り梁王を怨望す。梁王恐れ、乃ち韓安國をして、長公主(一二)に因りて罪を太后に謝せしめ、然して後に釋くるを得たり。上の怒も稍解く。

(一) 天子の御車と四頭立の馬と　(二) 親愛する　(三) 手もて扛く車なり　(四) 御苑なり、上林苑に同じ　(五) 入門の鑑札　(六) 防止して說き諭す　(七) 識に同じ　(八) 思ひ疑ふ　(九) 捕へて糾問す　(一〇) 前後相接するなり　(一一) 繰返して問訊す　(一二) ・は嫖、孝王の姉なり

東西馳獵。擬二於天子一。出言レ蹕入言レ警。招二延四方豪桀一。自レ山以東游說之士。莫レ不二畢至一。齊人羊勝。公孫詭。鄒陽之屬。公孫詭多二奇邪計一。初見レ王。賜二千金一。官至二中尉一。梁號レ之曰二公孫將軍一。梁多作二兵器一。弩弓矛數十萬。而府庫金錢且二百巨萬一。珠玉寶器多二於京師一。

二十九年。十月。梁孝王入朝。景帝使三使持レ節。乘輿駟馬。迎二梁王於闕下一。既朝。上疏因留。以二太后親一故。王入則侍二景帝一同レ輦。出則同レ車游獵。射二禽獸上林中一。梁之侍中郎謁者。著レ籍引二出入天子殿門一。與二

二十九年十月、梁の孝王入朝す。景帝は使をして節を持し、乘輿(一)駟馬もて、梁王を闕下に迎へしむ。既に朝するや、上疏して因りて留る。太后の親(二)なるを以ての故なり。王は入れば則ち景帝に侍して輦(三)を同じうし、出づれば則ち車を同じうして游獵し、禽獸を(四)上林の中に射る。梁の侍中・郎・謁者は、籍(五)引を著けて天子の殿門を出入すること、漢の宦官と異なること無し。十一月、上は栗太子を廢す。竇太后は心に孝王を以て後嗣と爲さんと欲す。大臣及び袁盎等は、景帝に關(六)說する所有り、竇太后の義格む(七)。亦遂に復梁王を以て嗣と爲すの事を言はず。此に由りて事の祕なるを以て、世に知るもの莫し。乃ち辭して國に歸る。其夏四月、上は膠東王を立てて太子と爲す。梁王は袁盎及び議臣を怨み、乃ち羊勝・公孫詭

子。其後梁最親。有レ功。又爲二大國一。居二天下膏腴地一。地北界二泰山一。西至二高陽一。四十餘城。皆多二大縣一。孝王竇太后少子也。愛レ之。賞賜不レ可レ勝レ道。於レ是孝王築二東苑一。方三百餘里。廣二睢陽城一七十里。大治二宮室一。爲二複道一。自レ宮連二屬於平臺一。三十餘里。得レ賜二天子旌旗一。出從二千乘萬騎一。

地に居り、地、北は泰山を界し、西は高陽に至るまで四十餘城、皆大縣多く、孝王は竇太后の少子なり、之を愛す。賞賜（二）は道ふに勝ふべからず。是に於て孝王は東苑を築くに、方三百餘里あり。睢陽城を廣むること七十里、大いに宮室を治めて複道を爲り、宮より平臺（三）に連屬すること三十餘里。天子の旌旗を賜ふことを得て、出でては千乘萬騎を從へ、東西馳獵天子に擬す。出づれば蹕（四）と言ひ、入れば警と言ひ、四方の豪桀を招延するに、山（五）より以東游說の士、畢く至らざるは莫し。齊人羊勝・公孫詭・鄒陽の屬あり。公孫詭は奇邪の計多し。初め王に見ゆるに、千金を賜はり、官は中尉に至りき。梁は之を號して公孫將軍と曰ふ。梁は多く兵器を作り、弩弓矛數千萬あり、而も府庫の金錢は且に百巨萬（六）ならんとし、珠玉寶器は京師よりも多し。

㈠ 肥沃の地 ㈡ 河南なり ㈢ 離宮の所在地 ㈣ 天子の出入を戒飭するを警蹕とす ㈤ 華山以東 ㈥ 萬の萬倍の義、巨額を汎稱す

王自初王。通歷已十一年矣。梁王十四年入朝。十七年。十八年。比年入朝留。其明年乃之國。二十一年。入朝。二十二年。孝文帝崩。二十四年。入朝。二十五年。復入朝。是時上未置太子也。上與梁王燕飲。嘗從容言曰。千秋萬歲後傳於王。王辭謝。雖知非至言。然心内喜。太后亦然。其春吳楚齊趙七國反。吳楚先擊梁棘壁。殺數萬人。梁孝王城守睢陽。而使韓安國張羽等爲大將軍。以距吳楚。吳楚以梁爲限。不敢過而西。與太尉亞夫等相距。三月。吳楚破。而梁所破殺虜。略與漢中分。

謝す。至言(四)に非ざるを知ると雖も、然も心は内に喜ぶ。太后も亦然りき。其春、吳楚齊趙の七國反す。吳楚先づ梁の棘壁(五)を撃つて數萬人を殺す。梁の孝王は睢陽(六)に城守し、而して韓安國張羽等をして大將軍と爲らしめて、以て吳楚を距ぐに、吳楚は梁を以て限と爲し、敢て過ぎて西せず。太尉亞夫等と相距ぐ。三月にして吳楚破る。而して梁の破り殺し虜にしたる所は、略〻漢と中分(七)なりき。

(一) 末子　(二) 通算す　(三) 逾年　(四) 至極確定の言　(五) 河南歸德府に在り　(六) 同府睢州　(七) 相當るなり、相等しきを言ふ

明年。漢立太

明年漢は太子を立つ、其後梁は最も親しく、功有り、又大國爲り。天下膏腴の

王。二歳徙二代王一爲二淮陽王。以レ代盡與二太原王一。號曰二代王。參立十七年。孝文後二年卒。諡爲二孝王。子登嗣立。是爲二代共王。立二十九年。元光二年卒。子義立。是爲二代王。十九年。漢廣レ關以二常山一爲レ限。而徙二代王一王二清河。清河王徙。以二元鼎三年一也。

㊀ 泰山より西、河南の陳留縣に至るまで四十餘城あり ㊁ 孝文帝の十八年 ㊂ 孝武帝の年號 ㊃ 郡名 ㊄ 孝武の年號

初武爲二淮陽王一。十年而梁王勝卒。諡爲二梁懷王一。懷王最少子。愛幸異二於他子一。其明年。徙二淮陽王武一爲二梁王一。梁王之初王レ梁。孝文帝之十二年也。梁

初め武は淮陽王と爲り、十年にして梁王勝卒し、諡して梁の懷王と爲す。懷王は最も少子なり、(一)愛幸他の子に異なり。其明年に淮陽王武を徙して梁王と爲せり。梁王の初めて梁に王たりしは、孝文帝の十二年なり。梁王が初め王たりしより、通歴すれば已に十一年なり。梁王の十四年入朝す。十七年十八年は、(三)比年入朝して留り、(二)其明年は乃ち國に之き、二十一年に入朝せり。二十二年に孝文帝崩ず。二十四年入朝し、二十五年復入朝す。是時上未だ太子を置かず。上は梁王と燕飲し、嘗て從容として言つて曰く、千秋萬歳の後は王に傳へんと。王辭

梁孝王武者。孝文皇帝子也。而與孝景帝同母。母竇太后也。孝文帝凡四男。長子曰太子。是爲孝景帝。次子武。次子參。次子勝。孝文帝卽位二年。以武爲代王。以參爲太原王。以勝爲梁

巻五十八

梁孝王世家第二十八

(一)梁の孝王武は、孝文皇帝の子なり。而して孝景帝と同母なり。母は竇太后、孝文帝は凡そ四男あり、長子を太子と曰ふ、是を孝景帝と爲す。次子は武、次子は參、次子は勝。孝文帝位に卽くの二年、武を以て代王と爲し、參を以て太原王と爲し、勝を以て梁王と爲し、二歲にして代王を徙して淮陽王と爲し、代を以て盡く太原王に與へ、號して代王と曰ふ。參は立つの十七年、孝文の後の(二)二年に卒す、謚して孝王と爲す。子登嗣ぎ立つ、是を代の共王と爲す。立つの二十九年、(三)元光二年に卒す、子義立つ、是を代王と爲す。十九年、漢は關を廣め、常山を以て限と爲し、代王を徙して(四)淸河に王とす。淸河王の徙りたるは、(五)元鼎三年を以てせり。

侯勃他子堅爲平曲侯。續絳侯後。十九年卒。謚爲共侯。子建德代侯。十三年爲太子太傅。坐酎金不善。元鼎五年。有罪。國除。條侯果餓死。死後景帝乃封王信爲蓋侯。

太史公曰。絳侯周勃。始爲布衣時。鄙朴人也。才能不過凡庸。及從高祖定天下。在將相位。諸呂欲作亂。勃匡國家難。復之乎正。雖伊尹周公。何以加哉。亞夫之用兵。持威重。執堅刃。穰苴曷有加焉。足已而不學。守節不遜。終以窮困。悲夫。

太史公曰く、絳侯周勃は、始め布衣たりし時に、鄙朴の人なり。(一)才能も凡庸に(二)過ぎず。高祖に從つて天下を定むるに及び、將相の位に在り。諸呂が亂を作さんと欲するや、勃は國家の難を匡して、(三)之を正に復せり。伊尹・周公と雖も、何を以て加へんや。亞夫の兵を用ふるや、威重を持し堅刃を執る。穰苴(四)も曷ぞ加ふる有らん。己を足るとして(五)學ばず、節を守るに不遜、終に以て窮困せり。悲しいかな。

(一) 鄙しく素樸なる人物 (二) 尋常平凡 (三) 匡し救ふ (四) 齊の司馬穰苴なり (五) 自己を以て滿足して修學を力めず

景帝罵レ之曰。吾不レ用也。召詣二廷尉一。廷尉責曰。君侯欲レ反邪。亞夫曰。臣所レ買器乃葬器也。何謂レ反邪。吏曰。君侯縱不レ反二地上一。卽欲レ反二地下一耳。吏侵レ之益急。初吏捕二條侯一。條侯欲二自殺一。夫人止レ之。以故不レ得レ死。遂入二廷尉一。因不レ食五日。嘔レ血而死。國除。絕一歲。景帝乃更封二絳

景帝之を罵りて曰く、吾は用とせずと。(一)召して廷尉に詣らしむ。廷尉責めて曰く、君侯反せんと欲するかと。亞夫曰く、臣が買ふ所の器は乃ち葬器なり、何ぞ反と謂はんやと。吏曰く、君侯縱ひ地上に反せずとも、卽ち地下に反せんと欲するのみと。吏の之を侵すこと益〻急なり。初め吏の條侯を捕ふるや、條侯は自殺せんと欲す、夫人之を止む、故を以て死するを得ず。遂に廷尉に入る。因りて食はざること五日、血を嘔いて死す、國除かる。絕ゆること一歲、景帝は乃ち更に絳侯勃の他の子堅を封じて、(二)平曲侯と爲し、絳侯の後を續がしむ。十九年に卒し、諡して共侯と爲す。子建德代り侯たり、十三年に太子太傅と爲る。(三)酎金の善からざるに坐し、元鼎五年に罪有り、國除かる。條侯は果して餓死せり。死する後、景帝乃ち王信を封じて蓋侯と爲しき。(四)

(一) 答辯を必要とせず (二) 江蘇海州の屬邑 (三) 天子の祭祀に用ふる酒の料として諸侯より献ずる金 (四) 山東沂州府沂水縣

乃悉封二徐盧等一爲二列侯一。亞夫因謝レ病。景帝中三年。以レ病免レ相。頃之景帝居二禁中一。召二條侯一賜レ食。獨置二大胾一。無二切肉一。又不レ置レ櫡。條侯心不平。顧謂二尙席一取レ櫡。景帝視而笑曰。此不レ足二君所一乎。條侯免レ冠謝。上起。條侯因趨出。景帝以レ目送レ之曰。此怏怏者非二少主臣一也。居無レ何。條侯子爲レ父買下工官尙方甲楯五百被。可二以葬一者上。取レ庸苦レ之。不レ予レ錢。庸知三其盜二買縣官器一。怒而上レ變告レ子。事連二汙條侯一。書既聞レ上。上下レ吏。吏簿責二條侯一。條侯不レ對。

と。條侯は冠を免して謝す。上起つ、條侯因りて趨り出づ。景帝目を以て之を送りて曰く、此の怏怏(九)たる者は、少主(一〇)の臣に非ざるなりと。居ること何も無くして、條侯の子は父の爲に工官尙方(一一)の甲楯五百被(一二)の、以て葬るべき者を買ひ、庸(一三)を取りて之を苦め、錢を予へず。庸は其の縣官(一四)の器を盜買するを知り、怒りて變を上り、子を告ぐ(一五)。事は條侯に連汙(一六)す。書既に上に聞す、上は吏に下すに吏は簿(一七)にして條侯を責む。條侯對へず。

(一)後に容城侯と爲れり (二)後に降參する者 (三)病氣なりと辭謝す (四)孝景の十年なり (五)大切の肉 (六)箸なり (七)食堂の事務官 (八)一本此字の下に非字あり、衍也 (九)不平ありて不愉快なる貌 (一〇)年若き主君 (一一)天子の御物を藏く尙方局に納むる品を製する工官 (一二)組の義 (一三)人夫を傭うて苦役せしむ (一四)天子なり、王者は天下を官にする義 (一五)亞夫の子を訴ふ (一六)連り汚さる (一七)記錄簿

之短。竇太后曰。皇后兄王信可ㇾ侯也。景帝讓曰。始南皮章武侯。先帝不ㇾ侯。及二臣即一ㇾ位。乃侯ㇾ之。信未ㇾ得ㇾ封也。竇太后曰。人主各以ㇾ時行耳。自二竇長君在一ㇾ時。竟不ㇾ得ㇾ侯。死後乃封二其子一。彭祖顧得ㇾ侯。吾甚恨ㇾ之。帝趣侯ㇾ信也。景帝曰。請得下與二丞相一議上ㇾ之。丞相議ㇾ之。亞夫曰。高皇帝約下非二劉氏一不ㇾ得ㇾ王。非ㇾ有ㇾ功不ㇾ得ㇾ侯。不ㇾ如ㇾ約天下共擊上ㇾ之。今信雖二皇后兄一無ㇾ功。侯ㇾ之非ㇾ約也。景帝默然而止。

㈠江蘇鎭江府丹徒縣 ㈡周亞夫なり ㈢缺點 ㈣外戚世家參照

其後匈奴王徐盧等五人降。景帝欲ㇾ侯ㇾ之以勸ㇾ後。丞相亞夫曰。彼背二其主一降二陛下一。陛下侯ㇾ之。則何以責二人臣不ㇾ守ㇾ節者一乎。景帝曰。丞相議不ㇾ可ㇾ用。

其後匈奴の王徐盧等五人降る。景帝は之を侯として以て後を勸めんと欲す。丞相亞夫曰く、(一)彼は其主に背いて陛下に降れり。陛下之を侯とせば、則ち何を以て人臣の節を守らざる者を責めんやと。景帝曰く、丞相の議は用ふべからずと。乃ち悉く徐盧等を封じて列侯と爲せり。亞夫は因りて(三)病を謝し、景帝の(四)中三年に病を以て相を免ぜり。頃之して、景帝は禁中に居り、條侯を召して食を賜ふに、(五)獨り大胾を置くのみ、切肉無く、又(六)櫡を置かず。條侯心に不平なり。顧みて(七)尙席に謂つて櫡を取らしむ。景帝視て笑つて曰く、(八)此れ君の所に足らざるなり

降ニ其兵一購ニ吳王千金一。月餘。越人斬ニ吳王頭一以告。凡相攻守三月而吳楚破平。於レ是諸將乃以ニ太尉計謀一爲レ是。由レ此梁孝王與ニ太尉一有レ郤。歸復置ニ太尉官一。五歲遷爲ニ丞相一。景帝甚重レ之。景帝廢ニ栗太子一。丞相固爭レ之。不レ得。景帝由レ此疏レ之。而梁孝王每レ朝。常與ニ太后一言ニ條侯

梁の孝王と太尉と郤有り。歸るや、復太尉の官を置く。五歲に遷りて丞相と爲る、景帝甚だ之を重んず。景帝の栗太子を廢するや、丞相固より之を爭へども得ず。景帝此由り(二)之を疏んず。而も梁の孝王は、朝する每に常に太后と條侯の短(三)を言へり。竇太后曰く、(四)皇后の兄王信は侯とすべしと。景帝譲りて曰く、始め南皮と章武との侯は、先帝侯とせず。臣が位に卽くに及びて、乃ち之を侯とせり。信は未だ封を得ざるなりと。竇太后曰く、人主各〻時を以て行はんのみ。竇長君が在りし時より、竟に侯を得ず、死後乃ち其子を封ずるに、彭祖は顧つて侯を得たり。吾甚だ之を恨む。帝趣に信を侯とせよと。景帝曰く、請ふ丞相と之を議するを得んと。丞相之を議す。亞夫曰く、高皇帝は、劉氏に非ざれば王たるを得ず、功有るに非ざれば侯たるを得ず、約の如くならずんば、天下共に之を撃てと約せり。今信は皇后の兄なりと雖も、功無し。之を侯とするは約に非ざるなりと。景帝默然として止みき。

請救。太尉引兵東北走昌邑。深壁而守。梁日使使請太尉。太尉守便宜不肯往。梁上書言景帝。景帝使使詔救梁。太尉不奉詔。堅壁不出。而使輕騎兵弓高侯等絕吳楚兵後食道。吳兵乏糧飢數欲挑戰。終不出。夜軍中驚。內相攻擊擾亂。至於太尉帳下。太尉終臥不起。頃之復定。後吳奔壁東南陬。太尉使備西北。已而其精兵果奔西北。不得入。吳兵既餓。乃引而去。太尉出精兵追擊。大破之。

吳王濞弃其軍。而與壯士數千人亡走。保於江南丹徒。漢兵因乘勝。遂盡虜之。

は果して西北に奔り、入るを得ず。吳兵既に餓う、乃ち引いて去る。太尉精兵を出して追擊し、大いに之を破りき。

㈠京師守護の武官 ㈡急難に同じ ㈢中尉の官に在りながら太尉と爲るなり、太尉は陸軍長官なり ㈣强悍にして性急なり ㈤楚の手に委棄す ㈥山東萊州府昌邑縣 ㈦兵略上の便宜をはかり守る ㈧韓頽當の爵邑なり、省直隸河間府に在り ㈨城壁の東南隅

吳王濞は其軍を弃てて壯士數千人と亡げ走り、江南の丹徒を保つ。漢兵因りて勝に乘じ、遂に盡く之を虜にし、其兵を降らしめ、吳王を千金に購ふ。月餘にして越人は吳王の頭を斬り、以て告げき。凡そ相攻守すること三月にして、吳楚破れ平ぎぬ。是に於て、諸將は乃ち太尉の計謀を以て是と爲す。此に由りて

皆推ニ亞夫一。乃封ニ亞夫一爲ニ條侯一。續ニ絳侯後一。

文帝之後六年。匈奴大入ㇾ邊。乃以ニ宗正劉禮一爲ニ將軍一。軍ニ覇上一。祝茲侯徐厲爲ニ將軍一。軍ニ棘門一。以ニ河内守亞夫一爲ニ將軍一。軍ニ細柳一以備ㇾ胡。上自勞ㇾ軍至ニ覇上及棘門軍一。直馳入。將以下騎送迎。已而之ニ細柳軍一。軍士吏被ㇾ甲鋭ニ兵刃一。彀ニ弓弩一持ㇾ滿。天子

文帝の後六年、匈奴大いに邊に入る。乃ち宗正(一)劉禮を以て將軍と爲し、覇上(二)に軍し、祝茲侯徐厲を將軍と爲し、棘門(三)に軍し、河内の守亞夫を以て將軍と爲し、細柳(四)に軍せしめ、以て胡に備ふ。上自ら軍を勞ひ(五)、覇上及び棘門の軍に至り、直ちに馳せ入る。將以下の騎送迎す。已にして細柳の軍に之くに、軍士吏(六)は甲を被り、兵刃を鋭くし、弓弩を彀りて滿を持せり。天子の先驅至るも、入るを得ず。先驅曰く、天子且に至らん(七)とすと。軍門の都尉曰く、將軍令あり、曰く、軍中將軍の令を聞くのみ、天子の詔を聞かずと。居ること何も無くして、上至る、又入るを得ず。是に於て上は乃ち使をして節(八)を持せしめ、將軍に詔すらく、吾入りて軍を勞はんと欲すと。亞夫乃ち言を傳へて(九)壁門を開くに、壁門の士吏、從屬の車騎に謂つて曰く、將軍約あり、軍中に驅馳するを得ずと。是に於て天子乃ち轡を按じて(一〇)徐行し、營に至るに、將軍亞夫は兵を持し(一一)、揖して(一二)曰く、介冑の

主不相中。坐殺人國除。絕一歲文帝乃擇絳侯勃子。賢者河內守亞夫。封爲條侯。續絳侯後。條侯亞夫自未侯爲河內守時。許負相之曰。君後三歲而侯。侯八歲爲將相。持國秉。貴重矣。於人臣無兩。其後九歲而君餓死。亞夫笑曰。臣之兄已代父侯矣。有如卒子當代。亞夫何說侯乎。然既已貴如負言。又何說餓死。指示我。許負指其口曰。有從理入口。此餓死法也。居三歲。其兄絳侯勝之有罪。孝文帝擇絳侯子賢者。

爲して、絳侯の後を續がしむ。條侯亞夫は、未だ侯たらずして河內の守爲りし時より、(三)許負之を相て曰く、君は後三歲にして侯たらん、侯たる八歲にして將相と爲り、(四)國秉を持して貴重せられん。人臣に於て兩び無けん。其後九歲にして君は餓死せんと。亞夫笑つて曰く、臣の兄は已に父に代つて侯たり、如し卒する有らば子當に代るべし、亞夫何ぞ侯を(五)說かんや。然れども旣に已に貴きこと負の言の如くんば、又何ぞ餓死を說かんや。我に指示せよと。(六)許負其口を指して曰く、(七)從理の口に入れる有り、此れ餓死の(八)法なりと。居ること三歲、其兄絳侯勝之は罪有り、孝文帝は絳侯の子の賢なる者を擇ぶに、皆亞夫を推しき。乃ち亞夫を封じて條侯と爲し、絳侯の後を續がしめたり。

(一) 相和合せず　(二) 直隸河間府景州の南方　(三) 許氏の老婦人　(四) 國の政柄　(五) 望み說話す　(六) 理由を示せ　(七) 縱の筋の口中に入れるあり　(八) 象なり

吏。獄吏乃書二牘背一。示レ之曰。以二公主一爲レ證。公主者孝文帝女也。勃太子勝之尚レ之。故獄吏教二引爲一レ證。勃之益レ封受レ賜。盡以予二薄昭一。及二繫急一。薄昭爲言二薄太后一。太后亦以爲レ無二反事一。文帝朝。太后以二冒絮一提二文帝一曰。絳侯綰二皇帝璽一。將二兵於北軍一。不下以二此時一反上。今居二一小縣一。顧欲レ反邪。文帝既見二絳侯獄辭一。乃謝曰。吏事方驗而出レ之。於レ是使下使持レ節赦二絳侯一復中爵邑上。絳 既出。曰。吾嘗將二百萬軍一。然安知二獄吏之貴一乎。

之を出さんと。是に於て使をして節を持して絳侯を赦し、爵邑を復せしむ。絳侯既に出でて曰く、吾嘗て百萬の軍に將たりき。然れども安ぞ獄吏の貴きを知らんやと。

㊀率先して範を作れ　㊁河東郡の守尉が各縣を巡察する場合　㊂司法裁判の長官　㊃辯解の辭　㊄獄吏の所持する木札　㊅薄太后の弟なり　㊆頭巾を取つて帝に擲つ　㊇玉印を手に持する義、天子未だ立たず玉印は相將に在り　㊈獄吏の調査も其無罪を證せり

絳侯復就レ國。孝文帝十一年卒。謚爲二武侯一。子勝之代侯。六歲尚二公

絳侯復國に就き、孝文帝の十一年に卒す。謚して武侯と爲す。子勝之代り侯たり、六歲のとき公主を尚せしも、相中らず(二)。人を殺すに坐して國除かる。絶ゆること一歲、文帝は乃ち絳侯勃の子、賢者河內の守亞夫を擇び、封じて條侯と(一)

月。上曰。前日吾詔二列侯一就レ國。或未レ能レ行。丞相吾所レ重。其率先レ之。乃免レ相就レ國。歲餘。每二河東守尉行一レ縣至レ絳。絳侯勃自畏恐レ誅。常被レ甲。令二家人持一レ兵以見レ之。其後人有三上書告二勃欲一レ反。下二廷尉一。廷尉下二其事長安一。逮二捕勃一治レ之。勃恐不レ知レ置レ辭。吏稍侵二辱之一。勃以二千金一與二獄

重んずる所なり、其れ率ゐて之に先んぜよと。乃ち相を免じて國に就かしむ。歲餘に、河東の守尉(一)が縣を行りて絳に至る每に、絳侯勃は自ら畏れ、誅を恐れて常に甲を被(二)り、家人をして兵を持せしめて以て之を見き。其後人の上書して、勃が反せんと欲するを告ぐる有り。(三)廷尉に下す。廷尉は其事を長安に下して、勃を逮捕して之を治す。勃は恐れて(四)辭を置くを知らず、吏稍之を侵辱す。勃は千金を以て獄吏に與ふ。獄吏乃ち牘(五)の背に書し、之を示して曰く、公主を以て證と爲せと。公主とは孝文帝の女なり、勃が太子勝之之を尙せり。故に獄吏は引いて證と爲すを敎へしなり。勃の封を益し賜を受くるや、盡く以て(六)薄昭に予へき。繫の急なるに及んで、薄昭爲に薄太后に言ふ。太后亦以爲らく反事無しと。文帝朝す、太后は冒絮(七)を以て文帝に提つて曰く、絳侯は皇帝の璽(八)を綰き、兵に北軍に將たりき。此時を以て反せずして、今一小縣に居るとき、顧つて反を欲せんやと。文帝は既に絳侯の獄辭を見たり。乃ち謝して曰く、(九)吏事方に驗あり、

侯二事孝惠帝一。孝惠帝六年。置二太尉官一。以レ勃爲二太尉一。十歳呂后崩。呂祿以二趙王一爲二漢上將軍一。呂産以二呂王一爲二漢相國一。秉二漢權一。欲レ危二劉氏一。勃爲二太尉一。不レ得レ入二軍門一。陳平爲二丞相一。不レ得レ任レ事。於レ是勃與レ平謀。卒誅二諸呂一。而立二孝文皇帝一。其語在二呂后孝文事中一。文帝既立。以レ勃爲二右丞相一。賜二金五千斤一。食邑萬戸。居月餘。人或說レ勃曰。君既誅二諸呂一。立二代王一。威震二天下一。而君受二厚賞一。處二尊位一。以寵。久之卽禍及レ身矣。勃懼亦自危。乃謝請レ歸二相印一。上許レ之。歳餘。丞相平卒。上復以レ勃爲二丞相一。十餘

て、卒に諸呂を誅して孝文皇帝を立てたり。其語は呂后と孝文との事中に在り。文帝既に立つや、勃を以て右丞相と爲し、金五千斤食邑萬戸(四)を賜ふ。居ること月餘、人或は勃に說いて曰く、君既に諸呂を誅して代王を立て、威天下に震ふ。而るに君は厚賞を受けて尊位に處り、以て寵せらる。久しうせば即ち禍身に及ばんと。勃懼れて、亦自ら危む。乃ち謝して相印を歸さんと請ふ。上之を許す。

㈠ 素樸にして人に屈せず人情に厚く重々し ㈡ 飾席なり ㈢ 素樸にして飾無し ㈣ 一本紀に出づ

歳餘にして丞相平卒す。上復勃を以て丞相と爲す。十餘月にして上曰く、前日吾は列侯に詔して國に就かしめしに、或ものは未だ行く能はず。丞相は吾の

將勳。定二鴈門郡十七縣。雲中郡十二縣一。因復擊二豨靈丘一破レ之。斬レ豨。得二豨丞相程縱。將軍陳武。都尉高肆一。定二代郡九縣一。燕王盧綰反。勃以二相國一代二樊噲一將。擊下レ薊。得二綰大將抵。丞相偃。守陘。太尉弱。御史大夫施一。屠二渾都一。破二綰軍上蘭一。復擊破二綰軍沮陽一。追至二長城一。定二上谷十一縣。右北平十六縣。遼西遼東二十九縣。漁陽二十二縣一。最從二高帝一。得二相國一人。丞相二人。將軍二千石各三人一。別破二軍二一。下二城三一。定二郡五。縣七十九一。得二丞相大將各一人一。

府頭來縣 （二）上蘭近傍の地

勃爲レ人木彊敦厚。高帝以爲可レ屬二大事一。勃不レ好二文學一。每レ召二諸生說士一。東鄉坐而責レ之趣爲レ我語。其椎少レ文如レ此。勃既定レ燕而歸。高祖已崩矣。以二列

勃は人と爲り、木彊敦厚なり。高帝以爲らく大事を屬すべしと。勃は文學を好まず。諸生說士を召す每に、東に鄉つて坐して之を責むらく、趣に我爲に語れと。其椎にして文少きこと此の如し。勃既に燕を定めて歸るや、高祖已に崩ぜり。列侯を以て孝惠帝に事へき。孝惠帝の六年、太尉の官を置き、勃を以て太尉と爲す。十歲に呂后崩ず。呂祿は趙王を以て漢の上將軍と爲り、呂產は呂王を以て漢の相國と爲り、漢の權を秉りて劉氏を危くせんと欲す。勃太尉爲るも、軍門に入るを得ず、陳平丞相爲るも、事に任ずるを得ず、是に於て勃は平と謀り

騎晉陽下。破之。下晉陽。後擊韓信軍於硰石。破之。追北八十里。還攻樓煩三城。因擊胡騎平城下。所將卒當馳道爲多。勃遷爲太尉。擊陳豨。屠馬邑。所將卒斬豨將軍乘馬絺。擊韓信。陳豨。趙利軍於樓煩。破之。得豨將宋最。鴈門守圂。因轉攻得雲中守遬。丞相箕肆。

將軍の乘馬絺を斬り、韓信・陳豨・趙利の軍を樓煩に擊ちて之を破り、豨の將宋最と鴈門の守圂(六)とを得たり。因りて轉じて攻め、雲中の守遬と、丞相箕肆、將の勳とを得、鴈門郡十七縣雲中郡十二縣を定め、因りて復豨を靈丘(七)に擊つて之を破り、豨を斬り、豨の丞相程縱・將軍陳武・都尉高肆を得て、代郡九縣を定めき。燕王盧綰の反するや、勃は相國を以て、樊噲に代り將たり。擊つて薊(八)を下し、綰の大將抵・丞相偃・守陘・太尉弱・御史大夫施を得、渾都(九)を屠り、綰の軍を上蘭(一〇)に破り、復擊つて綰の軍を沮陽に破り、追つて長城に至り、上谷十二縣、右北平十六縣、遼西遼東二十九縣、漁陽二十二縣を定む。最べて高帝に從つて、相國一人・丞相二人・將軍二千石各〻三人を得、別に軍二を破り、城三を下し、郡五と縣七十九とを定め、丞相・大將各〻一人を得たり。

(一) 太原の後人縣に同じ (二) 山西朔平府に屬す、雲中郡の縣名 (三) 山西沁州の西南方所謂上黨郡地方なり (四) 山西代州崞縣に樓煩あり其西北方なり (五) 雁門郡の縣名なり、山西朔平府に屬す (六) 部將の名なり (七) 山西大同府靈丘縣 (八) 燕の國都なり、直隸順天府薊州 (九) 上谷郡の縣名なり、直隸順天府昌平州 (一〇) 直隸宣化

破二西丞一擊二盜巴軍一破レ之。攻二上邽一東守二嶢關一。轉擊二項籍一。攻二曲逆一最。還守二敖倉一追二項籍一。籍已死。因東定二楚地泗川東海郡一。凡得二二十二縣一。還守二雒陽櫟陽一。賜下與二潁陰侯一共食中鍾離上。以二將軍一從二高帝一。擊二反者燕王臧荼一破二之易下一。所レ將卒當二馳道一爲レ多。賜二爵列侯一。剖レ符世世勿レ絕。食二絳八千一百八十戶一。號二絳侯一。

の卒は馳道に當りて、多と爲す。爵列侯を賜ひ、符を剖き、世世絕ゆること勿らしむ。(八)(九)絳八千一百八十戶を食み、絳侯と號す。

(一)陝西同州府朝邑縣　(二)陝西西安府に在り、秦の驪丘なり　(三)陝西乾州の地　(四)第一等の功あり　(五)以下皆陝西に屬す　(六)安徽鳳陽府　(七)易水の上に臧荼の居城あり　(八)天子行幸の道筋　(九)山西平陽府曲沃縣

以二將軍一從二高帝一擊二反者韓王信於代一。降二下霍人一以前。至二武泉一。擊二胡騎一破二之武泉北一。轉攻二韓信軍銅鞮一破レ之。還降二太原六城一。擊二韓信胡

將軍を以て高帝に從ひ、反者韓王信を代に擊ち、霍人(一)を降下せしめて以て前み、武泉(二)に至り、胡騎を擊つて之を武泉の北に破り、轉じて韓信の軍を銅鞮(三)に攻めて之を破り、還りて太原六城を降し、韓信の胡騎を晉陽の下に擊つて之を破り、晉陽を下す。後韓信の軍を硰石(四)に擊つて之を破り、北ぐるを追ふこと八十里、還りて樓煩三城を攻め、因りて胡騎を平城の下に擊つ。將ゐる所の卒は馳道に當り、多と爲す。勃遷りて太尉と爲り、陳豨を擊つて馬邑を屠る。將ゐる所の卒は、豨

爲レ多。後章邯破殺二項梁一。沛公與二項羽一。引レ兵東如レ碭。自二初起一沛還至レ碭。一歲二月。楚懷王封二沛公一號二安武侯一。爲二碭郡長一。沛公拜レ勃爲二虎賁令一。以レ令從二沛公一定二魏地一。攻二東郡尉於城武一破レ之。擊二王離軍一破レ之。攻二長社一先登。攻二潁陽緱氏一。絕二河津一擊二趙賁軍尸北一。南攻二南陽守齮一。破二武關嶢關一。破二秦軍於藍田一。至二咸陽一滅レ秦。

項羽至。以二沛公一爲二漢王一。漢王賜二勃爵一爲二威武侯一。從入二漢中一。拜爲二將軍一。還定二三秦一至レ秦。賜二食邑懷德一。攻二槐里好畤一最。擊二趙賁內史保於咸陽一最。北攻レ漆。擊二章平姚卬軍一。西定レ汧。還下二郿頻陽一。圍二章邯廢丘一。

項羽至るや、沛公を以て漢王と爲す。漢王は勃に爵を賜うて威武侯と爲せり。從つて漢中に入り、拜して將軍と爲る。還つて三秦を定め、秦に至り、食邑を(一)懷德に賜ふ。(二)槐里・(三)好畤を攻めて最たり。趙賁の內史保を咸陽に擊つに最たり。(四)北は(五)漆を攻め、章平・姚卬の軍を擊ち、西は汧を定め、還りて郿・頻陽を下し、章邯を廢丘に圍み、西の丞を破り、盜巴の軍を擊ちて之を破り、上邽を攻め、東して嶢關を守り、轉じて項籍を擊ち、曲逆を攻めて最たり。還つて敖倉を守り、項籍を追ふ。籍已に死するや、因りて東のかた楚の地泗川・東海の郡を定め、凡て二十二縣を得たり。還りて雒陽・櫟陽を守り、潁陰侯と共に(六)鍾離に食むことを賜ふ。將軍を以て高帝に從ひ、反者燕王臧荼を擊つて之を(七)易下に破る。將る所

蕭。復攻レ碭破レ之。下二下邑一先登。賜二爵五大夫一。攻二蒙虞一取レ之。擊二章邯車騎殿一。定二魏地一。攻二爰戚東緡一以往。至レ栗取レ之。攻二齧桑一先登。擊二秦軍阿下一破レ之。追至二濮陽一。下二甄城一。攻二都關定陶一。襲二取宛朐一。得二單父令一。夜襲二取臨濟一。攻レ張以前至レ卷破レ之。擊二李由軍雍丘下一。攻二開封一。先至二城下一。

り、李由の軍を雍丘(一五)の下に撃ち、開封を攻め、先づ城下に至れり。多(一六)と爲す。後章邯は破りて項梁を殺すや、沛公は項羽と兵を引いて東して碭に如けり。初め沛に起りしより、還つて碭に至るまで、一歲二月なりき。楚の懷王は沛公を封じて安武(一七)侯と號し、碭郡の長と爲す。沛公は勃を拜して虎賁(一八)の令と爲す。令を以て沛公に從ひて魏の地を定め、東郡の尉を城武に攻めて之を破り、王離の軍を撃つて之を破り、長社(一九)を攻めて先登し、潁陽(二〇)の緱氏を攻め、河津を絶ち、趙賁の軍を尸の北に撃ち、南して南陽の守齮を攻め、武關・嶢關を破り、秦軍を藍田に破り、咸陽に至り、秦を滅しき。

(一) 河南の滎陽附近　(二) 蠶を養ふ箔なり、葦を以て造る　(三) 從事す　(四) 武官としてよく強弓を挽く　(五) 以下下邑まで皆沛郡に屬す　(六) 河南歸德府の二縣名　(七) 上功を最とし、下功を殿とす　(八) 山東濟寧府の二縣名　(九) 河南歸德府夏邑縣　(一〇) 梁と彭城との中間地　(一一) 齊の東阿の城下　(一二) 以下六縣は皆山東曹州に府屬す　(一三) 山東靑州府　(一四) 山東泰安府萊蕪縣　(一五) 河南開封府　(一六) 功力甚だ優良なり　(一七) 武安を正とす　(一八) 縣名なり　(一九) 河南許州　(二〇) 共に長社に近し、此邊の文は曹參世家を參照すべし

絳侯周勃者。沛人也。其先卷人。徙レ沛。勃以レ織ニ薄曲一爲レ生。常爲レ人吹レ簫給ニ喪事一。材官引彊。高祖之爲ニ沛公一初起。勃以ニ中涓一從攻ニ胡陵一下ニ方與一。方與反。與戰却レ適。攻レ豐擊ニ秦軍碭東一還軍ニ留及

卷五十七

絳侯周勃世家第二十七

絳侯周勃は沛の人なり、其先は卷の人なり。(一)沛に徙る。勃は薄曲(二)を織るを以て生と爲し、常に人の爲に簫を吹いて喪事に給す。(三)材官引彊なり。(四)高祖の沛公と爲りて初めて起るや、勃は中涓を以て、從つて胡陵を攻め(五)方與を下し、方與の反するや、與に戰ひ適を却け、豐を攻め、秦軍を碭の東に擊ち、還りて留及び蕭に軍し、復碭を攻めて之を破り、下邑を下すに先登たり、爵五大夫を賜ふ。(六)蒙・虞を攻めて之を取り、章邯の車騎を擊つに殿たり。(七)魏の地を定めて、爰戚(八)・東緡を攻めて以て往き、(九)栗に至りて之を取り、齧桑を攻めて先登し、(一〇)秦軍を阿下に擊つて之を破り、追うて濮陽に至り、甄城を下し、都關(一一)・定陶を攻め、宛朐を襲取し、單父の令を得たり。(一二)夜臨濟を襲取し、(一三)張(一四)を攻めて以て前んで卷に至りて之を破

家之患。及呂后時。事多故矣。然平竟自脫定宗廟。以榮名終。稱賢相。豈不善始善終哉。非知謀。孰能當此者乎。

三年。何坐レ略ニ人妻一。棄市國除。始陳平曰。我多ニ陰謀一。是道家之所レ禁。吾世卽廢亦已矣。終不レ能ニ復起一。以ニ吾多ニ陰禍一也。然其後曾孫陳掌以ニ衞氏親貴戚一。願レ得レ續ニ封陳氏一。然終不レ得。

にして貴戚なるを以て、封を陳氏に續くるを願へり。然れども終に得ざりき。

(一) 掠奪す (二) 屍を市に曝す (三) 子孫廢絶せば畢りを告げん (四) 陰謀の禍患 (五) 衞青の女婿

太史公曰。陳丞相平。少時本好ニ黃帝老子之術一。方下其割ニ肉俎上一之時上。其意固已遠矣。傾ニ側擾ニ攘楚魏之間一。卒歸ニ高帝一。常出ニ奇計一。救ニ紛糾之難一。振ニ國

太史公曰く、陳丞相平は、少時本黃帝老子の術を好めり。其の肉を俎上に割く(一)の時に方りて、其意固に已に遠かりき(二)。楚魏の間に傾側擾攘(三)して、卒に高帝に歸し、常に奇計を出して紛糾の難を救ひ、國家の患を振へり。呂后の時に及んで、事多故なり(四)。然も平は竟に自ら脫して、宗廟を定め、榮名を以て終りき。豈始を善くし終を善くせざらんや。知謀なるに非ずんば、孰か能く此に當る者あらんや。

(一) 里社の祭肉を分ちしを指す (二) 遠大なり (三) 立つ能はずして不安定なりし狀態 (四) 國事多端

而君所レ主者何事也。平謝曰。主臣。陛下不レ知ニ其駑下一。使レ待ニ罪宰相一。宰相者上佐ニ天子一。理ニ陰陽一順ニ四時一。下育ニ萬物之宜一。外鎭ニ撫四夷諸侯一。內親ニ附百姓一。使ニ卿大夫各得ヒ任ニ其職一焉。孝文帝乃稱レ善。右丞相大慙。出而讓ニ陳平一曰。君獨不三素敎ニ我對一。陳平笑曰。君居ニ其位一。不レ知ニ其任一邪。且陛下卽問ニ長安中盜賊數一。君欲ニ彊對一邪。於レ是絳侯自知ニ其能不レ如レ平遠一矣。居頃之絳侯謝レ病請レ免レ相。陳平專爲ニ一丞相一。

居ること頃之して、絳侯は病を謝けて相を免ぜんと請ふ。陳平專ら一丞相と爲れり。

(一) 租税の諸計　(二) 主任の者　(三) 群臣指導の取締役　(四) 下愚頑鈍　(五) 宰相として立つを言ふ　(六) 陰陽の大氣を調和す　(七) 答ふべき言辭を敎へず

孝文帝二年。丞相陳平卒。諡爲ニ獻侯一。子共侯買代侯。二年卒。子簡侯恢代侯。二十三年卒。子何代侯。三十

孝文帝の二年、丞相陳平卒す、諡して獻公と爲す。子共侯買は代り侯たり。二年に卒し、子簡侯恢代り侯たり。二十三年に卒し、子何は代り侯たり。三十三年に、何は人の妻を略(一)したるに坐して棄市(二)せられ、國除かれき。始め陳平曰く、我は陰謀多し、是れ道家の禁ずる所たり、吾世(三)卽ち廢せば、亦已まん。終に復起つ能はざらんは、吾陰禍多きを以てなりと。然も其後、曾孫陳掌は、衞氏の親

皇帝既益明ニ習國家事ー。朝而問ニ右丞相勃ー曰。天下一歲決レ獄幾何。勃謝曰。不レ知。問天下一歲錢穀出入幾何。勃又謝不レ知。汗出沾レ背。愧レ不レ能レ對。於レ是上亦問ニ左丞相平ー。平曰。有ニ主者ー。上曰。主者謂レ誰。平曰。陛下卽問ニ決獄ー責ニ廷尉ー。問ニ錢穀ー責ニ治粟内史ー。上曰。苟各有ニ主者ー。

に問うて曰く、天下一歲の獄を決する幾何ぞと。勃謝して曰く、知らずと。問ふ天下一歲の錢穀（一）出入は幾何ぞと。勃又知らずと謝し、汗出でて背を沾し、對ふる能はざるを愧づ。是に於て上亦左丞相平に問ふに、平曰く、主者（二）有りと。上曰く、主者は誰とか謂ふと。平曰く、陛下卽し決獄を問はば廷尉を責めよ、錢穀を問はば治粟内史を責めよと。上曰く、苟も各〻主る者有り、而して君の主たる所の者は何事ぞと。平謝して曰く、主臣（三）なり、陛下は其駑下（四）なるを知らずして、罪（五）を宰相に待たしむ。宰相は上は天子を佐け、陰陽（六）を理し、四時に順ひ、下は萬物の宜を育し、外は四夷諸將を鎭撫し、內は百姓を親附せしめ、卿大夫をして各〻其職に任ふるを得しむと。孝文帝乃ち善しと稱す。右丞相大いに慙ぢ、出でて陳平を讓めて曰く、君獨素より我に對（七）を敎へずと。陳平笑つて曰く、君其位に居て、其任を知らざるか。且つ陛下卽し長安中の盜賊の數を問はば、君彊ひて對へんと欲するかと。是に於て絳侯は自ら其能の平に如かざること遠きを知れり。

執樊噲。數讒曰。陳平爲相非治事。日飲醇酒戲婦女。陳平聞。日益甚。呂太后聞之私獨喜。面質呂嬃於陳平曰。鄙語曰。兒婦人口不可用。顧君與我何如耳。無畏呂嬃之讒也。呂太后立諸呂爲王。陳平僞聽之。及呂太后崩平與太尉勃合謀。卒誅諸呂立孝文皇帝。陳平本謀也。審食其免相。孝文帝立。以爲太尉勃親以兵誅呂氏功多。陳平欲讓勃尊位。乃病謝。孝文帝初立。怪平病問之。平曰。高祖時。勃功不如臣平。及誅諸呂臣功亦不如勃。願以右丞相讓勃。於是孝文帝乃以絳侯勃爲右丞相。位次第一。平徙爲左丞相。位次第二。賜平金千斤益封三千戶。

尉勃は、親ら兵を以て呂氏を誅せり、功多しと。陳平は勃に尊位を讓らんと欲し、乃ち病謝す。孝文帝初めて立ち、平の病を怪しみて之を問ふ。平曰く、高祖の時、勃の功は臣平に如かず、諸呂を誅するに及んでは、臣の功は亦勃に如かず、願くは右丞相を以て勃に讓らんと。是に於て、孝文帝は乃ち絳侯勃を以て右丞相と爲す、位次第一なり。平は徙りて左丞相と爲り、位次第二たり。平に金千斤を賜ひ、三千戶を益封す。(七)

㊀事務を視ず　㊁宮中にて呂后の使令に關與す　㊂面會して問ひ質す　㊃意思如何によるのみ　㊄本來の謀計　㊅病氣なりとして官を辭す　㊆十六兩を斤とす

居頃之孝文

居ること頃之にして孝文皇帝は、既に益々國家の事に明習し、朝にして右丞相勃

陵之免₂丞相₁。呂太后乃徙ㇾ平爲₂右丞相₁。以₂辟陽侯審食其₁爲₂左丞相₁。左丞相不ㇾ治。常給₂事於中₁。食其亦沛人。漢王之敗₂彭城₁西。楚取₂太上皇呂后₁爲ㇾ質。食其以₂舍人₁侍₂呂后₁。其後從敗₂項籍₁爲ㇾ侯。幸₂於呂太后₁。及ㇾ爲ㇾ相居ㇾ中。百官皆因決ㇾ事。呂須常以₂前陳平爲₂高帝₁謀₁

陵の丞相を免ずるや、呂太后は乃ち平を徙して右丞相と爲し、辟陽侯審食其を以て左丞相と爲す。左丞相は治せず。(一) 常に中に給事す。食其も亦沛の人なり。漢王の彭城に敗れて西するや、楚は太上皇・呂后(二)を取りて質と爲す。食其は舍人を以て呂后に侍せり。其後從つて項籍を敗りて侯と爲り、呂太后に幸せらる。相と爲るに及びて中に居るに、百官皆因りて事を決せり。呂須は常に前に陳平が高帝の爲に謀りて、樊噲を執へしを以て、數〻讒して曰く、陳平の相爲るや、事を治するに非ず、日に醇酒を飲んで婦女に戲ると。陳平聞いて日に益〻甚しくす。呂太后之を聞き、私に獨り喜び、呂須を陳平に面質(三)して曰く、鄙語に曰く、兒婦人の口は用ふべからずと。君と我と何如なるかを顧はんのみ、(四) 呂須の讒を畏るゝこと無れと。呂太后は、諸呂を立てて王と爲すに、陳平は僞りて之を聽けり。呂太后崩ずるに及び、平は太尉勃と謀を合せて、卒に諸呂を誅して孝文皇帝を立てき。陳平の本謀なり。(五) 審食其は相を免ぜり。孝文帝立つや、以爲らく太

公。及三漢王之還攻二項籍一。陵乃以レ兵屬レ漢。項羽取二陵母一置二軍中一。陵使至。則東鄕坐二陵母一。欲二以招一レ陵。陵母既私送二使者一。泣曰。爲二老妾一語レ陵。謹事二漢王一。漢王長者也。無下以二老妾一故持中二心上。妾以レ死送二使者一。遂伏レ劍而死。項王怒烹二陵母一。陵卒從二漢王一定二天下一。以善二雍齒一。雍齒高帝之仇。而陵本無レ意レ從二高帝一。以レ故晚封爲二安國侯一。安國侯既爲二右丞相一。二歲。孝惠帝崩。高后欲下立二諸呂一爲中王上。問二王陵一。王陵曰。不可。問二陳平一。陳平曰。可。呂太后怒。乃詳遷レ陵爲二帝太傅一。實不レ用レ陵。陵怒謝レ疾免。杜門竟不二朝請一。七年而卒。

陵の母を烹る。陵卒に漢王に從つて天下を定めき。以だ雍齒と善し、雍齒は高帝の仇なり。而も陵は本高帝に從ふに意無し、故を以て晚く封ぜられて安國侯と爲りき。安國侯既に右丞相と爲るや、二歲にして孝惠帝崩ず。高后は諸呂を立てて王と爲さんと欲して、王陵に問ふに、王陵曰く、不可なりと。陳平に問ふに、陳平曰く、可なりと。呂太后怒り、乃ち詳(六)りて陵を遷して帝の太傅と爲す、實は陵を用ひざるなり。陵怒り、疾と謝して免じ(七)、門を杜ぢて竟に朝請(八)せず、七年にして卒せり。

(一) 縣の豪族　(二) 意氣を向ふ　(三) 河南南陽　(四) 鄕は嚮、向ふ也、女の東嚮は賓禮なり　(五) 王陵の使者　(六) 佯に同じ　(七) 官を辭し去る　(八) 春秋の朝禮にも出仕せざるなり

而令絳侯勃代將。將兵定燕反縣。平行聞高帝崩。平恐呂太后及呂須讒怒。乃馳傳先去。逢使者。詔平與灌嬰屯於滎陽。平受詔。立復馳至宮。哭甚哀。因奏事喪前。呂太后哀之曰。君勞。出休矣。平畏讒之就。因固請得宿衞中。太后乃以爲郎中令。曰。傅教孝惠。是後呂須讒乃不得行。樊噲至。則赦復爵邑。

孝惠帝六年。相國曹參卒。以安國侯王陵爲右丞相。陳平爲左丞相。王陵者。故沛人。始爲縣豪。高祖微時。兄事陵。陵少文任氣好直言。及高祖起。沛入至咸陽。陵亦自聚黨數千人。居南陽。不肯從沛

孝惠帝の六年、相國曹參卒す。安國侯王陵を以て右丞相と爲し、陳平を左丞相と爲す。王陵は故の沛の人なり、始め縣豪爲り。(一)高祖の微なる時、陵に兄事せり。陵は文少く氣に任じて直言を好めり。高祖が沛より起り、入りて咸陽に至るに及び、陵も亦自ら(二)黨數千人を聚めて南陽に居り、沛公に從ふを肯んぜず。漢王の還りて項籍を攻むるに及び、陵は乃ち(三)兵を以て漢に屬しき。項羽は陵の母を取りて軍中に置き、陵の使至れば則ち東鄕(四)して陵の母を坐せしめ以て陵を招かんと欲す。陵の母は既に私に使者を送り、泣いて曰く、老妾の爲に陵に語れ。謹みて漢王に事へよ、漢王は長者(五)なり。老妾を以ての故に二心を持する無れ。妾は死を以て使者を送らんと。遂に劍に伏して死せり。項王怒り

曰。陳平亟馳ㇾ傳載ㇾ勃代ㇾ噲將。平至二軍中一卽斬二噲頭一。二人既受ㇾ詔。馳ㇾ傳未ㇾ至ㇾ軍。行計ㇾ之曰。樊噲帝之故人也。功多。且又乃呂后弟呂嬃之夫。有ㇾ親且貴。帝以二忿怒故一欲ㇾ斬ㇾ之。則恐後悔。寧囚而致ㇾ上。上自誅ㇾ之。未ㇾ至ㇾ軍爲ㇾ壇以ㇾ節召二樊噲一。噲受ㇾ詔。卽反接。載二檻車一。傳詣二安長一

則ち恐くは後悔せん。寧ろ囚へて上に致さんに、上自ら之を誅せんと。未だ軍に至らずして、壇を爲り、節(六)を以て樊噲を召す、噲は詔を受く。卽ち反接(七)して檻車に載せ、傳へて長安に詣らしめ、而して絳侯勃をして代り將たらしむ。兵に將として燕の反縣を定めき。平は行く〳〵高帝崩ずと聞き、平は呂太后及び呂嬃の讒怒を恐れ、乃ち傳を馳せて先づ去る。使者に逢ふに、平に詔して、灌嬰と滎陽に屯せよと。平は詔を受け、立どころに復馳せて宮に至り、哭すること甚だ哀し。因りて事(八)を喪前に奏す。呂太后之を哀みて曰く、君勞せり、出で休せよと。平は讒の就るを畏れ、因りて固く請うて中に宿衞するを得たり。太后乃ち以て郎中令(九)と爲して曰く、傅として孝惠に敎へよと。是後呂嬃の讒は乃ち行はるゝを得ざりき。樊噲至るや、則ち赦して爵邑を復せり。

(一) 誹謗に同じ (二) 病床の下 (三) 驛傳の車 (四) 古くよりの親交者 (五) 近親にして貴顯なり (六) 特使の持する節旄 (七) 兩手を背後に縛して囚人の車に載す (八) 使事の顛末を柩前に言上す (九) 侍從長の類

起。多亡匿。今見五千戸。於レ是乃詔二御史一。更以二陳平一爲二曲逆侯一。盡食レ之。除二前所レ食戸牖一。其後常以二護軍中尉一從攻二陳豨及黥布一。凡六出二奇計一輒益レ邑。凡六益レ封。奇計或頗祕。世莫二能聞一也。

聞くもの莫し。

(一) 直隷保定府定縣の東南方　(二) 執法の長官　(三) 曾前に出でたり

高帝從レ破二布軍一還。病レ創徐行至二長安一。燕王盧綰反。上使下樊噲以二相國一將レ兵攻上レ之。既行。人有下短二惡噲一者上。高帝怒曰。噲見二吾病一。乃冀二我死一也。用二陳平謀一。而召二絳侯周勃一。受二詔牀下一

高帝が布の軍を破るより還るや、創を病んで徐行し、長安に至るに、燕王盧綰反す。上は樊噲をして、相國を以て兵に將として之を攻めしむ。既に行く、人の噲を短惡(一)する者有り。高帝怒りて曰く、噲は吾病を見て、乃ち我死を冀ふかと。陳平の謀を用ひて、絳侯周勃を召し、詔を牀下(二)に受けしめて曰く、陳平は亟に傳を馳せ、勃を載せて噲に代りて將たらしめよ、平は軍中に至らば、卽ち噲の頭(三)を斬れと。二人既に詔を受け、傳を馳せて、未だ軍に至らざるに、行くゆく之を計つて曰く、樊噲は帝の故人(四)なり。功多し。且又乃ち呂后の弟呂須の夫なり、親(五)有りて且つ貴し。帝は忿怒の故を以て之を斬らんと欲するも、

爲二戶牖侯一。平辭曰。此非二臣之功一也。上曰。吾用二先生謀計一戰勝剋レ敵。非レ功而何。平曰。非二魏無知一臣安得レ進。上曰。若レ子可レ謂レ不レ背レ本矣。乃復賞二魏無知一。其明年。以二護軍中尉一從攻二反者韓王信於代一。卒至二平城一。爲二匈奴所一レ圍。七日不レ得レ食。高帝用二陳平奇計一。使二單于閼氏一。圍以得レ開。高帝既出。其計祕。世莫レ得レ聞。

莫し。

㈠使につゞいて出發す ㈡兩手を背後にて縛す ㈢山西大同府大同縣 ㈣匈奴王の妻なり

高帝南過二曲逆一上二其城一。望二見其屋室甚大一曰。壯哉縣。吾行二天下一。獨見二洛陽與一レ是耳。顧問二御史一曰。曲逆戶口幾何。對曰。始秦時三萬餘戶。間者兵數

高帝は南して曲逆を過り、其城に上り、其屋室甚だ大なるを望見して曰く、壯なる哉縣、吾(一)天下を行るに、獨り洛陽と是とを見るのみと。顧みて御史に問うて曰く、曲逆の戶口は幾何ぞと。對へて曰く、始め秦の時は三萬餘戶あり、間者兵數〻起り、多く亡匿せり。今は見に五千戶のみと。是に於て乃ち御史に詔(二)し、更めて陳平を以て曲逆侯と爲し、盡く之を食ましめ、前の食む所の戶牖を除く。其後は常に護軍中尉を以て、從つて陳豨及び黥布を攻め、凡そ(三)六たび奇計を出して、輒ち邑を益し、凡そ六たび封を益せり。奇計或は頗る祕す、世能く

因隨以行。行未至陳。楚王信果郊迎道中。高帝豫具武士。見信至即執縛之載後車。信呼曰。天下已定。我固當烹。高帝顧謂信曰。若毋聲。而反明矣。武士反接之。遂會諸侯于陳。盡定楚地。還至雒陽。赦信以爲淮陰侯。而與功臣剖符定封。於是與平剖符世世勿絶。

に郊迎せり。高帝は豫め武士を具へ、信の至るを見て卽ち執へて之を縛して、後車に載す。信呼びて曰く、天下已に定まる、我固に當に烹らるべしと。高帝顧みて信に謂つて曰く、若聲すること毋れ、而の反は明けしと。武士之を反接す。遂に諸侯を陳に會し、盡く楚の地を定めて、還りて雒陽に至り、信を赦して以て淮陰侯と爲し、而して功臣の與に符を剖いて封を定めき。是に於て、平の與に符を剖いて、世世絶ゆること勿らしめ、戶牖侯と爲す。平は辭して曰く、此れ臣の功に非ざるなりと。上曰く、吾は先生の謀計を用ひ、戰ひ勝つて敵に尅てり、功に非ずして何ぞと。平曰く、魏無知に非ずんば、臣安んぞ進むを得んと。上曰く、子の若きは本に背かずと謂ふべしと。乃ち復魏無知を賞せり。其明年、護軍中尉を以て、從つて反者韓王信を代に攻め、卒に平城に至り、(三)匈奴の圍む所と爲り、七日食を得ず。高帝は陳平の奇計を用ひ、單于を(四)閼氏に使せしめ、圍以て開くを得たり。高帝既に出づ、其計は祕す、世に聞くを得るもの

言信反。有知之者乎。曰。未有。曰。信知之乎。曰。不知。陳平曰。陛下精兵孰與楚。上曰。不能過。平曰。陛下將用兵。有能過韓信者乎。上曰。莫及也。平曰。今兵不如楚精。而將不能及。而擧兵攻之。是趣之戰也。竊爲陛下危之。上曰。爲之奈何。平曰。古者天子巡狩會諸侯。南方有雲夢。陛下第出僞游雲夢。會諸侯於陳。陳楚之西界。信聞天子以好出游。其勢必無事而郊迎謁。謁而陛下因禽之。此特一力士之事耳。高帝以爲然。

能はず。而るに兵を擧げて之を攻めんは、是れ之に戰を趣すなり、(二)竊に陛下の爲に之を危むと。上曰く、之を爲すこと奈何と。平曰く、古は天子は巡狩し(三)て諸侯を會せり。南方に雲夢有り。陛下第出でて僞りて雲夢に遊び、(四)諸侯を陳に會せよ。陳は楚の西界なり。信は天子が好を以て出游すと聞かば、(五)其勢必ず事無くして、郊迎して謁せん。謁せんとき陛下因りて之を禽にせんは、此れ特一力士の事のみと。高帝以て然りと爲す。

(一) 鏖殺して坑埋にす　(二) 催促す　(三) 地方を巡幸するなり　(四) 澤の名なり　(五) 平和の親好

乃發使告諸侯會陳。吾將南游雲夢。上

乃ち使を發して諸侯に告ぐらく、陳に會せよ、吾將に南のかた雲夢に遊ばんとすと。上因りて從つて(一)以て行く。行いて未だ陳に至らざるに、楚王信は果して道中

王疑レ之。乃怒曰、天下事大定矣。君王自爲レ之。願請二骸骨一歸。歸未レ至二彭城一。疽發レ背而死。彭平乃夜出二女子二千人。滎陽城東門一。楚因擊レ之。陳平乃與二漢王一從二城西門一夜出去。遂入レ關收二散兵一復東。其明年。淮陰侯破レ齊自立。爲二齊王一。使三使言二之漢王一。漢王大怒而罵。陳平躡二漢王一。漢王亦悟。乃厚遇二齊使一。使三張子房卒立レ信爲二齊王一。封レ平以二戸牖郷一。用二其奇計策一卒滅レ楚。常以二護軍中尉一從定二燕王臧荼一。

(一) 最も盛んなる馳走 (二) 粗末なる下等料理 (三) 大體に於て既に決定せり (四) 腫物背部に生じ (五) 函谷關 (六) 注意するなり (七) 漢王に從ふ

漢六年。人有三上書告二楚王韓信反一。高帝問二諸將一。諸將曰。亟發レ兵坑二豎子一耳。高帝默然。問二陳平一。平固辭謝曰。諸將云レ何。上具告レ之。陳平曰。人之上書

漢の六年、人の上書して楚王韓信反すと告ぐるもの有り、高帝諸將に問ふに、諸將曰く、亟に兵を發して豎子を坑にせんのみと。高帝默然たり。陳平に問ふに、平は固く辭謝して曰く、諸將は何とか云へると。上具に之を告ぐ。陳平曰く、人の上書して信の反を言ふは、之を知る者有りやと。曰く、未だ有らずと。曰く、信は之を知れりやと。曰く知らずと。陳平曰く、陛下の精兵は楚に孰與ぞと上曰く、過ぐる能はずと。平曰く、陛下の將が兵を用ふるは、能く韓信に過ぐる者有るかと。上曰く、及ぶもの莫しと。平曰く、今兵は楚の精に如かずして、將は及ぶ

一以滅二項氏一。而分王中其地上。項羽果意レ不信二鍾離眛等一。項王既疑レ之。使二使至一レ漢。漢王爲二太牢具一擧進。見二楚使一卽詳驚曰。吾以二爲亞父使一。乃項王使。復持去。更以二惡草具一進二楚使一。楚使歸。具以報二項王一。項王果大疑二亞父一。亞父欲二急攻下一滎陽城一。項王不レ信。不レ肯レ聽。亞父聞二項

使なりしかと。復持ち去り、更ふるに惡草具(二)を以てし、楚の使に進む。楚の使歸り、具に以て項王に報ず。項王果して大いに亞父を疑へり。亞父は急に攻めて滎陽城を下さんと欲す。項王信ぜず、聽くを肯んぜず。亞父は項王が之を疑ふを聞き、乃ち怒つて曰く、天下の事大いに定れり、君王自ら之を爲せ。願くは骸骨を請うて歸らんと。歸つて未だ彭城(三)に至らざるに、疽(四)背に發して死せり。陳平乃ち夜女子二千人を滎陽城の東門より出す、楚因りて、之を擊つ。陳平乃ち漢王と、城の西門より夜出で去り、遂に關(五)に入り、散兵を收めて復東す。其明年、淮陰侯は齊を破りて自立し、齊王と爲り、使をして之を漢王に言はしむ。漢王大いに怒りて罵る。陳平漢王を躡む(六)、漢王亦悟る。乃ち厚く齊使を遇し、張子房をして卒に信を立てて齊王と爲さしむ。平を封ずるに戸牖鄕を以てし、其奇なる計策を用ひて、卒に楚を滅せり。常に護軍中尉を以てし、從つて(七)燕王臧荼を定めき。

士之頑鈍嗜レ利無レ恥者。亦多歸レ漢。誠各去二其兩短一。襲二其兩長一。天下指麾則定矣。然大王恣侮レ人。不レ能レ得二廉節之士一。顧楚有二可レ亂者一。彼項王骨鯁之臣。亞父鍾離昧龍且周殷之屬。不レ過二數人一耳。大王誠能出二捐數萬斤金一。行二反間一。間二其君臣一。以疑二其心一。項王爲レ人意忌信レ讒。必內相誅。漢因擧レ兵而攻レ之。破レ楚必矣。漢王以爲レ然。乃出二黃金四萬斤一。與二陳平一。恣レ所レ爲。不レ問二其出入一。

にせしめ、其出入を問はず。

㈠ 兩側を高うして糧食を運搬する道路 ㈡ 廉直にして禮節有る人物 ㈢ 功は賞の誤か、功を賞し爵祿封土を與ふるなり ㈣ 傲慢 ㈤ 指圖に同じ ㈥ 硬骨にして剛直なる人物 ㈦ 范增なり ㈧ 間諜を放ち行ふ ㈨ 內に於て相誅殺せん

陳平既多以レ金縱二反間於楚軍一。宣言。諸將鍾離昧等。爲二項王將一功多矣。然而終不レ得二裂レ地而王一。欲下與レ漢爲レ

陳平既に多く金を以て反間を楚軍に縱つて、宣言すらく、諸將鍾離昧等は、項王の將と爲りて功多し。然るに終に地を裂いて王たるを得ず。漢と一と爲り、以て項氏を滅して分ちて其地に王たらんと欲すと。項羽果して意に鍾離昧等を信ぜず。項王既に之を疑ふや、使をして漢に至らしむ。漢王は太牢の具を爲りて擧げ進ましめ、楚使を見て卽ち詳り驚いて曰く、吾は亞父が使かと以爲り、乃ち項王の

絕二漢甬道一。圍二漢王於滎陽城一久レ之。漢王患レ之。請下割二滎陽以西一以和上。項王不レ聽。漢王謂二陳平一曰。天下紛紛。何時定乎。陳平曰。項王爲レ人。恭敬愛レ人。士之廉節好レ禮者多歸レ之。至三於行二功爵邑一重レ之。士亦以レ此不レ附。今大王慢而少レ禮。士廉節者不レ來。然大王能饒レ人以二爵邑一。

漢王之を患へ、滎陽以西を割いて以て和せんと請ふ。項王聽かず。漢王陳平に謂つて曰く、天下紛紛たり、何の時にか定まらんと。陳平曰く、項王の人と爲り、恭敬人を愛す。士の廉節禮を好む者は、多く之に歸するも、功爵邑を行ふに至つては之を重る。士も亦此を以て附かず。今大王は慢にして禮少く、士の廉節たる者來らず、然れども大王は能く人を饒にするに爵邑を以てす。士の頑鈍利を嗜んで恥無き者、亦多く漢に歸す。誠し各〻其兩短を去り、其兩長を襲ねて天下指麾せば則ち定らん。然も大王は恣に人を侮り、廉節の士を得る能はず。顧ふに楚は亂すべきもの有り。彼の項王の骨鯁の臣は、亞父・鍾離眛・龍且・周殷の屬、數人に過ぎざるのみ。大王誠し能く數萬斤の金を出し捐てば、反間を行うて其君臣を間し、以て其心を疑はしめん。項王は人と爲り意忌みて讒を信ず、必ず內相誅せん。漢因りて兵を擧げて之を攻めば、楚を破らんこと必せりと。漢王以て然りと爲し、乃ち黃金四萬斤を出し、陳平に與へて爲す所を恣

曰。先生事ㇾ魏不ㇾ中。遂事ㇾ楚而去。今又從ㇾ吾游。信者固多ㇾ心乎。平曰。臣事ニ魏王ー。魏王不ㇾ能ㇾ用ニ臣說ー。故去事ニ項王ー。項王不ㇾ能ㇾ信ㇾ人。其所ニ任愛ー。非ニ諸項ー。卽妻之昆弟。雖ㇾ有ニ奇士ー不ㇾ能ㇾ用。平乃去ㇾ楚。聞ニ漢王之能用ㇾ人。故歸ニ大王ー。臣躶身來。不ㇾ受ㇾ金無ニ以爲ㇾ資。誠臣計畫。有ニ可ㇾ采者ー。願大王用ㇾ之。使ㇾ無ニ可ㇾ用者ー。金具在。請封輸ㇾ官。得ㇾ請ニ骸骨ー。漢王乃謝厚賜。拜爲ニ護軍中尉ー。盡護ニ諸將ー。諸將乃不ニ敢復言ー。

又吾に從つて游ぶ。信ある者は固に心多きかと。平曰く、臣魏王に事へしに、魏王は臣の說を用ふる能はず、故に去りて項王に事へしに、項王も人を信ずる能はず。其の任愛する所は、諸項に非ずんば卽ち妻の昆弟のみ、奇士有りと雖も用ふる能はざりき。平乃ち楚を去りぬ。漢王の能く人を用ふるを聞く、故に大王に歸せしなり。臣は躶身(一)にて來れり、金を受けざれば以て資(二)を爲す無し。誠し臣の計畫に采るべき者有らば、願ふに大王之を用ひん、用ふべき者無からしめば、金は具に在り、請ふ封じて官に輸さん、骸骨(三)を請ふを得んと。漢王乃ち謝して厚く賜ひ、拜して護軍中尉と爲し、盡く諸將を護せしむ。諸將乃ち敢て復言はず。

(一) 裸體 (二) 資料の義 (三) 官を罷めて引き去る

其後楚急攻

其後、楚は急に攻めて、漢の甬道(一)を絕ち、漢王を滎陽城に圍むこと之を久しうす。

時盜二其嫂一。事レ魏不レ容。亡歸レ楚。歸レ楚不レ中。又亡歸レ漢。今日大王尊官レ之。今護レ軍。臣聞平受二諸將金一。金多者得二善處一。金少者得二惡處一。平反覆亂臣也。願王察レ之。漢王疑レ之。召讓二魏無知一。無知曰。臣所レ言者能也。陛下所レ問者行也。今有二尾生孝己之行一。而無レ益二於勝負之數一。陛下何暇レ用レ之乎。楚漢相距。臣進二奇謀之士一。願下其計誠足三以利二國家一不上耳。且盜レ嫂受レ金。又何足レ疑乎。

多き者は善處を得、金少き者は惡處を得と。平は反覆(四)の亂臣なり。願くは王之を察せよと。漢王之を疑ひ、召して魏無知を讓む。無知曰く、臣が言ふ所の者は能なり、陛下が問ふ所の者は行なり。今尾生(五)孝己(六)の行有るも、而も勝負(七)の數に益無くんば、陛下何ぞ之を用ふるに暇あらんや、楚漢相距ぐ、臣は奇謀の士を進む。其計誠に以て國家を利するに足るか不かを願ふのみ。且嫂を盜み金を受くるは(八)、又何ぞ疑ふに足らんやと。

(一) 周勃なり　(二) 冠を飾る玉は中空なり　(三) 成功せず　(四) 浮薄にして一定の操守なし　(五) 信を守りて身を亡したる愚直の人　(六) 殷の高宗の子なり、孝を以て名高し　(七) 勝敗の術　(八) あるべき理なきを指し言ふ

漢王召讓レ平

漢王は召して平を讓めて曰く、先生魏に事へて中らず、遂に楚に事へて去り、今

召入。是時萬石君奮爲漢王中涓。受平謁入見平。平等七人俱進賜食。王曰。罷就舍矣。平曰。臣爲事來。所言不可以過今日。於是漢王與語而說之。問曰。子之居楚何官。曰。爲都尉。是日乃拜平爲都尉。使爲參乘典護軍。諸將盡讙曰。大王一日得楚之亡卒。未知其高下。而即與同載。反使監護軍長者。漢王聞之。愈益幸平。遂與東伐項王。至彭城。爲楚所敗。引而還。收散兵至滎陽。以平爲亞將。屬於韓王信軍廣武。

つて軍の長者を監護せしむと。漢王之を聞き、愈〻益〻平を幸す。遂に與に東して項王を伐ち、彭城に至り、楚の敗る所と爲りて、引いて還り、散兵を收めて滎陽に至り、平を以て亞將と爲し、韓王信に屬せしめて廣武に軍す。

(一) 殷王司馬卬を降參せしむ (二) 逃亡の將軍 (三) 賤なり (四) 楫を執つて船を助く (五) 姓は石氏 (六) 侍從の小官 (七) 副乘者 (八) 監察官に當る (九) 才能の高下 (一〇) 功勞ある人々

絳侯灌嬰等。咸讒陳平曰。平雖美丈夫如冠玉耳。其中未必有也。臣聞平居家

絳侯灌嬰等、咸陳平を讒して曰く、平は美丈夫なりと雖も、冠玉の如きのみ、其中未だ必ずしも有らざるなり。臣聞く、平が家に居る時は其嫂を盜み、魏に事へて容れられず、亡げて楚に歸す。楚に歸せしも中らず、又亡げて漢に歸せり。今日大王は尊く之を官して、軍を護せしむ。臣聞く、平は諸將の金を受け、金

攻下二殷王一。項王怒。將レ誅二定殷者將吏一。陳平懼レ誅。乃封二其金與一レ印。使三使歸二項王一。而平身間行。杖レ劍亡渡レ河。船人見二其美丈夫獨行一。疑二其亡將一。要中當レ有二金玉寶器一。目レ之欲レ殺レ平。平恐乃解レ衣裸而佐刺レ船。船人知二其無一レ有乃止。平遂至二修武一降レ漢。因二魏無知一求レ見二漢王一。漢王

者將吏を誅せんとす。陳平は誅を懼れ、乃ち其金と印とを封じ、使をして項王に歸さしめ、而して平は身づから間行し、劍を杖つき亡げて河を渡るに、船人は其美丈夫の獨行を見て、其亡將(二)なるかを疑ひ、(三)要中當に金玉寶器有るべしとし、之を目して平を殺さんと欲す。平恐れ、乃ち衣を解き、裸にして佐けて船(四)を刺す。船人は其の有する無きを知りて乃ち止めき。平遂に修武に至りて漢に降り、魏無知に因りて、漢王に見えんことを求む。漢王召し入る。是時萬石君奮(五)は、漢王の中涓(六)と爲り、平の謁を受けて、平を入り見えしめき。平等七人倶に進み、食を賜ふ。王曰く、罷いて舍に就けと。平曰く、臣は事の爲に來れり、言ふ所は以て今日を過すべからずと。是に於て漢王は與に語りて之を說ぶ。問うて曰く、子の楚に居りしときは何の官ぞと。曰く、都尉爲りきと。是日乃ち平を拜して都尉と爲し、參乘(七)と爲りて軍を典護(八)せしむ。諸將盡く讙いで曰く、大王は一日に楚の亡卒を得て、未だ其高下を知らざるに、而るに卽ち與に同じく載せ、反

陳涉起而王レ陳。使三周市略二定魏地一。立二魏咎一爲二魏王一。與二秦軍一相二攻於臨濟一。陳平固已前謝二其兄伯一。從二少年一往事二魏王咎於臨濟一。魏王以爲二太僕一。說二魏王一不レ聽。人或讒レ之。陳平亡去。久之項羽略レ地至二河上一。陳平往歸レ之。從入破レ秦。賜二平爵卿一。項羽之東王二彭城一也。漢王還定二三秦一而東。殷王反レ楚。項羽乃以レ平爲二信武君一。將二魏王咎客在レ楚者一以往擊。降二殷王一而還。項王使三項悍拜レ平爲二都尉一。賜二金二十鎰一。

人或は之を讒す。陳平亡げ去る。久しうして項羽は地を略して河上に至る。陳平往いて之に歸し、從ひ入りて秦を破る。平に爵卿(一〇)を賜ふ。項羽の東して彭城に王たるや、漢王は還りて三秦を定めて東せり。殷王は楚に反す、項羽乃ち平を以て信武君と爲し、魏王咎の客の楚に在る者に將として、以て往いて擊たしむ。殷王を降して還れり。項王は項悍をして、平を拜して都尉(一一)と爲さしめ、金二十鎰を賜ふ。

(一)仕送りの物品 (二)交際 (三)春秋の祭日 (四)主宰者、世話人 (五)祭の餘肉 (六)公平 (七)山東青州府高苑縣 (八)辭謝し咽乞す (九)近侍の官 (一〇)卿位のを予ふ (一一)將軍の次位なる官名

居無レ何。漢王

居ると何も無くして、漢王は攻めて殷王を下す。項王怒り、將に殷を定めたる

仲曰。平貧不レ事レ事。一縣中盡笑ニ其所レ爲。獨奈何予レ女乎。負曰。人固有下好美如ニ陳平一而長貧賤者上乎。卒與レ女。爲ニ平貧一。乃假ニ貸幣一以聘。予ニ酒肉之資一以內レ婦。負誡ニ其孫一曰。毋ニ以レ貧故事レ人不上レ謹。事ニ兄伯一如レ事レ父。事レ嫂如レ母。

れ、兄伯に事ふること父に事ふるが如くせよ、嫂に事ふること母の如くせよと。

(一)家貧にして喪を助くべき代物なきが故なり　(二)此の理由　(三)郭外の村　(四)徳行有る有福者の車の跡　(五)生業を力めず　(六)貨幣を貸與す　(七)女を迎ふ

平既娶ニ張氏女一。齎用益饒。游道日廣。里中社。平爲レ宰。分ニ肉食一甚均。父老曰。善。陳孺子之爲レ宰。平曰。嗟乎。使ニ平得レ宰ニ天下一。亦如ニ是肉一矣。

平既に張氏の女を娶るや、(一)齎用益〻饒かに、(二)游道日に廣し、(三)里中の社に、平は(四)宰と爲れるに、(五)肉食を分つこと甚だ(六)均し、父老曰く、善し陳孺子の宰爲ることと。平曰く、嗟乎平をして天下に宰たるを得しめば、亦是肉の如くならんのみと。陳涉起りて陳に王たるや、周市をして魏の地を略定せしめ、魏咎を立てて魏王と爲し、秦軍と臨濟に(七)相攻む。陳平固に已に前に其兄伯に謝し、(八)少年を從へて、往いて魏王咎に臨濟に事ふ。魏王以て(九)太僕と爲す。魏王に說けども聽かれず。

糠覈耳。有叔如此。不如無有。伯聞之。逐其婦而棄之。及平長可娶妻。富人莫肯與者。貧者平亦恥之。久之戸牖富人有張負。張負女孫。五嫁而夫輒死。人莫敢娶。平欲得之。

（一）河南懷慶府陽武縣東南方　（二）一畝は百歩なり　（三）糠屑　（四）弟に同じ　（五）張氏の老婦人

邑中有喪。平貧侍喪。以先往後罷爲助。張負既見之喪所。獨視偉平。平亦以故後去。負隨平至其家。家乃負郭窮巷。以弊席爲門。然門外多有長者車轍。張負歸謂其子仲曰。吾欲以女孫予陳平。張

邑中に喪有り、平貧なり、喪に侍するに、先に往き後れて罷むるを以て助と爲す。（一）張負既に之を喪の所に見、獨り視て平を偉とす。平も亦故を以て後れ去る。負は平に隨つて其家に至るに家は乃ち負郭（二）の窮巷なり。弊席（三）を以て門と爲す。然れども門外に多く長者（四）の車轍有り。張負歸りて其子の仲に謂つて曰く、吾は女孫を以て陳平に予へんと欲すと。張仲曰く、平は貧しく、事を事とせず（五）、一縣の中盡く其の爲す所を笑ふ。獨り奈何ぞ女を予へんやと。負曰く、人固に好美なること陳平の如くにして、而も長く貧賤なる者有らんやと。卒に女を與へき。平が貧なるの爲に、乃ち幣を假貸（六）して以て聘せしめ（七）、酒肉の資を予へて、以て婦を内る。負は其孫を誡めて曰く、貧を以ての故に、人に事ふること謹まざる毋

陳丞相平者。陽武戸牖鄉人也。少時家貧。好讀レ書。有二田三十畝一。獨與二兄伯一居。伯常耕レ田。縱レ平使二游學一。平爲レ人長美色。人或謂二陳平一曰。貧何食而肥若レ是。其嫂嫉二平之不一レ視二家生産一曰。亦食二

巻五十六

陳丞相世家第二十六

陳丞相平は、陽武の戸牖鄕の人なり。少時家貧し、好みて書を讀む。田三十畝(一)有り。獨り兄伯(二)と居る。伯は常に田を耕し、平を縱にして游學せしむ。平は人と爲り長く、美色なり。人或は陳平に謂つて曰く、貧なるに何を食うて肥ゆること是の若きかと。其嫂は平が家の生産を視ざるを嫉みて曰く、亦糠覈(三)を食ふのみ、叔(四)有る此の如きは、有ること無きに如かずと。伯之を聞き、其婦を逐うて之を棄つ。平が長ずるに及びて、妻を娶るべきも、富人の肯て與ふる者莫く、貧者は平亦之を恥づ、之を久しうして、戸牖の富人張負(五)といふもの有り。張負の女孫、五たび嫁して夫輒ち死す、人敢て娶るもの莫し。平は之を得んと欲す。

上曰。夫運二籌策帷帳之中一。決二勝千里外一。吾不レ如二子房一。余以爲其人計魁梧奇偉。至レ見二其圖一。狀貌如二婦人好女一。蓋孔子曰。以レ貌取レ人。失二之子羽一。留侯亦云。

ふ。

㊀怪物なり　㊁困厄に罹る　㊂偉大にして奇異なり　㊃論語に見ゆ、子羽は澹臺滅明なり

辟レ穀道引輕レ身。會二高帝崩一。呂后德二留侯一。乃彊二食之一。曰。人生一世間。如二白駒過一レ隙。何至二自苦如一レ此乎。留侯不レ得レ已。彊聽而食。後八年卒。諡爲二文成侯一。子不疑代侯。子房始所レ見二下邳圯上一老父。與二太公書一者。後十三年。從二高帝一過二濟北一。果見二穀城山下黃石一。取而葆祠レ之。留侯死幷葬二黃石冢一。每二上冢伏臘一祠二黃石一。留侯不疑。孝文帝五年。坐二不敬一國除。

りき。留侯不疑は、孝文帝の五年、不敬に坐して國除かる。

㈠山西朔平府朔州　㈡存亡に關する大事には非ず　㈢秦漢時代の仙人　㈣無理强に食はしむ　㈤寶物　㈥夏冬六月十二月の祭を祀るべき日

太史公曰。學者多言レ無二鬼神一。然言レ有レ物。至レ如二留侯所レ見老父予一レ書。亦可レ怪矣。高祖離レ困者數矣。而留侯常有二功力一焉。豈可レ謂レ非レ天乎。

太史公曰く、學者は多く鬼神無しと言ふ。然れども物有りと言ふ。㈠留侯が見し所の老父が書を予へしが如きに至りては、亦怪むべし。高祖は困に離りしこと㈡數となるに、留侯は常に功力有りき。豈天に非ずと謂ふべけんや。上曰く、夫れ籌策を帷帳の中に運らし、勝つことを千里の外に決するは、吾子房に如かずと。余は以爲らく、其人計るに魁梧㈢奇偉かと。其圖を見るに至れば、狀貌婦人好女の如し。蓋し孔子曰く、貌を以て人を取れば、之を子羽に失すと。留侯にも亦云

代。出二奇計馬邑下一。及レ立二蕭何相國一。所三與レ上從容言二天下事一甚衆。非三天下所二以存亡一。故不レ著。留侯乃稱曰。家世相レ韓。及二韓滅一。不レ愛二萬金之資一。爲レ韓報二讐彊秦一。天下振動。今以二三寸舌一。爲二帝者師一。封二萬戸一。位二列侯一。此布衣之極。於レ良足矣。願棄二人間事一。欲下從二赤松子一游上耳。乃學二

及び、上と從容として天下の事を言ひし所甚だ衆きも、天下の存亡する所以には非ず、故に著さず。留侯乃ち稱して曰く、家は世〻韓に相たり、（二）韓滅するに及び、萬金の資を愛まずして、韓の爲に讐を彊秦に報ずるに、天下振動せり。今は三寸の舌を以て、帝者の師と爲り、萬戸に封ぜられて列侯に位す。此れ布衣の極なり。良に於て足れり。願くは人間の事を棄て、（三）赤松子に從つて游ばんと欲すと。乃ち穀を辟けて道引し、身を輕うすることを學ぶ。高帝の崩ずるに會ふや、呂后は留侯を德とし、乃ち之に（四）彊ひ食はしめて曰く、人生一世の間、白駒の隙を過ぐるが如し、何ぞ自ら苦むこと此の如きに至るかと。留侯已むを得ずして、彊ひて聽いて食ふ。後八年に卒す。謚して文成侯と爲す。子不疑代り侯たり。子房が始め下邳の圯上に見し所の老父、太公の書を與へし者は、後十三年、高帝に從つて濟北を過ぐるとき、果して穀城山下の黃石を見、取りて葆と（五）して之を祠りき。留侯死し、幷に黃石の冢に葬り、（六）上冢の伏臘每に、黃石を祠

敬愛士。天下莫不延頸欲爲太子死者。故臣等來耳。上曰。煩公。幸卒調護太子。四人爲壽。已畢趨去。上目送之。召戚夫人。指示四人者曰。我欲易之。彼四人輔之。羽翼已成。難動矣。呂后眞而主矣。戚夫人泣。上曰。爲我楚舞。吾爲若楚歌。歌曰。鴻鵠高飛。一擧千里。羽翮已就。横絶四海。横絶四海。當可奈何。雖有矰繳。尚安所施。歌數闋。戚夫人嘘唏流涕。上起去罷酒。竟不易太子者。留侯本招此四人之力也。

上之を目送し、戚夫人を召し、四人の者を指示して曰く、我之を易へんと欲するも、彼四人之を輔く。羽翼已に成る、動かし難し。呂后は眞に而の主なりと。戚夫人泣く。上曰く、我爲に楚舞せよ、(四)吾若が爲に楚歌せんと。歌に曰く、鴻鵠高く飛ぶ、一擧千里。羽翮(五)已に就り、四海を横絶す。四海に横絶せる當に奈何かすべき。矰繳(六)有りと雖も、尚安ぞ施す所あらんと。歌ふこと數闋(七)、戚夫人嘘唏流涕す。上起ち去りて、酒を罷めき。竟に太子を易へざりし者は、留侯が本此四人を招きたるの力なり。

(一) 恥辱を受くるを欲せず (二) 御骨折を願ふ (三) 守り助けよ (四) 楚國の舞曲 (五) 羽翼に同じ (六) 箭に絲つけて射るなり (七) 曲に同じ

留侯從上擊

留侯は上に從ひ、代を擊ち、奇計を馬邑の下に出せり。(一) 蕭何を相國に立つるに

擊二破布軍一歸。疾益甚。愈欲レ易二太子一。留侯諫不レ聽。因レ疾不レ視レ事。叔孫太傅稱說引二古今一。以レ死爭二太子一。上詳許レ之。猶欲レ易レ之。及レ燕置酒。太子侍。四人從二太子一。年皆八十有餘。鬚眉皓白。衣冠甚偉。上怪レ之問曰。彼何爲者。四人前對。各言二名姓一。曰。東園公。甪里先生。綺里季。夏黃公。上乃大驚曰。吾求レ公數歲。公辟二逃我一。今公何自從二吾兒一游乎。

彼は何爲る者ぞと。四人前み對へて各〻名姓を言ふ、曰く東園公(六)・甪里先生・綺里季・夏黃公と。上乃ち大いに驚いて曰く、吾は公を求むること數歲なるに、公は我を辟逃せり(七)。今は公何に自りて吾が兒に從つて游ぶかと。

(一) 長安の東方 (二) 强悍にして性急なり (三) つとめて臨床しながらも太子の守役たれ (四) 高皇帝政を視ず (五) 宴飲 (六) 東園公は姓は唐字は宣明、夏黃公は崔廣字は少道、甪里先生は周術字は元道 (七) 避け逃れ去る

四人皆曰。陛下輕レ士善罵。臣等義不レ受レ辱。故恐而亡匿。竊聞太子爲レ人仁孝恭

四人皆曰く、陛下は士を輕んじて善く罵る。臣等義として辱(一)を受けず、故に恐れて亡げ匿れき。竊に聞く太子の人と爲り、仁孝恭敬、士を愛す。天下頸を延べて太子の爲に死せんと欲せざる者莫しと。故に臣等來りしのみと。上曰く、公を煩はす(二)、幸に卒に太子を調護(三)せよと。四人壽を爲し、已に畢く趨り去る。

今諸將。皆陛下故等夷。乃令二太子將一此屬。無レ異レ使二羊將一レ狼。莫レ肯爲レ用。且使二布聞一レ之。則鼓行而西耳。上雖レ病。彊載二輜車一。臥而護レ之。諸將不二敢不一レ盡レ力。上雖レ苦爲二妻子一自彊。於レ是呂澤立夜見二呂后一。呂后承レ間。爲レ上泣涕而言。如二四人意一。上曰。吾惟豎子固不レ足レ遣。而公自行耳。於レ是上自將レ兵而東。羣臣居守。皆送至二霸上一。

留侯病。自彊起至二曲郵一。見レ上曰。臣宜レ從病甚。楚人剽疾。願上無下與二楚人一爭上レ鋒。因說レ上曰。令下太子爲二將軍一監中關中兵上。上曰。子房雖レ病。彊臥而傳二太子一。是時叔孫通爲二太傅一。留侯行二少傅事一。漢十二年。上從レ

留侯は病めり、自ら彊ひて起ち、曲郵に至りて上に見えて曰く、臣は宜しく從ふべきも、病甚し。楚人は剽疾(二)なり、願くは上、楚人と鋒を爭ふこと無れと。因りて上に說いて曰く、太子をして將軍と爲り、關中の兵を監せしめよと。上曰く、子房病むと雖も、(三)彊ひ臥して太子に傅たれと。是時に叔孫通は太傅と爲り、留侯は少傅の事を行ふ。漢の十二年、上は布が軍を擊破するより歸る。疾益〻甚し、愈〻太子を易へんと欲す。留侯諫むれども聽かず。(四)疾に因りて事を視ず。叔孫太傅は稱說し、古今を引いて、死を以て太子を爭ふ。上詳りて之を許すも、猶之を易へんと欲す。燕に及んで置酒するに、太子侍す、四人太子に從ふ。年皆八十有餘、鬚眉皓白、(五)衣冠甚だ偉なり。上之を怪み問うて曰く、

上定天下梟將也。今使太子將之。此無異使羊將狼也。皆不肯爲盡力。其無功必矣。臣聞母愛者子抱。今戚夫人日夜侍御。趙王如意常抱居前。上曰。終不使不肖子居愛子之上。明乎其代太子位必矣。君何不急請呂后。承間爲上泣言。黥布天下猛將也。善用兵。

代ふるや、必せり。君何ぞ急に呂后に請ひ、間(二)を承けて上の爲に泣いて言はしめざる。黥布は天下の猛將なり、善く兵を用ふ。今諸將は皆陛下の故の等夷(三)なり。乃ち太子をして此屬に將たらしむるは、羊をして狼に將たらしむるに異なる無し、肯て用を爲すこと莫けん。且布をして之を聞かしめば、則ち鼓行して西せんのみ。上病めりと雖も、彊ひて輜車(四)に載り、臥して之を護らしめば(五)、諸將敢て力を盡さずんばあらじ。上苦しと雖も、妻子の爲に自ら彊めよと。是に於て、呂澤は立どころに夜呂后に見ゆ。呂后間を承け、上の爲に泣涕して言ふこと、四人の意の如くす。上曰く、吾惟ふに、豎子は固に遣るに足らじ、而公自ら行かんのみと。是に於て、上自ら兵に將として東す、羣臣居守するもの、皆送りて灞(六)上に至る。

(一)我々の來りし理由　(二)帝の間暇を伺ふ　(三)同輩　(四)輜重の車　(五)帝は車中に臥し諸將をして之を守護せしめば　(六)霸上に同じ

人。四人者年老矣。皆以爲ニ上慢ニ侮人一。故逃ニ匿山中一。義不レ爲ニ漢臣一。然上高ニ此四人一。今公誠能無レ愛ニ金玉璧帛一。令ニ太子爲レ書。卑レ辭安レ車。因使ニ辯士固請一。宜レ來。來以爲レ客。時時從入レ朝。令ニ上見レ之。則必異而問レ之。問レ之。上知ニ此四人賢一。則一助也。於レ是呂后令ニ呂澤使レ人奉ニ太子書一。卑レ辭厚禮。迎ニ此四人一。四人至。客ニ建成侯所一。

漢十一年。黥布反。上病。欲レ使ニ太子將往擊レ之。四人相謂曰。凡來者。將ニ以存ニ太子一。太子將レ兵事危矣。乃說ニ建成侯一曰。太子將レ兵。有レ功。則位不レ益。太子無レ功還。則從レ此受レ禍矣。且太子所ニ與俱一諸將。皆嘗與レ

漢の十一年、黥布反す。上病み、太子をして將とし往いて之を擊たしめんと欲す。四人相謂つて曰く、凡そ來りし者は、將に以て太子を存せんとするなり。太子兵に將たらば、事危からんと。乃ち建成侯に說いて曰く、太子兵に將たるは、功有るも則ち位は益さず。太子功無くして還らば、則ち此從り禍を受けん。且太子の與に俱にする所の諸將は、皆嘗て上と天下を定めしの梟將なり。今太子をして之に將たらしむるは、此れ羊をして狼に將たらしむるに異なる無し。皆爲に力を盡すを肯んぜず、其の功無きや必せり。臣聞く、母愛せらるれば子抱かると。今戚夫人は日夜に侍御し、趙王如意は常に抱かれて前に居り、上は曰く、終に不肖の子をして愛子の上に居らしめじと。明なるかな其の太子の位を

后乃使₂建成侯呂澤劫₁留侯₁曰。君常爲₂上謀臣₁。今上欲ㇾ易₂太子₁。君安得₂高ㇾ枕而臥₁乎。留侯曰。始上數在₂困急之中₁。幸用₂臣筴₁。今天下安定。以ㇾ愛欲ㇾ易₂太子₁。骨肉之間。雖₂臣等百餘人₁何益。呂澤彊要曰。爲ㇾ我畫ㇾ計。留侯曰。此難₃以₂口舌₁爭₁也。顧上有₂不ㇾ能ㇾ致者₁。天下有₂四

す。骨肉の間は、臣等百餘人ありと雖も、何の益かあらんと。呂澤は彊要して曰く、我爲に畫計せよと。留侯曰く、此れ口舌を以て爭ひ難し。顧ふに上の(四)致すこと能はざる者有り、天下に四人有り、四人は年老いたり。皆以爲らく、上は人を慢侮すと。故に山中に逃匿して、(五)義、漢の臣と爲らず。然も上は此四人を(六)高しとせり。今は公誠に能く金玉璧帛を愛む無く、太子をして書を爲らしめ、辭を卑うし車を安うし、因りて辯士をして固く請はしめよ、來るべし。來らば以て客と爲し、時時(七)從へて朝に入り、上をして之を見しめば、則ち必ず異みて之を問はん。之を問はば、上は此四人の賢を知れり、則ち一助ならんと。是に於て、呂后は呂澤をして、人を使として太子の書を奉じ、辭を卑うし禮を厚うして、此四人を迎へしむ。四人至り、建成侯の所に客たり。

(一) 堅き決定 (二) 計策に同じ (三) 脅迫す (四) 招致する能はざる人物 (五) 義として漢臣たるを悅ばず (六) 高尚偉大の人物 (七) 四賢を從ふ

國也。夫關中左殽函。右隴蜀。沃野千里。南有巴蜀之饒。北有胡苑之利。阻三面而守。獨以一面東制諸侯。諸侯安定。河渭漕輓天下。西給京師。諸侯有變。順流而下。足以委輸。此所謂金城千里。天府之國也。劉敬說是也。於是高帝即日駕。西都關中。留侯從入關。留侯性多病。即道引不食穀。杜門不出歲餘。

して關中に都す。留侯從つて關に入りぬ。留侯は性多病なり、即ち道引(一〇)して穀を食はず、門を杜ぢて出でざること歲餘なり。

(一)山名　(二)水名　(三)殽山と函谷關　(四)隴山と蜀山　(五)巴蜀二郡の豐饒なる物產　(六)胡人の牧場　(七)黃河と渭水とを利用す　(八)戰時用品を輸送す　(九)天成の寶庫　(一〇)道家にて養生の法とする一種の深呼吸法

上欲廢太子。立戚夫人子趙王如意。大臣多諫爭。未能得堅決者也。呂后恐。不知所爲。人或謂呂后曰。留侯善畫計筴。上信用之。呂

上は太子を廢して、戚夫人の子趙王如意を立てんと欲す。大臣多く諫爭すれども、未だ堅決(一)する者を得る能はず。呂后恐れて、爲す所を知らず。人或は呂后に謂つて曰く、留侯は善く(二)計筴を畫す、上之を信用すと。呂后は乃ち建成侯呂澤をして、留侯を劫せしめて曰く、君常に上の謀臣と爲れり。今上は太子を易へんと欲す、君安ぞ枕(三)を高うして臥するを得んやと。留侯曰く、始め上は數〻困急の中に在りて、幸に臣が策を用ひたり。今は天下安定し、愛を以て太子を易へんと欲

生過失一及ト誅。故卽相聚謀レ反耳。上乃憂曰。爲レ之奈何。留侯曰。上平生所レ憎。羣臣所二共知一。誰最甚者。上曰。雍齒與レ我故。數嘗窘二辱我一。我欲レ殺レ之。爲二其功多一故不レ忍。留侯曰。今急先封二雍齒一以示二羣臣一。羣臣見二雍齒封一。則人人自堅矣。於レ是上乃置酒。封二雍齒一爲二什方侯一。而急趣二丞相御史一。定レ功行レ封。羣臣罷レ酒。皆喜曰。雍齒尙爲レ侯。我屬無レ患矣。

劉敬說二高帝一曰。都二關中一。上疑レ之。左右大臣皆山東人。多勸三上都二雒陽一。雒陽東有二成皋一。西有二殽黽一。倍レ河向二伊雒一。其固亦足レ恃。留侯曰。雒陽雖レ有二此固一。其中少。不レ過二數百里一。田地薄。四面受レ敵。此非二用レ武之

劉敬は高帝に說いて曰く、關中に都せよと。上之を疑ふ。左右大臣は皆山東の人なり、多く上が雒陽に都せんことを勸む。雒陽は東に成皋有り、西に殽黽有り、河に倍き、(二)伊雒に向ふ、其固亦恃むに足ると。留侯曰く、雒陽は此固有りと雖も、其中は小なり、數百里に過ぎず、田地薄く、四面敵を受く。此れ武を用ふるの國に非ざるなり。夫れ關中は、(三)殽函を左にし、(四)隴蜀を右にし、沃野千里。南に(五)巴蜀の饒有り、北に(六)胡苑の利有り。三面を阻てて守り、獨り一面を以て東して諸侯を制すべし。諸侯安定せば、(七)河渭もて天下に漕輓し、西のかた京師に給せん。諸侯變有らば、流に順つて下らんに、以て(八)委輸するに足るべし。此れ所謂金城千里、(九)天府の國なりと。劉敬の說是なりと。是に於て高帝は卽日駕し、西

與坐沙中語。上曰。此何語。留侯曰。陛下不知乎。此謀反耳。上曰。天下屬安定。何故反乎。留侯曰。陛下起布衣。以此屬取天下。今陛下爲天子、而所封皆蕭曹故人所親愛、而所誅者皆生平所仇怨。今軍吏計功。以天下不足徧封。此屬畏陛下不能盡封。恐又見疑平

而も封ずる所は皆蕭曹故人(五)、親愛する所なり。而して誅する所の者は、皆生平の仇怨する所たり。今は軍吏の功を計るや、以ふに天下は徧く封ずるに足らざらんと。此屬は陛下が盡く封ずる能はざるを畏れ、又平生の過失を疑はれて誅に及ばんことを恐る。故に卽ち相聚りて反を謀るのみと。上乃ち憂へて曰く、之を爲すこと奈何と。留侯曰く、上の平生憎む所、羣臣の共に知る所は、誰か最も甚しき者ぞと。上曰く、雍齒は我と故(六)あり、數〻嘗て我を窘辱(七)せり、我之を殺さんと欲するも、其功多きが爲に、故に忍びずと。留侯曰く、今急に先づ雍齒を封じて、以て羣臣に示せ。羣臣は雍齒の封を見ば、則ち人人自ら堅(八)うせんと。是に於て、上乃ち置酒し、雍齒を封じて什方侯(九)と爲し、急に丞相御史を趣し、功を定め封を行はしむ。羣臣酒を罷め、皆喜びて曰く、雍齒すら尙侯爲り、我屬は患無し。

(一) 樓閣の上下にある二重の廊下なり　(二) 宮廷中の閣上なり　(三) 新に安定せる哉　(四) 沙上偶語の連中　(五) 蕭何曹參等の如き舊友　(六) 古きよりの怨恨　(七) 苦しめ恥ぢしめたり　(八) 安むずべし　(九) 四川成都府に屬す

用二其計一。諸侯皆至。語在二項籍事中一。漢六年正月。封二功臣一。良未三嘗有二戰鬭功一。高帝曰。運二籌策帷帳中一。決二勝千里外一。子房功也。自擇二齊三萬戶一。良曰。始臣起二下邳一。與レ上會レ留。此天以レ臣授二陛下一。陛下用二臣計一。幸而時中。臣願封レ留足矣。不三敢當二三萬戶一。乃封二張良一爲二留侯一。與二蕭何等一俱封。

にして時に中れり。臣願くは留に封ぜらるれば足れり、敢て三萬戸に當らずと。乃ち張良を封じて留侯と爲す。蕭何等と倶に封ぜらる。

(一) 淮陰侯列傳 (二) 河南陳州府太康縣 (三) 同淮寧縣 (四) 來り會合する約 (五) 項羽本紀 (六) 計謀策略 (七) 時々效果を奏せり

六年。上已封二大功臣二十餘人一。其餘日夜爭レ功不レ決。未レ得レ行レ封。上在二雒陽南宮一。從二復道一望見。諸將往往相

六年、上已に大功臣二十餘人を封ずれども、其餘は日夜功を爭うて決せず、未だ封を行ふことを得ず。上雒陽の南宮に在りて、(一)復道より望見するに、諸將往往相與に沙中に坐して語るあり。上曰く、此れ何をか語ると。留侯曰く、陛下知らずや、(二)此れ反を謀ると。上曰く、天下(三)屬ろ安定せり、何が故に反するかと。留侯曰く、陛下は布衣より起り、(四)此屬を以て天下を取れり。今陛下は天子と爲り、

齊楚之後。天下游士。各歸事其主。從其親戚。反其故舊墳墓。陛下與誰取天下乎。其不可八矣。且夫楚唯無彊。六國立者。復撓而從之。陛下焉得而臣之。誠用客之謀。陛下事去矣。漢王輟食吐哺。罵曰。豎儒幾敗而公事。令趣銷印。

口中に含める食物を吐き出す　乃公

漢四年。韓信破齊。而欲自立爲齊王。漢王怒。張良說漢王。漢王使良授齊王信印。語在淮陰事中。其秋。漢王追楚至陽夏南。戰不利而壁固陵。諸侯期不至。良說漢王。漢王

漢の四年、韓信は齊を破りて、自立して齊王と爲らんと欲す。漢王怒る。張良漢王に說く。漢王は良をして齊王信に印を授けしめき。語は淮陰の事中に在り。其秋、漢王楚を追うて陽夏の南に至り、戰つて利あらずして、固陵に壁す。諸侯期すれども至らず。良漢王に說く。漢王其計を用ふるに、諸侯皆至れり。語は項籍の事中に在り。漢の六年正月、功臣を封ず。良は未だ嘗て戰鬪の功有らざるに、高帝は曰く、籌策を帷帳の中に運らし、勝つことを千里の外に決せしは子房の功なりと。自りて齊の三萬戸を擇ぶ。良曰く、始め臣は下邳より起り、上と留に會せり。此れ天が臣を以て陛下に授けしなり。陛下は臣が計を用ひ、幸

休二馬華山之陽一。示三以無二所一爲。今陛下能休レ馬無レ所レ用乎。曰。未レ能也。其不可六矣。放二牛桃林之陰一。以示レ不二復輪積一。今陛下能放レ牛。不二復輪積一乎。曰。未レ能也。其不可七矣。且天下游士。離二其親戚一。棄二墳墓一去二故舊一。從二陛下一游者。徒欲三日夜望二咫尺之地一。今復二六國一。立二韓魏燕趙

(一)馬を華山の陽に休めて以て、爲す所無きを示す。今は陛下、能く馬を休めて用ふる所無きか。曰く、未だ能はざるなり。其不可六なり。(二)牛を桃林の陰に放つて、以て復輪積せざるを示す。今陛下は、能く牛を放つて復輪積せざるか。曰く、未だ能はざるなり。其不可七なり。且天下の游士、其親戚を離れ墳墓を棄て、故舊を去つて、陛下に從つて游ぶ者は、徒日夜に(三)咫尺の地を望まんと欲するのみ。今六國を復して、韓・魏・燕・趙・齊・楚の後を立てば、天下の游士は各〻歸りて其主に事へ、其親戚に從ひ、其故舊墳墓に反らん。陛下誰と與にか天下を取らんや。其不可八なり。且つ夫れ楚より(四)唯彊きは無し。六國の立つ者、復撓みて之に從はば、陛下焉んぞ得て之を臣とせん。誠し客の謀を用ひなば、陛下の事去らんと。漢王食を輟めて(五)哺を吐き、罵つて曰く、豎儒(六)幾ど而公の事を敗ると。趣に印を銷せしめき。

(一)戰役用の馬 (二)糧食運搬用の牛 (三)多少なりとも其封土を掲架せる者のみ (四)是より強きは無しの義

命乎。曰。未能也。其不可一也。武王伐紂。封其後於宋者。度能得紂之頭也。今陛下能得項籍之頭乎。曰。未能也。其不可二也。武王入殷。表商容之閭。釋箕子之拘。封比干之墓。今陛下能封聖人之墓。表賢者之閭。式智者之門乎。曰。未能也。其不可三也。發鉅橋之粟。散鹿臺之錢。以賜貧窮。今陛下能散府庫。以賜貧窮乎。曰。未能也。其不可四矣。殷事已畢。偃革爲軒。倒置干戈。覆以虎皮。以示天下不復用兵。今陛下能偃武行文。不復用兵乎。曰。未能也。其不可五矣。

なり。武王の殷に入るや、(一)商容の閭に表し、箕子の拘を釋き、比干の墓に封じ(二)たり。今陛下は、能く聖人の墓を封じ、賢者の閭を表し、智者の門に式したる(三)か。曰く、未だ能はざるなり。其不可三なり。(四)鉅橋の粟を發し、(五)鹿臺の錢を散じ、以て貧窮に賜ひたり。今陛下は能く府庫を散じて以て貧窮に賜へりや。曰く未だ能はざるなり。其不可四なり。殷の事已に畢るや、(六)革を偃せて軒と爲し、干戈を倒置し、覆ふに虎皮を以てし、以て天下に復兵を用ひざるを示せり。今陛下は、能く武を偃せ文を行ひ、復兵を用ひざるか。曰く、未だ能はざるなり。其不可五なり。

(一) 賢人なり、武王は其里閭を旌表したり　(二) 探ろし闘ふ　(三) 車上より禮すること、軾に同じ　(四) 殷の穀物倉
(五) 同金玉の庫　(六) 兵車を罷めて平常の車とす

後世。畢已受印。此其君臣百姓。必皆戴陛下之德。莫不鄕風慕義。願爲臣妾。德義已行。陛下南鄕稱霸。楚必斂衽而朝。漢王曰。善。趣刻印。先生因行佩之矣。食其未行。張良從外來謁。漢王方食。曰。子房前。客有爲我計撓楚權者。具以酈生語告於子房曰。何如。良曰。誰爲陛下畫此計者。陛下事去矣。漢王曰。何哉。張良對曰。臣請藉前箸。爲大王籌之。

と。具に酈生の語を以て子房に告げて曰く、何如と。良曰く、誰か陛下の爲に此計を畫する者ぞ、陛下の事去らん(六)と。漢王曰く、何ぞやと。張良對へて曰く、臣請ふ前の箸を藉りて(七)、大王の爲に之を籌らん。

(一)楚の權勢を撓折せんとす　(二)趙魏韓齊燕楚　(三)極めて小なる地　(四)國王たる符印　(五)衣を整へて禮を正す　(六)大事全く失はれん　(七)食膳の箸を借るなり

曰。昔者湯伐桀而封其後於杞者。度能制桀之死命也。今陛下能制項籍之死

曰く、昔は湯は桀を伐つて、其後を杞に封ぜし者は、能く桀の死命を制するを度ればなり。今陛下は、能く項籍の死命を制するか。曰く、未だ能はざるなり。其不可一なり。武王は紂を伐ち、其後を宋に封ぜし者は、能く紂の頭を得るを度ればなり。今陛下は、能く項籍の頭を得るか。曰く、未だ能はざるなり。其不可二

則楚可レ破也。漢王乃遣ニ隨何說ニ九江王布一。而使三人連ニ彭越一。及ニ魏王豹反一。使ニ韓信將レ兵擊レ之。因擧ニ燕代齊趙一。然卒破レ楚者。此三人力也。張良多病。未ニ嘗特將一也。常爲ニ畫策臣一。時時從ニ漢王一。

漢三年。項羽急圍ニ漢王滎陽一。漢王恐憂。與ニ酈食其一謀レ撓ニ楚權一。食其曰。昔湯伐レ桀封ニ其後於杞一。武王伐レ紂封ニ其後於宋一。今秦失レ德棄レ義。侵ニ伐諸侯社稷一。滅ニ六國之後一。使レ無ニ立錐之地一。陛下誠能復ニ立六國

漢の三年、項羽は急に漢王を滎陽に圍む。漢王恐れ憂へ、酈食其と楚權を撓まさんとを謀る。食其曰く、昔湯は桀を伐つて、其後を杞に封じ、武王は紂を伐つて、其後を宋に封ず。今秦は德を失ひ義を棄て、諸侯の社稷を侵伐し、六國の後を滅して、立錐の地だも無からしめたり。陛下誠に能く六國の後世を復立し、畢く已に印を受けしめば、此れ其君臣百姓は、必ず皆陛下の德を戴かん。風に嚮ひ義を慕ひ、臣妾爲るを願はざるは莫からん。德義已に行はれば、陛下南嚮して霸を稱せんに、楚は必ず衽を斂めて朝せんと。漢王曰く、善し、趣に印を刻して、先生因りて行いて之を佩びしめよと。食其未だ行かず。張良外より來り謁す。漢王方に食す。曰く、子房前め、客の我が爲に楚權を撓ますを計る者有り

國。從與俱東。良說二項王一曰。漢王燒二絕棧道一無二還心一矣。乃以二齊王田榮反書一告二項王一。項王以レ此無二西憂レ漢心一。而發レ兵北擊レ齊。項王竟不レ肯レ遣二韓王一。乃以爲レ侯。又殺二之彭城一。良亡間行。歸二漢王一。漢王亦已還定二三秦一矣。復以レ良爲二成信侯一。從東擊レ楚。至二彭城一。漢敗而還。至二下邑一。

漢王下レ馬踞レ鞍而問曰。吾欲レ捐二關以東一。等棄レ之。誰可二與共レ功者。良進曰。九江王黥布楚梟將。與二項王一有レ郄。彭越與二齊王田榮一反二梁地一。此兩人可二急使一。而漢王之將獨韓信可下屬二大事一當中一面上。即欲レ捐レ之。捐二之此三人一。

漢王馬を下り、鞍に踞して問うて曰く、吾は關以東を捐(一)てんと欲す、等しく之を棄つ、誰か與に功を共にすべき者ぞと。良進んで曰く、九江王黥布は楚の梟將(二)なり、項王と郄有り。彭越は齊王田榮と梁の地に反せり。此兩人は急に使ふべし。而も漢王の將は、獨り韓信のみ大事を屬(三)して一面に當らしむべし。即し之を捐てんと欲して、之を此三人に捐てば、則ち楚は破るべしと。漢王乃ち隨何をして九江王布に說かしめ、而して人をして彭越に連ね(四)しむ。魏王豹の反するに及び、韓信をして兵に將として之を擊たしめ、因りて燕・代・齊・趙を舉ぐ。然れども卒に楚を破りし者は、此三人の力なり。張良は多病なり、未だ嘗て特に將たらず、常に畫策の臣と爲り、時時漢王に從へり。

(一) 自己の手に取らずして他人に授與す (二) 猛勇なる將軍 (三) 委囑す (四) 連和

珠二斗。良具以獻二項伯一。漢王亦因令三良厚遺二項伯一。使レ請二漢中地一。項王乃許レ之。遂得二漢中地一。漢王之レ國。良送至二襃中一。遣二良歸一レ韓。良因說二漢王一曰。王何不下燒二絕所レ過棧道一。示中天下無中還心上。以固二項王意一。乃使三良還行燒二絕棧道一。良至レ韓。韓王成以三良從二漢王一故。項王不レ遣二成之一。

くや、良は送りて襃中(三)に至りぬ。良をして韓に歸らしめき。良因りて漢王に說いて曰く、王何ぞ過ぐる所の棧道を燒絕して、天下に(四)還心無きを示し、以て項王の意(五)を固めざると。乃ち良をして還つて行く〳〵棧道を燒絕せしむ。良は韓に至りぬ。韓王成は、良が漢王に從ふを以ての故に、項王は成をして國に之かしめず、從つて與に俱に東す。良は項王に說いて曰く、漢王は棧道を燒絕して還心無しと。乃ち齊王田榮の反書を以て項王に告ぐ。項王此を以て西のかた漢を憂ふるの心無く、兵を發して北のかた齊を擊つ。項王竟に韓王を遣るを肯んぜず。乃ち以て侯と爲し、又之を彭城に殺す。良亡げて間行し、漢王に歸す。漢王亦已に還りて三秦を定め、復良を以て成信侯と爲す。從つて東して楚を擊ち、彭城に至るに、漢は敗れて還り、下邑(六)に至りぬ。

(一) 鎰は二十四兩なり　(二) 陝西漢中府　(三) 漢中府襃成縣　(四) 東歸の心無きを表明す　(五) 安心せしむべし
(六) 河南歸德府夏邑縣

具以語二沛公一。沛公大驚曰。爲將奈何。良曰。沛公誠欲レ倍二項羽一耶。沛公曰。鯫生教レ我。距レ關無レ内二諸侯一。秦地可二盡王一。故聽レ之。良曰。沛公自度能却二項羽一乎。沛公默然良久曰。固不レ能也。今爲二奈何一。良乃固要二項伯一。項伯見二沛公一。沛公與飲爲レ壽。結二賓婚一。令下項伯具言中沛公不三敢倍二項羽一。所二以距一レ關者。備二他盜一也上。及レ見二項羽一後解。語在二項羽事中一。

く項羽を却けんかと。沛公默然たること良ゝ久しうして曰く、固に能はざるなり、今は奈何にか爲んと。良乃ち固く項伯を要し、(三)項伯をして沛公に見えしむ。沛公與に飲んで壽を爲し、賓婚を結び、(四)項伯をして具に沛公が敢て項羽に倍かず、關を距ぎし所以の者は、他の盜に備へしのみなるを言はしむ。項羽を見るに及んで後に解けき。(五)語は項羽の事中に在り。

(一)關上の東方　(二)鯫は小魚なり、賤しき客の義　(三)要請す　(四)兄弟の約と子弟婚姻の約と　(五)和解

漢元年正月。沛公爲二漢王一。王二巴蜀一。漢王賜二良金百鎰

漢の元年正月、沛公は漢王と爲りて巴蜀に王たり。漢王は良に金百鎰と珠二斗とを賜ふ。良具に以て項伯に獻ず。漢王亦因りて良に厚く項伯に遺らしめ、漢中の地を請はしむ。項王乃ち之を許す。遂に漢中の地を得たり。漢王の國に之

帷帳。狗馬重寶。婦女以レ千數。意欲レ留二居之一。樊噲諫二沛公一出舍。沛公不レ聽。良曰。夫秦爲二無道一。故沛公得レ至レ此。夫爲二天下一除二殘賊一。宜二縞素爲一レ資。今始入レ秦。即安二其樂一。此所謂助レ桀爲レ虐。且忠言逆レ耳利二於行一。毒藥苦レ口利二於病一。願沛公聽二樊噲言一。沛公乃還二軍霸上一。

もて資と爲すべし。今始めて秦に入り、即ち其樂に安んずるは、此れ所謂桀を助けて虐を爲すなり。且忠言は耳に逆ふも行に利あり、毒藥は口に苦きも病に利あり。願くは沛公、樊噲が言に聽けと。沛公乃ち還りて霸上に軍す。(三)

(一) 害毒する賊人　(二) 質素儉服　(三) 陝西西安府臨潼縣

項羽至二鴻門下一。欲レ擊二沛公一。項伯乃夜馳入二沛公軍一。私見二張良一。欲二與俱去一。良曰。臣爲二韓王一送二沛公一。今事有レ急。亡去不義。乃

項羽は鴻門の下に至り、沛公を擊たんと欲す。項伯乃ち夜馳せて沛公の軍に入り、私に張良(一)に見え、與に俱に去らんと欲す。良曰く、臣は韓王の爲に沛公を送るに、今事の急なる有るに、亡げ去るは不義なりと。乃ち具に以て沛公に語る。沛公大いに驚いて曰く、爲すこと將奈何せんと。良曰く、沛公誠に項羽に倍かんと欲するかと。沛公曰く、鯫生(二)我に敎ふらく、關を距ぎて諸侯を内るゝ無れ、秦の地は盡く王たるべしと。故に之を聽けりと。良曰く、沛公自ら度るに、能

軍。良說曰、秦兵尚彊。未可輕。臣聞其將屠者子。賈豎。易動以利。願沛公且留壁。使人先行爲五萬人具食。益爲張旗幟諸山上。爲疑兵。令酈食其持重寶啗秦將。秦將果畔。欲連和倶西襲咸陽。沛公欲聽之。良曰。此獨其將欲叛耳。恐士卒不從。不從必危。不如因其解撃之。

しめよと。秦の將は果して畔き、連和して倶に西し、咸陽を襲はんと欲す。沛公之を聽かんと欲す。良曰く、此れ(七)獨り其將叛かんと欲するのみなり、恐らく士卒は從はざらん。從はずんば必ず危し、其解(八)に因りて之を撃つに如かずと。

(一)洛陽　(二)河南開封府禹州　(三)嶢關の下　(四)商人　(五)城を堅守す　(六)敵を疑惑せしむる兵法　(七)我と連合和親す　(八)懈に同じ

沛公乃引兵撃秦軍。大破之。遂北至藍田再戰。秦兵竟敗。遂至咸陽。秦王子嬰降沛公。沛公入秦宮。宮室

沛公乃ち兵を引き、秦軍を撃つて大いに之を破り、遂に北して藍田に至り、再び戰ふ。秦兵竟に敗る。遂に咸陽に至るに、秦王子嬰は沛公に降りぬ。沛公は秦宮に入るに、宮室帷帳狗馬重寶婦女、千を以て數ふ。意之に留り居らんと欲す。樊噲は沛公を諫めて出で舍せしむれども、沛公聽かず。良曰く、夫れ秦は無道を爲す、故に沛公は此に至るを得たり。夫れ天下の爲に(一)殘賊を除く、宜しく(二)縞素

不レ省。良曰。沛公殆天授。故遂從レ之。不三去見二景駒一。及下沛公之レ薛見二項梁一。項梁立中楚懷王上。良乃說二項梁一曰。君已立二楚後一。而韓諸公子橫陽君成賢。可二立爲レ王。益樹二黨。項梁使三良求二韓成一。立以爲二韓王一。以レ良爲二韓申徒一。與二韓王一將二千餘人一。西略二韓地一得二數城一。秦輒復取レ之。往來爲二游兵潁川一。

之を取る。往來して遊兵を潁川(四)に爲す。

㊀楚の武官の名 ㊁天與の智將 ㊂司徒に同じ大臣なり ㊃河南開封府

沛公之從二雒陽一南出二轘轅一。良引レ兵從二沛公一下二韓十餘城一。擊破二楊熊軍一。沛公乃令三韓王成留二守陽翟一。與レ良俱南攻二下宛一。西入二武關一。沛公欲下以二兵二萬人一擊中秦嶢下

沛公の雒陽(一)より南し、轘轅に出づるや、良は兵を引き、沛公に從つて韓の十餘城を下し、擊つて楊熊の軍を破る。沛公乃ち韓王成をして陽翟(二)に留守せしめ、良と俱に南して、宛を攻め下し、西して武關に入る。沛公は兵二萬人を以て、秦の嶢下(三)の軍を擊たんと欲す。良說いて曰く、秦の兵尚彊し、未だ輕んずべからず。臣聞く其將は屠者の子なりと。賈豎(四)は動すに利を以てし易し。願くは沛公且く留りて壁(五)し、人をして先づ行き、五萬人の爲に食を具へしめ、益〻爲に旗幟を諸山の上に張り、疑兵(六)を爲し、酈食其をして重寶を持せしめ、秦將に啗は

見。且日觀二其書一。乃太公兵法也。良因異レ之。常習二誦讀一之。居二下邳一爲二任俠一。項伯常殺レ人從レ良匿。

後十年。陳涉等起レ兵。良亦聚二少年百餘人一。景駒自立爲二楚假王一在レ留。良欲レ從二往之一。道遇二沛公一。沛公將二數千人一。略二地下邳西一。遂屬焉。沛公拜レ良爲二廐將一。良數以二太公兵法一說二沛公一。沛公善レ之。常用二其策一。良爲二他人一言。皆

後十年、陳涉等兵を起す、良も亦少年百餘人を聚む。景駒は自立して楚の假王と爲り、留に在り。良も往いて之に從はんと欲す。道に沛公に遇ふに、沛公は數千人に將として、地を下邳の西に略せり。遂に屬す。沛公は良を拜して廐將(一)と爲す。良は數ゝ太公の兵法を以て沛公に說くに、沛公は之を善しとし、常に其策を用ふ。良が他人の爲に言ふや、皆省みられず。良曰く、沛公は殆んど天授(二)なりと。故に遂に之に從ひ、去つて景駒を見ず。沛公の薛に之きて項梁に見え、項梁が楚の懷王を立つるに及び、良乃ち項梁に說いて曰く、君已に楚の後を立つ、而して韓の諸公子橫陽君成は賢なり、立てて王と爲し、益ゝ黨を樹つべしと。項梁は良をして韓成を求めしめ、立てて以て韓王と爲し、良を以て韓の申徒(三)と爲す。韓王と千餘人に將とし、西して韓の地を略し、數城を得たり、秦輒ち復

取レ履。因長跪履レ之。父以レ足受。笑而去。良殊大驚隨目レ之。父去里所。復還曰。孺子可レ教矣。後五日平明。與レ我會レ此。良因怪レ之。跪曰諾。五日平明良往。父已先在。怒曰。與二老人一期。後何也。去曰。後五日早會。五日雞鳴良往。父又先在。復怒曰。後何也。去曰。後五日復早來。五日良夜未レ半往。有レ頃父亦來。喜曰。當レ如レ是。出二一編書一曰。讀レ此則爲二王者師一矣。後十年興。十三年孺子見レ我。濟北穀城山下黃石卽我矣。遂去無二他言一不二復

去るときに曰く、後五日に早く會せよと。五日雞鳴に良往くに、父又先づ在り。復怒つて曰く、後るゝは何ぞやと。去るときに曰く、後五日復早く來れと。五日に良は夜未だ半ならざるに往く。頃く有りて父亦來り、喜びて曰く、當に是の如くなるべしと。一編の書を出して曰く、此を讀まば則ち王者の師と爲らん。後十年にして興らん。十三年に孺子我を見ん、濟北の穀城山(一〇)下の黃石は卽ち我なりと。遂に去りて他の言無し、復見えず。旦日(一一)其書を視るに、乃ち太公(一二)の兵法なり。良因りて之を異とし(一三)、常に習うて之を誦讀す。下邳に居りて任俠を爲す。項伯常て人を殺すや、良に從つて匿れき。

(一) 江蘇徐州府邳州　(二) 土もて造れる橋　(三) 賤者の衣る服　(四) 年少者を呼ぶ稱　(五) 撲たんとす　(六) 强ひて忍耐す　(七) 謹み跪づく　(八) 一里內外　(九) 早朝　(一〇) 山東泰安府東阿縣に在り黃山と稱す　(一一) 明朝　(一二) 太公望　(一三) 不思議なりとす

王。爲レ韓報レ仇。以二大父父五世相一レ韓故。良嘗學二禮淮陽。東見二倉海君。得二力士。爲二鐵椎重百二十斤。秦皇帝東游。良與レ客狙擊二秦皇帝博浪沙中。誤中二副車。秦皇帝大怒。大索二天下。求レ賊甚急。爲二張良一故也。

(一) 江蘇沛縣の東南方 (二) 祖父 (三) 役人としては仕へず (四) 智勇ある人物 (五) 河南陳州 (六) 東夷の君長 (七) 河南陽武縣南方の地

良乃更二名姓一。亡匿二下邳一。良嘗間從容。步二游下邳圯上一。有二一老父一。衣レ褐至二良所一。直墮二其履圯下一。顧謂レ良曰。孺子下取レ履。良愕然。欲レ毆レ之。爲二其老一。彊忍下取レ履。父曰。履レ我。良業爲

良乃ち名姓を更へ、亡げて下邳(一)に匿る。良嘗て間に從容し、下邳の圯上(二)に步游せしに、一老父有り、褐(三)を衣て良の所に至り、直に其履を圯下に墮し、顧みて良に謂つて曰く、孺子(四)下りて履を取れと。良愕然たり、之を毆(五)たんと欲す。其老の爲に彊忍(六)し、下りて履を取りき。父曰く、我に履かせよと。良は業に爲に履を取る、因りて長跪(七)して之を履かしむ。父は足を以て受け、笑つて去る。良殊に大いに驚き、隨つて之を目す。父去ること里所(八)、復還りて曰く、孺子教ふべし、後五日の平明(九)、我と此に會せよと。良因りて之を怪み、跪いて曰く、諾と。五日の平明、良往く。父已に先づ在り。怒つて曰く、老人と期して、後るゝは何ぞやと。

留侯張良者。其先韓人也。大父開地相二韓昭侯・宣惠王。襄哀王一。父平相二釐王。悼惠王一。悼惠王二十三年。平卒。卒二十歲。秦滅レ韓。良年少。未レ宦二事韓一。韓破良家僮三百人。弟死不レ葬。悉以二家財一。求下客刺二秦

巻五十五

留侯世家第二十五

留侯張良は、其先は韓人なり。(一)大父開地は韓の昭侯・宣惠王・襄哀王に相たり、(二)父平は釐王・悼惠王に相たり。悼惠王の二十三年、平卒す。卒して二十歲、秦は韓を滅せり。良は年少く、未だ韓に(三)宦事せず。韓破るゝとき、良の家僮三百人あり。弟死せしも葬らず、悉く家財を以て、(四)客の秦王を刺して、韓の爲に仇を報ずるものを求む。大父と父と、五世韓に相たりしを以ての故なり。良嘗て禮を(五)淮陽に學び、東して(六)倉海君を見、力士を得たり。鐵椎を爲るに、重さ百二十斤なり。秦皇帝東游す。良は客と狙ひ、秦皇帝を(七)博浪沙中に撃ち、誤つて副車に中つ。秦皇帝大いに怒り、大いに天下に索め、賊を求むる甚だ急なり。張良が爲の故なり。

若㆑畫㆑一。曹參代㆑之。守而勿㆑失。載㆓其清淨㆒。民以寧一。平陽侯窋。高后時爲㆓御史大夫㆒。孝文帝立。免爲㆑侯。立二十九年卒。諡爲㆓靜侯㆒。子奇代侯。立七年卒。諡爲㆓簡侯㆒。子時代侯。時尚㆓平陽公主㆒。生㆓子襄㆒。時病㆑癘歸㆑國。立二十三年卒。諡㆓夷侯㆒。子襄代侯。襄向㆓衛長公主㆒。生㆓子宗㆒。立十六年卒。諡爲㆓共侯㆒。子宗代侯。征和二年中。宗坐㆓太子死㆒。國除。

(一) 處分したるぞ (二) 如かんやの義 (三) 衣を垂れ手を拱して安坐するなり (四) 明白の義 (五) 安寧靜和 (六) 天子の女を妻とするなり (七) 癩病なり (八) 孝武帝の年號 (九) 太子據が謀反に連累す

太史公曰。曹相國參。攻城野戰之功。所㆓以能多若㆑此者。以㆘與㆓淮陰侯㆒俱㆖。及㆓信已滅㆒。而列侯成功。唯獨參擅㆓其名㆒。參爲㆓漢相國㆒。清靜極言合㆑道。然百姓離㆓秦之酷㆒。後參與休㆓息無爲㆒。故天下俱稱㆓其美㆒矣。

太史公曰く、曹相國參は、攻城野戰の功、能く多きこと此の若き所以の者は、淮陰侯と倶にせしを以てなり。信已に滅するに及びて、列侯の成功は、唯獨り參のみ其名を擅にせり。參は漢の相國と爲り、清靜にして極めて言ふこと道に合へり。然れども百姓は秦の酷に離れる(一)に、後に參は與に無爲に休息せり(二)。故に天下倶に其美を稱するなり。

(一) 罹るなり (二) 休息を望める天下の希望と一致し、清淨無爲の政事を行へるを言ふ

上曰。朕乃安敢望二先帝一乎。曰。陛下觀レ臣。能孰二與蕭何賢一。上曰。君似レ不レ及也。參曰。陛下言レ之是也。且高帝與二蕭何一定二天下一。法令既明。今陛下垂拱。參等守レ職。遵而勿レ失。不二亦可一乎。惠帝曰。善。君休矣。參爲二漢相國一。出入三年卒。謚二懿侯一。子窋代侯。百姓歌レ之曰。蕭何爲レ法。覯

の之を言ふこと是なり、且ふに高帝と蕭何と天下を定めて、法令既に明なり。今陛下は垂拱し(三)、參等は職を守り、遵うて失ふこと勿き、亦可からずやと。惠帝曰く、善し、君休せよと。參は漢の相國と爲り、出入三年にして卒す。懿侯と謚す。子窋代り侯たり。百姓之を歌うて曰く、蕭何法を爲る、覯(四)なること一を畫するが若し。曹參之に代り、守りて失ふ勿し。其清淨を載うて、民以て寧一なりと(五)。平陽侯窋は、高后の時に御史大夫と爲る。孝文帝立ち、免じて侯と爲る。立つこと二十九年にして卒す。謚して靜侯と爲す。子奇代り侯たり。立つの七年に卒し、謚して簡侯と爲す。子時代り侯たり。時は平陽公主を尙し、子襄を生む。時は癘を病んで(七)國に歸り、立つの二十三年に卒す、夷侯と(六)謚す。子襄代り侯たり。襄は衞長公主を尙し、子宗を生む。立つの十六年に卒す。謚して共侯と爲す。子宗代り侯たり。(八)征和二年中、宗は太子(九)の死に坐して國除かれき。

過。専掩匿覆ニ蓋之。府中無レ事。參子窋爲ニ中大夫。惠帝怪ニ相國不ヒ治レ事。以爲豈少レ朕與。乃謂レ窋曰、若歸試私從容問ニ而父一曰。高帝新棄ニ羣臣一。帝富ニ於春秋一。君爲レ相。日飲無レ所レ請レ事。何以憂ニ天下一乎。然無レ言ニ吾告ヒ若也。窋既洗沐歸。閒侍。自從ニ其所一諫レ參。參怒而笞レ窋二百。曰。趣入侍。天下事非ニ若所ヒ當レ言也。

は春秋に富めり。君は相と爲りて、日に飲みて事を請ふ所無し、何を以て天下を憂へんやと。然れども吾が若に告げしと言ふこと無れと。窋既に洗沐して歸り、間に侍し、自ら其所に從つて參を諫む。參怒りて窋を笞つこと二百なり。曰く、趣に入り侍せよ、天下の事は若が當に言ふべき所に非ざるなりと。

(一)檢閲調査 (二)掩ひかくす (三)少年なりとして輕視するか (四)休暇を得るなり

至ニ朝時一。惠帝讓レ參曰。與レ窋胡治乎。乃者我使レ諫レ君也。參免レ冠謝曰。陛下自察ニ聖武一孰ニ與高帝一。

朝する時に至つて、惠帝は參を讓めて曰く、窋と胡をか治するぞ、乃者我は君を諫めしめきと。參は冠を免ぎて謝して曰く、陛下自ら聖武を察するに、高帝に孰與ぞやと。上曰く、朕は乃ち安ぞ敢て先帝を望まんやと。曰く、陛下の臣を觀る、能く蕭何の賢なるに孰與ぞやと。上曰く、君は及ばざるに似たりと。參曰く、陛下

擇₋郡國吏木₌詘於文辭₋重厚長者₊。卽召除爲₌丞相史₋。吏之言ㇾ文刻深。欲ㇾ務₌聲名₋者。輒斥₌去之₋。日夜飮₌醇酒₋。卿大夫已下吏及賓客。見₌參不₋ㇾ事ㇾ事。來者皆欲ㇾ有ㇾ言。至者參輒飮以₌醇酒₋。閒ㇾ之欲ㇾ有ㇾ所ㇾ言。復飮ㇾ之。醉而後去。終莫ㇾ得ㇾ開ㇾ說。以爲ㇾ常。

相舍後園近₌吏舍₋。吏舍日飮歌呼。從吏惡ㇾ之。無₌如ㇾ之何₋。乃請ㇾ參游₌園中₋。聞₌吏醉歌呼₋。從吏幸₌相國召按₋ㇾ之。乃反取ㇾ酒張ㇾ坐飮。亦歌呼與相應和。參見₌人之有₌細

相舍の後園は吏舍に近し、吏舍日に飮んで歌呼す、從吏之を惡めども、之を如何ともすること無し。乃ち參に請うて園中に游び、吏の醉うて歌呼するを聞かしむ。從吏は相國の召して之を按ぜんことを幸へるに、乃ち反つて酒を取り、坐を張りて飮み、亦歌呼して與に相應和せり。參は人の細過有るを見れば、專ら掩匿して之を覆蓋し、府中事無し。參の子窋は中大夫と爲る。惠帝は相國が事を治せざるを怪み、以爲らく、豈朕を少しとするかと。乃ち窋に謂つて曰く、若歸らば試に私に從容として、而の父に問うて曰へ、高帝新に羣臣を棄て、帝

(一) 極上の酒　(二) 政務を勤めざるなり　(三) 說を立てて議を爲す

(一) 閒間なり、不和に同じ　(一) 辭拙く飾無き者　(二) 德厚き者　(三) 任命す　(四) 祕書官の類　(五) 法律なり

果召ㇾ參。參去。屬ニ其後相一曰。以ニ齊獄市一爲ㇾ寄。愼勿ㇾ擾也。後相曰。治無下大ニ於此一者上乎。參曰。不ㇾ然。夫獄市者。所ニ以幷容一也。今君擾ㇾ之。姦人安所ㇾ容也。吾是以先ㇾ之。參始微時與ニ蕭何一善。及ㇾ爲ニ將相一有ㇾ郤。至ニ何且ㇾ死。所ㇾ推賢唯參。參代ㇾ何爲ニ漢相國一。擧ㇾ事無ㇾ所ニ變更一。一遵ニ蕭何約束一。

れと。後相曰く、治は此より大なる者無きかと。參曰く、然らず、夫れ獄市は幷(四)せ容るゝ所以なり、今君之を擾さば、姦人安ぞ容るゝ所あらん。吾是を以て之を先とすと。參が始め微なりし時は、蕭何と善し。將相と爲るに及んで郤(五)有り。何が且に死せんとするに至り、推しし所の賢は唯參のみ。參は何に代りて漢の相國と爲り、事を擧ぐるに變更する所無く、一に蕭何の約束に遵ふ。郡國の吏の、文辭に木訥(六)にして、重厚の長者(七)なるを擇び、即ち召し除(八)して丞相の史(九)と爲し、吏の文(一〇)を言ふこと深刻に、聲名を務めんと欲する者は、輒ち之を斥け去る。日夜醇酒(一一)を飲む。卿大夫已下の吏及び賓客、參が事を事(一二)とせざるを見て、來る者は皆言ふこと有らんと欲するに、至れば參は輒ち飲ましむるに醇酒を以てし、之を間して言ふこと有らんと欲すれば、復之を飲ましめ、醉はせて後に去らしむ。終に(一三)說を開くを得るもの莫し、以て常と爲せり。

(一) 執事の役人 (二) 急ぎ旅裝を整へよ (三) 牢獄の訴訟事件を以て寄託す (四) 大小の姦邪を皆こゝに入る (五)

國法。更以參爲齊丞相。參之相齊。齊七十城。天下初定。悼惠王富於春秋。參盡召長老諸生。問所以安集百姓。如齊故俗。諸儒以百數。言人人殊。參未知所定。聞膠西有蓋公善治黃老言。使人厚幣請之。既見蓋公。蓋公爲言。治道貴清靜而民自定。推此類具言之。參於是避正堂舍蓋公焉。其治要用黃老術。故相齊九年。齊國安集。大稱賢相。

き、人をして幣を厚うして之を請へしむ。既に蓋公を見るに、蓋公は爲に言ふらく、治道は清靜を貴んで、民自ら定ると。(五)此類を推して具に之を言ふ。參は是に於て正堂を避け、蓋公を舍く。其治要は黃老の術を用ふ。故に齊に相たること九年、齊國安集し、大いに賢相と稱す。

(一)魏と齊と　(二)楚の官名なり、卿位に相當す　(三)制度を改む　(四)黃帝老子の學術　(五)上語の如き類の意義を推明す　(六)政治の要領

惠帝二年。蕭何卒。參聞之。告舍人。趣治行。吾將入相。居無何使者

惠帝の二年、蕭何卒す。參之を聞いて舍人に告ぐらく、(一)趣に行を治めよ、吾將に入りて相たらんとすと。居ること何も無くして、使者果して參を召す。參去るとき、其後相に屬して曰く、齊の獄市を以て寄と爲す、愼みて擾すこと勿

陣。與二漢王一共破二項羽。而參留不二齊未レ服者。項籍已死。天下定。漢王爲二皇帝。韓信徙爲二楚王。齊爲レ郡。參歸二漢相印。高帝以二長子肥一爲二齊王。而以レ參爲二齊相國。以二高祖六年。賜二爵列侯。與二諸侯一剖レ符。世世勿レ絶。食二邑平陽萬六百三十戸。號曰二平陽侯。除二前所レ食邑。以二齊相國一擊二陳豨將張春軍一破レ之。黥布反。參以二齊相國一從二悼惠王。將二兵車騎十二萬人。與二高祖一會擊二黥布軍。大破レ之。南至レ蘄。還定二竹邑相蕭留。

の軍を擊ち、大いに之を破り、南して蘄に至り、(六)還りて竹邑・相・蕭・留を定めき。(七)

㊀ 山東濟南歷城の下　㊁ 濟北の五縣の名　㊂ 山東萊州府　㊃ 符を割いて一は王の所に留め他は封侯に授與するなり　㊄ 山西平陽府臨汾縣南西の地　㊅ 前出　㊆ 共に蘄の近縣なり

參功凡下二二國縣一百二十二。得二王二人。相三人。將軍六人。大莫敖。郡守。司馬侯。御史各一人。孝惠帝元年。除二諸侯相

參の功は、凡そ二國(一)の縣一百二十二を下し、王二人・相三人・將軍六人、大莫敖(二)・郡守・司馬侯・御史各〻一人を得たるなり。孝惠帝の元年、諸侯相國の法(三)を除き、更に參を以て齊の丞相と爲す。參の齊に相たるとき、齊は七十城あり。天下初めて定り、悼惠王は春秋に富めり。參は盡く長老諸生を召し、百姓を安集して、齊の故俗に如ふ所以を問ふ。諸儒百を以て數へ、言ふこと人人殊なり。參未だ定むる所を知らず。膠西に蓋公といふもの有り、善く(四)黃老の言を治むと聞

爲二相國一。東擊レ齊。參以二右丞相一屬二韓信一。攻破二齊歷下軍一。遂取二臨菑一。還定二濟北郡一。攻二著漯陰平原鬲盧一。已而從二韓信一擊二龍且軍於上假密一大破レ之。斬二龍且一。虜二其將軍周蘭一。定レ齊。凡得二七十餘縣一。得二故齊王田廣相田光。其守相許章。及故齊膠將軍田既一。韓信爲二齊王一。引レ兵詣レ

屬し、攻めて齊の歷下の軍を破り、遂に臨菑を取り、還りて濟北郡を定め、著・漯陰・平原・鬲・盧を攻む。已にして韓信に從ひ、龍且の軍を上假密に擊つて大いに之を破り、龍且を斬り、其將軍周蘭を虜にし、齊を定む。凡そ七十餘縣を得たり。故の齊王田廣と相田光と、其守相の許章、及び故の齊の膠東將軍田既とを得たり。韓信は齊王と爲り、兵を引いて陳に詣り、漢王と共に項羽を破るや、參は留りて齊の未だ服せざる者を平げたり。項籍已に死して天下定るや、漢王は皇帝と爲り、韓信は徙りて楚王と爲り、齊は郡と爲り、參は漢の相印を歸せり。高帝は長子肥を以て齊王と爲し、而して參を以て齊の相國と爲す。高祖の六年を以て、爵を列侯に賜ひ、諸侯と符を剖き、世世絕ゆる勿らしめ、邑を平陽萬六百三十戶に食み、號して平陽侯と曰ふ。前に食みし所の邑は除けり。齊の相國を以ては、陳稀の將張春の軍を擊ちて之を破り、黥布の反するや、參は齊の相國を以て悼惠王に從ひ、兵車騎十二萬人に將とし、高祖と會して、黥布

反。以二假左丞相一。別與二韓信一。東攻二魏將軍孫遬軍東張一。大破レ之。因攻二安邑一。得二魏將王襄一。擊二魏王於曲陽一。追至二武垣一。生二得魏王豹一。取二平陽一。得二魏王母妻子一。盡定二魏地一。凡五十二城。

うて武垣に至り、魏王豹を生得し、平陽を取り、魏王の母妻子を得て、盡く魏の地を定む。凡そ五十二城なり。食邑を平陽に賜ふ。因りて韓信に從ひ、趙の相國夏說の軍を鄔(四)の東に撃ち、大いに之を破り、夏說を斬る。韓信は故の常山王張耳と、兵を引いて井陘(五)を下り、成安君(六)を撃ち、而して參をして還つて趙の別將戚將軍を鄔城の中に圍ましむ。戚將軍出で走るに、追うて之を斬り、乃ち兵を引いて、敖倉(七)の漢王の所に詣りぬ。

(一)假の左丞相 (二)山西遼州武鄉縣 (三)以下數地皆魏の要地なり、魏豹彭越の列傳參看 (四)山西汾州府介休縣東 (五)張耳陳餘列傳參看 (六)陳餘なり (七)河南成皐に在り、米穀を貯藏せる要地

賜二食邑平陽一。因從二韓信一。擊二趙相國夏說軍於鄔東一。大破レ之。斬二夏說一。韓信與二故常山王張耳一。引レ兵下二井陘一。擊二成安君一。而令三參還圍二趙別將戚將軍於鄔城中一。戚軍將出走。追斬レ之。乃引レ兵詣二敖倉漢王之所一。

韓信已破レ趙

韓信已に趙を破つて相國と爲り、東して齊を撃つや、參は右丞相を以て韓信に

參。參出擊大破レ之。賜二食邑於寧秦一。參以二將軍一引レ兵圍二章邯於廢丘一。以二中尉一從二漢王一。出二臨晉關一。至二河內一。下二修武一。渡二圍津一。東擊二龍且項他一定陶一破レ之。東取二碭蕭彭城一。擊二項籍軍一。漢軍大敗走。參以二中尉一。圍取二雍丘一。王武反二於黃一。程處反二於燕一。往擊盡破レ之。柱天侯反二於衍氏一。又進破。取二衍氏一。擊二羽嬰於昆陽一。追至レ葉。還攻二武彊一。因至二滎陽一。參自二漢中一。爲二將軍中尉一。從擊二諸侯及項羽一。敗還至二滎陽一。凡二歲。

衍氏を取り、羽嬰を昆陽(一七)に擊ち、追うて葉(一八)に至り、還りて武彊(一九)を攻め、因りて滎陽に至る。參は漢中より將軍中尉と爲り、從つて諸侯及び項羽を擊ち、敗れ還りて滎陽に至りぬ。凡そ二歲。

(一)漢中より咸陽に至る道筋に三縣あり　(二)陝西乾州　(三)壤高櫟共に好畤縣中に在り　(四)武帝に至り槐城と稱せり　(五)新城の近縣　(六)陝西漢中府沔縣　(七)陝西西安府興平縣　(八)山西蒲州　(九)河南懷慶府修武縣　(一〇)所謂白馬津なり河南滑縣に在り　(一一)項羽本紀參照　(一二)同上　(一三)河南開封府杞縣　(一四)雍丘附近の地　(一五)同上　(一六)河南南陽府　(一七)衍氏に近し　(一八)河南南陽開封兩府に亙る要地　(一九)同上

高祖三年。拜爲二假左丞相一。入屯二兵關中一。月餘。魏王豹

高祖の三年、拜して(一)假左丞相と爲り、入りて兵を關中に屯す。月餘にして魏王豹反す。假左丞相を以て、別に韓信と、東して魏將軍孫遬の軍を東張(二)に攻め、大いに之を破り、因りて安邑(三)を攻め、魏將王襄を得て、魏王を曲陽に擊ち、追

定二南陽郡一。從西攻二武關嶢關一取レ之。前攻二秦軍藍田南一。又夜擊二其北一。秦軍大破。遂至二咸陽一滅レ秦。項羽至。以二沛公一爲二漢王一。漢王封レ參爲二建成侯一。從至二漢中一。遷爲二將軍一。從還定二三秦一。

初攻二下辯故道雍斄一。擊二章平軍於好時南一破レ之。圍二好時一取二壤鄕一。擊二三秦軍壤東及高櫟一破レ之。復圍二章平一。章平出二好時一走。因擊二趙賁內史保軍一破レ之。東取二咸陽一。更命曰二新城一。參將レ兵守二景陵一。二十日。三秦使二章平等攻一レ

初め下辯の故道・雍・斄を攻め、章平の軍を好時の南に擊ち、之を破り、好時を圍み壤鄕を取り、三秦の軍を壤東及び高櫟に擊ちて之を破り、復章平を圍む。章平は好時を出でて走る。因りて趙賁の內史保が軍を擊つて之を破り、東して咸陽を取り、更め命じて新城と曰ふ。參は兵に將として景陵を守ること二十日、三秦は章平等をして參を攻めしむるに、參は出で擊つて大いに之を破りぬ。食邑を寧秦に賜ふ。參は將軍を以て兵を引いて、章邯を廢丘に圍み、中尉を以て漢王に從ひ、臨晉關より出でて河內に至り、修武を下し、圍津を渡り、東して龍且・項他を定陶に擊つて之を破り、東して碭・蕭・彭城を取り、項籍の軍を擊つに、漢軍大いに敗走せり。參は中尉を以て、圍んで雍丘を取る。王武は黃に反し、程處は燕に反す。往き擊つて盡く之を破る。柱天侯は衍氏に反す、又進んで破り、

離軍成陽南。復攻二之杠里一大破レ之。追レ北西至二開封一。擊二趙賁軍一破レ之。圍二趙賁開封城中一。西擊二秦將楊熊軍於曲遇一破レ之。虜二秦司馬及御史各一人一。遷爲二執珪一。從攻二陽武一。下二轘轅緱氏一。絕二河津一。還擊二趙賁軍尸北一破レ之。從南攻レ犨。與二南陽守齮一戰二陽城郭東一。陷レ陳取レ宛虜レ齮。盡

に至り、趙賁の軍を擊つて之を破り、趙賁を開封城中に圍む。西して秦將楊熊の軍を曲遇(四)に擊つて之を破り、秦の司馬及び御史各〻一人を虜にす。遷りて執珪(五)と爲る。從つて陽武(六)を攻め、轘轅(七)・緱氏を下し、河津(八)を絕ち、還りて趙賁の軍を尸北(九)に擊つて之を破る。從つて南して犨(一〇)を攻め、南陽の守齮と陽城(一一)の郭東に戰ひ、陳を陷れ宛(一二)を取り、齮を虜にし、盡く南陽郡を定む。從つて西し、武關(一三)・嶢關を攻めて之を取り、前んで秦軍を藍田(一四)の南に攻め、又夜其北を擊つ。秦軍大いに破る。遂に咸陽に至りて秦を滅す。項羽至るや、沛公を以て漢王と爲す、漢王は參を封じて建成侯(一五)と爲す。從つて漢中(一六)に至り、遷りて將軍と爲る。從つて還り、三秦(一七)を定む。

(一) 山東曹州府城武縣　(二) 城武附近なり濮州に屬す　(三) 河南に在り　(四) 河南開封府中牟縣　(五) 執帛の上位なる官爵　(六) 河南懷慶府陽武縣　(七) 緱氏は河南偃師縣轘轅は其南方　(八) 河南孟津縣の渡口　(九) 緱氏縣の屬邑　(一〇) 河南汝州府魯山縣　(一一) 南陽郡に屬す　(一二) 陽城の鄰縣　(一三) 陝西商州にあり、嶢關は又藍田關と稱す、今の藍田縣に在り　(一四) 前出　(一五) 河南歸德府永城縣　(一六) 陝西漢中府南鄭縣　(一七) 前出

與方與反爲魏。撃之。豐反爲魏。攻之。賜爵七大夫。撃秦司馬尼軍碭東。破之。取碭狐父祁善置。又攻下邑。以西。至虞。撃章邯車騎。攻爰戚及亢父。先登。遷爲五大夫。北救東阿。撃章邯軍。陷陳。追至濮陽。攻定陶。取臨濟。南救雍丘。撃李由軍。破之。殺李由。虜秦侯一人。秦將章邯破殺項梁也。沛公與項羽引而東。楚懷王以沛公爲碭郡長。將碭郡兵。於是乃封參爲執帛。號曰建成君。遷爲戚公。屬碭郡。

李由の軍を撃つて之を破り、李由を殺して秦の侯一人を虜にす。秦の將章邯が、破りて項梁を殺すや、沛公は項羽と引いて東す。楚の懷王は、沛公を以て碭郡の長と爲し、碭郡の兵に將たらしむ。是に於て、乃ち參を封じて執帛(二二)と爲し、號して建成君と曰ふ。遷りて戚公と爲り、碭郡に屬す。

(一)山西平陽府　(二)主要なる官吏　(三)侍從の類　(四)共に山東兗州府　(五)郡監の軍　(六)田齊世家參照　(七)位なり　(八)江蘇徐州府碭山縣　(九)共に碭の近縣　(一〇)良驛に同じ　(一一)碭の東方　(一二)河南歸德府虞城縣、(一三)山東濟寧州嘉祥縣なり、亢父は其接近地　(一四)五大夫の位に進む　(一五)山東泰安府東阿縣　(一六)陣に同じ　(一七)山東曹州府濮州　(一八)濮陽の近鄰地　(一九)山東青州府高苑縣　(二〇)河南開封府　(二一)楚の爵位

其後從攻東郡尉軍。破之成武南。撃王

其後は從つて東郡の尉の軍を攻めて、之を成武(一)の南に破り、王離の軍を成陽(二)の南に撃ち、復之を杠里(三)に攻めて大いに之を破り、北ぐるを追うて西のかた開封

平陽侯曹參者。沛人也。秦時爲二沛獄掾一。而蕭何爲二主吏一。居レ縣爲二豪吏一矣。高祖爲二沛公一而初起也。參以二中涓一從將。擊二胡陵方與一。攻二秦監公軍一大破レ之。東下レ薛。擊二泗水守軍薛郭西一。復攻二胡陵一取レ之。從守二方

卷五十四

曹相國世家第二十四

平陽侯曹參は、沛の人なり。秦の時に沛の獄掾と爲り、而して蕭何は主吏と爲り、(一)縣に居て(二)豪吏爲りき。高祖が沛公と爲りて初めて起るや、參は中涓を以て、(三)從將として胡陵・方與を擊ち、(四)秦の監公の軍を攻めて大いに之を破り、(五)東して薛を下し、(六)泗水の守軍を薛郭の西に擊ち、復胡陵を攻めて之を取る。徙りて方與を守るに、方與は反して魏と爲りぬ。之を擊つ。豐も反して魏と爲る、之を攻む。(七)爵七大夫を賜ふ。秦の司馬尼の軍を碭の東に擊ちて之を破り、(八)碭・狐父・祁の善置(九)(一〇)を取る。又下邑(一一)を攻めて以て西し、虞(一二)に至り、章邯の車騎を擊ち、爰戚及び亢(一三)父を攻めて先登し、遷りて五大夫(一四)と爲る。北して東阿(一五)を救ひ、章邯の軍を擊ち、(一六)陳を陷れ、追うて濮陽(一七)に至り、定陶(一八)を攻め、臨濟(一九)を取り、南して雍丘(二〇)を救ひ、

之矣。臣死不レ恨矣。何置二田宅一。必居二窮處一。爲レ家不レ治二垣屋一。曰。後世賢師二吾儉一。不賢毋レ爲二勢家一所レ奪。孝惠二年。相國何卒。諡爲二文終侯一。後嗣以レ罪失レ侯者四世絕。天子輒復求二何後一。封續二酇侯一。功臣莫レ得レ比焉。

太史公曰。蕭相國何於二秦時一。爲二刀筆吏一。錄錄未レ有二奇節一。及二漢興一。依二日月之末光一。何謹二守管籥一。因二民之疾一。奉レ法順レ流。與レ之更始。淮陰黥布等。皆以誅滅。而何之勳爛焉。位冠二羣臣一。聲施二後世一。與二閎夭。散宜生等一爭レ烈矣。

太史公曰く、蕭相國何は、秦の時に於て刀筆(一)の吏爲り。錄錄(二)として未だ奇節有らず。漢興るに及び、日月の末光に依り(三)、何は管籥(四)を謹守し、民の疾に因りて、法を奉じ流に順ひ、之と更始せり(五)。淮陰・黥布等は、皆以て誅滅せるに、而るに何の勳は爛たり。位羣臣に冠として、聲は後世に施き、閎夭・散宜生等(六)と烈を爭へり。

(一) 行政事務書記の一小官吏 (二) 碌々に同じ (三) 日月の如き帝德の餘光に由る (四) 鍵に同じ、政務の樞要を指す (五) 庶民と共に維新更始の政に從ふ (六) 周の二功臣

恭謹。入徒跣謝。高帝曰。相國休矣。相國爲民請苑。吾不許。我不過爲桀紂主。而相國爲賢相。吾故繫相國。欲令百姓聞吾過也。何素不與曹參相能。及何病。孝惠自臨視相國病。因問曰。君即百歲後。誰可代君者。對曰。知臣莫如主。孝惠曰。曹參何如。何頓首曰。帝得

吾許さず。我は桀紂の主爲るに過ぎずして、相國は賢相爲り。吾故に相國を繫ぎ、百姓をして吾が過を聞かしめんと欲せしなりと。何は素より曹參と相能からず。何の病むに及び、孝惠は自ら臨んで相國の病を視、因りて問うて曰く、君即し百歲の後は、誰か君に代るべき者ぞと。對へて曰く、臣を知るは主に如くは莫し。孝惠曰く、曹參は何如と。何頓首して曰く、帝之を得たり。臣、死すとも恨みじと。何は田宅を置くに、必ず窮處(三)に居けり。家を爲むるに垣屋(四)を治せずして曰く、後世賢ならば吾が儉を師とせん。不賢なるも勢家(五)の奪ふ所と爲る毋らんと。孝惠の二年、相國何卒す。謚して文終侯と爲す。後嗣(六)は罪を以て侯を失ふ者あり、四世にして絕ゆ。天子輒ち復何の後を求め、封じて酇侯を續がしむ。功臣の比ふを得るもの莫し。

(一) しるしの旗なり、節旌に同じ　(二) はだし也　(三) 僻陬なる土地　(四) 修飾せず　(五) 權勢ある人　(六) 曹何の子孫

有レ惡自與。今相國多受二賈豎金一。而爲レ民請二吾苑一。以自媚二於民一。故繫二治之一。王衛尉曰。夫職事。苟有レ便二於民一而請レ之。眞宰相事。陛下奈何乃疑三相國受二賈人錢一乎。且陛下距レ楚數歲。陳豨黥布反。陛下自將而往。當二是時一。相國守二關中一。搖レ足則關以西。非二陛下有一也。相國不下以二此時一爲上レ利。今乃利二賈人之金一乎。且秦以レ不レ聞二其過一亡二天下一。李斯之分レ過。又何足レ法哉。陛下何疑二宰相一之淺也。高帝不レ懌。是日使三使持レ節。赦出二相國一。相國年老。素

下の楚を拒ぐや數歲、陳豨・黥布の反するにも、陛下自ら將として往けり。是時に當りて、相國は關中を守れり。足を搖せば則ち關以西は陛下の有に非ざるなり。相國は此時を以て利を爲さずして、今は乃ち賈人の金を利らんや。且秦は其過を聞かざるを以て天下を亡へり。李斯の過を分てること、又何ぞ法るに足らんや。陛下何ぞ宰相を疑ふの淺きや(七)と。高帝懌ばず。

(一)裁判の最上官　(二)かせして繫留す　(三)自己に甘受せり　(四)賈人を卑しみ言ふ　(五)捕縛して處分せんとす　(六)司る所の事務　(七)輕卒淺薄

是日使をして節を持し、赦して相國を出さしむ。相國年老ゆ、素より恭謹なり。入り徒跣にして謝す。高帝曰く、相國休せよ、相國が民の爲に苑を請ふに、

賈貸以自汙。上心乃安。於レ是相國從ニ其計一。上乃大說。上罷ニ布軍一歸。民道遮レ行。上書言ニ相國賤彊買ニ民田宅一數千萬上。上至。相國謁。上笑曰。夫相國乃利レ民。民所ニ上書一皆以與ニ相國一曰。君自謝レ民。相國因爲レ民請曰。長安地狹。上林中多ニ空地棄一。願令下民得ニ入田一毋レ收レ稾爲中禽獸食上。

㈠ 淮南王英布 ㈡ 強て從はしむ ㈢ 心を遂しかむる說 ㈣ 高利貸の類、卑劣なる貸附方法なり ㈤ 御苑上林苑なり ㈥ 藁を殘し置く

上大怒曰。相國多受ニ賈人財物一。乃爲請ニ吾苑一。乃下ニ相國廷尉一械ニ繫之一數日。王衞尉侍。前問曰。相國何大罪。陛下繫レ之暴也。上曰。吾聞。李斯相ニ秦皇帝一。有レ善歸レ主。

上大いに怒りて曰く、相國は多く賈人の財物を受け、乃ち爲に吾が苑を請ふかと。乃ち相國を廷尉に下して之を械繫することと數日なり。王衞尉侍し、前み問うて曰く、相國は何の大罪ぞ、陛下の之を繫ぐことの暴なるやと。上曰く、吾聞く、李斯の秦皇帝に相たるや、善有れば主に歸し、惡有れば自ら與へきと。今は相國、多く賈豎の金を受けて、民の爲に吾が苑を請ひ、以て自ら民に媚ぶ。故に之を繫治すと。王衞尉曰く、夫れ職事は、苟も民に便なる有れば之を請ふは、眞に宰相の事なり。陛下奈何ぞ乃ち相國が賈人の錢を受けしを疑ふぞや。且陛

使レ問二相國何爲一。相國爲下上在レ軍上乃拊二循勉三力百姓一。悉以レ所レ有佐レ軍。如二陳豨時一。客有レ說二相國一曰。君滅レ族不レ久矣。夫君位爲二相國一。功第一。可二復加一哉。然君初入二關中一。得二百姓心一十餘年矣。皆附レ君。常復孳孳得二民和一。上所レ爲二數問上レ君者。畏三君傾二動關中一。今君胡不下多買二田地一。賤

め、悉く有る所を以て軍を佐くること、陳豨の時の如くす。客の相國に說くものの有り。曰く、君の族を滅せられんこと久しからじ。夫れ君の位は相國爲り、功は第一なり、復加ふべけんや。然れども君初め關中に入り、百姓の心を得たること十餘年なり。皆君に附けり。常に復民の和を得るに孳孳たり。(三)上が數〻君を問ふを爲す所の者は、君が關中を傾動するを畏るゝのみ。今君胡ぞ多く田地を買ひ、賤貰貸(四)して以て自ら汙さざる、上の心乃ち安からんと。是に於て相國は其計に從ふ。上乃ち大いに說ぶ。上が布の軍を罷め歸るや、民は道に行を遮り、上書して相國が賤しく彊ひて民の田宅を買ふこと數千萬なるを言ふ。上至り、相國謁す。上笑つて曰く、夫れ相國は乃ち民より利するかと。民の上書せし所、皆以て相國に與へて曰く、君自ら民に謝せよと。相國因りて民の爲に請うて曰く、長安は地狹し。(五)上林の中に空地の棄れたるもの多し、願くは民をして入り田つくるを得て、(六)藁を收むる毋く、禽獸の食と爲さしめんと。

誅。使下使拜二丞相何一爲中相國上。益二封五千戸一。令三卒五百人、一都尉爲二相國衞一。諸君皆賀。召平獨弔。召平者。故秦東陵侯。秦破爲二布衣一。貧種二瓜於長安城東一。瓜美。故世俗謂二之東陵瓜一。從二召平一以爲レ名也。召平謂二相國一曰。禍自レ此始矣。上暴二露於外一。而君守二於中一。非下被二矢石一之事上。而益二君封一置レ衞者。以三今者淮陰侯新反二於中一。疑二君心一矣。夫置レ衞衞レ君。非二以寵レ君也。願君讓レ封勿レ受。悉以二家私財一佐レ軍。則上心說。相國從二其計一。高帝乃大喜。

召平より以て名と爲すなり。召平は相國に謂つて曰く、禍は此より始らん。上は外に暴露し、而して君は中に守り、矢石を被るの事に非ず。而るに君の封を益して衞を置く者は、今は淮陰侯新に中に反せしを以て、君が心を疑ふなり。夫れ衞を置いて君を衞るは、以て君を寵するに非ざるなり。願くは君封を讓りて受くること勿く、悉く家の私財を以て軍を佐けよ。則ち上の心說ばんと。相國其計に從ふ。高帝乃ち大いに喜ぶ。

(一) 兵事の未だ罷まざるなり　(二) 韓信の事　(三) 淮陰侯列傳中に記事あり　(四) 發に從ふ

漢十二年。秋。黥布反。上自將擊レ之。數使

漢の十二年秋、黥布反す。上自ら將として之を擊ち、數〻使して相國に何をか爲すと問はしむ。相國は上の軍に在るが爲に、乃ち百姓を拊循勉力せし

食不レ乏。陛下雖三數亡二山東一。蕭何常全二關中一。以待二陛下一。此萬世之功也。今雖下亡二曹參等一百數上何缺二於漢一。漢得レ之不レ必レ待二以全一。奈何欲下以二一旦之功一。而加中萬世之功上哉。蕭何第一。曹參次レ之。高祖曰。善。於レ是乃令下蕭何賜中帶レ劍履上レ殿入レ朝不上レ趨。上曰。吾聞進レ賢受二上賞一。蕭何功雖レ高。得二鄂君一乃益明。於レ是因二鄂君故所レ食關內侯邑一。封爲二安平侯一。是日悉封二何父子兄弟十餘人一。皆有二食邑一。乃益二封何二千戶一。以下帝嘗繇二咸陽一時。何送レ我獨贏中奉錢二上也。

㊀抑へ斥く ㊁反叛せず ㊂名は千秋 ㊃兵と糧と共に缺乏せる場へ ㊄現在に食すべき糧食 ㊅還御を待つ ㊆安全を期するに足らず ㊇舊邑を其儘に存するなり ㊈領地

漢十一年。陳豨反。高祖自將至二邯鄲一。未レ罷。淮陰侯謀二反關中一。呂后用二蕭何計一。誅二淮陰侯一。語在二淮陰事中一。上已聞二淮陰侯

漢の十一年、陳豨反す。高祖は自ら將として邯鄲に至り、未だ罷まざるに、(一)淮陰侯は關中に謀反す。呂后は蕭何の計を用ひて、淮陰侯を誅せり。語に(二)淮陰の事中に在り。上已に淮陰侯の誅を聞き、使をして丞相何を拜して相國と爲さしめ、五千戶を益封し、卒五百人と一都尉とをして、相國の衞爲らしむ。諸君皆賀するに、召平は獨り弔せり。召平は故の秦の東陵侯なり。秦破るゝや布衣と爲り、貧にして瓜を長安城の東に種うるに、瓜美なり。故に世俗に之を東陵瓜と謂ふは、

一。關內侯鄂君進曰。羣臣議皆誤。夫曹參雖有野戰略地之功。此特一時之事。夫上與楚相距五歲。常失軍亡衆。逃身遁者數矣。然蕭何常從關中遣軍補其處。非上所詔令召。而數萬衆。會上之乏絕者數矣。夫漢與楚相守滎陽數年。軍無見糧。蕭何轉漕關中。給

す所に非ざるに、數萬の衆は、上の乏絕に會する者數〻なり。夫れ漢と楚と滎陽に相守ること數年、軍に見糧無し。蕭何關中より轉漕し、給食乏しからず。陛下は數〻山東を亡へりと雖も、蕭何は常に關中を全うして、以て陛下を待ちき。此れ萬世の功なり。今曹參等を亡ふこと百數なりと雖も、何ぞ漢に缺かんや。漢之を得とも、以て全きを待つを必せじ。奈何ぞ一旦の功を以て、萬世の功に加へんと欲するや。蕭何第一、曹參之に次ぐと。高祖曰く、善しと。是に於て乃ち蕭何をして、劍を帶びて、履はいて殿に上り、朝に入りて趨らざるを賜はしむ。上曰く、吾聞く賢を進むるは上賞を受くと。蕭何の功高しと雖も、鄂君を得て乃ち益〻明なりと。是に於て、鄂君が故食みし所の關內侯の邑に因り、封じて安平侯と爲し、是日悉く何が父子兄弟十餘人を封ず。皆食邑有り。乃ち何に二千戶を益封す。帝が嘗て咸陽に繇せし時、何が我に送るに、獨り奉錢二を贏ししを以てなり。

者百餘戰。少者數十合。攻レ城略レ地。大小各有レ差。今蕭何未三嘗有二汗馬之勞一。徒持二文墨一。議論不レ戰。顧反居二臣等上一何也。高帝曰。諸君知レ獵乎。曰。知レ之。知二獵狗一乎。曰。知レ之。高帝曰。夫獵追二殺獸兎一者狗也。而發蹤指二示獸處一者人也。今諸君徒能得二走獸一耳。功狗也。至レ如二蕭何一。發蹤指示。功人也。且諸君獨以レ身隨レ我。多者兩三人。今蕭何擧宗數十人皆隨レ我。功不レ可レ忘也。羣臣皆莫二敢言一。

㈠河南榮陽の南方なる京縣索邑　㈡衣服を風日に暴露し、車蓋を雨露に濕潤す　㈢戰鬪跳躍の勞　㈣法律規則を執行す　㈤然るにの義　㈥狗を放ち遣はすなり、蹤は縱に同じ　㈦一族悉く

列侯畢已受レ封。及レ奏二位次一。皆曰。平陽侯曹參。身被二七十創一。攻レ城略レ地。功最多。宜二第一一。上已撓二功臣一。多封二蕭何一。至二位次一未レ有二以復難一レ之。然心欲二何第

列侯畢く已に封を受け、位次を奏するに及ぶ。皆曰く、平陽侯曹參は、身に七十創を被り、城を攻め地を略す、功最も多し、宜しく第一なるべしと。上已に功臣を撓へて(一)、多く蕭何を封ぜり。位次に至りては、未だ以て復之を難ずる(二)有らざるも、然も心に何の第一ならんことを欲す。關內侯鄂君(三)進んで曰く、羣臣の議は皆誤れり。夫れ曹參は野戰略地の功有りと雖も、此れ特一時の事のみ。夫れ上と楚と相距ぐこと五歲、常に軍を失ひ衆を亡ひ、身を逃れて遁るゝ者數〻なり、然るに蕭何は常に關中より軍を遣りて其處を補へり。上が詔令して召

衣露、諸數使三
使勞二苦君一者。有レ疑二君心一也。爲レ君計莫レ若下遣二君子孫昆弟能勝レ兵者一悉詣中軍所上。上必益信レ君。於レ是何從二其計一。漢王大說。漢五年。既殺二項羽一定二天下一。論レ功行レ封。羣臣爭レ功。歲餘功不レ決。高祖以二蕭何功最盛一。封爲二酇侯一。所レ食邑多。功臣皆曰。臣等身被レ堅執レ銳。多

君を信ぜんと。是に於て何は其計に從ふ。漢王大いに說ぶ。漢の五年、既に項羽を殺して天下を定め、功を論じ封を行ふに、羣臣功を爭ひ、歲餘まで功決せず。高祖は蕭何が功最も盛なるを以て、封じて酇侯と爲す、食む所の邑多し。功臣皆曰く、臣等は身に堅を被り銳を執り、多き者は百餘戰、少き者も數十合。城を攻め地を略す、大小各〻差有り。今蕭何は未だ嘗て汗馬の勞有らず、徒に(四)文墨を持し、議論して戰はざるに、顧(五)ふに反つて臣等の上(三)に居るは何ぞやと。高帝曰く、諸君獵を知るか、曰く、之を知る。獵狗を知るか、曰く、之を知ると。高帝曰く、夫れ獵に獸兎を追ひ殺す者は狗なり、而も發蹤(六)して獸の處を指示する者は人なり。今諸君は徒能く走獸を得るのみ、功狗なり。蕭何が如きに至つては、發蹤指示す、功人なり。且諸君は獨り身を以て我に隨へり、多き者も兩三人のみ。今蕭何は擧宗數十人(七)、皆我に隨へり、功は忘るべからずと。羣臣皆敢て言ふもの莫し。

輒ち便宜を以て施行するを許す。上來るや以聞す。關中の事は、戸口を計り、轉漕して軍に給す。漢王數々軍を失ひ遁れ去るに、何は常に關中の卒を興して輒ち補缺す。上此を以て專ら何に關中の事を屬任す。

(一)險要の城塞 (二)推擧の義 (三)韓信の傳記中 (四)二郡の名 (五)軍の糧食 (六)陝西西安府臨潼縣 (七)奏上す (八)運漕に同じ (九)委任す

事中。漢王引兵東定三秦。何以丞相留。收巴蜀。塡撫諭告。使給軍食。漢二年。漢王與諸侯擊楚。何守關中。侍太子治櫟陽。爲法令約束。立宗廟社稷。宮室縣邑。輒奏上。可。許以從事。即不及奏上。輒以便宜施行。上來以聞。關中事計戸口。轉漕給軍。漢王數失軍遁去。何常興關中卒。輒補缺。上以此專屬任何關中事。

漢三年。漢王與項羽相距京索之間。上數使使勞苦丞相。鮑生謂丞相曰。王暴

漢の三年、漢王と項羽と、京索の間に相距ぐ。上數々使をして丞相を勞苦せしむ。鮑生は丞相に謂つて曰く、王は衣を暴し蓋を露し、數々使をして君を勞苦せしむる者は、君の心を疑ふ有ればなり。君の爲に計るに、君の子孫昆弟の能く兵に勝ふる者を遣して、悉く軍の所に詣らしむるに若くは莫し、上必ず益々

卒史事第一。秦御史欲入言徵何。何固請得毋行。及高祖起爲沛公。何常爲丞督事。沛公至咸陽。諸將皆爭走金帛財物之府分之。何獨先入。收秦丞相御史律令圖書藏之。沛公爲漢王。以何爲丞相。

(一)江蘇徐州府　(二)法を持すること公平　(三)法を司り兼ねて牢獄の事務を執る　(四)救國　(五)宿驛の長　(六)役夫として出張す　(七)餞別金　(八)蕭何よくその事務を處辨す　(九)事務官となり事務を執行す　(十)事務を總督す　(十一)宮殿に入るなり

項王與諸侯。屠燒咸陽而去。漢王所以具知天下阨塞。戶口多少。彊弱之處。民所疾苦者。以何具得秦圖書也。何進言韓信。漢王以信爲大將軍。語在淮陰侯

項王諸侯と咸陽を屠り燒きて去る。漢王が具に天下の阨塞、戶口の多少、彊弱の處、民の疾苦する所を知りし所以の者は、何が秦の圖書を具へ得たるを以てなり。何は韓信を進言せり、漢王は信を以て大將軍と爲せり。語は淮陰侯の事中に在り。漢王兵を引き、東して三秦を定むるや、何は丞相を以て留り、巴蜀を收め、塡撫諭告して、軍食を給せしむ。漢の二年、漢王は諸侯と楚を擊つ。何は關中を守り、太子に侍して、櫟陽を治し、法令約束を爲り、宗廟・社稷・宮室・縣邑を立つ。輒ち奏上す、可とし、以て事に從ひ、卽ち奏上するに及ばず、

蕭相國何者。沛豐人也。以二文無害一。爲二沛主吏掾一。高祖爲二布衣一時。何數以二吏事一護二高祖一。高祖爲二亭長一。常左二右之一。高祖以レ吏繇二咸陽一。吏皆送二奉錢三一。何獨以レ五。秦御史監レ郡者。與從事常辨レ之。何乃給二泗水

卷五十三

蕭相國世家第二十三

蕭相國何は、沛の豐の人なり。(二)文無害なるを以て、沛の(三)主吏掾と爲る。高祖布衣爲る時、何は數〻吏事を以て高祖を護す。(四)高祖(五)亭長と爲るや、常に之に左右す。高祖が吏を以て咸陽に(六)繇するや、吏皆(七)奉錢三を送るに、何獨り五を以てせり。秦の御史の郡を監する者、與に從事するに、(八)常に之を辨ず。何乃ち泗水卒史(九)の事に給して、第一たり。秦の御史、入り言ひて何を徵さんと欲す。何は固く請うて行く毋きを得たり。高祖が起ちて沛公と爲るに及び、何は常に丞と爲りて、事を督す。沛公が咸陽に至るや、諸將皆爭うて、金帛財物の府に走りて、之を分つ。(一〇)何獨り先づ入り、(一一)秦の丞相御史の律令圖書を收めて之を藏す。沛公漢王と爲るや、何を以て丞相と爲す。

は漢に入り、膠東郡と爲りき。

靖王。二十年卒。子遺代立。是爲頃王。三十六年卒。子終古立。是爲思王。二十八年卒。子尚立。是爲孝王。五年卒。子横立。至建始三年。十一歲卒。膠西王卬。齊悼惠王子。以昌平侯文帝十六年。爲膠西王。十一年與吳楚反。漢擊破殺卬。地入于漢。爲膠西郡。膠東王雄渠。齊悼惠王子。以白石侯文帝十六年。爲膠東王。十一年與吳楚反。漢擊破殺雄渠。地入于漢。爲膠東郡。

太史公曰。諸侯大國。無過齊悼惠王。以海內初定。子弟少。激秦之無尺土封。故大封同姓。以塡萬民之心。及後分裂。固其理也。

太史公曰く、諸侯の大國は、齊の悼惠王に過ぎたるは無し。以ふに海內初めて定まり、子弟少し、秦の尺土の封無きに激す、(一)故に大いに同姓を封じ、以て萬民の心を塡めき。後に及んで分裂せしも、固より其理なり。

(一) 秦の皇族に尺寸の地をも有する者無かりしに懲りて其弊を防がんとせしを謂ふ

吳楚一反。漢擊破。殺二辟光一。以二濟南一爲レ郡。地入二于漢一。

菑川王賢。齊悼惠王子。以二武城侯一。文帝十六年。爲二菑川王一。十一年與二吳楚一反。漢擊破殺レ賢。天子因徙二濟北王志一王二菑川一。志亦齊悼惠王子。以二安都侯一王二濟北一。菑川王反毋レ後。乃徙二濟北王一王二菑川一。凡立三十五年卒。謚爲二懿王一。子建代立。是爲二

菑川王賢は、齊の悼惠王の子なり、武城侯を以て、文帝の十六年に菑川王と爲り、十一年に吳楚と反す。漢擊破して賢を殺す。天子因りて濟北王志を徙して、菑川に王とす。志も亦齊の悼惠王の子なり、安都侯を以て濟北に王たり。菑川王反して後毋し。乃ち濟北王を徙して菑川に王とす。凡そ立つの三十五年に卒す、謚して懿王と爲す。子建代り立つ、是を靖王と爲す。二十年に卒し、子遺代り立つ、是を頃王と爲す。三十六年に卒し、子終古立つ、是を思王と爲す。二十八年に卒し、子尙立つ、是を孝王と爲す。五年に卒して子橫立つ。建始三年に至り、十一歲にして卒せり。膠西王卬は齊の悼惠王の子なり、昌平侯を以て、文帝の十六年に膠西王と爲る。十一年、吳楚と反す。漢擊破して卬を殺す。地は漢に入りて膠西郡と爲りき。膠東王雄渠も、齊の悼惠王の子なり。白石侯を以て、文帝の十六年に膠東王と爲る。十一年吳楚と反す。漢は擊破して雄渠を殺す。地

之初欲立齊王。故繼其功。及二年王諸子。乃割齊二郡以王章興居。章興居。自以失職奪功。章死。而興居聞匈奴大入漢。漢多發兵。使丞相灌嬰擊之。文帝親幸太原以爲天子自擊胡。遂發兵反於濟北。天子聞之。罷丞相及行兵。皆歸長安。使棘蒲侯柴將軍擊破虜濟北王。王自殺。地入于漢爲郡。後十二年。文帝十六年。復以齊悼惠王子安都侯志爲濟北王。十一年。吳楚反時。志堅守。不與諸侯合謀。吳楚已平。徙志王菑川。濟南王辟光。齊悼惠王子。以勒侯孝文十六年爲濟南王。十一年

漢多く兵を發し、丞相灌嬰をして之を擊たしめ、文帝親ら太原に幸すと聞き、以爲らく天子自ら胡を擊つと。遂に兵を發して濟北に反す。天子之を聞き、丞相及び行兵(二)を罷めて、皆長安に歸らしめ、棘蒲侯柴將軍(三)をして擊破せしめ、濟北王を虜にす、王自殺す、地は漢に入りて郡と爲る。後十二年、文帝の十六年、復齊の悼惠王の子、安都侯志を以て濟北王と爲す。十一年に吳楚の反せし時、志は堅守し、諸侯と謀を合せず。吳楚已に平ぐや、志を徙して菑川に王たらしむ。濟南王辟光は齊の悼惠王の子なり、勒侯を以て、孝文の十六年に、濟南王と爲る。十一年、吳楚と反す。漢擊つて破り、辟光を殺し、濟南を以て郡と爲し、地は漢に入る。

㊀ 斥けて少くす　㊁ 出張の親兵　㊂ 名は武

王二城陽一。凡三十三年卒。子建延立。是爲二頃王一。頃王二十八年卒。子義立。是爲二敬王一。敬王九年立。子武立。是爲二惠王一。惠王十一年卒。子順立。是爲二荒王一。荒王四十六年卒。子恢立。是爲二戴王一。戴王八年卒。子景立。至二建始三年一。十五歲卒。濟北王興居。齊悼惠王子。以二東牟侯一助二大臣一誅二諸呂一功少。及二文帝從レ代來一。興居曰。請與二太僕嬰一入清レ宮。廢二少帝一。共與二大臣一尊二立孝文帝一。孝文帝二年。以二齊之濟北郡一。立二興居一爲二濟北王一。與二城陽王一倶立。立二年反。

と。少帝を廢し、共に大臣と孝文帝を尊立す。孝文帝の二年、齊の濟北郡を以て興居を立てて濟北王と爲し、城陽王と倶に立つ。立つの二年に反せり。

（一）以下恐らく褚少孫の補作ならんとの說あり　（二）成帝の年號　（三）侍從長の稱、時に夏侯嬰該官に居る　（四）后妃世家參照

始大臣誅二呂氏一時。朱虛侯功尤大。許下盡以二趙地一王二朱虛侯。盡以二梁地一王中東牟侯上。及二孝文帝立一。聞二朱虛東牟

始め大臣が呂氏を誅せし時、朱虛侯の功は尤も大なり。盡く趙の地を以て朱虛侯を王とし、盡く梁地を以て東牟侯を王とするを許す。孝文帝立つに及び、朱虛・東牟が初に齊王を立てんと欲せしを聞き、故に其功を絀け、二年に及びて諸子を王とし、乃ち齊の二郡を割いて以て章・興居を王とせり。章・興居は自ら以ふ、職を失ひ功を奪はると。章死す、而して興居は匈奴が大いに漢に入り、

奉㆓悼惠王祭祀㆒。城陽景王章。齊悼惠王子。以㆓朱虛侯㆒與㆓大臣㆒共誅㆓諸呂㆒。而章身首先斬㆓相國呂王產於未央宮㆒。孝文帝既立。益㆓封章二千戸㆒。賜㆓金千斤㆒。孝文二年。以㆓齊之城陽郡㆒。立㆑章爲㆓城陽王㆒。立二年卒。子喜立。是爲㆓共王㆒。共王八年。徙㆓王淮南㆒。四年復還

城陽の景王章は、齊の悼惠王の子なり、朱虛侯を以て、大臣と共に諸呂を誅す、而して章は身首として先づ相國呂王產を未央宮に斬りき。孝文帝既に立つや、章を二千戸に益し封じ、金千斤を賜ふ。孝文の二年、齊の城陽郡を以て、章を立てて城陽王と爲す。立つこと二年に卒し、子喜立つ、是を共王と爲す。共王の八年、徙りて淮南に王たり。四年復還りて城陽に王たり。凡そ三十三年にして卒す。子建延立つ、是を頃王と爲す。頃王は二十八年に卒し、子義立つ、是を敬王と爲す。敬王は九年に卒し、子武立つ、是を惠王と爲す。惠王は十一年に卒し、子順立つ、是を荒王と爲す。荒王は四十六年に卒し、子恢立つ、是を戴王と爲す。戴王は八年に卒し、子景立つ、建始三年に至り、十五歲にして卒せり。濟北王興居は、齊の悼惠王の子なり、東牟侯を以て大臣を助けて諸呂を誅す功少し。文帝の代より來るに及び、興居曰く、請ふ太僕嬰と入りて、宮を淸めん

王通二於姉翁主所一者上。令二其辭證一。皆引レ王。王年少。懼四大罪爲三吏所二執誅一。乃飲レ藥自殺。絶無レ後。是時趙王懼二主父偃一出廢レ齊。恐三其漸疏二骨肉一。乃上書言二偃受レ金及輕重之短一。天子亦既囚レ偃。公孫弘言。齊王以レ憂死毋レ後。國入レ漢。非レ誅レ偃無三以塞二天下之望一。遂誅レ偃。齊厲王立五年死。毋レ後。國入二于漢一。齊悼惠王後尚有二二國一。城陽及菑川。菑川地比レ齊。天子憐レ齊。爲二悼惠王冢園在レ郡割二臨菑東一環二悼惠王冢園邑一。盡以予二菑川一。以

て、吏の執へ誅する所と爲るを懼れ、乃ち藥を飲みて自殺す。絶えて後無し。是時、趙王は、主父偃が一たび出でて齊を廢したるを懼れ、其漸く骨肉を疏にする(三)を恐る。乃ち上書して、偃が金を受けしこと(四)、及び輕重(五)の短を言ふ。天子亦既に偃を囚ふ。公孫弘言ふ、齊王は憂を以て死し、後毋く、國は漢に入れり。偃を誅するに非ずんば、以て天下の望を塞ぐ無けんと。遂に偃を誅す。齊の厲王立ち、五年にして死し、後毋し。國は漢に入る。齊の悼惠王の後、尚二國有り、城陽及び菑川なり。菑川の地は齊に比し(六)。天子は齊を憐み、悼惠王の冢園の郡に在るが爲に、臨菑の東を割き、悼惠王の冢園邑を環らし、盡く以て菑川に予へて以て悼惠王の祭祀を奉ぜしむ。

(一) 調査糺問す　(二) 言辭もて證據立つ　(三) 天子の骨肉を疏遠にす　(四) 賄賂を受けし事迹　(五) 財政上の論議の缺點　(六) 近接す

甲大窮。還。報二皇太后一曰。王已願レ尚レ娥。然有二一害。恐如二燕王。燕王者與二其子昆弟一姦。新坐以死亡レ國。故以レ燕惑二太后一。太后曰。無下復言中嫁二女齊一事上。事浸潯。不レ得レ聞二於天子。主父偃由レ此亦與レ齊有レ郤。主父偃方幸二於天子一用レ事。因言。齊臨菑十萬戸。市租千金。人衆殷富。巨二於長安一。此非二天子親弟愛子一。不レ得レ王レ此。今齊王於二親屬一益疏。乃從容言。呂太后時齊欲レ反。吳楚時孝王幾爲レ亂。今聞齊王與二其姉一亂。於レ是天子乃拜二主父偃一爲二齊相一。且レ正二其事一。

り、人衆殷富、長安よりも巨なり。此れ天子の親弟愛子に非ずんば、此に王たるを得ず。今は齊王、親屬に於て益々疎なりと。乃ち從容として言ふらく、呂太后の時に、齊は反せんと欲しき。吳楚の時、孝王は幾ど亂を爲せり。今は聞く、齊王は其姉と亂ると。是に於て、天子は乃ち主父偃を拜して齊相と爲し、且に其事を正さしめんとす。

(一)后を迎へ定む　(二)諷しさとす　(三)生活に困窮危急なり　(四)困りぬく　(五)事情の漸く深入するなり　(六)間隙　(七)賣上上納の稅金　(八)親族とは言へ餘程遠縁となれり

主父偃既至レ齊。乃急治下王後宮宦者爲レ

主父偃既に齊に至るや、乃ち急に王の後宮宦者の、王の爲に姉翁主の所に通じたる者を治し、其をして辭證せしむるに、皆王を引く。王は年少し、大罪あり

名レ娥。太后欲レ嫁二之於諸侯一。宦者甲乃請使レ齊。必令二王上書請一レ娥。皇太后喜、使二甲之一レ齊。

是時齊人主父偃。知二甲之使レ齊以取レ后事一。亦因謂レ甲。即事成幸言二偃女一。願得レ充二王後宮一。甲既至レ齊。風以二此事一。紀太后大怒曰。王有レ后。宮具備。且甲齊貧人。急。乃爲二宦者一。入事レ漢無二補益一。乃欲レ亂二吾王家一。且主父偃何爲者。乃欲三以レ女充二後宮一。徐

是時齊人主父偃は、甲が齊に使して以て后(一)を取るの事を知り、亦因りて甲に謂ふらく、卽し事成らば幸に偃の女を言へ、願くは王の後宮に充つるを得んと。甲既に齊に至るや、風(二)するに此事を以てす。紀太后大いに怒つて曰く、王に后有り、後宮も具備す。且甲は齊の貧人なり、急(三)なり。乃ち宦者と爲り、入りて漢に事ふるも補益無し。乃ち吾が王家を亂さんと欲するか。且父父偃は何爲る者ぞ、乃ち女を以て後宮に充てんと欲すると。徐甲大いに窮(四)す。還りて皇太后に報じて曰く、王已に娥を尙するを願へども、然れども一害有り、恐らくは燕王の如くならんと。燕王は、其子昆弟と姦し、新に坐して以て死し國を亡へり。故に燕を以て太后を感ぜしむるなり。太后曰く、復女を齊に嫁する事を言ふ無れ、事濅(五)潯せば、天子に聞するを得ざらんと。主父偃も此に由りて、亦齊と郤(六)有り、主父偃は方に天子に幸せられ、事を用ふ。因りて言ふ、齊の臨菑は十萬戸、(七)市租千金あ

孝王懼。乃飲レ藥自殺。景帝聞レ之。以爲齊首善。以二迫劫一有レ謀。非二其罪一也。乃立二孝王太子壽一爲二齊王一。是爲二懿王一。續二齊後一。而膠西膠東濟南菑川王。咸誅滅。地入二于漢一。徙二濟北王一。王二菑川一。齊懿王立。二十二年卒。子次景立。是爲二厲王一。齊厲王。其母曰二紀太后一。太后取二其弟紀氏女一。爲二厲王后一。王不レ愛二紀氏女一。太后欲二其家重レ寵。令下其長女紀翁主入二王宮一正中其後宮上。毋レ令レ得レ近レ王。欲レ令レ愛二紀氏女一。王因與二其姊翁主一姦。齊有二宦者徐甲一。入事二漢皇太后一。太后有二愛女一曰二脩成君一。脩成君非二劉氏一。太后憐レ之。脩成君有レ女。

は、其母を紀太后と曰ふ。太后は其弟紀氏の女を取りて、厲王の后と爲すに、王は紀氏の女を愛せず。太后は其家の寵を重ねんことを欲し(二)、其長女紀翁主(三)をして王宮に入り、其後宮を正し、王に近づくを得しむる毋らしめ、紀氏の女を愛せしめんと欲す。王因りて其姊の翁主と姦す。齊に宦者徐甲といふもの有り、入りて漢の皇太后に事ふ。太后に愛女有り、脩制君と曰ふ。脩制君は劉氏に非ず、太后(四)之を憐む。脩制君に女有り、娥と名づく。太后は之を諸侯に嫁せんと欲す。宦者甲は、乃ち請うて齊に使し、必ず王をして上書して娥を請はしめんとす。皇太后喜び、甲をして齊に之かしめき。

(一) 脅迫強要　(二) 代々一家に寵を專有せんと欲す　(三) 諸王の女を翁主と謂ふ、母姊を稱して紀翁主と曰ふなり
(四) 王太后なり

破二呉楚一矣。路中大夫至。三國兵圍二臨菑一數重。無二從入一。三國將劫與二路中大夫一盟曰。若反言。漢已破矣。齊趣下二三國一。不レ且レ見レ屠。路中大夫既許レ之。至二城下一望二見齊王一曰。漢已發二兵百萬一。使下太尉周亞夫擊二破呉楚一。方引レ兵救上レ齊。齊必堅守無レ下。三國將誅二路中大夫一。

齊初圍急。陰與二三國一通レ謀。約未レ定。會聞二路中大夫從レ漢來一喜。及其大臣。乃復勸レ王毋レ下二三國一。居無レ何。漢將欒布平陽侯等兵至レ齊。擊二破三國兵一。解二齊圍一。已而復聞下齊初與二三國一有上レ謀。將レ欲二移レ兵伐一レ齊。齊

齊初め圍急なり、陰に三國と謀を通ず、約未だ定らざるに、會〻路中大夫が漢より來ると聞いて喜び、及び其大臣は、乃ち復王に勸めて三國に下る毋らしむ。居ること何も無く、漢將欒布・平陽侯等の兵齊に至り、擊つて三國の兵を破り齊の圍を解く。已にして復齊が初め三國と謀有りしを聞き、將に兵を移して齊を伐たんと欲せんとす。齊の孝王懼れ、乃ち藥を飲んで自殺す。景帝之を聞き、以爲らく、齊は首として善し、迫劫を以て謀有りしのみ、其罪に非ずと。乃ち孝王の太子壽を立てて齊王と爲す。是を懿王と爲す、齊の後を續ぐ。而して膠西・膠東・濟南・菑川の王は、咸誅滅せられ、地は漢に入る。濟北王を徙して、菑川に王とす。齊の懿王立ち、二十二年に卒す。子次景立つ、是を厲王と爲す。齊の厲王

齊北王。子辟光爲二濟南王一。子賢爲二菑川王一。子卬爲二膠西王一。子雄渠爲二膠東王一。與二城陽一。齊凡七王。齊孝王十一年。吳王濞。楚王戊反。興レ兵西告二諸侯一曰。將下誅二漢賊臣鼂錯一以安中宗廟上。膠西膠東菑川濟南。皆擅發レ兵應二吳楚一。欲レ與レ齊。齊孝王狐疑。城守不レ聽。三國兵共圍レ齊。齊王使三路中大夫告二於天子一。天子復令三路中大夫還告二齊王一。善堅守。吾兵今

侯に告げて曰く、將に漢の賊臣鼂錯を誅して、以て宗廟を安んぜんとすと。膠西・膠東・菑川・濟南、皆擅に兵を發し、吳楚に應じて齊と與にせんと欲す。齊の孝王は狐疑し、城守して聽かず。三國(一)の兵は共に齊を圍む。齊王は路中大夫(二)をして天子に告げしむ。天子は復路中大夫をして還つて齊王に告げしむらく、善く堅守せよ、吾が兵今に吳楚を破らんと。路中大夫至るに、三國の兵は臨菑を圍むこと數重なり、從り入るべき無し。三國の將、劫して路中大夫と盟つて曰く、若反言せよ。漢は已に破れたり、齊趣に三國に下れ、不らずんば且に屠られんとすと。路中大夫既に之を許し、城下に至り、齊王を望見して曰く、漢已に兵百萬を發し、太尉周亞夫をして擊つて吳楚を破り、方に兵を引いて齊を救はしむ。齊必ず堅守せよ、下る無れと。三國の將は路中大夫を誅せり。

(一) 膠西菑川濟南　(二) 中大夫路卬

燕。益二封朱虛侯東牟侯各二千戸一。是歲齊哀王卒。太子側立。是爲二文王一。齊文王元年。漢以二齊之城陽郡一。立二朱虛侯一爲二城陽王一。以二齊濟北郡一。立二東牟侯一爲二濟北王一。二年。濟北王反。漢誅二殺之一。地入二于漢一。後二年。孝文帝盡封二齊悼惠王子罷軍等七人一。皆爲二列侯一。齊文王立十四年卒。無レ子。國除。地入二于漢一。後一歲。孝文帝以二所レ封悼惠王子一。分レ齊爲レ王。

北王と爲す。二年濟北王反す。漢は之を誅殺し、地は漢に入る。後二年、孝文帝は盡く齊の悼惠王の子罷軍等七人を封じ、皆列侯と爲す。齊の文王立ちて十四年に卒し、子無し、國除かれ、地は漢に入りき。後一歲、孝文帝は、封ぜし所の悼惠王の子を以て、齊を分つて王と爲す。

㊀ 嘗に封じて列侯と爲したる悼惠王の子六人を以て齊を分つて六王とす

齊孝王將閭。以二悼惠王子楊虛侯一爲二齊王一。故齊別郡。盡以王二悼惠王子一。子志爲二

齊の孝王將閭は、悼惠王の子楊虛侯を以て齊王と爲り、故の齊の別郡は、盡く悼惠王の子を王とす。子志は濟北王と爲り、子辟光は濟南王と爲り、子賢は菑川王と爲り、子卬は膠西王と爲り、子雄渠は膠東王と爲る。城東と與に、齊は凡て七王あり。齊の孝王十一年、吳王濞と楚王戊と反して、兵を興し、西のかた諸

欲レ求レ見二齊相曹參一。家貧。無二以自通一。乃常獨早夜掃二齊相舍人門外一。相舍人怪レ之。以爲レ物。而伺レ之得レ勃。勃曰。願レ見二相君一無レ因。故爲レ子掃。欲三以求二見。於レ是舍人見レ勃。曹參因以爲二舍人一。一爲レ參御言レ事。參以爲レ賢。言二之齊悼惠王一。悼惠王召見。則拜爲二內史一。始悼惠王得三自置二二千石一。及二悼惠王卒一。而哀王立。勃用レ事重二於齊相一。

は、自ら二千石を置くを得たり。悼惠王卒して哀王立つに及び、勃は事を用ひ、齊相より重んぜられき。

㈠ 戰々兢々股に栗を生ずるなり　㈡ 虛妄なる凡庸の人　㈢ 朝夕に同じ　㈣ 怪物なりと思惟す　㈤ 緣故　㈥ 勝手に高官を置くを許可せられたる特權あるを謂ふ、二千石は郡守の祿なり

王既罷レ兵歸。而代王來立。是爲二孝文帝一。孝文帝元年。盡以二高后時所レ割。齊之城陽琅邪濟南郡一。復與レ齊。而徙二琅邪王一王レ

王既に兵を罷め歸るや、代王來り立つ、是を孝文帝と爲す。孝文帝の元年、盡く高后の時に割きし所の、齊の城陽・琅邪・濟南の郡を以て、復齊に與ふ。而して琅邪王を徙して燕に王とす。朱虛侯・東牟侯に、各々二千戶を益し封ず。是歲齊の哀王卒し、太子側立つ、是を文王と爲す。齊の文王の元年、漢は齊の城陽郡を以て、朱虛侯を立てて城陽王と爲し、齊の濟北郡を以て、東牟侯を立てて濟

灌嬰在二滎陽一。聞三魏勃本敎二齊王反一。既誅二呂氏一罷二齊兵一。使三使召二責問魏勃。勃曰。失火之家。豈暇下先言二大人一。而後救中火乎。因退立股戰而栗。恐不レ能レ言者。終無二他語一。灌將軍熟視笑曰。人謂二魏勃勇一。妄庸人耳。何能爲乎。乃罷魏勃。魏勃父以二善鼓上琴一。見二秦皇帝一。及二魏勃少時一。

灌嬰は滎陽に在りて、魏勃が本齊王に反を敎へしを聞き、既に呂氏を誅して齊兵を罷むるや、使をして召さしめ、魏勃を責め問ふ。勃曰く、失火の家は豈先づ大人に言つて、而る後に火を救ふに暇あらんやと。因りて退き立ち、股戰(一)して栗れ恐れて言ふ能はざる者のごとく、終に他語無し。灌將軍熟視して笑つて曰く、人は魏勃を勇なりと謂ふも、妄庸人(二)のみ、何ぞ能く爲さんやと。乃ち魏勃を罷めき。魏勃の父は、善く琴を鼓するを以て秦の皇帝に見えき。魏勃の少時に及び、齊相曹參に見えんことを求めんと欲す。家貧しく、以て自ら通ずる無し。乃ち常に獨り早夜(三)に齊相の舍人の門外を掃ふ。相の舍人之を怪み、以て物(四)と爲す。之を伺うて勃を得たり。勃曰く、相君に見えんことを願へども因(五)無し、故に子が爲に掃ひ、以て見を求めんと欲すと。是に於て舍人は勃を見えしむ。曹參は因りて以て舍人と爲す。一たび參の爲に御して事を言へるに、參は以て賢なりと爲し、之を齊の悼惠王に言ふ、悼惠王召し見て、則ち拜して內史と爲せり。始め悼惠王

作亂關中。朱虚侯與太尉勃丞相平等誅之。朱虚侯首先斬呂産。於是太尉勃等乃得盡誅諸呂。而琅邪王亦從齊至長安。大臣議欲立齊王。而琅邪王及大臣曰。齊王母家駟鈞惡戾。虎而冠者也。方以呂氏故幾亂天下。今又立齊王。是欲復爲呂氏也。代王母家薄氏。君子長者。且代王又親高帝子。於今見在。且最爲長。以子則順。以善人則大臣安。於是大臣乃謀。迎立代王。而遣朱虚侯以誅呂氏事告齊王。令罷兵。

朱虚侯首として先づ呂産を斬る。是に於て太尉勃等は乃ち盡く諸呂を誅するを得たり。而して琅邪王も亦齊より長安に至りぬ。大臣議し、齊王を立てんと欲す。琅邪王及び大臣曰く、齊王の母家駟鈞は惡戾なり、虎にして冠する者なり。方に呂氏の故を以て幾ど天下を亂せるに、今又齊王を立つるは、是れ復呂氏爲らんと欲するなり。代王の母家薄氏は、君子長者なり。且代王は又親(一)高帝の子なり、今に於て見(二)に在り、且最も長と爲す。子を以てすれば則ち順、善人を以てすれば則ち大臣安しと。是に於て大臣乃ち謀り、迎へて代王を立つ。而して朱虚侯を遣り、呂氏を誅せし事を以て齊王に告げ、兵を罷めしむ。

(一) 實にの義、高帝の實子なるを謂ふ　(二) 現在

王。滅梁燕趙。以王諸呂。分齊國爲四。忠臣進諫。上惑亂不聽。今高后崩。皇帝春秋富。未能治天下。固恃大臣諸將。今諸呂又擅自尊官。聚兵。嚴威。劫列侯忠臣。矯制以令天下。宗廟所以危。今寡人率兵。入誅不當爲王者。漢聞齊發兵而西。相國呂產乃遣大將軍灌嬰。東擊之。灌嬰至滎陽。乃謀曰。諸呂將兵居關中。欲危劉氏而自立。我今破齊還報。是益呂氏資也。乃留兵屯滎陽。使使喩齊王及諸侯。與連和以待呂氏之變。而共誅之。齊王聞之。乃西取其故濟南郡。亦屯兵於齊西界。以待約。

入りて當に王と爲るべからざる者を誅せんとすと。漢は齊が兵を發して西するを聞き、相國呂產(二)は、乃ち大將軍灌嬰を遣り、東して之を擊たしむ。灌嬰は滎陽に至り、乃ち謀りて曰く、諸呂の兵に將として關中に居るものは、劉氏を危うして自立せんと欲す。我今齊を破りて還り報ぜば、是れ呂氏の資(三)を益すなりと。乃ち兵を留めて滎陽に屯し、使をして齊王及び諸侯に喩さしめ、與に連和し、以て呂氏の變を待つて、共に之を誅せんとす。齊王之を聞き、乃ち西し、其故の濟南郡を取り、亦兵を齊の西界に屯して、以て約を待つ。

(一) 濟及び琅邪濟南城陽 (二) 呂氏の族を指す (三) 呂氏自立の資料

呂祿。呂產欲

呂祿・呂產は、亂を關中に作さんと欲す。朱虛侯は、太尉勃丞相平等と之を誅す。

而使祝午盡發琅邪國而幷將其兵。琅邪王劉澤既見欺。不得反國。乃說齊王曰。齊悼惠王高皇帝長子。推本言之。而大王高皇帝適長孫也。當立。今諸大臣狐疑。未有所定。而澤於劉氏。最爲長年。大臣待澤決計。今大王留臣無爲也。不如使我入關計事。齊王以爲然。乃益具車送琅邪王。琅邪王既行。齊遂擧兵。西攻呂國之濟南。

たり

於是齊哀王遺諸侯王書曰。高帝平定天下。王諸子弟。悼惠王於齊。悼惠王薨。惠帝使留侯張良。立臣爲齊王。惠帝崩。高后用事。春秋高。聽諸呂擅廢高帝所立。又殺三趙

是に於て齊の哀王は、諸侯王に書を遺りて曰く、高帝は天下を平定し、諸子弟を王とす。悼惠は齊に王たり。悼惠王薨ずるや、惠帝は留侯張良をして臣を立てて齊王と爲さしめき。惠帝崩じて、高后事を用ひ、春秋高く、諸呂に聽いて擅に高帝の立てし所を廢し、又三趙王を殺し、梁・燕・趙を滅して、以て諸呂を王とし、齊國を分つて四と爲す。忠臣進み諫むれども、上は惑亂して聽かず。今や高后崩じ、皇帝は春秋に富み、未だ天下を治むる能はず。固に大臣諸將を恃むのみ。今諸呂は又擅に自ら官を尊くし、兵を聚め威を嚴にし、列侯忠臣を劫し、制を矯けて以て天下に令す。宗廟の危き所以なり。今寡人は兵を率ゐ、

邪王。曰。呂氏作レ亂。齊王發レ兵欲二西誅一レ之。齊王自以二見子年少不一レ習二兵革之事。願三擧レ國委二大王一。大王自二高帝一將也。習二戰事一。齊王不二敢離一レ兵。使三臣請二大王。幸之二臨菑一。見二齊王一計レ事。幷將二齊兵一以西。平二關中之亂一。琅邪王信レ之以爲レ然。西馳見二齊王一。齊王與二魏勃等一。因留二琅邪王一。

將として、戰事に習へり。齊王敢て兵を離れず、(二)臣をして大王に請はしむ。幸に臨菑に之いて齊王に見えて事を計り、幷せてに齊兵に將とし、以て西し、關中の亂を平げよと。琅邪王之を信じ、以て然りと爲し、西に馳せて齊王に見ゆ。齊王は魏勃等と、因りて琅邪王を留め、而して祝午をして盡く琅邪國を發して、幷に其兵に將たらしむ。琅邪王劉澤は、既に欺かれ、國に反るを得ず。乃ち齊王に説いて曰く、齊の悼惠王は高皇帝の長子なり。本を推して之を言へば、大王は高皇帝の適(三)長孫なり。當に立つべし。今は諸大臣狐疑(四)して、未だ定まる所有らず。而して澤は劉氏に於て最も長年爲り、大臣固に澤が計を決するを待つ。今大王臣を留むとも爲す無きのみ、我をして關に入りて事を計らしむるに如かずと。齊王以爲らく然りと。乃ち車を益し具へて琅邪王を送る。琅邪王既に行るや、齊遂に兵を擧げ、西して呂國(五)の濟南を攻む。

(一) 戰事 (二) 兵を離るゝ能はざる意なり (三) 適長孫 (四) 疑惑多きを謂ふ (五) 前出高后の兄の子呂台之れ王

るに非ず。而して相君は王を圍む、固に善し。勃、請ふ君が爲に兵衞に將として王を衞らんと。召平之を信じ、乃ち魏勃をして兵に將として王宮を圍ましむ。勃既に兵に將たるや、相府を圍ましむ。召平曰く、嗟乎道家の言に、當に斷ずべきに斷ぜざれば、反つて其亂を受くと。乃ち是なりと。遂に自殺す。

一 漢室より選任して諸王に附け置ける大臣　二 將軍の割符

齊王。欲下令二發レ兵西一。朱虛侯東牟侯爲二內應一。以誅二諸呂一。因立二齊王一爲上レ帝。齊王既聞二此計一。乃與二其舅父駟鈞。郎中令祝午。中尉魏勃一。陰謀レ發レ兵。齊相召平聞レ之。乃發レ卒衞二王宮一。魏勃紿二召平一曰。王欲レ發レ兵。非レ有二漢虎符驗一也。而相君圍レ王固善。勃請爲レ君將レ兵衞二衞王一。召平信レ之。乃使三魏勃將レ兵圍二王宮一。勃既將レ兵。使レ圍二相府一。召平曰。嗟乎。道家之言。當レ斷不レ斷。反受二其亂一。乃是也。遂自殺。

於レ是齊王以二駟鈞一爲レ相。魏勃爲二將軍一。祝午爲二內史一。悉發二國中兵一。使三祝午東詐二琅

是に於て齊王は、駟鈞を以て相と爲し、魏勃を將軍と爲し、祝午を內史と爲し、悉く國中の兵を發し、祝午をして東して琅邪王を詐らしめて曰く、呂氏亂を作す、齊王兵を發して、西して之を誅せんと欲す。齊王は自ら兒子年少、兵革の事に習はざるを以ひ、國を舉げて大王に委せんことを願ふ。大王は高帝より

父知レ田耳。若生而爲ニ王子一。安知レ田乎。章曰。臣知レ之。太后曰。試爲レ我言レ田。章曰。深耕穊種。立レ苗欲レ疏。非ニ其種一者鋤而去レ之。呂后默然。頃之諸呂有ニ一人醉亡レ酒。章追拔レ劍斬レ之。而還報曰。有ニ亡レ酒一人一。臣謹行レ法斬レ之。太后左右皆大驚。業已許ニ其軍法一。無ニ以罪一也。因罷。自レ是之後。諸呂憚ニ朱虛侯一。雖ニ大臣一皆依ニ朱虛侯一。劉氏爲益彊。

小兒 (一) 汝の父は耕田を知りしのみ (二) 呂氏の一族を養成して之に非ざる者を除去するなり (三) 既に已にといふに同じ

其明年。高后崩。趙王呂祿爲ニ上將軍一。呂王產爲ニ相國一。皆居ニ長安中一。聚レ兵以威ニ大臣一。欲レ爲レ亂。朱虛侯章以ニ呂祿女一爲レ婦。知ニ其謀一。乃使ニ人陰出告ニ其兄

其明年高后崩ず、趙王呂祿上將軍と爲り、呂王產相國と爲り、皆長安の中に居る、兵を聚めて以て大臣を威して、亂を爲さんと欲す。朱虛侯章は、呂祿の女を以て婦と爲し、其謀を知る。乃ち人をして陰に出でて其兄齊王に告げしめ、兵を發して西せしめ、朱虛侯東牟侯は內應を爲し、以て諸呂を誅し、因りて齊王を立てて帝と爲さんと欲す。齊王は既に此計を聞き、乃ち其舅父駟鈞、郎中令祝午、中尉魏勃と、陰に兵を發せんことを謀る。齊の相(一)召平之を聞き、乃ち卒を發して王宮を衞る。魏勃は召平を紿いて曰く、王兵を發せんと欲すれども、(二)漢の虎符の驗有

死于邸。三趙王皆廢。高后立諸呂爲三王、擅權用事。朱虛侯年二十。有氣力。忿劉氏不得職。嘗入侍高后燕飲。高后令朱虛侯劉章爲酒吏。章自請曰。臣將種也。請得以軍法行酒。高后曰。可。酒酣。章進飲歌舞。已而曰。請爲太后言耕田歌。高后兒子畜之。笑曰。顧而

らしむ。章自ら請うて曰く、臣は將種なり、請ふ軍法を以て酒を行ることを得んかと。高后曰く、可なりと。酒酣なり、章は飮を進めて歌舞す。已にして曰く、請ふ太后の爲に耕田(五)の歌を言はんと。高后は兒子(六)として之を畜へり、笑つて曰く、顧ふに而が父(七)は田を知るのみ、若生れて王子爲り、安ぞ田を知らんやと。章曰く、臣之を知れりと。太后曰く、試に我爲に田を言へと。章曰く、(八)深く耕して種を概くす、苗を立つるは疏きを欲す。其種に非ざる者は、鋤いて之を去ると。呂后默然たり。頃之して、諸呂に一人の醉うて酒を亡ぐるもの有り、章追ひ、劍を拔きて之を斬り、而して還り報じて曰く、酒を亡ぐる一人有り、臣謹んで法を行うて之を斬れりと。太后の左右皆大いに驚く。(九)業已に其軍法を許せり、以て罪すべき無し。因りて罷む。是より後、諸呂は朱虛侯を憚り、大臣と雖も皆朱虛侯に依る、劉氏爲に益〻彊し。

● (一)荊燕世家參照　(二)幽囚せられて死す　(三)政事を執り行ふ　(四)宴席の司會者　(五)田圃を耕す時の歌　(六)

怒。且誅齊王。齊王懼不得脫。乃用其內史勳計。獻城陽郡以爲魯元公主湯沐邑。呂太后喜。乃得辭就國。

悼惠王即位十三年。以惠帝六年卒。子襄立。是爲哀王。哀王元年。孝惠帝崩。呂太后稱制。天下事皆決於高后。二年。高后立其兄子酈侯呂台爲呂王。割齊之濟南郡。爲呂王奉邑。哀王三年。其弟章入宿衞於漢。呂太后封爲朱虛侯。以呂祿女妻之。後四年。封章弟興居爲東牟侯。皆宿衞長安中。

哀王の三年、其弟章は入りて漢に宿衞す。呂太后封じて朱虛侯と爲し、呂祿の女を以て之に妻す。後四年、章の弟興居を封じて、東牟侯と爲し、皆長安の中に宿衞せしむ。

(一) 外妾の義なり (二) 齊國の言語を使用し得る者 (三) 對等の禮 (四) 長安に於ける厄難 (五) 呂后の女なり (六) 其收入を自家任意の費用に供する地 (七) 制令を行ふ (八) 高帝の后たる呂太后

哀王八年。高后割齊琅邪郡。立營陵侯劉澤爲琅邪王。其明年。趙王友入朝。幽

哀王の八年、高后は齊の琅邪郡(一)を割き、營陵侯劉澤を立てて琅邪王と爲す。其明年、趙王友入朝し、邸(二)に幽死し、三趙王皆廢す。高后は諸呂を立てて三王と爲し、權を擅にして事(三)を用ふ。朱虛侯は年二十、氣力有り。劉氏が職を得ざるを忿る。嘗て入りて高后に侍して燕飲す。高后は朱虛侯劉章をして酒吏(四)と爲

齊悼惠王劉肥者。高祖長庶男也、其母外婦也。曰二曹氏一。高祖六年。立レ肥爲二齊王一。食二七十城一。諸民能齊言者。皆予二齊王一。齊王孝惠帝兄也。孝惠帝二年。齊王入朝。惠帝與二齊王一燕飲。亢禮如二家人一。呂太后

巻五十二

齊悼惠王世家第二十二

齊の悼惠王劉肥は、高祖の長庶男なり、其母は外(一)婦なり、曹氏と曰ふ。高祖の六年、肥を立てて齊王と爲し、七十城を食ましむ。諸民の能く齊(二)言する者は、皆齊王に予へき。齊王は孝惠帝の兄なり。孝惠帝の二年、齊王入朝す。惠帝は齊王と燕飲するに、(三)亢禮家人の如くす。呂太后怒り、且に齊王を誅せんとす。齊王は脱するを得ざるを懼れ、乃ち其内史勳の計を用ひ、城陽郡を獻じて、以て魯(四)元公主が湯沐(五)の邑と爲す、呂太后喜ぶ。乃ち辭して國に就くを得たり。悼惠王(六)は位に即いて十三年、惠帝の六年を以て卒す、子襄立つ、是を哀王と爲す。哀王の元年孝惠帝崩ず。呂太后制を(七)稱し、天下の事皆高(八)后に決す。二年、高后は其兄の子酈侯呂台を立てて呂王と爲し、齊の濟南郡を割いて、呂王の奉邑と爲す。

三世なり。事發して相重しとす。豈偉と爲さざらんや。(三)

(一) 政策によるを謂ふ (二) 權變機宜 (三) 呂氏を重からしめて自己も亦其功を得たるを謂ふなり

闊疎。然以策爲王。塡江淮之間。劉澤之王。權激呂氏。然劉澤卒南面稱孤者三世。事發相重。豈不爲偉乎。

立二代王一爲二天子一。天子乃徙レ澤爲二燕王一。乃復以二琅邪一予レ齊。復二故地一。澤王レ燕二年薨。諡爲二敬王一。傳二子嘉一爲二康王一。至二孫定國一與二父康王姬一姦。生二子男一人一。奪二弟妻一爲レ姬。與二子女三人一姦。定國有下所レ欲二誅殺一臣肥如令郢人上。郢人等告二定國一。定國使下謁者以二他法一劾捕。格二殺郢人一。以滅レ口。至二元朔元年一。郢人昆弟復上書。具言二定國陰事一。以レ此發覺。詔下二公卿一。皆議曰。定國禽獸。行亂二人倫一。逆レ天。當レ誅。上許レ之。定國自殺。國除爲レ郡。

を格殺して、以て口を滅せしむ。元朔元年に至り、郢人の昆弟復上書し、具に定國の陰事を言ふ。此を以て發覺す。詔して公卿に下すに、皆議して曰く、定國は禽獸なり、行人倫を亂り、天に逆らふ、誅に當すと。上之を許す、定國自殺す。國除かれて郡と爲りき。

(一) 淫褻なり　(二) 劉恒なり、即ち後の孝文帝　(三) 人名なり、其家宰の郢人なり　(四) 地方巡視官なり　(五) 他の法律によりて彈劾し捕殺す　(六) 孝武帝の年號

太史公曰。荊王王也。由二漢初定。天下未レ集。故劉賈雖二

太史公曰く、荊王の王たるや、漢初めて定まり、天下未だ集んぜざるに由れり。故に劉賈は屬疎なりと雖も、然れども策を以て王と爲り、江淮の間を塡めき。劉澤の王たるや、權もて呂氏を激せしのみ、然も劉澤は卒に南面して孤と稱せし者

言二太后一。列二十餘縣一王レ之。彼得レ王喜去。諸呂王益固矣。張卿入言。太后然レ之。乃以二營陵侯劉澤一爲二琅邪王一。琅邪王乃與二田生一之レ國。田生勸レ澤急行毋レ留。出レ關。太后果使二人追一止レ之。已出。即還。

(一) 望を缺くなり、不平を懐くを謂ふ　(二) 山東青州府諸城縣

及二太后崩一。琅邪王澤乃曰。帝少諸呂用レ事。劉氏孤弱。乃引レ兵與二齊王一合レ謀。西欲レ誅二諸呂一。至レ梁。聞下漢遣二灌將軍一屯中滎陽上。澤還レ兵。備二西界一。遂跳驅至二長安一。代王亦從レ代至。諸將相與二琅邪王一共

太后崩ずるに及び、琅邪王澤は乃ち曰く、帝少し、諸呂事を用ふ、劉氏孤弱なりと。乃ち兵を引き、齊王と謀を合せ、西して諸呂を誅せんと欲し、梁に至る。漢が灌將軍(一)を遣りて滎陽に屯せしむと聞き、澤は兵を還して西界に備へ、遂に跳驅して長安に至る。代王(二)亦代より至る。諸將相は琅邪王と共に代王を立てて天子と爲す。天子乃ち澤を徙して燕王と爲し、乃ち復琅邪を以て齊に予へて故地を復せしむ。澤は燕に王たること二年にして薨ず、謚して敬王と爲す。子嘉に傳ふ、康王と爲す。孫の定國に至り、父康王の姫と姦し、子男一人を生み、弟の妻を奪うて姫と爲し、子女三人と姦す。定國は誅殺せんと欲せし所の臣、肥如(三)の令に郢人有り、郢人等定國を告ぐ。定國は謁者(四)をして他法(五)を以て劾捕して、郢人

說張卿曰。臣觀諸侯王邸第百餘。皆高祖一切功臣。今呂氏雅故本推轂高帝就天下。功至大。又親戚太后之重。太后春秋長。諸呂弱。太后欲立呂產爲呂王王代。太后又重發之。恐大臣不聽。今卿最幸。大臣所敬。何不風大臣以聞太后。太后必喜。諸呂已王。萬戶侯亦卿之有。太后心欲之。而卿爲內臣。不急發。恐禍及身矣。張卿大然之。

乃風大臣語太后。太后朝。因問大臣。大臣請立呂產爲呂王。太后賜張卿千斤金。張卿以其半與田生。田生弗受。因說之曰。呂產王也。諸大臣未大服。今營陵侯澤諸劉爲大將軍。獨此尙觖望。今營

乃ち大臣に風し、太后に語る。太后朝す、因りて大臣に問ふに、大臣は呂產を立てて呂王と爲さんと請ふ。太后は張卿に千斤の金を賜ふ。張卿は其半を以て田生に與ふるに、田生は受けず。因りて之に說いて曰く、呂產王たらば、諸大臣未だ大いに服せじ。今營陵侯澤は、諸劉にして大將軍爲り、獨り此れ尙觖望せり。今卿は太后に言ひ、十餘縣を列して之を王とせよ。彼王を得ば喜び去らん、諸呂王は益〻固からんと。張卿入り言ふ。太后之を然りとし、乃ち營陵侯劉澤を以て琅邪王と爲す。琅邪王乃ち田生と國に之くに、田生は澤に勸めて、急に行いて留る毋らしむ。關を出づるや、太后果して人をして追うて之を止めしむるに、已に出でたり、卽ち還れり。

營陵侯澤。澤大說レ之。用二金二百斤一爲二田生壽一。田生已得レ金。卽歸レ齊。二年。澤使三人謂二田生一曰。弗レ與矣。田生如二長安一。不レ見レ澤而假二大宅一。令三其子求二事呂后所レ幸大謁者張子卿一。居數月。田生子請二張卿臨一。親修具。張卿許レ往。田生盛二帷帳共具一。譬如二列侯一。張卿驚。酒酣乃屏レ人

居ること數月、田生子は張卿に臨を請ひ、親ら修具す。張卿往くを許す。田生帷帳共具を盛にし、譬へば列侯の如し、張卿驚く(七)。酒酣なるとき、乃ち人を屏けて張卿に說いて曰く、臣は諸侯王の邸第を觀るに、百餘あり。皆高祖の一切の功臣なり。今呂氏は雅故(八)本高帝を推轂(九)して天下を就せり、功至大なり。又太后に親戚たるの重あり。太后は春秋長じ、諸呂は弱し。太后は呂產を立てて呂王と爲し、代に王とせんと欲するも、太后又之を發するを重かる。大臣の聽かざるを恐るればなり。今卿は最も幸せらる、大臣の敬する所たり。何ぞ大臣に(一〇)風して、以て太后に聞せざる。太后必ず喜ばん。諸呂已に王たらば、萬戶侯も亦卿の有たらん。太后は心に之を欲む。而るに卿は內臣爲り、急に發せずんば、恐くは禍身に及ばんと。張卿大いに之を然りとす。

(一) 疎遠なる一族 (二) 宮內事務官の類 (三) 山東靑州府昌樂縣 (四) 計劃の方を以て用ひられんことを求む (五) 我と黨と爲り交游するを欲せざるか (六) 近侍の長官 (七) 接待の具を整理す (八) 元來の義 (九) 車を推すが如く推し進める義 (一〇) 暗に諷諭す

將九江兵。與太尉盧綰西南擊臨江王共尉。共尉已死。以臨江爲南郡。漢六年。春。會諸侯於陳。廢楚王信。囚之。分其地爲二國。當是時也。高祖子幼。昆弟少。又不賢。欲王同姓以鎭天下。乃詔曰。將軍劉賈有功。及擇子弟可以爲王者。羣臣皆曰。立劉賈爲荊王。王淮東五十二城。高祖弟交爲楚王。王淮西三十六城。因立子肥爲齊王。始王昆弟劉氏也。高祖十一年。秋。淮南王黥布反。東擊荊。荊王賈與戰不勝。走富陵。爲布軍所殺。高祖自擊破布。十二年。立沛侯劉濞爲吳王。王故荊地。

守す（六）河南陳州府淮寧縣（七）安徽鳳陽府壽州（八）安徽鳳陽府（九）江蘇徐州府沛縣（一〇）江西臨江府
（一一）劉賈以外の劉氏の子弟にして王と爲すべき者（一二）長庶子なり（一三）楚の地名

燕王劉澤者。諸劉遠屬也。高帝三年。澤爲郎中。高帝十一年。澤以將軍擊陳豨。得王黃。爲營陵侯。高后時。齊人田生游乏資。以畫干

燕王劉澤は、諸劉の遠屬なり。(一) 高帝の三年、澤は郎中(二)と爲りき。高帝の十一年、澤は將軍を以て陳豨を擊ち、王黃を得たり。營陵侯(三)と爲る。高后の時、齊人田生は游びて資に乏しく、畫(四)を以て營陵侯澤に干む。澤大いに之を說び、金二百斤を用て田生の壽を爲す。田生已に金を得るや、即ち齊に歸りぬ。二年、澤は人をして田生に謂はしめて曰く、與(五)みせざるかと。田生は長安に如き、澤に見えずして大宅を假り、其子をして求めて呂后の幸する所の大謁者(六)張子卿に事へしむ。

入二楚地一。燒二其積聚一。以破二其業一。無二以給一項王軍食一。已而楚兵擊二劉賈一。賈輒壁不レ肯二與戰一。而與二彭越一相保。漢五年。漢王追二項籍一至二固陵一。使三劉賈南渡レ淮圍二壽春一。還至。使三人間招二楚大司馬周殷一。周殷反レ楚。佐二劉賈一擧二九江一。迎二武王黥布兵一。皆會二垓下一。共擊二項籍一。漢王因使下劉賈

布の兵を迎へ、皆垓下に會して、共に項籍を擊つ。漢王因りて劉賈をして九江の兵に將とし、太尉盧綰と西南して臨江王共尉(九)を擊たしむるに、共尉は已に死せり。臨江(一〇)を以て南郡と爲す。漢の六年の春、諸侯を陳に會し、楚王信を廢して之を囚へ、其地を分つて二國と爲す。是時に當り、高祖の子は幼に、昆弟は少く、又賢ならず。同姓を王として以て天下を鎭せんと欲し、乃ち詔して曰く、將軍劉賈は功有り、及び子弟の以て王と爲すべき者を擇べと。羣臣皆曰く、劉賈を立てて荆王と爲し、淮東(一一)五十二城に王とせん。高祖の弟交を楚王と爲し、淮西三十六城に王とせんと。因りて子肥を立てて齊王と爲し、始めて昆弟劉氏を王とせり。高祖の十一年、秋、淮南王黥布反し、東して荆を擊つ。荆王賈は與に戰つて勝たず、富陵(一二)に走り、布の軍の殺す所と爲りぬ。高祖は自ら擊つて布を破り、十二年、沛侯劉濞(一三)を立てて吳王と爲し、故の荆の地に王たらしむ。

(一) 雍塞翟の三秦王 (二) 河南開封府汜水縣 (三) 河南懷慶府修武縣 (四) 河南衛輝府滑縣 (五) 壁を固うして城

荊王劉賈。諸劉者不レ知二其何屬一。初起時。漢王元年。還定二三秦一。劉賈爲二將軍一。定二塞地一。從東擊二項籍一。漢四年。漢王之敗二成皐一。北渡レ河。得二張耳。韓信軍一。軍二脩武一。深レ溝高レ壘。使下劉賈將二二萬人。騎數百一。渡二白馬津一

卷五十一

荊燕世家第二十一

荊王劉賈は、諸劉のうち、其何れの屬なるかを知らず。初め起りし時、漢王の元年に、還りて三秦(一)を定むるに、劉賈は將軍と爲りて塞の地を定め、從ひ東して項籍を擊てり。漢の四年、漢王の成皐(二)に敗るゝや、北して河を渡り、張耳・韓信の軍を得て、脩武(三)に軍し、溝を深くし壘を高くし、劉賈をして二萬人と騎數百とに將として、白馬津(四)を渡りて楚地に入り、其積聚を燒き、以て其業を破り、以て項王に軍食を給する無らしめき。已にして楚兵は劉賈を擊つ、賈は輒ち壁(五)して、與に戰ふを肯んぜずして、彭越と相保つ。漢の五年、漢王が項籍を追うて固陵(六)に至るや、劉賈をして南して淮を渡り壽春(七)を圍ましむ。還り至り、人をして間に楚の大司馬周殷を招かしむ。周殷楚に反き、劉賈を佐けて九江(八)を擧け、武王黥

生。豈有甚殺之謀、為天下僇哉。賢人乎。賢人乎。非質有其內、惡能用之哉。甚矣安危在出令。存亡在所任。誠哉是言也。

(一) 吉瑞なり (二) 申公名は培 (三) 防與公は趙人と云ふのみ其傳を詳にせず (四) 恥辱 (五) 國君が賢人の素質を有するなり

趙。二十六年。孝景帝時。坐ニ晁錯一。以レ適削ニ趙王常山之郡一。呉楚反。趙王遂與合レ謀起レ兵。其相建徳。内史王悍諫。不レ聽。遂燒ニ殺建徳。王悍一。發レ兵屯ニ其西界一。欲下待レ呉與倶西。北使ニ匈奴與連和一攻上レ漢。漢使ニ曲周侯酈寄擊一レ之。趙王遂還城ニ守邯鄲一。相距七月。呉楚敗ニ於梁一不レ能レ西。匈奴聞レ之。亦止。不レ肯レ入ニ漢邊一。欒布自レ破レ齊還。乃并レ兵引レ水灌ニ趙城一。趙城壞。趙王自殺。邯鄲遂降。趙幽王絶レ後。

る。趙の幽王は後を絶ちき。

(一) 高后の時に幽囚せられしを指す　(二) 錯が王權を削弱せんとせし計策　(三) 法の濫用　(四) 趙の西界　(五) 漢の邊境を犯す

太史公曰。國之將レ興。必有ニ禎祥一。君子用。而小人退。國之將レ亡。賢人隱。亂臣貴。使下楚王戊毋レ刑ニ申公一。遵ニ其言一。趙任ニ防與先

太史公曰く、國の將に興らんとするや必ず禎祥(一)有り、君子用ひられて小人退く。國の將に亡びんとするや、賢人隱れて亂臣貴し。楚王戊をして、申公(二)を刑する毋く、其言に遵ひ、趙をして防與先生(三)に任ぜしめば、豈簒殺の謀、天下の僇(四)と爲ることを有らんや。賢人か賢人か、質(五)を其内に有するに非ずんば、惡んぞ能く之を用ひんや。甚しいかな。安危は令を出すに在り、存亡は任ずる所に在りとは、誠なる哉是言や。

其父高祖中子。名友。諡曰レ幽。幽王以レ憂死。故爲レ幽。高后王二呂祿於趙一。一歲而高后崩。大臣誅二諸呂呂祿等一。乃立二幽王子遂一爲二趙王一。孝文帝卽レ位二年。立二遂弟辟彊一。取二趙之河間郡一爲二河間王一。以爲二文王一。立十三年卒。子哀王福立。一年卒無レ子。絕レ後。國除入二於漢一。遂既王レ

て死せり、故に幽と爲す。高后は呂祿を趙に王とす、一歲にして高后崩ず、大臣諸呂呂祿等を誅し、乃ち幽王の子遂を立てて趙王と爲す。孝文帝位に卽くの二年、遂の弟辟彊を立て、趙の河間郡を取りて河間王と爲し、以て文王と爲す。立つこと十三年にして卒し、子哀王福立つ、一年に卒して子無し、後を絕つ。國除かれて漢に入る。遂は旣に趙に王たり。二十六年、孝景帝の時、鼂錯(一)に坐し、(二)適を以て趙王の常山の郡を削らる。吳楚反するや、趙王遂も與に謀を合せて兵を(三)起す。其相建德、內史王悍諫むれども聽かず。遂に建德と王悍とを燒殺し、兵を發して其(四)西界に屯し、吳を待ちて與に倶に西し、北、匈奴をして與に連和せしめて漢を攻めんと欲す。漢は曲周侯酈寄をして之を擊たしむるに、趙王遂に還りて邯鄲に城守し、相距ること七月なり。吳楚の梁に敗れて西する能はざるや、匈奴も之を聞いて亦止まり、(五)漢邊に入るを肯んぜず。欒布は齊を破りてより還り、乃ち兵を幷せて、水を引いて趙城に灌ぐ。趙城壞れ、趙王自殺し、邯鄲遂に降

夫一戰。漢絶二吳楚糧道一。士卒飢。吳王走。楚王戊自殺。軍遂降レ漢。漢已平二吳楚一。孝景帝欲下以二德侯子一續レ吳。以二元王子禮一續中楚。竇太后曰。吳王老人也。宜下爲二宗室一順善上。今乃首率二七國一紛二亂天下一。奈何續二其後一。不レ許レ吳。許レ立二楚後一。是時禮爲二漢宗正一。乃拜レ禮爲二楚王一。奉二元王宗廟一。是爲二楚文王一。文王立三年卒。子安王道立。安王二十二年卒。子襄王注立。襄王立十四年卒。子王純代立。王純立。地節二年中。人上書告二楚王謀反一。王自殺國除。入レ漢爲二彭城郡一。

る、天下を紛亂せり。奈何ぞ其後を續がんと。吳を許さず、楚の後を立つるを許す。是時禮は漢の宗正(六)爲り、乃ち禮を拜して楚王と爲し、元王の宗廟を奉ぜしむ。是を楚の文王と爲す。文王立ち、三年に卒す、子安王道立つ。安王は二十二年に卒し、子襄王注立つ。襄王は立つの十四年に卒し、子王純代り立つ。王純立つや、地節(七)二年中、人上書して、楚王謀反すと告ぐ。王自殺し、國除す。漢に入りて彭城郡と爲る。

(一) 河南歸德府寧陵縣　(二) 山東曹州府城武縣　(三) 吳王濞の弟　(四) 柔順善良　(五) 吳楚趙及び膠西膠東菑川濟南　(六) 皇族取締の官　(七) 孝宣帝の年號

趙王劉遂者。

趙王劉遂は、其父は高祖の中子なり。名は友、諡して幽と曰ふ。幽王は憂(一)を以

此怨其嫂。及高祖爲帝。封昆弟。而伯子獨不得封。太上皇以爲言。高祖曰。某非忘封之也。爲其母不長者耳。於是乃封其子信爲羹頡侯。而王次兄仲於代。高祖六年。已禽楚王韓信於陳。乃以弟交爲楚王。都彭城。卽位二十三年卒。子夷王郢立。夷王四年卒。子王戊立。王戊立二十年冬。坐爲薄太后服私姦。削東海郡。

は四年に卒し、子王戊立つ。王戊立ちて二十年の冬、薄太后の爲に服し(七)、私に姦せしに坐し、東海郡を削らる。

(一)微賤なりし時　(二)業務を嫌忌す　(三)巨は丘の誤か、長兄伯の妻は丘氏なり　(四)杓子もて釜底を擦り鳴らす　(五)慈愛心なきを指し曰ふ　(六)山名なり、鑊の聲あるを以てなり　(七)喪に服する時

春。戊與吳王合謀反。其相張尙。太傅趙夷吾諫。不聽。戊則殺尙夷吾。起兵。與吳西攻梁。破棘壁。至昌邑南。與漢將周亞

春、戊は吳王と謀を合せて反す。其相張尙、太傅趙夷吾諫む、聽かず。戊は則ち尙と夷吾とを殺し、兵を起し、吳と西して梁を攻め、棘壁(一)を破りて昌邑(二)の南に至り、漢の將周亞夫と戰ふ。漢は吳楚の糧道を絕つ。士卒飢う。吳王走り、楚王戊は自殺す。軍遂に漢に降りぬ。漢已に吳楚を平ぐるや、孝景帝は德侯(三)の子を以て吳に續がしめ、元王の子禮を以て楚を續がしめんと欲す。竇太后曰く、吳王は老人なり、宜しく宗室の爲に順(四)善なるべきに、今は乃ち首として七國(五)を率

楚元王劉交者高祖之同母少弟也。字游。高祖兄弟四人。長兄伯。伯蚤卒。始高祖微時。嘗辟事。時時與賓客過巨嫂食。嫂厭叔。叔與客來。嫂詳爲羹盡櫟釜。賓客以故去。已而視釜中尙有羹。高祖由

卷五十

楚元王世家第二十

楚の元王劉交は、高祖の同母少弟なり。字は游。高祖兄弟四人あり、長兄は伯、伯蚤く卒す。始め高祖の微しかりし時、嘗て事を辟け、時時賓客と巨嫂に過りて食す。嫂は叔を厭ふ。叔の客と來るや、嫂は詳りて羹盡くと爲し、釜を櫟す。賓客故を以て去る。已にして釜中を視るに尙羹有り。高祖此れ由り其嫂を怨む。高祖が帝と爲るに及び、昆弟を封ずるに、伯の子は獨り封を得ず。太上皇以て言を爲す。高祖曰く、某は之を封ずるを忘れしに非ず、其母の長者ならざるが爲のみと。是に於て、乃ち其子信を封じて羹頡侯と爲し、而して次兄仲を代に王とす。高祖の六年、已に楚王韓信を陳に禽にするや、乃ち弟交を以て楚王と爲し彭城に都せしむ。位に卽いて二十三年に卒す。子夷王郢立つ。夷王

立二其子一。何去二其母一乎。帝曰。然。是非二兒曹愚人所一レ知也。往古國家所二以亂一也。由二主少母壯一也。女主獨居。驕蹇淫亂自恣。莫二能禁一也。女不レ聞二呂后一耶。故諸爲二武帝一生レ子者。無二男女一。其母無レ不二譴死一。豈可レ謂レ非二賢聖一哉。昭然遠見。爲二後世一計慮。固非二淺聞愚儒之所一レ及也。謚爲レ武。豈虛哉。

愚人の知る所に非ざるなり。往古は國家の亂れし所以は、主少く母壯なるに由れり。女主獨居し、驕蹇(三)淫亂自ら恣にして能く禁ずる莫きは、女呂后を聞かずやと。故に諸の武帝の爲に子を生みし者は、男女と無く、其母は譴死(四)せざるは無かりき。豈聖賢に非ずと謂ふべけんや。昭然として遠見(五)して、後世の爲に計慮す、固に淺聞愚儒(六)の及ぶ所に非ざるなり。謚して武と爲すも、豈虛ならんや。

(一) 閑坐の時　(二) 小兒や愚人　(三) 驕傲に同じ　(四) 責を蒙りて死す　(五) 遠く後世を察見す　(六) 聞見淺き愚かなる學者輩

衞太子廢後。未三復立二太子一。而燕王旦上書。願レ歸入宿衞。武帝怒。立斬二其使者於北闕一。上居二甘泉宮一。召二畫工一。圖三畫周公負二成王一也。於レ是左右羣臣。知二武帝意欲レ立二少子一也。後數日。帝譴二責鉤弋夫人一。夫人脫二簪珥一叩頭。帝曰。引持去。送二掖庭獄一。夫人還顧。帝曰。趣行。女不レ得レ活。夫人死二雲陽宮一。時暴風揚レ塵。百姓感傷。使者夜持レ棺。往葬レ之。封識二其處一。

武帝の意に少子を立てんと欲するを知りぬ。後數日、帝は鉤弋夫人を譴責す。夫人簪珥(五)を脫して叩頭す。帝曰く、引き持し去りて、掖庭(六)の獄に送れと。夫人還顧す。帝曰く、趣に行け、女は活くるを得ずと。夫人は雲陽宮に死せり。時に暴風塵を揚げ、百姓感傷す。使者夜棺を持し、往いて之を葬り、封じて其處を識す(七)。

(一)玉鉤を握りて生れし人なり故に曰ふ　(二)直隸河間府河間縣　(三)燕王世家參照　(四)漢宮の正門なり　(五)かんざしと髮飾と　(六)宮殿後庭の獄　(七)表誌す

其後帝間居。問二左右一曰。人言云レ何。左右對曰。人言且レ

其後帝間居し、左右に問うて曰く、人言は何とか云へると。左右對へて曰く、人は言ふ、且に其子を立てんとす、何ぞ其母を去るかと。帝曰く、然り、是れ兒曹(一二)

不二必江海一要二之去レ垢。馬不二必騏驥一。要二之善走一。士不二必賢レ世。要二之知レ道。女不二必貴種一。要二之貞好一。傳曰。女無二美惡一。入レ室見レ妒。士無二賢不肖一。入レ朝見レ疾。美女者惡女之仇。豈不レ然乎。

も騏驥（一）ならずとも、之が善く走るを要し、士は必ずしも世に賢ならずとも、之が道を知るを要し、女は必ずしも貴種ならずとも、之が貞好を要す。傳に曰く、女は美惡と無く、室に入れば妒まれ、士は賢不肖と無く、朝に入れば疾まる、美女は惡女の仇なりと。豈然らざらんや

（一）千里の馬なり

鉤弋夫人。姓趙氏。河間人也。得レ幸二武帝一。生二子一人一。昭帝是也。武帝年七十。乃生二昭帝一。昭帝立。時年五歲耳。

（一）鉤弋夫人は姓は趙氏、河間の人なり。武帝に幸せらるゝを得たり。子一人を生む、昭帝是なり。武帝年七十（二）、乃ち昭帝を生めり。昭帝の立つや、時に年五歲のみ。衞太子の廢後は、未だ復太子を立てず、燕王旦（三）上書し、國に歸りて入り宿衞せんと願ふ。武帝怒り、立どころに其使者を北闕（四）に斬る。上は甘泉宮に居り、畫工を召して、周公が成王を負ふを圖畫せしむ。是に於て左右群臣は、

華秩比二千石。婕妤秩比二列侯。常從二婕妤一遷爲二皇后一。尹夫人與二邢夫人一同レ時。並幸。有レ詔不レ得二相見一。尹夫人自請二武帝一。願三望二見邢夫人一。帝許レ之。卽令下他夫人飾從二御者數十人一。爲二邢夫人一來前上。尹夫人前見レ之曰。此非二邢夫人身一也。帝曰。何以言レ之。對曰。視二其身貌形狀一。不レ足三以當二人主一矣。於レ是帝乃詔。使下邢夫人衣二故衣一。獨身來前上。尹夫人望二見之一曰。此眞是也。於レ是乃低レ頭俛而泣。自痛二其不一レ如也。諺曰。美女入レ室。惡女之仇。

とを願ふ、帝之を許す。卽ち他夫人をして飾りて御者數十人を從へ、邢夫人と爲りて來り前ましむ。尹夫人前み之を見て曰く、此れ邢夫人の身に非ずと。帝曰く、何を以て之を言ふぞと。對へて曰く、其身貌形狀を視るに、以て人主(四)に當るに足らずと。是に於て帝乃ち詔し、邢夫人をして故衣(五)を衣て、獨身來り前ましむ。尹夫人之を望見して曰く、此れ眞に是なりと。是に於て乃ち頭を低れて俛して泣き、自ら其の如かざるを痛めり。諺に曰く、美女室に入るは、惡女の仇なりと。

(一)秩祿なり (二)蓋し二千石未滿の祿、下文の二千石は眞二千石にてこれより上なる也 (三)女官は婕妤より皇后に進むを常とす (四)人主の愛を受くべき狀貌に非ず (五)古く汚れたる衣服

褚先生曰。浴

褚先生曰く、浴は必ずしも江海ならずとも、之が垢を去るを要し、馬は必ずし

當用列侯尚主。主與左右議長安中列侯可爲夫者。皆言。大將軍可。主笑曰。此出吾家。常使令騎從我出入耳。奈何用爲夫乎。左右侍御者曰。今大將軍姊爲皇后。三子爲侯。富貴振動天下。主何以易之乎。於是。主乃許之。言之皇后。令白之武帝。乃詔衛將軍尚平陽公主焉。褚先生曰。丈夫龍變傳曰。蛇化爲龍。不變其文。家化爲國。不變其姓。丈夫當時富貴。百惡滅除。光耀榮華。貧賤之時。何足累之哉。

して龍と爲るも、其文を變ぜず、家化して國と爲るも、其姓を變ぜずと。丈夫當時に富貴なれば、百惡滅除し、光耀榮華なり。貧賤の時は、何ぞ之を累(八)とするに足らんや。

(一)世嗣の子 (二)直隷大名府清豐縣 (三)山東東昌府堂邑縣 (四)河南汝寧府汝陽縣 (五)長安在住中 (六)平陽公主 (七)輕んじ侮る (八)今日の貧賤が他日に累をなすと考ふるに及ばじ

武帝時。幸夫人尹婕妤。邢夫人號娙娥。衆人謂之娙何。娙何秩比中二千石。容

武帝の時、夫人尹婕妤を幸す。邢夫人は娙娥と號す、衆人は之を娙何と謂ふ。娙何の秩は(一)中二千石(二)に比し、容華の秩は二千石に比し、婕妤の秩は列侯に比す。常(三)に婕妤より遷りて皇后と爲る。尹夫人は邢夫人と時を同じうし、並に幸せらる。詔有り、相見るを得ずと。尹夫人自ら武帝に請ひ、邢夫人を望見せんこ

衞子夫立爲二皇后一后弟衞青字仲卿。以二大將軍一封爲二長平侯一四子。長子伉爲二侯世子一侯世子常侍レ中貴幸。其三弟皆封爲レ侯。各千三百戸。一曰二陰安侯一二曰二發干侯一三曰宜春侯。貴震二天下一天下歌レ之曰。生レ男無レ喜。生レ女無レ怒。獨不レ見三衞子夫霸二天下一是時平陽主寡居。

衞子夫立ちて皇后と爲る、后の弟衞青字は仲卿は、大將軍を以て封ぜられて長平侯と爲る。四子あり、長子伉は侯の世子と爲る(一)。侯世子は常に中に侍して、貴幸せらる。其三弟は皆封ぜられて侯と爲り、各〻千三百戸。一を陰安侯(二)と曰ひ、二を發干侯(三)と曰ひ、三を宜春侯(四)と曰ふ。貴きこと天下に震ふ。天下之を歌うて曰く、男を生むとも喜ぶ無れ、女を生むとも怒る無れ。獨り衞子夫が天下に霸たるを見ずやと。是時平陽主は寡居せり、當に列侯を用て主を尙せしむべし。主は左右と(五)長安中の列侯の夫と爲すべき者を議す。皆言ふ大將軍可ならんと。主笑つて(六)曰く、此れ吾家より出で、常に騎を使令し、我に從つて出入したるのみ、奈何ぞ用つて夫と爲んやと。左右侍御の者曰く、今大將軍の姉は皇后爲り、三子は侯爲り、富貴天下を振動す。主何を以てか之を易るぞと(七)。是に於て主は乃ち之を許し、之を皇后に言ひ、之を武帝に白さしむ。乃ち衞將軍に詔して、平陽公主を尙せしむ。褚先生曰く、丈夫龍變傳に曰く、蛇化

副車載レ之。廻レ車馳還。而直入二長樂宮一。行詔門。著二引籍一。通到謁二太后一。太后曰。帝倦矣。何從來。帝曰。今者至二長陵一。得二臣姊一與俱來。顧曰。謁二太后一。太后曰。女某邪。曰是也。太后爲下泣。女亦伏レ地泣。武帝奉レ酒前爲レ壽。奉レ錢千萬。奴婢三百人。公田百頃。甲第以賜レ姊。太后謝曰。爲二帝費一焉。於レ是召二平陽主・南宮主・林慮主三人一。俱來謁二見姊一。因號曰二修成君一。有二子男一人。女一人一。男號爲二修成子仲一。女爲二諸侯王王后一。此二子非二劉氏一。以レ故太后憐レ之。修成子仲。驕恣陵二折吏民一。皆患二苦之一。

し、引籍(二)を著けしめ、通じ到りて太后に謁す。太后曰く、帝倦めり(三)、何れより來るぞと。帝曰く、今は長陵に至り、臣が姉を得て與に俱に來れりと。顧みて曰く、太后に謁せよと。太后曰く、女某かと。曰く、是なりと。太后爲に下り泣く。女も亦地に伏して泣く。武帝酒を奉じて前み壽を爲し、錢を奉ずること千萬、奴婢三百人、公田百頃(四)、甲第以て姉に賜ふ。太后謝して曰く、帝の費を爲せりと。是に於て平陽主・南宮主・林慮主の三人を召し、俱に來りて姉に謁見せしめ、因りて號して修成君と曰ふ。子に男一人女一人有り、男は號して修成子仲と爲し、女は諸侯王の王后と爲る。此二子は劉氏に非ず。故を以て太后之を憐めり。修成子仲は、驕恣にして吏民を陵折(五)す、皆之を患へ苦む。

(一) 準備せる別車 (二) 通行劵 (三) 疲勞せり (四) 城下に於ける上等の田地 (五) 犯し挫き辱かしむ

景帝崩後。武帝已立。王太后獨在。而韓王孫名嫣。素得レ幸二武帝一。承レ間白言。太后有レ女。在二長陵一也。武帝曰。何不二早言一。乃使二使往先視一レ之。在二其家一。武帝乃自往迎取レ之。蹕道。先驅旄騎。出二横城門一。乘輿馳至二長陵一。當二小市西一入レ里。里門閉。暴開レ門。乘輿直入二此里一。通至二金氏門外一止。使二武騎圍二其宅一。爲二其亡走一。身自往取不レ得也。即使二左右羣臣入呼求一レ之。家人驚恐。女亡匿二內中牀下一。扶持出レ門令二拜謁一。

しむるに、其家に在りき。武帝乃ち自ら往いて迎へて之を取る。蹕道す。先驅旄騎、横城門を出づ。乘輿馳せて長陵に至るに、小市の西に當りて里に入る。里門閉づ、暴に門を開き、乘輿直に此里に入る。通じて金氏の門外に至りて止り、武騎をして其宅を圍ましむ。其亡げ走り、身自ら往き取るに得ざるが爲なり。即ち左右羣臣をして入り呼びて之を求めしむるに、家人驚き恐れ、女は亡げて內中牀下に匿る。扶持して門を出でて、拜謁せしむ。

(一) 褚少孫　(二) 郎官　(三) 人民の通行を禁止して警備す　(四) 天子の旗を持する騎兵　(五) 北西の宮門なり、渭水に臨めり　(六) 室內の床下

武帝下レ車泣曰。嚄大姊何藏之深也。詔

武帝車より下りて泣いて曰く、嚄大姊よ何ぞ藏るゝの深きやと。詔して副車に之を載せ、車を廻らして馳せ還り、直に長樂宮に入る。行く〳〵門に詔

早卒。而中山李夫人有レ寵。有二男一人一爲二昌邑王一。李夫人蚤卒。其兄李延年以レ音幸。號二協律一。協律者故倡也。兄弟皆坐レ姦族。是時其長兄廣利爲二貳師將軍一。伐二大宛一。不レ及レ誅還。而上既夷二李氏一。後憐二其家一。乃封爲二海西侯一。他姬子二人。爲二燕王廣陵王一。其母無レ寵以レ憂死。及二李夫人卒一。則有二尹婕妤之屬一。更有レ寵。然皆以レ倡見。非二王侯有土之女士一。不レ可三以配二人主一也。

て死せり。李夫人卒するに及び、則ち尹婕妤(七)の屬有り、更に寵有り。然も皆倡(八)を以て見ゆ、王侯有土の女士に非ず、以て人主に配すべからざるなり。

(一)山東萊州府昌邑縣 (二)俳優の類 (三)貳師は大宛の地名なり (四)西南の蠻勇 (五)大宛附近の地名 (六)江蘇揚州府 (七)尹氏の女官 (八)俳優歌妓の類

褚先生曰。臣爲レ郎時。問下習二漢家故事一者鍾離生上曰。王太后在二民間一時。所レ生子女者。父爲二金王孫一。王孫已死。

(一)褚先生曰く、臣が郎(二)爲りし時、漢家の故事に習へる者鍾離生に問ふに曰く、王太后が民間に在りし時、生みし所の子女は、父を金王孫と爲す。王孫已に死す、景帝崩じて後、武帝已に立ち、王太后獨り在り。而して韓王孫名は嫣は、素より武帝に幸せらるゝを得たり。間を承けて白して言ふ、太后に女有り、長陵に在りと。武帝曰く、何ぞ早く言はざると。乃ち使をして往いて先づ之を視

主一曰。帝非レ我不レ得レ立。已而棄二捐吾女一。豈何不二自喜一而倍レ本乎。平陽公主曰。用レ無レ子故廢耳。陳皇后求レ子。與二醫錢一凡九千萬。然竟無レ子。衛子夫已立爲二皇后一。先レ是衛長君死。乃以二衛青一爲二將軍一。擊レ胡有レ功。封爲二長平侯一。青三子在二襁褓中一。皆封爲二列侯一。

及衛皇后所レ謂姊衛少兒。少兒生二子霍去病一。以二軍功一封二冠軍侯一。號二驃騎將軍一。青號二大將軍一。立二衛皇后子據一爲二太子一。衛氏枝屬以二軍功一起レ家。五人爲レ侯。及二衛后色衰一。趙之王夫人幸。有レ子。爲二齊王一。王夫人

及び衛皇后の所謂姊に衛少兒あり、少兒は子霍去病を生めり。軍功を以て冠軍侯に封ぜられて、驃騎將軍と號す。青は大將軍と號す。衛皇后の子據を立てて太子と爲す。衛氏の枝屬、軍功を以て家を起し、五人侯と爲りぬ。衛后の色衰ふるに及び、趙の王夫人幸せらる。子有り、齊王と爲る。王夫人は早く卒す。而して中山の李夫人寵有り、男一人有り、昌邑王と爲る。(一)李夫人は早く卒す。其兄李延年は、音を以て幸せられ、協律と號す。協律とは故の倡なり。(二)兄弟皆姦に坐して族せられき。是時其長兄廣利は貳師將軍と爲り、(三)大宛を伐ち、(四)誅に及ばずして還る。而して上既に李氏を夷せり。後に其家を憐み、乃ち封じて海西(五)侯と爲す。他の姫の子二人は、燕王と廣(六)陵王とに爲る、其母は寵無く、憂を以

時。娶二長主女一爲レ妃。立爲レ帝。妃立爲二皇后一。姓陳氏。無レ子。上之得レ爲レ嗣。大長公主有レ力焉。以レ故陳皇后驕貴。聞二衛子夫大幸一。恚幾死者數矣。上愈怒。陳皇后挾二婦人媚道一。其事頗覺。於レ是廢二陳皇后一而立二衛子夫一爲二皇后一。陳皇后母。大長公主。景帝姊也。數讓二武帝姊平陽公

ちて皇后と爲れり。姓は陳氏、子無し。上の嗣爲るを得しは、大長公主力有り。故を以て陳皇后驕貴なり。衛子夫の大いに幸せらるゝを聞き、恚りて幾ど死す(一)る者數ゝなり。上愈ゝ怒る。陳皇后が婦人の媚道を挾んで、其事頗る覺はるゝや、是に於て陳皇后を廢して、衛子夫を立てて皇后と爲しき。陳皇后の母大長公主は、景帝の姊なり。數ゝ武帝の姊の平陽公主を讓めて曰く、帝は我に非ずんば立つを得ず。已にして吾女を棄捐す、(二)壹に何ぞ自ら喜ばずして本に倍くやと。平陽公主曰く、子無きを用ての故に廢するのみと。陳皇后は子を求めて、醫に錢を與ふること凡そ九千萬なり、然も竟に(三)子無し。衛子夫已に立ちて皇后と爲る。是より先、衛長君死す、乃ち衛青を以て將軍と爲す。胡を擊つて功有り、封ぜられて(四)長平侯と爲る。靑の三子は襁褓(五)の中に在るに、皆封ぜられて列侯と爲りき。

(一) 憤死せんとす (二) 何ぞ自ら感謝せずして恩を忘るゝや (三) 遺棄し廢棄す (四) 河南河東府 (五) むつきの中卽ち極めて幼少なる義

子女十餘人。飾置レ家。武帝上祓二霸上一還。因過二平陽主一。主見二所レ侍美人一。上弗レ說。既飲。謳者進。上望見獨說二衞子夫一。是日武起更レ衣。子夫侍二尙衣一。軒中得レ幸。上還レ坐驩甚。賜二平陽主金千斤一。主因奏二子夫一。奉送入レ宮。子夫上レ車。平陽主拊二其背一曰。行矣。彊飯勉レ之。卽貴無二相忘一。入レ宮歲餘竟不二復幸一。武帝擇二宮人不レ中レ用者一。斥出歸レ之。衞子夫得レ見。涕泣請レ出。上憐レ之復幸。遂有レ身。尊寵日隆。召二其兄衞長君弟靑一爲二侍中一。而子夫後大幸有レ寵。凡生二三女一男一。男名據。

平陽主に金千斤を賜ふ。主は因りて子夫を奏し、奉送して宮に入る。子夫の車に上るや、平陽主は其背を拊つて曰く、行け、(六)彊飯せよ、之を勉めよ。卽し貴ならば相忘るゝ無れと。宮に入りしが、歲餘にして竟に復幸せず。武帝は宮人の用に中らざる者を擇び、斥け出して之を歸らしむ。衞子夫は見ゆるを得て涕泣し、出でんと請ふ。上は之を憐み、復幸せられて遂に身むこと有り。(七)尊寵日に隆し。其兄衞長君、弟靑を召して、侍中と爲す。而して子夫は後に大いに幸せられて寵有り。凡そ三女一男を生む。男の名は據なり。

(一)微賤なり (二)平陽公主の歌姫 (三)三月上巳禊水に臨みて邪を祓へり (四)衣を掌る女官となる (五)衣車の中 (六)よく健康を保持せよ (七)姙娠す

初上爲二太子一

初め上の太子爲る時、長公主の女を娶りて妃と爲す。立ちて帝と爲るや、妃も立

皇太后母臧兒一爲二平原君一。封二田蚡一爲二武安侯一。勝爲二周陽侯一。景帝十三男。一男爲レ帝。十二男皆爲レ王。而兒姁早卒。其四子皆爲レ王。王太后長女。號曰二平陽公主一。次爲二南宮公主一。次爲二林慮公主一。蓋侯信好レ酒。田蚡勝貪。巧二於文辭一。王仲早死。葬二槐里一。追尊爲二共侯一。置二園邑二百家一。及二平原君卒一。從二田氏一葬二長陵一。置レ園比二共侯園一。而王太后後二孝景帝一十六歳。以二元朔四年一崩。合二葬陽陵一。王太后家凡三人爲レ侯。

崩ず。陽陵に合葬す。王太后の家、凡そ三人侯と爲りぬ。

(一)催促す　(二)禮儀執行の長官を大行とす　(三)調査　(四)山東沂州府沂水縣　(五)孝武皇帝なり　(六)山東濟南府平原縣　(七)河南彰德府武安縣　(八)山西絳州

衛皇后字子夫。生微矣。蓋其家號曰二衛氏一。出二平陽侯邑一。子夫爲二平陽主謳者一。武帝初卽レ位。數歳無レ子。平陽主求二諸良家

衛皇后、字は子夫、生れて微し(一)。蓋し其家を號して衛氏と曰ふ。平陽侯の邑より出づ。子夫は平陽主の(二)謳者爲り。武帝の初め位に卽くや、數歳子なし。平陽主は諸良家の子女十餘人を求め、飾りて家に置く。武帝は(三)霸上に祓して還り、因りて平陽主に過る。主が侍する所の美人を見すに上說ばず。既に飲むとき、謳者進む。上望見して、獨り衛子夫を說ぶ。是日武帝起ちて衣を更ふ。子夫は(四)尚衣に侍し、(五)軒中幸を得たり。上坐に還りて、驩ぶこと甚しく、

趣二大臣一立二栗姬一爲中皇后上。大行奏レ事畢曰。子以レ母貴。母以レ子貴。今太子母無レ號。宜三立爲二皇后一。景帝怒曰是而所レ宜レ言邪。遂案誅二大行一。而廢二太子一爲二臨江王一。栗姬愈恚恨。不レ得レ見。以レ憂死。卒立二王夫人一爲二皇后一。其男爲二太子一。封二皇后兄信一爲二蓋侯一。景帝崩。太子襲レ號爲二皇帝一。尊二

貴く、母は子を以て貴し。今太子の母は號無し、宜しく立てて皇后と爲すべしと。景帝怒りて曰く、是而が宜しく言ふべき所ならんやと。遂に案じて(三)大行を誅し、而して太子を廢して臨江王と爲す。栗姬愈ゝ恚恨し、見ゆるを得ず、憂を以て死す。卒に王夫人を立てて皇后と爲し、其男を太子と爲し、皇后の兄信を封じて蓋侯(四)と爲す。景帝崩じて、太子號を襲ぎて(五)皇帝と爲り、皇太后の母の臧兒を尊んで、平原君(六)と爲し、田蚡を封じて(七)武安侯と爲し、勝を(八)周陽侯と爲す。景帝は十三男あり、一男は帝と爲り、十二男は皆王と爲る。而して兒姁は早く卒せり、其四子は皆王と爲る。王太后の長女は、號して平陽公主と曰ひ、次は南陽公主と爲し、次を林慮公主と爲す。蓋侯信は酒を好み、田蚡と勝とは貪り、文辭に巧なり。王仲は早く死す、槐里に葬り、追尊して共侯と爲し、園邑二百家を置く。平原君が卒するに及び、田氏に從つて長陵に葬り、園を置くこと、共侯の園に比す。而して王太后は、孝景帝に後るゝこと十六歲、元朔四年を以て

長公主一見二景帝一。得二貴幸一皆過二栗姬一。栗姬日怨怒。謝二長公主一。不レ許。長公主欲レ予二王夫人一。王夫人許レ之。長公主怒。而日讒二栗姬短於景帝一曰。栗姬與二諸貴夫人幸姬一會。常使三侍者祝唾二其背一。挾二邪媚道一。景帝以レ故望レ之。景帝常體不レ安。心不レ樂。屬二諸子爲レ王者於栗姬一曰。百歲後善視レ之。栗姬怒不レ肯レ應。言不遜。景帝恚。心嗛レ之。而未レ發也。長公主日譽二王夫人男之美一。景帝亦賢レ之。又有二曩者所レ夢日符一。計未レ有レ所レ定。

會し、常に侍者をして祝して(三)其背に唾せしむ。(四)邪媚の道を挾めりと。景帝は故を以て之を望む。景帝は常(五)體安からず、心樂まず。諸子の王爲る者を栗姬に屬して曰く、百歲の後は善く之を視よと。栗姬は怒り、應ずるを肯んぜず、言不遜なり。景帝恚り、心に之を嗛む、而も未だ發せず。長公主は日に王夫人の男の美を譽む。景帝も亦之を賢とす。又曩に日を夢みし所の符有り、計未だ定むる所有らず。

(一) 謝絕す (二) 缺點 (三) 木像を祀りて其背に唾す (四) 婦人が他の婦人を呪詛するなり (五) 病身なるを指す

王夫人知下帝望二栗姬一。因怒未レ解。陰使下人

王夫人は、帝が栗姬を望み、因りて怒つて未だ解けざるを知り、陰に人をして大臣を趣(一)し、栗姬を立てて皇后と爲さしむ。(二)大行事を奏し畢りて曰く、子は母を以て

之。曰。兩女皆當貴。因欲奇兩女。乃奪金氏。金氏怒不肯予決。乃內之太子宮。太子幸愛之。生三女一男。男方在身時。王美人夢日入其懷。以告太子。太子曰。此貴徵也。未生而孝文帝崩。孝景帝卽位。王夫人生男。先是臧兒又入其少女兒姁。兒姁生四男。景帝爲太子時。薄太后以薄氏女爲妃。及景帝立。立妃曰薄皇后。皇后毋子毋寵。薄太后崩。廢薄皇后。

生めり。景帝太子爲りし時、薄太后は薄氏の女を以て妃と爲せり。景帝の立つに及び、妃を立てて薄皇后と曰ふ。皇后に子毋し、寵毋し。薄太后崩じて、薄皇后を廢す。

㊀陝西西安府興平縣 ㊁咸陽の東北方 ㊂奇貨とす ㊃金氏より奪ひ返す ㊄婚を返して緣を絕つなり

景帝長男榮。其母栗姬。栗姬齊人也。立榮爲太子。長公主嫖有女。欲予爲妃。栗姬妬。而景帝諸美人。皆因

景帝の長男榮の、其母は栗姬なり。栗姬は齊人なり、榮を立てて太子と爲す。長公主嫖に女有り、予へて妃と爲さんと欲す。栗姬妬む。而して景帝の諸美人は、皆長公主に因りて景帝に見え、貴幸を得るもの皆栗姬よりも過ぐ。栗姬は日に怨怒し、長公主に謝して、許さず。長公主は王夫人に予へんと欲す、王夫人之を許す。長公主怒りて、日に栗姬の短を景帝に讒して曰く、栗姬と諸貴夫人幸姬と

章武侯長君前死。封其子彭祖爲南皮侯。吳楚反時。竇太后從昆弟子竇嬰。任俠自喜。將兵。以軍功爲魏其侯。竇氏凡三人爲侯。竇太后好黄帝老子言。帝及太子諸竇不得不讀黄帝老子尊其術。竇太后後孝景帝六歲。建元六年崩。合葬霸陵。遺詔盡以東宮金錢財物賜長公主嫖。

王太后槐里人。母曰臧兒。臧兒者故燕王臧荼孫也。臧兒嫁爲槐里王仲妻。生男曰信。與兩女。而仲死。臧兒更嫁長陵田氏。生男蚡勝。臧兒長女嫁爲金王孫婦。生一女矣。而臧兒卜筮

王太后は槐里(一)の人なり、母を臧兒と曰ふ。臧兒は、故の燕王臧荼の孫なり。臧兒は嫁して槐里の王仲の妻と爲り、男の信と曰ふものと兩女とを生んで、而して仲は死せり。臧兒は更に長陵(二)の田氏に嫁し、男蚡・勝を生めり。臧兒の長女は、嫁して金王孫の婦と爲り、一女を生めり。而して臧兒は之を卜筮するに、曰く、兩女は皆當に貴かるべしと。因りて兩女を奇(三)として、乃ち金氏を奪はんと欲す。(四)金氏怒りて、予決(五)を肯んぜず。乃ち之を太子の宮に內る。太子之を幸愛し、三女一男を生む。男方に身に在る時、王美人は日其懷に入ると夢み、以て太子に告ぐ。太子曰く、此れ貴徵なりと。未だ生れずして孝文帝崩じ、孝景帝位に卽く。王夫人は男を生む。是より先、臧兒は又其少女兒姁を入る、兒姁は四男を

等曰。吾屬不レ死。命乃且レ縣二此兩人一。兩人所レ出微。不レ可レ不三爲擇二師傅賓客一。又復效二呂氏大事一也。於レ是乃選下長者士之有二節行一者上與居。竇長君少君。由レ此爲二退讓君子一。不下敢以二尊貴一驕中人上。竇皇后病失レ明。文帝幸二邯鄲愼夫人尹姬一。皆毋レ子。孝文帝崩。孝景帝立。乃封二廣國一爲二

人の出づる所は微なり、爲に師傅賓客を擇ばざるべからず、又復呂氏の大事に效はんと。是に於て、乃ち長者(二)と士の節行有る者とを選んで、與に居らしむ。竇長君と少君と、此に由りて退讓の君子と爲り、敢て尊貴を以て人に驕らざりき。竇皇后は病んで明を失す。文帝邯鄲の愼夫人・尹姬を幸す、皆子毋し。孝文帝崩じ、孝景帝立つや、乃ち廣國を封じて(三)章武侯と爲す。長君は前に死せり。其子彭祖を封じて南皮(四)侯と爲す。吳楚反せし時、竇太后の從昆弟の子竇嬰は、任俠(五)自ら喜び、兵に將として、軍功を以て魏其侯と爲る。竇氏凡そ三人侯と爲れり。竇太后は黃帝老子の言を好む、帝及び太子諸竇は、黃帝老子を讀んで、其術を尊ばざるを得ず。竇太后は、孝景帝に後るゝこと六歲、建元(六)六年に崩じぬ。霸陵に合葬す。遺詔して盡く東宮の金錢財物を以て、長公主嫖に賜ひき。

(一) 生存する間　(二) 教師となり傅役となり出入の賓客となるべき者　(三) 趙の地に在り　(四) 同上　(五) 氣を貴ぶて義俠心あり　(六) 孝武帝の年號

其家不ㇾ知二其處一。傳二十餘家一。至二宜陽一。爲二其主一入ㇾ山作ㇾ炭。寒臥二岸下一百餘人。岸崩盡壓二殺臥者一。少君獨得ㇾ脫不ㇾ死。自卜數日當ㇾ爲ㇾ侯。從二其家一之二長安一。聞下竇皇后新立。家在二觀津一姓竇氏上。廣國去時雖ㇾ小。識二其縣名及姓一。又常與二其姉一採ㇾ桑墮。用爲二符信一。上書自陳。竇皇后言二之於文帝一。召見問ㇾ之。具言二其故一。果是。又復問。他何以爲ㇾ驗。對曰。姉去ㇾ我西時。與ㇾ我決二於傳舍中一。丐ㇾ沐沐ㇾ我。請ㇾ食飯ㇾ我。乃去。於ㇾ是竇后持ㇾ之而泣。泣涕交横下。侍御左右。皆伏ㇾ地泣。助二皇后悲哀一。乃厚賜二田宅金錢一。封二公昆弟一。家二於長安一。

桑を採つて墮ちたり。用つて符信（七）と爲し、上書して自ら陳ず。竇皇后之を文帝に言ひ、召し見て之を問ふに、具に其故を言ふ。果して是なり。又復問ふらく、他は何を以て驗と爲んと。對へて曰く、姉の我を去てて西せし時、我と傳舍中に（八）決し、沐を丐うて我を沐せしめ、食を請うて我に飯せしめ、乃ち去りきと。是に（九）於て竇后は之を持して泣き、泣涕交〻横下す。侍御左右、皆地に伏して泣き、皇后の悲哀を助く。乃ち厚く田宅金錢を賜ひ、公昆弟を封じて、長安に家せしむ。

（一）趙の清河郡　（二）長官次官　（三）掠に遇ず、掠め取られて轉賣せらる　（四）少君の居處　（五）轉賣せらる　（六）主家の一族と共に　（七）證明の信條　（八）其外に證據なきか　（九）訣別

絳侯灌將軍

絳侯灌將軍等曰く、吾屬（一）死せずんば、命は乃ち且に此兩人に縣らんとす、兩

生二兩男一。而代王王后生二四男一。先三代王未二入立一爲レ帝。而王后卒。及代王立爲レ帝。而王后所レ生四男更病死。孝文帝立數月。公卿請レ立二太子一。而竇姬長男最長。立爲二太子一。立二竇姬一爲二皇后一。女嫖爲二長公主一。其明年。立二少子武一爲二代王一。已而又徙レ梁。是爲二梁孝王一。

竇皇后親早卒。葬二觀津一。於レ是薄太后乃詔二有司一。追二尊竇后父一爲二安成侯一。母曰二安成夫人一。令三淸河置二園邑二百家一。長丞奉守。比二靈文園法一。竇皇后兄竇長君。弟曰二竇廣國字少君一。少君年四五歲時。家貧爲三人所二略賣一。

竇皇后の親は早く卒し、觀津に葬る。是に於て薄太后は乃ち有司に詔し、竇后の父を追尊して、安成侯と爲し、母を安成夫人と曰ひ、淸河(一)をして園邑二百家を置かしめ、長丞(二)奉守す。靈文の園法に比す。竇皇后の兄は竇長君、弟を竇廣國字は少君と曰ふ。少君年四五歲の時、家貧しく、人の略賣(三)する所と爲る。其家は其處(四)を知らず。十餘家に傳(五)して宜陽に至り、其主の爲に、山に入りて炭を作るに、寒くして岸下に臥するもの百餘人、岸崩れて盡く臥者を壓殺するに、少君は獨り脫するを得て死せず。自つて卜するに、數日にして當に侯爲るべしと。其家(六)に從つて長安に之く。竇皇后新に立ち、家は觀津に在り、姓は竇氏なりと聞く。廣國の去りし時は小なりと雖も、其縣名及び姓を識り、又嘗て其姉と

竇姫以良家子入宮。侍太后。太后出宮人。以賜諸王各五人。竇姫與在行中。竇姫家在淸河。欲如趙近家。請其主遣宦者吏。必置我籍趙之伍中。宦者忘之。誤置其籍代伍中。籍奏。詔可。當行竇姫涕泣怨其宦者。不欲往。相彊乃肯行。至代。代王獨幸竇姫。生女嫖。後

與に行中に在り。竇姫の家は淸河に在り、趙に如いて家に近づかんと欲す。其主(二)遣宦者の吏に請ふらく、必ず我籍(三)を趙の伍中に置けと。宦者之を忘れ、誤つて其籍を代の伍中に置く。籍奏す、詔して可とす。行に當り、竇姫は涕泣して其宦者を怨み、往くを欲せず。(四)相彊ひて乃ち行くを肯んじ、代に至る。代王は獨り竇姫を幸す。女嫖を生み、後に兩男を生む。而して代王の王后は四男を生む。代王が未だ入り立ちて帝と爲らざるに先つて、王后は卒せり。後に代王立ちて帝と爲るや、王后生みし所の四男も、更〻病死せり。孝文帝立つこと數月、公卿太子を立てんと請ふ。而して竇姫の長男は最も長ず。立てて太子と爲す。竇姫を立てて皇后と爲し、女嫖を長公主(五)と爲す。其明年、少子(六)武を立てて代王と爲す。已にして又梁に徙る。是を梁の孝王と爲す。

(一) 諸國の國王　(二) 宮女出頭の事務を取扱ふ侍從の宦官　(三) 名札　(四) 無理强ひに强ひちる　(五) 天子の長女　(六) 末子

故迎二代王一。立爲二孝文皇帝一。而太后改レ號曰二皇太后一。弟薄昭封爲二軹侯一。薄太后母亦前死。葬二櫟陽北一。於レ是乃追二尊薄父一爲二靈文侯一。會稽郡置二園邑三百家一。長丞已下吏奉二守冢寢廟上レ食祠如レ法。而櫟陽北亦置二靈文侯夫人園一。如二靈文侯園儀一。薄太后以爲母家魏王後。早失二父母一。其奉二薄太后一。諸魏有レ力者。於レ是召復二魏氏一。及尊賞賜。各以二親疏一受レ之。薄氏侯者凡一人。薄太后後二文帝二年一。以二孝景帝前二年一崩。葬二南陵一。以二呂后會二葬長陵一。故。特自起レ陵。近二孝文皇帝霸陵一。

薄太后以爲らく、母家は魏王の後なり、早く父母を失へりと。其の薄太后を奉じて、諸魏の力有りし者は（六）、是に於て召して魏氏に復す。及び尊くし賞賜し、各〻親疏を以て之を受く。薄氏の侯たる者は凡そ一人のみ。薄太后は、文帝に後るゝこと二年、孝景帝の前二年を以て崩ず、南陵に葬る。呂后は長陵に會葬せしを以ての故に、特に自ら陵を起し、孝文皇帝の霸陵に近からしめき。

（一）無事に宮中より出づるを得たるなり　（二）母后なり以下同じ　（三）仁愛善良　（四）河南懷慶府濟源縣南方の地　（五）物を墓廟に供へて祀るなり　（六）薄太后の爲に盡力したる魏氏

竇太后趙之清河觀津人也。呂太后時。

竇太后は、趙の清河觀津の人なり。呂太后の時、竇姫は良家の子を以て宮に入り、太后に侍す。太后は宮人を出して、以て諸王に賜ふこと各〻五人、竇姫は

河南宮成皐臺。此兩美人相與笑二薄姬初時約一。漢王聞レ之。問二其故一。兩人具以レ實告二漢王一。漢王心慘然憐二薄姬一。是日召而幸レ之。薄姬曰。昨暮夜妾夢三蒼龍據二吾腹一。高帝曰。此貴徵也。吾爲レ女遂成レ之。一幸生レ男。是爲二代王一。其後薄姬希レ見二高祖一。

高祖崩。諸御幸姬戚夫人之屬。呂太后怒皆幽レ之。不レ得レ出レ宮。而薄姬以二希レ見故一。得レ出。從二子之レ代。爲二代王太后一。太后弟薄昭從レ如レ代。代王立十七年。高后崩。大臣議レ立レ後。疾二外家呂氏彊一。皆稱二薄氏仁善一。

高祖崩じ、諸御の幸姬戚夫人の屬は、呂太后怒りて皆之を幽し、宮を出づるを得ざらしむ。而して薄姬は見ゆること希なるの故を以て、(一)出づるを得たり。子に從つて代に之き、代王の太后(二)と爲る。太后の弟薄昭も、從つて代に如く。代王立ちて十七年、高后崩ず。大臣は後を立つるを議し、外家呂氏の彊きを疾み、皆薄氏の仁善(三)を稱す。故に代王を迎へ、立てて孝文皇帝と爲す。而して太后は號を改めて皇太后と曰ふ。弟薄昭は、封ぜられて軹侯(四)と爲る。薄太后の母も亦前に死し、櫟陽の北に葬る。是に於て乃ち薄父を追尊して、靈文侯と爲す。會稽郡に園邑三百家を置き、長丞已下の吏、冢を奉守す。寢廟食(五)を上り、祠ること法の如くす。而して櫟陽の北に亦靈文侯夫人の園を置き、靈文侯の園の儀の如くす。

薄姫二云。當レ生二天子一。是時項羽方與二漢王一相二距榮陽一。天下未レ有レ所レ定。豹初與レ漢擊レ楚。及レ聞二許負言一。心獨喜。因背レ漢而畔中立。更與レ楚連和。漢使三曹參等擊二虜魏王豹一。以二其國一爲レ郡。而薄姫輸二織室一。豹已死。漢王入二織室一。見二薄姫一有レ色。詔内二後宮一。歲餘不レ得レ幸。始姫少時。與二管夫人。趙子兒一相愛。約曰。先貴無二相忘一。已而管夫人。趙子兒先幸二漢王一。漢王坐二

姫は織室に輸す。豹已に死するや、漢王織室に入りて薄姫を見るに、色有り。（五）詔（四）して後宮に入る、歲餘にして幸せらるゝ（六）を得ず。始め姫の少時、管夫人と趙子兒と相愛し、約して曰く、先づ貴くとも相忘るゝ無からんと。已にして管夫人・趙子兒は、先づ漢王に幸せらる。漢王河南宮の成皐臺に坐す。此兩美人相與に薄姫が初時の約を笑ふ。漢王之を聞いて其故を問ふ。兩人具に實を以て漢王に告ぐ。漢王心に慘然（七）として薄姫を憐み、是日召して之を幸す。薄姫曰く、昨暮夜、妾は蒼龍吾が腹に據ると夢みきと。高帝曰く、此れ貴徵なり。吾女が爲に遂に之を成さん（八）と。一たび幸せられて男を生む、是を代王と爲す。其後は薄姫、高祖に見ゆること希なり。

（一）本家筋の家柄　（二）許氏の老婦　（三）反に同じ　（四）織物を事とする室の女工となる　（五）勝れたる容色　（六）寵幸を受けず　（七）いたみ哀しむ貌　（八）夢を實現せしめん

爲レ子。及二孝惠帝崩一。天下初定未レ久。繼嗣不レ明。於レ是貴二外家一。王二諸呂一以爲レ輔。而以二呂祿女一爲二少帝后一。欲下連二固根本一牢上レ然無レ益也。高后崩合二葬長陵一。祿産等懼レ誅謀レ作レ亂。大臣征レ之。天誘二其統一。卒滅二呂氏一。唯獨置二孝惠皇后一。居二北宮一。迎立二代王一。是爲二孝文帝一。奉二漢宗廟一。此豈非レ天邪。非二天命一孰能當レ之。

(一)呂后の字 (二)晩年に同じ (三)一族を剪滅す (四)重縁の親戚 (五)多くの呂氏なり、呂后の一族を謂ふ (六)帝の子と詐稱せるもの (七)高祖の陵なり (八)漢の皇統を承く

薄太后父呉人。姓薄氏。秦時與二故魏王宗家女魏媼一通生二薄姫一。而薄父死二山陰一。因葬焉。及二諸侯畔一レ秦。魏豹立爲二魏王一。而魏媼内二其女於魏宮一。媼之二許負所一相。相二

薄太后の父は呉人なり、姓は薄氏。秦の時に故の魏王の宗家の女魏媼と通じて、薄姫を生む。而して薄父は山陰に死す、因りて葬る。諸侯の秦に畔くに及び、魏豹も立ちて魏王と爲りぬ。而して魏媼は其女を魏宮に內れき。媼は許負の所に之いて相するに、薄姫を相して云ふらく、當に天子を生むべしと。是時に項羽は方に漢王と滎陽に相距ぎ、天下未だ定まる所有らず。豹は初め漢と楚を擊ちしが、許負の言を聞くに及んで、心獨り喜び、因りて漢に背いて畔して中立し、更に楚と連和す。漢は曹參等をして、擊つて魏王豹を虜にせしめ、其國を以て郡と爲し、薄

爲二高祖正后一。男爲二太子一。及二晩節色衰愛弛一。而戚夫人有レ寵。其子如意幾代二太子一者數矣。及二高祖崩一。呂氏夷二戚氏一誅二趙王一。而高祖後宮。唯獨無レ寵疏遠者得レ無レ恙。呂后長女爲二宣平侯張敖妻一。敖女爲二孝惠皇后一。呂太后以二重親故一。欲二其生レ子萬方終無レ子。詐取二後宮人子一

に及びて、戚夫人寵有り、其子如意、幾ど太子に代らんとする者數〻なり。高祖崩ずるに及び、呂氏は戚氏を夷して趙王を誅せり。而して高祖の後宮の、唯獨り寵無くして疎遠なる者のみ、恙無きを得たり。(三) 呂后の長女は、宣平侯張敖の妻と爲る。敖の女は孝惠皇后爲り。呂太后は重親(四)の故を以て、其の子を生むを欲するを萬方なるも、終に子無し。詐りて後宮の人の子を取りて子と爲せり。孝惠帝崩ずるに及び、天下初めて定り、未だ久しからざるに、繼嗣明ならず。是に於て外家を貴び、諸呂を王として、以て輔と爲す。而して呂祿の女を以て少帝(六)の后と爲し、根本を連固(五)して、牢きこと甚しからしめんと欲す。然も益無かりき。高后崩じて長陵(七)に合葬す。祿產等は、誅を懼れて亂を作さんことを謀る。大臣之を征するに、天は其統(八)を誘けて、卒に呂氏を滅せり。唯獨り孝惠皇后を置き、北宮に居らしめ、迎へて代王を立つ。是を孝文帝と爲す。漢の宗廟を奉ぜり。此れ豈天に非ざらんや。天命に非ずんば、孰か能く之に當らん。

娀。故易基二乾坤一。詩始二關雎一。書美二釐降一。春秋譏レ不二親迎一。夫婦之際。人道之大倫也。禮之用唯婚姻爲二兢兢一。夫樂調而四時和。陰陽之變。萬物之統也。可レ不レ愼與。人能弘レ道。無二如レ命何一。甚哉。妃匹之愛。君不レ能レ得二之於臣一。父不レ能レ得二之於子一。況卑下乎。既驩合矣。或不レ能レ成二子姓一。能成二子姓一矣。或不レ能レ要二其終一。豈非レ命也哉。孔子罕レ稱レ命。蓋難レ言レ之也。非レ通二幽明之變一。惡能識二乎性命一哉。太史公曰。秦以前尙略矣。其詳靡二得而記一レ焉。

或は子姓を成す能はず。(二〇)能く子姓を成すも、或は其終を要する能はず。(二一)豈命に非ずや。孔子命を稱するは罕なりき、蓋し之を言ふを難りしなり。幽明の變に通ずるに非ずんば、(二二)惡んぞ能く性命を識らんや。太史公曰く、秦以前は尙し、略す。(二三)其詳は得て記する靡しと。

(一) 天命を受けて民を治むる受命の君 (二) 之を相續して既定の法則を守る者 (三) 本人の德行隆盛 (四) 后妃の生家 (五) 禹王の妃は塗山氏の出 (六) 桀王の妃 (七) 湯王の母は有娀氏 (八) 有蘇氏の女、紂王の妃 (九) 有邰氏の女なり、周の遠祖を生む (一〇) 摯中氏の女、文王の母 (一一) 褒國の女 (一二) 堯女が舜に降嫁したるを指す (一三) 紀國の君が出迎へざりしを指す (一四) 關係 (一五) 戰々兢々と戒愼す (一六) 萬物統治の根本 (一七) 天命 (一八) 夫婦の愛の義 (一九) 卑賤より高貴の愛を望み求む (二〇) 子孫 (二一) 終局の美 (二二) 天地幽明の理法 (二三) 事古く詳にし難し

漢興。呂娥姁

漢興るや、(一)呂娥姁は高祖の正后爲り、男は太子と爲る。(二)晩節に色衰へて愛弛ぶ

自古受命帝王。及繼體守文之君。非獨內德茂也。蓋亦有外戚之助焉。夏之興也。以塗山。而桀之放也。以末喜。殷之興也。以有娀。紂之殺也。嬖妲己。周之興也。以姜原及大任。而幽王之禽也。淫於褒

卷四十九

外戚世家第十九

古より命を受けたるの帝王、及び體を繼ぎ文を守るの君は、獨り內德の茂んなるのみに非ず、蓋し亦外戚の助有るなり。夏の興るや塗山を以てし、桀の放たるゝや末喜を以てす。殷の興るや有娀を以てし、紂の殺さるゝや妲己を嬖せり。周の興るや姜原及び大任を以てし、而して幽王の禽となるや褒姒に淫すればなり。故に易は乾坤に基き、詩は關雎に始り、書は釐降を美とし、春秋は親迎せざるを譏れり。夫婦の際は人道の大倫なり、禮の用は唯婚姻を兢兢と爲す。樂は調うて四時和す、陰陽の變は萬物の統なり。愼まざるべけんや。人能く道を弘むるも、命を如何ともすること無し。甚しい哉妃匹の愛は、君も之を臣より得る能はず、父も之を子より得る能はず、況んや卑下をや。既に驩び合ふも、

言輕レ威。陳王斬レ之。諸陳王故人皆自引去。由レ是無下親ニ陳王一者上。陳王以ニ朱房一爲ニ中正一。胡武爲ニ司過一。主ニ司羣臣一。諸將徇レ地至。令之不レ是者。繫而罪レ之。以ニ苛察一爲レ忠。其所レ不レ善者。弗レ下レ吏。輒自治レ之。陳王信ニ用之一。諸將以ニ其故一不ニ親附一。此其所ニ以敗一也。陳勝雖ニ已死一。其所ニ置遣一侯王將相。竟亡レ秦。由ニ涉首レ事也。高祖時。爲ニ陳涉一置ニ守冢三十家一。碭至レ今血食。

三十家を置き、碭は今に至るまで血食せり。(一二)

(一)舊交の友人 (二)放置して陳王に通告せず (三)宮殿等の奥深き貌 (四)驕侈の貌を形容するに使用す (五)頻繁にして意に任せて行動す (六)自身より退去す (七)司法の長官、司過は其次官 (八)制令 (九)朱房胡武等と仲惡しき者 (一〇)罪を正し罰を治む (一一)墳墓を守る戸 (一二)後世に祭祀せらるゝを謂ふ

褚先生曰。地形險阻。所ニ以爲レ固也。兵革刑罰。所ニ以爲レ治也。猶未レ足レ恃也。夫先王。以ニ仁義一爲レ本。而以ニ固塞文法一爲ニ枝葉一。豈不レ然哉。吾聞ニ賈生之稱一曰。秦孝公據ニ殽函之固一云云。

(一)褚先生曰く、地形險阻は固を爲す所以なり、兵革刑罰は治を爲す所以なり。猶未だ恃むに足らざるなり。夫れ先王は仁義を以て本と爲して、(二)固塞文法を以て(三)枝葉と爲すと。豈然らざらんや。吾賈生の稱するを聞くに曰く、(四)秦の孝公は殽函の固に據れり云云と。

(一)褚少孫が太史公の闕文を補作したるなり (二)堅固 (三)要害險阨と刑賞の法律と (四)以下は賈誼の過秦論の文字なり、秦始皇本紀にも出てたり故に略す

門曰、吾欲見涉。宮門令欲縛之。自辯數、乃置。不肯爲通。陳王出。遮道而呼涉。陳王聞之。乃召見。載與俱歸。入宮。見殿屋帷帳。客曰、夥頤涉之爲王沈沈者。楚人謂多爲夥。故天下傳之夥涉爲王、由陳涉始。客出入愈益發舒、言陳王故情。或說陳王曰、客愚無知。顓妄

ぜず。陳王出づ、道を遮りて涉と呼ぶ。陳王之を聞き、乃ち召し見て、載せて與に俱に歸り、宮に入るに、殿屋帷帳を見て、客の曰く、夥しく頤いなるかな涉の王爲ること、(三)沈沈たる者なりと。楚人は多を謂つて夥と爲す、故に天下之を傳へて、(四)夥しいかな涉の王爲ることと。陳涉より始るなり。客の出入するもの、愈〻益〻(五)發舒し、陳王の故情を言ふ。或ひと陳王に說いて曰く、客は愚にして知無く、顓ら妄言して威を輕んずと。陳王之を斬る。諸〻の陳王の故人、皆自ら(六)引き去る。是より陳王に親む者無かりき。陳王は朱房を以て(七)中正と爲し、胡武を司過と爲して、羣臣を主司せしむ。諸將の地を徇へて至るや、(八)令の是からざる者は、繫いで之を罪す。苛察を以て忠と爲す。其の(九)善からざる所の者は、吏に下さずして、輒ち自ら之を(一〇)治するに、陳王は之を信用せり。諸將其故を以て親附せず、此れ其の敗れし所以なり。陳勝已に死せりと雖も、其置き遣りし所の侯王將相は、竟に秦を亡ぼせり。涉が事を首めしに由るなり。高祖の時、陳涉の爲に守冢(一一)

立二景駒一爲二楚王一。引レ兵之二方與一。欲レ擊二秦軍定陶下一。使下公孫慶使中齊王上。欲二與幷レ力俱進一。齊王曰。聞二陳王戰敗一。不レ知二其死生一。楚安得二不レ請而立レ王。公孫慶曰。齊不レ請レ楚而立レ王。楚何故請レ齊而立レ王。且楚首レ事。當レ令二於天下一。田儋誅二殺公孫慶一。秦左右校復攻レ陳下レ之。呂將軍走。收レ兵復聚。鄱盜當陽君黥布之兵。相收復擊二秦左右校一。破二之青波一。復以レ陳爲レ楚。會下項梁立二懷王孫心一爲中楚王上。

事を首む(六)、當に天下に令すべしと。田儋は公孫慶を誅殺(七)せり。秦の左右校(八)は、復陳を攻めて之を下す。呂將軍走り、兵を收めて復聚る。鄱盜(九)の當陽君黥布の兵も、相收つて復秦の左右校を擊ち、之を青波(一〇)に破り、復陳を以て楚と爲す。項梁が懷王の孫心を立てて楚王と爲すに會す。

(一) 秦の南關なり　(二) 宿驛送りの平民の乘車　(三) 公示の義　(四) 山東兗州　(五) 山東曹州　(六) 大事を首倡す
(七) 其不遜なるを怒る也　(八) 左右の校尉　(九) 江西饒州府なる鄱陽の賊徒　(一〇) 陳城附近の地

陳勝王凡六月。已爲レ王王レ陳。其故人嘗與傭耕者。聞レ之レ陳。扣二宮

陳勝は王たること凡そ六月なり。已に王と爲りて陳に王たるや、其故人(一)の嘗て與に傭耕せし者、之を聞きて陳に之き、宮門を扣いて曰く、吾は涉を見んと欲すと。宮門の令は之を縛せんと欲す。自ら辯ずること數〻なり。乃ち置き(二)、肯て爲に通

武平君年少。不レ知二兵事一。勿レ聽。因矯以二王命一殺二武平君畔一。章邯已破二伍徐一擊レ陳。柱國房君死。章邯又進レ兵擊二陳西張賀軍一。陳王出監レ戰。軍破張賀死。臘月。陳王之二汝陰一。還至二下城父一。其御莊賈殺以降レ秦。陳勝葬レ碭。謚曰二隱王一。陳王故涓人將軍呂臣。爲二蒼頭軍一。起二新陽一。攻レ陳下レ之。殺二莊賈一。復以レ陳爲レ楚。

初陳王至レ陳。令下銍人宋留將レ兵定二南陽一。入中武關上。留已徇二南陽一。聞二陳王死一。南陽復爲レ秦。宋留不レ能レ入二武關一。乃東至二新蔡一。遇二秦軍一。宋留以レ軍降レ秦。秦傳レ留至二咸陽一。車二裂留一以徇。秦嘉等聞二陳王軍破出走一。乃

初め陳王の陳に至るや、銍人宋留をして、兵に將として南陽を定めて武關(一)に入らしむ。留は已に南陽を徇ふるに、陳王死せりと聞くや、南陽は復秦と爲りき。宋留武關に入ること能はず。乃ち東して新蔡に至り、秦軍に遇ふ。宋留は軍を以て秦に降りぬ。秦は留を傳にして咸陽に至らしめ、留を車裂して以て徇(三)す。秦嘉等は、陳王の軍破れて出(二)で走ると聞き、乃ち景駒を立てて楚王と爲し、兵を引いて方與(四)に之き、秦軍を定陶(五)の下に擊たんと欲す。公孫慶をして齊王に使せしめ、與に力を併せて倶に進まんと欲す。齊王曰く、陳王は戰ひ敗れしを聞くも、其死生を知らず。楚安んぞ請はずして王を立つるを得んや と。公孫慶曰く、齊は楚に請はずして王を立てたり、楚は何が故に齊に請うて王を立てん。且楚は

徐將兵居許。章邯擊破之。伍徐軍皆散走陳。陳王誅鄧說。陳王初立時。陵人秦嘉。銍人董緤。符離人朱雞石。取慮人鄭布。徐人丁疾等。皆特起將兵。圍東海守慶於郯。陳王聞。乃使武平君畔爲將軍。監郯下軍。秦嘉不受命。嘉自立爲大司馬。惡屬武平君。告軍吏曰。

嘉、銍人董緤、符離の人朱雞石、取慮の人鄭布、徐人丁疾等、皆特起し(二)、兵に將として東海の守慶を郯に圍む。陳王聞き、乃ち武平君畔をして將軍と爲りて、郯下の軍を監せしむるに、秦嘉は命を受けず。嘉は自立して大司馬と爲り、武平君に屬するを惡ふ。軍吏に告げて曰く、武平君は年少く、兵事を知らず、聽くこと勿れと。因りて矯むるに王命を以てし、武平君畔を殺す。章邯は已に伍徐を破り、陳を擊つ。柱國房君死す。章邯は又兵を進めて、陳の西なる張賀の軍を擊つ。陳王出でて戰を監せしも、軍破れて張賀は死せり。(三)臘月陳王は汝陰(四)に之き、還りて(五)下城父に至る。其御莊賈は殺して以て秦に降りき。陳勝は碭(六)に葬り、諡して隱王と曰ふ。陳王の故の涓人(七)、將軍呂臣は、蒼頭軍を爲りて新陽(八)に起り、陳を攻めて之を降し、莊賈を殺し、復陳を以て楚と爲す。

(一) 郟の誤か、今の河南汝州郟縣は陽城に近し　(二) 獨力を以て起つ　(三) 十二月　(四) 安徽潁州府　(五) 城父の東邊　(六) 江蘇徐州碭山縣　(七) 近侍の臣なり　(八) 安徽潁州府大和縣

之レ國。周市卒爲レ相。將軍田臧等相與謀曰。周章軍已破矣。秦兵且暮至。我圍ニ滎陽城一弗レ能レ下。秦軍至必大敗。不レ如下少遺レ兵足三以守ニ滎陽一悉ニ精兵一迎中秦軍上。今假王驕不レ知ニ兵權一。不レ可ニ與計一。非レ誅レ之事恐敗。因相與矯ニ王令一。以誅ニ吳叔一。獻ニ其首於陳王一。陳王使三使賜ニ田臧楚令尹印一。使レ爲ニ上將一。田臧乃使ニ諸將李歸等守ニ滎陽城一。自以ニ精兵一。西迎ニ秦軍於敖倉一與戰。田臧死軍破。章邯進レ兵擊ニ李歸等滎陽下一破レ之。李歸等死。

諸將李歸等をして滎陽城を守らしめ、自ら精兵を以て、西して秦軍を敖倉に(八)迎へ、與に戰ふ。田臧死して軍破る。章邯は兵を進め、李歸等を滎陽の下に擊つて之を破る。李歸等死す。

(一) 齊の地なり山東青州府高苑縣西北方　(二) 魏王の後裔　(三) 五度往復す　(四) 前に出でたる周文に同じ　(五) 吳廣を指す　(六) 陳王の命なりと詐稱す　(七) 行政長官たる官印　(八) 秦が穀物倉を置きたる所なり、河南開封府に屬す

陽城人鄧説將レ兵居レ郯。章邯別將擊破レ之。鄧説軍散走レ陳。銍人伍

陽城の人鄧説は、兵に將として郯( )に居る。章邯の別將擊つて之を破る。鄧説の軍散じて陳に走る。銍人伍徐は、兵に將として許に居る。章邯擊つて之を破る。伍徐の軍皆散じて陳に走る。陳王は鄧説を誅しぬ。陳王初め立つ時、陵人秦

當二此之時一。諸將之徇レ地不可二勝數一。周市北徇レ地至レ狄。狄人田儋殺二狄令一。自立爲二齊王一。以レ齊反擊二周市一。市軍散。還至二魏地一。欲下立二魏後故寗陵君咎一爲中魏王上。時咎在二陳王所一。不レ得レ之レ魏。魏地已定。欲下相與立二周市一爲中魏王上。周市不レ肯。使者五反。陳王乃立二寗陵君咎一爲二魏王一。遣レ

此の時に當りて、諸將の地を徇ふること數ふるに勝ふべからず。周市は北のかた地を徇へて狄に至るに、(一)狄人田儋は狄の令を殺し、自立して齊王と爲り、齊を以て反し、周市を撃つ。市の軍散じ、還つて魏の地に至り、(二)魏の後の故の寗陵君咎を立てて魏王と爲さんと欲す。時に咎は陳王の所に在りて、魏に之くを得ず。魏の地已に定るや、相與に周市を立てて魏王と爲さんと欲す。周市肯かず。使者五(三)反す。陳王乃ち寗陵君咎を立てて魏王と爲し、國に之かしむ。周市卒に相と爲る。將軍田臧等相與に謀りて曰く、(四)周章の軍已に破る、秦兵は旦暮に至らん。我は滎陽城を圍んで下すこと能はず。秦軍至らば必ず大いに敗れん。少しく兵を遣して、以て滎陽を守るに足らしめ、精兵を悉して秦軍を迎ふるに如かず。今(五)假王は驕りて兵權を知らず、與に計るべからず。之を誅するに非ずんば、事恐くは敗れんと。因つて相與に(六)王の令を矯め、以て吳叔を誅し、其首を陳王に獻ず。陳王は使をして田臧に楚の(七)令尹の印を賜はしめ、上將爲らしむ。田臧乃ち

使三使北徇二燕地一。以自廣上也。趙南據二大河一。北有二燕代一。楚雖レ勝レ秦不二敢制一レ趙。若楚不レ勝レ秦。必重レ趙。趙乘二秦之弊一。可三以得二志於天下一。趙王以爲レ然。因不レ西レ兵。而遣三故上谷卒史韓廣將レ兵北徇二燕地一。燕故貴人豪傑謂二韓廣一曰。楚已立レ王。趙又已立レ王。燕雖レ小亦萬乘之國也。願將軍立爲二燕王一。韓廣曰。廣母在レ趙不可。燕人曰。趙方西憂レ秦南憂レ楚。其力不レ能レ禁レ我。且以二楚之彊一。不三敢害二趙王將相之家一。趙獨安敢害二將軍之家一。韓廣以爲レ然。乃自立爲二燕王一。居數月。趙奉二燕王母及家屬一歸二之燕一。

んば、必ず趙を重し(二)とせん。趙は秦の弊に乘じて、以て志を天下に得べしと。趙王以て然りと爲し、因りて兵を西せしめず。故の上谷の卒史(三)韓廣をして、兵に將として北のかた燕の地を徇へしむ。燕の故の貴人豪傑は、韓廣に謂つて曰く、楚は已に王を立て、趙又已に王を立つ。燕は小なりと雖も、亦萬乘の國なり。願くは將軍立つて燕王と爲れと。韓廣曰く、廣の母は趙に在り、不可なりと。燕人曰く、趙は方に西のかた秦を憂へ、南のかた楚を憂へ、其力我を禁ずる(四)能はず。且つ楚の彊を以て敢て趙王將相(五)の家を害せず。趙獨り安ぞ敢て將軍の家を害せんやと。韓廣以て然りと爲し、乃ち自立して燕王と爲る。居ること數月、趙は燕王の母及び家屬を奉じて、之を燕に歸りぬ。

(一) 自家の領域を擴大す　(二) 尊重す　(三) 郡の事務官　(四) 禁止制遏す　(五) 家族

澠池。十餘日。章邯擊大破レ之。周文自剄。軍遂不レ戰。武臣到二邯鄲一。自立爲二趙王一。陳餘爲二大將軍一。張耳。召騷爲二左右丞相一。陳王怒捕二繫武臣等家室一。欲レ誅レ之。柱國曰。秦未レ亡而誅二趙王將相家屬一。此生二一秦一也。不レ如二因而立一レ之。陳王乃遣二使者一賀レ趙。而徙二繫武臣等家屬宮中一。而封二其子張敖一爲二成都君一。趣二趙兵一亟入レ關。

等の家室を捕へ繋いで之を誅せんと欲す。柱國曰く、秦未だ亡びずして、趙王將相の(四)家屬を誅するは、比れ一秦を生ずるなり(五)。因りて之を立つるに如かずと。陳王乃ち使者を遣りて趙を賀せしめ、武臣等の家屬を宮中に徙し繋ぎ、其子張敖を封じて成都君と爲し、趙兵を趣して亟に關に入らしむ。

(一) 御料局長官の類　(二) 驪山に建築中なりし囚徒及び名家の奴隷を放免す　(三) 河南曹陽府　(四) 家族に同じ　(五) 新に又一強敵を生ずる義

趙王將相相與謀曰。王王レ趙。非二楚意一也。楚已誅レ秦。必加二兵於趙一。計莫レ如下毋レ西レ兵。

趙王の將相は相與に謀りて曰く、王の趙に王たるは楚の意に非ざるなり。楚已に秦を誅せば、必ず兵を趙に加へん。計るに兵を西する毋く、使をして北のかた燕の地を徇へしめ、以て自ら廣(一)うするに如くは莫し。趙は南は大河に據り、北は燕代を有たば、楚は秦に勝つと雖も、敢て趙を制せざらん。若し楚は秦に勝たず

て行く／＼兵を收めて關に至らしむ。車千乘、卒數十萬あり。戲に至りて軍す。

㊀叔は吳廣の字　㊁集團する者　㊂秦の李斯の子李由時に河南郡守府なる三川の地に守たりき　㊃楚の大臣の位　㊄日時の吉凶を判定する官

報。至陳。陳王誅殺葛嬰。陳王令魏人周市北徇魏地。吳廣圍滎陽。李由爲三川守。守滎陽。吳叔弗能下。陳王徵國之豪傑與計。以上蔡人房君蔡賜爲上柱國。周文陳之賢人也。嘗爲項燕軍視日。事春申君。自言習兵。陳王與之將軍印。西擊行收兵至關。車千乘。卒數十萬。至戲軍焉。

秦令少府章邯免酈山徒人奴產子。悉發以擊楚大軍。盡敗之。周文敗走。出關止次曹陽。二三月。章邯追敗之。復走次

秦は少府章邯をして、酈山の徒人奴產子を免ぜしめ、悉く發して以て楚の大軍を擊ち、盡く之を敗る。周文敗走し、關を出でて曹陽に止り次る。二三月、章邯は追うて之を敗る。復走りて澠池に次る。十餘日にして、章邯は擊つて大いに之を破り、周文は自剄す。軍遂に戰はず。武臣は邯鄲に到り、自立して趙王と爲る。陳餘は大將軍と爲り、張耳、召騷は左右の丞相と爲る。陳王怒り、武臣

勝。守丞死。乃入據レ陳數日。號令召二三老豪傑一與皆來會計レ事。三老豪傑皆曰。將軍身被レ堅執レ鋭。伐二無道一誅二暴秦一。復立二楚國之社稷一。功宜レ爲レ王。陳涉乃立爲レ王。號爲二張楚一。當二此時一。諸郡縣苦二秦吏一者。皆刑二其長吏一殺レ之。以應二陳涉一。

乃以二吳叔一爲二假王一。監二諸將一以西擊二滎陽一。令三陳人武臣。張耳。陳餘徇二趙地一。令三汝陰人鄧宗徇二九江郡一。當二此時一。楚兵數千人。爲レ聚者不レ可レ勝レ數。葛嬰至二東城一。立二襄彊一爲二楚王一。嬰後聞二陳王已立一。因殺二襄彊一還

乃ち吳叔を以て假王と爲し、諸將を監して以て西して滎陽を撃たしむ。陳人武臣(一)と張耳・陳餘をして趙の地を徇へしめ、汝陰の人鄧宗をして九江郡を徇へしむ。是の時に當り、楚兵數千人、(二)聚を爲す者數ふるに勝ふべからず。葛嬰は東城に至り、襄彊を立てて楚王と爲す。嬰は後に陳王已に立つと聞き、因りて襄彊を殺して還り報ず、陳に至るに、陳王は葛嬰を誅殺せり。陳王は、魏人周市をして北のかた魏地を徇へ、吳廣をして滎陽を圍ましむ。(三)李由は三川の守と爲りて滎陽を守る、吳叔下すこと能はず。陳王は國の豪傑を徵して與に計り、上蔡の人房君蔡賜を以て(四)上柱國と爲す。周文は陳の賢人なり、嘗て項燕の軍の視日(五)と爲り、春申君に事ふ。自ら言ふらく兵に習ふと。陳王は之に將軍の印を與へ、西撃し

扶蘇項燕。從二民欲一也。袒ㇾ右稱二大楚一。爲ㇾ壇而盟。祭以二尉首一。陳勝自立爲二將軍一。吳廣爲二都尉一。攻二大澤鄕一。收而攻ㇾ蘄。蘄下。乃令二符離人葛嬰。將ㇾ兵徇二蘄以東一。攻二銍酇苦柘譙一皆下ㇾ之。行收ㇾ兵比ㇾ至ㇾ陳。車六七百乘。騎千餘。卒數萬人。攻ㇾ陳。陳守令皆不ㇾ在。獨守丞與戰二譙門中一弗ㇾ

し、壇を爲りて盟ひ、祭るに尉の首を以てし、陳勝は自立して將軍と爲り、吳廣は都尉と爲り、大澤の鄕を攻め、收めて蘄(三)を攻む。蘄下る。乃ち符離(四)の人葛嬰をして、兵に將として蘄以東を徇へしめ、銍(五)・酇・苦・柘・譙を攻めて皆之を下す。行く〳〵兵を收め、陳に至る比は、車六七百乘、騎千餘、卒數萬人あり。陳を攻むるに、陳の守令は皆在らず、獨り守丞のみ與に譙門(六)の中に戰つて勝たず。守丞死す、乃ち入りて陳に據ること數日なり。號令して、三老豪傑(七)を召すに、與に皆來り會して事を計る。三老豪傑皆曰く、將軍は身に堅(八)を被り銳を執り、無道を伐つて暴秦を誅し、復楚國の社稷を立つ。功宜しく王と爲るべしと。陳涉乃ち立つて王と爲り、號して張楚と爲す。是時に當り、諸郡縣の秦の吏に苦む者は、皆其長吏(九)を刑して之を殺し、以て陳涉に應じき。

(一) 民衆の意向　(二) 誓盟の時右肩を脫ぐは楚の國風なり　(三) 安徽鳳陽府宿州　(四) 蘄の鄕邑　(五) 皆鳳陽府附近の縣名　(六) 城樓の下に在る物見櫓の門　(七) 秦制によりて設けし鄕邑の風敎取締役　(八) 堅き甲と銳利なる兵器　(九) 長官たる守令

叢祠中。夜篝火。狐鳴呼曰。大楚興。陳勝王。卒皆夜驚恐。旦日卒中往往語皆指ニ目陳勝。吳廣素愛レ人。士卒多ニ爲レ用者。將尉醉。廣故數言レ欲レ亡。忿ニ恚尉一令レ辱レ之。以激ニ怒其衆。尉果笞レ廣。尉劍挺。廣起奪而殺レ尉。陳勝佐レ之。幷殺ニ兩尉。召令ニ徒屬一曰。公等遇レ雨皆已失レ期。失レ期當レ斬。藉第令レ毋レ斬。而戍死者固十六七。且壯士不レ死即已。死即擧ニ大名一耳。王侯將相寧有レ種乎。徒屬皆曰。敬受レ命。

の醉ふや、廣は故に數〻亡げんと欲すと言ひ、尉を忿恚せしめ、(八)之を辱めしめて、以つて其衆を激怒せしむ。尉果して廣を笞ち、尉の劍挺くるや、廣は起ち奪うて尉を殺す、陳勝之を佐け、幷せて兩尉を殺す。召して徒屬に令して曰く、公等雨に遇ひ、皆已に期を失へり。期を失へば斬に當す。(九)藉し第斬る毋らしむとも、而も戍死する者は固に十に六七なり。且壯士死せずんば即ち已まんも、死せば即ち大名を擧げんのみ、王侯將相寧ぞ種有らんやと。(一〇)徒屬皆曰く、敬んで命を受けんと。

(一) 白絹に朱書す (二) 網なり (三) 陳營せる所 (四) 叢林中の神祠 (五) 狐の鳴聲のまねす (六) 指ざし視る (七) 引率の尉官 (八) 尉怒りて吳廣を辱かしむれば衆人怒る (九) 萬一の義なり、たとひ斷罪を免るともの義 (一〇) 種族の區別

乃詐稱ニ公子

乃ち詐りて公子扶蘇・項燕と稱す、(一一)民の欲に從ふなり。(一二)右を袒して大楚と稱

將。數有レ功愛二士卒一。楚人憐レ之。或以爲レ死。或以爲レ亡。今誠以二吾衆一詐自稱二公子扶蘇項燕一。爲二天下唱一。宜レ多二應者一。吳廣以爲レ然。乃行卜。卜者知二其指意一曰。足下事皆成有レ功。然足下卜レ之鬼乎。陳勝吳廣喜念レ鬼曰。此教二我先威一レ衆耳。

に、卜者は其指意を知りて曰く、足下の事は皆成りて功有らん。然れども足下の卜は鬼に之けと。陳勝吳廣喜び、鬼を念じて曰く、此れ我に先づ衆を威すを教ふるのみと。

(一) 朱子 (二) 蒙恬の軍を監せしを指す (三) 首倡なり (四) 眞意のある所 (五) 鬼神を借るを宜しとす

乃丹二書帛一曰。陳勝王。置二人所レ罾魚腹中一。卒買レ魚亨食。得二魚腹中書一。固以怪レ之矣。又間令三吳廣之二次近所旁

乃ち帛に丹書して曰く、陳勝は王たりと。人をして罾する所の魚の腹中に置かしむ。卒は魚を買うて烹て食ふに、魚腹中の書を得て、固に以て之を怪しむ。又間に吳廣をして次の近所の旁なる叢祠中に之かしむ。夜篝火あり、狐鳴して呼びて曰く、大楚興らん、陳勝は王たらんと。卒皆夜驚き恐る。旦日卒の中に、往往語りて皆陳勝を指目す。吳廣は素人を愛す、士卒の用と爲る者多し。將尉

元年。七月。發二閭左一。適二戍漁陽一。九百人。屯二大澤郷一。陳勝呉廣皆次當レ行爲二屯長一。會二天大雨道不レ通。度已失レ期。失レ期法皆斬。陳勝呉廣乃謀曰。今亡亦死。擧二大計一亦死。等死。死レ國。可乎。

㊀河南汝寧縣汝陽府　㊁河南陳州府太康縣　㊂小高き土地、丘なり　㊃四海を横飛する大鳥　㊄秦の時富强者は閭門の右に住み貧弱者は左に住めり　㊅直隷順天府密雲縣　㊆適は謫にて刑徒の遠役、戍は守備兵　㊇安徽鳳陽府宿州地方　㊈役の番　（一〇）軍法に依りて斬に處せらる　（一一）秦に叛き國を建てて死せん

陳勝曰。天下苦レ秦久矣。吾聞二世少子也。不レ當レ立。當レ立者乃公子扶蘇。扶蘇以二數諫一故。上使二外將レ兵。今或聞無レ罪。二世殺レ之。百姓多聞二其賢一。未レ知二其死一也。項燕爲二楚

陳勝曰く、天下秦に苦むこと久し、吾れ聞く、二世は少子（一二）なり、當に立つべからず。當に立つべき者は乃ち公子扶蘇なり。扶蘇は數々諫めしを以ての故に、上は外に兵に將たらしめき。今は或は聞くに、罪無くして二世之を殺せりと。百姓多く其賢を聞いて、未だ其死を知らざるなり。項燕は楚の將と爲りて、數々功有り、士卒を愛せり。楚人之を憐み、或は以て死せりと爲し、或は以て亡ぐと爲す。今誠し吾が衆を以て、詐りて自ら公子扶蘇・項燕なりと稱し、天下の唱（一三）を爲さば、宜しく應ずる者多かるべしと。呉廣も以て然りと爲す。乃ち行きトする

陳勝者陽城人也。字涉。吳廣者陽夏人也。字叔。陳涉少時。嘗與人傭耕。輟耕之壟上。悵恨久之曰。苟富貴無相忘。傭者笑而應曰。若爲傭耕。何富貴也。陳涉太息曰。嗟乎。燕雀安知鴻鵠之志哉。二世

巻四十八

陳涉世家第十八

陳勝は陽城(一)の人なり、字は涉。吳廣は陽夏の人なり、字は叔。陳涉は少時、嘗て人の與に傭はれ耕す。耕を輟めて壟(三)上に之き、悵恨之を久しうして曰く、苟も富貴ならば相忘るゝ無からんと。傭者笑つて應へて曰く、若、傭耕を爲す、何ぞ富貴ならんと。陳涉太息して曰く、嗟乎、燕雀安ぞ鴻鵠(四)の志を知らんやと。二世の元年七月、閭左(五)を發して漁陽(六)に適戍(七)せしむ。九百人、大澤の鄕(八)に屯す。陳勝と吳廣と皆次いで行(九)に當り、屯の長と爲る。天大いに雨りて、道通ぜざるに會ふ。度るに已に期を失へり。期を失へば法(一〇)に皆斬らる。陳勝吳廣は乃ち謀りて曰く、今亡ぐるも亦死せん、大計を擧ぐるも亦死せん、等しく死せんに、國(一一)に死せんこと可ならんかと。

堂車服禮器。諸生以レ時習二禮其家一。余低回留レ之。不レ能レ去云。天下君王至二于賢人一衆矣。當時則榮。沒則已焉。孔子布衣傳二十餘世一。學者宗レ之。自二天子王侯一。中國言二六藝一者。折二中於夫子一。可レ謂二至聖一矣。

者之を宗とし、天子王侯より、中國の六藝を言ふ者は、(六)夫子に折中す。至聖と謂ふべきなり。

㈠詩經小雅車舝の篇　㈡大道に同じ　㈢肄習す　㈣首を垂れて徘徊するなり　㈤云々の略　㈥孔子を標準として其正否を定む、折中は衆多を比較して其中正を採るなり、折衷に同じ

思。年六十二。嘗困於宋。子思作中庸。子思生白。字子上。年四十七。子上生求。字子家。年四十五。子家生箕。字子京。年四十六。子京生穿。字子高。年五十一。子高生子慎。年五十七。嘗爲魏相。子慎生鮒。年五十七。爲陳王渉博士。死於陳下。鮒弟子襄年五十七。嘗爲孝惠皇帝博士。遷爲長沙太守。長九尺六寸。子襄生忠。年五十七。忠生武。武生延年及安國。安國爲今皇帝博士。至臨淮太守。蚤卒。安國生卬。卬生驩。

り。

㈠ 禮法を講習し、郷校の優等生を送る宴を開き、郷人の弓術試験を行ふ ㈡ 一萬坪を頃とす ㈢ 墓域中に移し入る ㈣ 牛羊豕を供ふる鄭重なる祭祀 ㈤ 次の世家を見るべし ㈥ 陳の城下 ㈦ 漢の孝武帝 ㈧ 安徽泗州盱眙縣

太史公曰。詩有之。高山仰止。景行行止。雖不能至。然心鄕往之。余讀孔氏書。想見其爲人。適魯觀仲尼廟

太史公曰く詩に之れ有り、㈠高山は仰がん、景行は行かんと。至る能はずと雖も、然も心之に鄕ひ往くなり。余は孔氏の書を讀み、其の人と爲りを想見し、魯に適いて仲尼の廟堂と車服禮器と、諸生の時を以て禮を其家に習ふとを觀て、余は低回して之に留り、去る能はざりきと云ふ。天下の君王より賢人に至るまで衆し。當時は則ち榮ゆるも、沒すれば則ち已む。孔子は布衣にして十餘世に傳はり、學

以二歲時一奉二祠孔子冢一。而諸儒亦講二禮鄉飮大射於孔子冢一。孔子冢大一頃。故所レ居堂弟子內。後世因廟。藏二孔子衣冠琴車書一。至二于漢一。二百餘年不レ絕。高皇帝過レ魯。以二太牢一祠焉。諸侯卿相至。常先謁。然後從レ政。孔子生レ鯉。字伯魚。伯魚年五十。先二孔子一死。伯魚生レ伋。字子

し鄉飮し大射す。孔子の冢は大いさ一頃なり。故居りし所の堂は、弟子內れたり。(三)後世因りて廟とし、孔子の衣冠琴車書を藏む。(三)漢に至るまで、二百餘年絕えず、高皇帝の魯に過るや、(四)太牢を以て祠る。諸侯卿相の至るや、常に先づ謁し、然して後に政に從ふ。孔子は鯉を生む、字は伯魚。伯魚は年五十、孔子に先つて死す。伯魚は伋を生む、字は子思。年六十二、嘗て宋に困しめり。子思は中庸を作る。子思は白を生む、字は子上、年四十七。子上は求を生む、字は子家、年四十五。子家は箕を生む、字は子京、年四十六。子京は穿を生む、字は子高、年五十一。子高は子愼を生む、年五十七。嘗て魏の相と爲れり。子愼は鮒を生む、年五十七。(五)陳王涉の博士と爲り、(六)陳下に死す。鮒の弟子襄は、年五十七。嘗て孝惠皇帝の博士と爲り、遷りて長沙の太守と爲りき、長九尺六寸あり。子襄は忠を生む、年五十七。忠は武を生み、武は延年及び安國を生む。安國は今皇帝の(七)博士と爲り、(八)臨淮の太守に至り、蚤く卒す。安國は卬を生み、卬は驩を生め

老。俾屏余一人以在位。煢煢余在疚。嗚呼哀哉尼父。毋自律。子貢曰。君其不沒於魯乎。夫子之言曰。禮失則昏。名失則愆。失志爲昏。失所爲愆。生不能用。死而誄之。非禮也。稱余一人。非名也。孔子葬魯城北泗上。弟子皆服三年。三年心喪畢。相訣而去。則哭各復盡哀。或復留。唯子貢廬於冢上。凡六年。然後去。弟子及魯人。往從冢而家者百有餘室。因命曰孔里。

の泗上に葬る。弟子皆服すること三年、(一〇)三年の心喪(一一)畢るや、相訣して去り、則ち哭して各々復哀を盡し、或は復留る。唯子貢は冢上(一二)に廬すること凡そ六年、然して後に去りき。弟子及び魯人の、往いて冢に從うて家する者百有餘室なり。因りて命じて孔里と曰ふ。

(一) 余を推戴するもの無し (二) 遺骸を棺に收めて堂下に置くなり、かりもがりと訓ず (三) 故人の與徳を忍ぶ弔辭 (四) 天は我を憐まず無理にも生存せしめて予を輔佐せしむべきに今やこの老人を奪ひ去れりとの義 (五) 孤獨の貌なり、疚は心中の憂患なり (六) 父は大夫の顯稱 (七) 法則とし模範とす (八) 無事にして死沒するなり (九) 余一人は天子の稱する所なり諸侯の稱すべきに非ざるを謂ふ (一〇) 喪に服す (一一) 喪服を著けざる心の喪 (一二) 墓のほとりに家を構へ居る

魯世世相傳。

魯は世世相傳へ、歲時を以て孔子の冢を奉祠す。而して諸儒も亦孔子の冢に講禮(一)

辭。弟子受二春秋一。孔子曰。後世知レ丘者以二春秋一。而罪レ丘者亦以二春秋一。明歳子路死二於衛一。孔子病。子貢請レ見。孔子方負レ杖。逍二遙於門一曰。賜汝來何其晩也。孔子因歎歌曰。太山壞乎。梁柱摧乎。哲人萎乎。因以涕下。

謂二子貢一曰。天下無レ道久矣。莫二能宗一レ予。夏人殯二於東階一。周人於二西階一。殷人兩柱間。昨暮予夢レ坐二奠兩柱之間一。予殆殷人也。後七日卒。孔子年七十三。以二魯哀公十六年四月己丑一卒。哀公誄レ之曰。旻天不レ弔。不レ憖遺二一

子貢に謂つて曰く、天下道無きや久し、能く予を宗(二)とするもの莫し。夏人は東階に殯(一)し、周人は西階に於てし、殷人は兩柱の間にす。昨暮予は兩柱の間に坐し奠せらるゝを夢みき。予は殆ど殷人なりと。後七日に卒す。孔子年七十三。魯の哀公の十六年四月己丑を以て卒せり。哀公之を誄(三)して曰く、旻天(四)弔まず、憖に一老を遺して、余一人を屛けて、以て位に在らしめず。煢煢(五)として余は疚に在り。嗚呼哀い哉、尼父(六)よ、自ら律(七)する毋しと。子貢曰く、君は其れ魯に沒(八)へざらんか。夫子の言に曰く、禮失へば則ち昏く、名失へば則ち愆ち、志を失へば昏と爲り、所を失へば愆と爲ると。生に用ふる能はず、死して之に誄するは、禮に非ざるなり。余一人と稱するは、名(九)に非ざるなりと。孔子は魯の城北

十四年。十二公。據魯親周。故殷運之三代。約其文辭而指博。故吳楚之君自稱王。而春秋貶之曰子。踐土之會。實召周天子。而春秋諱之。曰天王狩於河陽。推此類以繩當世。貶損之義。後有王者。舉而開之。春秋之義行。則天下亂臣賊子懼焉。孔子在位。聽訟文辭有可與人共者弗獨有也。至於爲春秋筆則筆。削則削。子夏之徒。不能贊一

當世を繩し、貶損の義あり。(七)後に王者有り、(八)舉げて之を開かば、(九)春秋の義行はれて、則ち天下の亂臣賊子懼れんとす。孔子位に在りて訟を聽くや、文辭の、人と共にすべき者有り、獨り有するに弗ず。(一〇)春秋を爲るに至りては、筆すべきは則ち筆し、削るべきは則ち削り、子夏の徒も一辭を贊する能はず。(一一)弟子春秋を受く。孔子曰く、後世の丘を知る者は春秋を以てせん、丘を罪する者も亦春秋を以てせんと。明歲、子路は衞に死す。(一二)孔子病む、子貢見えんと請ふ。孔子方に杖を負うて門に逍遙す。(一三)曰く、賜よ、(一四)汝の來る何ぞ其れ晩きやと。孔子因りて歎じ歌つて曰く、太山壞れんか、(一五)梁柱摧けんか、哲人萎れんかと。因りて以て涕下る。

(一) 否否に同じ　(二) 春と秋とに朝聘の大禮あり故に史を春秋と稱す　(三) 根據とす　(四) 論及するなり　(五) 冒意なり　(六) 晉世家參照　(七) 姦邪を誅責せんが爲に其身分を卑下賤稱にす　(八) 王道を行ふ者　(九) 一字褒貶の意を採用して施行す　(一〇) 一人にて文案を作成するを得ず　(一一) 孔門中にて文學に長けたりと稱せらる　(一二) 衞世家參照　(一三) 杖に倚るを謂ふ　(一四) 子貢名は端木賜　(一五) 山東の名岳泰山なり

西狩見レ麟曰。吾道窮矣。喟然歎曰、莫レ知レ我夫。子貢曰。何爲レ莫レ知レ子。子曰。不レ怨レ天。不レ尤レ人。下學而上達。知レ我者其天乎。不レ降二其志一。不レ辱二其身一。伯夷叔齊乎。謂二柳下惠少連一。降レ志辱レ身矣。謂二虞仲夷逸一。隱居放言。行中レ淸。廢中レ權。我則異二於是一。無レ可無二不可一。

ふらく、隱居して放言す、行は淸に中り、廢は權に中る。(五)我は則ち是に異なり、可も無く不可も無しと。

(一) 山東曹州府鉅野縣 (二) 車役人 (三) 周易繫辭に見ゆ、共に聖人命を受けたる時の瑞祥なり (四) 卑近の人事を學んで高尙の天命に達す (五) 身を廢棄するも而もよく時に應ずる權宜の措置なり

子曰。弗乎弗乎。君子病二沒レ世而名不一レ稱焉。吾道不レ行矣。吾何以自見二於後世一哉。乃因二史記一作二春秋一。上至二隱公一。下訖二哀公

子の曰く、弗か弗か、(一)君子は世を沒するまで名の稱せられざるを病む。吾が道行はれず、吾れ何を以てか自ら後世に見はれんと。乃ち史記に因りて(二)春秋を作る。上は隱公に至り、下は哀公の十四年に訖るまで、十二公あり。魯に據りて周を親とす。故の殷より之を三代に運らし、(四)其文辭を約にして指は博し。故に(三)吳楚の君は自ら王と稱せるも、春秋は之を貶して子と曰ふ。(五)(六)踐土の會は實に周の天子を召す、而して春秋は之を諱んで、天王河陽に狩すと曰ふ。此の類を推して以て

然善誘レ人。博レ我以レ文。約レ我以レ禮。欲レ罷不レ能。既竭二吾才一。如レ有レ所レ立卓爾。雖レ欲レ從レ之。蔑レ由也已。達巷黨人童子曰。大哉孔子。博學而無レ所レ成レ名。子聞レ之曰。我何執。執レ御乎。執レ射乎。我執レ御矣。牢曰。子云。不レ試故藝。

て天道を後せるを曰ふなり（五）錐に一揉み通す（六）仰ぎ觀る（七）順序正しきこと（八）知識を博くせしむ（九）行動を整へしむ（一〇）我全力を竭して之を學べるも夫子の立つ所は猶巍然として高處に在り（一一）五百家を黨とす、達は其邑名（一二）博學高德得て名づけ難し（一三）名を成さんが爲に一事に專心せん（一四）門人子牢（一五）世に用ひ試みられず

魯哀公十四年。春。狩二大野一。叔孫氏車子鉏商獲レ獸。以爲二不祥一。仲尼視レ之曰。麟也。取レ之。曰。河不レ出レ圖。雒不レ出レ書。吾已矣夫。顏淵死。孔子曰。天喪レ予。及二

魯の哀公の十四年春、大野に狩す。（一）叔孫氏の車子鉏商、（二）獸を獲たり。以て不祥と爲す。仲尼之を視て曰く、麟なりと。之を取る。曰く、河は圖を出さず、雒は書を出さず。吾れ已むと。顏淵死す。孔子曰く、天予を喪せりと。（三）西狩に麟を見るに及んで曰く、吾が道窮すと。喟然として歎じて曰く、我を知るもの莫きかと。子貢曰く、何ぞ子を知るもの莫しと爲さんと。子曰く、天を怨みず人を尤めず、下（四）學して上達す、我を知る者は其れ天かと。其志を降さず、其身を辱めざるは、伯夷叔齊か。柳下惠少連を謂ふらく、志を降し身を辱しむと。虞仲夷逸を謂

三人行必得我師。德之不修。學之不講。聞義不能從。不善不能改。是吾憂也。使人歌。善則使復之。然後和之。子不語怪力亂神。子貢曰。夫子之文章。可得聞也。夫子言天道與性命。弗可得聞也已。顏淵喟然歎曰。仰之彌高。鑽之彌堅。瞻之在前。忽焉在後。夫子循循

(一)三人行へば必ず我が師を得。德の修まらざる、學の講ぜざる、義を聞いて徙る能はざる、不善の改むる能はざる、是れ吾の憂なりと。人を歌はしむるに、善ければ則ち之を復せしめて、然る後に之を和す。子は怪(二)力亂神を語らず。子貢曰く、夫子の文章(三)は聞くを得べし、夫子の天道(四)と性命とを言ふは、聞くを得べからざるのみと。顏淵は喟然として歎じて曰く、之を仰げば彌〻高く、之を鑽れば彌〻堅く(五)、之を瞻るに、前に在るかとすれば、忽焉として後に在り。夫子は循循然(七)として善く人を誘ひ(六)、我を博うするに文を以てし(八)、我を約するに禮を以てし(九)、罷めんと欲して能はず(一〇)。既に吾が才を竭すも、立つ所有りて卓爾たるが如し。之に從はんと欲すと雖も、由蔑きのみと(一一)。達巷の黨人童子曰く、大なる哉孔子、博く學んで名を成す所無しと(一二)。子之を聞いて曰く、我は何をか執らん(一三)、御を執らんか射を執らんか。我は御を執らんと(一四)。牢曰く、子云へり、試みられず(一五)、故に藝ありと。

(一) 論語參照、孔子の語なり (二) 怪異、多力、悖亂、鬼神の說話 (三) 詩書禮樂を指す (四) 孔子人道を急とし

絶レ四。毋レ意毋レ必。毋レ固毋レ我。所レ愼齊戰疾。子罕レ言二利與一レ命與レ仁。不レ憤不レ啓。擧二一隅一不下以二三隅一反上。則弗レ復也。其於二鄕黨一。恂恂似二不レ能レ言者一。其於二宗廟朝廷一。辯辯言唯謹爾。朝與二上大夫一言。誾誾如也。與二下大夫一言。侃侃如也。入二公門一。鞠躬如也。趨進翼如也。君召使レ儐。色勃如也。君命召。不レ俟レ駕行矣。魚餒肉敗。割不レ正不レ食。席不レ正不レ坐。食二於有レ喪者之側一。未二嘗飽一也。是日哭則不レ歌。見二齊衰瞽者一。雖二童子一必變。

たり。其の宗廟朝廷に於けるや辯辯(八)として言ひ、唯謹む。朝に上大夫と言ふや、誾誾如(九)たり。下大夫と言ふや、侃侃如(一〇)たり。公門に入るには鞠躬如(一一)たり、趨り進むに翼如(一二)たり。君召して儐(一三)せしむれば色勃如たり、君命じて召せば、駕を俟たずして行く。魚餒(一四)れ肉敗れ、割の正しからざるは食はず、席正しからざれば坐せず。喪有る者の側に食すれば、未だ嘗て飽かず(一五)。是日(一六)に哭すれば則ち歌はず。齊衰(一七)と瞽者とを見れば、童子と雖も必ず變ず。

(一) 臆出　(二) 私意を用ひず、事を必せず、執着せず、我を棄てて道に從ふ　(三) 祭祀の齋戒と戰爭と疾病と　(四) 天命は微妙にして言ひ難し　(五) 憤發せざれば啓き導かず　(六) 四隅あるもの一隅を教ふるに他の三隅を以て反問するなり　(七) 謹直謙遜の貌　(八) 多言の貌便々に同じ　(九) 和悦の貌　(一〇) 剛正の貌　(一一) 身を曲め愼しむなり　(一二) 扶擁して袖張る貌　(一三) 賓客接待　(一四) 腐爛するなり　(一五) 飽食せざるなり　(一六) 人を問ひ弔ひ哭せる日　(一七) 喪服の者

始。文王爲二大雅始一。清廟爲二頌始一。三百五篇。孔子皆弦二歌之一。以求レ合二韶武雅頌之音一。禮樂自レ此可レ得而述。以備二王道一成二六藝一。孔子晩而喜レ易。序彖繫象說卦文言。讀レ易韋編三絕。曰。假二我數年一。若レ是我於レ易則彬彬矣。

於て則ち彬彬たらんと。

(一) 重複の部分 (二) 周の幽王厲王が失政荒廢の時代 (三) 卑近解し易き點 (四) 列國の民風民情を歌ふ (五) 王者の政事に於ける盛儀を歌ふなり (六) 政事に大小あるが如く雅にも大小あるなり (七) 宗廟祭祀に其功德を稱揚するなり (八) 韶は帝舜の樂、武は周武王の樂 (九) 禮樂射御書數 (一〇) 晩年に同じ (一一) 易の十翼是なり (一二) 竹簡書の革の綴紐 (一三) 此の如く易を研究す

孔子以二詩書禮樂一敎。弟子蓋三千焉。身通二六藝一者。七十有二人。如二顏濁鄒之徒一。頗受レ業者甚衆。孔子以レ四敎。文行忠信。

孔子は詩書禮樂を以て敎ふ、弟子蓋し三千あり、身六藝に通ずる者七十有二人なり。(一)顏濁鄒の徒の如き、頗る業を受けたる者も甚だ衆し。孔子は四を以て敎ふ、文・行・忠・信。四を絕つ、(二)意毋く必毋く、固毋く我毋し。愼む所は(三)齊・戰・疾。子は利と(四)命と仁とを言ふこと罕なり。(五)憤せざれば啓せず、(六)一隅を擧ぐるに三隅を以て反せざれば、則ち復せず。其の鄕黨に於けるや、(七)恂恂として言ふ能はざる者に似

也。殷禮吾能言之。宋不足徵也。足則吾能徵之矣。觀殷夏所損益、曰後雖百世可知也。以一文一質。周監二代。郁郁乎文哉。吾從周。故書傳禮記自孔氏。孔子語魯太師、樂其可知也。始作翕如。縱之純如。皦如繹如也。以成。吾自衛反魯。然後樂正。雅頌各得其所。

堯舜二帝なり　(五)秦の繆公　(六)夏の後裔なり、杞國は夏禮の證據とするに足らず　(七)殷の後裔なり　(八)後代百千世の後　(九)周は文を尚び、殷は質は尚べり　(一〇)文物の盛なる貌　(一一)樂官　(一二)相合致する貌　(一三)音律の和調するなり　(一四)音律分明に調子を分つ　(一五)相連りて絶えず　(一六)周樂を正すを得たり

古者詩三千餘篇。及至孔子。去其重。取可施於禮義。上采契后稷。中述殷周之盛。至幽厲之缺。始於衽席。故曰。關雎之亂。以爲風始。鹿鳴爲小雅

古は詩三千餘篇あり、孔子に至るに及んで、其重(一)を去て、禮義に施すべきを取る。上は契・后稷より采り、中ごろ殷周の盛を述べ、幽厲(二)の缺に至るまで、衽(三)席より始る。故に曰く、關雎の亂は以て風(四)の始と爲し、鹿鳴は小雅(五)の始と爲し、文王は大雅(六)の始と爲し、淸廟は頌(七)の始と爲す。三百五篇あり。孔子皆之を弦歌して、以て韶武(八)雅頌の音に合ふを求む。禮樂此より得て述ぶべし。以て王道に備へて六藝を成す。孔子は晩(一〇)にして易を喜む。序象(一一)繫象說卦文言あり。易を讀んで韋編(九)三たび絕ゆ。曰く、我に數年を假し、是(一二)の若くならば、我は易に

對曰。政在レ選臣。季康子問レ政。曰。擧レ直錯二諸枉一。則枉者直。康子患レ盜。孔子曰。苟子之不欲。雖レ賞レ之不レ竊。然魯終不レ能レ用二孔子一。孔子亦不レ求レ仕。孔子之時。周室微而禮樂廢。詩書缺。追二迹三代之禮一。序二書傳一。上紀二唐虞之際一。下至二秦繆一。編二次其事一。曰。夏禮吾能言レ之。杞不レ足レ徵

く、直き(一)を擧げて諸を枉れるに錯かば、則ち枉れる者も直からんと。康子は盜を患ふ。孔子曰く、苟も子の不欲(二)ならば、之を賞すと雖も竊まじと。然も魯は終に孔子を用ふる能はず、孔子も亦仕を求めざりき。孔子の時、周室微にして禮樂廢れ、詩書缺く。三代の禮を追迹し、書傳(三)を序で、上は唐虞(四)の際を紀し、下は秦繆(五)に至るまで、其事を編次す。曰く、夏の禮は吾れ能く之を言ふ、杞(六)は徵するに足らざるなり。殷の禮は吾能く之を言ふ、宋(七)は徵するに足らざるなり。足らば則ち吾れ能く之を徵せんと。殷夏の損益する所を觀て曰く、後百世(八)と雖も知るべし。(九)一文と一質とを以て、周は二代に監みる、郁郁乎(一〇)として文なる哉。吾は周に從はんと。故に書傳禮記は孔氏よりす。孔子魯の太師(一一)に語るらく、樂は其れ知るべし、始め作るや翕如(一二)たり、之を縱つに純如(一三)たり、皦如(一四)たり繹如(一五)たり、以て成る。吾れ衞より魯に反つて、然る後に樂正(一六)しく、雅頌各〻其所を得たりと。

㊀ 材木を積むの喩、正直を擧用して邪曲の者を正すと也　㊁ 無慾なり　㊂ 古書傳記を整理す　㊃ 陶唐有虞の略

學二之於孔子一。季康子曰。孔子何如人哉。對曰。用レ之有レ名。播二之百姓一。質二諸鬼神一而無レ憾。求レ之至二於此道一。雖レ累二千社一。夫子不レ利也。康子曰。我欲レ召レ之。可乎。對曰。欲レ召レ之。則毋下以二小人一固上レ之。則可矣。而衞孔文子將レ攻二太叔一。問二策於仲尼一。仲尼辭レ不レ知。退而命レ載而行。曰。鳥能擇レ木。木豈能擇レ鳥乎。文子固止。會下季康子逐二公華公賓公林一。以レ幣迎中孔子上。孔子歸レ魯。孔子之去レ魯。凡十四歲。而反二乎魯一。

を累ぬと雖も夫子は利とせずと(七)。康子曰く、我は之を召さんと欲す、可ならんかと。對へて曰く、之を召さんと欲せば、則ち小人(八)を以て之を固しむる毋くんば則ち可ならんと。而るに衞の孔文子は將に太叔を攻めんとして、策を仲尼に問ふに、仲尼は知らずと辭し、退いて載(九)を命じて行りぬ。曰く、鳥は能く木を擇ぶ、木豈能く鳥を擇ばんやと。文子は固く止む。季康子が公華(一〇)・公賓・公林を逐ひ、幣を以て孔子を迎ふるに會し、孔子は魯に歸る。孔子の魯を去りしより、凡そ十四歲にして魯に反れり。

(一)山東兗州府魯臺縣　(二)天性　(三)國の名聲を揚ぐ　(四)遺憾無し　(五)求むれば以上の至善の政道を行ふ　(六)二萬五千家　(七)利慾の念なきを指す　(八)小人が孔子を惡所とし輕視するなり　(九)車なり、荷物の支度なり　(一〇)魯の群小なり

魯哀公問レ政。

魯の哀公政を問ふ。對へて曰く、政は臣を選ぶに在りと。季康子政を問ふ。曰

多仕於衛。衛君欲得孔子為政。子路曰。衛君待子而為政。子將奚先。孔子曰。必也正名乎。子路曰。有是哉。子之迂也。何其正也。孔子曰。野哉由也。夫名不正。則言不順。言不順。則事不成。事不成。則禮樂不興。禮樂不興。則刑罰不中。刑罰不中。則民無所錯手足矣。夫君子為之必可名。言之必可行。君子於其言無所苟而已矣。

ち事成らず、事成らざれば則ち禮樂興らず、禮樂興らざれば則ち刑罰中らず、刑罰中らざれば、則ち民は手足を錯く所無けん。(八)夫れ君子之を爲せば必ず名づくべし、之を言へば必ず行ふべし。君子は其言に於て苟もする所無きのみと。

(一) 百組の牛羊家なり、天子といへども斯の如く多からず (二) 與、爲二世家參照 (三) 優劣なき義 (四) 言語なり、衛を責むるを謂ふ (五) 名義を正しうす (六) 迂遠 (七) 野鄙 (八) 手足を伸して安息す

其明年。冉有為季氏將師。與齊戰於郎。克之。季康子曰。子之於軍旅。學之乎。性之乎。冉有曰。

其明年、冉有は季氏の爲に師に將たり、齊と郎(一)に戰つて之に克つ。季康子曰く、子の軍旅に於けるは、之を學ぶか之を性とするかと。冉有曰く、之を孔子に學べりと。季康子曰く、孔子は何如なる人ぞやと。對へて曰く、之を用ふれば名有り。(三)之を百姓に播き、諸を鬼神に質して憾無し。(四)之を求むれば此道に至る。(五)千社(六)

之君、卒王二天下一。今孔丘得レ據二土壤一賢弟子爲レ佐。非二楚之福一。昭王乃止。其秋、楚昭王卒二于城父一。楚狂接輿歌而過二孔子一曰、鳳兮鳳兮。何德之衰。往者不レ可レ諫兮。來者猶可レ追也。已而已而。今之從レ政者殆而。孔子下、欲二與レ之言一。趨而去。弗レ得二與レ之言一。於レ是孔子自レ楚反二乎衞一。是歲也。孔子年六十三。而魯哀公六年也。

を占有す (八)佯りて狂を粧へる賢人接輿 (九)鳳凰なり、孔子に喩ふ (一〇)鳳凰は聖王の世に出づ、今孔子徨彷す、故に德衰ふと謂ふなり (一一)過去に於ける游說の徒勞は諫止すべからず (一二)將來は之を止め得べし

其明年。吳與レ魯會レ繒。徵二百牢一。太宰嚭召二季康子一。康子使二子貢往一。然後得レ已。孔子曰。魯衞之政兄弟也。是時衞君輒父不レ得レ立。在レ外。諸侯數以爲レ讓。而孔子弟子

其明年、吳と魯と繒に會し、(一)百牢を徵す。太宰嚭は季康子を召ぶに、康子は子貢をして(二)往かしめ、然る後に已むを得たり。孔子曰く、魯衞の政は(三)兄弟なりと。是時衞君輒の父は立つを得ずして外に在り。諸侯數〻以て(四)讓を爲す。而して孔子の弟子は多く衞に仕ふ。衞君は孔子を得て政を爲さんと欲す。子路曰く、衞君は子を待つて政を爲さんとす、子將に奚をか先にせんと。孔子曰く、必ずや(五)名を正さんかと。子路曰く、是れ有るかな子が(六)迂なるや、何ぞ其れ正さんと。孔子曰く、(七)野なるかな由や、夫れ名正しからざれば則ち言順ならず、言順ならざれば則

貢一者上乎。曰。無レ有。王之輔相。有下如二顔回一者上乎。曰。無レ有。王之將率。有下如二子路一者上乎。曰。無レ有。王之官尹。有下如二宰予一者上乎。曰。無レ有。且楚之祖封二於周一。號爲二子男一。五十里。今孔丘述二三王之法一。明二周召之業一。王若用レ之。則楚安得三世世堂堂方數千里一乎。夫文王在レ豐。武王在レ鎬。百里

將率(三)に子路が如き者有りやと。曰く有ること無しと。王の官尹(四)に宰予が如き者有りやと。曰く、有ること無しと。且楚の祖は周より封ぜられ、號して子男(五)爲り、五十里のみ。今孔丘は三王の法を述べ、周召(六)の業を明にす。王若し之を用ひば、則ち楚は安んぞ世世堂堂として方數千里なるを得んや。夫れ文王は豐に在り、武王は鎬に在り、百里の君のみ。卒に天下に王たりき。今孔丘が土壤(七)に據るを得て、賢弟子佐と爲るは、楚の福に非ざるなりと。昭王乃ち止む。其秋に楚の昭王は城父に卒す。楚の狂接輿(八)、歌つて孔子を過りて曰く、鳳や鳳や(九)、何ぞ徳の(一〇)衰へたる。往く者(一一)は諫むべからず、來る者(一二)は猶追ふべし、已みなん已みなん、今の政に從ふ者は殆しと。孔子下りて之と言はんと欲するに、趨りて去り、之と言ふを得ず。是に於て、孔子は楚より衛に反りぬ。是歳や孔子は年六十三、而して魯の哀公の六年なり。

(一)行政長官 (二)補佐の大臣 (三)率は帥に同じ (四)行政官 (五)爵位なり (六)周公召公の事業 (七)封土

爲於此。顔回曰。夫子之道至大。故天下莫能容。雖然夫子推而行之。不容何病。不容然後見君子。夫道之不修也。是吾醜也。夫道既已大修。而不用。是有國者之醜也。不容何病。不容然後見君子。孔子欣然而笑曰。有是哉。顔氏之子。使爾多財。吾爲爾宰。於是使子貢至楚。楚昭王興師迎孔子。然後得免。昭王將以書社地七百里封孔子。

ん、容れられずして然る後に君子を見る。夫れ道の修らざるは、是れ吾が醜(二)なり。夫れ道既に已に大いに修つて、而も用ひざるは、是れ國を有つ者の醜なり。容れられざる何ぞ病へん、容れられずして然る後に君子を見ると。孔子欣然として笑つて曰く、是れ有るかな顔氏の子、爾に財多からしめば、吾は爾が宰(三)と爲らんと。是に於て子貢をして楚に至らしむ。楚の昭王は師を興して孔子を迎ふ。然して後に免るゝを得たり。昭王は將に書社(四)の地七百里を以て孔子を封ぜんとす。

(一) 推し廣める義 (二) 恥辱 (三) 支配人の類 (四) 二十五戸を一里とし、之に一社を立て其戸を記錄す、依て之を書社といふ

楚令尹子西曰。王之使使諸侯有如子

楚の令尹(一)子西曰く、王の諸侯に使せしむるや、子貢の如き者有りやと。曰く、有ること無しと。王の輔相(二)に顔回の如き者有りやと。曰く、有ると無しと。王の

安有伯夷叔齊。使智者而必行。安有王子比干。子路出。子貢入見。孔子曰。賜。詩云。匪兕匪虎。率彼曠野。吾道非耶。吾何為於此。子貢曰。夫子之道至大也。故天下莫能容夫子。夫子蓋少貶焉。孔子曰。賜。良農能稼。而不能為穡。良工能巧。而不能為順。君子能修其道。綱而紀之。統而理之。而不能為容。今爾不修爾道。而求為容。賜而志不遠矣。子貢出。顔回入見。

を爲すこと能はず。良工は能く巧にす、而も順(一〇)を爲す能はず。君子能く其道を修め、綱(一一)して之を紀し、統(一二)して之を理む。而も容れらるゝ能はず。今爾は爾の道を修めずして而も容れらるゝを求むるか。賜よ、而の志は遠(一三)からずと。子貢出で、顔回入り見ゆ。

(一)憤懣の心状　(二)詩經小雅何草不黄の篇　(三)居り止るの義　(四)未だ仁者たる能はざるか　(五)然れども汝再思せよ　(六)他より信用せらるゝ者とせんか　(七)卑しく世間的に變更すべしとの義　(八)種蒔なり　(九)收穫なり　(一〇)個人々々の好みに適合す　(一一)法によりて正す　(一二)要を取りて整ふ　(一三)遠大高尚ならず

孔子曰。回。詩云。匪兕匪虎。率彼曠野。吾道非耶。吾何

孔子曰く、回よ、詩に云ふ、兕に匪ず虎に匪ず、彼曠野に率ふと。吾が道非なるか、吾れ何爲れぞ此に於てすると。顔回曰く、夫子の道は至大なり、故に天下能く容るゝ莫きなり。然りと雖も夫子推(こ)して之を行へ。容れられざる何ぞ病ま

徒役一。圍二孔子於野一。不レ得レ行。絶レ糧。從者病ツ莫二能興一。孔子講誦弦歌不レ衰ヘ。子路慍見曰。君子亦有レ窮乎。孔子曰。君子固窮。小人窮斯濫矣。子貢色作。孔子曰。賜爾以レ予爲二多學而識レ之者一與。曰然非與。孔子曰。非也。予一以貫レ之。

孔子知三弟子有二慍心一。乃召二子路一而問曰。詩云。匪レ兕匪レ虎。率二彼曠野一。吾道非耶。吾何爲於レ此。子路曰。意者吾未レ仁耶。人之不二我信一也。意者吾未レ知耶。人之不二我行一也。孔子曰。有レ是乎。由。譬使二仁者而必信一。

孔子は弟子の慍心有るを知り、乃ち子路を召して問うて曰く、詩に云ふ、兕(一)に匪ず虎に匪ず、彼曠野(二)に率ふ(三)と。吾が道非なるか、吾れ何爲れぞ此に於てすると。子路曰く、意ふに吾れ未だ(四)仁ならざるか、人の我を信ぜざるなり。意ふに吾れ未だ知ならざるか、人の我を行かしめざるなりと。孔子曰く、是れ有るかな。由よ(五)、譬へば仁者をして必ず信ぜしめば、安んぞ伯夷叔齊有らんや。智者をして必ず行かしめば、安んぞ王子比干(六)有らんやと。子路出で、子貢入り見ゆ。孔子曰く、賜よ、詩に云ふ、兕に匪ず虎に匪ず、彼曠野に率ふと。吾が道非なるか、吾れ何爲れぞ此に於てすると。子貢曰く、夫子の道は至大なり、故に天下能く夫子を容るゝ莫し。夫子蓋し少しく貶せよ(七)と。孔子曰く、賜よ、良農は能く稼す(八)、而も穡(九)

三歳。吳伐レ陳。楚救レ陳、軍二于城父一。聞三孔子在二陳蔡之間一。楚使三人聘二孔子一。孔子將二往拜禮一。陳蔡大夫謀曰。孔子賢者。所二刺譏一皆中二諸侯之疾一。今者久留二陳蔡之間一。諸大夫所二設行一。皆非二仲尼之意一。今楚大國也。來聘二孔子一。孔子用二於楚一。則陳蔡用レ事大夫危矣。於レ是乃相與發二

の間に在りと聞き、楚は人をして孔子を聘せしむ。孔子將に往いて拜禮せんとす。陳蔡の大夫謀りて曰く、孔子は賢者なり、(二)刺譏する所は皆諸侯の(三)疾に中る。今は久しく陳蔡の間に留るも、諸大夫の(四)設け行ふ所は皆仲尼の意に非ず。今楚は大國なり、來つて孔子を聘す。孔子楚に用ひらるれば、則ち陳蔡の(五)事を用ふる大夫は危からんと。是に於て、乃ち相與に(六)徒役を發し、孔子を野に圍む。行くことを得ず。糧を絶つ。從者病み、能く(七)興つもの莫し。孔子は(八)講誦弦歌して衰へず。子路慍り見えて曰く、君子も亦窮すること有りやと。孔子曰く、君子も固に窮す。小人は窮すれば斯に(九)濫すと。子貢(一〇)色作る。孔子曰く、賜よ爾は予を以て多く學んで之を識る者と爲すかと。曰く、然り、非かと。孔子曰く、非なり、予は(一一)一以て之を貫くのみと。

(一) 楚世家參照 (二) 精察して論議する所 (三) 缺點病處 (四) 施設する所 (五) 執政の大夫 (六) 夫役なり (七) 起立 (八) 詩書を講誦し琴を彈じて歌ふ (九) 妄りに道に背き邪惡を爲す (一〇) 憤慨の色現はる (一一) 一理によりて萬物を推し之を貫穿して知れるなり

曰然。曰。是知レ津矣。桀溺謂二子路一曰、子爲レ誰。曰。爲二仲由一。曰、子孔丘之徒與。曰。然。桀溺曰。悠悠者天下皆是也。而誰以易レ之。且與三其從二辟レ人之士一。豈若レ從二辟レ世之士一哉。耰而不レ輟。子路以告二孔子一。孔子憮然曰。鳥獸不レ可二與同レ羣。天下有レ道。丘不二與易一也。他日子路行。遇二荷レ蓧丈人一。曰。子見二夫子一乎。丈人曰。四體不レ勤。五穀不レ分。孰爲二夫子一。植二其杖一而芸。子路以告。孔子曰。隱者也。復往則亡。

從はんよりは、豈世を辟くるの士に從ふに若かんやと。(八)耰して輟めず。子路以て孔子に告ぐ。孔子(九)憮然として曰く、鳥獸は與に羣を同じうすべからず。天下道有らば、丘は與り易へざるなりと。他日子路行いて、(一一)蓧を荷ふの(一二)丈人に遇ふ。曰く、子は夫子を見しかと。丈人曰く、(一三)四體勤めず五穀分たず、孰をか夫子と爲んと。(一四)其杖を植てて芸る。子路以て告ぐ。孔子曰く、隱者なりと。復往けば則ち亡し。

(一)二人相並ぶなり　(二)世を避けたる賢人　(三)渡場　(四)車上に轡を執れる者　(五)孔丘は天下を周游せる人なり、津を知るに相違なし　(六)風を易へ俗を改む　(七)小人を避け君子を求むる人　(八)土を以て種を覆ふなり　(九)失意の貌　(一〇)之に關係して變改す　(一一)土を運ぶ器　(一二)老人　(一三)子は手足を勞せず五穀の辨別も出來ざるに誰を夫子として問ひ索むるかとの義　(一四)杖を荷へる樣

孔子遷二于蔡一

孔子蔡に遷りて三歲、吳は陳を伐つ。楚は陳を救うて(一)城父に軍す。孔子が陳蔡

射二殺昭公一。楚侵レ蔡。秋。齊景公卒。明年孔子自レ蔡如レ葉。葉公問レ政。孔子曰。政在レ來レ遠附レ邇。他日葉公問二孔子於子路一。子路不レ對。孔子聞レ之曰。由爾何不レ對曰。其爲レ人也。學レ道不レ倦。誨レ人不レ厭。發レ憤忘レ食。樂以忘レ憂。不レ知二老之將レ至云爾。去レ葉反二于蔡一。

路に問ふに、子路は對へざりき。孔子之を聞いて曰く、由爾何ぞ對へて曰はざる、其の人と爲りや道を學んで倦まず、人を誨へて厭はず、憤を發して食を忘れ、樂んで以て憂を忘れ、老の將に至らんとするを知らずと。葉を去りて蔡に反る。

(一)安徽鳳陽府壽州の地　(二)再び他地に遷さるゝを恐るゝなり　(三)遠人を懷附し近人を親附せしむ　(四)事物に感激して理解に進むなり

長沮桀溺耦而耕。孔子以爲二隱者一。使二子路問一レ津焉。長沮曰。彼執レ輿者爲レ誰。子路曰。爲二孔丘一。曰。是魯孔丘與。

長沮・桀溺耦(一)して耕す。孔子以て隱者(二)と爲し、子路をして津(三)を問はしむ。長沮曰く、彼の輿(四)を執る者は誰とか爲すと。子路曰く孔丘と爲すと。曰く、是れ魯の孔丘かと。曰く、然りと。曰く、是れ津(五)を知らんと。桀溺は子路に謂つて曰く、子は誰とか爲すと。曰く、仲由と爲すと。曰く、子は孔丘の徒かと。曰く、然りと。桀溺曰く、悠悠たる者は天下皆是なり、而も誰と以にか(六)之を易へん。且(七)其の人を辟くるの士に

卒。康子代立。已葬。欲召仲尼。公之魚曰。昔吾先君用之不終。終爲諸侯笑。今又用之不能終。是再爲諸侯笑。康子曰。則誰召而可。曰。必召冉求。於是使使召冉求。冉求將行。孔子曰。魯人召求。非小用之。將大用之也。是日孔子曰。歸乎歸乎。吾黨之小子。狂簡斐然成章。吾不知所以裁之。子貢知孔子思歸。送冉求。因誡曰。卽用以孔子爲招云。冉求既去。明年。孔子自陳遷于蔡。

する所以を知らずと。子貢は孔子の歸を思ふを知り、冉求を送り、因りて誡めて曰く、卽し用ひられば、孔子を以て招を爲せと云ふ。(九)冉求既に去る。明年孔子は陳より蔡に遷りぬ。

(一) 桓公襄公の兩顧　(二) 手車を駕とす、閑遊に用ふ　(三) 予が孔子の意に背きしを以ての義　(四) 用を果さず中途に止めたり　(五) 公之魚の語なり　(六) 吾門人の魯に在る者　(七) 志趣高遠にして文采明著なり　(八) 裁制し指導すべき方法を如何にすべきか　(九) 招くべしの意

蔡昭公將如呉。呉召之也。前昭公欺其臣。遷州來。後將往。大夫懼復遷。公孫翩

蔡の昭公は將に呉に如かんとす、呉之を召すなり。前に昭公は其臣を欺いて州來(一)に遷る。後將に往かんとするに、大夫は復遷る(二)を懼れて、公孫翩は昭公を射殺す。楚は蔡を侵す。秋、齊の景公卒す。明年孔子は蔡より葉に如く。葉公は政を問ふ。孔子曰く、政は遠き(三)を來し邇きを附くるに在りと。他日葉公は孔子を子

齊助レ衞圍レ戚。以二衞太子蒯聵在一故也。夏。魯桓釐廟燔。南宮敬叔救レ火。孔子在レ陳聞レ之曰。災必於二桓釐廟一乎。已而果然。秋。季桓子病。輦而見二魯城一。喟然歎曰。昔此國幾興矣。以三吾獲二罪於孔子一故不レ興也。顧謂二其嗣康子一曰。我卽死。若必相レ魯。相レ魯必召二仲尼一。後數日桓子

齊は衞を助けて戚を圍む、衞の太子蒯聵が在るを以ての故なり。夏、魯の桓釐(一)の廟燔く。南宮敬叔火を救ふ。孔子は陳に在りて之を聞いて曰く、災は必ず桓釐の廟に於てせんと。已にして果して然りき。秋、季桓子病み、輦(二)して魯城を見、喟然として歎じて曰く、昔は此國幾んど興れり。(三)吾の罪を孔子に獲しを以ての故に興らざりきと。顧みて其嗣の康子に謂つて曰く、我卽し死せば、若は必ず魯に相たらん。魯に相たらば必ず仲尼を召せと。後數日にして桓子卒し、康子代り立つ。已に葬るや仲尼を召さんと欲す。公之魚曰く、昔は吾が先君は之を用ひて終へず、終に諸侯の笑と爲りぬ。今又之を用ひて終ふる能はずんば、是再び諸侯の(四)笑と爲らんと。康子曰く、則ち誰を召してか可ならんと。(五)曰く、必ず冉求を召せと。是に於て使をして冉求を召さしむ。冉求將に行かんとす。孔子曰く、魯人求を召すは、之を小用するに非ず、將に之を大用せんとするなりと。是日孔子曰く、歸らんか歸らんか、(六)吾が黨の小子、(七)狂簡斐然として章を成す。吾は之を裁(八)

之也。刳レ胎殺レ夭。則麒麟不レ至レ郊。竭レ澤涸レ漁。則蛟龍不レ合ニ陰陽一。覆レ巢毀レ卵。則鳳皇不レ翔。何則君子諱レ傷ニ其類一也。夫鳥獸之於ニ不義一也。尚知レ辟レ之。況乎丘哉。乃還。息ニ乎陬鄕一。作ニ爲陬操一以哀レ之。而反ニ乎衞一。入主ニ蘧伯玉家一。

他日靈公問ニ兵陳一。孔子曰。俎豆之事。則嘗聞レ之。軍旅之事。未ニ之學一也。明日與ニ孔子一語。見ニ蜚鴈一。仰視レ之。色不レ在ニ孔子一。孔子遂行。復如レ陳。夏。衞靈公卒。立ニ孫輒一。是爲ニ衞出公一。六月。趙鞅內ニ太子蒯聵于戚一。陽虎使ニ太子絻一。八人衰絰。僞ニ自レ衞迎者一。哭而入。遂居焉。冬。蔡遷ニ于州來一。是歲魯哀公三年。而孔子年六十矣。

他日靈公は兵陳を問ふ。孔子曰く、俎豆(一)の事は則ち嘗て之を聞けり、軍旅(二)の事は未だ之を學ばずと。明日孔子と語るに、蜚鴈(三)を見て仰いで之を視、色(四)孔子に在らず。孔子遂に行り、復陳に如く。夏衞の靈公卒し、孫輒を立つ、是を衞の出公と爲す。六月、趙鞅は太子蒯聵を戚(五)に內る。陽虎は太子をして絻(六)せしめ、八人衰(七)絰し、衞より迎ふる者と僞り、哭して入り遂に居る。冬、蔡は州來に遷る。是歳は魯の哀公の三年なり、而して孔子は年六十なり。

(一) 朝廷の禮制　(二) 五百人を旅とし、一萬二千五百人を軍とす、兵陣の義　(三) 飛行せる雁　(四) 心雁に在りて孔子に在らず　(五) 衞の屬邑の名　(六) 喪服　(七) 麻の帶をなす喪服

孔子既不レ得レ用二於衞一。將三西見二趙簡子一。至二於河一。而聞二竇鳴犢舜華之死一也。臨レ河而歎曰。美哉水。洋洋乎。丘之不レ濟レ此。命也夫。子貢趨而進曰。敢問何謂也。孔子曰。竇鳴犢舜華晉國之賢大夫也。趙簡子未レ得レ志之時。須二此兩人一。而後從レ政。及二其已得一レ志。殺レ之乃從レ政。丘聞レ

孔子は既に衞に用ひらるゝを得ず、將に西して趙簡子に見えんとし、河に至りて、(一)竇鳴犢と舜華との死を聞くや、河に臨んで歎じて曰く、美なる哉水、洋洋乎たり。(二)丘の此を濟らざるは、命なるかなと。子貢趨り進んで曰く、敢て問ふ何の謂ぞやと。孔子曰く、竇鳴犢・舜華は、晉國の賢大夫なり。趙簡子が未だ志を得ざりしの時は、此兩人を須ひて而る後に政に從へり。其の已に志を得るに及んでは、之を殺して乃ち政に從ふ。丘之を聞く、胎(三)を刳き夭(四)を殺せば、則ち麒麟も郊に至らず。澤を竭し漁(五)を涸すれば、則ち蛟龍も陰陽(六)を合せず。巢を覆し卵を毀れば、則ち鳳皇も翔らずと。何となれば則ち君子は其類を傷ふを諱めばなり。夫れ鳥獸の不義に於けるや、尚之を辟くるを知る。而るを況んや丘をやと。乃ち還りて陬鄕(七)に息ひ、陬操(八)を作爲して以て之を哀む。而して衞に反り入り、蘧伯玉が家を主とす。

(一) 晉の賢大夫　(二) 廣大なる貌　(三) 姙娠者の腹を剖く　(四) 幼兒　(五) 魚類を取り盡す　(六) 逃遁して陰陽調和せざるなり　(七) 衞の陬邑なり　(八) 曲譜

師襄子。十日不レ進。師襄子曰。可二以益一矣。孔子曰。丘已習二其曲一矣。未レ得二其數一也。有レ間曰。已習二其數一。可二以益一矣。孔子曰。丘未レ得二其志一也。有レ間曰。已習二其志一。可二以益一矣。孔子曰。丘未レ得二其爲一レ人也。有レ間曰。有レ所二穆然深思一焉。有レ所二怡然高望而遠志一焉、曰。丘得二其爲一レ人。黯然而黑。幾然而長。眼如二望羊一。心如レ王二四國一。非二文王一其誰能爲レ此也。師襄子辟レ席再拜曰。師蓋云。文王操也。

て益(二)すべしと。孔子曰く、丘は已に其曲を習へども、未だ其數(三)を得ずと。間く有りて曰く、已に其數に習へり、以て益すべしと。孔子曰く、丘未だ其志(四)を得ざるなりと。間く有りて曰く、已に其志を習へり、以て益すべしと。孔子曰く、丘は未だ其の人と爲りを得ざるなりと。間く有りて曰く、穆然(五)として深く思ふところ有り、怡然として高く望んで遠く志す所有りと。曰く、丘は其の人と爲りを得たり。黯然(六)として黑く、幾然(七)として長く、眼は望羊(八)の如く、心は四國(九)に王たるが如し。文王に非ずんば、其れ誰か能く此を爲さんと。師襄子席を辟けて再拜して曰く、師(一〇)蓋し云へり、文王操(一一)なりと。

(一) 他の曲に移り進まず　(二) 他に移り進むべし　(三) 樂の數理　(四) 樂の精神のある所　(五) 心深厚なる貌　(六) くらき貌　(七) 長大なる身體　(八) 遠方を廣く觀る　(九) 四方萬國　(一〇) 我が師匠　(一一) 文王曲の義

佛肸爲中牟宰。趙簡子攻范中行伐中牟。佛肸畔。使人召孔子。孔子欲往。子路曰。由聞諸夫子。其身親爲不善者。君子不入也。今佛肸親以中牟畔。子欲往如之何。孔子曰。有是言也。不曰堅乎。磨而不磷。不曰白乎。涅而不淄。我豈匏瓜也哉。焉能繫而不食。孔子擊磬。有荷蕢而過門者。曰。有心哉擊磬乎。硜硜乎。莫己知也夫而已矣。

佛肸(一)は中牟の宰と爲れるに、趙簡子は范・中行を攻めて中牟を伐てり。佛肸畔き、人をして孔子を召さしむ。孔子往かんと欲す。子路曰く、由諸を夫子に聞けり。其身親ら不善を爲す者は、君子入らずと。今佛肸は親ら中牟を以て畔くに、子が往かんと欲するは、之を如何と。孔子曰く、是言有りき。堅しと曰はざらんや、磨すれども磷がず、白しと曰はざらんや、涅(三)すれども淄まずと。我豈匏瓜(四)ならんや、焉んぞ能く繫りて食はざらんやと。孔子磬を擊つに、蕢(五)を荷うて門を過ぐる者有り、曰く、心有るかな磬を擊つこと。硜硜乎(六)として己を知るもの莫しと。

(一) 河南開封府 (二) 磨けども薄く減ぜず (三) 黑むれども染まず (四) 瓢の類なり、一定の場所に繫りて動かざるなり (五) 土を盛る籠 (六) 小道を守りて大いに伸びざる貌

孔子學鼓琴

孔子は琴を鼓することを師襄子に學ぶに、十日にして進まず。(一) 師襄子曰く、以

命也已。吾與二夫子一再罹レ難。寧闘而死。闘甚疾。蒲人懼。謂二孔子一曰。苟毋レ適レ衛。吾出レ子。與レ之盟。出二孔子東門一。孔子遂適レ衛。子貢曰。盟可レ負耶。孔子曰。要盟也。神不レ聽。衛靈公聞二孔子來一。喜郊迎。問曰。蒲可レ伐乎。對曰。可。靈公曰。吾大夫以爲二不可一。今蒲衛之所三以待二晉楚一也。以レ衛伐レ之。無二乃不可一乎。孔子曰。其男子有二死レ之志一。婦人有下保二西河一之志上。吾所レ伐者。不レ過二四五人一。靈公曰。善。然不レ伐レ蒲。靈公老怠二於政一。不レ用二孔子一。孔子喟然歎曰。苟有二用レ我者一。朞月而已。三年有レ成。孔子行。

子貢曰く、盟負くべきかと。孔子曰く、要盟(五)なり、神聽かずと。衛の靈公は孔子來ると聞き、喜んで郊迎(六)して問うて曰く、蒲は伐つ可きかと。對へて曰く、可なりと。靈公曰く、吾が大夫は以て不可と爲せり。今や蒲は衛の晉楚を待つ所以(七)なり、衛を以て之を伐つは、乃ち不可なる無からんかと。孔子曰く、其男子は之に死するの志有り、婦人は西河を保つの志有り、吾が伐つ所の者は四五人(八)に過ぎずと。靈公曰く、善しと。然れども蒲を伐たず。靈公は老して政に怠り、孔子を用ひず。孔子喟然として歎じて曰く、苟も我を用ふる者有らば、朞月(九)のみ、三年にして成ること有らんと。孔子行る。

(一) 私從の車五乘　(二) 年長じ才賢なり　(三) 天命なり　(四) 迅速にして當り難し　(五) 強要せる誓約　(六) 郊外まで出迎ふ　(七) 受くる要地　(八) 公叔氏等四五人を指す　(九) 一ケ月(一說に一ケ年)にして政敎を行ひ得べし

肅愼矢一。分二大姬一。配二虞胡公一。而封二諸陳一。分二同姓一以二珍玉一。展レ親。分二異姓一以二遠方職一。使レ無レ忘レ服。故分レ陳以二肅愼矢一。試求二之故府一。果得レ之。孔子居レ陳三歲。會二晉楚爭レ彊。更伐レ陳。及吳侵レ陳。陳常被レ寇。孔子曰。歸與歸與。吾黨之小子。狂簡進取。不レ忘二其初一。於レ是孔子去レ陳過レ蒲。會二公叔氏以レ蒲畔一。蒲人止二孔子一。

して、其初（一三）を忘れずと。是に於て孔子は陳を去りて蒲（一四）を過ぎ、公叔氏が蒲を以て畔くに會す。蒲人孔子を止む。

（一）木名、矢幹となすべし　（二）石のやじり　（三）八寸を咫とす　（四）今の寧古塔の邊　（五）地方の產物　（六）周の懿德　（七）長女　（八）嫁せしむ　（九）服從　（一〇）陳の舊庫　（一一）外國の來寇　（一二）志願高遠なる貌　（一三）我が初めに敎導したる志　（一四）匡の鄰邑なり

弟子有二公良孺者一。以二私車五乘一從二孔子一。其爲レ人長賢。有二勇力一。謂曰。吾昔從二夫子一遇二難於匡一。今又遇二難於此一。

弟子に公良孺といふ者有り、私車（一）五乘を以て孔子に從ふ。其の人と爲りは、長（二）賢にして勇力有り。謂つて曰く、吾昔は夫子に從つて、難に匡に遇へり。今又難に此に遇ふは、命（三）なるのみ。吾と夫子と再び難に罹れり、寧ろ鬪つて死せんと。鬪ふこと甚た疾し（四）。蒲人懼れ、孔子に謂つて曰く、苟も衞に適くこと毋くんば吾は子を出さんと。之と盟つて孔子を東門より出す。孔子遂に衞に適く。

以寶告孔子。孔子欣然笑曰。形狀末也。而似喪家之狗。然哉然哉。孔子遂至陳。主於司城貞子家。歲餘。吳王夫差伐陳。取三邑而去。趙鞅伐朝歌。楚圍蔡。蔡遷于吳。吳敗越王句踐會稽。

有隼集于陳廷而死。楛矢貫之。石砮。矢長尺有咫。陳湣公使使問仲尼。仲尼曰。隼來遠矣。此肅愼之矢也。昔武王克商。通道九夷百蠻。使各以其方賄來貢。使無忘職業。於是肅愼貢楛矢。石砮長尺有咫。先王欲昭其令德。以

隼有り、陳の廷に集りて死す。(一)楛矢之を貫けり。(二)石砮なり。矢の長さは尺有咫。(三)陳の湣公は、使をして仲尼に問はしむ。仲尼曰く、隼の來るや遠し、此れ肅愼(四)の矢なり。昔は武王商に克ちて、道を九夷百蠻に通じ、各〻其方賄(五)を以て來貢せしめ、職業を忘るゝこと無らしむ。是に於て肅愼は楛矢を貢せり。石砮にして長は尺有咫なり。先王は其(六)令德を昭にせんと欲し、肅愼の矢を以て大姬(七)に分ち、虞の胡公に配(八)して、諸を陳に封ぜり。同姓に分つに珍玉を以てして親を展ね、異姓に分つに遠方の職を以てして、服を忘るゝ無からしむ。故に陳に分つに肅愼の矢を以てせりと。試に之を故府(九)に求むるに、果して之を得たり。(一〇)孔子は陳に居ること三歲、晉楚彊を爭うて更〻陳を伐ち、及び吳が陳を侵すに會す。陳常に寇を被る。(一一)孔子曰く、歸らん與歸らん與、吾黨の小子、狂簡(一二)進取

禮大樹下。宋司馬桓魋欲レ殺二孔子。拔二其樹一。孔子去。弟子曰。可二以速一矣。孔子曰。天生二德於予一。桓魋其如レ予何。孔子適レ鄭。與二弟子一相失。孔子獨立二郭東門一。鄭人或謂二子貢一曰。東門有レ人。其顙似レ堯。其項類二皐陶一。其肩類二子產一。然自レ要以下。不レ及レ禹三寸。纍纍若二喪家之狗一。子貢

を殺さんと欲して其樹を拔く。孔子去る。弟子曰く、以て速(一)にすべしと。孔子曰く、天は德を予に生ぜり、桓魋其れ予を如何せんと。孔子は鄭に適き、弟子と相失す(二)。孔子獨り郭東の門(三)に立つに、鄭人或ものは子貢に謂つて曰く、東門に人有り、其顙(四)は堯に似、其項(五)は皐陶に類し、其肩は子產に類す。然れども要(六)より以下の禹に及ばざること三寸、纍纍(七)として喪家(八)の狗の若しと。子貢は實を以て孔子に告ぐ。孔子欣然として笑つて曰く、形狀(九)は末だし、而も喪家の狗に似るとは、然る哉然る哉と。孔子は遂に陳に至りて、司城貞子が家を主とす。歲餘にして、吳王夫差は陳を伐ち、三邑を取りて去る。趙鞅は朝歌(一〇)を伐ち、楚は蔡を圍む。蔡は吳(一一)に遷る。吳は越王句踐を會稽に敗る。

(一)速に去るべし　(二)はぐれて遇はず　(三)城郭の東門　(四)額　(五)首筋　(六)腰　(七)疲勞して志を得ざる貌　(八)主家を失へる迷犬、一說には主人喪中に在る家の犬　(九)形狀の評語は未だ適中せず　(一〇)晉の邑なり、もとの衞の都　(一一)吳の州來なり、その世家參照

見二寡小君一。寡小君願レ見。孔子辭謝。不レ得レ已而見レ之。夫人在二絺帷中一。孔子入レ門。北面稽首。夫人自二帷中一再拜。環珮玉聲璆然。孔子曰。吾鄉爲レ弗レ見。見レ之禮答焉。子路不レ説。孔子矢レ之曰。予所レ不者。天厭レ之。天厭レ之。居レ衞月餘。靈公與二夫人一同車。宦者雍渠參乘出。使三孔子爲二次乘一。招二搖市一過レ之。孔子曰。吾未レ見下好レ德如レ好レ色者上也。於レ是醜レ之。去レ衞過レ曹。是歲魯定公卒。

ず。孔子之を矢べて曰く、予の不ざる所の者は、天之を厭ふ、天之を厭ふと。衞に居ること月餘なり。靈公は夫人と同車し、宦者雍渠は參乘して出で、孔子をして次乘たらしめ、市を招搖して之を過ぐ。孔子曰く、吾未だ德を好むこと色を好むが如き者を見ずと。是に於て之を醜とし、衞を去りて曹に過る。是歲魯の定公卒す。

(一) 之に由るなり (二) 民の郷邑なり、直隷大名府長垣縣 (三) 衞國に來るを厭はず (四) 契交を結ばんと欲する者 (五) 自己の君夫人を稱する語 (六) 薄き布織のとばり (七) 首を下げて暫く上げず (八) 腰に佩ぶる物 (九) 清亮の音響 (一〇) 現出す (一一) 誓ひ陳ぶ (一二) 爲すことを欲せず已むを得ずして爲す所のもの (一三) 侍從の官人 (一四) 後車に陪乘す (一五) 逍遙に同じ (一六) 靈公の爲す所を賤むなり

孔子去レ曹適レ宋。與二弟子一習二

孔子は曹を去りて宋に適き、弟子と禮を大樹の下に習ふ。宋の司馬桓魋は、孔子

以爲ニ魯之陽虎ー。陽虎嘗暴ニ匡人ー。匡人於レ是遂止ニ孔子ー。孔子狀類ニ陽虎ー。拘焉五日。顏淵後。子曰。吾以レ汝爲レ死矣。顏淵曰。子在。回何敢死。匡人拘ニ孔子ー益急。弟子懼。孔子曰。文王既沒。文不レ在レ茲乎。天之將レ喪ニ斯文ー也。後死者。不レ得レ與ニ於斯文ー也。天之未レ喪ニ斯文ー也。匡人其如レ予何。

(一) 官粟の玄米六萬斗 (二) 讒言す (三) 兵器を以て出入毎に之を劫す (四) 宋邑なり、直隷大名府長垣縣 (五) 轢に同じ (六) 缺けたる城垣なり、顏刻は曾て陽虎に隨行せしことあり (七) 迫害す (八) 狀貌 (九) 拘留 (一〇) 道なり、聖人の道を指す (一一) 文王に後れて死する我々の義なり

孔子使ㇾ從者爲ニ甯武子ー臣中於衞上。然後得レ去。去即過レ蒲。月餘反ニ乎衞ー。主ニ蘧伯玉家ー。靈公夫人有ニ南子者ー。使ニ人謂ニ孔子ー曰。四方之君子不レ辱。欲下與ニ寡君ー爲中兄弟上者。必

孔子は從者をして、甯武子の爲に衞に臣たらしめ、(一)然して後に去るを得たり。去るや即ち蒲(二)を過ぎ、月餘にして衞に反り、蘧伯玉が家を主とす。靈公の夫人に南子といふ者有り、人をして孔子に謂はしめて曰く、四方の君子の辱(三)とせずして、寡君と兄弟爲らんと欲する者は、必ず(五)寡小君に見ゆ。寡小君見えんことを願ふと。孔子辭(四)謝す。已むことを得ずして之に見ゆ。夫人は(六)絺帷の中に在り、孔子は門に入り、北面して(七)稽首す。夫人は帷中より再拜す。(八)環珮の玉聲(九)璆然たり。孔子曰く、吾鄉には見ずと爲せり。之に見はれ(一〇)しかば禮答せりと。子路は說ば

孔子遂適衞。主於子路妻兄顏濁鄒家。衞靈公問孔子。居魯得祿幾何。對曰奉粟六萬。衞人亦致粟六萬。居頃之、或譖孔子於衞靈公。靈公使公孫余假一出一入。孔子恐獲罪焉。居十月去衞。將適陳過匡。顏刻爲僕。以其策指之曰。昔吾入此由彼缺也。匡人聞之。

孔子は遂に衞に適いて、子路の妻の兄顏濁鄒の家を主とす。衞の靈公孔子に問ふらく、魯に居り祿を得る幾何ぞと。對へて曰く、奉粟(一)六萬なりきと。衞人も亦粟六萬を致す。居ること之を頃くして、或ひと孔子を衞の靈公に譖す(二)。靈公は公孫余假をして一出一入(三)せしむ。孔子は罪を獲んことを恐る。居ること十月にして衞を去り、將に陳に適かんとし、匡(四)を過ぐ。顏刻、僕と爲り、其策(五)を以て之を指して曰く、昔は吾此に入るとき、彼の缺(六)に由りきと。匡人之を聞き、以て魯の陽虎と爲す。陽虎は嘗て匡人を暴せり(七)。匡人は是に於て遂に孔子を止む。孔子の狀(八)は陽虎に類せり。拘すること五日なり(九)。顏淵後れたり。子曰く、吾は汝を以て死せりと爲へりと。顏淵曰く、子在す、回何ぞ敢て死せんと。匡人の孔子を拘ふること益々急なり。弟子懼る。孔子曰く、文王既に沒す、文は茲に在らず(一〇)や。天の將に斯文を喪さんとするや、後死の者は斯文に與るを得ず。天の未だ斯文を喪さざるや、匡人其れ予を如何せん(一一)と。

必霸。霸則吾地近焉。我之爲先幷矣。盍致地焉。犂鉏曰、請先嘗沮之。沮之而不可。則致地庸遲乎。於是選齊國中女子好者八十人。皆衣文衣。而舞康樂。文馬三十駟。遺魯君。陳女樂文馬於魯城南高門外。季桓子微服往觀再三。將受。乃語魯君。爲周道游。往觀終日。怠於政事。子路曰。夫子可以行矣。孔子曰。魯今且郊。如致膰乎大夫。則吾猶可以止。桓子卒受齊女樂。三日不聽政。郊又不致膰俎於大夫。孔子遂行。宿乎屯。而師己送曰。夫子則非罪。孔子曰。吾歌可夫。歌曰。彼婦之口。可以出走。彼婦之謁。可以死敗。蓋優哉游哉。維以卒歲。師己反。桓子曰。孔子亦何言。師己以實告。桓子喟然歎曰。夫子罪我。以羣婢故也夫。

かず。郊せしも又膰俎(一六)を大夫に致さず。孔子遂に行り、屯(一七)に宿す。師己送りて曰く、夫子は則ち罪に非ずと。孔子曰く、吾歌つて可ならんかと。歌つて(一八)曰く、彼婦の口は以て出で走るべし、彼婦の謁(二〇)は以て死敗すべし。蓋し優なる哉游なる哉(一九)、維れ(二一)以て歳を終へんと。師己反る。桓子曰く、孔子亦何をか言へると。師己實を以て告ぐ。桓子喟然として歎じて曰く、夫子我を罪す、羣婢(二二)の故を以てなるかと。

(一) 攝行に同じ　(二) 然り其の語ありとの意　(三) 三ケ月にしての意　(四) 羊や豚を賣る者　(五) 請求し哀願す　(六) 市民より旅人に物品を與ふ　(七) 地を贈りて歡心を求む　(八) 阻止するなり　(九) 飾り多き衣服　(一〇) 女樂の曲名　(一一) 美しく飾れる馬百二十頭　(一二) 賤者の服裝し微行す　(一三) 城下の諸街を周遊するなり　(一四) 郊外にて天を祭る儀式　(一五) 祭肉　(一六) 臺に盛りたる祭肉　(一七) 魯都南方の都邑　(一八) 魯の樂師の已　(一九) 表に女樂を指し裏に季桓子を諷す　(二〇) 請謁の略　(二一) 優游自適して性を養ふ　(二二) 齊の群婢

行二攝相事一有二喜色一。門人曰。聞君子禍至不レ懼。福至不レ喜。孔子曰。有二是言一也。不レ曰レ樂三其以レ貴下レ人乎。於レ是誅二魯大夫亂レ政者少正卯一。與二聞國政一。三月。粥二羔豚一者弗レ飾レ賈。男女行者別二於塗一。塗不レ拾レ遺。四方之客至二乎邑一者。不レ求二有司一。皆予レ之以歸。齊人聞而懼曰。孔子爲レ政

有り。其の貴を以て人に下るを樂むと曰はずやと。是に於て魯の大夫の政を亂る者少正卯を誅し、國政を與り聞く。(三)三月、羔豚(四)を粥ぐ者は賈を飾らず、男女行く者は塗を別にし、塗に遺ちたるを拾はず。四方の客の邑に至る者も、有司に求めず。(五)皆之に予へて以て歸らしむ。齊人聞いて懼れて曰く、孔子政を爲さば必ず霸たらん、霸(六)たらば則ち吾地は近し、我は之れ先づ幷せられん。盍ぞ地(七)を致さざると。犂鉏曰く、請ふ先づ嘗に之を沮まん。(八)之を沮んで不可ならば、則ち地を致すとも、庸ぞ遲からんやと。是に於て齊の國中の女子の好き者八十人を選び、皆文衣(九)を衣せて康樂(一〇)を舞はしめ、文馬(一一)三十駟、魯君に遺り、女樂文馬を魯城の南なる高門の外に陳す。季桓子微服(一二)して往き觀ること再三、將に受けんとす。乃ち魯君に語りて周道(一三)の游を爲さしめ、往き觀ること終日、政事に怠る。子路曰く、夫子以て行るべしと。孔子曰く、魯は今且に郊(一四)せんとす。如し膰(一五)を大夫に致さば、則ち吾猶以て止るべしと。桓子は卒に齊の女樂を受け、三日まで政を聽

仲由爲ニ季氏宰一。將レ墮ニ三都一。於レ是叔孫氏先墮レ郈。季氏將レ墮レ費。公山不狃叔孫輒率ニ費人一襲レ魯。公與ニ三子一。入ニ於季氏之宮一。登ニ武子之臺一。費人攻レ之弗レ克。入及ニ公側一。孔子命ニ申句須樂頎一下伐レ之。費人北。國人追レ之。敗ニ諸姑蔑一。二子奔レ齊。遂墮レ費。將レ墮レ成。公斂處父謂ニ孟孫一曰。墮レ成齊人必至ニ于北門一。且成孟氏之保鄣。無レ成是無ニ孟氏一也。我將レ弗レ墮。十二月。公圍レ成。弗レ克。

は、費人を率ゐて魯を襲ふ。公と三子と、季氏の宮に入りて(六)武子の臺に登る。費人之を攻めて克たず、入りて公の側に及ぶ。孔子は申句須・樂頎に命じて、下つて之を伐たしむ。費人北ぐ。國人之を追うて、諸を(七)姑蔑に敗る。二子齊に奔る。遂に費を墮ち、將に(八)成を墮たんとす。(九)公斂處父は孟孫に謂つて曰く、成を墮らば、齊人必ず北門(一〇)に至らん。且成は孟氏の保鄣(一一)なり、成無きは是れ孟氏無きなり。我將に墮たざらんとすと。十二月、公は成を圍む、克たず。

(一) 人臣たる者は兵甲を藏すべからず (二) 長三丈高一丈を雉とす、諸侯は三百雉を過ぐるを得ざるを制とす (三) 三桓の都城なり (四) 山東沂州府に在り (五) 前出 (六) 季武子の臺 (七) 山東兗州泗水縣 (八) 同寧陽郡 (九) 成都の邑宰 (一〇) 魯の北境 (一一) 保障となる根據地

定公十四年。孔子年五十六。由ニ大司寇一

定公の十四年、孔子は年五十六なり、大司寇より相の事を行攝(一)して喜色有り。門人曰く、聞く君子は禍至るも懼れず、福至るも喜ばずと。孔子曰く、是言(二)

曰、匹夫而熒ニ惑諸侯ー者、罪當レ誅。請命ニ有司ー。有司加レ法焉、手足異レ處。景公懼而動、知ニ義不レ若。歸而大恐。告ニ其羣臣ー曰、魯以ニ君子之道ー輔ニ其君ー。而子獨以ニ夷狄之道ー教ニ寡人ー。使レ得ニ罪於魯君ー。爲レ之奈何。有司進對曰。君子有レ過。則謝以レ質。小人有レ過。則謝以レ文。君若悼レ之。則謝以レ實。於レ是齊侯乃歸ニ所レ侵魯之鄆汶陽龜陰之田ー。以謝レ過。

子は獨り夷狄の道を以て寡人に敎へ、罪を魯君に得しめき。之を爲すこと奈何せんと。有司進み對へて曰く、君子過有れば、則ち謝するに質(四)を以てし、小人過有れば、則ち謝するに文(五)を以てす。君若し之を悼まば、則ち謝するに實を以てせよと。是に於て齊侯は乃ち侵しし所の魯の鄆(六)と汶陽・龜陰(七)の田を歸して、以て過を謝しき。

(一) 俳優や一寸法師　(二) 惑はし迷はす　(三) 感動して色を改む　(四) 飾なき實質　(五) 實質なき文飾　(六) 鄆は山東泰安府東平州　(七) 汶水の北と龜山の北との土地

定公十三年。夏、孔子言ニ於定公ー曰、臣無レ藏レ甲。大夫毋ニ百雉之城ー。使ニ

定公の十三年夏、孔子は定公に言つて曰く、臣は甲を藏する無く(一)、大夫は百雉の(二)城毋しと。仲由をして季氏の宰と爲らしめて、將に三都(三)を墮たしめんとす。是に於て叔孫氏は先づ郈(四)を墮つ。季氏も將に費(五)を墮たんとす。公山不狃と叔孫輒と

三等。以二會遇之禮一相見。揖讓而登。獻酬之禮畢。齊有司趨而進曰。請奏二四方之樂一。景公曰。諾。於レ是旍旄羽祓。矛戟劔撥。鼓噪而至。孔子趨而進。歷レ階而登。不レ盡二一等一。舉レ袂而言曰。吾兩君爲二好會一。夷狄之樂。何爲二於此一。請命二有司一。有司却レ之。不レ去。則左右視二晏子與二景公一。景公心怍。麾而去レ之。

に爲さん、請ふ有司に命ぜんと。有司之を却くれども去らず。則ち左右に晏子と景公とを視る。景公心に怍ぢ、麾いて之を去らしむ。

(一) 假に執行す (二) 壇壝 (三) 軍兵を掌る官名 (四) 簡略なる禮式 (五) 立禮を揖とす (六) 役人なり、僕の事務官 (七) 大旗羽飾の類 (八) 矛の枝あるを戟とし、長き盾を撥とす (九) 鼓うち騒ぎ立つ (一〇) 片足に一段づつ登るを歴とす (一一) 段を登りて一段を殘して止るなり (一二) 指揮す

有レ頃齊有司趨而進曰。請奏二宮中之樂一。景公曰。諾。優倡侏儒。爲レ戲而前。孔子趨而進。歷レ階而登。不レ盡二一等一。

頃く有りて、齊の有司趨り進んで曰く、請ふ宮中の樂を奏せんと。景公曰く、諾と。(一)優倡侏儒戲を爲して前む。孔子趨り進んで階を歴て登り、一等を盡さずして曰く、匹夫にして諸侯を(二)熒惑する者は、罪誅に當る、請ふ有司に命ぜんと。有司法を加へて、手足處を異にす。景公懼れて動き、(三)義の若かざるを知り、歸つて大いに恐る。其羣臣に告げて曰く、魯は君子の道を以て其君を輔くるに、而るに

其後定公以二孔子一爲二中都宰一。一年四方皆則レ之。由二中都宰一爲二司空一。由二司空一爲二大司寇一。定公十年。春。及レ齊平。夏。齊大夫黎鉏言二於景公一曰。魯用二孔丘一。其勢危レ齊。乃使三使告二魯一爲二好會一。會二於夾谷一。魯定公且下以二乘車一好往上。

告げしむ。魯の定公且に乘車を以て好く往かんとす。

(一)德備りて深き貌　(二)周の王室發祥の地　(三)或は吾志を試みるに近からんか　(四)意義なからんや　(五)周道を東方に興起するの義　(六)山東兗州府汶上縣の邑名　(七)長官　(八)内務長官　(九)司法長官　(一〇)和親す　(一一)平和増進の會合　(一二)山東泰安府萊蕪縣　(一三)平時に用ふる車輛

孔子攝二相事一。曰。臣聞有二文事一者。必有二武備一。有二武事一者。必有二文備一。古者諸侯出レ疆。必具レ官以從。請具二左右司馬一。定公曰。諾。具二左右司馬一。會二齊侯夾谷一。爲二壇位一土階

孔子は相の事を攝して曰く、臣聞く、文事有る者は必ず武備有り、武事有る者は必ず文備有りと。古は諸侯の疆を出づるや、必ず官を具へて以て從へたり。請ふ左右の司馬を具へんと。定公曰く、諾と。左右の司馬を具へて、齊侯に夾谷に會す。壇位を爲り、土階三等、會遇の禮を以て相見え、揖讓して登り、獻酬の禮畢る。齊の有司趨りて進み曰く、請ふ四方の樂を奏せんと。景公曰く、諾と。是に於て旍旄羽祓、矛戟劍撥、鼓噪して至る。孔子趨り進んで、階を歴て登り、一等を盡さず。袂を擧げて言つて曰く、吾が兩君好會を爲すに、夷狄の樂を何ぞ此

仕。退而修二詩書禮樂一。弟子彌衆。至レ自二遠方一。莫レ不レ受レ業焉。定公八年。公山不狃不レ得二意於季氏一。因二陽虎一爲レ亂。欲下廢二三桓之適一。更立中其庶孽陽虎素所レ善者上。遂執二季桓子一。桓子詐レ之得レ脫。定公九年。陽虎不レ勝。奔二于齊一。是時孔子年五十。公山不狃以レ費畔二季氏一。使三人召二孔子一。

（一）嬖愛の臣　（二）擬似す　（三）孟叔季三氏の嫡子　（四）庶子なり　（五）季氏の邑なり、山東沂州府費縣の地

孔子循レ道彌レ久。溫溫無レ所レ試。莫二能己用一。曰。蓋周文武。起二豐鎬一而王。今費雖レ小。儻庶幾乎。欲レ往。子路不レ說。止二孔子一。孔子曰。夫召レ我者。豈徒哉。如用レ我。其爲二東周一乎。然亦卒不レ行。

孔子は道に循ふこと久しきに彌り、溫溫（一）として試みる所無く、能く己を用ふるもの莫し。曰く、蓋し周の文武は豐鎬（二）より起りて王たり。今費は小なりと雖も、儻（三）しくは庶幾からんかと。往かんと欲す。子路說ばずして孔子を止む。孔子曰く、夫れ我を召く者は、豈徒（四）ならん哉。如し我を用ひば、其れ東周（五）を爲さんと。然も亦卒に行かざりき。其後定公は、孔子を以て中都（六）の宰（七）と爲す。一年にして四方皆之に則る。中都の宰より司空（八）と爲り、司空より大司寇（九）と爲りぬ。定公の十年春、齊と平ぐ（一〇）。夏、齊の大夫黎鉏は、景公に言つて曰く、魯は孔丘を用ふ、其勢は齊を危うせんと。乃ち使をして魯に好會（一一）を爲して、夾谷（一二）に會せんと

侯。皆屬於王者。客曰。防風何守。仲尼曰。汪罔氏之君。守封禺之山。爲釐姓。在虞夏商。爲汪罔。於周爲長翟。今謂之大人。客曰。人長幾何。仲尼曰。僬僥氏三尺。短之至也。長者不過十之。數之極也。於是吳客曰。善哉聖人。

桓子嬖臣曰仲梁懷。與陽虎有隙。陽虎欲逐懷。公山不狃止之。其秋。懷益驕。陽虎執懷。桓子怒。陽虎因囚桓子。與盟而釋之。陽虎由此益輕季氏。季氏亦僭於公室。陪臣執國政。是以魯自大夫以下。皆僭離於正道。故孔子不

桓子の嬖臣を仲梁懷と曰ふ、陽虎と隙有り。陽虎は懷を逐はんと欲す。公山不狃之を止む。其秋、懷は益〻驕る。陽虎は懷を執ふ。桓子怒る。陽虎は因りて桓子を囚へ、與に盟うて之を釋す。陽虎は此に由りて益〻季氏を輕んず。季氏亦公室に僭し、陪臣國政を執る。是を以て魯は大夫より以下、皆僭して正道より離れき。故に孔子は仕へず、退いて詩書禮樂を修む。弟子彌〻衆く、遠方より至り、業を受けざるは莫し。定公の八年、公山不狃は意を季氏に得ず、陽虎に因りて亂を爲し、(三)三桓の適を廢して、更に其庶孽の陽虎の素より善き所の者を立てんと欲す。遂に季桓子を執へしが、桓子は之を詐りて脫するを得たり。定公の九年、陽虎は勝たずして齊に奔れり。是時孔子は年五十なり。公山不狃は費を(五)以て季氏に畔き、人をして孔子を召さしむ。

也。丘聞ㇾ之。木石之怪。夔罔閬。水之怪。龍罔象。土之怪。墳羊。呉伐ㇾ越。隳二會稽一。得二骨節一。專ㇾ車。呉使三使問二仲尼一。骨何者最大。仲尼曰。禹致二羣神於會稽山一。防風氏後至。禹殺而戮ㇾ之。其節專ㇾ車。此爲ㇾ大矣。呉客曰。誰爲ㇾ神。仲尼曰。山川之神。足三以綱二紀天下一。其守爲ㇾ神。社稷爲二公

つて骨節を得たり、車を專にす。(七)呉は使をして仲尼に問はしむらく、骨は何者か最も大なると。仲尼曰く、禹は羣神(八)を會稽山に致ししに、防風氏後れ至りぬ。禹殺して之を戮せり。其節(九)は車を專にしき。此を大と爲すと。呉客曰く、誰をか神と爲すと。仲尼曰く、山川の神は、以て天下を綱紀(一〇)するに足る、其守を神と爲す。社稷(一一)は公侯と爲す。皆王者に屬すと。客曰く、防風は何をか守れると。仲尼曰く、汪罔氏(一二)の君は、封禺(一三)の山を守りて釐姓爲り。虞夏商に在りては汪罔と爲し、周に於ては長翟と爲し、今は之を大人と謂ふと。客曰く、人の長は幾何ぞと。仲尼曰く、僬僥氏(一四)は三尺、短の至なり。長き者も之を十にするに過ぎず。(一五)數の極なりと。是に於て呉客曰く、善い哉聖人なりと。

(一) 小口の瓶を缶と謂ふ (二) 故意に孔子を試みんとせしなり (三) 一足の怪動物なり、罔閬は人聲をまねて人を怪はしむる物 (四) 人を食ふ怪物なり (五) 雌雄の未だ分れざる怪物 (六) 墮を壞るなり (七) 一車に滿つる程の大きさなり (八) 天下の諸侯なり、神は后の義 (九) 骨節 (一〇) 整へ治め正す (一一) 國土の神を奉祀する者は公侯なり (一二) 防風氏なり (一三) 呉の二山名なり、浙江湖州府武康縣に在り (一四) 西南蠻の別種 (一五) 三尺の十倍

孔子盛ニ容飾一。繁ニ登降之禮一。趨詳之節。累ㇾ世不ㇾ能ㇾ殫ニ其學一。當年不ㇾ能ㇾ究ニ其禮一。君欲ㇾ用ㇾ之以移ニ齊俗一。非ㇾ所ニ以先ニ細民一也。後景公敬見ニ孔子一。不ㇾ問ニ其禮一。異日景公止ニ孔子一曰。奉ㇾ子以ニ季氏一吾不ㇾ能。以ニ季孟之間一待ㇾ之。齊大夫欲ㇾ害ニ孔子一。孔子聞ㇾ之。景公曰。吾老矣。弗ㇾ能ㇾ用也。孔子遂行反ニ乎魯一。孔子年四十二。魯昭公卒ニ於乾侯一。定公立。定公立五年。夏。季平子卒。桓子嗣立。

ずるに季氏を以てせんは吾能はず、季孟(一一)の間を以て之を待せんと。齊の大夫は孔子を害せんと欲す。孔子之を聞く。景公曰く、吾老いたり、用ふる能はずと。孔子遂に行つて魯に反る。孔子年四十二のとき、魯の昭公は乾侯に卒し、定公立つ。定公立ちし五年、夏に季平子卒し、桓子嗣ぎ立ちぬ。

(一)多辯　(二)驕りたかぶる　(三)卑賤の身分となす　(四)人民の風俗と爲す　(五)乞貸に作るべし、借な貸とす　(六)大賢が政を行ひし時代絶滅してよりはの義　(七)隔たり絶ゆ　(八)詳は翔に通ず、歩趨の禮節　(九)貧賤の民を救濟する急務　(一〇)他日　(一一)魯に於て季氏最も優待せられ孟氏はやゝ低し、その中間に待遇せんとす

季桓子穿ㇾ井得ニ土缶中若ㇾ羊。問ニ仲尼一云得ㇾ狗。仲尼曰。以ニ丘所ㇾ聞羊

季桓子井を穿つて、土缶(一)中に羊の若きものを得たり。仲尼に問うて云ふ、狗を得たりと。仲尼曰く、丘が聞く所を以てすれば羊ならん。丘之を聞く。木石(二)の怪は夔・罔閬(三)、水の怪は龍・罔象(四)、土の怪は墳羊(五)と。呉は越を伐ち、會稽を墮(六)

聞二韶音一學レ之。三月不レ知二肉味一。齊人稱レ之。景公問二政孔子一。孔子曰。君君臣臣。父父子子。景公曰。善哉。信如君不レ君。臣不レ臣。父不レ父。子不レ子。雖レ有レ粟。吾豈得而食レ諸。他日又復問二政於孔子一。孔子曰。政在レ節レ財。景公說。將レ欲下以二尼谿田一封中孔子上。

(一)傳世家參照　(二)所謂三桓氏なり　(三)直隸廣平府成安縣東南方　(四)親しく謁見す　(五)樂官　(六)舜帝作れる音樂　(七)古道を喜ぶの深きに感ずるなり　(八)穀物　(九)財用節約　(一〇)山東青州府に屬す

晏嬰進曰。夫儒者滑稽而不レ可レ軌レ法。倨傲自順。不レ可二以爲一レ下。崇レ喪遂レ哀。破レ產厚レ葬。不レ可二以爲一レ俗。游說乞貸。不レ可二以爲一レ國。自二大賢之息一。周室既衰。禮樂缺有レ間。今

晏嬰進んで曰く、夫れ儒者は滑稽(一)にして法を軌すべからず。倨傲(二)自ら順うて、以て下と爲すべからず(三)。喪を崇び哀を遂げ、產を破り葬を厚うす、以て俗と爲すべからず(四)。游說乞貸(五)す、以て國を爲むべからず。大賢(六)の息むより、周室既に衰へ、禮樂缺け(七)間つる有り。今は孔子、容飾を盛にし、登降の禮、趨詳(八)の節を繁くす。世を累ぬるも其學を殫す能はず。當年は其禮を究むる能はず。君之を用ひて以て齊の俗を移さんと欲すとも、細民(九)を先にする所以には非ざらんと。後に景公、敬んで孔子に見えしも、其禮を問はざりき。異日(一〇)景公は孔子を止めて曰く、子に奉

與二晏嬰一來適レ魯。景公問二孔子一曰。昔秦穆公國小處辟。其霸何也。對曰。秦國雖レ小其志大。處雖レ辟行中正。身擧二五羖一爵二之大夫。起二纍紲之中。與語三日。授レ之以政。以レ此取レ之。雖レ王可也。其霸小矣。景公說。

孔子年三十五。而季平子與二郈昭伯一以二鬪雞故一得二罪魯昭公一。昭公率レ師擊二平子一。平子與二孟氏叔孫氏三家一共攻二昭公一。昭公師敗奔二於齊一。齊處二昭公乾侯一。其後頃之魯亂。孔子適レ齊。爲二高昭子家臣一。欲三以通二乎景公一。與二齊太師一語レ樂。

孔子年三十五にして、季平子は郈昭伯と、(一)鬪雞の故を以て、罪を魯の昭公に得たり。昭公は師を率ゐて平子を擊つに、平子は孟氏叔孫氏三家と共に昭公を攻めたり。昭公の師敗れて齊に奔る。齊は昭公を(二)乾侯に處らしむ。其後頃之して魯亂る。孔子は齊に適き、高昭子の家臣と爲り、以て景公に(四)通ぜんと欲す。齊の太師(五)と樂を語り、(六)韶音を聞いて之を學び、三月まで肉の味を知らず。齊人之を(七)稱す。景公政を孔子に問ふに、孔子曰く、君は君たり、臣は臣たり、父は父たり、子は子たりと。景公曰く、善い哉。信に如し君君たらず臣臣たらず、父父たらず子子たらずんば、(八)粟有りと雖も、吾豈得て諸を食はんやと。他日又復政を孔子に問ふに、孔子曰く、(九)政は財を節するに在りと。景公說ぶ、將に(一〇)尼谿の田を以て孔子を封ぜんと欲す。

送レ人以レ財。仁人者送レ人以レ言。吾不レ能ニ富貴一。竊ニ仁人之號一。送レ子以レ言。曰。聰明深察而近ニ於死一者。好レ議レ人者也。博辯廣大危ニ其身一者。發ニ人之惡一者也。爲ニ人子一者。毋ニ以有一レ己。爲ニ人臣一者。毋ニ以有一レ己。

孔子自レ周反ニ于魯一。弟子稍益進焉。是時也。晉平公淫。六卿擅レ權。東伐ニ諸侯一。楚靈王兵彊。陵ニ轢中國一。齊大而近ニ於魯一。魯小弱。附ニ於楚一則晉怒。附ニ於晉一則楚來伐。不レ備ニ於齊一。齊師侵レ魯。魯昭公之二十年。而孔子蓋年三十矣。齊景公

孔子周より魯に反る、弟子稍益〻進む。是時や、晉の平公は淫し、六卿(一)權を擅にし、東のかた諸侯を伐つ。楚の靈王は兵彊く、中國を陵轢す(二)。齊は大にして魯に近く、魯は小弱なり。楚に附けば則ち晉怒り、晉に附けば則ち楚來り伐ち、齊に備へざれば齊の師魯を侵す。魯の昭公の二十年には、孔子蓋し年三十なり。齊の景公は晏嬰(三)と來りて魯に適く。景公孔子に問うて曰く、昔は秦の穆公は國小に處辟なるに(四)、其霸たりしは何ぞやと。對へて曰く、秦國小なりと雖も、其志は大なり。處は辟と雖も、行は中正なり。身づから五羖(五)を擧げて之を大夫に爵し、纍紲の中より起して與に語ること三日、之に授くるに政を以てせり。此を以て之を取らば、王(六)と雖も可なり。其霸は小なりと。景公說ぶ。

(一) 范、中行、知、趙、魏、韓 (二) しのぎ犯す (三) 晏平仲 (四) 辟遠の田舍 (五) 百里奚を指す (六) 王業を成す

是爲㆓司空㆒。已而去㆑魯。斥㆓乎齊㆒。逐㆓乎宋衞㆒。困㆓於陳蔡之間㆒。於㆑是反㆑魯。孔子長九尺有六寸。人皆謂㆓之長人㆒而異㆑之。魯復善待。由㆑是反㆑魯。魯南宮敬叔言㆓魯君㆒曰。請與㆓孔子㆒適㆑周。魯君與㆓之一乘車兩馬一豎子㆒。倶適㆑周問㆑禮。蓋見㆓老子㆒云。辭去。而老子送㆑之曰。吾聞富貴者

て魯に反りぬ。孔子は長九尺(六)有六寸あり、人皆之を長人と謂つて之を異とせり。魯復善く待す(七)、是に由りて魯に反れり。魯の南宮敬叔は魯君に言つて曰く、請ふ孔子と周に適かんと。魯君は之に一乘車と兩馬と一豎子(八)とを與へき。倶に周に適いて禮を問ふ、蓋し老子に見ゆと云ふ。辭し去るとき、老子は之を送りて曰く、吾聞く富貴なる者は人を送るに財を以てし、仁人は人を送るに言を以てすと。吾は富貴なる能はず、仁人の號を竊む(九)。子を送るに言を以てせん。曰く、聰明深察(一〇)なるも死に近づく者は、人を議するを好む者なり。博辯廣大なるも其身を危うする者は、人の惡を發く者なり。人の子爲る者は、以て己(一一)を有する毋れ、人臣爲る者は、以て己(一二)を有する毋れと。

(一) 委吏に作るべし、倉庫の穀物を司る小官　(二) 分量公平　(三) 司樴なり、牛馬牧養の官　(四) 六畜蕃殖す　(五) 民事取締の長官　(六) 一尺は日本の八寸弱　(七) 待遇す　(八) 侍者　(九) 妄りに取る　(一〇) 事理を辯識して詳悉なる者　(一一) 己を顧みること勿れ　(一二) 家語には有を惡に作る、自己を本として去就を決する義なるべし

父佐戴武宣公。三命玆益恭。故鼎銘云。一命而僂。再命而傴。三命而俯。循牆而走。亦莫敢余侮。饘於是。粥於是。以餬余口。其恭如是。吾聞聖人之後。雖不當世。必有達者。今孔丘年少好禮。其達者歟。吾卽沒若必師之。及釐子卒。懿子與魯人南宮敬叔往學禮焉。是歲。季武子卒。平子代立。

き。吾聞く、聖人の後は、世に(一二)當らずと雖も必ず達者(一三)有りと。今孔丘は年少うして禮を好む、其れ達者か。吾卽し沒せば、若必ず之を師とせよと。釐子卒するに及び、懿子は魯人南宮敬叔と往いて禮を學ぶ。是歲季武子卒し、平子代り立てり。

(一) 商湯を指す (二) 宋の湣公の長子として始に宋の君位を讓ぎたり (三) 弗何父の曾孫 (四) 杜預曰く、三命は上卿の位なりと (五) 正考父の廟の鼎の銘 (六) 身を屈す (七) 更に身を屈す (八) 強く身を屈して恭敬す (九) 墻根に沿うて往來し正道を横行せず (一〇) 正考父を侮るもの莫し (一一) 饘は濃く粥は淡し、食膳の質素なるを曰ふ (一二) 國君の位を踐む (一三) 卓越したる人物

孔子貧且賤。及長嘗爲季氏史。料量平。嘗爲司職吏。而畜蕃息。由

孔子は貧にして且賤し。長ずるに及びて、嘗て季氏(一)の史と爲りしに料量平(二)なりき。嘗て(三)司職の吏と爲りしに畜蕃息(四)しき。是に由りて司空(五)と爲りぬ。已にして魯を去り、齊に斥けられ、宋衛に逐はれ、陳蔡の間に困められ、是に於

氏。丘生而叔梁紇死。葬二於防山一。防山在二魯東一。由レ是孔子疑二其父墓處一。母諱レ之也。孔子爲レ兒嬉戲。常陳二俎豆一設二禮容一。孔子母死。乃殯二五父之衢一。蓋其愼也。郰人輓父之母。誨二孔子父墓一。然後往合二葬於防一焉。孔子要絰。季氏饗レ士。孔子與レ往。陽虎絀曰。季氏饗レ士。非二敢饗レ子也。孔子由レ是退。孔子年十七。

り、敢て子を饗するに非ずと。孔子是に由りて退く。孔子は年十七なりき。

(一)先祖　(二)夫婦の年齢の大差ありて禮に違へる義なり、私通に非ず　(三)山東兗州に在る山名　(四)腦頂の中央部凹みて四近高き狀態　(五)防山と阪邑と距離甚しきが爲なり　(六)祭壇に物を供ふる大小の器なり、之を列べ禮に適へる容姿有るなり　(七)魯城下の街名なり、父の墓所を知らざるを以て假葬せしなり　(八)葬儀の車を輓く者の母　(九)防山　(一〇)腰に麻の喪服するなり　(一一)魯の權臣

魯大夫孟釐子病且レ死。誡二其嗣懿子一曰。孔丘聖人之後。滅二於宋一。其祖弗父何始有レ宋而嗣。讓二厲公一。及二正考

魯の大夫孟釐子病みて且に死せんとし、其嗣の懿子を誡めて曰く、孔丘は聖人の(一)後なり、宋に滅せり。其祖弗父何は、(二)始めて宋を有つて嗣ぎ、厲公に讓れり。(三)正考父に及び、戴・武・宣公に佐たり。(四)三命せられて(五)茲益恭し。故に鼎の銘に云ふ、一命せられて僂し、(六)再命せられて傴し、(七)三命せられて俯し、(八)牆に循うて走る。(九)亦敢て余を(一〇)侮る莫し。(一一)是に饘し是に粥し、以て余の口を餬すと。其恭是の如かり

孔子生二魯昌平郷陬邑一。其先宋人也。曰二孔防叔一。防叔生二伯夏一。伯夏生二叔梁紇一。紇與二顏氏女一野合而生二孔子一。禱二於尼丘一得二孔子一。魯襄公二十二年而孔子生。生而首上圩頂。故因名曰レ丘云。字仲尼。姓孔

卷四十七

孔子世家第十七

孔子は魯の昌平郷の陬邑に生る。其先(一)は宋人なり、孔防叔と曰ふ。防叔は伯夏を生み、伯夏は叔梁紇を生む。紇は顔氏の女と野合(二)して孔子を生む。尼丘(三)に禱りて孔子を得たり。魯の襄公の二十二年、孔子生る。生れて首上圩頂(四)なり、故に因りて名づけて丘と曰ふと云ふ。字は仲尼、姓は孔氏なり。丘生れて叔梁紇死す、防山に葬る。防山は魯の東に在り。是に由りて孔子は其父の墓處(五)を疑へり。母之を諱むなり。孔子は兒爲るとき嬉戯するに、常に俎豆(六)を陳ね禮容を設く。孔子の母死す、乃ち五父(七)の衢に殯す、蓋し其れ愼めるなり。鄹人輓父(八)の母、孔子に父の墓を誨ふ。然して後に往いて防(九)に合葬す。孔子は要絰(一〇)す。季氏(一一)の士を饗するや、孔子も往くに與る。陽虎絀けて曰く、季氏は士を饗するな

國已亡。秦兵卒入臨淄。民莫敢格者。王建遂降遷於共。故齊人怨王建不蚤與諸侯合從攻秦。聽姦臣賓客以亡其國。歌之曰。松耶柏耶。住建共者客耶。疾建用客之不詳也。

太史公曰。蓋孔子晩而喜易。易之爲術。幽明遠矣。非通人達才孰能注意焉。故周太史之卦田敬仲完。占至十世之後。及完奔齊。懿仲卜之亦云。田乞及常所以比犯二君專齊國之政。非必事勢之漸然也。蓋若遵厭兆祥云。

太史公曰く、蓋し孔子は晩にして易を喜べり。易の術爲る、幽明遠し。通人(一)達才に非ずんば、孰か能く意を注がん。故に周太史の田敬仲完を卦するや、占うて十世の後に至れり。完が齊に奔るに及びて、懿仲之を(二)卜するに、亦云ふ。田乞及び常が比び二君(三)を犯して齊國の政を專にせし所以は、必ずしも事勢の漸く然るのみに非ざるなり。蓋し兆祥に(四)遵厭するが若しと云ふ。

㊀事理に通曉せる達識賢才の士　㊁還齊をトせるを指す　㊂悼公簡公　㊃遵服する義

始君王后賢。事レ秦謹。與二諸侯一信。齊亦東邊二海上一。秦日夜攻二三晉燕楚一。五國各自救二於秦一。以レ故王建立四十餘年不レ受レ兵。君王后死。后勝相レ齊。多受二秦間金一。多使二賓客入一レ秦。秦又多予二金客一。皆爲二反間一。勸レ王去レ從朝レ秦。不レ修二攻戰之備一。不レ助二五國一攻レ秦。秦以レ故得レ滅二五國一。五

始め君王后は賢なり、秦に事へて謹み、諸侯と信あり。齊亦東のかた海上に邊し、秦は日夜三晉燕楚を攻む。五國各々自ら秦より救ふ。(一)故を以て王建立つて四十餘年、兵を受けざりき。君王后死し、后勝齊に相たり。多く秦の間金(二)を受け、多く賓客をして秦に入らしむ。秦又多く金を客に予へて、皆反間(三)を爲さしむ。王に勸めて從(四)を去りて秦に朝し、攻戰の備を修めず、五國を助けて秦を攻めざらしむ。秦は故を以て五國を滅すを得たり。五國已に亡ぶるや、秦兵卒に臨淄に入るに、民敢て格(五)する者莫く、王建遂に降りて共に遷れり。故に齊人は、王建が蚤く諸侯と合從して秦を攻めず、姦臣賓客に聽いて、以て其國を亡ししを怨み、之を歌つて曰く、松か柏か、(六)建を共に住ましむる者は客かと。建が客を用ふるの詳(七)ならざりしを疾むなり。

(一)秦の禍より免れんことに焦慮す　(二)祕密の賄り金　(三)間諜とす　(四)合從　(五)抵抗するなり　(六)松柏の茂生せる共の荒地を指す　(七)明察

十六年。秦滅レ周。君王后卒。二十三年。秦置二東郡一。二十八年。王入朝レ秦。秦王政置二酒咸陽一。三十五年。秦滅レ韓。三十七年。秦滅レ趙。三十八年。燕使三荊軻刺二秦王一。秦王覺殺レ軻。明年。秦破レ燕。燕王亡二走遼東一。明年。秦滅レ魏。秦兵次二於歷下一。四十二年。秦滅レ楚。明年。虜二代王嘉一。滅二燕王喜一。四十四年。秦兵擊レ齊。齊王聽二相后勝計一。不レ戰。以レ兵降レ秦。秦虜二王建一。遷二之共一。遂滅レ齊爲レ郡。天下壹幷二於秦一。秦王政立レ號爲二皇帝一。

十六年秦は周を滅す、君王后卒す。二十三年秦は東郡を置く。二十八年、王入りて秦に朝す。（一）秦王政は咸陽に置酒す。三十五年秦は韓を滅す。三十七年秦は趙を滅す。三十八年、燕は荊軻をして秦王を刺さしむ。秦王覺りて軻を殺す。明年秦は燕を破る、燕王遼東に亡げ走る。（二）明年秦は魏を滅す。秦兵は（三）歷下に次す。四十二年秦は楚を滅し、明年代王嘉を虜にし、燕王喜を滅す。四十四年秦兵齊を擊つ。齊王は相后勝の計に聽き、戰はず、兵を以て秦に降る。秦は王建を虜にして、之を（四）共に遷し、遂に齊を滅して郡と爲し、天下（五）壹に秦に幷す。秦王政は號を立てて皇帝と爲る。

（一）始皇帝なり　（二）秦の四十年なり　（三）齊の歷城の城下　（四）河南衛輝府輝縣　（五）悉く秦に統一せらる

襄王於莒一入二臨淄一。齊故地盡復屬レ齊。齊封二田單一爲二安平君一。十四年。秦擊二我剛壽一。十九年。襄王卒。子建立。王建立六年。秦攻レ趙。齊楚救レ之。秦計曰。齊楚救レ趙。親則退レ兵。不レ親遂攻レ之。趙無レ食。請二粟於齊一。齊不レ聽。周子曰。不レ如三聽レ之以退二秦兵一。不レ聽則秦兵不レ却。是秦之計中。而齊楚之計過也。且趙之於二齊楚一扞蔽也。猶二齒之有一レ脣也。脣亡則齒寒。今日亡レ趙。明日患及二齊楚一。且救レ趙之務。宜レ若下奉二漏甕一沃中焦釜上也。夫救レ趙高義也。却二秦兵一顯名也。義救二亡國一。威却二彊秦之兵一。不レ務レ爲レ此。而務レ愛レ粟。爲レ國計者過矣。齊王弗レ聽。秦破二趙於長平一。四十餘萬。遂圍二邯鄲一。

是れ秦の計中りて齊楚の計過てるなり。且趙の齊楚に於けるは扞蔽(六)なり、猶齒の脣有るがごとし。脣亡ぶれば則ち齒寒し。今日趙を亡はば、明日患は齊楚に及ばん。且趙を救ふの務は、宜しく漏甕(七)を奉じて焦釜に沃ぐが若くなるべし。夫れ趙を救ふは高義(八)なり、秦兵を却くるは顯名なり。義は亡國を救ひ、威は彊秦の兵を却く。此を爲すを務めずして、而も粟を愛するを務むるは、國の爲に計る者過てりと。齊王聽かず。秦は趙を長平(九)に破ること四十餘萬、遂に邯鄲を圍む。

(一) 媒妁人を用ひずして自ら嫁せり (二) 家名を汚す (三) 謝出 (四) 安徽鳳陽府 (五) 齊の謀臣 (六) 防禦上最良の障蔽物 (七) 漏斗もて焦げたる釜に灌ぐが如く速なるべし (八) すぐれたる行爲 (九) 山西澤州府高平縣

法章變名姓。爲莒太史敫家庸。太史敫女。奇法章狀貌。以爲非恆人。憐而常竊衣食之。而與私通焉。淖齒既以去莒。莒中人及齊亡臣。相聚求湣王子。欲立之。法章懼其誅己也。久之乃敢自言我湣王子也。於是莒人共立法章。是爲襄王。以保莒城。而布告齊國中。王已立在莒矣。

襄王既立。立太史氏女爲王后。是爲君王后。生子建。太史敫曰女不取媒。因自嫁。非吾種也。汙吾世。終身不視君王后。君王后賢。不以不視故失人子之禮。襄王在莒五年。田單以即墨攻破燕軍。迎

襄王既に立ち、太史氏の女を立てて王后と爲す、是を君王后と爲す。子建を生む。太史敫曰く、女は媒を取らず、因りて自ら嫁せり、吾種に非ず、吾世を汙すと。終身君王后を視ず。君王后は賢なり、視ざるの故を以て人子たるの禮を失はざりき。襄王莒に在ること五年、田單は即墨を以て燕軍を攻め破り、襄王を莒より迎へて臨淄に入る。齊の故地盡く復して齊に屬す。齊は田單を封じて安平君と爲す。十四年秦は我が剛壽を撃つ。十九年襄王卒し、子建立つ。王建立つの六年、秦は趙を攻む、齊楚之を救ふ。秦計りて曰く、齊楚、趙を救ふ、親まば則ち兵を退けん、親まずんば遂に之を攻めんと。趙に食無し、粟を齊に請ふ、齊聽かず。周子曰く、之を聽いて以て秦兵を退くるに如かじ。聽かずんば則ち秦兵却かじ。

濟西。王解而却。燕將樂毅。遂入二臨淄一。盡取二齊之寶藏器一。湣王出亡之レ衞。衞君辟レ宮舍レ之。稱レ臣而共具。湣王不遜。衞人侵レ之。湣王去走二鄒魯一。有二驕色一。鄒魯君弗レ內。遂走レ莒。楚使二淖齒將レ兵救レ齊。因相二齊湣王一。淖齒遂殺二湣王一。而與レ燕共分二齊之侵地鹵器一。湣王之遇レ殺。其子

之を舍し、臣と稱して共具す。湣王不遜なり、衞人之を侵す。湣王去りて鄒魯に走り、驕色有り。鄒魯の君內れず、遂に莒に走る。楚は淖齒をして兵に將として齊を救はしむ、因りて齊の湣王に相たり。淖齒は遂に湣王を殺して、燕と共に齊の侵地鹵器を分つ。湣王の殺に遇ふや、其子法章は名姓を變じて、莒の太史敫の家庸と爲る。太史敫の女は、法章の狀貌を奇とし、以て恆人に非ずと爲し、憐みて常に竊に之に衣食せしめて、與に私通す。淖齒は既に以て莒を去る。莒中の人及び齊の亡臣、相聚りて湣王の子を求めて之を立てんと欲す。法章は其の己を誅せんことを懼る、久しうして乃ち敢て自ら言ふらく、我は湣王の子なりと。是に於て、莒の人共に法章を立つ、是を襄王と爲す。以て莒城を保つて齊國中に布告すらく、王已に立つて莒に在りと。

(一) 和解して退却す (二) 閒に同じ (三) 飲膳を供具す (四) 山東沂州府莒州 (五) 淖齒齊相となる (六) 分捕したる寶器 (七) 家內の傭人 (八) 尋常の人物

令齊可知乎。齊以攻宋。其知事秦。以萬乘之國自輔。不西事秦。則宋治不安。中國白頭游敖之士。皆積智欲離齊秦之交。伏式結軼西馳者。未有一人言善齊者也。伏式結軼東馳者。未有一人言善秦者也。何則皆不欲齊秦之合也。何晉楚之智。而齊秦之愚也。晉楚合必議齊秦。齊秦合必圖晉楚。請以此決事秦。王曰諾。於是齊遂伐宋。宋王出亡死於溫。齊南割楚之淮北。西侵三晉。欲以并周室為天子。泗上諸侯。鄒魯之君。皆稱臣。諸侯恐懼。

宋を伐つ。宋王出で亡げ、溫(八)に死す。齊は南のかた楚の淮北を割き、西のかた三晉を侵し、以て周室を併せて天子と爲り、泗上の諸侯鄒魯の君、皆臣を稱せんことを欲す。諸侯恐懼す。

(一) 河南洛陽縣の南方、陽晉は山東曹州　(二) 齊の將軍なり　(三) 魏の名邑なり、山西解州安邑縣　(四) 或時は合從し或時は連衡す　(五) 老年に至るまで游說を事とせる士　(六) 軾に伏し軼を結ぶに同じ、軼は車と馬とを繫ぐ紐なり　(七) 齊と親交せよと說くなり　(八) 河南懷慶府溫縣

三十九年。秦來伐。拔我列城九。四十年。燕秦楚三晉。合謀各出銳師以伐。敗我

三十九年、秦來りて伐ち、我が列城九を拔く。四十年、燕秦楚三晉は謀を合せ、各々銳師を出して以て伐ち、我を濟西に敗る。王解いて却く。燕將樂毅は遂に臨淄に入り、盡く齊の寶藏器を取る。湣王出亡して衞に之く。衞君は宮を辟いて

愛二新城陽晉一同。韓聶與レ吾友也。而攻二吾所一レ愛何也。蘇代爲レ齊謂二秦王一曰。韓聶之攻レ宋。所二以爲一レ王也。齊彊。輔レ之以レ宋。楚魏必恐。恐必西事レ秦。是王不レ煩二一兵一。不レ傷二一士一。無レ事而割二安邑一也。此韓聶之所レ禱二於王一也。秦王曰。吾患二齊之難一レ知。一從。一衡。其說何也。對曰。天下國。

の爲に秦王に謂つて曰く、韓聶の宋を攻むるは、王の爲にする所以なり。齊彊し、之を輔くるに宋を以てせば、楚魏は必ず恐れん。恐れば必ず西して秦に事へん。是れ王は一兵を煩さず一士を傷はず、事無くして(三)安邑を割くなり。此れ韓聶の王に禱る所なりと。秦王曰く、吾は齊の知り難きを患ふ、(四)一從一衡は、其說何ぞやと。對へて曰く、天下の國、齊をして知るべからしめんか。齊以に宋を攻む、其れ秦に事ふるを知らん。萬乘の國を以て自ら輔く。西して秦に事へずんば、則ち宋の治は安からず。中國の(五)白頭游敖の士は、皆智を積みて齊秦の交を離さんと欲し、(六)式に伏し軾を結びて西に馳する者は、未だ一人の(七)齊に善くせよと言ふ者は有らざるなり。式に伏し軾を結びて東に馳する者は、未だ一人の秦に善くせよと言ふ者は有らざるなり。何となれば則ち皆齊秦の合を欲せざればなり。何ぞ晉楚の智にして齊秦の愚なるや。晉楚合へば必ず齊秦を議し、齊秦合へば必ず晉楚を圖る。請ふ此を以て事を決せよと。秦王曰く、諾すと。是に於て齊は遂に

宋之利。故願王明釋帝。以收天下。倍約賓秦無爭重。而王以其間舉宋。夫有宋。衞之陽地危。有濟西。趙之阿東國危。有淮北。楚之東國危。有陶平陸。梁門不開。釋帝而貸之。以伐桀宋之事。國重而名尊。燕楚所以形服。天下莫敢不聽。此湯武之舉也。敬秦以爲名。而後使天下憎之。此所謂以卑爲尊者也。願王熟慮之。於是齊去帝復爲王。秦亦去帝位。

つに、衞の陽地(三)は危く、濟西を有つに、趙の阿東(四)國は危く、淮北を有てば、楚の東國は危く、陶平陸(五)を有てば、梁門(六)は開かず。帝を釋てて之に貸ふる(七)に、桀宋を伐つの事を以てす。國重くして名尊し。燕楚の形服(八)する所以なり。天下敢て聽かざる莫からん、此れ湯武の擧なり。秦を敬して以て名と爲して、而る後に天下をして之を憎ましむ。此れ所謂卑を以て尊と爲す者なり。願くは王之を熟慮せよと。是に於て齊は帝を去りて、復王と爲る。秦も亦帝位を去る。

(一) 服從し謙讓す　(二) 勢位　(三) 濮陽地方なり、山東曹州府濮州　(四) 山東泰安府東阿縣地方　(五) 山東定陶縣及び汶上縣の地方　(六) 大梁の城門開くを得ざらん　(七) 交易す　(八) 形勢上自然に屈伏す

三十八年。伐宋。秦昭王怒曰。吾愛宋與

三十八年宋を伐つ、秦の昭王怒つて曰く、吾は宋を愛すること、新城陽晉(一)を愛すると同じ、韓聶(二)は吾と友たり、而るに吾が愛する所を攻むるは何ぞやと。蘇代は齊

帝一。秦昭王爲二西帝一。蘇代自レ燕來入レ齊見二於章華東門一。齊王曰。嘻。善子來。秦使二魏冉致レ帝。子以爲二何如一。對曰。王之問レ臣也卒。而患之所二從來一微。願王受レ之。而勿二備稱一也。秦稱レ之。天下安レ之。王乃稱レ之無レ後也。且讓二爭帝名一無レ傷也。秦稱レ之。天下惡レ之。王因勿レ稱以收二天下一。此大資也。且天下立二兩帝一。王以二天下一爲レ尊レ齊乎。尊レ秦乎。王曰。尊レ秦。曰。釋レ帝天下愛レ齊乎。愛レ秦乎。王曰。愛レ齊而憎レ秦。曰。兩帝立。約伐レ趙。孰下與伐二桀宋一之利上。王曰。伐二桀宋一利。

を愛して秦を憎まんと。曰く、兩帝立ち、約して趙を伐つは、桀宋を伐つの利に孰與ぞと。(一〇)王曰く、桀宋を伐つこと利なりと。

(一) 山東武定府陽北縣　(二) 武靈王なり　(三) 章華宮の東門内なる宮殿　(四) 卒然の義　(五) 微妙深遠　(六) 現實の義　(七) 後るゝには非ず　(八) 天下の人心を收む　(九) 大いなる根本の資力なり　(一〇) 宋の康王偃暴虐なり故に之に比するなり

對曰。夫約鈞。然與レ秦爲レ帝。而天下獨尊レ秦而輕レ齊。釋レ帝則天下愛レ齊而憎レ秦。伐レ趙不レ如下伐二桀

對へて曰く、夫れ約は鈞し、然るに秦と與に帝と爲るも、而も天下は獨り秦を尊びて齊を輕んじ、帝を釋つれば則ち天下は齊を愛して秦を憎む。趙を伐つは桀宋を伐つの利に如かず。故に願くは王明に帝を釋てて、以て天下を收め、約に倍いて秦に賓し、(一一)重を爭ふこと無くして、王は其間を以て宋を擧げよ。(一二)夫れ宋を有

王卒。二十三年。與秦擊敗楚於重丘。二十四年。秦使涇陽君質於齊。二十五年。歸涇陽君于秦。孟嘗君薛文入秦。卽相秦。文亡去。二十六年。齊與韓魏共攻秦。至函谷軍焉。二十八年。秦與韓河外以和。兵罷。二十九年。趙殺其主父。齊佐趙滅中山。三十六年。王爲東

陽君をして齊に質たらしむ。二十五年、涇陽君を秦に歸す。孟嘗君薛文秦に入りて、卽ち秦に相たり、文は亡げ去りぬ。二十六年、齊と韓魏と共に秦を攻め、函谷に至りて軍す。二十八年、秦は韓に河外を與へて以て和す、兵罷む。二十九年、趙は其主父を殺す。齊は趙を佐けて中山を滅す。三十六年、王は東帝と爲り、秦の昭王(二)は西帝と爲る。蘇代は燕より來りて齊に入り、章華(三)の東門に見ゆ。齊王曰く、嘻善く子來れり、秦は魏冉をして帝を致さしめたり、子以て何如と爲すと。對へて曰く、王の臣に問ふは卒(四)なり、而も患の從り來る所は微し(五)。願くは王之を受けて備(六)に稱する勿れ　秦之を稱して天下之に安んぜば、王乃ち之を稱せよ、後るゝ(七)こと無し。且帝名を讓り爭ふは傷むこと無し。秦之を稱して天下之を惡まば、王因りて稱する勿くして、以て天下を收め(八)よ、此れ大資(九)なり。且天下兩帝を立つ。王天下を以て齊を尊ぶと爲すか、秦を尊ぶとするかと。王曰く、秦を尊ぶと。曰く、帝を釋てば、天下齊を愛せんか、秦を愛せんかと。王曰く、齊

名存亡國。實伐三川而歸。此王業也。公令楚王與韓氏地。使秦制和。謂秦王曰。請與韓地。而王以施三川。韓氏之兵。不用而得地於楚。韓馮之東兵之辭。且謂秦何。曰。秦兵不用。而得三川。伐楚韓以窘魏。魏氏不敢東。是孤齊也。張儀之東兵之辭。且謂何。曰。秦韓欲地。而兵有案。聲威發於魏。魏氏之欲不失齊楚者有資矣。魏氏轉秦韓爭事齊楚。楚王欲而無與地。公令秦韓之兵不用而得地。有一大德也。秦韓之王劫於韓馮張儀。而東兵以徇服魏。公常執左券。以責於秦韓。此其善於公。而惡張子多資矣。

韓は地を欲して、兵案ずる有り、(八)聲威魏に發す。魏氏の齊楚を失はざるを欲する者、(九)資る所なりと。魏氏は秦韓に轉じ、齊楚に爭ひ事へ、楚王は欲して地を與ふる無きとき、公は秦韓の兵用ひずして地を得しむ、一大德有るなり。秦韓の王が、韓馮張儀に劫されて、兵を東して以て魏に徇服せば、(一〇)公は常に左券を執りて、(一一)以て秦韓に責めよ。此れ其れ公に善くして張子に惡し。資るところ多しと。

(一)秦韓魏　(二)舊領地　(三)防禦　(四)河南河南府　(五)講和を調定す　(六)施設するなり　(七)困窮せしむ　(八)按じて未だ發せず　(九)援軍を恃む　(一〇)從ひ服す　(一一)證據なり、貸借の兩者に左右兩分有するより曰ふ

十三年。秦惠

十三年秦の惠王卒す。二十三年、秦と撃ちて楚を重丘に敗る(一)　二十四年、秦は涇

對曰。韓馮之救魏之辭。必不謂韓王曰馮以爲魏。必曰。馮將以秦韓之兵。東却齊宋。馮因摶三國之兵。乘屈丐之弊。南割於楚。故地必盡得之矣。張儀救魏之辭。必不謂秦王曰儀以爲魏。必曰儀且以秦韓之兵。東距齊宋。儀將摶三國之兵。乘屈丐之弊。南割於楚。

對へて曰く、韓馮の魏を救ふの辭は、必ず韓王に謂つて、馮は以て魏の爲にすと曰はずして、必ず曰はん、馮は將に秦韓の兵を以て、東して齊宋を却けんとす。馮は因りて三國(一)の兵を摶り、屈丐の弊に乘じて、南のかた楚に割かんに、故地(二)は必ず盡く之を得んと。張儀の魏を救ふの辭も、必ず秦王に謂つて、儀は以て魏の爲にすと曰はずして、必ず曰はん、儀は且に秦韓の兵を以て東のかた齊宋を距(三)がんとす。儀は將に三國の兵を摶り、屈丐の弊に乘じて、南のかた楚に割かんとす。名は亡國を存して、實は三川(四)を伐つて歸るなり、此れ王業なりと。公は楚王をして韓氏に地を與へしめ、秦をして和を制せしめ(五)、秦王に謂つて曰へ、請ふ韓に地を與へん。而して王は以て三川に施せ(六)と。韓氏の兵は、用ひずして地を楚に得ん。韓馮の兵を東するの辭は、且に秦に何と謂はんとするか。曰く、秦兵用ひずして三川を得、楚韓を伐つて以て魏を窘(七)む。魏氏敢て東せず。是れ齊に孤なればなりと。張儀の兵を東するの辭は、且に何と謂はんとするか。曰く、秦

復盛。且二數百千人一。十九年。宣王卒。子湣王地立。湣王元年。秦使下張儀與二諸侯執政一。會中于齧桑上。三年。封二田嬰於薛一。四年。迎二婦于秦一。七年。與レ宋攻レ魏敗二之觀澤一。十二年。攻レ魏。楚圍二雍氏一。秦敗二屈丐一。蘇代謂二田軫一曰。臣願有レ謁二於公一。其爲レ事甚完。使二楚利一レ公。成爲レ福不レ成亦爲レ福。今者臣立二於門一。客有レ言曰。魏王謂二韓馮。張儀一曰。煮棗將レ拔。齊兵又進。子來救二寡人一則可矣。不レ救二寡人一。寡人弗レ能レ拔。此特轉辭也。秦韓之兵。毋レ東旬餘。則魏氏轉レ韓從レ秦。秦逐二張儀一。交レ臂而事二齊楚一。此公之事成也。田軫曰。奈何使レ無レ東。

くは公に謁ぐる有らん、其の事爲る甚だ完し。楚をして公を利せしめて、成らば福と爲り、成らざるも亦福と爲らん。今は臣門に立つに、客の言ふもの有り、曰く、魏王は韓馮(八)・張儀に謂つて曰く、煮棗(九)將に拔けんとし、齊兵又進む。子來りて寡人を救はば則ち可なり、寡人を救はずんば、寡人拔く能はずと。此は特轉辭(一〇)なり。秦韓の兵、東する毋きこと旬餘ならば、則ち魏氏は韓に轉じて秦に從はん。秦張儀を逐ひて、臂(一一)を交へて齊楚に事へん。此れ公の事成るなりと。田軫曰く、奈何してか東する無からしめんと。

(一) 列べる邸宅 (二) 事務を執らず (三) 齊の城門なる稷門の下に列第有り (四) 楚魏中間の地名 (五) 山東兗州府滕城縣 (六) 河南許州の地 (七) 前出 (八) 韓の相たり・張儀は秦の相 (九) 山東曹州府曹縣 (一〇) 魏の方面を轉ぜしめんとする一口實たるのみ (一一) 臂を把つて歡を交ふるなり

得二尊名一也。宣王曰。善。乃陰告二韓之使者一而遣レ之。韓因恃レ齊。五戰不レ勝。而東委二國於齊一。齊因起レ兵。使二田忌田嬰將一。孫子爲レ師。救二韓趙一以擊レ魏。大敗二之馬陵一。殺二其將龐涓一。虜二魏太子申一。其後三晉之王。皆因二田嬰一朝二齊王於博望一。盟而去。七年。與二魏王一會二平阿南一。明年。復會レ甄。魏惠王卒。明年。與二魏襄王一會二徐州一。諸侯相王也。十年。楚圍二我徐州一。十一年。與レ魏伐レ趙。趙決二河水一灌二齊魏兵一。罷。十八年。秦惠王稱レ王。

罷む。十八年、秦の惠王は王と稱す。

(一)孫臏なり (二)疲弊す (三)遇に通ず、迫り到るなり (四)利は多くして名は尊からん (五)委任す (六)軍師 (七)山東濮州 (八)河南南陽縣 (九)安徽鳳陽府懷遠縣 (一〇)山東濮州の東方 (一一)江蘇の徐州

宣王喜二文學游說之士一。自レ如二騶衍。淳于髡。田駢。接予。愼到。環淵之徒一。七十六人。皆賜二列第一。爲二上大夫一。不レ治而議論。是以齊稷下學士

宣王は文學游說の士を喜ぶ。騶衍・淳于髡・田駢・接予・愼到・環淵の徒の如きより、七十六人、皆列第を賜うて上大夫と爲り、治めずして議論す。是を以て齊の稷下の學士復盛なり、且に數百千人ならんとす。十九年宣王卒し、子湣王地立つ。湣王の元年、秦は張儀をして、諸侯の執政と齧桑に會せしむ。三年、田嬰を薛に封ず。四年婦を秦に迎ふ。七年宋と魏を攻めて、之を觀澤に敗る。十二年魏を攻む。楚は雍氏を圍む。秦は屈丐を敗る。蘇代は田軫に謂つて曰く、臣願はく

臣一而謀曰。蚤救孰ニ與晩救一。騶忌子曰。不レ如レ勿レ救。田忌曰。弗レ救則韓且三折而入ニ於魏一。不レ如ニ蚤救レ之。孫子曰。夫韓魏之兵。未レ弊而救レ之。是吾代レ韓受ニ魏之兵一。顧反聽ニ命於韓一也。且魏有ニ破レ國之志一。韓見レ亡。必東面而愬ニ於齊一矣。吾因深結ニ韓之親一。而晩承ニ魏之弊一。則可三重利而

ぞと。騶忌子曰く、救ふ勿きに如かずと。田忌曰く、救はずんば則ち韓は且に折れて魏に入らんとす、蚤く之を救ふに如かずと。(一)孫子は曰く、夫れ韓魏の兵未だ(二)弊れずして之を救ふは、是れ吾韓に代りて魏の兵を受け、顧反て命を韓に聽くなり。且魏は國を破るの志有り、韓の亡さるゝや、必ず東面して齊に愬らん。(三)吾因りて深く韓の親を結びて、晩く魏の弊を承けん。則ち重利(四)にして尊名を得べしと。宣王曰く、善しと。乃ち陰に韓の使者に告げて之を遣る。韓因りて齊を恃み、五戰して勝たず。而ち東して國を齊に委す。(五)齊因りて兵を起し、田忌、田嬰をして將たらしめ、孫子を師(六)と爲し、韓・趙を救うて以て魏を撃ち、大いに之を馬陵(七)に敗り、其將龐涓を殺し、魏の太子申を虜にす。其後三晉の王は、皆田嬰に因りて、齊王に博望(八)に朝し、盟つて去れり。七年、魏王と平阿(九)の南に會し、明年復甄(一〇)に會す、魏の惠王卒す。明年魏の襄王と徐州(一一)に會す、諸侯相王とす。十年、楚は我が徐州を圍む。十一年、魏と趙を伐つ。趙は河水を決して齊魏の兵に灌ぐ。

侯忌一曰。公何不レ令下人操二十金一卜中於市上曰。我田忌之人也。吾三戰而三勝。聲威二天下一。欲レ爲二大事一。亦吉乎。不吉乎。卜者出。因令三人捕二爲レ之卜者一、驗二其辭於王之所一。田忌聞レ之。因遂率二其徒一襲二攻臨淄一求二成侯一。不レ勝而犇。三十六年。威王卒。子宣王辟彊立。宣王元年。秦用二商鞅一。周致二伯於秦孝公一。二年。魏伐レ趙。趙與レ韓親。共撃レ魏。趙不レ利。戰二於南梁一。宣王召二田忌一復二故位一。

て三勝し、聲(二)天下に威あり。大事を爲さんと欲す、亦吉か不吉かと。卜者出でば、因り人をして之が爲に卜者を捕へしめて、其辭(三)を王の所に驗せよと。田忌之を聞き、因りて遂に其徒を率ゐて臨淄(四)を襲ひ攻め、成侯を求む。勝たずして犇(五)る。三十六年威王卒し、子宣王辟彊立つ。宣王の元年、秦は商鞅を用ひ、周は伯(六)を秦の孝公に致す。二年魏は趙を伐つ。趙は韓と親み、共に魏を撃つ。趙利あらず、南梁(七)に戰ふ。宣王田忌を召して故位に復せしむ。

(一) 占卜を乞はしむ　(二) 名聲威望天下に震ふ　(三) 王宮にて取調ぶべし　(四) 山東青州府臨淄縣　(五) 亡げ奔る　(六) 伯爵の尊號　(七) 河南汝州の屬邑

韓氏請二救於齊一。宣王召二大

韓氏は救を齊に請ふ。宣王大臣を召して謀りて曰く、蚤く救ふは晩く救ふと孰與

幷二邯鄲一。其於レ齊何利哉。且夫救レ趙而軍二其郊一。是趙不レ伐而魏全也。故不レ如下南攻二襄陵一以弊レ魏。邯鄲拔而乘中魏之弊上。威王從二其計一。其後成侯騶忌與二田忌一不レ善。公孫閱謂二成侯忌一曰。公何不レ謀レ伐レ魏。田忌必將。戰勝有レ功。則公之謀中也。戰不レ勝。非二前死一則後北。而命在レ公矣。於レ是成侯言二威王一。使三田忌南攻二襄陵一。十月。邯鄲拔。齊因起レ兵擊レ魏。大敗二之桂陵一。於レ是齊最彊二於諸侯一。自稱爲レ王。以令二天下一。

ぞ魏を伐つを謀らざる、田忌必ず將たらん。戰勝つて功有らば、則ち公の謀中るなり、戰つて勝たざれば、前み死するに非ずんば、則ち後いて北げん、而らば命は公に在りと。(四)是に於て成侯は威王に言ひ、田忌をして南して襄陵を攻めしむ。十月邯鄲拔く。齊因りて兵を起して魏を擊ち、大いに之を桂陵に(五)敗る。是に於て齊は最も諸侯に彊し。自ら稱して王と爲り、以て天下に令す。

(一) 趙の首都　(二) 何の利か之有らん　(三) 山西平陽府襄陵縣　(四) 結果の利益を指す　(五) 山東曹州の地又桂林に作る

三十三年。殺二其大夫牟辛一。三十五年。公孫閱又謂二成

三十三年、其大夫牟辛を殺す。三十五年、公孫閱は又成侯忌に謂つて曰く、公何ぞ人をして十金を操りて市に卜せ(一)しめざる。曰く、我は田忌の人なり、吾三戰し

不㆓敢爲㆒レ寇東取。泗上十二諸侯皆來朝。吾臣有㆓盼子者㆒。使レ守㆓高唐㆒。則趙人不㆔敢東漁㆓於河㆒。吾吏有㆓黔夫者㆒。使レ守㆓徐州㆒。則燕人祭㆓北門㆒。趙人祭㆓西門㆒。從而從者七千餘家。吾臣有㆓種首㆒。使レ備㆓盜賊㆒。則道不レ拾レ遺。將㆔以照㆓千里㆒。豈特十二乘哉。梁惠王慙。不レ懌而去。

盼なり盻は又盻に作る (七) 順天府大城縣なり齊の北邊にして燕趙に接す (八) 齊の北門に祭りて侵伐せられざらんことを願ふ (九) 燕趙より轉居する者 (一〇) 此四人の者はといふ句を略す

二十六年。魏惠王圍㆓邯鄲㆒。趙求㆓救於齊㆒。齊威王召㆓大臣㆒而謀曰。救趙孰㆓與勿㆒レ救。騶忌子曰。不レ如レ勿レ救。段干朋曰。不レ救則不義。且不利。威王曰。何也。對曰。夫魏氏

二十六年、魏の惠王邯鄲を圍む、(一一)趙は救を齊に求む。齊の威王は大臣を召して謀りて曰く、趙を救ふは、救ふ勿きに孰與ぞやと。騶忌子曰く、救ふ勿きに如かずと。段干朋は曰く、救はざるは則ち不義なり、且つ不利なりと。威王曰く、何ぞやと。對へて曰く、夫れ魏氏邯鄲を幷せば、其の齊に於ける何ぞ利せんや。(一二)且つれ趙を救うて其郊に軍せんに、是趙は伐たずして魏は全し。故に南して襄陵(一三)を攻めて以て魏を弊れしめ、邯鄲拔けて魏の弊に乘ずるに如かずと。威王は其計に從ふ。其後成侯騶忌は田忌と善からず。公孫閱は成侯忌に謂つて曰く、公何

威王二十三年。與ニ趙王一會ニ平陸一。二十四年。與ニ魏王一會ニ田於郊一。魏王問曰。王亦有レ寶乎。威王曰。無レ有。梁王曰。若ニ寡人國一小也。尚有下徑寸之珠。照ニ車前後一各十二乘者十枚上。奈何以ニ萬乘之國一而無レ寶乎。威王曰。寡人之所ニ以爲レ寶與レ王異。吾臣有ニ檀子者一。使レ守ニ南城一。則楚人

威王の二十三年、趙王と平陸に會す。(一) 二十四年、魏王と會して郊(二)に田す。魏王問うて曰く、王亦寶有りやと。威王曰く、有ること無しと。梁王曰く、寡人の國の若きは小なり、尚徑寸(三)の珠、車の前後を照すこと各々十二乘なる者十枚有り。奈何ぞ萬乘の國を以て寶無からんと。威王曰く、寡人が寶と爲す所以は、王と異なり。吾が臣に檀子といふ者有り、(四)南城を守らしむれば、則ち楚人敢て寇を爲して東に取らず、(五)泗上の十二諸侯皆來朝す。吾が臣に(六)盼子と曰ふ者有り、高唐を守らしむれば、則ち趙人敢て東して河に漁せず。吾が吏に黔夫といふ者有り、(七)徐州を守らしむれば、則ち燕人は北門に(八)祭り、趙人は西門に(九)祭り、徙りて從ふ者七千餘家なり。吾が臣に種首といふ者有り、盜賊に備へしむれば、則ち道遺ちたるを拾はず。將に以て千里を照さんとす。豈特に十二乘のみならんやと。梁の惠王慙ぢ、懌ばずして去りぬ。(一〇)

(一) 山西解州平陸縣 (二) 郊野に游獵す (三) 直徑一寸の珠玉 (四) 南方の泛稱 (五) 泗上附近の小諸侯 (六) 田

運ニ方穿一。騶忌子曰。謹受レ令。請謹事ニ左右一。淳于髠曰。弓膠ニ昔幹一。所ニ以爲レ合也。然而不レ能レ傳ニ合疏罅一。騶忌子曰。謹受レ令。請謹自附ニ於萬民一。淳于髠曰。狐裘雖レ弊。不レ可三補以ニ黄狗之皮一。騶忌子曰。謹受レ令。請謹擇ニ君子一。毋レ雜ニ小人其間一。淳于髠曰。大車不レ較。不レ能レ載ニ其常任一。琴瑟不レ較。不レ能レ成ニ其五音一。騶忌子曰。謹受レ令。請謹修ニ法律一而督ニ姦吏一。淳于髠說畢趨出。至レ門而面ニ其僕一曰。是人者。吾語ニ之微言五一。其應レ我若ニ響之應一レ聲。是人必封不レ久矣。居朞年。封以ニ下邳一。號曰ニ成侯一。

小人を其間に雜ふる毋らんと。淳于髠曰く、大車も較らずんば(八)、其常任(九)を載する能はず、琴瑟も較らずんば、其五音を成す能はずと。騶忌子曰く、謹んで令を受く、請ふ謹んで法律を修めて姦吏を督せんと。淳于髠說き畢りて趨り出で、門に至りて其僕(一〇)に面して曰く、是人は、吾之に微言五(一一)を語るに、其の我に應ずること響の聲に應ずるが若し、是人必ず封ぜらるゝ久しからじ(一二)と。居ること朞年、封ずるに下邳(一三)を以てし、號して成侯と曰ふ。

(一) 新宰相に賜見す　(二) 君の坐前　(三) 豬の脂もて棘木の車軸に塗る　(四) 四角なる孔穴　(五) 善き弓材　(六) 粗き隙間を附合す　(七) 狐の皮衣　(八) 製作を較量す　(九) 常用の貨物　(一〇) 自家の車僕　(一一) 微妙の暗示　(一二) 遠からざる義　(一三) 江蘇徐州府邳州

信未有如夫子者也。若夫治國家而弭人民。又何爲乎絲桐之間。騶忌子曰。夫大弦濁以春溫者君也。小弦廉折以淸者相也。攫之深而舍之愉者政令也。鈞諧以鳴。大小相益。回邪而不相害者四時也。夫復而不亂者。所以治昌也。連而徑者。所以存亡也。故曰。琴音調而天下治。夫治國家而弭人民者。無若乎五音者。王曰。善。

騶忌子見三月而受相印。淳于髡見之曰。善說哉。髡有愚志。願陳諸前。騶忌子曰。謹受敎。淳于髡曰。得全全昌。失全全亡。騶忌子曰。謹受令。請謹毋離前。淳于髡曰。狶膏棘軸。所以爲滑也。然而不能

騶忌子見ゆること三月、相印を受く。淳于髡之に見えて曰く、善く說かん哉、髡に愚志有り、願くは諸を前に陳べんと。騶忌子曰く、謹みて敎を受けんと。淳于髡曰く、全を得れば全く昌え、全を失へば全く亡ぶと。騶忌子曰く、謹んで令を受く、請ふ謹んで(二)前を離るゝ毋らんと。淳于髡曰く、(三)狶膏棘軸は滑を爲す所以なり、然り而して(四)方穿を運らす能はずと。騶忌子曰く、謹んで令を受く、請ふ謹んで左右に事へんと。淳于髡曰く、弓は(五)昔幹に膠す、合を爲す所以なり。然り而して(六)疏罅を傅合する能はずと。騶忌子曰く、謹んで令を受く、請ふ謹んで自ら萬民に附せんと。淳于髡曰く、(七)狐裘弊ると雖も、補ふに黃狗の皮を以てすべからずと。騶忌子曰く、謹んで令を受く、請ふ謹んで君子を擇んで、

以知㆓其善㆒也。騶忌子曰。夫大弦濁以春溫者君也。小弦廉折清者也。攫之深醳之愉者政令也。鈞諧以鳴。大小相益。回邪而不㆓相害㆒者四時也。吾是以知㆓其善㆒也。王曰。善語㆑音。騶忌子曰。何獨語㆑音。夫治㆓國家㆒而弭㆓人民㆒。皆在㆓其中㆒。王又勃然不㆑說曰。若㆔夫語㆓五音之紀㆒。

時なり。吾是を以て其善を知ると。王曰く、善し、音を語ることと。騶忌子曰く、何ぞ獨り音を語るのみならん。夫れ國家を治めて人民を弭んぜんも、皆其中に在りと。王又勃然として說ばずして曰く、夫の五音の紀を語るが若きは、(八)信に未だ夫子の如き者は有らざらん。夫の國家を治めて人民を弭んずるが若きは、又何ぞ(九)絲桐の間に爲さんやと。騶忌子曰く、夫れ大弦の濁りて以て春溫なる者は君なり、小弦の廉折にして以て清き者は相なり。之を攫ること深くして、之を舍くこと愉かなる者は政令なり。鈞しく諧ひて以て鳴り、大小相益し、回邪にして相害せざる者は四時なり。(一〇)夫れ復りて亂れざる者は、昌を治むる所以なり。連り(一一)て徑る者は、亡を存する所以なり。故に曰く、琴音調つて天下治まると。夫れ國家を治めて人民を弭んずる者は、五音に若く者無しと。王曰く、善しと。

(一) 傲に聳り立つ貌 (二) 形貌を見たるのみ (三) 春の如く溫和なり (四) 鋭く角ありて急き貌 (五) 絃を執り彈ずるなり (六) 大小兩絃相諧和す (七) 邪曲の義大小絃各々其調を損つて相下らざるなり (八) 宮商角徵羽の道 (九) 桐もて造り絲もて張れる琴を指す (一〇) 往返して亂れず (一一) 連接して度り過ず

吾左右一以求上譽也。封二之萬家一。召二阿大夫一語曰。自二子之守一レ阿。譽言日聞。然使二使視一レ阿。田野不レ闢。民貧苦。昔日趙攻レ甄。子弗レ能レ救。衛取二薛陵一。子弗レ知。是子以下幣厚二吾左右一以求上譽也。是日。烹二阿大夫一。及左右嘗譽者皆幷烹レ之。遂起レ兵西擊二趙衞一。敗二魏於濁澤一。而圍二惠王一。惠王請獻レ觀以和解。趙人歸二我長城一。於レ是齊國震懼。人人不二敢飾一レ非。務盡二其誠一。齊國大治。諸侯聞レ之。莫三敢致二兵於齊一二十餘年。

(一) 山西大同府靈丘縣 (二) 山東泰安縣東南方 (三) 山東兗州府陽穀縣 (四) 同府滕縣 (五) 山東曹州の附近なり 甄は鄄に通ず (六) 山東萊州卽墨縣 (七) 非毀の惡言 (八) 滯留せる事件 (九) 左右近侍の臣に諂諛す (一〇) 萬家の邑 (一一) 山東泰安府東阿縣 (一二) 賄賂の金帛 (一三) 山西澤州の屬邑 (一四) 齊の北境なる要塞

騶忌子以レ鼓レ琴見二威王一。威王說而舍二之右室一。須臾王鼓レ琴。騶忌子推レ戶入曰。善哉鼓レ琴。王勃然不レ說。去レ琴按レ劍曰。夫子見レ容未レ察。何

騶忌子は琴を鼓くを以て威王に見ゆ、威王說びて之を右室に舍せしむ。須臾にして王琴を鼓く。騶忌子戶を推して入りて曰く、善い哉琴を鼓くことと。王は勃然(一)として說ばず。琴を去て劍を按じて曰く、夫子(二)は容を見て未だ察せず、何を以てか其善を知ると。騶忌子曰く、夫れ大弦の濁つて以て(三)春溫なる者は君なり、小弦の廉折(四)にして以て淸き者は相なり。之を攫む(五)こと深く、之を醳くこと愉かなる者は政令なり、鉤しく(六)諧ひ以て鳴り、大小相益し、回邪(七)にして相害せざる者は四

我入陽關。晉伐我至博陵。七年。衞伐我取薛陵。九年。趙伐我取甄。威王初卽位以來不治。委政卿大夫。九年之間。諸侯並伐。國人不治。於是威王召卽墨大夫而語之曰。自子之居卽墨也。毀言日至。然吾使人視卽墨。田野闢。民人給。官無留事。東方以寧。是子不事

國人治まらず。是に於て威王は卽墨の大夫を召して之に語げて曰く、子が卽墨に居りしより、毀言日に至れり。然れども吾は人をして卽墨を視しむるに、田野闢け民人給り、官に留事無く、東方以て寧し。是れ子は吾左右に事へて以て譽を求めざるなりと。之を萬家に封ず。阿の大夫を召して語げて曰く、子が阿を守りしより、譽言日に聞ゆ。然れども使をして阿を視しむるに、田野闢けず民貧苦す。昔日は趙が甄を攻めしに、子は救ふ能はず、衞が薛陵を取りしに、子知らず。是れ子は幣を吾が左右に厚うして以て譽を求むるを以てなりと。是日阿の大夫を烹る。及び左右の嘗て譽めし者も、皆幷せて之を烹る。遂に兵を起して、西して趙・衞を擊ち、魏を濁澤に敗りて惠王を圍む。惠王は請うて觀を獻じて以て和解す。趙人は我に長城を歸す。是に於て齊國震懼し、人人敢て非を飾らず、務めて其誠を盡し、齊國大いに治る。諸侯之を聞き、敢て兵を齊に致す莫きこと、二十餘年なり。

則韓且三折而入二於魏一。不レ若レ救レ之。田臣思曰。過矣。君之謀也。秦魏攻レ韓、楚趙必救レ之。是天以レ燕予レ齊也。桓公曰。善。乃陰告二韓使者一而遣レ之。韓自以爲レ得二齊之救一。因與二秦魏一戰。楚趙聞レ之。果起レ兵而救レ之。齊因起レ兵。襲二燕國一取二桑丘一。六年。救レ衞。桓公卒。子威王因齊立。是歲。故齊康公卒。絶無レ後。奉邑皆入二田氏一。

と。秦魏韓を攻む、楚趙必ず之を救はん、是れ天が燕を以て齊に予ふるなりと。桓公曰く、善しと。乃ち陰に韓の使者に告げて之を遣る。韓自ら以爲らく、齊の救を得んと。因りて秦・魏と戰ふ。楚・趙之を聞き、果して兵を起して之を救ふ。齊因りて兵を起し、燕國を襲うて桑丘を取る。六年に衞を救ふ。桓公卒し、子威王因齊立つ。是歲、故の齊の康公卒し、絶えて後無し。奉邑皆田氏に入る。

(一) 田忌なり、戰國策には田期思に作る　(二) 直隸易州

齊威王元年。三晉因二齊喪一。來伐二我靈丘一。三年。三晉滅二晉後一而分二其地一。六年。魯伐レ

齊の威王の元年、三晉は齊の喪に因り、來りて我が靈丘を伐つ。三年、三晉は晉の後を滅して其地を分つ。六年に、魯は我を伐つて陽關に入る。晉は我を伐つて博陵に至る。七年、衞は我を伐つて薛陵を取る。九年、趙は我を伐つて甄を取る。威王初め位に卽いて以來治めず、政を卿大夫に委す。九年の間、諸侯竝び伐ちて

會自庚丘反。宣公卒。子康公貸立。貸立十四年。淫於酒婦人不聽政。太公乃遷康公於海上。食一城以奉其先祀。明年。魯敗齊平陸。

と爲るを求む。魏の文侯乃ち使をして周の天子及び諸侯に言はしめて、齊の相田和を立てて諸侯と爲さんと請ふ。周の天子之を許す。康公の十九年、田和立ちて齊侯と爲り、周室に列して元年を紀す。(七)齊侯太公和立ち、二年に和卒し、子桓公午立つ。桓公午の五年、秦と魏と韓を攻む、韓は救を齊に求む。

㈠ 山東泰安府東平州　㈡ 山東曹州府荷澤縣　㈢ 山東曹州府范縣　㈣ 海邊の僻地　㈤ 山東兗州府汶上縣　㈥ 山西澤州　㈦ 條理を立てて一定する道

三年。太公與魏文侯會濁澤求爲諸侯。魏文侯乃使使言周天子及諸侯請立齊相田和爲諸侯。周天子許之。康公之十九年田和立爲齊侯列於周室紀元年。齊侯太公和立。二年和卒。子桓公午立。桓公午五年。秦魏攻韓。韓求救於齊。

齊桓公召大臣而謀曰。蚤救之孰與晩救之。騶忌曰。不若勿救。段干朋曰。不救

齊の桓公、大臣を召して謀りて曰く、蚤く之を救ふと、晩く之を救ふと孰與ぞやと。騶忌曰く、救ふ勿きに若かずと。段干朋曰く、救はずんば則ち韓は且に折れて魏に入らんとす、之を救ふに若かずと。田臣思は曰く、過てるかな君の謀るこ

百數。而使賓客舍人出入後宮者不禁。及田常卒。有七十餘男。田常卒。子襄子盤代立相齊。常謚爲成子。田襄子既相齊宣公。三晉殺知伯。分其地。襄子使其兄弟宗人。盡爲齊都邑大夫。與三晉通使。且以有齊國。襄子卒。子莊子白立。田莊子相齊宣公。宣公四十三年。伐晉毀黃城。圍陽狐。明年。伐魯葛及安陵。明年。取魯之一城。莊子卒。子太公和立。

つ。

(一) 德を行ひ惡を施すこと　(二) 山東青州府臨淄縣　(三) 同諸城縣　(四) 領地　(五) 奥向の姬妾　(六) 田氏の賓客及び事務の官吏　(七) 韓魏趙の三家　(八) 直隸大名府元城郡　(九) 黃城附近の地　(一〇) 河南許州長葛郡　(一一) 河南開封府

田太公相齊宣公。宣公四十八年。取魯之郕。明年。宣公與鄭人會西城。伐衞取毋丘。宣公五十一年卒。田

田太公は齊の宣公に相たり。宣公の四十八年、魯の郕(一)を取る。明年、宣公と鄭人と西城に會し、衞を伐つて毋丘(二)を取る。宣公は五十一年に卒す。田會は廩丘(三)に自りて反す。宣公卒し、子康公貸立つ。貸立つの十四年、酒と婦人とに淫して、政を聽かず。太公乃ち康公を海上(四)に遷し、一城を食んで、以て其先祀を奉ぜしむ。明年魯は齊の平陸(五)を敗る。三年、太公は魏の文侯と濁澤(六)に會して、諸侯

田常言二於齊平公一曰。德施人之所レ欲。君其行レ之。刑罰人之所レ惡。臣請行レ之。行レ之五年。齊國之政皆歸二田常一。田常於レ是盡誅二鮑・晏・監止及公族之彊者一。而割レ齊。自二安平一以東至二琅邪一。自爲二封邑一。封邑大二於平公之所一レ食。田常乃選二齊國中女子長七尺以上一爲二後宮一。後宮以レ

田常は齊の平公に言つて曰く、德施は人の欲する所なり、君其れ之を行へ、刑罰は人の惡む所たり、臣請ふ之を行はんと。之を行ふこと五年、齊國の政は皆田常に歸す。田常は是に於て盡く鮑・晏・監止及び公族の彊き者を誅して、齊を割き、(二)安平より以東(三)琅邪に至るまで、自ら(四)封邑と爲す。封邑は平公の食む所よりも大なり。田常乃ち齊國中の女子、長七尺以上を選んで(五)後宮と爲すに、後宮百を以て數ふ。而して(六)賓客舍人の後宮に出入する者をして禁ぜざらしむ。田常卒するに及びて、七十餘男有りき。田常卒す、子襄子盤代り立ちて齊に相たり。常は諡して成子と爲る。田襄子既に齊の宣公に相たるとき、(七)三晉は知伯を殺して其地を分つ。襄子は其兄弟宗人をして、盡く齊の都邑の大夫爲らしめ、三晉と使を通じ、且に以て齊國を有たんとす。襄子卒し、子莊子白立つ。田莊子は齊の宣公に相たり。宣公の四十三年、晉を伐つて(八)黃城を毀り(九)陽狐を圍む。明年、魯の(一〇)葛及び(一一)安陵を伐つ。明年魯の一城を取る。莊子卒して、子太公和立

鑿一。將レ欲レ擊二田常一。大史子餘曰。田常非レ敢爲レ亂。將レ除レ害。簡公乃止。田常出。聞二簡公怒一。恐レ誅將レ出亡。田子行曰。需事之賊也。田常於レ是擊二子我一。子我率二其徒一攻二田氏一。不レ勝出亡。田氏之徒追殺二子我及監止一。簡公出奔。田氏之徒。追執二簡公于徐州一。簡公曰。蚤從二御鞅之言一。不レ及二此難一。田氏之徒。恐二簡公復立而誅一レ己。遂弒二簡公一。簡公立四年而殺。於レ是田常立二簡公弟驁一。是爲二平公一。平公卽レ位。田常爲レ相。田常既殺二簡公一。懼二諸侯共誅一レ己。乃盡歸二魯衞侵地一。西約二晉韓魏趙氏一。南通二吳越之使一。修レ功行レ賞。親二於百姓一。以レ故齊復定。

て田氏を攻め、勝たずして出亡す。田氏の徒追うて子我及び監止を殺す。簡公出奔す。田氏の徒は、追うて簡公を徐州(三)に執ふ。簡公曰く、蚤く御の鞅が言に從はば、此難に及ばじと。田氏の徒は、簡公の復立ちて己を誅せんことを恐れて、遂に簡公を弑す。簡公は立つこと四年にして殺されき。是に於て田常は簡公の弟驁を立つ、是を平公と爲す。平公位に卽き、田常相と爲る。田常既に簡公を殺し、諸侯の共に己を誅せんことを懼れ、乃ち盡く魯・衞の侵地(四)を歸し、西は晉・韓・魏・趙氏に約し、南は吳・越の使を通じ、功を修め賞を行ひ、百姓に親む。故を以て齊復定まりぬ。

(一) 齊の公宮内の臺名 (二) 疑惑は事業の害をなす (三) 齊の北境なり、今の順天府大城縣 (四) 齊が侵略せし土地

於簡公。權弗レ能レ去。於レ是田常復修二釐子之政一。以二大斗一出貸。以二小斗一收。齊人歌レ之曰。嫗乎采レ芑。歸二乎田成子一。齊大夫朝。御鞅諫二簡公一曰。田監不レ可レ並也。君其擇焉。君弗レ聽。子我者監止之宗人也。常與二田氏一有レ郤。田氏疏族田豹。事二子我一有レ寵。子我曰。吾欲下盡滅二田氏適一。以レ豹代中田氏宗上。豹曰。臣於二田氏一疏矣。不レ聽。

なりと。聽かず。

㈠晏孺子なり ㈡隙間なり、仲惡しき事 ㈢嫌惡して、障害物とす ㈣老女の芑菜(チサ)を摘む者皆歸りて田氏に入ると ㈤簡公の御者 ㈥宗家の人 ㈦遠緣の一族 ㈧嫡子なり宗家の義

已而豹謂二田氏一曰。子我將レ誅二田氏一。田氏弗レ先禍及矣。子我舍二公宮一。田常兄弟四人。乘如二公宮一。欲レ殺二子我一。子我閉レ門。簡公與二婦人一飲二檀

已にして豹は田氏に謂つて曰く、子我は將に田氏を誅せんとす、田氏先んぜずんば、禍及ばんと。子我公宮に舍る。田常兄弟四人、乘りて公宮に如き、子我を殺さんと欲す。子我門を閉づ。簡公は婦人と檀臺に飲み、將に田常を擊たんと欲せんとす。太史子餘曰く、田常は敢て亂を爲すに非ず、將に害を除かんとするなりと。簡公乃ち止む。田常出づ、簡公が怒ると聞き、誅を恐れて將に出で亡げんとす。田子行曰く、需は事の賊なりと。田常是に於て子我を擊つ。子我は其徒を率る

大夫忘二景公之命一乎。諸大夫欲レ悔。陽生乃頓首曰。可則立レ之。不可則已。鮑牧恐二禍及一已。乃復曰。皆景公之子。何為不可。遂立二陽生於田乞之家一。是為二悼公一。

乃使三人遷二晏孺子於駘一。而殺二孺子荼一。悼公既立。田乞為レ相專二齊政一。四年。田乞卒。子常代立。是為二田成子一。鮑牧與二齊悼公一有レ郤。弑二悼公一。齊人共立二其子壬一。是為二簡公一。田常成子與二監止一俱為二左右相一。相二簡公一。田常心害二監止一。監止幸二

乃ち人をして晏孺子を駘に遷さしめて、孺子荼を殺す。悼公既に立つや、田乞は相と為りて、齊の政を專にす。四年田乞卒し(一)、子常代り立つ、是を田成子と為す。鮑牧と齊の悼公と郤有り(二)、悼公を弑す。齊人共に其子壬を立つ、是を簡公と為す。田常成子は、監止と俱に左右の相と為り、簡公を相く。田常は心に監止を害とす(三)。監止は簡公に幸せられ、權去ること能はず。是に於て田常は復贅子の政を修め、大斗を以て出し貸し、小斗を以て收む。齊人之を歌つて曰く、嫗乎芑(四)を采る、田成子に歸すと。齊の大夫朝す、御(五)の鞅は簡公を諫めて曰く、田監は竝ぶべからず、君其れ擇べと。君聽かず。子我といふ者は監止の宗人(六)なり。常て田氏と郤有り。田氏の疏族(七)田豹は、子我に事へて寵有り。子我曰く、吾は盡く田氏の適(八)を滅し、豹を以て田氏の宗に代へんと欲すと。豹曰く、臣は田氏に於て疏

可レ畏也。及レ未レ發先レ之。諸大夫從レ之。田乞鮑牧與二大夫一。以レ兵入二公室一。攻二高昭子一。昭子聞レ之。與二國惠子一救レ公。公師敗。田乞之衆追二國惠子一。惠子奔レ莒。遂反殺二高昭子一。晏孺子奔レ魯。田乞使三人之レ魯迎二陽生一。陽生至レ齊。匿二田乞家一。請二諸大夫一曰。常之母。有二魚菽之祭一。幸而來會飲。會二飲田氏一。田乞盛二陽生橐中一。置二坐中央一。發レ橐出二陽生一曰。此乃齊君矣。大夫皆伏謁。將レ盟立レ之。田乞誣曰。吾與二鮑牧一謀二共立二陽生一也。鮑牧怒曰

孺子は魯に奔る。田乞は人をして魯に之いて陽生を迎へしむ。陽生齊に至り、田乞の家に匿る。諸大夫に請うて曰く、常の母に魚菽(五)の祭有り、幸に來りて會飲せよと。田氏に會飲す。田乞は陽生を橐中(六)に盛り、坐の中央に置き、橐を發いて陽生を出して曰く、此れ乃ち齊君なりと。大夫皆伏謁し、將に盟つて之を立てんとす。田乞誣ひて曰く、吾鮑牧と共に陽生を立つるを謀りきと。鮑牧怒つて曰く、大夫は景公の命を忘れたるかと。諸大夫悔いんと欲す。陽生乃ち頓首して曰く、可ならば則ち之を立てよ、不可ならば則ち已めよと。鮑牧は禍の己に及ぶを恐れ、乃ち復(七)して曰く、皆景公の子なり、何爲れぞ不可ならんと。遂に陽生を田乞の家に立つ、是を悼公と爲す。

(一) 服事する者　(二) 陪乘者の代理となる　(三) 敗なり　(四) 山東莒州　(五) 魚と豆とにて祭る祭事　(六) 皮嚢
(七) 再言するなり

子と爲す。而も田乞は說ばず、景公佗の子陽生を立てんと欲す。陽生素より乞と歡ぶ。晏孺子の立つや、陽生は魯に奔る。

㈠小さき量器　㈡宗家と一族と

氏矣。晏嬰卒。後范中行氏反晉。晉攻之急。范中行請粟於齊。田乞欲爲亂樹黨於諸侯。乃說景公曰。范中行數有德於齊。齊不可不救。齊使田乞救之。而輸之粟。景公太子死。後有寵姬曰芮子。生子荼。景公病。命其相國惠子與高昭子。以子荼爲太子。景公卒。兩相高國立荼。是爲晏孺子。而田乞不說。欲立景公佗子陽生。陽生素與乞歡。晏孺子之立也。陽生奔魯。

田乞僞事高昭子國惠子者。毎朝代參乘。言曰。始諸大夫不欲立孺子。孺子既立。君相之。大夫皆自危。謀作亂。又紿大夫曰。高昭子

田乞は高昭子國惠子に事ふる者と僞り㈠、朝する毎に代り參乘し㈡、言つて曰く、始め諸大夫は孺子を立つるを欲せず。孺子既に立つや、君之に相たり。大夫は皆自ら危ぶみて亂を作すを謀ると。又大夫を紿いて㈢曰く、高昭子は畏るべし、未だ發せざるに及んで之に先んぜんと。諸大夫之に從ふ。田乞と鮑牧とは、大夫と兵を以て公室に入り、高昭子を攻む。昭子之を聞き、國惠子と公を救ふ。公の師敗る。田乞の衆は國惠子を追ふ。惠子は莒に奔る㈣。遂に反つて高昭子を殺す。晏

稱孟夷。敬仲之如齊。以陳氏爲田氏。田稱孟夷生滑孟莊。田滑孟莊生文子須無。田文子事齊莊公。晉之大夫欒逞作亂於晉。來奔齊。齊莊公厚客之。晏嬰與田文子諫。莊公弗聽。文子卒。生桓子無宇。田桓子無宇有力。事齊莊公甚有寵。無宇卒。生武子開與釐子乞。

田釐子乞事齊景公爲大夫。其收賦稅於民。以小斗受之。其粟予民以大斗。行陰德於民。而景公弗禁。由此田氏得齊衆心。宗族益彊。民思田氏。晏子數諫景公。景公弗聽。已而使於晉。與叔向私語曰。齊國之政。其卒歸於田

田釐子乞は、齊の景公に事へて大夫と爲る。其の賦稅を民より收むるや、小斗を以て之を受け、其粟を民に予ふるや、大斗を以てし、陰德を民に行ふ。而も景公禁ぜず、此に由りて田氏は齊の衆心を得て、宗族益〻彊し、民田氏を思ふ。晏子數〻景公を諫むれども、景公聽かず。已にして晉に使し、叔向と私語して曰く、齊國の政は其れ卒に田氏に歸せんと。晏嬰卒せし後、范・中行氏晉に反くや、晉之を攻むること急なり。范・中行は粟を齊に請ふ。田乞は亂を爲して黨を諸侯に樹てんと欲し、乃ち景公に說いて曰く、范・中行は數〻齊に德有りき、齊救はざるべからずと。齊は田乞をして之を救はしめて、之に粟を輸す。景公は太子死して、後に寵姬有り、芮子と曰ふ。子荼を生む。景公病み、其相國惠子と高昭子とに命じ、子荼を以て太子と爲す。景公卒するや、兩相高國は荼を立つ、是を晏孺

齊桓公欲レ使レ爲レ卿。辭曰。羈旅之臣。幸得レ免ニ負擔一。君之惠也。不三敢當ニ高位一。桓公使レ爲ニ工正一。齊懿仲欲レ妻レ完。卜レ之。占曰。是謂ニ鳳皇于蜚。和鳴鏘鏘一。有嬀之後。將レ育ニ于姜一。五世其昌。並ニ于正卿一。八世之後。莫ニ之與一京。卒妻レ完。完之奔レ齊。齊桓公立十四年矣。完卒。謚爲ニ敬仲一。仲生ニ

齊の桓公は卿爲らしめんと欲す。辭して曰く、羈旅の臣、(一)幸に負擔を免るゝを(二)得たるは、君の惠なり、敢て高位に當らずと。桓公工正爲らしむ。(三)齊の懿仲は完に妻さんと欲し、之を卜す。占に(四)曰く、是を鳳皇于に蜚ぶ、和鳴鏘鏘たりと謂ふ。有嬀(五)の後、將に姜に育はれんとす。五世にして其れ昌え、正卿に並ばん。八世の後は、之と與に京い(六)にするもの莫からんと。卒に完に妻す。完の齊に奔るや、齊の桓公立ちて十四年なり。完卒す、謚して敬仲と爲す。仲は穉孟夷を生む。敬仲の齊に如くや、陳氏を以て田氏と爲せり。田穉孟夷は、湣孟莊を生み、田湣孟莊は文子須無を生む。田文子は齊の莊公に事ふ。晉の大夫欒逞(七)は亂を晉に作して、齊に來奔す。齊の莊公は厚く之を客とす。晏嬰は田文子と諫む、莊公聽かず。文子卒し、桓子無宇を生む。田桓子無宇は力有り、齊の莊公に事へて甚だ寵有り。無宇卒し、武子開と釐子乞とを生む。

(一) 流寓の臣　(二) 荷物を負擔する勞役　(三) 工藝の長官　(四) 占兆の判斷　(五) 帝舜の姓は嬀なり、有は大の義　(六) 大なり、競爭する者莫しとの義なり　(七) 盈に通ず

後。物莫二能兩大一。陳衰此其昌乎。厲公者。陳文公少子也。其母蔡女。文公卒。厲公兄鮑立。是爲二桓公一。桓公與レ佗異レ母。及二桓公病一。蔡人爲レ佗殺二桓公鮑及太子免一。而立レ佗爲二厲公一。厲公既立娶二蔡女一。蔡女淫二於蔡人一數歸。厲公亦數如レ蔡。桓公之少子林。怨三厲公殺二其父與一レ兄。乃令下蔡人誘二厲公一而殺中之。林自立。是爲二莊公一。故陳完不レ得レ立。爲二陳大夫一。厲公之殺、以レ淫出レ國。故春秋曰。蔡人殺二陳佗一。罪レ之也。莊公卒。立二弟杵臼一。是爲二宣公一。宣公十一年。殺二其太子禦寇一。禦寇與レ完相愛、恐二禍及一レ己。完故奔レ齊。

蔡に如く。桓公の少子林は、厲公が其父と兄とを殺せるを怨み、乃ち蔡人をして厲公を誘うて之を殺さしめ、林は自立す、是を莊公と爲す。故に陳完は立つを得ず、陳の大夫と爲りぬ。厲公の殺(七)は、淫を以て國を出でたればなり。故に春秋に曰く、蔡人陳佗(八)を殺すとは、之を罪するなり。莊公卒し、弟杵臼を立つ、是を宣公と爲す。宣公の十一年、其太子禦寇を殺す。禦寇は完と相愛せり、禍の己に及ばんことを恐れて、完は故に齊に奔れり。

(一) 天文卜筮の事を司る官名 (二) 風が觀より天地否に之く (三) 他國の文光を觀るに王より大賓として禮遇せらるとの義 (四) 暗に齊を指す (五) 唐虞時代の地方官 (六) 陳世家參照 (七) 殺されしを指す (八) 之を賤んで名いへるなり

巻四十六

田敬仲完世家第十六

陳完者。陳厲公佗之子也。完生。周太史過レ陳。陳厲公使レト レ完。卦得二觀之レ否。是爲下觀二國之光一。利用レ賓二于王一。此其代レ陳有レ國乎。不レ在レ此而在二異國一乎。非二此其身一也。在二其子孫一。若在二異國一必姜姓。姜姓四嶽之

陳完といふ者は、陳の厲公佗の子なり。完生るゝや、周の太史(二)陳に過るに、陳の厲公完をトせしむ。卦は觀(一)の否に之くを得たり。是を(三)國の光を觀るに、王に賓たるを用ふるに利ありと爲す。此れ其れ陳に代りて國を有たんか。此に在らずして異國に在らんか。此れ其身に非ずして、其子孫に在らん。若し異國に在らば必ず姜姓(四)ならん。姜姓は四嶽(五)の後なり、物は能く兩つながら大なるもの莫し、陳衰へば此れ其れ昌えんかと。厲公は陳の文公の少子なり、其母は蔡の女なり。文公卒し、厲公の兄鮑立つ、是を桓公と爲す。桓公は佗と母を異にす。桓公病むに及び、蔡人(六)は佗の爲に桓公鮑及び太子免を殺して、佗を立てて厲公と爲す。厲公既に立ち、蔡の女を娶る。蔡の女は蔡人に淫して數〻歸る、厲公も亦數〻

太史公曰。韓厥之感二晉景公一。紹二趙孤之子武一。以成二程嬰公孫杵臼之義一。此天下之陰德也。韓氏之功。於レ晉未レ視二其大者一也。然與二趙魏一終爲二諸侯一十餘世。宜乎哉。

太史公曰く、韓厥の晉の景公を感ぜしめて、趙孤の子武を紹がしめ、以て程嬰公孫杵臼の義を成せるは、此れ天下の陰德なり。(一)韓氏の功は晉に於て未だ其大なる者を視ざるも、然も趙・魏と與に終に諸侯と爲ること十餘世なりしは、宜なるかな。

(一) 天下稀有の大陰德

桓惠王元年。伐ㇾ燕。九年。秦拔二我陘城汾旁一。十年。秦擊二我於太行一。我上黨郡守。以二上黨郡一降ㇾ趙。十四年。秦拔二趙上黨一。殺二馬服子卒四十餘萬於長平一。十七年。秦拔二我陽城負黍一。二十二年。秦昭王卒。二十四年。秦拔二我城皐滎陽一。二十六年。秦悉拔二我上黨一。二十九年。秦拔二我十三城一。三十四年。桓惠王卒。子王安立。王安五年。秦攻ㇾ韓。韓急。使二韓非使一ㇾ秦。秦留ㇾ非因殺ㇾ之。九年。秦虜二王安一。盡入二其地一。爲二潁川郡一。韓遂亡。

桓惠王の元年燕を伐つ、九年秦は我が陘城(一)を汾(二)の旁に拔く。十年、秦は我を太行(三)に擊つ。我が上黨の郡守は、上黨の郡を以て趙に降る。十四年、秦は趙の上黨(四)を拔き、馬服子(五)の卒四十餘萬を長平(六)に殺す。十七年、秦は我が陽城(七)・負黍を拔く。二十二年秦の昭王卒す。二十四年、秦は我が城皐(八)と滎陽(九)とを拔く。二十六年、秦は悉く我が上黨を拔く。二十九年、秦は我が十三城を拔く。三十四年桓惠王卒し、子王安立つ。王安の五年、秦は韓を攻む。韓急なり。韓非をして秦に使せしむ。秦は非を留めて因りて之を殺す。九年、秦は王安を虜にして盡く其地を入れ、潁川郡と爲す。韓遂に亡ぶ。

(一)山西平陽府曲沃縣　(二)水名　(三)上黨の名山　(四)上黨郡は當時三晉の分有地たりき　(五)趙の馬服君趙奢の子趙括を略せるなり　(六)山西澤州府高平縣　(七)河南登封縣　(八)河南開封府汜水縣　(九)河南滎陽縣

二年。與秦昭王會西周而佐秦攻齊。齊敗。湣王出亡。十四年。與秦會兩周閒。二十一年。使暴鳶救魏。爲秦所敗。鳶走開封。二十三年。趙魏攻我華陽。韓告急於秦。秦不救。韓相國謂陳筮曰。事急。願公雖病。爲一宿之行。陳筮見穰侯。穰侯曰。事急乎。故使公來。陳筮曰。未急也。穰侯怒曰。是可以爲公之主使乎。夫冠蓋相望。告敝邑甚急。公來言未急何也。陳筮曰。彼韓急則將變而佗從。以未急故復來耳。穰侯曰。公無見王。請令發兵救韓。八日而至。敗趙魏於華陽之下。是歲。釐王卒。子桓惠王立。

り、願くは公病めりと雖も、一宿の行を爲せと。陳筮は(七)穰侯に見ゆ。穰侯曰く、事急なるか、故に公をして來らしむと。陳筮曰く、未だ急ならざるなりと。穰侯怒つて曰く、是れ以て(八)公の主使と爲すべきか。夫れ冠蓋相望み、敝邑に告ぐること甚だ急なり。公來りて未だ急ならずと言ふは何ぞやと。陳筮曰く、彼の韓急なれば、則ち將に變じて佗に從はんとす。未だ急ならざるの故を以て復來るのみと。穰侯曰く、公は王に見ゆること無れ、請ふ兵を發して韓を救はしめんと。八日にして至り、趙魏を華陽の下に敗る。是歲釐王卒し、子桓惠王立つ。

(一) 河南洛陽縣南方 (二) 河南滎陽縣 (三) 河南南陽縣 (四) 韓將の名なり鳶は蔦に同じ (五) 河南開封府 (六) 同開封府の鄭州 (七) 秦の首相 (八) 君の使命と云ふに同じ

韓一。則公叔伯嬰知下秦楚之不中以二蟣虱一爲上事。必以レ韓合二於秦楚一。秦楚挾レ韓以窘レ魏。魏氏不レ敢合二於齊一。是齊孤也。公又爲レ秦求二質子於楚一。楚不レ聽。怨結二於韓一。韓挾二魏齊一以圍レ楚。楚必重レ公。公挾二秦楚之重一。以積二德於韓一。公叔伯嬰必以レ國待レ公。於レ是蟣虱竟不レ得レ歸レ韓。韓立レ咎爲二太子一。齊魏王來。十四年。與二齊魏王一共擊レ秦。至二函谷一而軍焉。十六年。秦與二我河外及武遂一。襄王卒。太子咎立。是爲二釐王一。

秦は我に河外及び武遂を與ふ。襄王卒し、太子咎立つ、是を釐王と爲す。

(一)一任し委托す (二)齊楚に結んで儀を排するも猶秦の懸信を失はざらん (三)助力の事 (四)函谷關なり河南陝州に屬す

釐王三年。使下公孫喜率二周魏一攻上レ秦。秦敗二我二十四萬一。虜二喜伊闕一。五年。秦拔二我宛一。六年。與二秦武遂地二百里一。十年。秦敗二我師于夏山一。十

釐王の三年、公孫喜をして周・魏を率ゐて秦を攻めしむ。秦は我が二十四萬を敗り、喜を伊闕(一)に虜にす。五年秦は我が宛(二)を拔く。六年秦に武遂の地二百里を與ふ。十年秦我が師を夏山に敗る。十二年、秦の昭王と西周に會して秦を佐けて齊を攻む。齊敗る、湣王出亡(三)す。十四年、秦と兩周の間に會す。二十一年、暴鳶(四)をして魏を救はしめ、秦の敗る所と爲る。鳶は開封(五)に走る。二十三年、趙魏は我が華陽(六)を攻む。韓急を秦に告ぐるも、秦は救はず。韓の相國は陳筮に謂つて曰く、事急な

公仲恐曰。然則奈何。曰。公必先ㇾ韓而後ㇾ秦。先ㇾ身而後ニ張儀一。公不ㇾ如三亟以ㇾ國合ニ於齊楚一。齊楚必委ニ國於公一。公之所ㇾ惡者張儀也。其實猶不ㇾ無ㇾ秦也。於ㇾ是楚解ニ雍氏圍一。蘇代又謂ニ秦太后弟芊戎一曰。公叔伯嬰恐三秦楚之內ニ蟣虱一也。公何不三爲ㇾ韓求ニ質於楚一。楚王聽入ニ質子於

公仲恐れて曰く、然らば則ち奈何と。曰く、公必ず韓を先にし秦を後にし、身を先にして張儀を後にせよ。公は亟に國を以て齊楚に合するに如かず、齊楚は必ず國を公に委せん(一)。公の惡む所の者は張儀なり、其實(二)は猶秦を無にせずと。是に於て楚は雍氏の圍を解きぬ。蘇代又秦の太后の弟芊戎に謂つて曰く、公叔伯嬰は、秦楚の蟣虱を內るゝを恐る。公何ぞ韓の爲に質を楚に求めざる。楚王聽いて質子を韓に入れば、則ち公叔伯嬰は秦楚の蟣虱を以て事と爲さざるを知りて、必ず韓を以て秦楚に合せん。秦楚は韓を挾んで以て魏を窘め(三)、魏氏は敢て齊に合せざらん。是れ齊は孤なるなり。公又秦の爲に質子を楚に求めよ。楚聽かずんば、怨は韓に結ばれん。韓は齊魏を挾みて以て楚を圍まんに、楚は必ず公を重んぜん。公は秦楚の重を挾んで、以て德を韓に積む、公叔伯嬰は必ず國を以て公を待たんと。是に於て蟣虱は竟に韓に歸るを得ず。韓は咎を立てて太子と爲す。齊と魏の王來る。十四年、齊魏の王と共に秦を擊ち、(四)函谷に至りて軍す。十六年、

於秦。秦未爲發。使公孫昧入韓。公仲曰。子以秦爲且救韓乎。對曰。秦王之言曰。請道南鄭。藍田。出兵於楚以待公。殆不合矣。公仲曰。子以爲果乎。對曰。秦王必祖張儀之故智。楚威王攻梁也。張儀謂秦王曰。與楚攻魏。魏折而入於楚。韓固其與國也。是孤秦也。不如出兵以到之。魏楚大戰。秦取西河之外以歸。今其狀陽言與韓。其實陰善楚。公待秦而到。必輕與楚戰。楚陰得秦之不用也。必易與公相支也。公戰而勝楚。遂與公乘楚。施三川而歸。公戰不勝楚。楚塞三川守之。公不能救也。竊爲公患之。司馬庚三反於郢。甘茂與昭魚遇於商於。其言收璽。實類有約也。

れば、必ず輕しく楚と戰はん。楚は陰に秦の用たらざるを得ば(九)、必ず公と相支ふるに易からん。公戰つて楚に勝たば、遂に公と楚に乘じ(一〇)、三川(一一)に施して歸らん。公戰つて楚に勝たずんば、楚は三川を塞いで之を守らんに、公は救ふ能はざらん。竊に公の爲に之を患ふ。司馬庚(一二)は三たび郢より反り、甘茂は昭魚と商於に遇へり。其の璽(一三)を收むと言ふは、實に約有るに類すと。

(一) 河南許州西南の山名 (二) 河南開封府禹州 (三) 楚と韓との兩地中に於て君を封ぜん (四) 陝西漢中府南鄭縣 (五) 陝西西安府藍田縣 (六) 雍氏の軍に合はじ (七) 果して其言の如くなるべきか (八) 欺き詐る (九) 秦が公の用を爲さざるを知る (一〇) 秦と共にするなり (一一) 河南汝寧府、韓の要地なり (一二) 秦臣の名、三回楚都に往復せり (一三) 楚の昭魚が功勞の賞たる印章を受けんと謂ひしは實は秦と密約あるに似たり

爲太子時、蟣蝨質於楚。蘇代謂韓咎曰。蟣蝨亡在楚。楚王欲內之甚。今楚兵十餘萬。在方城之外。公何不令楚王築萬室之都雍氏之旁。韓必起兵以救之。公必將矣。公因以韓楚之兵。奉蟣蝨而內之。其聽公必矣。必以楚韓封公也。韓咎從其計。楚圍雍氏。韓求救

甚し。今楚兵十餘萬は方城（一）の外に在り、公何ぞ楚王をして萬室の都を雍氏（二）の旁に築かしめざる。韓必ず兵を起して以て之を救はん、公必ず將たらん。公因りて韓楚の兵を以て蟣蝨を奉じて之を內れよ。其の公に聽かんこと必せり。必ず楚（三）韓を以て公を封ぜんと。韓咎其計に從ふ。楚は雍氏を圍む、韓は救を秦に求む。秦未だ爲に發せず。公孫昧をして韓に入らしむるに、公仲曰く、子は秦を以て且に韓を救はんとすると爲すかと。對へて曰く、秦王の言に曰く、請ふ南鄭（四）・藍田（五）に道し、兵を楚に出して以て公を待たんと。殆んど合はじ（六）と。公仲曰く、子以て果さん（七）と爲ふかと。對へて曰く、秦王は必ず張儀の故智を祖とせん。楚の威王の梁を攻むるや、張儀は秦王に謂つて曰く、楚と魏を攻めば、魏折れて楚に入らん。韓は固より其與國なり。是れ秦を孤にするなり。兵を出して以て之に到く（八）に如かずと。魏は楚と大いに戰ひ、秦は西河の外を取りて以て歸れり。今は其狀陽に韓に與みすと言ふも、其實は陰に楚に善きなり。公は秦を待つて到か

也。且王已使人報於秦矣。今不行是欺秦也。夫輕欺彊秦。而信楚之謀。臣恐王必悔之。韓王不聽。遂絶於秦。秦因大怒。益甲伐韓大戰。楚救不至。韓十九年。大破我岸門。太子倉質於秦以和。二十一年。與秦共攻楚。敗楚將屈丐。斬首八萬於丹陽。是歳宣惠王卒。太子倉立。是爲襄王。襄王四年。與秦武王會臨晉。其秋。秦使甘茂攻我宜陽。五年。秦拔我宜陽。斬首六萬。秦武王卒。六年。秦復與我武遂。九年。秦復取我武遂。十年。太子嬰朝秦而歸。十一年。秦伐我取穰。與秦伐楚。敗楚將唐昧。

に斬る。是歳宣惠王卒し、太子倉立つ、是を襄王と爲す。襄王の四年、秦の武王と臨晉(五)に會す。其秋、秦は甘茂をして我が宜陽(六)を攻めしむ。五年、秦は我が宜陽を拔き、首を斬ること六萬なり。秦の武王卒す。六年、秦復我に武遂(七)を與ふ。九年、秦復我が武遂を取る。十年、太子嬰は秦に朝して歸る。十一年、秦は我を伐ちて穰(八)を取る。秦と楚を伐つて、楚將唐昧を敗る。

(一) 從前よりの契約　(二) 楚を侵伐するの形勢　(三) 河南許州　(四) 江蘇鎭江府丹陽縣　(五) 山西蒲州臨晉縣　(六) 河南宜陽縣　(七) 直隸深州武強縣東北方　(八) 河南南陽府鄧州

十二年。太子嬰死。公子咎公子蟣虱爭

十二年太子嬰死す。公子咎・公子蟣虱、太子爲るを爭ふ。時に蟣虱は楚に質たり。蘇代は韓咎に謂つて曰く、蟣虱は亡げて楚に在り、楚王之を內れんと欲すること

絶ニ和於秦一。秦必大怒。以厚怨レ韓。韓之南交レ楚必輕レ秦。輕レ秦其應レ秦必不敬。是因ニ秦韓之兵一。而免ニ楚國之患一也。楚王曰。善。乃警ニ四境之內一。興レ師言レ救レ韓。命ニ戰車一滿ニ道路一。發ニ信臣一。多ニ其車一。重ニ其幣一。謂ニ韓王一曰。不穀國雖レ小。已悉發レ之矣。願大國遂肆ニ志於秦一。不穀將ニ以レ楚殉ヒ韓。韓王聞レ之大說。乃止ニ公仲之行一。

公仲曰。不可。夫以レ實伐レ我者秦也。以ニ虛名一救レ我者楚也。王恃ニ楚之虛名一。而輕絕ニ彊秦之敵一。王必爲ニ天下大笑一。且楚韓非ニ兄弟之國一也。又非ニ素約而謀ヒ伐レ秦也。已有ニ伐形一。因發レ兵言レ救レ韓。此必陳軫之謀

公仲曰く、不可なり。夫れ實を以て我を伐つ者は秦なり、虛名を以て我を救ふ者は楚なり。王は楚の虛名を恃んで、輕しく彊秦の敵を絕たば、王必ず天下の大笑と爲らん。且つ楚と韓とは兄弟の國に非ず、又素約(二)して秦を伐つを謀ろにも非ず。已に伐形(一)有り、因りて兵を發して韓を救ふと言ふのみ。此れ必ず陳軫の謀ならん。且つ王已に人をして秦に報ぜしむ、今行かずんば是れ秦を欺くなり。夫れ輕しく彊秦を欺きて、楚の謀を信ぜば、臣恐らくは王必ず之を悔いんと。韓王聽かず、遂に秦に絕つ。秦因りて大いに怒り、甲を益して韓を伐ち、大いに戰へども楚の救は至らず。韓の十九年、大いに我が岸門(三)を破る。太子倉は秦に質となりて以て和す。二十一年、秦と共に楚を攻め、楚將屈丐を敗り、首八萬を丹陽(四)

具レ甲。秦韓并レ兵而伐レ楚。此秦所二禱祀而求一也。今已得レ之矣。楚國必伐矣。王聽レ臣。爲レ之警二四境之内一。起レ師言レ救レ韓。命二戰車一滿二道路一。發二信臣一。多二其車一重二其幣一。使レ信二王之救一レ己也。縱韓不レ能レ聽レ我。韓必德レ王也。必不レ爲二鴈行以來一。是秦韓不レ和也。兵雖レ至楚不二大病一也。爲能聽レ我。

て道路に滿たしめ、信臣(一)を發し、其車を多くし其幣を重くし、王の己を救ふことを信ぜしめよ。縱ひ韓は我に聽く能はずとも、韓は必ず王を德とし、必ず鴈行(二)して以て來ることを爲さざらん。是れ秦韓和せざるなり、兵至ると雖も、楚大いに病まざらん。爲に能く我に聽き、和を秦に絶たば、秦必ず大いに怒つて、以て厚く韓を怨まん。韓が南、楚に交らば必ず秦を輕んぜん、秦を輕んぜば、其の秦に應ずること必ず不敬ならん。是れ秦韓の兵に因りて(三)楚國の患を免るゝなりと。楚王曰く、善しと。乃ち四境の内に警しめて、師を興し、韓を救ふと言ひ、戰車に命じて道路に滿たしめ、信臣を發し、其車を多くし、其幣を重くし、韓王に謂はしめて曰く、不穀(四)の國は小なりと雖も、已に悉く之を發せり。願くは大國遂に志を秦に肆にせよ、不穀將に楚を以て韓に徇(五)せんとすと。韓王之を聞いて大いに說び、乃ち公仲の行を止む。

(一) 信任せる重臣　(二) 秦と相伴うて來る　(三) 利用する義　(四) 楚王自ら稱するの謙辭　(五) 殉死するの決心なり

贏。二十六年。高門成。昭侯卒。果不レ出ニ此門一。子宣惠王立。宣惠王五年。張儀相レ秦。八年。魏敗ニ我將韓擧一。十一年。君號爲レ王。與レ趙會ニ區鼠一。十四年。秦伐敗ニ我鄢一。十六年。秦敗ニ我脩魚一。虜ニ得韓將鯉申差於濁澤一。韓氏急。公仲謂ニ韓王一曰。與國非レ可レ恃也。今秦之欲レ伐レ楚久矣。王不レ如下因ニ張儀一爲ニ和於秦一。賂以ニ一名都一。具レ甲與レ之南伐レ楚。此以レ一易レ二之計也。韓王曰。善。乃警ニ公仲之行一。將ニ西購ニ於秦一。

に因りて和を秦に爲し、賂ふに一名都を以てし、甲を具へて之と南して楚を伐つに如かず。此れ一を以て二に易ふるの計なりと(九)。韓王曰く、善しと。乃ち公仲の行を警めて、將に西して秦に購せしめんとす(一〇)。

(一) 高大の門　(二) 時機を失せり　(三) 時衰へて行驕る　(四) 山西路安府に屬す　(五) 河南の鄢陵縣　(六) 河南許州　(七) 同上　(八) 同盟の諸國　(九) 秦に都を贈るを一とし、秦の韓攻撃を止め、楚を伐つて利を得るを二とす　(一〇) 講和

楚王聞レ之大恐。召ニ陳軫一告レ之。陳軫曰。秦之欲レ伐レ楚久矣。今又得ニ韓之名都一一而

楚王之を聞きて大いに恐れ、陳軫を召して之に告ぐ。陳軫曰く、秦の楚を伐たんと欲するや久し。今又韓の名都一を得て甲を具へ、秦韓兵を幷せて楚を伐つは、此れ秦が禱祀して求めし所なり。今は已に之を得たり、楚國必ず伐たれん。王よ臣に聽き、之が爲に四境の内を警め、師を起して韓を救ふと言ひ、戰車に命じ

哀侯。而子懿侯立。懿侯二年。魏敗我馬陵。五年。與魏惠王會宅陽。九年。魏敗我澮。十二年。懿侯卒。子昭侯立。昭侯元年。秦敗我西山。二年。宋取我黃池。魏取朱。六年。伐東周。取陵觀邢丘。八年。申不害相韓。修術行道。國內以治。諸侯不來侵伐。十年。韓姬弑其君悼公。十一年。昭侯如秦。二十二年。申不害死。二十四年。秦來拔我宜陽。

二十五年。旱。作高門。屈宜臼曰。昭侯不出此門。何也。不時。吾所謂時者。非時日也。人固有利不利時。昭侯嘗利矣。不作高門。往年秦拔宜陽。今年旱。昭侯不以此時卹民之急。而顧益奢。此謂時絀舉

二十五年旱す、高門(一)を作る。屈宜臼曰く、昭侯は此門を出でざらん、何ぞや、時(二)ならざるなり。吾所謂時とは、時日には非ざるなり。人固に利不利の時有り。昭侯は嘗て利せるに高門を作らず。往年秦は宜陽を抜き、今年は旱せるに、昭侯は此時を以て民の急を卹まずして、顧りて益〻奢る。此を時絀みて擧贏ると謂ふ(三)なりと。二十六年高門成る。昭侯卒し、果して此門を出でず。子宣惠王立つ。宣惠王の五年、張儀は秦に相たり。八年魏は我が將韓擧を敗る。十一年君號して王と爲り、趙と區鼠(四)に會す。十四年秦伐つて我を鄢(五)に敗る。十六年、秦は我を脩魚(六)に敗り、韓將鯫と申差とを濁澤(七)に虜へ得たり。韓氏急なり。公仲は韓王に謂つて曰く、與國(八)は恃むべきに非ず。今は秦の楚を伐たんと欲するや久し。王は張儀

政殺二韓相俠累一。九年。秦伐二我宜陽一取二六邑一。十三年。列侯卒。子文侯立。是歲。魏文侯卒。文侯二年。伐レ鄭取二陽城一。伐レ宋到二彭城一執二宋君一。七年。伐レ齊至二桑丘一。鄭反レ晉。九年。伐レ齊至二靈丘一。十年。文侯卒。子哀侯立。哀侯元年。與二趙魏一分二晉國一。二年滅レ鄭。因徙二都鄭一。六年。韓嚴弑二其君。

三年列侯卒し、子文侯立つ。是歲魏の文侯卒す。文侯二年、鄭を伐つて陽城(三)を取り、宋を伐つて彭城(四)に到り、宋君を執ふ。七年、齊を伐つて桑丘(五)に至る。鄭は晉に反す。九年齊を伐つて靈丘(六)に至る。十年文侯卒し、子哀侯立つ。哀侯元年、趙魏と晉國を分つ。二年鄭を滅し、因りて徙つて鄭(七)に都す。六年、韓嚴は其君哀侯を弑して子懿侯立つ。懿侯の二年、魏は我を馬陵(八)に敗る。五年魏の惠王と宅陽(九)に會す。九年、魏は我を澮(一〇)に敗る。十二年懿侯卒し、子昭侯立つ。昭侯の元年、秦は我を西山(一一)に敗る。二年宋は我が黃池(一二)を取り、魏は朱を取る。六年東周を伐つて、陵觀・邢丘(一三)を取る。八年申不害(一四)は韓に相たり。術を修め道を行ひ、國內以て治り、諸侯來り侵伐せず。十年、韓姬(一五)は其君悼公を弑す。十一年昭公秦に如く。二十二年申不害死す。二十四年秦來り、我が宜陽を拔く。

(一) 刺客傳參照　(二) 河南の宜陽縣　(三) 河南汝寧府　(四) 江蘇徐州府銅山縣　(五) 桑丘附近の地　(六) 山西大同府靈丘縣　(七) 河南開封府新鄭縣　(八) 直隸大名府元城縣東南方　(九) 河南開封府の屬邑　(一〇) 河南平陽府の屬邑　(一一) 山西平陽府　(一二) 河南杞縣の西方　(一三) 河南懷慶府　(一四) 申韓列傳參照　(一五) 姬一に玘に作る、韓の大夫

十四年。吳季札使レ晉。曰。晉國之政。卒歸二於韓魏趙一矣。晉頃公十二年。韓宣子與二趙魏一。共分二祁氏羊舌氏十縣一。晉定公十五年。宣子與二趙簡子一。侵二伐范中行氏一。宣子卒子貞子代立。貞子徙居二平陽一。貞子卒。子簡子代。簡子卒。子莊子代。莊子卒。子康子代。康子與二趙襄子魏桓子一。共敗二知伯一分二其地一。地益大。大二於諸侯一。康子卒。子武子代。武子二年。伐レ鄭殺二其君幽公一。十六年。武子卒。子景侯立。景侯虔元年。伐レ鄭取二雍丘一。二年。鄭敗二我負黍一。六年。與二趙魏一俱得レ列爲二諸侯一。九年。鄭圍二我陽翟一。景侯卒。子列侯取立。

公の十五年、宣子は趙簡子と范・中行氏を侵伐す。宣子卒し、子貞子代り立つ。貞子は徙りて平陽(二)に居る。貞子卒して子簡子代り、簡子卒して子莊子代り、莊子卒して子康子代る。康子は趙襄子・魏桓子と共に知伯を敗りて其地を分つ。地益〻大に、諸侯よりも大なり。康子卒し、子武子代る。武子の二年に鄭を伐ちて、其君幽公を殺す。十六年に武子卒し、子景侯立つ。景侯虔の元年、鄭を伐つて雍丘(三)を取る。二年鄭は我が負黍(四)を敗る。六年趙魏と倶に列して諸侯と爲るを得たり。九年鄭は我が陽翟(五)を圍む。景侯卒し、子列侯取立つ。

(一)河南懷慶府河內縣　(二)山西平陽府　(三)河南開封府杞縣　(四)河南開封府の屬邑　(五)河南開封衞府禹州

列侯三年。聶

列侯の三年、聶政(一)は韓相俠累を殺す。九年秦は我が宜陽(二)を伐ちて六邑を取る。十

厥止レ賈。賈不レ聽。厥告二趙朔一令レ亡。朔曰。子必能不レ絕二趙祀一。死不レ恨矣。韓厥許レ之。及三賈誅二趙氏一。厥稱レ疾不レ出。程嬰公孫杵臼之藏二趙孤趙武一也。厥知レ之。景公十一年。厥與二郤克一將二兵八百乘一伐レ齊。敗二齊頃公于鞍一。獲二逢丑父一。於レ是晉作二六卿一。而韓厥在二一卿之位一。號爲二獻子一。晉景公十七年病。卜。大業之不レ遂者爲レ祟。韓厥稱。趙成季之功。今後無レ祀。以感二景公一。感公問曰。尚有レ世乎。厥於レ是言二趙武一。而復與二故趙氏田邑一。續二趙氏祀一。

獻子と爲す。晉の景公は十七年に病む。卜す。(六)大業の遂げざる者祟を爲すと。韓厥稱すらく、(七)趙成季の功あるに、今は後に祀無しと、以て景公を感ぜしむ。景公問うて曰く、(八)尚世有りやと。厥是に於て趙武を言つて、復故の趙氏の田邑を與へ、趙氏の祀を續がしむ。

(一) 山西平陽府 (二) 司法の長官 (三) 誅し盡す (四) 山東泰安平府平陰縣 (五) 六軍の長官 (六) 晉の功臣 (七) 趙衰諡して成季と曰ふ (八) 子孫

晉悼公之十年。韓獻子老。獻子卒。子宣子代。宣子徙居レ州。晉平公

晉の悼公の十年、韓獻子老す。獻子卒して子宣子代る。宣子は徙りて(一)州に居る。晉の平公の十四年、呉の季札晉に使して曰く、晉國の政は卒に韓・魏・趙に歸せんと。晉の頃公の十二年、韓宣子と趙魏と、共に祁氏・羊舌氏の十縣を分つ。晉の定

韓之先。與周同姓。姓姬氏。其後苗裔事晉。得封於韓原。曰韓武子。武子後三世有韓厥。從封姓爲韓氏。韓厥晉景公之三年。晉司寇屠岸賈將作亂誅靈公之賊趙盾。趙盾已死矣。欲誅其子趙朔。韓

巻四十五

韓世家第十五

韓の先は周と同姓なり、姓は姫氏。其後苗裔は晉に事へて、封を韓原(一)に得たり。韓武子と曰ふ。武子の後三世に、韓厥有り。封に從つて姓を韓氏と爲す。韓厥は晉の景公の三年に、晉の司寇(二)屠岸賈が將に亂を作して、靈公の賊趙盾を誅せんとするや、趙盾は已に死せり、其子趙朔を誅せんと欲せしとき、韓厥は賈を止めしも、賈は聽かず。厥は趙朔に告げて亡げしむるに、朔が曰く、子必ず能く趙の祀を絶たずんば、死すとも恨みじと。韓厥之を許す。賈が趙氏を誅するに及び、厥は疾と稱して出でず。程嬰と公孫杵臼の趙孤趙武を藏する(三)や、厥之を知れり。景公の十一年、厥は郤克と兵八百乘に將として齊を伐ち、齊の頃公を鞍(四)に敗りて、逢丑父を獲たり。是に於て晉は六卿(五)を作るに、韓厥は一卿の位に在りて、號して

弱至於亡。余以爲不然。天方令秦平海內。其業未成。魏雖得阿衡之佐。曷益乎。

因ν増。是喜之計中也。故不ν若三貴ν増而合ν魏。以疑二之於齊韓一。秦乃止ν増。三十一年。秦王政初立。三十四年。安釐王卒。太子増立。是爲二景湣王一。信陵君無忌卒。景湣王元年。秦拔二我二十城一。以爲二秦東郡一。二年。秦拔二我朝歌一。衞徙二野王一。三年。秦拔二我汲一。五年。秦拔二我垣。蒲陽。衍一。十五年。景湣王卒。子王假立。王假元年。燕太子丹使三荊軻刺二秦王一。秦王覺ν之。三年。秦灌二大梁一。虜二王假一。遂滅ν魏以爲二郡縣一。

縣と爲す。

㊀趙の首都名 ㊁詐るなり、信陵君列傳參照 ㊂魏の宰相 ㊃増を優待して魏と親和す ㊄囚繋することを止む ㊅衞の世家に出づ ㊆縣名亦衞世家に出づ ㊇皆大梁附近の縣城 ㊈刺客列傳參照

太史公曰。吾適二故大梁之墟一。墟中人曰。秦之破ν梁。引二河溝一而灌二大梁一。三月城壞。王請降。遂滅ν魏。説者皆曰。魏以ν不ν用二信陵君一故國削

太史公曰く、吾故の大梁の墟(一)に適くに、墟中の人曰く、秦の梁を破るや、河溝を引いて大梁に灌ぐ。三月にして城壞れ、王請ひ降る、遂に魏を滅せりと。説者皆曰く、魏は信陵君を用ひざるを以ての故に、國は削弱せられて亡に至れりと。余は以爲らく然らず。天方に秦をして海内を平げしむるに、其業未だ成らず、魏に阿衡(二)の佐を得と雖も、曷ぞ益あらんやと。

㊀城趾 ㊁殷の賢相たりし伊尹の官名

無忌嘗奪ニ將軍一歸兵一以救レ趙。趙得レ全。無忌因留レ趙。二十六年。秦昭王卒。三十年。無忌歸レ魏。率ニ五國兵一攻レ秦。敗ニ之河內一走ニ蒙驁一。魏太子增質ニ於秦一。秦怒欲レ囚ニ魏太子增一。或爲レ增謂ニ秦王一曰。公孫喜固謂ニ魏相一曰。請以レ魏疾擊レ秦。秦王怒必囚レ增。魏王又怒擊レ秦。秦必傷。今王

ふ。趙全きを得たり。無忌因りて趙に留る。二十六年秦の昭王卒す。三十年無忌魏に歸り、五國の兵を率ゐ、秦を攻めて之を河內に敗り、蒙驁を走らす。魏の太子增は秦に質たり。秦怒つて魏の太子增を囚へんと欲す。或ひと增の爲に秦王に謂つて曰く、公孫喜は固より魏相に謂つて曰く、請ふ魏を以て疾く秦を擊て、秦王怒つて必ず增を囚へん。魏王又怒つて秦を擊たば、秦必ず傷はれんと。今王の增を囚ふるは、是喜の計中るなり。故に增を貴くして魏を合せ、以て之を齊韓に疑はしむるに若かずと。秦乃ち增を止む。三十一年、秦王政初めて立つ。三十四年安釐王卒し、太子增立つ、是を景湣王と爲す。信陵君無忌卒す。景湣王の元年、秦は我が二十城を拔き、以て秦の東郡と爲す。二年秦は我が朝歌を拔く。衞は野王に徙る。三年秦は我が汲を拔く。五年秦は我が垣・蒲陽・衍を拔く。十五年景湣王卒す、子王假立つ。王假の、元年燕の太子丹、荊軻をして秦王を刺さしむ、秦王之を覺る。三年、秦は大梁に灌ぎて王假を虜にし、遂に魏を滅して以て郡

之。此士民不ㇾ勞。而故地得。其功多下於與ㇾ秦共伐ㇾ韓。而又與ニ彊秦ー鄰之禍上也。夫存ㇾ韓安ㇾ魏而利ニ天下ー。此亦王之天時已。通ニ韓上黨於共寗ー。使下道ニ安成ー。出入賦ㇾ之。是魏重質ㇾ韓。以ニ其上黨ー也。今有ニ其賦ー。足ニ以富ㇾ國。韓必德ㇾ魏。愛ㇾ魏重ㇾ魏畏ㇾ魏。韓必不ニ敢反ㇾ魏。是韓則魏之縣也。魏得ㇾ韓以爲ㇾ縣。衞。大梁。河外必安矣。今不ㇾ存ㇾ韓。二周。安陵必危。楚趙大破。衞。齊甚畏。天下西鄕而馳ㇾ秦。入朝而爲ㇾ臣不ㇾ久矣。

韓の上黨を共(三)・寗に通じ、安成に道して出入之に(四)賦せしむるは、是れ魏は重ねて韓より質するに其上黨を以てするなり。今其賦を有つは、以て國を富ますに足る、韓必ず魏を德とし、魏を愛し魏を重んじ魏を畏れん。韓必ず敢て魏に反かざらん。是れ韓は則ち魏の縣なり。魏は韓を得て以て縣と爲さんに、衞と大梁と河外とは必ず安からん。今韓を存せずんば、二周安陵必ず危からん。楚趙大いに破れ、衞齊甚だ畏れ、天下西に鄕つて秦に馳せ、入朝して臣と爲らんこと久しからじと。

(一) 人質を挾み有す　(二) 韓を救ふの名を以て舊領地の返還を請ふ　(三) 魏の二邑の名　(四) 通行税を賦課す

二十年。秦圍ニ邯鄲ー。信陵君

二十年秦は邯鄲(一)を圍む。信陵君無忌は、矯(二)めて將軍晉鄙の兵を奪ひ、以て趙を救

北。河外河内。大縣數十。名都數百。秦乃在河西。晉去梁千里。而禍若是矣。又況於使秦無韓有鄭地。無河山而闌之。無周韓而間之。去大梁百里。禍必由此矣。異日者從之不成也。楚魏疑而韓不可得也。今韓受兵三年。秦撓之以講。識亡不聽。投質於趙。請爲天下鴈行頓刃。楚趙必集兵。皆識秦之欲無窮也。非盡亡天下之國而臣海内。必不休矣。

を趙に投じ、天下の爲に鴈行して刃を頓らすを請はば、楚趙も必ず兵を集めん。皆秦の欲は窮り無くして、盡く天下の國を亡して海内を臣とするに非ずんば、必ず休まざるを識ればなり。

(一)昔日の義 (二)周都の義 (三)魏の縣名 (四)魏の名邑 (五)山東の定陶なり (六)山東東平州の監亭 (七)此の理によりて增大すべし (八)合從 (九)韓が合從するを得ず (一〇)講和 (一一)並び進む貌 (一二)刀折れ矢盡くる迄奮戰せんと申出づ

是故臣願以從事王。王速受楚趙之約。趙挾韓之質。以存韓而求故地。韓必效

是故に臣願くは、從を以て王に事へん。王速に楚趙の約を受けよ。趙は韓の質を挾む。韓を存するを以て故地を求めば、韓必ず之を效さん。此れ士民勞せずして故地得るなり。其功は秦と共に韓を伐つて、又强秦と鄰るの禍よりも多からん。夫れ韓を存して魏を安んじ、而して天下を利するは、此れ亦王の天時のみ。

使者之惡ㇾ之。隨二安陵氏一而亡ㇾ之。繞二舞陽之北一。以東臨ㇾ許。南國必危。國無ㇾ害已。夫憎ㇾ韓不ㇾ愛二安陵氏一可也。夫不ㇾ患二秦之不ㇾ愛二南國一非也。

異日者秦在二河西一。晉國去ㇾ梁千里。有二河山以闌ㇾ之。有二周韓以閒ㇾ之。從二林鄉軍一以至二于今一。秦七攻ㇾ魏。五入二囿中一。邊城盡拔。文臺墮。垂都焚。材木伐。麋鹿盡。而國繼以圍。又長二驅梁北一。東至二陶衛之郊一。北至二平監一。所ㇾ亡二於秦一者。山南山

(一)異日は秦は河西に在り、晉國は梁を去る千里、河山の以て之を闌つる有り、周韓の以て之を間つる有り。林鄉の軍より以て今に至るまで、秦は七たび魏を攻め、五たび囿中(二)に入り、邊城は盡く拔け、文臺(三)は墮れ垂都(四)は焚け、林木伐られ麋鹿盡きぬ。而も國も繼いで以て圍まる。又梁北を長驅して、東は陶・衛(五)の郊に至り、北は平監(六)に至る。秦に亡ふ所の者は、山南・山北・河外・河內、大縣數十、名都數百なり。秦乃ち河西に在りて、晉は梁を去る千里なるすら、而も禍は是の若し。又況んや秦をして、韓が鄭の地を有つ無く、河山の之を闌つる無く、周韓の之を間つる無く、大梁を去ること百里ならしむるに於てをや。禍は必ず此(七)に由らん。異日は從(八)の成らざりしは、楚魏の疑つて韓(九)得べからざりしがためなり。今や韓は兵を受くること三年、秦は之を撓すに講(一〇)を以てす。亡を識るも聽かず、質

伯之禍也。秦又不ニ敢伐ㇾ楚。道ニ涉山谷一。行ニ三千里一。而攻ニ冥阨之塞一。所ㇾ行甚遠。所ㇾ攻甚難。秦又不ㇾ爲也。若道ニ河外一。倍ニ大梁一。右ㇾ蔡左ニ召陵一。與ニ楚兵一。決ニ於陳郊一。秦又不ㇾ敢。故曰。秦必不ㇾ伐楚與ㇾ趙矣。又不ㇾ攻ニ衞與ㇾ齊矣。夫韓亡之後。兵出之日。非ㇾ魏無ㇾ攻已。秦固有ニ懷茅。邢丘一。城ニ垝津一以臨ニ河內一。河內共汲必危。有ニ鄭地一得ニ垣雍一。決ニ熒澤一水灌ニ大梁一。大梁必亡。王之使者出。過而惡ニ安陵氏於秦一。秦之欲ㇾ誅ㇾ之久矣。秦葉陽昆陽與ニ武陽一鄰。聽ニ

たざらん、又衞と齊とを(七)攻めざらん。夫れ韓亡ぶるの後、兵出づるの日は、魏に非ずんば攻むる無けん。秦は固より懷茅・邢丘を有す。(八)垝津に城きて以て河內に臨まんに、河內の(一〇)共・汲は必ず危ふからん。鄭地を有ち垣雍を得(九)熒澤を決し、水もて大梁に灌がば、大梁は必ず亡びん。王の使者出づるとき、過つて安陵氏を秦に惡らば、秦の之を誅せんと欲するや久し。秦の葉陽・昆陽は武陽(一一)と鄰す。使者の之を惡るを聽き、安陵氏に隨つて之を亡さん。舞陽の北を繞り、以て東して許に臨まば、南國必ず危ふからん。國に害無きのみ。夫れ韓を憎みて安陵氏を愛せざるは可なるも、夫れ秦の(一二)南國を愛せざるを患へざるは非なり。

(一) 閼與に於ける秦前年の失敗を指す (二) 二水の名 (三) 雌雄を決す (四) 滅亡したる禍跡 (五) 通過す (六) 楚の險要の地 (七) 衞齊は三晉より東方に在ればなり (八) 魏地に近き二要塞 (九) 延津の誤か (一〇) 河內二縣の名 (一一) 舞陽に同じ (一二) 秦が南方を壓迫するは魏を迫害する所以なるを指す

而再奪二之國一。此於二親戚一若レ此。而況於二仇讐之國一乎。今王與レ秦共伐レ韓。而益近二秦患一。臣甚惑レ之。而王不レ識則不明。羣臣莫二以聞一則不忠。今韓氏以二一女子一。奉二一弱主一。內有二大亂一。外交二彊秦魏之兵一。王以爲レ不レ亡乎。韓亡秦有二鄭地一。與二大梁一鄰。王以爲レ安乎。王欲レ得二故地一。今負二彊秦之親一。王以爲レ利乎。秦非二無事之國一也。韓亡之後。必將レ更レ事。更レ事必就レ易二與利一。就レ易二與利一。必不レ伐二楚與一レ趙矣。

更へんとす。事を更ふるには必ず與に利し易きに就かん。與に利し易きに就かんには、必ず楚と趙とを伐たざらん。

(一) 舊の領有地 (二) 負りて道に悖る (三) 德惠を施し恩澤を積む (四) 秦王の母 (五) 秦王の舅 (六) 申し上ぐ

是何也。夫越レ山踰レ河。絕二韓上黨一而攻二彊趙一。是復閼與之事。秦必不レ爲也。若道二河內一。倍二鄴朝歌一。絕二漳釜水一。與二趙兵一決二於邯鄲之郊一。是知

是何ぞや。夫れ山を越え河を踰え、韓の上黨を絕つて彊趙を攻むるは、是復閼(一)與の事なり。秦必ず爲さざらん。若し河內に道し鄴・朝歌に倍き、漳釜(二)の水を絕り、趙兵と邯鄲の郊に決せんは、是れ知伯(三)の禍なり。秦又敢て楚を伐たじ。涉山の谷(四)に道し、三千里を行いて冥阨(五)(六)の塞を攻む、行く所甚だ遠くして、攻むる所甚だ難し。秦又爲さざらん。若し河外に道し大梁に倍き、蔡を右にし召陵を左にし、楚兵と陳の郊に決せんは、秦又敢てせじ。故に曰く、秦は必ず楚と趙とを伐

魏王以秦救之故。欲親秦而伐韓。以求故地。無忌謂魏王曰。秦與戎翟同俗。有虎狼之心。貪戾好利無信。不識禮義德行。苟有利焉。不顧親戚兄弟。若禽獸耳。此天下之所識也。非有所施厚積德也。故太后母也。而以憂死。穰侯舅也。功莫大焉。而竟逐之。兩弟無罪。

魏王は秦の救の故を以て、秦に親んで韓を伐ち、以て故地を求めんと欲す。無忌は魏王に謂つて曰く、秦は戎翟と俗を同じうす。虎狼の心有り、(一)貪戾利を好みて信無く、禮義德行を識らず。苟も利有れば、親戚兄弟をも顧みず、禽獸の若きのみ。此れ天下の識る所なり。厚を施し德を積む所有るに非ざるなり。故に(四)太后は母なるに憂を以て死し、(五)穰侯は舅にして功莫大なるに、竟に之を逐ひ、兩弟は罪無きに、再び之が國を奪へり。此れ親戚に於てすら此の若し、而るを況んや仇讐の國に於てをや。今は王、秦と共に韓を伐つて、益〻秦の患を近づく、臣甚だ之に惑ふ。而も王識らざるは則ち不明なり、羣臣(六)以聞する莫きは則ち不忠なり。今韓氏は一女子を以て一弱主を奉ず。內は大亂有り、外は彊秦と魏の兵とに交る、王以て亡びずと爲すか。韓亡びば、秦は鄭の地を有ち、大梁と鄰せん、王以て安しと爲すか。王は故地を得んと欲して、今は彊秦の親を負む、王以て利と爲すか。秦は無事の國に非ざるなり。韓亡ぶるの後は、必ず將に事を

而秦救不レ發。亦將賴二其未一レ急也。使二之太急一彼且二割レ地而約一レ從。王尚何救焉。必待二其急一而救レ之。是失二一東藩之魏一。而彊二二敵之齊楚一。則王何利焉。於レ是秦昭王遽爲發レ兵救レ魏。魏氏復定。

趙使三人謂二魏王一曰。爲レ我殺二范痤一。吾請獻二七十里之地一。魏王曰。諾。使二吏捕一レ之。圍而未レ殺。痤因上レ屋騎レ危。謂二使者一曰。與下其以二死痤一市上。不レ如下以二生痤一市上。有二如痤死。趙不一レ予二王地一。則王將奈何。故不レ若下與先有二割地一。然後殺上レ痤。魏王曰。善。痤因上二書信陵君一曰。痤故魏之免相也。趙以レ地殺レ痤。而魏王聽レ之。有二如彊秦亦將一レ襲二趙之欲一。則君且二奈何一。信陵君言二於王一而出レ之。

趙は人をして魏王に謂はしめて曰く、我爲に范痤を殺せ、吾請ふ七十里の地を獻ぜんと。魏王曰く、諾と。吏をして之を捕へしむ。圍んで未だ殺さず。痤因りて屋に上り危に騎り、(一)使者に謂つて曰く、其の死痤(二)を以て市らんよりは、生痤を以て市らんに如かじ。如し痤死して趙が王に地を予へざる有らば、則ち王將奈何せん。故に與に(三)先づ割地を有つて然る後に痤を殺すに若かじと。魏王曰く、善しと。痤因りて書を信陵君に上つて曰く、痤は故の魏の免相なり、趙は地を以て痤を殺すに、魏王之を聽けり。如し彊秦も亦將に趙の欲を襲がんとする有らば、則ち君は且に奈何せんとすると。信陵君は王に言つて之を出しぬ。

(一) 高き棟に跨りて兵を避く (二) 死したる痤を提供して七十里の地を取らんよりは (三) 趙と割地を決定す

請西說二秦王一。令二兵先一レ臣出。魏王再拜。遂約レ車而遣レ之。唐雎到。入見二秦王一。秦王曰。丈人芒然乃遠至。此甚苦矣。夫魏之來求レ救數矣。寡人知二魏之急一已。唐雎對曰。大王已知二魏之急一。而救不レ發者。臣竊以爲用レ策之臣無レ任矣。夫魏一萬乘之國也。然所下以西面而事レ秦稱二東藩一受二冠帶一。祀中春秋上者。以三秦之彊足二以爲一レ與也。今齊楚之兵。已合二於魏郊一矣。

魏の急なるを知れりと。唐雎對へて曰く、大王已に魏の急を知る、而も救の發せざる者は、臣(四)竊に以爲ふに策を用ふるの臣任ふる無きならんと。夫れ魏は一萬乘の國なり。然も西面して秦に事へ、東藩(五)と稱して冠帶を受け、春(六)秋に祀る所以の者は、秦の彊なる、以て與(七)を爲すに足るを以てなり。今は齊楚の兵已に魏の郊に合ふに、而も秦の救は發せず。亦將た其の未だ急ならざるに頼るのみ。之をして太だ急ならしめば、彼且に地を割いて從(八)を約せんとす、王何をか救はん。必ず其急を待つて之を救ふは、是れ一東藩の魏を失うて、二敵の齊楚を彊うするなり。則ち王は何をか利せんと。是に於て秦の昭王は遽に爲に兵を發して魏を救ふ。魏氏復た定りぬ。

(一) 使者相の望を引く如く續々として至る形容　(二) 整へ準備す　(三) 茫然に同じ、疲勞の貌　(四) 策を用ふるの臣に利害を知るに堪ふる者無し　(五) 東方の藩屏　(六) 秦の爲に祀る　(七) 交親の與國　(八) 齊楚と合從す

王之料天下。過矣。當晉六卿之時。知氏最彊。滅范中行。又率韓魏之兵。以圍趙襄子於晉陽。決晉水以灌晉陽之城。不湛者三版。知伯行水。魏桓子御。韓康子爲參乘。知伯曰。吾始不知水之可以亡人之國也。乃今知之。汾水可以灌安邑。絳水可以灌平陽。魏桓子肘韓康子。韓康子履魏桓子。肘足接於車上。而知氏地分身死國亡。爲天下笑。今秦兵雖彊。不能過知氏。韓魏雖弱。尚賢其在晉陽之下也。此方其用肘足之時也。願王之必勿易也。於是秦王恐。

時なり。願くは王の必ず易る勿からんことをと。是に於て秦王恐る。

(一) 河南懷慶府 (二) 河南汝寧府汝陽縣 (三) 秦王侍臣の名 (四) 水を巡視す (五) 陪乘者 (六) 魏桓子の都名 (七) 韓康子の都名 (八) 肘と足と車上に相接し意を通じ戒め合ふ

齊楚相約而攻魏。魏使人求救於秦。冠蓋相望也。而秦救不至。魏人有唐雎者。九十餘矣。謂魏王曰。老臣

齊楚相約して魏を攻む、魏は人をして救を秦に求めしむるに、冠蓋相望む。而も秦の救至らず。魏人唐雎といふ者有り、年九十餘なり。魏王に謂つて曰く、老臣請ふ西して秦王に說き、兵をして臣に先つて出でしめんと。魏王再拜し、遂に車を約して之を遣る。唐雎到り、入りて秦王に見ゆ。秦王曰く、丈人芒然として乃ち遠く至る、此れ甚だ困しむ。夫れ魏の來つて救を求むる數〻なり。寡人は

昭王謂ニ左右一曰。今時韓魏與レ始孰彊。對曰。不レ如ニ始彊一。王曰。今時如耳魏齊與ニ孟嘗芒卯一孰賢。對曰。不レ如。王曰。以ニ孟嘗。芒卯之賢一。率ニ彊韓魏一以攻レ秦。猶無下奈ニ寡人一何上也。今以ニ無能之如耳。魏齊一。而率ニ弱韓魏一以伐レ秦。其無下奈ニ寡人一何上亦明矣。左右皆曰。甚然。中旗馮レ琴對曰。

孰か賢なると。對へて曰く、如かずと。王曰く、孟嘗・芒卯の賢を以て、彊き韓魏を率ゐて以て秦を攻めしすら、猶寡人を奈何ともする無かりき。今は無能の如耳魏齊を以て、弱き韓魏を率ゐて以て秦を伐つとも、其れ寡人を奈何ともする無きこと亦明なりと。左右皆曰く、甚だ然りと。(三)中旗琴に馮りて對へて曰く、王の天下を料るは過てり。晉の六卿の時に當りて、知氏最も彊く、范・中行を滅し、又韓魏の兵を率ゐて以て趙襄子を晉陽に圍み、晉水を決して以て晉陽の城に灌ぐに、湛されざる者三版のみ。知伯(四)水を行り、魏桓子御し、韓康子參乘(五)と爲るに、知伯曰く、吾始め水の以て人の國を亡すべきを知らざりき。乃ち今は之を知りぬ。汾水は以て安邑(六)に灌ぐべく、絳水は以て平陽(七)に灌ぐべしと。魏桓子韓康子に肘し、韓康子は魏桓子を履む。(八)肘足車上に接して、而して知氏は地分たれ身死して國亡び、天下の笑と爲りぬ。今秦兵を彊しと雖も、知氏に過ぐる能はず、韓魏は弱しと雖も、尙其の晉陽の下に在りしに賢れり。此れ方に其の肘足を用ふるの

五萬人。走二我將芒卯一。魏將段干子請下予二秦南陽一以和上。蘇代謂二魏王一曰。欲レ璽者段干子也。欲レ地者秦也。今王使下欲レ地者制上レ璽。使下欲レ璽者制上レ地。魏氏地不レ盡。則不レ知レ已。且夫以レ地事レ秦。譬猶三抱レ薪救二火。薪不レ盡火不レ滅。王曰。是則然也。雖レ然事始已行。不レ可レ更矣。對曰。王獨不レ見下夫博之所三以貴二梟者上。便則食。不便則止矣。今王曰二事始已行不一レ可レ更。是何王之用レ智。不レ如レ用レ梟也。

知らざらん、且つ夫れ地を以て秦に事ふるは、譬へば猶薪を抱いて火を救ふがごとし、薪盡きざれば火滅せじと。王曰く、是は則ち然り、然りと雖も事始め已に行へり、更むべからずと。對へて曰く、王獨り夫の博(二)の梟を貴ぶ所以の者を見ずや。便なれば則ち食はしめ、不便なれば則ち止む。今王が、事始め已に行ふ、更むべからずと曰ふは、是れ何ぞ王の智を用ふること、梟を用ふるに如かざるやと。

(一) 官印なり、璽賞を受けんと欲する義 (二) 博奕者は梟形の骰子を貴ぶ、蓋し梟が其子を食ふによるなり

九年。秦拔二我懷一。十年。秦太子外質二於魏一死。十一年。秦拔二我郪丘一。秦

九年秦は我が懷(一)を拔く。十年、秦の太子外は魏に質となりて死す。十一年、秦は我が郪丘(二)を拔く。秦の昭王左右に謂つて曰く、今時の韓魏と始のとは孰か彊きと。對へて曰く、始の彊に如かずと。王曰く、今時の如耳と魏齊とは、孟嘗・芒卯と

三年。佐レ韓攻レ秦。秦將白起敗二我軍伊闕一二十四萬。六年。予二秦河東地方四百里一。芒卯以レ詐重。七年。秦拔二我城大小六十一一。八年。秦昭王爲二西帝一。齊湣王爲二東帝一。月餘。皆復稱レ王歸レ帝。九年。秦拔二我新垣曲陽之城一。十年。齊滅レ宋。宋王死二我溫一。十二年。與二秦趙韓燕一共伐レ齊。敗二之濟西一。湣王出亡。燕獨入二臨菑一。與二秦王一會二西周一。十三年。秦拔二我安城一。兵到二大梁一去。十八年。秦拔レ郢。楚王徙レ陳。十九年。昭王卒。子安釐王立。

の地なり、魏は河南に在り故に曰ふ (六) 河南許州襄城縣 (七) 河南洛陽府の南方、兩山相對して伊水を挾むこと闕門の如き地 (八) 罷退停止す (九) 河南の二城なり (一〇) 河南彰德府臨縣 (一一) 齊の首都 (一二) 河南汝寧府汝陽縣 (一三) 魏の首都 (一四) 楚の首都

安釐王元年。秦拔二我兩城一。二年。又拔二我二城一。軍二大梁下一。韓來救。予二秦溫一以和。三年。秦拔二我四城一。斬首四萬。四年。秦破二我及韓趙一。殺二十

安釐王の元年、秦我が兩城を拔く。二年又我が二城を拔き、大梁の下に軍す。韓來りて救ひ、秦に溫を予へて以て和す。三年秦は我が四城を拔き、首を斬ること四萬なり。四年、秦は我及び韓趙を破り、十五萬人を殺し、我が將芒卯を走らす。魏將段干子は、秦に南陽を予へて以て和せんと請ふ。蘇代は魏王に謂つて曰く、壐を欲する者は段干子なり。地を欲する者は秦なり。今王は地を欲する者をして壐を制せしめ、壐を欲する者をして地を制せしむ。魏氏の地盡きずんば、則ち已むを

我皮氏。未拔而解。十四年。秦來歸武王后。十六年。秦拔我蒲反。陽晉。封陵。十七年。與秦會臨晉。秦予我蒲反。十八年。與秦伐楚。二十一年。與齊韓共敗秦軍函谷。二十三年。秦復予我河外及封陵。爲和。哀王卒。子昭王立。昭王元年。秦拔我襄城。二年。與秦戰我不利。

蒲反を予ふ。十八年、秦と楚を伐つ。二十一年、齊韓と共に秦軍を函谷(四)に敗る。二十三年、秦復我に河外(五)及び封陵を予へて和を爲す。哀王卒し、子昭王立つ。昭王の元年、秦は我が襄城(六)を抜く。二年秦と戰うて我れ利あらず。三年韓を佐けて秦を攻む。秦將白起は我軍を伊闕(七)に敗ること二十四萬なり。六年秦に河東の地方四百里を予ふ。芒卯は詐を以て重んぜらる。七年秦は我が城大小六十一を抜く。八年秦の昭王は西帝と爲り、齊の湣王は東帝と爲る。月餘にして皆復王と稱して帝を歸む(八)。九年、秦は我が新垣(九)・曲陽の城を抜く。十年に齊は宋を滅す、宋王は我が溫に死す(一〇)。十二年、秦・趙・韓・燕と共に齊を伐つて、之を濟西に敗る。湣王出亡す。燕獨り臨菑(一一)に入る。秦王と西周に會す。十三年、秦は我が安城(一二)を抜く。兵は大梁(一三)に到りて去れり。十八年秦は郢(一四)を抜く。楚王陳に徙る。十九年昭王卒し、子安釐王立つ。

(一) 山西臨晉附近の地　(二) 山西絳州府河津縣　(三) 山西蒲州府永濟縣附近の三邑名　(四) 函谷關なり　(五) 河北

說レ君。昭魚曰。奈何。對曰。代也從レ楚來。昭魚甚憂曰。田需死。吾恐三張儀。犀首。薛公有二一人相レ魏者一也。代曰。梁王長主也。必不レ相二張儀一。張儀相。必右レ秦而左レ魏。犀首相必右レ韓而左レ魏。薛公相必右レ齊而左レ魏。梁王長主也。必不レ便也。王曰。然則寡人孰相。代曰。莫レ若二太子之自相一。太子之自相。是三人者。皆以二太子一爲二非常相一也。皆將下務以二其國一事も魏。欲レ得二丞相璽一也。以二魏之彊一。而三萬乘之國輔レ之。魏必安矣。故曰。莫レ若二太子之自相一也。遂北見二梁王一。以レ此告レ之。太子果相レ魏。

は、是三人の者は、皆太子を以て非常の相と爲し、皆將に務めて其國を以て魏に事へんとす、丞相の璽を得んと欲すればなり。魏の彊を以てして、(六)三萬乘の國之を輔けば、魏は必ず安からん。故に曰く、太子の自ら相たるに若くは莫しと。遂に北して梁王に見え、(七)此を以て之に告ぐるに、太子果して魏に相たりき。

(一)三人を畏れ憚かるなり　(二)誰人を相とするを楚の便利と思ふか　(三)假に魏王の積りにて予の言を聞け　(四)才德すぐれたる主君　(五)大切とし第一とす　(六)萬乘の國三なり　(七)以上昭魚に語りし語

十年。張儀死。十一年。與秦武王一會レ應。十二年。太子朝二於秦一。秦來伐二

十年張儀死す。十一年、秦の武王と(一)應に會す。十二年、太子は秦に朝す。秦は來りて我が(二)皮氏を伐ち、未だ拔けずして解く。十四年、秦來りて武王の后を歸がしむ。十六年、秦は(三)蒲反・陽晉・封陵を拔く。十七年、秦と臨晉に會す、秦は我に

九年。與二秦王一會二臨晉一。張儀魏章皆歸二于魏一。魏相田需死。楚害二張儀・犀首・薛公一。楚相昭魚謂二蘇代一曰。田需死。吾恐二張儀・犀首・薛公有二一人相レ魏者一也。代曰。然。相者欲二誰而君便一レ之。昭魚曰。吾欲二太子之自相一也。代曰。請爲レ君北必相レ之。昭魚曰。奈何。對曰。君其爲二梁王一。代請

九年に秦王と臨晉に會す。張儀・魏章は皆魏に歸す。魏相田需死す、楚は張儀・犀首・薛公を害(一)とす。楚相昭魚は蘇代に謂つて曰く、田需死せり。吾は張儀・犀首・薛公のうち、一人魏に相たる者有らんことを恐ると。代曰く、然り、相(二)は誰にして君之を便なりと欲するかと。昭魚曰く、吾は太子の自ら相たらんことを欲すと。代曰く、請ふ君の爲に北して必ず之を相とせんと。昭魚曰く、奈何と。對へて曰く、君其れ梁王(三)と爲れ、代請ふ君に說かんと。昭魚曰く奈何と。對へて曰く、代や楚より來れり。昭魚甚だ憂へて曰く、田需死す、吾は張儀・犀首・薛公のうち、一人の魏に相たる者有るを恐ると。代曰く、梁王は長主(四)なり、必ず張儀を相とせじ、張儀相たらば必ず秦を右(五)にして魏を左にせん。犀首相たらば、必ず韓を右にして魏を左にせん。薛公相たるも、必ず齊を右にして魏を左にせん。梁王は長主なり、必ず便とせじと。王曰はん、然らば則ち寡人は孰をか相とせんと。代曰はん、太子の自ら相たるに若くは莫し。太子の自ら相たらんに

如かじ。衛の魏を德とせんこと、必ず終に窮り無からんと。成陵君曰く、諾すと。如耳は魏王に見えて曰く、臣は衛に謁ふこと有り、衛は故周室の別なり。其の小國と稱するも寶器は多し。今國は難に迫りて、而も寶器の出でざる者は、其心以爲らく、衛を攻むるも衛を醳すも、(七)王を以て主と爲さず。故に寶器出づと雖も、必ず王に入らざらんと。臣竊に之を料るに、先づ衛を醳すを言ふ者は、必ず衛に(八)受くる者ならんと。如耳出づ。成陵君入り、其言を以て魏王に見ゆ。魏王は其說を聽き、其兵を罷めて成陵君を免ず。(九)終身見えず。

(一) 魏の說客なり　(二) 趙の險要地　(三) 同上　(四) 切り縮む　(五) 合從の主人公　(六) 釋に同じ、放免なり　(七) 魏王を主なる裁決者と爲さず　(八) 寶器なり　(九) 成陵君隱退して終身魏王に見えず

曰。昔者魏伐レ趙。斷二羊腸一拔二閼與一。約斬レ趙。趙分而爲レ二。所三以不二亡者一。魏爲二從主一也。今衛已迫レ亡。將二西請一レ事於秦一。與二其以レ秦醳一レ衛。不レ如三以レ魏醳二衛。衛之德レ魏。必終無レ窮。成陵君曰。諾。如耳見二魏王一曰。臣有レ謁二於衛一。衛故周室之別也。其稱二小國一多二寶器一。今國迫二於難一。而寶器不レ出者。其心以爲攻レ衛醳レ衛。不二以レ王爲一レ主。故寶器雖レ出。必不レ入二於王一也。臣竊料レ之。先言レ醳レ衛者。必受レ衛者也。如耳出。成陵君入。以二其言一見二魏王一。魏王聽二其說一。罷二其兵一。免二成陵君一。終身不レ見。

襄陵。諸侯執政。與秦相張儀會齧桑。十三年。張儀相魏。魏有女子。化爲丈夫。秦取我曲沃。平周。十六年。襄王卒。子哀王立。張儀復歸秦。哀王元年。五國共攻秦。不勝而去。二年。齊敗我觀津。五年。秦使樗里子伐取我曲沃。走犀首岸門。六年。秦求立公子政爲太子。與秦會臨晉。七年。攻齊。與秦伐燕。

つ。

(一)陝西鄜州の地 (二)河南陝州なり、曲沃は晉世家に出づ (三)陝西華州より同州の地方 (四)河南汝州 (五)山西蒲州榮河縣北を汾陰とす、皮氏は山西絳州に屬す (六)河南開封府新鄭縣南方 (七)陝西楡林府に屬する河西の魏地 (八)山西隰州 (九)楚の彭城と魏の大梁との中間地 (一〇)山西汾州府 (一一)直隷冀州武邑縣

八年。伐衛拔列城二。衛君患之。如耳見衛君曰。請罷魏兵。免成陵君可乎。衛君曰。先生果能。孤請世世以衛事先生。如耳見成陵君

八年衛を伐ちて、列城二を拔く。衛君之を患ふ。如耳は衛君に見えて曰く、請ふ魏兵を罷めて、成陵君を免せん、可ならんやと。衛君曰く、先生果して能くせば、孤請ふ世世衛を以て先生に事へんと。如耳成陵君に見えて曰く、昔は魏は趙を伐ち、羊腸を斷ち閼與を拔き、約して趙を斬るに、趙分れて二と爲りき。亡びざりし所以の者は、魏が從の主爲ればなり。今は衛已に亡に迫れり、將に西して秦に事へんとを請はんとす。其の秦を以て衛を釋さん與は、魏を以て衛を釋すに

寡人甚醜之。叟不遠千里。辱幸至弊邑之廷。將何以利吾國。孟軻曰。君不可以言利若是。夫君欲利。則大夫欲利。大夫欲利。則庶人欲利。上下爭利。國則危矣。爲人君仁義而已矣。何以利爲。三十六年。復與齊王會甄。是歲惠王卒。子襄王立。襄王元年。與諸侯會徐州。相王也。追尊父惠王爲王。

五年。秦敗我龍賈軍四萬五千于雕陰。圍我焦曲沃。予秦河西之地。六年。與秦會應。秦取我汾陰。皮氏。焦。魏伐楚。敗之陘山。七年魏盡入上郡于秦。秦降我蒲陽。八年。秦歸我焦。曲沃。十二年。楚敗我

五年秦は我が龍賈の軍四萬五千を雕陰（一）に敗り、我が焦（二）と曲沃とを圍む。秦に河西（三）の地を予ふ。六年、秦と應（四）に會す。秦は我汾陰（五）・皮氏・焦を取る。魏は楚を伐つて、之を陘山（六）に敗る。七年、魏は盡く上郡（七）を秦に入る。秦は我が蒲陽（八）を降す。八年秦は我に焦・曲沃を歸す。十二年、楚は我が襄陵を敗る。諸侯の執政は、秦相張儀と齧桑（九）に會す。十三年、張儀は魏に相たり。魏に女子有り、化して丈夫と爲る。秦は我が曲沃・平周（一〇）を取る。十六年襄王卒し、子哀王立つ。張儀は復秦に歸る。哀王の元年、五國共に秦を攻む、勝たずして去る。二年齊は我が觀津（一一）を敗る。五年、秦は樗里子をして伐つて我曲沃を取り、犀首を岸門に走らしむ。六年、秦は求めて公子政を立てて太子と爲す。秦と臨晉に會す。七年齊を攻め、秦と燕を伐

秦。於レ是徙治二大梁一。以二公子赫一爲二太子一。三十三年。秦孝公卒。商君亡レ秦歸レ魏。魏怒不レ入。三十五年。與二齊宣王一會二平阿南一。惠王數敗二於軍旅一。卑レ禮厚レ幣。以招二賢者一。鄒衍。淳于髡。孟軻皆至レ梁。梁惠王曰。寡人不佞。兵三折二於外一。太子虜。上將死。國以空虚。以羞二先君宗廟社稷一。

うして、以て賢者を招く。鄒衍・淳于髡・孟軻は皆梁に至れり。梁の惠王曰く、(五)寡人不佞なり、兵は三たび外に折れ、太子は虜にせられ、上將は死し、國は以て空虚なり。以て先君の宗廟社稷を羞かしむ。寡人甚だ之を醜づ。叟(六)千里を遠しとせずして辱く幸に弊邑の廷に至る、將何を以て吾國を利せんとすると。孟軻曰く、君は以て利を言ふこと是の若くなるべからず。夫れ君利を欲すれば則ち大夫も利を欲し、大夫利を欲すれば則ち庶人も利を欲す。上下利を爭はば國則ち危からん。人君爲るものは仁義のみ、何ぞ利を以て爲せんと。三十六年復齊王と甄(七)に會す。是の歳惠王卒し、子襄王立つ。襄王の元年、諸侯と徐州(八)に會す、(九)相王とするなり。父惠王を追尊して王と爲す。

(一) 山西解州安邑縣 (二) 河南開封府祥符縣 (三) 山東曹州府 (四) 軍事の義 (五) 孟軻を引見せし時の語なり、孟子開卷第一章參照 (六) 老人の尊稱 (七) 山東曹州京濮州東方 (八) 江蘇徐州府 (九) 相互に位を尊んで王とするなり

太子自將攻ㇾ齊。大勝并ㇾ莒。則富不ㇾ過ㇾ有ㇾ魏。貴不ㇾ益ㇾ爲ㇾ王。若戰不ㇾ勝ㇾ齊。則萬世無ㇾ魏矣。此臣之百戰百勝之術也。太子曰。諾。請必從二公之言一而還矣。客曰。太子雖ㇾ欲ㇾ還不ㇾ得矣。彼勸二太子一戰攻。欲ㇾ啜ㇾ汁者衆。太子雖ㇾ欲ㇾ還。恐不ㇾ得矣。太子因欲ㇾ還。其御曰。將出而還與ㇾ北同。太子果與二齊人一戰敗二於馬陵一。齊虜二魏太子申一殺二將軍涓一。軍遂大破。

と欲す。其御曰く、將出でて還るは北ぐると同じと。太子果して齊人と戰ひ、(八)馬陵に敗る。齊は魏の太子申を虜にし、將軍涓を殺し、軍遂に大いに破る。

(一)孫臏　(二)河南開封府杞縣東の方　(三)說客の名　(四)進言の義　(五)齊世家參照　(六)太子の卒ゐる將卒　(七)戰功の恩賞を望む者の義、賞賚を謂ふ　(八)直隸大名府元城縣東方

三十一年。秦趙齊共伐ㇾ我。秦將商君詐二我將軍公子卬一而襲奪二其軍一破ㇾ之。秦用二商君一東地至ㇾ河。而齊趙數破ㇾ我。安邑近ㇾ

三十一年、秦趙齊共に我を伐つ。秦將商君は、我が將軍公子卬を詐りて、襲うて其軍を奪ひ之を破る。秦は商君を用ひ、東して地は河に至り、齊趙は數〻我を破る。(一)安邑は秦に近し。是に於て徙りて(二)大梁に治す。公子赫を以て太子と爲す。三十三年秦の孝公卒し、商君秦を亡げて魏に歸するに、魏は怒つて入れず。三十五年、齊の宣王と(三)平阿の南に會す。惠王は數〻(四)軍旅に敗れ、禮を卑うし幣を厚

社平。侵宋黄池。宋復取之。十七年。與秦戰元里。秦取我少梁。圍趙邯鄲。十八年。拔邯鄲。趙請救于齊。齊使田忌。孫臏救趙。敗魏桂陵。十九年。諸侯圍我襄陵。築長城塞固陽。二十年。歸趙邯鄲。與盟漳水上。二十一年。與秦會彤。趙成侯卒。

二十八年。齊威王卒。中山君相魏。三十年。魏伐趙。趙告急齊。齊宣王用孫子計。救趙擊魏。魏遂大興師。使龐涓將。而令太子申爲上將軍。過外黃。外黃徐子謂太子曰。臣有百戰百勝之術。太子曰。可得聞乎。客曰。固願效之。曰。

二十八年、齊の威王卒す。中山君は魏に相たり。三十年に魏は趙を伐つ。趙は急を齊に告ぐ。齊の宣王は孫子(一)の計を用ひ、趙を救うて魏を擊つ。魏遂に大いに師を興し、龐涓をして將たらしめ、太子申をして上將軍と爲らしめ、外黃(二)を過ぐ。外黃の徐子(三)太子に謂つて曰く、臣に百戰百勝の術有りと。太子曰く、聞くを得べきかと。客曰く、固に之を效さんこと(四)を願ふ。曰く、太子自ら將として齊を攻む。大いに勝つて莒(五)を幷すとも、則ち富は魏を有つに過ぎず、貴は王爲るを益さず。若し戰つて齊に勝たずんば、則ち萬世魏無けん。此れ臣が百戰百勝の術なりと。太子曰く、諾す、請ふ必ず公の言に從つて還らんと。客曰く、太子還らんと欲すと雖も得ざらん(六)。彼は太子に勸めて戰攻せしむ、汁(七)を啜らんと欲する者は衆し。太子還らんと欲すと雖も、恐くは得ざらんと。太子因りて還らん

于懐。三年。齊敗我觀。五年。與韓會宅陽。城武堵。爲秦所敗。六年。伐取宋儀臺。九年。伐敗韓于澮。與秦戰少梁。虜我將公孫痤。取龐。秦獻公卒。子孝公立。十年。伐取趙皮牢。彗星見。十二年。星晝墜有聲。十四年。與趙會鄗。十五年。魯衛宋鄭君來朝。十六年。與秦孝公會

宅陽城(四)に會す。武堵(五)は秦の敗る所と爲る。六年伐つて宋の儀臺(六)を取る。九年伐つて韓を澮に敗り、秦と少梁に戰ひ、我將公孫痤を虜にせられ、龐(七)を取らる。秦の獻公卒し、子孝公立つ。十年伐つて趙の皮牢(八)を取る。彗星見る。十二年、星晝墜ちて聲有り。十四年趙と鄗(九)に會す。十五年、魯衛宋鄭の君來朝す。十六年、秦の孝公と杜平(一〇)に會し、宋の黄池(一一)を侵す。宋復之を取る。十七年、秦と元里(一二)に戰ひ、秦は我が少梁を取る。趙の邯鄲を圍む。十八年邯鄲を拔く。趙は救を齊に請ふ。齊は田忌・孫臏をして趙を救はしめ、魏を桂陵(一三)に敗る。十九年、諸侯我が襄陵(一四)を圍む。長城を築き固陽(一五)に塞す。二十年、趙に邯鄲を歸し、與に漳水の上に盟ふ。二十一年秦と彤(一六)に會す。趙の成侯卒す。

(一) 山東濮州　(二) 河南懐慶府　(三) 山東濮州　(四) 河南開封府滎陽縣　(五) 河南魏の地名　(六) 臺名、一に義に作る　(七) 陝西同州府韓城縣、少梁の附近なり　(八) 直隷祁州　(九) 直隷趙州柏郷縣　(一〇) 陝西同州府　(一一) 呉世家參照　(一二) 陝西同州府　(一三) 山東曹州　(一四) 山西平陽府襄陵縣　(一五) 黄河に臨める魏の要塞　(一六) 陝西延安府

今魏罃得二王錯一挾二上黨一。固半國也。因而除レ之。破レ魏必矣。不レ可レ失也。懿侯既說。乃與二趙成侯一合レ軍并レ兵。以伐レ魏。戰二于濁澤一。魏氏大敗。魏君爲レ趙謂レ韓曰。除二魏君一立二公中緩一。割レ地而退。我且レ利。韓曰。不可。殺二魏君一人必曰レ暴。割レ地而退。人必曰レ貪。不レ如レ兩二分之一。魏分爲レ兩。不レ彊二於宋衞一。則我終無二魏之患一矣。趙不レ聽。韓不レ說。以二其少卒一夜去。惠王之所二以身不レ死國不レ分者。二家謀不レ和也。若從二一家之謀一。則魏必分矣。故曰。君終無二適子一。其國可レ破也。

地を割いて退かば、我且に利せんとすと。韓曰く、不可なり。魏君を殺さば人必ず暴と曰はん、地を割いて退かば、人必ず貪と曰はん。之を兩分するに如かじ。魏分れて兩と爲らば、宋衞よりも彊からず、則ち我は終に魏の患無けんと。趙聽かず、韓說ばず。其少卒を以て夜去る。惠王の身死せず國分れざりし所以の者は、二家の謀和せざればなり。若し一家の謀に從はば、則ち魏は必ず分れん。故に曰く、(六)君終りて適子無くんば、其國は破るべしと。

(一) 魏の公子仲緩　(二) 山西潞安府に屬す、三晉の分領地なり　(三) 罃と王錯とを指す　(四) 河南許州　(五) 一本爲の字國に作る　(六) 古語なるべし、君主死して立つべき嫡子無き義

二年。魏敗二韓于馬陵一。敗二趙

二年魏は韓を馬陵に敗り、(一)趙を懐に敗る。(二)三年、齊は我を觀に敗る。(三)五年韓と

武侯。魏武侯元年。趙敬侯初立。公子朔爲亂。不勝奔魏。與魏襲邯鄲。魏敗而去。二年。城安邑。王垣。七年。伐齊至桑丘。九年。翟敗我于澮。使吳起伐齊至靈丘。齊威王初立。十一年。與韓趙三分晉地。滅其後。十三年。秦獻公縣櫟陽。十五年。敗趙北藺。十六年。伐楚取魯陽。武侯卒。子罃立。是爲惠王。

て魯陽を取る。(一三)武侯卒して子罃立つ、是を惠王と爲す。

(一)河南陝州の山名　(二)河南衞輝府延津縣　(三)河南汝州の地　(四)山西平陽府襄陵縣　(五)陝西同州府華陰縣　(六)山西寧武府なり、武城の下の義なり　(七)安邑は山西解州、王垣は山西絳州　(八)直隸易州　(九)山西絳州　(一〇)山西大同府靈丘縣　(一一)陝西西安府臨潼縣　(一二)山西汾州府永寧州　(一三)河南汝州魯山縣

惠王元年。初武侯卒也。子罃與公中緩。爭爲太子。公孫頎自宋入趙。自趙入韓。謂韓懿侯曰。魏罃與公中緩。爭爲太子。君亦聞之乎。

惠王の元年、初め武侯の卒するや、子罃と公中緩と(一)太子爲ることを爭ふ。公孫頎は宋より趙に入り、趙より韓に入り、韓の懿侯に謂つて曰く、魏罃と公中緩と太子爲るを爭ふと。君も亦之を聞けりや。今魏罃は王錯を得て上黨を挾む、(二)固に半國なり。因りて之を除かば、魏を破らんこと必せり、失ふべからずと。懿侯既に說び、乃ち趙の成侯と(三)軍を合せ兵を幷せ、以て魏を伐つて濁澤に戰ふ。(四)魏氏大いに敗れて、魏君趙の爲に韓に謂つて曰く、(五)魏君を除きて公中緩を立て、

璜。二子何如。克對曰。君不察故也。居視其所親。富視其所與。達視其所擧。窮視其所不爲。貧視其所不取。五者足以定之矣。何待克哉。是以知魏成子之爲相也。且子安得與魏成子比乎。魏成子以食祿千鍾。什九在外。什一在內。是以東得卜子夏。田子方。段干木。此三人者。君皆師之。子之所進五人者。君皆臣之。子惡得與魏成子比也。翟璜逡巡再拜曰。璜鄙人也。失對。願卒爲弟子。

二十六年。虢山崩壅河。三十二年。伐鄭城酸棗。敗秦于注。三十五年。齊伐取我襄陵。三十六年。秦侵我陰晉。三十八年。伐秦。敗我武下。得其將識。是歲文侯卒。子擊立。是爲

二十六年、虢山崩れて(一)河を壅ぐ。三十二年、鄭を伐つて酸棗に城き(二)、秦を注に敗る(三)。三十五年、齊は伐つて我が襄陵(四)を取る。三十六年、秦は我が陰晉を侵す。三十八年秦を伐ち、我が武下(六)に敗り、其將識を得たり。是歲文侯卒し(五)、子擊立つ、是を武侯と爲す。魏の武侯の元年、趙の敬侯初めて立ち、公子朔は亂を爲し、勝たずして魏に奔り、魏と邯鄲を襲ふ。魏敗れて去る。二年安邑・王垣(七)に城く。七年齊を伐つて桑丘(八)に至る。九年、翟は我を澮(九)に敗る。吳起をして齊を伐たしめて靈丘(一〇)に至る。齊の威王初めて立つ。十一年、韓・趙と晉の地を三分して、其後を滅す。十三年、秦の獻公は櫟陽(一一)を縣にす。十五年趙の北藺(一二)を敗る。十六年楚を伐ち

所ニ親記一。臣何負ニ於魏成子一。西河之守。臣之所レ進也。君内以レ鄴爲レ憂。臣進ニ西門豹一。君謀欲レ伐ニ中山一。臣進ニ樂羊一。中山已拔。無レ使レ守レ之。臣進ニ先生一。君之子無レ傅。臣進ニ屈侯鮒一。臣何以負ニ於魏成子一。李克曰。且子之言ニ克於子之君一者。豈將ニ比周以求ニ大官一哉。君問而置レ相非レ成則

やと。李克曰く、且つ子の克を子が君に言ひし者は、豈將に比周(四)して以て大官を求めんとせんや。君問ふ、相を置くに、成に非ずんば則ち璜、二子何如と。克對へて曰く、君の察せざるが故なり。居には其の親む所を視、富には其の與ふる所を視、達には其の擧ぐる所を視、窮には其の爲さざる所を視、貧には其の取らざる所を視る、五者以て之を定むるに足らん、何ぞ克を待たんやと。是を以て魏成子の相と爲るを知れり。且つ子安ぞ魏成子と比するを得んや。魏成子は食祿千鍾(五)を以て、什の九(六)は外に在り、什の一のみ内に在り。是を以て東のかた卜子夏・田子方・段干木を得たり。此三人の者は君皆之を師とす。子が進むる所の五人の者は、君皆之を臣とす。子惡ぞ魏成子と比するを得んやと。翟璜逡巡再拜して曰く、璜は鄙人なり、對(七)を失へり。願くは卒に弟子と爲らんと。

(一) 退いて休息せよ　(二) 親聴し記憶す　(三) 負け劣る　(四) 黨を作り相援引雷同するなり　(五) 六斛四斗の稱なれどもたゞ概稱のみ　(六) 十分の九は他人に與ふ　(七) 對ふる所を誤れり

思ニ良妻ー。國亂則思ニ良相ー。今所レ置非レ成則璜、二子何如。李克對曰。臣聞レ之卑不レ謀レ尊。疎不レ謀レ戚。臣在ニ闕門之外ー不ニ敢當ー命。文侯曰、先生臨レ事勿レ讓。李克曰。君不レ察故也。居視ニ其所レ親。富視ニ其所レ與。達視ニ其所レ擧。窮視ニ其所レ不レ爲。貧視ニ其所レ不レ取、五者足ニ以定レ之矣。何待レ克哉。

(一) 直隸大名府元城縣 (二) 經學藝術 (三) 車前の横木に伏拜するを曰ふ (四) 河南彰德府臨漳縣 (五) 鄴を中心とする地方 (六) 相として置かんと欲す (七) 文侯の弟魏成子 (八) 良臣翟璜 (九) 宮門 (一〇) 身分高貴なる場合 (一一) 窮しても不義を爲さず (一二) 貧にても妄に取らず

文侯曰。先生就レ舍。寡人之相定矣。李克趨而出。過ニ翟璜之家ー。翟璜曰。今者聞。君召ニ先生ー而卜レ相。果誰爲レ之。李克曰、魏成子爲レ相矣。翟璜忿然作レ色曰。以三耳目之

文侯曰く、先生舍に就け、(一)寡人の相は定まれりと。李克趨りて出で、翟璜の家を過ぐ。翟璜曰く、今は聞く、君は先生を召して相を卜せりと。果して誰か之と爲ると。李克曰く、魏成子相爲らんと。翟璜忿然として色を作して曰く、耳目の(二)覩記する所を以てせば、臣何ぞ魏成子に負かんや。西河の守は臣が進めし所なり。君が内に鄴を以て憂と爲すや、臣は西門豹(三)を進め、君が謀りて中山を伐たんと欲するや、臣は樂羊を進め、中山已に拔けて之を守らしむる無きや、臣は先生を進め、君の子に傅無きや、臣は屈侯鮒を進めき。臣何ぞ以て魏成子に負けん

二十四年。秦伐レ我至二陽狐一。二十五年。子擊生二子罃一。文侯受二子夏經藝一。客二段干木一。過二其閭一未二嘗不一レ軾也。秦嘗欲レ伐レ魏。或曰。魏君賢人是禮。國人稱レ仁。上下和合。未レ可レ圖也。文侯由レ此得二譽於諸侯一任二西門豹一守レ鄴。而河内稱レ治。魏文侯謂二李克一曰。先生嘗敎二寡人一曰。家貧則

二十四年に秦は我を伐ちて陽狐に至る。二十五年子擊は子罃を生む。文侯は子夏に經藝を受け、段干木を客とす。其閭を過ぐるに、未だ嘗て軾せずんばあらざるなり。秦嘗て魏を伐たんと欲す。或ひと曰く、魏君は賢人を是れ禮し、國人は仁を稱し、上下和合す、未だ圖るべからざるなりと。文侯此れ由り譽を諸侯に得たり。西門豹に任じて鄴を守らしむ、而して河内治を稱せり。魏の文侯は李克に謂つて曰く、先生嘗て寡人に敎へて曰く、家貧なれば則ち良妻を思ひ、國亂るれば則ち良相を思ふと。今は置く所は成に非ざれば則ち璜が、二子は何如と。李克對へて曰く、臣之を聞く、卑は尊を謀らず、疎は戚を謀らずと。臣は闕門の外に在り、敢て命に當らずと。文侯曰く、先生事に臨んで讓ること勿れと。李克曰く、君が察せざる故なり。居には其の親む所を視、富には其の與ふる所を視、達には其の擧ぐる所を視、窮には其の爲さざる所を視、貧には其の取らざる所を視る。五者以て之を定むるに足らん。何ぞ克を待たんと。

生魏侈。魏侈與趙鞅共攻范中行氏。魏侈之孫曰魏桓子。與韓康子趙襄子。共伐滅知伯。分其地。桓子之孫曰文侯都。魏文侯元年。秦靈公之元年也。與韓武子。趙桓子。周威烈王同時。六年。城少梁。十三年使子擊圍繁龐。出其民。十六年。伐秦築臨晉元里。十七年。伐中山。使子擊守之。趙倉唐傅之。子擊逢文侯之師田子方於朝歌。引車避下謁。田子方不爲禮。子擊因問曰。富貴者驕人乎。且貧賤者驕人乎。子方曰。亦貧賤者驕人耳。夫諸侯而驕人。則失其國。大夫而驕人。則失其家。貧賤者行不合。言不用。則去之楚越。若脫躧然。奈何其同之哉。子擊不懌而去。西攻秦。至鄭而還。築雒陰合陽。二十二年。魏趙韓列爲諸侯。

の者人に驕らんのみ。夫れ諸侯にして人に驕れば則ち其國を失ひ、大夫にして人に驕れば則ち其家を失ふ。貧賤の者は、行合はず言用ひられざれば、則ち去りて楚越に之くこと、(八)躧を脫するが若く然り。奈何ぞ其れ之に同じからやんと。子擊懌ばずして去る。西して秦を攻め、鄭に至りて還り、(九)雒陰合陽に築く。二十二年、魏・趙・韓は列して諸侯と爲る。

(一) 晉君に對して相題しかりしなり (二) 趙世家參照 (三) 陝西同州府韓城縣 (四) 陝西潞州府臨晉縣の附近 (五) 同上、元里も其附近 (六) 河南衞輝府淇縣 (七) 將に同じ (八) 草履 (九) 洛水の南と郃水の北

晉頃公之十二年。韓宣子老。魏獻子爲ニ國政ー。晉宗室祁氏羊舌氏相惡。六卿誅レ之。盡取ニ其邑ー爲ニ十縣ー。六卿各令三其子爲ニ之大夫ー。獻子與ニ趙簡子中行文子范獻子ー並爲ニ晉卿ー。其後十四歲。而孔子相レ魯。後四歲。趙簡子以ニ晉陽之亂ー也。而與ニ韓魏ー共攻ニ范中行氏ー。魏獻子

晉の頃公の十二年、韓宣子老し、魏獻子をして國政を爲さしむ。晉の宗室祁氏と羊舌氏と相惡し。六卿之を誅し、盡く其邑を取りて十縣と爲し、六卿各〻其子をして之が大夫(一)爲らしむ。獻子は趙簡子・中行文子・范獻子と、並に晉の卿と爲れり。其後十四歲にして孔子魯に相たり。後四歲、趙簡子は晉陽の亂(二)を以て、而して韓・魏と共に范・中行氏を攻む。魏獻子は魏侈を生む。魏侈は趙鞅と、共に范・中行氏を攻む。魏侈の孫を魏桓子と曰ふ。韓康子・趙襄子と共に伐つて知伯を滅し、其地を分つ。桓子の孫を文侯都と曰ふ。魏の文侯の元年は、秦の靈公の元年なり。韓武子・趙桓子・周の威烈王と時を同じうす。六年少梁(三)に城く。十三年、子擊をして繁龐(四)を圍んで其民を出さしむ。十六年秦を伐ち、臨晉・元里(五)に築く。十七年中山を伐ち、子擊をして之を守らしむ、趙倉唐之に傅たり。子擊は文侯の師田子方に朝歌(六)に逢ふに、車を引いて避け下り謁す。田子方は禮を爲さず。子擊因りて問うて曰く、富貴の者人に驕るか、且(七)貧賤の者人に驕るかと。子方曰く、亦貧賤

子襲二魏氏之後一。封列爲二大夫一。治二於魏一。生二悼子一。魏悼子徙治レ霍。生二魏絳一。魏絳事二晉悼公一。悼公三年會二諸侯一。悼公弟楊干亂レ行。魏絳僇二辱楊干一。悼公怒曰。合二諸侯一以爲レ榮。今辱二吾弟一。將レ誅二魏絳一。或說二悼公一。悼公止。卒任二魏絳政一。使レ和二戎翟一。戎翟親附。悼公之十一年。曰。自三吾用二魏絳一。八年之中。九合二諸侯一。戎翟和。子之力也。賜二之樂一。三讓。然後受レ之。徙治二安邑一。魏絳卒。謚爲二昭子一。生二魏嬴一。嬴生二魏獻子一。獻子事二晉昭公一。昭公卒。而六卿彊。公室卑。

を(三)僇辱す。悼公怒つて曰く、諸侯を合せて以て(四)榮と爲すに、今は吾弟を辱しむと。將に魏絳を誅せんとす。或ひと悼公に說く。悼公止め、卒に魏絳に政を任じ、(五)戎翟に和せしむ。戎翟親附す。悼公の十一年、曰く、吾魏絳を用ひたるより、八年の中に諸侯を(六)九合し、戎翟和せり、子の力なりと。之に(七)樂を賜ふに、三たび讓つて、然る後に之を受けき。徙りて(八)安邑に治す。魏絳卒す、謚して昭子と爲す。魏嬴を生む。嬴は魏獻子を生む。獻子は晉の昭公に事ふ。昭公卒して(九)六卿彊く、公室卑し。

(一) 名は舉 (二) 會の盟に陣列を亂す (三) 辱ぢしめ懲らす (四) 光榮を開く (五) 晉の西北境に接せる夷種の總稱 (六) 會盟の度數多きを概稱す (七) 舞樂隊 (八) 山西解州安邑縣 (九) 韓、魏、趙及び范、中行、智の六氏

滅之。以耿封趙夙。以魏封畢萬。爲大夫。卜偃曰。畢萬之後必大矣。萬滿數也。魏大名也。以是始賞。天開之矣。天子曰兆民。諸侯曰萬民。今命之大。以從滿數。其必有衆。初畢萬卜事晉。遇屯之比。辛廖占之曰。吉。屯固比入。吉孰大焉。其必蕃昌。畢萬封十一年。晉獻公卒。四子爭更立。晉亂。而畢萬之世彌大。從其國名爲魏氏。生武子。魏武子以魏諸子。事晉公子重耳。

大ならん、其れ必ず蕃昌せんと。(七)畢萬封ぜられて十一年、晉の獻公卒し、四子爭うて更〻立ち、晉亂る。而して畢萬の世は彌〻大なり。其國名に從つて魏氏と爲り、(八)武子を生む。魏武子は魏の諸子(九)を以て、晉の公子重耳に事ふ。

(一)陝西西安府臨潼縣　(二)斷絶す　(三)車右の護衛者　(四)共に姫姓の小邦なり皆山西に屬す　(五)卜筮官の郭偃　(六)水雷屯の卦が一轉して水地比となるは堅實より親密に進む義なり　(七)繁榮す　(八)家の名號　(九)庶子に同じ、嫡子に非ざるなり

晉獻公之二十一年。武子從重耳出亡。十九年反。重耳立爲晉文公。而令魏武

晉の獻公の二十一年、武子(一)は重耳に從うて出亡し、十九年にして反る。重耳立ちて晉の文公と爲るや、魏武子をして魏氏の後を襲がしめ、封じ列して大夫と爲す。魏に治す。悼子を生む。魏悼子は徙りて霍に治し、魏絳を生む。魏絳は晉の悼公に事ふ。悼公の三年諸侯を會す。悼公の弟楊干(二)は行を亂す。魏絳は楊干

魏之先畢公高之後也。畢公高與レ周同姓。武王之伐レ紂。而高封二於畢一。於レ是爲二畢姓一。其後絶レ封爲二庶人一。或在二中國一。或在二夷狄一。其苗裔曰二畢萬一。事二晉獻公一。獻公之十六年。趙夙爲レ御。畢萬爲レ右。以伐二霍耿魏一

巻四十四

魏世家第十四

魏の先は畢公高の後なり。畢公高は周と同姓なり。武王の紂を伐つや、高は畢(一)に封ぜられ、是に於て畢姓と爲りぬ。其後は封を絶ち(二)て庶人と爲り、或は中國に在り、或は夷狄に在り。其苗裔を畢萬と曰ふ、晉の獻公に事ふ。獻公の十六年、趙夙は御と爲り、畢萬は右(三)と爲り、以て霍(四)・耿・魏を伐つて之を滅すや、耿を以て趙夙を封じ、魏を以て畢萬を封じ、大夫と爲せり。卜偃曰く(五)、畢萬の後は必ず大ならん、萬は滿數なり、魏は大名なり。是を以て始めて賞するは、天之を開くなり。天子に兆民と曰ひ、諸侯に萬民と曰ふ。今は之に大を命じて、以て滿の數に從ふ。其れ必ず衆を有たんと。初め畢萬は晉に事ふるを卜するに、屯(六)の比に之くに遇へり。辛廖之を占つて曰く、吉なり、屯は固し、比は入る。吉孰か焉より

地大動。自二樂徐一以西。北至二平陰一。臺屋牆垣大半壞。地坼東西百三十步。六年。大饑。民譌言曰、趙爲號秦爲笑。以爲レ不レ信、視二地之生一レ毛。七年。秦人攻レ趙。趙大將李牧。將軍司馬尙。將擊レ之。李牧誅。司馬尙免。趙忽及齊將顏聚代レ之。趙忽軍破。顏聚亡去。以二王遷一降。八年十月邯鄲爲レ秦。

忽の軍破れ、顏聚は亡げ去る。王遷を以て降る。八年十月、邯鄲秦と爲りぬ。

㊀直隸順德府唐山縣　㊁山西朔平府魯平縣　㊂共に直隸正定府藁城地方　㊃藁城縣の西方　㊄直隸正定府平山縣　㊅大地震　㊆直隸正定府晉州　㊇山西汾州府　○譌言は僞言

太史公曰。吾聞二馮王孫一曰。趙王遷其母倡也。嬖二於悼襄王一。悼襄王廢二適子嘉一而立レ遷。遷素無レ行信レ讒。故誅二其良將李牧一。用二郭開一。豈不レ謬哉。秦既虜レ遷。趙之亡大夫共立レ嘉爲レ王。王レ代六歲。秦進レ兵破レ嘉。遂滅レ趙以爲レ郡。

太史公曰く、吾馮王孫に聞くに曰く、趙王遷は其母は倡なり、悼襄王に嬖せらる。悼襄王は適子嘉を廢して遷を立てき。遷は素より行無く讒を信ず。故に其良將李牧を誅して郭開を用ひたり、豈謬らずや。秦既に遷を虜にするや、趙の亡大夫は共に嘉を立てて王と爲し、代に王たること六歲なりき。秦は兵を進めて嘉を破り、遂に趙を滅して以て郡と爲しぬ。

㊀上黨の守馮亭の後裔なり　㊁娼妓　㊂寵愛　㊃放縱不品行

行信二於王一。王必厚割レ趙而贖二平都一。文信侯曰。善。因遣レ之。城二韓皋一。三年。龐煖將攻レ燕。禽二其將劇辛一。四年。龐煖將二趙楚魏燕之銳師一攻二秦蕞一。不レ拔。移攻レ齊取二饒安一。五年。傅抵將居二平邑一。慶舍將二東陽河外師一守二河梁一。六年。封二長安君一以レ饒。魏與二趙鄴一。九年。趙攻レ燕取二貍陽城一。兵未レ罷。秦攻レ鄴拔レ之。悼襄王卒。子幽繆王遷立。

平君湯沐の邑名なり、陝西延安府安定縣 (七)趙の西南境 (八)陝西西安府の屬邑 (九)直隷天津府滄州 (一〇)饒安の略稱 (一一)河南彰德府臨漳縣 (一二)貍或は漁の誤か

幽繆王遷元年。城二柏人一。二年。秦攻二武城一。扈輒率レ師救レ之。軍敗死焉。三年。秦攻二赤麗宜安一。李牧率レ師。與戰二肥下一。却レ之。封レ牧爲二武安君一。四年。秦攻二番吾一。李牧與レ之戰却レ之。五年。代

幽繆王遷の元年、柏人に城く。(一)二年秦は武城(二)を攻む、扈輒は師を率ゐて之を救ひ、軍敗れて死す。三年、秦は赤麗(三)・宜安を攻む。李牧は師を率ゐて與に肥下(四)に戰ひ、之を却く。牧を封じて武安君と爲す。四年秦は番吾(五)を攻む。李牧は之と戰つて之を却く。五年代(六)の地大いに動き、樂徐(七)より以西、北は平陰(八)に至るまで、臺屋牆垣大半壞れ、地は坼くること東西百三十歩なり。六年大いに饑ゑ、民謠言(九)して曰く、趙は爲に號き、秦は爲に笑ふ。以て信ならずと爲さば、地の毛を生ずるを視よと。七年秦人趙を攻む。趙の大將李牧と將軍司馬尚と、將として之を擊つに、李牧は誅せられ、司馬尙は免ぜられ、趙忽及び齊將顏聚之に代る。趙

道不成。二年。李牧將攻燕。拔武遂方城。秦召春平君。因而留之。泄鈞爲之謂文信侯曰、春平君者、趙王甚愛之。而郎中妬之。故相與謀曰、春平君入秦、秦必留之。故相與謀而內之秦也。今君留之、是絕趙而郎中之計中也。君不如遣春平君而留平都。春平君者、言

て之を留む。泄鈞は之が爲に文信侯に謂つて曰く、春平君は趙王甚だ之を愛して、而も郎中は之を妬む。故に相與に謀つて曰く、春平君秦に入らば、秦必ず之を留めんと。故に相與に謀りて之を秦に內れしなり。今は君之を留む。是れ趙を絕つて郎中の計中るなり。君は春平君を遣りて平都を留むるに如かず。春平君は言行王に信ぜらる。王必ず厚く趙を割いて平都を贖はんと。文信侯曰く、善しと。因りて之を遣る。韓皐に城く。三年龐煖將として燕を攻め、其將劇辛を禽にす。四年龐煖は趙楚魏燕の鋭師に將として、秦蕞を攻めて拔けず。移して齊を攻めて饒安を取りき。五年、傅抵は將として平邑に居り、慶舍は東陽に將たり。河外の師は河梁を守る。六年長安君を封ずるに饒を以てす。魏は趙に鄴を與ふ。九年趙は燕を攻めて貍陽城を取る。兵未だ罷まず。秦は鄴を攻めて之を拔く。悼襄王卒して、子幽繆王遷立つ。

(一) 邊境の守備を修む　(二) 直隸保州安平縣　(三) 同順天府固安縣　(四) 秦の呂不韋　(五) 宮中近侍の臣　(六) 春

羣臣皆以爲レ可。燕卒起二二軍一。車二千乘。栗腹將而攻レ鄗。卿秦將而攻レ代。廉頗爲二趙將一。破殺二栗腹一。虜二卿秦樂間一。十六年。廉頗圍レ燕。以二樂乘一爲二武襄君一。

に與ふ。二十年、秦王政初めて立つ。秦は我晉陽を拔く。二十一年孝成王卒す。廉頗は將として繁陽(九)を攻めて之を取る。樂乘をして之に代らしむるに、廉頗は樂乘を攻む。樂乘走り、廉頗も亡げて魏に入りぬ。子偃立つ、是を悼襄王と爲す。

(一)約交を趙と約せしむ　(二)酒代　(三)四方に敵境あるを謂ふ　(四)趙の假相にして將軍たり、樂乘　(五)山西太原地方　(六)領地を交換す　(七)龍兌・汾門は直隸易州に屬し臨樂は同順天府に屬す　(八)葛・武陽は直隸河間府に平舒は山西大同府に屬す　(九)魏の地なり河南彰德府內黃縣

十七年。假相大將武襄君。攻レ燕圍二其國一。十八年。延陵鈞率レ師。從二相國信平君一助レ魏攻レ燕。秦拔二我楡次三十七城一。十九年。趙與レ燕易レ土。以二龍兌汾門臨樂一與レ燕。燕以二葛武陽平舒一與レ趙。二十年。秦王政初立。秦拔二我晉陽一。二十一年。孝成王卒。廉頗將攻二繁陽一取レ之。使二樂乘代一レ之。廉頗攻二樂乘一。樂乘走。廉頗亡入レ魏。子偃立。是爲二悼襄王一。

悼襄王元年。大備。魏欲レ通二平邑中牟之

悼襄王の元年、(一)大いに備ふ。魏は平邑と中牟との道を通ぜんと欲して成らず。二年、李牧は將として燕を攻め、武遂(二)・方城(三)を拔く。秦は春平君を召し、因り

燕王令丞相栗腹約驩。以五百金爲趙王酒。還歸報燕王曰。趙氏壯者皆死長平。其孤未壯。可伐也。王召昌國君樂間而問之。對曰。趙四戰之國也。其民習兵。伐之不可。王曰。吾以衆伐寡。二而伐一可乎。對曰。不可。王曰。吾卽以五而伐一可乎。對曰。不可。燕王大怒。

燕王は丞相栗腹をして驩を約せしめ、五百金を以て趙王の酒(二)と爲す。還歸して燕王に報じて曰く、趙氏(一)の壯者は皆長平に死し、其孤は未だ壯ならず、伐つべしと。王は昌國君樂間を召して之を問ふに、對へて曰く、趙は四戰(三)の國なり、其民は兵に習ふ。之を伐つは不可なりと。王曰く、吾は衆を以て寡を伐ち、二にして一を伐つなり、可ならんかと。對へて曰く、不可なりと。王曰く、吾は卽ち五を以て一を伐つなり、可ならんかと。對へて曰く、不可なりと。燕王大いに怒る。羣臣は皆以て可と爲す。燕は卒に二軍を起す、車二千乘なり。栗腹は將として鄗を攻め、卿秦は將として代を攻む。廉頗は趙將と爲り、破りて栗腹を殺し、卿秦と樂間とを虜にす。十六年廉頗燕を圍み、樂乘を以て武襄君と爲す。十七年、假(四)相大將武襄君は、燕を攻めて其國を圍む。十八年、延陵鈞は師を率ゐ、相國信平君に從つて魏を助けて燕を攻む。秦は我が楡次(五)三十七城を拔く。十九年、趙は燕と土(六)を易ふ。龍兌(七)・汾門・臨樂を以て燕に與ふるに、燕は葛(八)・武陽・平舒を以て趙

主地而食之。不義三矣。趙遂發兵取上黨。廉頗將軍軍長平。七年。廉頗免。而趙括代將。秦人圍趙括。趙括以軍降。卒四十餘萬皆阬之。王悔不聽趙豹之計。故有長平之禍焉。王還不聽秦。秦圍邯鄲。武垣令傅豹王容。蘇射。率燕衆反燕地。趙以靈丘封楚相春申君。八年。平原君如楚請救。還。楚來救。及魏公子無忌亦來救。秦圍邯鄲乃解。十年。燕攻昌壯。五月拔之。趙將樂乘慶舍攻秦信梁軍破之。太子死。而秦攻西周拔之。徒父祺出。十一年。城元氏。縣上原。武陽君鄭安平死。收其地。十二年。邯鄲廥燒。十四年。平原君趙勝死。十五年。以尉文封相國廉頗爲信平君。

豹の計を聽かず、故に長平の禍有りしを悔ゆ。王還秦に聽かず。秦は邯鄲を圍む。(三)武垣の令傅豹・王容・蘇射は、燕の衆を率ゐて燕の地に反す。趙は靈丘を以て楚の相春申君を封ず。八年平原君楚に如き、救を請うて還る。楚來り救ふ。魏の公子無忌(四)も亦來り救ふに及び、秦の邯鄲を圍めるもの乃ち解けぬ。十年、燕は昌(五)壯を攻め、五月之を拔く。趙將樂乘・慶舍は、秦の信梁の軍を攻めて之を破る。太子死す。而して秦は西周を攻めて之を拔く。徒父祺出づ。(六)十一年元氏に(七)城いて上原(八)を縣にす。武陽君鄭安平死す、其地を收む。十二年邯鄲の廥(九)燒く。十四年平原君趙勝死す。十五年、尉文を以て相國に封じ、廉頗を信平君と爲す。

(一) 主の命を人民聽かず (二) 嶮崖より推陷して鏖殺す (三) 直隷河間府 (四) 信陵君なり (五) 前に出でたる城 (六) 境を出でて秦を制す (七) 直隷正定府元氏縣 (八) 元氏附近の地 (九) 芻秣の貯藏倉

國之地。其攻行。不可與爲雖必勿受也。王曰。今發百萬之軍而攻。踰年歷歲。未得一城也。今以城市邑十七幣吾國。此大利也。趙豹出。王召平原君與趙禹而告之。對曰。發百萬之軍而攻。踰歲未得一城。今坐受城市邑十七。此大利。不可失也。王曰。善。乃令趙勝受地。告馮亭曰。敝國使者臣勝。敝國君使勝致命。以萬戸都三封太守。千戸都三封縣令。皆世世爲侯。吏民皆益爵三級。吏民能相安。皆賜之六金。

を以て太守を封じ、千戸の都三もて縣令を封じ、皆世世侯と爲さん。吏民は皆爵三級を益さん。吏民能く相安んぜよ、皆之に六金を賜はんと。

㊀ 漸次に侵略す ㊁ 領域中斷して相連接せず ㊂ 必ず其の利を收めんと期するに喩ふ ㊃ 優良にして殊に強きなり、他に比するに數倍の強力あるを指す ㊄ 天子の都に近き地 ㊅ 其政旣に行はる

馮亭垂涕不見使者曰。吾不處三不義。也。爲主守地不能死固。不義一矣。入之秦不聽主令。不義二矣。賣

馮亭涕を垂れて使者に見えずして曰く、吾は三不義に處らじ。主の爲に地を守りて死する能はず、固に不義一なり。之を秦に入るゝに主令を聽かず、不義二なり。主の地を賣りて之に食む、不義三なりと。趙遂に兵を發して上黨を取る。廉頗軍に將として長平に軍せるに、七年に廉頗免じて、趙括代り將たり。秦人趙括を圍むや、趙括は軍を以て降る。卒四十餘萬は皆之を阬にす。王は趙

對曰。夫秦蠶ニ食韓氏ヲ。地中絶不レ令ニ相通一。固自以爲坐而受ニ上黨之地一也。韓氏所ニ以不レ入ニ於秦一者。欲レ嫁ニ其禍於趙一也。秦服ニ其勞一。而趙受ニ其利一。雖ニ彊大一不レ能レ得ニ之於小弱一。小弱顧能得ニ之於彊大一乎。豈可レ謂非ニ無レ故之利一哉。且夫秦以レ牛田レ之。水通レ糧。蠶ニ食上乘倍戰者一。裂ニ上

對へて曰く、夫れ秦は韓氏を蠶食し(一)、地は中絶して相通ぜしめず。固に自ら以爲に、坐して上黨の地を受けんと。韓氏(二)が秦に入れざる所以の者は、其禍を趙に嫁せんと欲するなり。秦は其勞に服して、趙は其利を受く。彊大と雖も之を小弱に得る能はざるに、小弱は顧りて能く之を彊大に得んや。豈故無きの利に非ずと謂ふべけんや。且つ夫れ秦は牛(三)を以て之に田し、水もて糧を通じ、上乘倍(四)戰の者を蠶食し、上國(五)の地を裂き、其政(六)行はる。與に難を爲すべからず。必ず受くること勿れと。王曰く、今百萬の軍を發して攻め、年を逾え歲を歷るすら未だ一城を得ざるに、今は城市邑十七を以て吾國に幣するは、此れ大利なりと。趙豹出づ。王は平原君と趙禹とを召して之を告ぐ。對へて曰く、百萬の軍を發して攻め、歲を踰えて未だ一城をも得ざるに、今坐して城市邑十七を受けんは、此れ大利なり失ふべからずと。王曰く、善しと。乃ち趙勝をして地を受けしめ、馮亭に告げて曰く、敝國の使者臣勝、敝國の君は勝に命を致さしむらく、萬戶の都三

之衣。乘二飛龍一上レ天。不レ至而墜。見二金玉之積如レ山。明日王召二筮史敢一占レ之。曰夢衣二偏裻之衣一者殘也。乘二飛龍一上レ天。不レ至而墜者。有レ氣而無レ實也。見二金玉之積如レ山者憂也。後三日韓氏上黨守馮亭使者至。曰。韓不レ能レ守二上黨一。入二之於秦一。其吏民皆安レ爲レ趙。不レ欲レ爲レ秦。有二城市邑十七一。願再拜入二之趙一。聽二王所三以賜二吏民一。王大喜。召二平陽君豹一。告レ之曰。馮亭入二城市邑十七一。受レ之何如。對曰。聖人甚禍二無レ故之利一。王曰。人懷二吾德一。何謂レ無レ故乎。

金玉の積むこと山の如き者を見るは憂なりと。後三日、韓氏の上黨の守馮亭の使者至る。曰く、韓は上黨を守る能はず、之を秦に入るゝに、其吏民は皆趙爲るに安んじて、秦と爲るを欲せず。城市邑十七有り、願くは再拜して之を趙に入れん。(五)王の吏民に賜ふ所以を聽かんと。王大いに喜び、平陽君豹を召して之に告げて曰く、馮亭は城市邑十七を入る、之を受くること何如と。對へて曰く、聖人は甚だ故無きの利を禍とすと。王曰く、人吾が德に懷く、何ぞ故無しと謂はんやと。

(一) 直隸保定京唐縣 (二) 河南汝州の地 (三) 左右色を異にせる衣服 (四) 破損の義 (五) 王はこの新附の民に何を賜與するか

今媼尊二長安君之位一。而封レ之以二膏腴之地一。多與二之重器一。而不レ及レ今令レ有レ功二於國一。一旦山陵崩。長安君何以自託二於趙一。老臣以下媼爲二長安君之計一短上也。故以爲レ愛レ之不レ若二燕后一。太后曰。諾。恣二君之所一レ使レ之。於レ是爲二長安君一約二車百乘一。質二於齊一。齊兵乃出。子義聞レ之曰。人主之子。骨肉之親也。猶不レ能下持二無功之尊。無勞之奉一。而守中金玉之重上也。而況於レ予乎。

子義之を聞いて曰く、人主の子は骨肉の親なり、猶無功の尊無勞の奉を持して、(九)金玉の重を守ること能はず。而るを況んや予に於てをやと。(一〇)

㊀今日まで存在せる者 ㊁非なり、一に徵に作るは誤なり ㊂侯として不足あるには非ず ㊃貴位重財及び諸器物を指す ㊄肥沃の地 ㊅太后の崩御を指す ㊆安んじ寄る ㊇準備す ㊈趙の賢人 ㊉金玉の重器

齊安平君田單將二趙師一。而攻二燕中陽一拔レ之。又攻二韓注人一拔レ之。二年。惠文后卒。田單爲レ相。四年。王夢衣二偏裻

齊の安平君田單は、趙の師に將として燕の中陽を攻めて之を拔き、又韓の注人を攻めて之を拔く。二年惠文后卒す。田單相と爲る。四年、王は夢に偏裻の衣を衣て、飛龍に乘じて天に上り、至らずして墜ち、金玉の積むこと山の如くなるを見る。明日王は筮史敢を召して之を占するに、曰く、夢に偏裻の衣を衣る者は殘なり、飛龍に乘じて天に上り、至らずして墜つる者は、氣有りて實無きなり。

父母愛子。則爲之計深遠。媼之送燕后也。持其踵爲之泣。念其遠也。亦哀之矣。已行。非不思也。祭祀則祝之曰。必勿使反。豈非計長久爲子孫相繼爲王也哉。太后曰。然。

左師公曰。今三世以前。至於趙王之子孫爲侯者。其繼有在者乎。曰。無有。曰。微獨趙。諸侯有在者乎。曰。老婦不聞也。曰。此其近者禍及身。遠者及其子孫。豈人主之子。侯則不善哉。位尊而無功。奉厚而無勞。而挾重器多也。

左師公曰く、今より三世以前、趙王の子孫の侯と爲りし者に至るまでに、其繼ぎて在る者有りやと。曰く、有ると無しと。曰く、獨り趙のみに微ず、諸侯にも在る者有りやと。曰く老婦は聞かざるなりと。曰く、此れ其近き者は禍其身に及び、遠き者は其子孫に及ぶなり。豈人主の子、侯として則ち善からざらんや。位尊くして功無く、奉厚うして勞無く、而も重器を挾むと多ければなり。今は媼、長安君の位を尊くして、之を封ずるに膏腴の地を以てし、多く之に重器を與ふ。而も今に及ぶまで國に功有らしめず。一旦山陵崩れば、長安君何を以て自ら趙に託せんや。老臣は媼が長安君の計を爲すこと短なりと以ふが故に、以爲らく之を愛すると燕后に如かずと。太后曰く、諾す。君の之を使ふ所に恣にせしめんと。是に於て長安君の爲に車百乘を約へて、齊に質たらしむ。齊兵乃ち出づ。

太后一。太后曰。老婦恃レ輦而行。曰。食得レ毋レ衰乎。曰。恃レ粥耳。曰。老臣間者殊不レ欲レ食。乃彊步日三四里。少益レ嗜レ食。和二於身一也。太后曰。老婦不レ能。太后不和之色少解。左師公曰。老臣賤息舒祺。最少不肖。而臣衰。竊憐二愛之一。願得下補二黑衣之缺一。以衞中王宮上。昧死以聞。

太后曰。敬諾。年幾何矣。對曰。十五歲矣。雖レ少願及レ未レ塡二溝壑一而託レ之。太后曰。丈夫亦愛二憐少子一乎。對曰。甚二於婦人一。太后笑曰。婦人異甚。對曰。老臣竊以爲媼之愛二燕后一賢二於長安君一。太后曰。君過矣。不レ若二長安君之甚一。左師公曰。

太后曰く、敬諾す、年幾何ぞやと。對へて曰く、十五歲なり。少しと雖も願くは未だ溝壑(一)に塡せざるに及んで之を託せんと。太后曰く、丈夫(二)も亦少子を愛憐するかと。對へて曰く、婦人よりも甚しと。太后笑つて曰く、婦人は異に甚しと。對へて曰く、老臣竊に以爲ふに、媼の燕后(三)を愛するは、長安君よりも賢れりと。太后曰く君過てり、長安君の甚しきに若かずと。左師公曰く、父母の子を愛するや、則ち之が爲に計ること深遠なり。媼の燕后を送るや、其踵(四)を持して之が爲に泣けり。其遠きを念ふや、亦之を哀めり。已に行くも思はざるに非ず、祭祀には則ち之を祝して曰く、必ず反らしむる勿れと。豈長久に子孫の爲に相繼いで王と爲るを計るに非ずやと。太后曰く、然りと。

(一) 賤者の死するを謂ふ　(二) 男子　(三) 太后の女にして燕王に嫁せる者　(四) 足を持して行くを止めんと欲す

求救於齊。齊曰。必以長安君爲質。兵乃出。太后不肯。大臣彊諫。太后明謂左右曰。復言長安君爲質者。老婦必唾其面。左師觸龍言。願見太后。太后盛氣而胥之。入徐趨而坐。自謝曰。老臣病足。曾不能疾走。不得見久矣。竊自恕而恐太后體之有所苦也。故願望見

長安君を質と爲すを言ふ者は、老婦必ず其面に唾せんと。左師(三)觸龍言ふ、願くは太后に見えんと。太后氣を盛んにして之を胥つ(四)。入り、徐に趨つて(五)坐し、自ら謝して曰く、老臣足を病み、曾ち疾く走る能はず。見るを得ざること久し。竊に自ら恕して(六)、太后の體の苦む所有らんことを恐る。故に太后を望見せんことを願へりと。太后曰く、老婦は輦(七)を恃みて行くと。曰く、食は衰ふる毋きを得るかと。曰く、粥を恃むのみと。曰く、老臣は間者殊に食を欲せず。乃ち彊ひて歩くこと日に三四里なれば、少しく食を嗜むを益して身に和ぐと。太后曰く、老婦は能はずと。太后不和の色少しく解く(八)。左師公曰く、老臣の賤息舒祺は最も少く不肖なり。而も臣衰ふ。竊に之を憐愛す。願くは黒衣(九)の缺を補うて、以て王宮を衞るを得んことを。昧死(一〇)して以聞すと。

(一) 惠文后なり　(二) 惠文后の末子　(三) 老人を優待する閑官なり　(四) 待つに同じ　(五) 一に趣に作る　(六) 身の不自由にくらべ推し測りて　(七) 車によりて行く　(八) 解け和らぐ　(九) 宮中侍衞者の服色なり、其缺員に補充せられんことを願ふなり　(一〇) 死罪に遭ふを顧みざる義

軍。二十六年。取三東胡歐二代地。二十七年。徙二漳水武平南。封二趙豹一爲二平陽君。河水出。大潦。二十八年。藺相如伐レ齊至二平邑一罷。城二北九門大城。燕將成安君公孫操弑二其王。二十九年。秦韓相攻而圍二閼與一。趙使二趙奢將一擊レ秦。大破二秦軍閼與下一。賜レ號爲二馬服君。三十三年。惠文王卒。太子丹立。是爲二孝成王一。

で、大いに潦す。二十八年、藺相如は齊を伐ち、平邑(四)に至りて罷む。北の九門(五)の大城を城く。燕の將成安君公孫操は其王を弑す。二十九年、秦韓相攻めて閼與(六)を圍む。趙は趙奢をして將として秦を撃たしめ、大いに秦軍を閼與の下に破る。號を賜うて馬服君と爲す。三十三年惠文王卒し、太子丹立つ、是を孝成王と爲す。

(一)山東東昌府の二邑　(二)河南開封府鄭州　(三)東胡が代の地を擾亂せしを平定せしなり　(四)山東靑州府　(五)直隸正定府藁城縣　(六)山西沁州にある趙城

孝成王元年。秦伐レ我拔二三城。趙王新立。太后用レ事。秦急攻レ之。趙氏

孝成王の元年、秦は我を伐ちて三城を拔く。趙王は新に立ち、太后(一)事を用ふ。秦急に之を攻む。趙氏救を齊に求む。齊曰く、必ず長安君(二)を以て質と爲せ、兵乃ち出でんと。太后肯かず。大臣彊ひて諫む。太后明に左右に謂つて曰く、復

陽決㆓河水㆒伐㆓魏氏㆒。大潦。漳水出。魏冉來相㆑趙。十九年。秦敗㆓我二城㆒。趙與㆓魏伯陽㆒。趙奢將攻㆓齊麥丘㆒取㆑之。二十年。廉頗將攻㆑齊。王與㆓秦昭王㆒遇㆓西河外㆒。二十一年。趙徙㆓漳水武平西㆒。二十二年大疫。置㆓公子丹㆒爲㆓太子㆒。二十三年。樓昌將攻㆓魏幾㆒不㆑能㆑取。十二月。廉頗將攻㆑幾取㆑之。二十四年。廉頗將攻㆓魏房子㆒拔㆑之。因城而還。又攻㆓安陽㆒取㆑之。

河の外に遇ふ。二十一年、趙は漳水を武平の西に徙す。二十二年大いに疫す。公子丹を置きて太子と爲す。二十三年、樓昌は將として魏の幾を攻め、取ること能はず。十二月、廉頗は將として幾を攻めて之を取る。二十四年、廉頗は將として魏の房子を攻めて之を拔き、因りて城いて還る。又安陽を攻めて之を取る。

㈠河南彰德府安陽縣 ㈡河南彰德府 ㈢河南の地名 ㈣陸地に水溢れたまる ㈤齊の北境に在り ㈥漳魏の會是なり ㈦河道を改むるなり ㈧河南彰德府 ㈨直隷趙州高邑縣 ㈩河南彰德府安陽縣

二十五年。燕周將攻㆓昌城高唐㆒取㆑之。與㆑魏共擊㆑秦。秦將白起破㆓我華陽㆒。得㆓一將㆒。

二十五年、燕周は將として昌城・高唐を攻めて之を取り、魏と共に秦を擊つ。秦の將白起は我を華陽に破りて、一將軍を得たり。二十六年東胡が代の地を歐せるを取る。二十七年、漳水を武平の南に徙す。趙豹を封じて平陽君と爲す。河水出

魏。反二巠分先兪於趙一。齊之事レ王。宜レ爲二上佼一。而今乃抵レ皐。臣恐天下後事レ王者之不二敢自必一也。顧王孰二計之一也。今王毋下與二天下一攻上レ齊。天下必以レ王爲レ義。齊抱二社稷一而厚事レ王。天下必盡重二王義一。王以二天下一善レ秦。秦暴王以二天下一禁レ之。是一世之名寵。制二於王一也。於レ是趙乃輟謝レ秦不レ擊レ齊。王與二燕王一遇。廉頗將攻二齊昔陽一取レ之。

寵、王に制せらるゝなりと。是に於て趙は乃ち輟めて秦に謝して(九)齊を擊たず。王と燕王と遇ふ。廉頗將として(一〇)齊の昔陽を攻めて之を取る。

(一) 縱行なり齊について趙を伐つとなり (二) 接近して遠からざらん (三) 河南懷慶府の兩邑 (四) 山西代州雁門地方 (五) 最上の親交 (六) 王に事ふる者は皆心を固うする能はざらん (七) 天下を率ゐるなり (八) 名譽輝貴 (九) 辭謝す (一〇) 秦の昔陽の誤なり、山西平定州に屬す

十七年。樂毅將二趙師一攻二魏伯陽一。而秦怨三趙不下與レ己擊上レ齊。伐レ趙拔二我兩城一。十八年。秦拔二我石城一。王再之レ衞。東

十七年、樂毅は趙の師に將として、魏の伯陽(一一)を攻む。而も秦は趙が己と齊を擊たざるを怨み、趙を伐つて我兩城を拔く。十八年、秦は我石城(一二)を拔く。王再び衞に之き、東陽(一三)より河水を決して魏氏を伐つ。大いに潦す。漳(一四)水出づ。魏冉來りて趙に相たり。十九年秦は我二城を敗る。趙は魏に伯陽を與ふ。趙奢將として齊の麥丘(一五)を攻めて之を取る。二十年、廉頗は將として齊を攻む。王は秦の昭王と西(一六)

燕秦謀二王之河山一。間二三百里一而通矣。秦之上郡近二挺關一。至二於楡中一者。千五百里。秦以二三郡一攻二王之上黨一。羊腸之西。句注之南。非二王有一已。踰二句注一。斬二常山一而守レ之。三百里而通二於燕一。代馬胡犬不二東下一。昆山之玉不レ出。此三寶者。亦非二王有一已。

王久伐レ齊。從二彊秦一攻レ韓。其禍必至二於此一。願王孰二慮之一。且齊之所二以伐一者。以レ事レ王也。天下屬行以謀レ王也。燕秦之約成。而兵出有レ日矣。五國三二分王之地一。齊倍二五國之約一而殉二王之患一。西レ兵以禁二彊秦一。秦廢レ帝請レ服。反二高平根柔於

王久しく齊を伐ち、彊秦に從つて韓を攻む。其禍は必ず此に至らん。願くは王之を孰慮せよ。且つ齊の伐たるゝ所以の者は、王に事ふるを以てなり。天下屬(一)行して以て王を謀らん。燕秦の約成りて、兵の出づるや日有らん(二)。五國は王の地を三分せん。齊は五國の約に倍いて王の患に殉はんに、兵を西して以て彊秦を禁ぜば、秦は帝を廢して服を請ひ、高平(三)・根柔を魏に反し、巠分先俞(四)を趙に反さん。齊の王に事ふること、宜しく上佼(五)と爲るべし。而るに今は乃ち臯に抵る。臣恐らくは天下の後(六)に王に事へん者の敢て自ら必せざらんことを。願くは王之を孰計せよ。今王は天下と齊を攻むること毋くば、天下は必ず王を以て義と爲し、齊は社稷を抱いて厚く王に事へん。天下必ず盡く王の義を重んぜんとす。王(七)は天下を以て秦に善くし、秦暴なるときは王天下を以て之を禁ぜよ。是れ一世の名(八)

楚久伐而中山亡。今齊久伐而韓必亡。破レ齊王與二六國一分二其利一也。亡レ韓秦獨擅レ之。收二二周一西取二祭器一。秦獨私レ之。賦レ田計レ功。王之獲レ利。孰二與秦多一。說士之計曰、韓亡二三川一。魏亡二晉國一。市朝未レ變。而禍已及矣。燕盡二齊之北地一。去二沙丘鉅鹿一斂二三百里一。韓之上黨去二邯鄲一百里。

り。今齊は久しく伐たる、韓必ず亡びん。齊を破れば王と六國(一)と其利を分つも、韓を亡せば秦獨り之を擅にせん。二周を收めて西のかた祭器(二)を取らば、秦獨り之を私せん。田に賦し功を計るに(三)、王の利を獲ること、秦の多きに孰與ぞや。說士(四)の計に曰く、韓は三川(五)を亡ひ、魏は晉國(六)を亡はば、市朝未だ變ぜずして禍已に及ばんと。燕は齊の北地を盡し、沙丘・鉅鹿(七)を去ること三百里を斂めたり。韓の上黨は邯鄲を去ること百里のみ。

ず。秦の上郡(八)は挺關(九)に近く、楡中(一〇)に至るまで千五百里なり。秦は三郡(一一)を以て王の上黨を攻めば、羊腸(一二)の西、句注(一三)の南は王の有に非ざらん。句注を踰え常山を斬りて之を守らば、三百里にして燕に通ぜん。代馬胡犬(一四)も東に下らず、昆山(一五)の玉も出でざらん。此三寶(一六)の者も亦王の有に非じ。

(一)趙韓魏秦齊楚 (二)周の先王の祭器 (三)田租を取り事功を計る (四)游說の士 (五)河南汝寧府汝陽縣 (六)古の晉の國都 (七)共に直隷平鄉縣 (八)陝西延安府 (九)趙西邊の要塞 (一〇)又楡林といふ (一一)或は曰く郡は軍の誤かと (一二)太行山の羊腸坂 (一三)山名 (一四)代の駿馬胡の良犬 (一五)崑崙山 (一六)馬と犬と玉と

鬼神一也甘露降。時雨至。年穀豐熟。民不二疾疫一衆人善レ之。然而賢主圖レ之。今足下之賢行功力。非三數加二於秦一也。怨毒積怒。非三素深二於齊一也。秦趙與國。以彊徵二兵於韓一。秦誠愛レ趙乎。其實憎レ齊乎。物之甚者。賢主察レ之。秦非二愛レ趙而憎一レ齊也。欲三亡レ韓而吞二二周一。故以レ齊餤二天下一。恐二事之不一レ合。故出レ兵以劫二魏趙一。恐二天下畏一レ己也。故出レ質以爲レ信。恐二天下亟反一也。故徵二兵於韓一以威レ之。聲以德二與國一而實伐二空韓一。臣以二秦計一爲三必出二於此一。

秦誠に趙を愛するか、其れ實に齊を憎むか。物の甚しき者は賢主之を察す。秦は趙を愛して齊を憎むに非ざるなり。韓を亡して二周(六)を呑まんと欲す。故に齊を以て天下に餤はすに、事(七)の合はざるを恐る。故に兵を出して以て魏趙を劫すなり。天下の己を畏るゝを恐る。故に質(八)を出して以て信と爲す。天下の亟に反するを恐る。故に兵を韓に徵して以て之を威す。聲は以て與國に德して、實は空韓を伐つなり。臣は秦の計を以て、必ず此に出づと爲ふ。

(一)敎化順深　(二)時節に應じたる供物　(三)憂慮痛心す　(四)施し加へず　(五)同盟親交の國　(六)東西二周　(七)其事の成功せざるかを氣遣ふ　(八)人質

夫物固有二勢異而患同者一。

夫れ物は固より勢異にして患同じき者有り。楚は久しく伐たれて中山は亡びた

置爲西帝。十一年。董叔與魏氏伐宋。得河陽於魏。秦取梗陽。十二年。趙梁將攻齊。十三年。韓徐爲將攻齊。公主死。十四年。相國樂毅。將趙秦韓魏燕攻齊。取靈丘。與秦會中陽。十五年。燕昭王來見。趙與韓魏秦共擊齊。齊王敗走。燕獨深入取臨菑。十六年。春復與趙數擊齊。齊人患之。

り、秦と中陽に會す。十五年、燕の昭王來り見ゆ。趙は韓魏秦と共に齊を擊ち、齊王敗走す。燕獨り深く入りて臨菑(八)を取る。十六年、秦復趙と數ゝ齊を擊つ。齊人之を患ふ。

(一) 直隷省易州に在る二邑の名　(二) 直隷正定府行唐縣　(三) 河南汝州魯山縣　(四) 立つに同じ　(五) 河南彰德府　(六) 山西太原府　(七) 惠文王の妹なり　(八) 齊の主都

蘇厲爲齊遺趙王書曰。臣聞古之賢君。其德行非布於海內也。敎順非洽於民人也。祭祀時享非數常於

蘇厲は齊の爲に趙王に書を遺りて曰く、臣聞く、古の賢君は、其德行海内に布くに非ざるなり、敎順民人に洽きに非ざるなり、祭祀時享(二)數ゝ鬼神に常なるに非ざるなり。甘露(一)降り時雨至り、年穀豐熟し、民疾疫せざるは、衆人之を善しとす。然も賢主は之を圖る(三)。今足下の賢行功力は、數ゝ秦に(四)加ふるに非ず、怨毒積怒は、素より齊に深きに非ず。秦は趙の與國(五)となり、彊を以て兵を韓に徵すは、

圍二主父宮一。公子章死。公子成李兌謀曰。以二章故一圍二主父一。卽解レ兵。吾屬夷矣。乃遂圍二主父一。令二宮中人後出者夷一。宮中人悉出。主父欲レ出不レ得。又不レ得レ食。探二爵鷇一而食レ之。三月餘。而餓二死沙丘宮一。主父定死。乃發レ喪赴二諸侯一。是時王少。成兌專レ政。畏レ誅。故圍二主父一。主父初以二長子章一爲二太子一。後得二吳娃一愛レ之。爲不レ出者數歲。生二子何一。乃廢二太子章一而立レ何爲レ王。吳娃死。愛弛。憐二故太子一。欲二兩王一レ之。猶豫未レ決。故亂起。以至二父子俱死一。爲二天下笑一。豈不レ痛乎。

の太子を憐んで、兩ながら之を王とせんと欲し、猶豫して未だ決せず。故に亂起り、以て父子俱に死して、天下の笑と爲るに至りぬ。豈痛しからずや。

㊀ 直隷省平鄉縣　㊁ 前に出でたる信期なり　㊂ 國都　㊃ 司法大臣の類　㊄ 宮門を開いて之を受け入る
㊅ 誅滅　㊆ 雀の雛鳥　㊇ 惠后なり

主父死。惠文王立。立五年。與二燕鄚易一。八年。城二南行唐一。九年。趙梁將。與レ齊合レ軍攻レ韓。至二魯關下一。及二十年一。秦自

主父死して、惠文王立つ。立つの五年、燕に鄚と易とを與ふ。八年(一)南行唐に城く。九年趙梁將たり、齊と軍を合せて韓を攻め、(二)魯關の下に至る。十年に及び、秦自ら置いて(三)西帝と爲る。十一年、董叔は魏氏と宋を伐ち、(四)河陽を魏に得たり。秦は(五)梗陽を取る。十二年、趙梁は將として齊を攻む。十三年、韓徐將と爲り齊を攻む。(六)公主死す。(七)十四年、相國樂毅は趙秦韓魏燕に將として齊を攻め、靈丘を取

沙丘一異レ宮。公子章卽以二其徒一。與二田不禮一作レ亂。詐以二主父令一召レ王。肥義先入。殺レ之。高信卽與レ王戰。公子成與二李兌一自レ國至。乃起二四邑之兵一。入距レ難。殺二公子章及田不禮一。滅二其黨賊一。而定二王室一。公子成爲レ相。號二安平君一。李兌爲二司寇一。公子章之敗。往走二主父一。主父開レ之。成兌因

し、詐るに主父の令を以てして王を召す。肥義先づ入る、之を殺す。(二)高信は卽ち王と與に戰ふ。公子成は李兌と國(三)より至り、乃ち四邑の兵を起し、入りて難を距ぎ、公子章及び田不禮を殺して、其黨賊を滅して王室を定む。公子成は相と爲りて安平君と號し、李兌は(四)司寇と爲りぬ。公子章の敗るゝや、往いて主父に走るに、主父之を(五)開く。成・兌因りて主父の宮を圍み、公子章死す。公子成と李兌と謀つて曰く、章の故を以て主父を圍めり、卽し兵を解かば吾が屬は(六)夷せられんと。乃ち遂に主父を圍み、宮中の人の後れ出づる者は夷すと令す。宮中の人悉く出づ。主父出でんと欲するも得ず、又食をも得ず。(七)爵・鷇を探つて之を食ひ、三月餘にして沙丘宮に餓死す。主父定に死するや、乃ち喪を發して諸侯に赴ぐ。是時に王少く、成兌政を專にし、誅を畏る。故に主父を圍みしなり。主父は初め長子章を以て太子と爲し、後に(八)吳娃を得て之を愛し、爲に出でざる者數歲、子何を生むや、乃ち太子章を廢し、何を立てて王と爲せり。吳娃死するや愛弛み、故

殘也。讒臣在中。主之蠹也。此人貪而欲大。內得主而外爲暴。矯令爲慢。以擅一旦之命。不難爲也。禍且逮國。今吾憂之。夜而忘寐。饑而忘食。盜賊出入。不可不備。自今以來。若有召王者。必見吾面。我將先以身當之。無故而王乃入。信期曰。善哉。吾得聞此也。四年。朝羣臣。安陽君亦來朝。主父令王聽朝。而自從旁觀窺羣臣宗室之禮。見其長子章。傫然也反北面爲臣。詘於其弟。心憐之。於是乃欲分趙而王章於代。計未決而輟。

饑ゑて食を忘る。盜賊の出入は備へざるべからず。自今以來、若し王を召ぶ者有らば、必ず吾が面を見よ。我將に先身を以て之に當らんとす。(四)故無くして王乃ち入れと。信期曰く、善い哉、吾は此を聞くを得たり(五)と。四年羣臣を朝す。安陽君も亦來朝す。主父は王をして朝を聽かしめて、自ら旁より觀る。羣臣宗室(六)の禮を窺ふに、其長子章が傫然(七)として、反つて北面して臣と爲り、其弟に詘するを見て、心に之を憐み、是に於て乃ち趙を分つて章を代に王とせんと欲し、計未だ決せずして輟む。

(一) 表面の言　(二) 殘害　(三) 詐僞の義　(四) 事故無き場合　(五) 忠烈の大決心　(六) 公族の者　(七) 疲憊の貌

主父及王游

主父と王と沙丘(一)に遊び、宮を異にす。公子章は即ち其徒を以て田不禮と亂を作

變負之臣。不レ容ニ於刑一。諺曰。死者復生。生者不レ愧。吾言已在レ前矣。吾欲レ全ニ吾言一。安得レ全ニ吾身一。且夫貞臣也。難至而節見。忠臣也。累至而行明。子則有レ賜而忠レ我矣。雖レ然吾有ニ語在レ前者一也。終不ニ敢失一。李兌曰。諾。子勉レ之矣。吾見レ子已今年耳。涕泣而出。李兌數見ニ公子成一。以備ニ田不禮之事一。

李兌曰く、諾、子之を勉めよ。吾の子を見んこと已に今年のみと。涕泣して出づ。李兌數〻公子成に見えて、以て田不禮の事に備ふ。

㈠ 前年の義 ㈡ 節度 ㈢ 終身を期すべし ㈣ 記録す ㈤ 命に背反す ㈥ 節義を變じ命令に負く者は如何なる刑罰を以てするも足らず ㈦ 節義一貫の義なり ㈧ 忠言を加賜す

異日肥義謂ニ信期一曰。公子與ニ田不禮一甚可レ憂也。其於レ義也。聲善而實惡。此爲レ人也。不子不臣。吾聞レ之也。姦臣在レ朝。國之

異日肥義は信期に謂つて曰く、公子と田不禮とは甚だ憂ふべし。其の義に於けるや、聲は善くして實は惡し。此れ人と爲りや不子不臣なり。吾之を聞く、姦臣朝に在るは國の殘(一)なり。讒臣中に在るは主の蠹(二)なりと。此人は貪りて欲大なり。内に主を得て外に暴を爲し、命を矯め慢を爲し、以て一旦の命を擅にすること、爲すを難からず。禍且に國に逮ばんとす。今吾之を憂へ、夜にして寐を忘れ、

起。一出レ身微幸。夫小人有レ欲。輕慮淺謀。徒見ニ其利一而不レ顧ニ其害一。同類相推。倶入ニ禍門一。以レ吾觀レ之。必不レ久矣。子任重而勢大。亂之所レ始。禍之所レ集也。子必先レ患。仁者愛ニ萬物一而智者備ニ禍於未一レ形。不仁不智。何以爲レ國。子奚不三稱レ疾毋レ出。傳ニ政於公子成一。毋レ爲ニ怨府一。毋レ爲ニ禍梯一。

せんとする計劃　(六) 殺戮を敢行する殘忍の人物　(七) 僥倖を希求す

肥義曰。不可。昔者主父以レ王屬レ義也。曰。毋レ變ニ而度一。毋レ異ニ而慮一。堅ニ守一心一。以歿ニ而世一。義再拜受レ命而籍レ之。今畏ニ不禮之難一。而忘ニ吾籍一。變孰大レ焉。進受ニ嚴命一。退而不レ全。負孰甚レ焉。

肥義曰く、不可なり。昔は主父は王を以て義に屬して曰く、而の度を變ずる毋れ、而の慮を異にする毋れ、一心を堅守して、以て而の世を歿へよと。義再拜して命を受けて之を籍せり。今は不禮の難を畏れて吾が籍を忘れば、變孰か焉より大ならん、進んでは嚴命を受け、退いては全うせずんば、負くこと孰か焉より甚しからん。變負の臣は刑に容れず。諺に曰く、死者復生するも生者愧ぢずと。吾が言已に前に在り。吾は吾が言を全うせんと欲す。安ぞ吾身を全うするを得ん。且夫れ貞臣は、難至りて節見れ、忠臣は、累至りて行明なり。子は則ち賜ふこと有りて我に忠なり。然りと雖も吾は語の前に在る者有り、終に敢て失はじと。

遷二其王於膚施一。起二靈壽一。北地方從レ代道大通。還歸行レ賞。大赦置酒。酺五日。封二長子章一爲二代安陽君一。章素侈。心不レ服二其弟所レ立。主父又使二田不禮相レ章也。李兌謂二肥義一曰。公子章彊壯而志驕。黨衆而欲大。殆有レ私乎。田不禮之爲レ人也。忍レ殺而驕。二人相得。必有レ謀。陰賊

は大いに通ず。還歸して賞を行ひ大赦し、置酒して酺(三)すること五日。長子章を封じて代の安陽君と爲す。章は素より侈れり、心に其弟の立つる(四)所に服せず。主父は又田不禮をして章に相たらしむ。李兌は肥義に謂つて曰く、公子章は彊壯にして志驕り、黨衆くして欲大なり。殆ど私(五)有らん。田不禮の人と爲りや、殺(六)を忍んで驕る。二人相得ば必ず謀有らん。陰賊起つて、一たび身を出して徼幸せん。夫れ小人欲有り、輕慮淺謀し、徒に其利を見て其害を顧みざれば、同類(七)相推して、倶に禍門に入らん。吾を以て之を觀るに、必ず久しからじ。子は任重くして勢大なり、亂の始る所たり、禍の集る所たり。子必ず患を先にせん。仁者は萬物を愛して、智者は禍に未だ形れざるに備ふ。不仁不智ならば、何を以て國を爲めん。子奚ぞ疾と稱して出づる毋く、政を公子成に傳へざる。怨府と爲る毋れ、禍梯と爲る毋れと。

(一) 陝西延安府膚施縣 (二) 直隸正定府靈壽縣 (三) 酒肉を下賜する宴會 (四) 封立せられし事 (五) 私欲を恣に

十六年。復攻中山。攘地北至燕代。西至雲中九原。二十七年。五月戊申。大朝於東宮。傳國。立王子何。以爲王。王廟見禮畢。出臨朝。大夫悉爲臣。肥義爲相國。幷傅王。是爲惠文王。惠文王。惠后吳娃子也。武靈王自號爲主父。主父欲令子主治國。而身胡服。將士大夫。西北略胡地。而欲從雲中九原。直南襲秦。於是詐自爲使者入秦。秦昭王不知。已而怪其狀甚偉。非人臣之度。使人逐之。而主父馳已脫關矣。審問之。乃主父也。秦人大驚。主父所以入秦者。欲自略地形。因觀秦王之爲人也。惠文王二年。主父行新地。遂出代。西遇樓煩王於西河。而致其兵。

ず。已にして其狀甚だ偉にして、人臣の度(七)に非ざるを怪み、人をして之を逐はしむるに、主父は馳せて已に關を脫せり。審に之を問ふに乃ち主父なり。秦人大いに驚く。主父が秦に入りし所以の者は、自ら地形を略し、因りて秦王の人と爲りを觀んと欲せしなり。惠文王の二年、主父は新地を行り(八)、遂に代に出で、西して樓煩王に西河(九)に遇うて其兵を致す(一〇)。

(一) 直隷正定府井陘縣　(二) 直隷定州曲陽縣　(三) 三塞は皆中山の要地　(四) 皆趙の東邊の要地　(五) 共に胡地なり、山西大同府に屬す　(六) 宗廟謁見の禮　(七) 態度　(八) 巡察　(九) 山西汾州府　(一〇) 徵集す

三年。滅中山。

三年に中山を滅して、其王を膚施(一)に遷す。靈壽より起りて北地方、代從りする道

二十一年。攻二中山一。趙袑爲二右軍一。許鈞爲二左軍一。公子章爲二中軍一。王幷將レ之。牛翦將二車騎一。趙希幷二將胡代一。趙與レ之陘。合二軍曲陽一。攻二取丹丘。華陽。鴟之塞一。王軍取二鄗石邑封龍東垣一。中山獻二四邑一和。王許レ之罷レ兵。二十三年。攻二中山一。二十五年。惠后卒。使三周袑胡服傅二王子何一。二

二十一年中山を攻む。趙袑は右軍爲り、許鈞は左軍爲り、公子章は中軍爲り。王に幷せて之に將たり、牛翦は車騎に將たり、趙希は胡代趙に幷せ將たり。與に陘(一)に之いて軍を曲陽(二)に合し、(三)丹丘・華陽・鴟の塞を攻め取る。王の軍は鄗(四)・石邑・封龍・東垣を取る。中山は四邑を獻じて和せんとす。王之を許して兵を罷む。二十三年中山を攻む。二十五年惠后卒す。周袑をして胡服して王子何に傅たらしむ。二十六年復中山を攻め、地を攘うて北は燕代に至り、西は雲中九原(五)に至る。二十七年五月戊申、大いに東宮に朝して國を傳ふ。王子何を立てて以て王と爲す。王は廟見(六)して禮畢り、出でて朝に臨み、大夫悉く臣と爲る。肥義は相國と爲り、幷せて王に傅たり。是を惠文王と爲す。惠文王は惠后吳娃の子なり。武靈王は自ら號して主父と爲る。主父は子をして國を治むるに主たらしめんと欲し、身は胡服して士大夫を將ゐ、西北して胡地を略し、雲中九原從り、直に南して秦を襲はんと欲す。是に於て詐つて自ら使者と爲りて秦に入るに、秦の昭王知ら

古未可非。而循禮未足多也。且服奇者志淫、則是鄒魯無奇行也。俗辟者民易。則是吳越無秀士也。且聖人利身謂之服。便事謂之禮。夫進退之節。衣服之制者。所以齊常民也。非所以論賢者也。故齊民與俗流。賢者與變俱。故諺曰。以書御者。不盡馬之情。以古制今者。不達事之變。循法之功。不足以高世。法古之學。不足以制今。子不及也。遂胡服招騎射。二十年。王略中山地。至寧葭。西略胡地。至楡中。林胡王獻馬。歸。使樓緩之秦。仇液之韓。王賁之楚。富丁之魏。趙爵之齊。代相趙固主胡致其兵。

の功は以て世を高うする(一二)に足らず、古に法るの學は以て今を制するに足らず。子及ばざるなりと。遂に胡服して騎射を招く(一三)。二十年、王は中山の地を略して寧葭(一四)に至り、西は胡地を略して楡中(一五)に至る。林胡王馬を獻ず。歸りて樓緩をして秦に之き、仇液をして韓に之き、王賁をして楚に之き、富丁をして魏に之き、趙爵をして齊に之かしむ。代の相趙固は胡を主りて其兵を致す(一六)。

(一) 伏義なり (二) 教化するのみ誅罰を行はず (三) 傳承せず (四) 傳承して改變せず (五) 結構なりと賞美す (六) 先聖の法服を用ふる鄒魯の國に奇行の士無き筈なり (七) 變化して邪僻となると云はゞ吳越に秀士無き筈なり (八) 普通の人民 (九) 普通一般の人民 (一〇) 時勢と倶に推移す (一一) 書籍によりて馬を御す (一二) 世を誇異せしむ (一三) 騎射の士を招聘す (一四) 一に寧葭に作る (一五) 河北の地名 (一六) 胡兵を徵集せしむ

王曰。先王不同俗。何古之法。帝王不相襲。何禮之循。虙戲神農教而不誅。黃帝堯舜誅而不怒。及至三王。隨時制法。因事制禮。法度制令。各順其宜。衣服器械。各便其用。故禮也不必一道。而便國不必古。聖人之興也。不相襲而王。夏殷之衰也。不易禮而滅。然則反

王曰く、先王は俗を同じうせず、何ぞ古に之れ法らん。帝王は相襲がず、何の禮にか之れ循はん。(一)虙戲・神農(二)は教へて誅せず、黃帝堯舜は誅して怒らず。三王に至るに及んで、時に隨ひ法を制し、事に因りて禮を制せり。法度制令は各々其宜に順ひ、衣服器械は各々其用に便するのみ。故に禮は一道なるを必とせずして、國に便なるは古なるを必とせず。聖人の興るや相襲(三)がずして王たり。夏殷の衰へしや、禮を易へ(四)ずして滅せり。然らば則ち古に反くも未だ非るべからずして、禮に循ふも未だ多とする(五)に足らざるなり。且服の奇なる者は志淫すといはば、則ち是れ鄒魯(六)に奇行無きなり。且聖人は身に利する之を服と謂ひ、事に便ずる之を禮と謂ふなり、俗の辟なる者は民易る(七)とせば、則ち是れ呉越に秀士無きなり。夫れ進退の節、衣服の制は、常民(八)を齊ふる所以なり、賢者を論ずる所以に非ざるなり。故に齊民(九)は俗と流れ、賢者は變と倶にす。故に諺に曰く、書(一一)を以て御する者は馬の情を盡さず、古を以て今を制(一〇)する者は事の變に達せずと。法に循ふ

且昔者簡主不㆑塞㆓晉陽㆒。以及㆓上黨㆒。而襄主幷㆑戎取㆑代。以攘㆓諸胡㆒。此愚知所㆑明也。先時中山負㆓齊之彊兵㆒。侵㆓暴吾地㆒。係㆓累吾民㆒。引㆑水圍㆓鄗㆒。微㆓社稷之神靈㆒。則鄗幾㆓於不㆑守也。先王醜㆑之。而怨未㆑能㆑報也。今騎射之備。近可㆔以便㆓上黨之形㆒。而遠可㆔以報㆓中山之怨㆒。而叔順㆓中國之俗㆒。以逆㆓簡襄之意㆒。惡㆓變服之名㆒。以忘㆓鄗事之醜㆒。非㆓寡人之所㆑望也。公子成再拜稽首曰。臣愚不㆑達㆓於王之義㆒。敢道㆓世俗之聞㆒。臣之辠也。今王將㆘繼㆓簡襄之意㆒。以順㆗先王之志㆖。臣敢不㆑聽㆑命乎。再拜稽首。乃賜㆓胡服㆒。明日服而朝。於㆑是始出㆓胡服令㆒也。趙文。趙造。周袑。趙俊皆諫止。王毋㆓胡服㆒。如㆓故法㆒便。

服の名を惡んで、以て鄗事の醜を忘るゝは、寡人の望む所に非ざるなりと。公子成再拜稽首して曰く、臣は愚なり、王の義に(九)達せず、敢て世俗の聞を道へり、臣の辠なり。今王將に簡襄の意を繼ぎて、以て先王の志に順はんとす。臣敢て命を聽かざらんやと。再拜稽首す。乃ち胡服を賜ふ。明日服して朝す。是に於て始めて胡服の令を出す。趙文・趙造・周袑・趙俊は皆諫め止むらく、王よ胡服する毋れ、(一〇)故法に如ふこと便なりと。

(一) 黃河と漳水と (二) 具備せざるなり (三) 東胡・樓煩・林胡 (四) 晉陽の險を塞がず容易に趙の上黨に達せしむ
(五) 愚者も智者も (六) 捕虜とす (七) 趙國の神明の助力 (八) 恥辱 (九) 胡服の眞精神 (一〇) 舊法

果可㆔以便㆓其事㆒。不㆑同㆓其禮㆒。儒者一㆑師而俗異。中國同㆑禮而教離。況於㆓山谷之便㆒乎。故去就之變。智者不㆑能㆑一。遠近之服。賢聖不㆑能㆑同。窮鄉多㆑異。曲學多㆑辯。不㆑知而不㆑疑。異㆓於己㆒而不㆑非者。公焉而衆求盡㆑善也。今叔之所㆑言者俗也。吾所㆑言者所㆓以制㆒㆑俗也。

吾國東有㆓河薄洛之水㆒。與㆓齊中山㆒同㆑之。無㆓舟楫之用㆒。自㆓常山㆒以至㆓代上黨㆒。東有㆓燕東胡之境㆒。而西有㆓樓煩秦韓之邊㆒。今無㆓騎射之備㆒。故寡人無㆓舟楫之用㆒。夾㆑水居㆑之民。將何以守㆓河薄洛之水㆒。變㆑服騎射。以備㆓燕三胡秦韓之邊㆒。

吾が國は東に河薄洛(一)の水有り、齊と中山と之を同じうするも、舟楫(二)の用無し。常山より以て代上黨に至るまで、東に燕と東胡との境有りて、西に樓煩秦韓の邊有り。今は騎射の備無し、故に寡人に舟楫の用無くんば、水を夾み之に居るの民は、將何を以てか河薄洛の水を守らん。服を變じて騎射し、以て燕三胡(三)秦韓の邊に備へんとす。且昔は簡主は晉陽を塞がずして、以て上黨(四)に及び、襄主は戎を幷せ代を取り、以て諸胡を攘へり。此れ愚知の明にする所なり。先時は中山齊の彊兵を負んで、吾が地を侵暴し、吾民(五)を係累(六)し、水を引いて鄗を圍みぬ。社稷(七)の神靈微つせば、則ち鄗は守らざるに幾けん。先王之を醜(八)とするも、而も怨は未だ報ゆる能はざるなり。今騎射の備は、近く以て上黨の形を便にすべく、遠く以て中山の怨に報ずべし。而るに叔は中國の俗に順ひ、以て簡襄の意に逆ひ、變

請之曰。夫服者。所以便用也。禮者所以便事也。聖人觀鄕而順宜。因事而制禮。所以利其民而厚其國也。夫翦髮文身。錯臂左衽。甌越之民也。黑齒雕題。却冠秫絀。大吳之國也。故禮服莫同。其便一也。鄕異而用變。事異而禮易。是以聖人果可以利其國。不一其用。

禮を制す。其民を利して其國を厚うする所以なり。夫れ髮を翦り身を文し、臂を錯へ衽を左にするは甌越の民なり。齒を黑くし題(三)に雕り、(四)却冠秫絀するは大吳(二)の國なり。故に禮服同じき莫きも、其便は一のみ。鄕異にして用變じ、事異にして禮易る。是を以て聖人は、果して以て其國を利すべく、其用を一にせず。果して以て其事を便にすべく、其禮を同じうせず。儒者は師を一にして而も俗異なり、中國は禮を同じうして而も教離る。況んや山谷の便に於てをや。故に去就(五)の變は、智者も一にする能はず、遠近の服は、聖賢も同ずる能はず。(六)窮鄕異多く、曲(七)學辯多し。知らざれば疑はず、己に異なるも非らず、公にして衆に求むるは善を盡すなり。今は叔の言ふ所の者は俗なり、吾言ふ所の者は俗を制する所以なり。

(一) 適宜の服制を設く　(二) 臂を交ふるの謂　(三) 額に刺靑す　(四) 冠を捨て粗縫の衣を著るなり、却一に鉏に作る、魚皮の粗冠なり、秫は鉥に通ず大針なり　(五) 去るべきを去り就くべきに就く變遷　(六) 僻遠の地　(七) 一時的異態の學

善也。今寡人恐叔之逆從政之經、以輔叔之議。且寡人聞之、事利國者行無邪。因貴戚者名不累。故願慕公叔之義、以

所なり。遠方の觀て赴く所なり、蠻夷の義とし行ふ所なりと。今は王此を舍てて遠方の服を襲ね、古の敎を變へ、古の道を易へ、人の心に逆らひて、學者に怫り中國に離く。故に臣願くは王の之を圖らんことをと。使者以て報ず。

(一)叔父 (二)一に元與に作る、元は始なり與は平の義 (三)事は目的に至るを期し功は緒を出すを待つ (四)國家を治むる常道 (五)貴人及び母方の緣類 (六)愚不肖に同じ (七)善く通達するなり (八)特異穎敏なる技術藝能を試用す (九)之に從ひ倣ふ

成胡服之功。使緤謁之叔。請服焉。公子成再拜稽首曰。臣固聞王之胡服也。臣不佞。寢疾。未能趨走以滋進也。王命之。臣敢對。因竭其愚忠。曰。臣聞中國者。蓋聰明徇智之所居也。萬物財用之所聚也。賢聖之所教也。仁義之所施也。詩書禮樂之所用也。異敏技能之所試也。遠方之所觀赴也。蠻夷之所義行也。今王舍此而襲遠方之服。變古之敎。易古之道。逆人之心。而怫學者。離中國。故臣願王圖之也。使者以報。

王曰。吾固聞叔之疾也。我將自往請之。王遂往之公子成家。因自

王曰く、吾固に叔の疾を聞けり、我將に自ら往いて之を請はんとすと。王遂に往いて公子成の家に之き、因りて自ら之を請うて曰く、夫れ服は用を便にする所以なり、禮は事を便にする所以なり。聖人は鄕を觀て宜しきに從ひ、事に因りて

而國聽二於君一。古今之公行也。子不レ反レ親。臣不レ逆レ君。兄弟之通義也。今寡人作レ教易レ服。而叔不レ服。吾恐二天下議一レ之也。制レ國有レ常。利レ民爲レ本。從レ政有レ經。令行爲レ上。明レ德先論二於賤一。而行レ政先信二於貴一。今胡服之意。非二以養レ欲而樂一レ志也。事有レ所レ止。而功有レ所レ出。事成功立。然後

而るに叔服せずんば、吾は天下の之を議せんことを恐る。國を制するに常有り、民を利するを本と爲す、政に從ふに經有り、令の行はるゝを上と爲す。德を明にするは先づ賤に論し、政を行ふは先づ貴に信ぜらる。今や胡服の意は、以て欲を養うて志を樂ましむるには非ず。(三)事は止る所有りて、功は出づる所有り、事成り功立つて、然る後に善きなり。今や寡人は、叔の(四)從政の經に逆ひ、以て叔の議を輔けんを恐る。且寡人之を聞く、事の國に利ある者は行ひ邪無く、(五)貴戚に因る者は名累はされずと。故に願くは公叔の義を慕ひ、以て胡服の功を成さん。緤をして之を叔に謁げしむ、請ふ服せよと。公子成再拜稽首して曰く、臣固に王の胡服するを聞く。臣不佞(六)疾に寢ね、未だ趨に走り以て滋ゝ進むこと能はず。王之に命ず、臣敢て對へ、因りて其愚忠を竭さんとす。曰く、臣聞く、中國とは蓋し聰明(七)徇智の居る所なり、萬物財用の聚る所なり、賢聖の敎ふる所なり、仁義の施す所なり。詩書禮樂の用ふる所なり、(八)異敏技能の試る

和二於俗一。成二大功一者。不レ謀二於衆一。昔者舜舞二有苗一。禹袒二裸國一。非三以養レ欲而樂二レ志也。務以論レ德而約レ功也。愚者闇二成事一。智者覩二未形一。則王何疑焉。王曰。吾不レ疑二胡服一也。吾恐二天下笑一レ我也。狂夫之樂。智者哀焉。愚者所レ笑。賢者察焉。世有二順レ我者一。胡服之功。未レ可レ知也。雖三驅レ世以笑二レ我。胡地中山。吾必有レ之。於レ是遂胡服矣。

事に闇く、智者は未形を覩る。則ち王何ぞ疑はんと。王曰く、吾は胡服を疑はざるも、吾は天下の我を笑はんを恐る。狂夫の樂は智者哀み、愚者の笑ふ所は賢者察す。(四)世に我に順ふ者有りとも、胡服の功は未だ知るべからざらん。(五)世を驅りて以て我を笑ふと雖も、胡地と中山とは吾必ず之を有たんと。是に於て遂に胡服す。

(一) 疑を挾める行爲には大名作はず (二) 舜は苗人を征せずして舞樂せり (三) 南方の裸體の國にて肩ぬぎしたり (四) 考察し明白にす (五) 擧世ことごとく

使三王緤告二公子成一曰。寡人胡服。將三以朝一也。亦欲二叔服一レ之。家聽二於親一。

王緤をして公子成に告げしめて曰く、寡人胡服し、將に以て朝せんとす。亦叔の(一)之を服せんことを欲す。家は親に聽き、國は君に聽くは、古今の公行なり。子は親に反せず、臣は君に逆はざるは、兄弟の通義なり。今寡人教を作り服を易ふ。

俗之累。吾欲胡服。樓緩曰。善。羣臣皆不ㇾ欲。於ㇾ是肥義侍。王曰。簡襄主之烈。計胡翟之利。爲人臣者。寵有孝悌長幼順明之節。通有補民益主之業。此兩者臣之分也。今吾欲ㇾ繼襄主之跡。開於胡翟之鄕。而卒世不ㇾ見也。爲敵弱。用ㇾ力少而功多。可ㇾ以毋ㇾ盡百姓之勞。而序往古之勳。夫有高世之功者。負遺俗之累。有獨智之慮者。任驁民之怨。今吾將胡服騎射。以敎百姓。而世必議寡人。奈何。

夫れ高世の功有る者は、遺俗の累を負ひ、獨智の慮有る者は、驁民(一〇)の怨に任ず。今吾は將に胡服騎射して以て百姓に敎へんとす。而も世必ず寡人を議せん、奈何せんと。

(一) 二水の名、障は漳に通ず (二) 戎狄の地名 (三) 強大なる兵力 (四) 當代に傑出せる名譽 (五) 世俗より怪しみ誹らるゝ煩累 (六) 胡人の服裝 (七) 趙簡子趙襄子 (八) 成功を見るなからんを恐る (九) 述べ成す (一〇) 驕傲なる人民

肥義曰。臣聞。疑事無ㇾ功。疑行無ㇾ名。王既定ㇾ負遺俗之慮。殆無ㇾ顧天下之議矣。夫論至德者。不

肥義曰く、臣聞く、疑事は功無く、疑行(一一)は名無しと。王既に遺俗の慮に負くを定めたり、殆んど天下の議を顧みる無れ。夫れ至德を論ずる者は俗に和せず、大功を成す者は衆に謀らず。昔は舜は有苗に舞し、禹は裸國(一二)に袒せり。以て欲を養ひ志を樂ましむるには非ず、務めて以て德を論じて功を約にするなり。愚者は成

文赤鼎。絶レ臏而死。趙王使下代相趙固迎二公子稷於燕一送歸上。立爲二秦王一。是爲二昭王一。十九年、春正月。大朝二信宮一。召二肥義一與議二天下一。五日而畢。王北略二中山之地一。至二於房子一。遂之レ代。北至二無窮一。西至レ河。登二黄華之上一。

召二樓緩一謀曰。我先王因二世之變一。以長二南藩之地一。屬二阻障滏之險一。立二長城一。又取二藺郭狼一。敗二林人於荏一。而功未レ遂。今中山在二我腹心一。北有レ燕。東有レ胡。西有二林胡樓煩秦韓之邊一。而無二彊兵之救一。是亡二社稷一。奈何。夫有二高世之名一。必有二遺

樓緩を召して謀りて曰く、我が先王は世の變に因り、以て南藩の地に長じ、阻障滏の險に屬して長城を立て、又藺・郭狼(二)を取り、林人を荏に敗りぬ。而も功未だ遂げざりき。今中山は我が腹心に在り、北のかた燕を有ち、東のかた胡を有ち、西のかた林胡・樓煩・秦韓の邊を有つ。(三)而も彊兵の救無し。是れ社稷を亡はんとす、奈何せん。夫れ高世(四)の名有るものは必ず遺俗の累有り。吾胡服(六)せんと欲すと。樓緩曰く、善しと。羣臣は皆欲せず。是に於て肥義(五)侍す。王曰く、簡襄主(七)の烈、胡翟の利を計り、人臣爲る者は、孝悌長幼順明の節有るを寵し、補民益主の業有るを通ぜしむ。此兩者は臣の分なり。今は吾襄主の跡を繼ぎ、胡翟の鄕を開かんと欲す。而も世を卒ふるまで見(八)ざらんとす。敵の弱きを爲せば、力を用ふる少くして功は多からん、以て百姓の勞を盡す毋くして、往古の勳を序(九)ぶべし。

他日王夢見二處女鼓レ琴而歌一。詩曰。美人熒熒兮。顏若二苕之榮一。命乎命乎。曾無二我嬴一。異日王飲レ酒樂。數言レ所レ夢。想二見其狀一。吳廣聞レ之。因二夫人一而内二其女娃嬴孟姚一也。孟姚甚有レ寵二於王一。是爲二惠后一。十七年。王出二九門一爲二野臺一。以望二齊中山之境一。十八年。秦武王與二孟說一擧二龍

他日王は夢に處女の琴を鼓して歌ふを見るに、詩に曰く、美人熒熒(一)たり、顏は苕(二)の榮えたるが若し、命なる乎命なる乎、曾ち我を嬴(三)とするもの無しと。異日王酒を飲みて樂み、數〻夢みる所を言つて、其狀を想見す。吳廣之を聞き、夫人に因りて其女娃嬴(四)孟姚を内る。孟姚は甚だ王に寵有り、是を惠后と爲す。十七年王は九門(五)に出で、野臺(六)を爲りて以て齊と中山との境を望む。十八年、秦の武王は、孟說と龍文(七)の赤鼎を擧げ、臏(八)を絕つて死す。趙王は代の相趙固をして、公子稷を燕に迎へて送り歸らしめ、立てて秦王と爲す。是を昭王と爲す。十九年春正月、大いに信宮に朝し、肥義を召して與に天下を議し、五日にして畢る。王は北して中山の地を略し、房子(九)に至り、遂に代に之き、北して無窮(一〇)に至り、西して河に至り、黃華(一一)の上に登る。

(一)光輝の貌　(二)豆草の花　(三)美好　(四)娃は美女なり、嬴は美好の貌、美人の義　(五)常山の要塞　(六)野臺の名　(七)龍形の雕文ある赤色の鼎　(八)脛骨　(九)直隸趙州の地　(一〇)北方の邊境　(一一)山名

聽レ政。博聞師三人。左右司過三人。及レ聽政。先問二先王貴臣肥義一。加二其秩一。國三老年八十。月致二其禮一。三年。城レ鄗。四年。與レ韓會二于區鼠一。五年。娶二韓女一爲二夫人一。八年。韓擊レ秦不レ勝而去。五國相王。趙獨否。曰。無二其實一。敢處二其名一乎。令二國人一謂レ己曰レ君。九年。與二韓魏一共擊レ秦。秦敗レ我。斬レ首八萬級。齊敗二我觀澤一。十年。秦取二我西都及中陽一。齊破レ燕。燕相子之爲レ君。君反爲レ臣。十一年。王召二公子職於韓一。立以爲二燕王一。使二樂池送一レ之。十三年。秦拔二我藺一。虜二將軍趙莊一。楚魏王來過二邯鄲一。十四年。趙何攻レ魏。十六年。秦惠王卒。王遊二大陵一。

を娶りて夫人と爲す。八年韓は秦を擊ち、勝たずして去る。(八)五國相王たるに、趙は獨り否らず。曰く、其實無し、敢て其名に處らんやと。國人をして己を謂つて君と曰はしむ。九年韓魏と共に秦を擊つ。秦我を敗り、首を斬ること八萬級なり。齊は我を(九)觀澤に敗る。十年秦は我が西都(一〇)及び中陽(一一)を取る。齊は燕を破る。燕相子之君と爲り、君は反つて臣と爲る。十一年、王は公子職を韓より召し、立てて以て燕王と爲し、樂池をして之を送らしむ。十三年、秦は我が藺を拔きて、將軍趙莊を虜にす。楚魏の王來りて邯鄲を過ぐ。十四年趙何は魏を攻む。十六年秦の惠王卒す。王大陵に遊ぶ。

(一) 執に同じ (二) 洛州臨洛縣に在る殿名 (三) 補佐の官 (四) 寵愛し重せし臣 (五) 一鄉の長老にして教導を司る者 (六) 直隸趙州府高邑縣 (七) 河北に在る趙の地 (八) 韓魏齊燕楚は皆自ら王と稱せり (九) 直隸大名府 (一〇) 山西汾州府孝義縣 (一一) 西都の隣地

魏。十二年。秦孝公卒。商君死。十五年。起二壽陵一。魏惠王卒。十六年肅侯游二大陵一。出二於鹿門一。大戊午扣レ馬曰。耕事方急。一日不レ作。百日不レ食。肅侯下レ車謝。十七年。圍二魏黃一。不レ克。築二長城一。十八年。齊魏伐レ我。我決二河水一灌レ之。兵去。二十二年。張儀相レ秦。趙疵與レ秦戰敗。秦殺二疵河西一。取二我藺離石一。二十三年。韓擧與二齊魏一戰。死二于桑丘一。二十四年。肅侯卒。秦楚燕齊魏出二銳師各萬人一來會葬。子武靈王立。

二十三年、韓擧は齊魏と戰つて桑丘(一一)に死す。二十四年肅侯卒す。秦楚燕齊魏は、銳師各〻萬人を出し來りて會葬せしむ。子武靈王立つ。

(一) 山西安邑府屯留縣　(二) 陝西同州府華陰縣　(三) 山東兗州府高唐州　(四) 河北に在り　(五) 公子疵　(六) 山西に於ける國境の長城　(七) 山西太原府文水縣の東北方　(八) 大陵西北の要塞　(九) 河南懷慶府　(一〇) 山西汾州府永寧州　(一一) 直隸易州

武靈王元年。陽文君趙豹相。梁襄王與二太子嗣一。韓宣王與二太子倉一。來二朝信宮一。武靈王少。未レ能

武靈王の元年、陽文君趙豹相たり。(一)梁の襄王と太子嗣と、韓宣王と太子倉と信(二)宮に來朝す。武靈王少し、未だ政を聽く能はず。博聞の師三人、左右司過(三)三人あり。政を聽くに及び、先づ先王の貴臣肥義(四)を問ひ、其秩を加へ、國の三老(五)の年八十なるは、月ごとに其禮を致す。三年鄗(六)に城き、四年韓と區鼠(七)に會す。五年韓女

魏分レ晉。封二晉君一以二端氏一。十七年。成侯與二魏惠王一遇二葛孽一。十九年。與二齊宋一會二平陸一。與レ燕會レ阿。二十年。魏獻二榮椽一。因以爲二檀臺一。二十一年。魏圍二我邯鄲一。二十二年。魏惠王拔二我邯鄲一。齊亦敗二魏於桂陵一。二十四年。魏歸二我邯鄲一。與レ魏盟二漳水上一。秦攻二我藺一。二十五年。成侯卒。公子緤與二太子肅侯一爭レ立。緤敗亡奔レ韓。

肅侯元年。奪二晉君端氏一。徙處二屯留一。二年。與二魏惠王一遇二於陰晉一。三年。公子范襲二邯鄲一。不レ勝而死。四年。朝二天子一。六年。攻レ齊拔二高唐一。七年。公子刻攻二魏首垣一。十一年。秦孝公使二商君伐一レ魏。虜二其將公子卬一。趙伐レ

、肅侯の元年、晉君の端氏を奪ひ、徙して屯留(一)に處らしむ。二年魏の惠王と陰晉(二)に遇ふ。三年、公子范は邯鄲を襲うて勝たずして死す。四年天子に朝す。六年齊を攻めて(三)高唐を拔く。七年公子刻は魏の首垣(四)を攻む。十一年、秦の孝公は(五)商君をして魏を伐たしめ、其將公子卬を虜にす。趙は魏を伐つ。十二年秦の孝公卒し、商君も死す。十五年(六)壽陵を起す。魏の惠王卒す。十六年、肅侯は大陵(七)に游んで(八)鹿門に出づ。大戊午馬を扣へて曰く、耕事方に急なり、一日作さざれば百日食はずと。肅侯車を下りて謝す。十七年魏の黄を圍みて克たず、長城を築く。十八年齊魏我を伐つ。我は河水を決して之に灌ぐ。(九)兵去る。二十二年張儀は秦に相たり。趙疵は秦と戰ひ敗れ、秦は疵を河西に殺して、我が藺と離石(一〇)とを取る。

攻周。八年。與韓分周以爲兩。九年。與齊戰阿下。十年。攻衛取甄。十一年。秦攻魏。趙救之石阿。十二年。秦攻魏少梁。趙救之。十三年。秦獻公使庶長國伐魏少梁。虜其太子座。魏敗我澮取皮牢。成侯與韓昭侯遇上黨。十四年。與韓攻秦。十五年。助魏攻齊。十六年。與韓

に救ふ。十二年秦は魏の少梁(五)を攻む、趙之を救ふ。十三年、秦の獻公は庶長國をして魏の少梁を伐たしめて、其太子座を虜にす。魏は我を澮(六)に敗りて、皮牢を取る。成侯は韓の昭侯と上黨(七)に遇ふ。十四年韓と秦を攻む。十五年魏を助けて齊を攻む。十六年韓魏と晉を分ち、晉君を封ずるに端氏(八)を以てす。十七年、成侯と魏の惠王と葛孽(九)に遇ふ。十九年、齊宋と平陸(一〇)に會し、燕と阿(一一)に會す。二十年、魏は榮椽(一二)を獻ず、因りて以て檀臺を爲る。二十一年、魏は我を邯鄲に圍む。二十二年、魏の惠王我が邯鄲を拔く、齊も亦魏を桂陵(一三)に敗る。二十四年、魏は我が邯鄲を歸す。魏と漳水の上に盟ふ。秦は我が藺を攻む。二十五年成侯卒す。公子緤と太子肅侯と立つを爭ひ、緤は敗れ亡げて韓に奔りぬ。

(一) 山東靑州臨菑縣　(二) 山東泰安府東阿縣　(三) 河南衛輝府　(四) 山西汾州府　(五) 陝西同州府澄城縣　(六) 皮牢と共に趙邑なり　(七) 韓の地名　(八) 山西平陽府臨汾縣　(九) 河南魏の地　(一〇) 山東兗州府汶上縣　(一一) 燕趙の境に在り、直隷保定府高陽縣　(一二) 精良なる材木　(一三) 山東曹州府

我兎臺一。築二剛平一以侵レ衞。五年。齊魏爲レ衞攻レ趙。取二我剛平一。六年。借二兵於楚一伐レ魏取二棘蒲一。八年。拔二魏黃城一。九年。伐レ齊。齊伐レ燕。

相と爲り、衞を伐つて鄉邑七十三を取る。魏は我を藺(一〇)に敗り、四年に秦と高安(一一)に戰つて之を敗る。五年齊を鄄(一二)に伐つ。魏は我を懷(一三)に敗る。鄭を攻めて之を敗り、以て韓に與ふ。韓は我に長子(一四)を與ふ。

(一)直隸廣平府邯鄲縣　(二)山西大同府靈邱縣　(三)山東曹州府范縣　(四)河北に在り　(五)同上　(六)直隸趙州に屬す　(七)河南開封府　(八)直隸趙州高邑縣　(九)直隸保定府唐縣　(一〇)山西汾州府永寧州　(一一)河東に屬す　(一二)山東曹州府濮州の東方　(一三)河南懷慶府武陟縣　(一四)山西潞安府長子縣

趙救レ燕。十年。與二中山一戰二于房子一。十一年。魏韓趙共滅レ晉分二其地一。伐二中山一。又戰二於中人一。十二年。敬侯卒。子成侯種立。成侯元年。公子勝與二成侯一爭レ立爲レ亂。二年。六月。雨レ雪。三年。大戊午爲レ相。伐レ衞取二鄉邑七十三一。魏敗二我藺一。四年。與レ秦戰二高安一敗レ之。五年。伐二齊于鄄一。魏敗二我懷一。攻レ鄭敗レ之以與レ韓。韓與二我長子一。

六年。中山築二長城一。伐レ魏敗二涿澤一。圍二魏惠王一。七年。侵レ齊至二長城一。與レ韓

六年、中山は長城を築く。魏を伐つて涿澤(一)を敗り、魏の惠王を圍む。七年齊を侵して長城に至り、韓と周を攻む。八年韓と周を分つて以て兩と爲す。九年齊と阿下(二)に戰ふ。十年衞を攻めて甄(三)を取る。十一年秦は魏を攻む、趙之を石阿(四)

徐越皆可。公仲乃進三人。及朝。烈侯復問歌者田何如。公仲曰。方使擇其善者。牛畜侍烈侯以仁義。約以王道。烈侯逌然。明日荀欣侍。以選練擧賢。任官使能。明日徐越侍。以節財儉用。察度功德。所與無不充。君說。烈侯使使謂相國曰。歌者之田且止。官牛畜爲師。荀欣爲中尉。徐越爲內史。賜相國衣二襲。

九年。烈侯卒。弟武公立。武公十三年卒。趙復立烈侯太子章。是爲敬侯。是歲魏文侯卒。敬侯元年。武公子朝作亂不克。出奔魏。趙始都邯鄲。二年。敗齊于靈丘。三年。救魏于廩丘。大敗齊人。四年。魏敗

九年烈侯卒し、弟武公立つ。武公は十三年に卒し、趙復烈侯の太子章を立つ、是を敬侯と爲す。是歲魏の文侯卒す。敬侯の元年、武公の子朝は亂を作して克たず、魏に出奔す。趙始めて邯鄲に都す。二年、齊を靈丘に敗る。三年魏を廩丘に救ひ、大いに齊人を敗る。四年魏は我を兎臺に敗る。剛平に築いて以て衞を侵す。五年齊魏は衞の爲に趙を攻めて、我が剛平を取る。六年兵を楚に借りて魏を伐ち、棘蒲を取る。八年魏の黃城を拔く。九年齊を伐ち、齊は燕を伐ち、趙は燕を救ふ。十年中山と房子に戰ふ。十一年、魏韓趙は共に晉を滅して其地を分つ。中山を伐ち、又中人に戰ふ。十二年敬侯卒し、子成侯種立つ。成侯の元年、公子勝は成侯と立つを爭ひ亂を爲す。二年六月雪を雨らす。三年大戊午

者槍石二人。吾賜二之田人萬畝一。公仲曰。諾。不レ與。居一月。烈侯從レ代來。問二歌者田一。公仲曰。求未レ有二可者一。有レ頃烈侯復問。公仲終不レ與。乃稱レ疾不レ朝。番吾君自レ代來。謂二公仲一曰。君實好レ善而未レ知レ所レ持。今公仲相レ趙。於レ今四年。亦有レ進レ士乎。公仲曰。未也。番吾君曰。牛畜。荀欣。

稱して朝せず。番吾君代より來りて、公仲に謂つて曰く、君實に善を好むも、而も未だ持する所(五)を知らず。今や公仲趙に相たり、今に於て四年なり、亦士を進めし有るかと。公仲曰く、未しと。番吾君曰く、牛畜・荀欣・徐越は皆可なりと。公仲乃ち三人を進む。朝するに及び、烈侯復歌者の田何如を問ふ。公仲曰く、方に其善者(六)を擇ばしむと。牛畜烈侯に侍し、仁義を以てし約する(七)に王道を以てす。烈侯逌然(八)たり。明日荀欣侍す。選練して賢を舉げ、官に任じ能を使ふを以てす。明日は徐越侍し、財を節し用を儉にし、功德を察し度り、與ふる所充たざる無きを以てす。君說ぶ。烈侯使をして相國に謂はしめて曰く、歌者の田は且く止めよ、と牛畜を官にして師と爲し、荀欣を中尉(九)と爲し、徐越を內史と爲し、相國に衣二襲(一〇)を賜ふ。

(一) 音樂 (二) 愛幸するもの (三) 諾すれども實は與へず (四) 適當なる者無し (五) 善を好みて之を保持する所以を知らず (六) 適當なるものを選擇しつゝあり (七) 要を摘む (八) 心賢に意適して悠々たる貌 (九) 首都の警衞官 (一〇) 單衣と袷との一揃を襲とす

君先死。乃取二代成君子浣一。立爲二太子一。襄子立三十三年卒。浣立。是爲二獻侯一。獻侯少即レ位。治二中牟一。襄子弟桓子。逐二獻侯一自二立於代一。一年卒。國人曰。桓子立非二襄子意一。乃共殺二其子一。而復迎二立獻侯一。十年。中山武公初立。十三年。城二平邑一。十五年。獻侯卒。子烈侯籍立。烈侯元年。魏文侯伐二中山一。使二太子擊守一レ之。

て立つ。十三年平邑に城く。十五年獻侯卒す。子烈侯籍立つ。烈侯の元年、魏の文侯は中山を伐ち、太子擊をして之を守らしむ。

㊀兄の伯魯は夭せり

六年。魏韓趙皆相立爲二諸侯一。追二尊獻子一爲二獻侯一。烈侯好レ音。謂二相國公仲連一曰。寡人有レ愛。可二以貴一レ之乎。公仲曰。富レ之可。貴レ之則否。烈侯曰。然。夫鄭歌

六年、魏韓趙は皆相立つて諸侯と爲る。獻子を追尊して獻侯と爲す。烈侯は音を好む。相國公仲連に謂つて曰く、寡人愛有り、以て之を貴くすべきかと。公仲曰く、之を富ますは可なり、之を貴くするは則ち否なりと。烈侯曰く、然り、夫の鄭の歌者槍と石との二人、吾之に田人ごとに萬畝を賜はんと。公仲曰く、諾と。與へず。居ること一月、烈侯代從り來り、歌者の田を問ふ。公仲曰く、求むれども未だ可なる者有らずと。頃く有りて烈侯復問ふ。公仲終に與へず。乃ち疾と

浸者三版。城
中懸レ釜而炊。
易レ子而食。羣臣皆有二外心一。禮益慢。唯高共不レ敢失レ禮。襄子懼。乃夜使三相張孟同私二於韓魏一。
韓魏與合レ謀。以二三月丙戌一。三國反滅二知氏一。共分二其地一。於レ是襄子行レ賞。高共爲レ上。張孟同曰。
晉陽之難。唯共無レ功。襄子曰。方二晉陽急一。羣臣皆懈。唯共不三敢失二人臣禮一。是以先レ之。

の心字 (一)相 (二)私通

於レ是趙北有レ
代。南幷二知氏一。
彊二於韓魏一。遂
祠二三神於百
邑一。使三原過主二
霍泰山祠祀一。
其後娶二空同
氏一生二五子一。襄
子爲二伯魯之
不一レ立也。不レ肯レ
立レ子。且必欲三
傳レ位。與二伯魯
子代成君一。成

是に於て、趙は北は代を有ち、南は知氏を幷せ、韓魏よりも彊し。遂に三神を百邑に祠り、原過をして霍泰山の祠祀を主らしむ。其後空同氏を娶りて五子を生む。襄子は伯魯が立たざりしが爲に、子を立つるを肯ぜず。且必ず位を傳へて、伯魯の子代成君に與へんと欲せしに、成君先づ死せり。乃ち代成君の子浣を取り、立てて太子と爲しぬ。襄子立つこと三十三年にして卒す。浣立つ、是を獻侯と爲す。獻侯は少うして位に卽き、中牟に治す。襄子の弟桓子は、獻侯を逐うて代に自立す。一年にして卒す。國人曰く、桓子が立つは襄子の意に非ずと。乃ち共に其子を殺して、復獻侯を迎へ立てき。十年、中山の武公初め

也。三月。丙戌。余將レ使三女反滅二知氏一。女亦立二我百邑一。余將レ賜二女林胡之地一。至二于後世一。且有二伉王一。赤黑龍面而鳥噣。鬢麋髭髯。大膺大胷。脩下而馮。左衽界乘。奄二有河宗一。至二于休溷諸貉一。南伐二晉別一。北滅二黑姑一。襄子再拜。受二三神之令一。三國攻二晉陽一歲餘。引二汾水一灌二其城一。城不レ

り、且に伉王有らん。(四)亦黒龍の面にして鳥噣、鬢麋髭髯、(五)大膺大胷、(六)脩く下りて馮いに、左衽界乘せんもの、(七)河宗を奄有して、(八)休溷諸貉に至り、南は晉の別(九)を伐ち、北は黒姑を滅せんと。襄子再拜して、三神の令を受く。三國晉陽を攻むること歲餘、汾水を引いて其城に灌ぐ。城浸されざる者三版(一〇)のみ。城中釜を懸けて炊ぎ、子を易へて(一一)食ふ。羣臣皆外心(一二)有りて、禮益〻慢るに、唯高共は敢て禮を失はず。襄子懼れ、乃ち夜相(一三)の張孟同をして韓魏に私せしめ、韓魏與に謀を合し、三月丙戌を以て、三國反つて知氏を滅し、共に其地(一四)を分ちき。是に於て襄子は賞を行ふに、高共を上と爲す。張孟同曰く、晉陽の難、唯共は功無しと。襄子曰く、晉陽の急なるに方りて、羣臣皆懈るに、唯共は敢て人臣の禮を失はざりき、是を以て之を先にすと。

(一) 齋戒沐浴す　(二) 霍泰山の山神　(三) 百邑の主とし祀れ　(四) 高俊英傑の主　(五) 鬢あり眉あり口髭あり頬髯あり　(六) 胸の上部を胷とす　(七) 左前の服をつけ武裝せる車馬に乘る　(八) 黄河の上流を掩ひ保つ　(九) 別邑なり、韓魏の領地を指す　(一〇) 一版は八尺　(一一) 我子を食ふに忍びず、甲乙其子を取り代へて食ふなり　(一二) 離畔

晉一欲三以伐二四卿一。四卿恐。遂共攻二出公一。出公奔レ齊。道死。知伯乃立二昭公曾孫驕一。是爲二晉懿公一。知伯益驕。請二地韓魏一。韓魏與レ之。請二地趙一。趙不レ與。以二其圍鄭之辱一。知伯

知伯益〻驕り、地を韓魏に請ふに、韓魏は之を與へき。地を趙に請ふに、趙は與へず。其の鄭を圍みしときの辱を以てなり。知伯怒り、遂に韓魏を率ゐて趙を攻む。趙襄子懼れ、乃ち奔つて(一)晉陽を保つ。原過從つて後れ、王澤に至りて三人を見る。帶より以上は見るべきも、帶より以下は見るべからず。原過に竹二節の(二)通ずる莫きものを與ふ。曰く、我爲に是を以て趙毋卹に遺れと。原過既に至るや、以て襄子に告ぐ。

(一) 上文に出づ　(二) 相塞がれる物

怒。遂率二韓魏一攻レ趙。趙襄子懼。乃奔保二晉陽一。原過從後。至二於王澤一。見二三人一。自レ帶以上可レ見。自レ帶以下不レ可レ見。與二原過竹二節莫レ通一。曰。爲レ我以レ是遺二趙毋卹一。原過既至。以告二襄子一。

襄子齊三日。親自剖レ竹。有二朱書一。曰。趙毋卹。余霍泰山山陽侯天使

襄子齊すること三日、親自ら竹を剖くに、朱書有りて曰く、趙毋卹よ、余は(一)霍泰山山陽侯の天使なり。三月丙戌、余將に女をして反つて知氏を滅せしめんとす。女亦我を(二)百邑に立てよ。余將に女に林胡の地を賜はんとす。後世に至

喪食㆒。使㆔楚隆問㆓吳王㆒。襄子姊前爲㆓代王夫人㆒。簡子既葬、未㆑除㆑服。北登㆓夏屋㆒、請㆓代王㆒。使㆘廚人操㆓銅枓㆒以食㆗代王及從者㆖。行㆑斟、陰令㆔宰人各以㆑枓擊㆓殺代王及從官㆒。遂興兵平㆓代地㆒。其姊聞㆑之。泣而呼㆑天。摩㆑笄自殺。代人憐㆑之。所㆑死地。名㆑之爲㆓摩笄之山㆒。遂以㆑代封㆓伯魯子周㆒。爲㆓代成君㆒。伯魯者襄子兄。故太子。太子蚤死故封㆓其子㆒。

とき、陰に宰人をして各〻枓を以て代王及び從官を擊殺せしめ、遂に兵を興して代の地を平らぐ。其姊之を聞き、泣いて天に呼び、(五)笄を摩いて自殺す。代人之を憐み、死する所の地、之を名づけて摩笄の山と爲す。遂に代を以て伯魯の子周を封じ、代成君と爲す。伯魯は襄子の兄にして、故の太子たり。太子蚤く死せり、故に其子を封ぜしなり。

(一) 簡子を祭る所の喪の饌食を謂ふ (二) 山名 (三) 銅製の酒を酌む器 (四) 酒を酌み酹むる時 (五) 簪を磨いて之によりて自殺す

襄子立四年。知伯與㆓趙韓魏㆒盡分㆓其范中行故地㆒。晉出公怒。告㆓齊

襄子立つの四年、知伯は趙・韓・魏と、盡く其范・中行の故地を分つ。晉の出公怒り、齊魯に告げて以て四卿を伐たんと欲す。四卿恐れ、遂に共に出公を攻む。出公齊に奔り、道にて死す。知伯乃ち昭公の曾孫驕を立つ、是を晉の懿公と爲す。

子。范昭子逐奔齊。趙竟有邯鄲柏人。范中行餘邑入于晉。趙名晉卿。實專晉權。奉邑侔於諸侯。晉定公三十年。定公與吳王夫差爭長於黃池。趙簡子從。晉定公。卒長吳。定公三十七年卒。而簡子除三年之喪。期而已。是歲。越王句踐滅吳。晉出公十一年。知伯伐鄭。趙簡子疾。使太子毋卹將而圍鄭。知伯醉。以酒灌擊毋卹。毋卹羣臣請死之。毋卹曰。君所以置毋卹。爲能忍訽。然亦慍知伯。知伯歸。因謂簡子。使廢毋卹。簡子不聽。毋卹由此怨知伯。

つ。毋卹の羣臣之に死せんと請ふ。(七)毋卹曰く、君が毋卹を置く所以は、能く詢(八)を忍ぶが爲なりと。然も亦知伯を慍る。知伯歸り、因りて簡子に謂つて毋卹を廢せしむ。簡子聽かず。毋卹之に由りて知伯を怨む。

(一) 宿貨　(二) 一に宿に作る　(三) 直隷順徳府唐山縣　(四) 均しく大なり　(五) 會盟の主長　(六) 期年の喪　(七) 主辱しめれて臣死するの義　(八) 恥辱を耐へ忍ぶ

晉出公十七年。簡子卒。太子毋卹代立。是爲襄子。趙襄子元年。越圍吳。襄子降

晉の出公十七年、簡子卒す。太子毋卹代り立つ、是を襄子と爲す。趙襄子の元年、越は吳を圍む。襄子喪食(一)を降し、楚隆をして吳王を問はしむ。襄子の姉は前に代王の夫人と爲れり。簡子既に葬りて未だ服を除かず。北して夏屋(二)に登り、代王を請へ、廚人をして銅料(三)を操らしめ、以て代王及び從者に食ましめ、斟(四)を行ふ

氏定。晉國寧。吾死晚矣。遂自殺。趙氏以告知伯。然後趙氏寧。孔子聞趙簡子不請晉君而執邯鄲午、保晉陽、故書春秋曰、趙鞅以晉陽畔。趙簡子有臣。曰周舍。好直諫。周舍死。簡子每聽朝。常不悅。大夫請罪。簡子曰。大夫無罪。吾聞千羊之皮。不如一狐之腋。諸大夫朝。徒聞唯唯。不聞周舍之鄂鄂。是以憂也。簡子由此能附趙邑。而懷晉人。

晉定公十八年。趙簡子圍范中行于朝歌。中行文子奔邯鄲。明年。衞靈公卒。簡子與陽虎送衞太子蒯聵于衞。衞不內。居戚。晉定公二十一年。簡子拔邯鄲。中行文子奔柏人。簡子又圍柏人。中行文

晉の定公十八年、趙簡子は范・中行を朝歌に圍む。(一)中行文子邯鄲に奔る。明年衞の靈公卒す、簡子は陽虎と衞の太子蒯聵を衞に送るに、衞は内れず。(二)戚に居らしむ。晉の定公二十一年、簡子は邯鄲を拔く。中行文子(三)柏人に奔る。簡子又柏人を圍む。中行文子・范昭子は遂に齊に奔る。趙竟に邯鄲柏人を有ち、范・中行の餘邑は晉に入る。趙、名は晉の卿なるも、實は晉の權を專にして、奉邑は諸侯に侔(四)し。晉の定公三十年、定公は吳王夫差と(五)長を黃池に爭ふ。趙簡子從ふ。晉の定公卒に吳を長とす。定公は三十七年に卒す。簡子は三年の喪を除き、(六)期にして已む。是歲越王句踐は吳を滅す。晉の出公の十一年、知伯鄭を伐つ。趙簡子疾み、太子毋卹をして將として鄭を圍ましむ。知伯醉うて酒を以て毋卹に灌ぎ撃

克。范中行氏反伐ㇾ公。公撃ㇾ之。范中行敗走。丁未。二子奔二朝歌一。韓魏以二趙氏一爲ㇾ請。十二月。辛未。趙鞅入ㇾ絳。盟二于公宮一。其明年。知伯文子謂二趙鞅一曰。范中行雖二信爲ㇾ亂。安于發ㇾ之。是安于與ㇾ謀也。晉國有ㇾ法。始ㇾ亂者死。夫二子已伏ㇾ罪。而安于獨在。趙鞅患ㇾ之。安于曰。臣死趙

魏は趙氏を以て請を爲す（一）。十二月辛未、趙鞅絳に入り、公宮に盟ふ。其明年、知（二）伯文子、趙鞅に謂つて曰く、范・中行は信に亂を爲すと雖も、安于之を發せり。是れ安于謀に與るなり。晉國法有り、亂を始むる者は死すと。夫れ二子已に罪に伏して、安于獨り在りと。趙鞅之を患ふ。安于曰く、臣死して趙氏定り、晉國寧からば、吾死晩し（三）と。遂に自殺す。趙氏以て知伯に告げて、然る後に趙氏寧し。孔子趙簡子が晉君に請はずして邯鄲の午を執へ、晉陽を保つを聞く。故に春秋に書して曰く、趙鞅晉陽を以て畔くと。趙簡子に臣有り、周舍と曰ふ。直諫を好む。周舍死するや、簡子朝を聽く毎に常に悅ばず。大夫辠を請ふ。簡子曰く、大夫は罪無し、吾聞く千羊の皮は一狐の腋（四）に如かずと。諸大夫の朝する、徒唯唯を聞くのみ、周舍の諤諤（五）を聞かず、是を以て憂ふと。簡子此れ由り能く趙邑を附けて（六）晉人を懷く。

㊀ 赦免を請ふ　㊁ 苟躁なり　㊂ 後れたる義　㊃ 狐の腋下なる純白の細毛　㊄ 諤に同じ　㊅ 服従親附せしむ

午。囚㆓之晉陽㆒。乃告㆓邯鄲人㆒曰。我私有㆑誅㆑午也。諸君欲㆓誰立㆒。遂殺㆑午。趙稷。涉賓以㆓邯鄲㆒反。晉君使㆔籍秦圍㆓邯鄲㆒。荀寅。范吉射與㆑午善。不㆑肯㆑助㆑秦。而謀㆑作㆑亂。董安于知㆑之。十月。范中行氏伐㆓趙鞅㆒。鞅奔㆓晉陽㆒。晉人圍㆑之。范吉射。荀寅仇人魏襄等。謀逐㆓荀寅㆒以㆓梁嬰父㆒代㆑之。逐㆓吉射㆒以㆓范皋繹㆒代㆑之。荀躒言㆓於晉侯㆒曰。君命大臣始㆑亂者死。今三臣始㆑亂。而獨逐㆑鞅。用㆑刑不㆑均。請皆逐㆑之。

ことを謀る。董安于之を知る。十月、范・中行氏は趙鞅を伐つ、鞅晉陽に奔る。晉人之を圍む。范吉射・荀寅の仇人魏襄等は、謀つて荀寅を逐ひ、梁嬰父を以て之に代へ、吉射を逐ひ、范皋繹を以て之に代ふ。荀躒晉侯に言つて曰く、君命ずらく、大臣亂を始むる者は死すと。今は三臣亂を始むるに、獨り鞅を逐ふは、刑を用ふる均しからざるなり。請ふ皆之を逐(五)はんと。

(一)趙午　(二)衞の民五百家　(三)午の子なり　(四)中行偃なり、晉は中軍を中行とす寅嘗て中行の將たり　(五)范、中行、趙の三氏

十一月。荀躒。韓不佞。魏哆奉㆓公命㆒以伐㆓范中行氏㆒。不㆑

十一月、荀躒・韓不佞・魏哆、公命を奉じて以て范・中行氏を伐ち、克たず。范・中行氏反つて公を伐つ。公之を撃つ、范・中行敗走す。丁未、二子朝歌に奔る。韓・

婢也。奚道ㇾ貴哉。子卿曰。天所ㇾ授。雖ㇾ賤必貴。自ㇾ是之後。簡子盡召ニ諸子ー與語。毋卹最賢。簡子乃告ニ諸子ー曰。吾藏ニ寶符於常山上ー。先得者賞。諸子馳之ニ常山上ー求。無ㇾ所ㇾ得。毋卹還曰。已得ㇾ符矣。簡子曰。奏ㇾ之。毋卹曰。從ニ常山上ー臨ㇾ代。代可ㇾ取也。簡子於ㇾ是知ニ毋卹果賢ー。乃廢ニ太子伯魯ー。而以ニ毋卹ー爲ニ太子ー。

子是に於て毋卹の果して賢なるを知り、乃ち太子伯魯を廢して、毋卹を以て太子と爲す。

(一) 他日　(二) 洪の子なるが如し　(三) 狄より來りし婢子　(四) 寶の札

後二年。晉定公之十四年。范中行作ㇾ亂。明年春。簡子謂ニ邯鄲大夫午ー曰。歸ニ我衛氏五百家ー。吾將ㇾ置ニ之晉陽ー。午許諾。歸。而其父兄不ㇾ聽。倍ㇾ言。趙鞅捕ㇾ

後二年、晉の定公の十四年、范・中行亂を作す。明年春、簡子は邯鄲の大夫午(一)に謂つて曰く、我に衛氏五百家(二)を歸れ、吾將に之を晉陽に置かんとすと。午許諾して歸る。而れども其父兄聽かずして言に倍く。趙鞅午を捕へて、之を晉陽に囚へ、乃ち邯鄲人に告げて曰く、我私に午を誅すること有り、諸君は誰を立てんと欲するかと。遂に午を殺す。趙稷・涉賓(三)は、邯鄲を以て反す。晉君は籍秦をして邯鄲を圍ましむ。荀寅(四)・范吉射は午と善し、秦を助くるを肯ぜずして、亂を作さん

道者曰。主君之子。將レ克二二國於翟一。皆子姓也。簡子曰。吾見三兒在二帝側一。帝屬二我一翟犬一曰。及二而子之長一。以賜レ之。夫兒何謂三以賜二翟犬一。當レ道者曰。兒主君之子也。翟犬者代之先也。主君之子且二必有一レ代。及二主君之後嗣一。且レ有三革レ政而胡服。幷二二國於翟一。簡子問二其姓一而延レ之以レ官。當レ道者曰。臣野人。致二帝命一耳。遂不レ見。簡子書藏二之府一。

異日姑布子卿見二簡子一。簡子偏召二諸子一相レ之。子卿曰。無下爲二將軍一者上。簡子曰。趙氏其滅乎。子卿曰。吾嘗見二一子於路一。殆君之子也。簡子召二子毋卹一。毋卹至。則子卿起曰。此眞將軍矣。簡子曰。此其母賤。翟

異日姑布子卿簡子に見ゆ。簡子偏く諸子を召して之を相せしむ。子卿曰く、將軍(一)と爲る者無しと。簡子曰く、趙氏其れ滅びんかと。子卿曰く、吾嘗て一子を路に見たり、殆(二)ど君の子なりと。簡子は子毋卹を召す、毋卹至る。則ち子卿起ちて曰く、此れ眞に將軍なりと。簡子曰く、此れ其母賤し、翟の婢(三)なり、奚ぞ貴しと道はんやと。子卿曰く、天の授くる所は、賤しと雖も必ず貴しと。是れ自り後、簡子盡く諸子を召して與に語るに、毋卹最も賢なり。簡子乃ち諸子に告げて曰く、吾寶符(四)を常山の上に藏せり、先づ得る者は賞せんと。諸子馳せて常山の上に之いて求むるに、得る所無し。毋卹は還つて曰く、已に符を得たりと。簡子曰く、之を奏せよと。毋卹曰く、常山の上より代に臨む、代は取るべしと。簡

曰。屏ニ左右一。願有レ謁。簡子屏レ人。當レ道者曰。主君之疾。臣在ニ帝側一。簡子曰。然有レ之。子之見レ我。我何爲。當レ道者曰。帝令三主君射ニ熊與一レ羆。皆死。簡子曰。是且何也。當レ道者曰。晉國且レ有ニ大難一。主君首レ之。帝令三主君滅ニ二卿一。夫熊與レ羆。皆其祖也。簡子曰。帝賜ニ我二笥一。皆有レ副何也。當レ

死せりと。簡子曰く、是なり、且つ何ぞやと。(四) 道に當る者曰く、晉國且に大難有らんとす、主君之に首たり。帝主君をして二卿を滅せしむ。(五) 夫の熊と羆とは皆其祖なりと。簡子曰く、帝は我に二笥を賜ひしに、皆副有りしは何ぞやと。道に當る者曰く、主君の子將に二國に翟に克たんとす、(六) 皆子姓ならんと。(七) 簡子曰く、吾兒の帝側に在るを見しに、帝我に一翟犬を屬して曰く、而が子の長ずるに及びて以て之を賜はんと。夫の兒何ぞ以て翟犬を賜ふと謂ふぞと。道に當る者曰く、兒は主君の子なり、翟犬は代の先なり。(八) 主君の子且に必ず代を有たんとす。主君の後嗣に及び、且に政を革めて胡服し、(九) 二國を翟に幷する有らんとすと。(一〇) 簡子其姓を問ひて、之を延くに官を以てす。(一一) 道に當る者曰く、臣は野人なり、帝の命を致すのみと。遂に見えず。簡子書して之を府に藏す。

(一) 道上に遮り立つ　(二) 申し上ぐ　(三) 明白の義、一に曰く名を子晰と曰ふと。即ち「吾は見し所有り子晰なり」と讀む　(四) 子が我に告げんと欲するは何事ぞ　(五) 范氏中行氏　(六) 智氏と代國と　(七) 副の意に應ず　(八) 先祖　(九) 胡人の服裝をなす　(一〇) 中山樓煩等を指すか　(一一) 擧げ授く

簡子寤。語大夫曰。我之帝所甚樂。與百神游於鈞天。廣樂九奏萬舞。不類三代之樂。其聲動人心。有一熊欲來援我。帝命我射之。中熊。熊死。又有一羆來。我又射之。中羆。羆死。帝甚喜。賜我二笥。皆有副。吾見兒在帝側。帝屬我一翟犬曰。及而子之壯也以賜之。帝告我。晉國且世衰。七世而亡。嬴姓將大敗周人於范魁之西。而亦不能有也。今余思虞舜之勳。適余將以其冑女孟姚。配而七世之孫。董安于受言而書藏之。以扁鵲言告簡子。簡子賜扁鵲田四萬畝。

（七）中央の天　（八）天上の廣樂盛んに奏舞す　（九）感動せしむ　（一〇）攫む　（一一）箱　（一二）副物の箱　（一三）狄種の犬を託す　（一四）趙氏の本姓　（一五）趙の地名　（一六）舜の後裔たる女孟姚なり、即ち武靈王の后恵后なり

他日簡子出。有人當道。辟之不去。從者怒。將刃之。當道者曰。吾欲有謁於主君。從者以聞。簡子召之曰。譆。吾有所見子晰也。當道者

他日簡子出づ、人有り道に當り、之を辟けしむれども去らず。從者怒り、將に之を刃せんとす。道に當る者曰く、吾は主君に謁する有らんと欲すと。從者(二)以聞す。簡子之を召して曰く、譆吾は子を見し所有り、(三)晰かなりと。道に當る者曰く、左右を屏けよ、願くは謁ぐる有らんと。簡子人を屏く。道に當る者曰く、主君の疾むとき、臣は帝の側に在りきと。簡子曰く、然り之れ有りき。子の我を見しとき、我何をか爲ししと。道に當る者曰く、帝主君をして熊と羆とを射しめしに皆

久二者。適有レ學也。帝告レ我。晉國將二大亂一。五世不レ安。其後將レ霸。未レ老而死。霸者之子。且令二而國男女無一レ別。公孫支書而藏レ之。秦讖於レ是出矣。獻公之亂。文公之霸。而襄公敗二秦師於殽一而歸縱レ淫。此子之所レ聞。今主君之疾與レ之同。不レ出二三日一。疾必間。間必有レ言也。居二日半。

主君の疾は之と同じ。三日を出でずして疾必ず間えん。(六)間えば必ず言有らんと。居ること二日半、簡子寤め、大夫に語げて曰く、我帝の所に之き、甚だ樂む。百神と鈞天(七)に游ぶに、廣樂(八)九奏萬舞して、三代の樂に類せず、其聲人心を動せり。(九)一熊有り、來りて我を援かん(一〇)と欲す。帝我に命じて之を射しむるに、熊に中り、熊死しき。又一羆有りて來るに、我又之を射て、羆に中つるに、羆死せり。帝甚だ喜び、我に二笥(一一)を賜ふに、皆副有り。(一二)吾兒の帝の側に在るを見る。帝我に一翟犬(一三)を屬して曰く、而の子の壯なるに及びて、以て之を賜はんと。帝我に告ぐらく、晉國且に世〻衰へんとす、七世にして亡びん。嬴姓(一四)は將に大いに周人を范魁(一五)の西に敗らんとす、而も亦有つ能はざらん。今や余は虞舜の勳を思ふ。適余將に其冑女孟姚(一六)を以て、而が七世の孫に配せんとすと。董安于言を受け、書して之を藏し、扁鵲が言を以て簡子に告ぐ。簡子扁鵲に田四萬畝を賜ふ。

(一)昏睡して人事不省なり　(二)異狀なく平穩なり　(三)秦の二大夫　(四)天帝の所　(五)秦の豫言書　(六)平癒

之時。齊景公使二晏嬰於晉一。晏嬰與二晉叔向一語。嬰曰。齊之政。後卒歸二田氏一。叔向亦曰。晉國之政。將レ歸二六卿一。六卿侈矣。而吾君不レ能レ恤也。趙景叔卒。生二趙鞅一。是爲二簡子一。趙簡子在レ位。晉頃公之九年。簡子將下合二諸侯一戍中于周上。其明年。入二周敬王于周一。辟二弟子朝一之故也。晉頃公之十二年。六卿以レ法誅二公族祁氏羊舌氏一。分二其邑一爲二十縣一。六卿各令三其族爲二之大夫一。晉公室由レ此益弱。後十三年。魯賊臣陽虎來奔。趙簡子受レ賂厚二遇之一。

趙簡子疾。五日不レ知レ人。大夫皆懼。醫扁鵲視レ之出。董安于問。扁鵲曰。血脈治也。而何怪。在昔秦繆公嘗如レ此。七日而寤。寤之日。告三公孫支與二子輿一曰。我之二帝所一甚樂。吾所三以

趙簡子疾み、五日人を知らず。大夫皆懼る。醫扁鵲之を視て出づ。董安于問ふに、扁鵲が曰く、(一)血脈は治まる、而るに何の怪ぞや。在昔は秦の繆公も嘗て此の如く、七日にして寤めき、(二)寤むるの日、(三)公孫支と子輿とに告げて曰く、(四)我帝の所に之いて甚だ樂しかりき。吾の久しかりし所以の者は、適に學ぶ有りしなり。帝我に告ぐらく、晉國將に大いに亂れんとす、五世安からずして、其後は將に覇たらんとす、未だ老いずして死せん。覇者の子は、且に而の國の男女をして別無からしめんと。公孫支書して之を藏む、秦讖是に於て出でき。獻公の亂、文公の覇、襄公が秦師を殽に敗りて、歸つて淫を縱(五)にせる、此れ子が聞ける所なり。今

三郤(一)。欒書畏レ及。乃遂弑二其君厲公一。更立二襄公曾孫周一。是爲二悼公一。晉由レ此大夫稍彊。趙武續二趙宗一二十七年。晉平公立。平公十二年。而趙武爲二正卿一。十三年。吳延陵季子(二)使二於晉一曰。晉國之政。卒歸二於趙武子。韓宣子。魏獻子之後一矣。趙武死。諡爲二文子一。文子生二景叔一。景叔

此由り大夫稍彊し。趙武が趙宗を續ぎし二十七年に、晉の平公立つ。平公の十二年、趙武正卿爲り。十三年、吳の延陵の季子(二)晉に使して曰く、晉國の政は卒に趙武子・韓宣子・魏獻子の後に歸せんと。趙武死す、諡して文子と爲す。文子は景叔を生めり。景叔の時、齊の景公は晏嬰を晉に使せしむ。晏嬰は晉の叔向と語るに、嬰が曰く、齊の政は後卒に田氏(三)に歸せんと。叔向亦曰く、晉國の政は將に六卿に歸せんとす。六卿(四)侈れり、而も吾が君は恤ふる能はずと。趙景叔卒し、趙鞅を生む、是を簡子と爲す。趙簡子位に在り。晉の頃公の九年、簡子は將に諸侯を合せて周を戍らんとす。其明年周の敬王を周に入る。弟子朝を辟けしが故なり。晉の頃公の十二年、六卿は法を以て公族祁氏・羊舌氏を誅し、其邑を分つて十縣と爲し、六卿各〻其族をして之が大夫爲らしむ。晉の公室此れ由り益〻弱し。後十三年、魯の賊臣陽虎來奔す。趙簡子賂を受けて之を厚遇す。

(一) 郤錡、郤犨、郤至　(二) 季札　(三) 晏平仲　(四) 趙、魏、韓、知、范、中行の六氏

死。我思レ立ニ趙氏之後一。今趙武既立。爲ニ成人一復ニ故位一。我將㆕下報㆔趙宣孟與ニ公孫杵臼上。趙武啼泣頓首。固請曰。武願下苦ニ筋骨一。以報レ子至上レ死。而子忍ニ去レ我死一乎。程嬰曰。不可。彼以レ我爲ニ能成レ事。故先レ我死。今我不レ報。是以ニ我事一爲レ不レ成。遂自殺。趙武服ニ齊衰三年一。爲レ之祭レ邑。春秋祠レ之。世世勿レ絶。

かた趙宣孟と公孫杵臼とに報ぜんとすと。(一)趙武啼泣頓首し、固く請うて曰く、武は筋骨を苦めて以て子に報じ、死に至らんことを願ふ。而も子は我を去つて死するを忍ぶかと。程嬰曰く、不可なり、彼は我を以て能く事を成すと爲せり、故に我に先だつて死せり。今我報ぜんずば、是れ我が事を以て成らずと爲さんと。遂に自殺す。趙武齊衰に服すること三年、之が爲に邑に祭り、春秋に之を祠つて、世世絶ゆること勿し。

(一)告別す　(二)稽首　(三)如何なる艱難を忍びても君に恩を報ぜんと欲す　(四)我を棄て去る　(五)杵臼を指す　(六)喪服

趙氏復レ位十一年。而晉厲公殺ニ其大夫

趙氏位に復すること十一年にして、晉の厲公は其大夫三郤(一)を殺す。欒書は及ぶを畏れ、乃ち遂に其君厲公を弑し、更に襄公の曾孫周を立つ。是を悼公と爲す。晉

嘗絶ㇾ祀。今吾君獨滅二趙宗一。國人哀ㇾ之。故見二龜策一。唯君圖ㇾ之。景公問。趙尚有二後子孫一乎。韓厥具以ㇾ實告。於ㇾ是景公乃與二韓厥一謀ㇾ立二趙孤兒一。召而匿二之宮中一。諸將入問ㇾ疾。景公因二韓厥之衆一。以脅二諸將一而見二趙孤一。趙孤名曰ㇾ武。諸將不ㇾ得ㇾ已。乃曰。昔下宮之難。屠岸賈爲ㇾ之。矯以二君命一。幷命二羣臣一。非ㇾ然。孰敢作ㇾ難。微二君之疾一。羣臣固且三請立二趙後一。今君有ㇾ命。羣臣之願也。於ㇾ是召二趙武程嬰一。徧拜二諸將一。遂反與二程嬰趙武一。攻二屠岸賈一。滅二其族一。復與二趙武田邑一如ㇾ故。

す。今は君命有り、羣臣の願なりと。是に於て趙武・程嬰を召し、徧く諸將を拜せしむ。遂に反つて程嬰・趙武と屠岸賈を攻めて、其族を滅し、復趙武に田邑を與ふること故の如し。

(一) 舜帝の功臣、伯翳の父にして趙の祖たり　(二) 大業の子孫にして褒賞を遂げざる者　(三) 喙に同じ　(四) 周の幽王厲王　(五) 中衍の後裔　(六) 趙氏の宗家　(七) 卜に同じ　(八) 士卒を用ふ　(九) 趙氏の孤兒　(一〇) 詐り曲げ　(一一) 羣臣の願ふ所も亦斯の如し

及二趙武冠爲二成人一。程嬰乃辭二諸大夫一。謂二趙武一曰。昔下宮之難。皆能死。我非ㇾ不ㇾ能ㇾ死。

趙武が冠して成人と爲るに及び、程嬰乃ち諸大夫に辭し、趙武に謂つて曰く、昔は下宮の難に、皆能く死せり、我も死する能はざるに非ず、我は趙氏の後を立てんことを思ひしのみ。今趙武既に立ち、成人と爲りて故位に復せり。我將に下の

居十五年。晉景公疾。卜レ之。大業之後不レ遂者爲レ崇。景公問二韓厥一。厥知二趙孤在一。乃曰。大業之後。在レ晉絶レ祀者。其趙氏乎。夫自二中衍一者。皆嬴姓也。中衍人面鳥噣。降佐二殷帝大戊及周天子一。皆有二明德一。下及二幽厲無道一。而叔帶去レ周適レ晉。事二先君文侯一。至二于成公一。世有二立功一。未二

居ること十五年、晉の景公疾む。之を卜するに、大業の後(一)遂げざる者(二)崇を爲すと。景公韓厥に問ふ。厥は趙孤の在るを知る。乃ち曰く、大業の後、晉に在りて祀を絶つ者は、其れ趙氏か。夫れ中衍よりは皆嬴姓なり。中衍は人面鳥噣(三)、降つて殷帝大戊及び周の天子を佐けて、皆明德有り、下は幽厲(四)の無道なるに及んで、叔帶(五)は周を去りて晉に適き、先君文侯に事へて成公に至り、世〻立功有りて、未だ嘗て祀を絶たず。今吾が君獨り趙宗を滅す、國人之を哀しむ、故に龜策(七)に見る。唯君之を圖れと。景公問ふ。趙尙後(六)の子孫有るかと。韓厥具に實を以て告ぐ。是に於て景公は乃ち韓厥と趙の孤兒を立てんことを謀り、召して之を宮中に匿す。諸將入りて疾を問ふや、景公は韓厥の衆(八)に因り、以て諸將を脅かして、趙孤を見しむ。趙孤は名を武と曰ふ。諸將已むを得ずして乃ち曰く、昔下宮の難(九)は屠岸賈之を爲し、矯ぐるに君命を以てし、幷せて羣臣に命ぜり。然るに非ずんば、孰か敢て難を作さん(一〇)。君の疾微きも、羣臣固より且に請うて趙の後を立てんと

曰。趙氏先君遇レ子厚。子彊爲二其難者一。吾爲二其易者一。請先死。乃二人謀。取二他人嬰兒一負レ之。衣以二文葆一匿二山中一。程嬰出。謬謂二諸將軍一曰。嬰不肖。不レ能レ立二趙孤一。誰能與二我千金一。吾告二趙氏孤處一。諸將皆喜許レ之。發レ師隨二程嬰一。攻二公孫杵臼一。杵臼謬曰。小人哉程嬰。昔下宮之難不レ能レ死。與レ我謀匿二趙氏孤兒一。今又賣レ我。縱不レ能レ立。而忍レ賣レ之乎。抱レ兒呼曰。天乎。天乎。趙氏孤兒何罪。請活レ之。獨殺二杵臼一可也。諸將不レ許。遂殺二杵臼與二孤兒一。諸將以二爲趙氏孤兒良已死一。皆喜。然趙氏眞孤乃反在。程嬰卒與俱匿二山中一。

出でて謬つて諸將軍に謂つて曰く、嬰は不肖なり、趙の孤を立つる能はず。誰か能く我に千金を與へんものぞ。吾は趙氏の孤の處を告げんと。諸將皆喜んで之を許し、師を發して程嬰に隨ひ、公孫杵臼を攻む。杵臼謬つて曰く、小人なる哉程嬰、昔は下宮の難に死する能はず、我と謀り、趙氏の孤兒を匿ししに、今は又(三)我を賣れり。縱ひ立つる能はずとも、之を賣るに忍びんやと。兒を抱きて呼びて曰く、天か天か、趙氏の孤兒何の罪かある、請ふ之を活して、獨り杵臼を殺さば可ならんと。諸將許さず、遂に杵臼と孤兒とを殺す。諸將は趙氏の孤兒良に已に死せりと以爲ひ、皆喜ぶ。然も趙氏の眞孤は乃ち反つて在り。程嬰卒に與(四)に倶に山中に匿る。

(一) 趙朔を指す　(二) 飾り美しき褓　(三) 我を欺いて私利を謀る　(四) 孤兒と共にす

其族。趙朔妻成公姊。有遺腹。走公宮匿。趙朔客曰公孫杵臼。杵臼謂朔友人程嬰曰。胡不死。程嬰曰。朔之婦有遺腹。若幸而男。吾奉之。即女也吾徐死耳。居無何而朔婦免身生男。屠岸賈聞之。索於宮中。夫人置兒絝中。祝曰。趙宗滅乎若號。即不滅若無聲。及索兒竟無聲。已脫。

中に索む。夫人は兒を絝中に置き、祝して(七)曰く、趙宗(八)滅せんか、若號け。即し滅せずんば、若聲する無れと。索むるに及び、兒竟に聲無し。已に脫しぬ。(九)

(一)滅なり　(二)趙の祭祀　(三)趙氏の私邸　(四)妊娠中の趙朔の遺子　(五)何ぞ難を共にして死せざる　(六)分娩す　(七)祈禱す　(八)趙の宗家　(九)難を免れたり

程嬰謂公孫杵臼曰。今一索不得。後必且復索之。柰何。公孫杵臼曰。立孤與死孰難。程嬰曰。死易。立孤難耳。公孫杵臼

程嬰公孫杵臼に謂つて曰く、今一たび索めて得ず、後必ず且復之を索めん、奈何と。公孫杵臼曰く、孤を立つると死すると、孰れか難きと。程嬰曰く、死は易し、孤を立つる難しと。公孫杵臼曰く、趙氏の先君、(一〇)子を遇する厚かりき。子は彊ひて其難き者を爲せ、吾は其易き者を爲さん、請ふ先づ死せんと。乃ち二人謀り、他人の嬰兒を取りて之を負ひ、衣するに(一一)文葆を以てして、山中に匿る。程嬰

益衰一。屠岸賈者。始有レ寵二於靈公一。及レ至二於景公一。而賈爲二司寇一。將レ作レ難。乃治二靈公之賊一。以致二趙盾一。徧告二諸將一曰。盾雖レ不レ知。猶爲二賊首一。以レ臣弑レ君。子孫在レ朝。何以懲レ辠。請誅レ之。韓厥曰。靈公遇レ賊。趙盾在レ外。吾先君以爲レ無レ罪。故不レ誅。今諸君將レ誅二其後一。是非二先君之意一。而今妄誅。妄誅謂二之亂臣一。有二大事一而君不レ聞。是無レ君也。屠岸賈不レ聽。

(一)晉世家參照　(二)賊を捕す　(三)うらかたなり　(四)罪過　(五)調査す　(六)到り及ぶ　(七)罪に同じ　(八)蔑視して君を蔑いがしろにする也

韓厥告二趙朔一趣亡。朔不レ肯曰。子必不レ絕二趙祀一。朔死不レ恨。韓厥許諾。稱レ疾不レ出。賈不レ請而擅與二諸將一攻二趙氏於下宮一。殺二趙朔趙同趙括趙嬰齊一。皆滅二

韓厥趙朔に告ぐらく、(一)趣に亡げよと。朔肯かずして曰く、子必ず(二)趙の祀を絶たずんば、朔死すとも恨みじと。韓厥許諾し、疾と稱して出でず。賈請はずして擅に諸將と趙氏を(三)下宮に攻め、趙朔・趙同・趙括・趙嬰齊を殺し、皆其族を滅しぬ。趙朔の妻は成公の姊なり、(四)遺腹有り、公宮に走りて匿る。趙朔の客を公孫杵臼と曰ふ。杵臼は朔の友人程嬰に謂つて曰く、(五)胡ぞ死せざると。程嬰曰く、朔の婦に遺腹有り、若し幸にして男ならば、吾之を奉ぜん。即し女ならば吾徐に死せんのみと。居ること何も無くして、朔の婦は(六)免身し、男を生む。屠岸賈之を聞き、宮

之三年。朔爲晉將下軍。救鄭。與楚莊王戰河上。朔娶晉成公姊爲夫人。晉景公之三年。大夫屠岸賈欲誅趙氏。初趙盾在時。夢見叔帶持要而哭甚悲。已而笑。拊手且歌。盾卜之。兆絶而後好。趙史援占之。曰。此夢甚惡。非君之身。乃君之子。然亦君之咎。至孫趙將世

と河上に戰へり。朔は晉の成公の姊を娶りて夫人と爲す。晉の景公の三年、大夫屠岸賈は趙氏を誅せんと欲す。初め趙盾の在りし時、夢に叔帶が要(二)を持して、哭して甚だ悲み、已にし笑ひて、手を拊つて且歌ふを見て、盾之を卜するに、兆(三)絶えて後好し。趙の史援之を占して曰く、此夢甚だ惡し、君の身には非ずして、乃ち君の子ならん。然も亦君の咎(四)なり。孫に至らば趙將に世益〻衰へんとすと。屠岸賈は、始め靈公に寵有り、景公に至るに及びて、賈は司寇と爲り、將に難を作さんとし、乃ち靈公の賊を治して、以て趙盾に致し(六)、徧く諸將に告げて曰く、盾は知らずと雖も、猶賊首(五)爲り。臣を以て君を弑し、子孫朝に在らば、何を以て辠(七)を懲さん、請ふ之を誅せんと。韓厥が曰く、靈公の賊に遇ふとき、趙盾は外に在りき。吾先君以て罪無しと爲し、故に誅せず。今諸君將に其後を誅せんとするは、是れ先君の意に非ず、而も今妄に誅せんや。妄に誅する之を亂臣と謂ひ、大事有りて君聞かざるは、是れ君を無み(八)するなりと。屠岸賈聽かず。

趙盾患レ之。恐下其宗與二大夫一襲誅上レ之。迺遂立二太子一。是爲二靈公一。發レ兵距下所レ迎二襄公弟於秦一者上。靈公既立。趙盾益專二國政一。靈公立十四年。益驕。趙盾驟諫。靈公弗レ聽。及レ食二熊蹯一。胹不レ熟。殺二宰人一持二其尸一出。趙盾見レ之。靈公由レ此懼欲レ殺レ盾。盾素仁愛レ人。嘗所レ食桑下餓人反扞救レ盾。盾以得レ亡。未レ出レ境。而趙穿弑二靈公一。而立二襄公弟黑臀一。是爲二成公一。趙盾復反任二國政一。君子譏下盾爲二正卿一亡不レ出レ境。反不中討レ賊。故太史書曰。趙盾弑二其君一。晉景公時而趙盾卒。謚爲二宣孟一。子朔嗣。

此に由り、懼れて盾を殺さんと欲す。盾素仁なり、人を愛す。嘗て食ひし所の桑(七)下の餓人は、反つて扞ぎて盾を救ひ、盾以て亡ぐるを得たるも、未だ境を出でざるに、(八)趙穿は靈公を弑して、襄公の弟黑臀を立てき。是を成公と爲す。趙盾復反りて國政に任ず。君子は盾が正卿と爲て、亡げて境を出でず反つて賊を討ぜざるを譏る。故に太史(九)書して曰く、趙盾其君を弑すと。晉の惠公の時趙盾卒す。諡して宣孟と爲す。子朔嗣ぐ。

(一) 嫡子卽ち太子夷皐 (二) 晉の宗室 (三) 拒ぎ斥く (四) 驕忍愈々甚し (五) 熊の掌の肉なり、極めて美味と稱せらる (六) 割烹の小吏 (七) 晉世家參照 (八) 盾の一族 (九) 歷史の係官

趙朔晉景公

趙朔は、晉の景公の三年に、朔は晉の(一)爲に下軍の將となりて鄭を救ひ、楚の莊王

同趙括趙嬰齊。趙衰從二重耳一出亡。凡十九年。得レ反レ國。重耳爲二晉文公一。趙衰爲二原大夫一。居レ原任二國政一。文公所三以反レ國及二霸一。多二趙衰計策一。語在二晉事中一。趙衰既反レ晉。晉妻固要。迎二翟妻一。而以二其子盾一爲二適嗣一。晉妻三子。皆下事レ之。晉襄公之六年。而趙衰卒。謚爲二成季一。

傳記類末 ㊀ 要請す ㊁ 嫡妻嫡子とす

趙盾代二成季一任二國政一。二年而晉襄公卒。太子夷皋年少。盾爲二國多難一。欲レ立二襄公弟雍一。雍時在レ秦。使二使迎一レ之。太子母日夜啼泣頓首。謂二趙盾一曰。先君何罪。釋二其適子一而更求レ君。

趙盾は成季に代りて國政に任ず。二年にして晉の襄公卒し、太子夷皋年少し。盾は國の多難なるが爲に、襄公の弟雍を立てんと欲す。雍は時に秦に在り、使をして之を迎へしむ。太子の母、日夜啼泣頓首し、趙盾に謂つて曰く、先君何の罪あるぞ、其適子を釋てて更に君を求むると。趙盾之を患へ、其宗と大夫との襲うて之を誅せんことを恐れて、廼ち遂に太子を立つ、是を靈公と爲す。兵を發して襄公の弟を秦に迎ふる所の者を距ぐ。靈公既に立つや、趙盾益〻國政を專にす。靈公立ちて十四年、益〻驕る。趙盾驟〻諫む。靈公聽かず。熊蹯を食ふに及び、胹て熟せざるや、宰人を殺し、其尸を持して出でしむ。趙盾之を見る。靈公

晉獻公賜趙夙耿。夙生共孟。當魯閔公之元年也。共孟生趙衰。字子餘。趙衰卜事晉獻公及諸公子。莫吉。卜事公子重耳。吉。卽事重耳。重耳以驪姬之亂。亡奔翟。趙衰從。翟伐廧咎如。得二女。翟以其少女妻重耳。長女妻趙衰。而生盾。初重耳在晉時。趙衰妻亦生趙

晉の獻公、趙夙に耿を賜ふ。夙は共孟を生む、魯の閔公の元年に當る。共孟は趙衰を生む、字は子餘(二)。趙衰は晉の獻公及び諸公子に事ふるを卜するに、吉莫し、公子重耳に事ふるを卜するに吉なり。卽ち重耳に事へき。重耳は驪姬の亂を以て、亡げて翟に奔る、趙衰從ふ。翟は廧咎如(三)を伐つて二女を得たり。翟は其少女を以て重耳に妻し、長女を趙衰に妻す。而して盾を生む。初め重耳の晉に在る時、趙衰の妻も亦趙同・趙括・趙嬰齊を生めり。趙衰は重耳に從つて出亡すること凡そ十九年、國に反るを得るや、重耳は晉の文公と爲り、趙衰は原の大夫と爲り、原に居て國政に任ず。文公の國に反ると及び覇たる所以のものとは、趙衰の計策多し。語は晉の事中に在り。趙衰既に晉に反るや、晉の妻固く翟の妻を迎へて、其子盾を以て適嗣と爲し、晉の妻の三子は、皆下つて之に事ふ。晉の襄公の六年、趙衰卒す、諡して成季と爲す。

(一) 山西絳州府河津縣東南の地　(二) 晉世家參照　(三) 北狄の一種族、亦晉世家に出づ　(四) 晉世家に出づ　(五)

衡父生造父。造父幸於周繆王。造父取驥之乘匹。與桃林盜驪驊騮騄耳。獻之繆王。繆王使造父御。西巡狩。見西王母。樂之忘歸。而徐偃王反。繆王日馳千里馬。攻徐偃王。大破之。乃賜造父以趙城。由此爲趙氏。自造父已下六世至奄父。曰公仲。周宣王時伐戎爲御。及千畝戰。奄父脫宣王。奄父生叔帶。叔帶之時。周幽王無道。去周如晉。事晉文侯。始建趙氏于晉國。自叔帶以下。趙宗益興。五世而生趙夙。趙夙晉獻公之十六年。伐霍魏耿。而趙夙爲將伐霍。霍公求犇齊。晉大旱。卜之曰。霍太山爲祟。使趙夙召霍君於齊。復之以奉霍太山之祀。晉復穰。

周の宣王の時に戎を伐つや、御と爲りき。千畝の戰(一〇)に及び、奄父は宣王を脱せしめたり。奄父は叔帶を生めり。叔帶の時、周の幽王無道なり。周を去りて晉に如き、晉の文侯に事へ、始めて趙氏を晉國に建てき。叔帶より以下、趙宗(一一)益々興り、五世にして趙夙を生む。趙夙は、晉の獻公の十六年、(一二)霍・魏・耿を伐つとき、趙夙將と爲りて、霍を伐つ。霍公求は齊に犇りぬ。晉大いに旱す。之を卜するに曰く、霍の太山祟を爲すと。趙夙をして霍君を齊より召さしめ、之を復して以て霍の太山の祀を奉ぜしむ。晉復穰る。(一三)

(一) 乘駕の御者　(二) 殷の紂王　(三) 寵愛　(四) 千里の馬八疋　(五) 陝西原野の名　(六) 皆千里の馬の名　(七) 仙女の名　(八) 今の江蘇徐州府　(九) 山西霍州趙城縣　(一〇) 山西平陽府岳陽の北方　(一一) 趙氏の宗族　(一二) 晉に接近せる姫姓の小國名　(一三) 豐熟す

趙氏之先。與レ秦共レ祖。至二中衍一爲二帝太戊御一。其後世蜚廉有二子二人一。而命二其一子一曰二惡來一。事レ紂爲二周所レ殺。其後爲レ秦。惡來弟曰二季勝一。其後爲レ趙。季勝生二孟增一。孟增幸二於周成王一。是爲二宅皐狼一。皐狼生二衡父一。

卷四十三

趙世家第十三

趙氏の先は、秦と祖を共にす。中衍に至りて、帝太戊の御と爲る。(一)其後世蜚廉に子二人有り。而して其一子を命じて惡來と曰ふ。紂に事へて周の殺す所と爲りぬ。其後は秦と爲る。惡來の弟を季勝と曰ふ、(二)其後を趙と爲す。季勝は孟增を生む、孟增は周の成王に幸せらる。(三)是を宅皐狼と爲す。皐狼は衡父を生み、衡父は造父を生む。造父は周の繆王に幸せらる。造父驥(四)の乘匹と、(五)桃林の盜驪(六)・驊騮・騄耳とを取りて、之を繆王に獻ず。繆王は造父をして御せしめ、西に巡狩して西王母(七)に見え、之を樂んで歸ることを忘る。而して(八)徐の偃王反せり。繆王日に千里の馬を馳せ、徐の偃王を攻めて、大いに之を破り、乃ち造父に賜ふに趙城(九)を以てす。此に由りて趙氏と爲りぬ。造父より已下六世、奄父に至る。公仲と曰ふ。

太史公曰。語有レ之。以二權利一合者。權利盡而交疎。甫瑕是也。甫瑕雖下以劫二殺鄭子一内中厲公上。厲公終背而殺レ之。此與二晉之里克一何異。守レ節如二荀息一。身死而不レ能レ存二奚齊一。變所二從來一。亦多レ故矣。

太史公曰く、語に之れ有り、權利(一)を以て合ふ者は、權利盡きて交疎しと。甫瑕(二)是なり。甫瑕は以て鄭子を劫殺して厲公を内れたりと雖も、厲公終に背きて之を殺せり。此れ晉の里克(三)と何ぞ異ならん。節を守ること荀息(四)の如きは、身死するも而も奚齊(五)を存する能はず。變の從りて來る所は、亦故(六)多いかな。

(一) 時の利害を指す　(二) 前に出づ　(三) 晉世家參照　(四) 同前　(五) 晉獻子の庶子　(六) 事情理由極めて複雜なるかな

二年。楚惠王滅陳。孔子卒。二十六年。晉知伯伐鄭取九邑。三十七年。聲公卒。子哀公易立。哀公八年。鄭人弑哀公而立聲公弟丑。是爲共公。三年。晉滅知伯。三十年。共公卒。子幽公已立。幽公元年。韓武子伐鄭殺幽公。鄭人立幽公弟駘。是爲繻公。繻公十五年。韓景侯伐鄭取雍丘。鄭城京。十六年。鄭伐韓。敗韓兵於負黍。二十年。韓趙魏列爲諸侯。二十三年。鄭圍韓之陽翟。二十五年。鄭君殺其相子陽。二十七年。子陽之黨。共弑繻公駘。而立幽公弟乙爲君。是爲鄭君。鄭君乙立二年。鄭負黍反。復歸韓。十一年。韓伐鄭取陽城。二十一年。韓哀侯滅鄭并其國。

て幽公を殺す。鄭人幽公の弟駘を立つ、是を繻公と爲す。繻公の十五年、韓の景侯は鄭を伐つて雍丘(三)を取る。鄭は京(四)に城く。十六年、鄭は韓を伐ち、韓兵を負黍(五)に敗る。二十年、韓・趙・魏列して諸侯と爲る。二十三年、鄭は韓の陽翟(六)を圍む。二十五年、鄭君は其相子陽を殺す。二十七年、子陽の黨は、共に繻公駘を弑して、幽公の弟乙を立てて君と爲す。是を鄭君と爲す。鄭君乙立つて二年、鄭の負黍反して、韓に復歸す。十一年、韓は鄭を伐つて陽城(七)を取る。二十一年、韓の哀侯は鄭を滅し、其國を并せき。

(一) 直隸大名府に屬す　(二) 韓魏趙世家參照　(三) 河南開封府杞縣　(四) 前出　(五) 河南汝寧府　(六) 河南開封府禹州の地　(七) 〃黍附近の地

毋レ忘レ所二以立一。六年、鄭火。公欲レ禳レ之。子産曰。不レ如レ修レ德。八年。楚太子建來奔。十年太子建與レ晉謀レ襲レ鄭。鄭殺レ建。建子勝奔レ吳。十一年。定公如レ晉。晉與レ鄭謀。誅二周亂臣一。入二敬王于周一。十三年。定公卒。子獻公蠆立。獻公十三年卒。子聲公勝立。當二是時一晉六卿彊。侵二奪鄭一。鄭遂弱。聲公五年。鄭相子產卒。鄭人皆哭泣。悲レ之如レ亡二親戚一。子產者。鄭成公少子也。爲レ人仁愛レ人。事レ君忠厚。孔子嘗過レ鄭。與二子產一如二兄弟一云。及レ聞二子產死一。孔子爲泣曰。古之遺愛也。兄二事子產一。

㊀楚世家參照 ㊁前出 ㊂諸侯をして滿足せしめんとす ㊃晉世家參照 ㊄國政の由りて立つ所以 ㊅祈り除く ㊆父母の義に通ず ㊇古人仁愛の遺風あり ㊈兄とし仕ふ

八年。晉范中行氏反レ晉。告二急於鄭一。鄭救レ之。晉伐レ鄭。敗二鄭軍於鐵一。十四年。宋景公滅レ曹。二十年。齊田常弒二其君簡公一。而常相二於齊一。二十

八年、晉の范・中行氏は晉に反き、急を鄭に告ぐ。鄭之を救ふ。晉は鄭を伐ち、鄭軍を鐵に敗る。十四年、宋の景公曹を滅す。二十年、齊の田常は其君簡公を弒して、常は齊に相たり。二十二年、楚の惠王陳を滅す。孔子卒す。二十六年、晉の知伯は鄭を伐ちて、九邑を取りぬ。三十七年聲公卒し、子哀公易立つ。哀公の八年、鄭人哀公を弒して聲公の弟丑を立つ、是を共公と爲す。共公の三年、晉は知伯を滅す。三十年共公卒し、子幽公已立つ。幽公の元年、韓武子鄭を伐ち

八年。鄭君病。使子產會諸侯。與楚靈王盟於申。誅齊慶封。三十六年。簡公卒。子定公寧立。秋。定公朝晉昭公。定公元年。楚公子棄疾弑其君靈王。而自立爲平王。欲行德諸侯。歸靈王所侵鄭地于鄭。四年晉昭公卒。其六卿彊。公室卑。子產謂韓宣子曰。爲政必以德。

す。定公の元年、楚の公子棄疾は、其君靈王を弑し、自立して平王と爲り、德を諸侯に行はんと欲し、靈王が侵しし所の鄭の地を鄭に歸す。四年晉の昭公卒し、(三)其六卿(四)彊く、公室卑し。子產韓宣子に謂つて曰く、政を爲すに必ず德を以てせよ、立つ所以を忘るゝ毋れと。六年鄭火あり、公之を禳(五)はんと欲す。子產曰く、德を修むるに如かずと。八年、楚の太子建來奔す。十年、太子建は晉と鄭を襲ふを謀る。鄭は建を殺す。建の子勝呉に奔る。十一年、定公晉に如く。晉は鄭と謀り、周の亂臣を誅し、敬王を周に入る。十三年定公卒し、子獻公蠆立つ。獻公は十三年に卒し、子聲公勝立つ。是時に當り、晉の六卿彊く、鄭を侵奪す。鄭遂に弱し。聲公の五年、鄭の相子產卒す。鄭人皆哭泣し、之を悲むこと親戚(七)を亡ふが如し。子產は鄭の成公の少子なり。人と爲り仁にして人を愛し、君に事ふること忠厚なり。孔子嘗て鄭を過ぎ、子產と兄弟の如かりきと云ふ。子產の死を聞くに及び、孔子爲に泣いて曰く、(八)古の遺愛なりと。子產に(九)兄事せり。

屬之參。而蕃育其子孫。及生有文在其掌。曰虞。遂以命之。及成王滅唐。而國太叔焉。故參爲晉星。由是觀之。則實沈參神也。昔金天氏有裔子曰昧。爲玄冥師。生允格臺駘。臺駘能業其官。宣汾洮。障大澤。以處太原。帝用嘉之。國之汾川。沈姒蓐黃。實守其祀。今晉主汾川而滅之。由是觀之。則臺駘汾洮神也。然是二者。不害君身。山川之神。則水旱之菑禜之。日月星辰之神。則雪霜風雨不時禜之。若君疾。飲食哀樂女色所生也。平公及叔嚮曰。善。博物君子也。厚爲之禮於子產。

樂女色の生ずる所ならんと。平公及び叔嚮(二二)曰く、善し、博物(二三)の君子なりと。厚く之が爲に子產に禮す。

(一)見舞　(二)堯の前に帝たりし人　(三)荒漠なる林野　(四)後の帝なり、堯を指す　(五)善なり　(六)周代の宋の地　(七)火星　(八)周代の晉の城　(九)水星　(一〇)唐叔虞　(一一)天帝　(一二)繁昌養育す　(一三)文字　(一四)參星の神靈　(一五)裔に同じ　(一六)水官の長　(一七)汾水洮水を疏通す　(一八)堤防を築く　(一九)荒漠の原野　(二〇)二水の神靈ならん　(二一)洪水旱魃の災害には之を祭る　(二二)叔向に同じ　(二三)博く萬物の理に通じたる博學の人

二十七年夏。鄭簡公朝晉。冬。畏楚靈王之彊。又朝楚。子產從。二十

二十七年夏、鄭の簡公晉に朝す。冬、楚の靈王の彊を畏れて、又楚に朝す。子產從ふ。二十八年鄭君病む。子產をして諸侯に會せしめ、楚の靈王と申に盟ふ。(一)齊の慶封を誅す。三十六年、簡公卒し、子定公寧立つ。秋、定公は晉の昭公に朝

敢問。對曰。高辛氏有二子一。長曰二閼伯一。季曰二實沈一。居二曠林一。不二相能一也。日操二干戈一。以相征伐。后帝弗レ臧。遷二閼伯於商丘一。主レ辰。商人是因。故辰爲二商星一。遷二實沈于大夏一主レ參。唐人是因。服二事夏商一。其季世曰二唐叔虞一。當二武王邑姜方娠二大叔一。夢帝謂レ己。余命二而子一曰レ虞。乃與二之唐一。

らしむ。商人は是に因る。故に辰を商星と爲す。實沈を大夏(八)に遷し、參(九)を主らしむ。唐人は是に因る。夏商に服事す。其季世を唐叔虞と曰ふ。武王の邑姜が方に大叔(一〇)を娠むに當り、夢に帝(一一)己に謂ふらく、余は而の子を命じて虞と曰はん。乃ち之に唐を與へん。之を參に屬して其子孫を蕃育(一二)せしめんと。生るるに及び、文(一三)の其掌に在る有り、虞と曰ふ。遂に以て之に命ぜり。成王が唐を滅するに及び、太叔を國とせり。故に參は晉星爲り。是に由りて之を觀れば、則ち實沈は參の神(一四)ならん。昔は金天氏に裔子(一五)有り、昧と曰ふ。玄冥師(一六)と爲り、允格臺駘を生む。臺駘能く其官を業にし、汾洮(一七)を宣べ大澤(一八)を障へ、以て太原(一九)に處る。帝用て之を嘉し、之を汾川に國せしむ。沈・姒・蓐・黄、實に其祀を守る。今晉は汾川を主りて之を滅せり。是に由りて之を觀れば、則ち臺駘とは汾洮の神(二〇)ならん。然も是二者は君の身を害せじ。山川の神は則ち水旱(二一)の菑に之を禜り、日月星辰の神は則ち雪霜風雨の時ならざるに之を禜る。君の疾の若きは、飲食哀

遇す。二十三年、諸公子寵を争うて相殺す。又子産を殺さんと欲す。公子或は諫めて曰く、子産は仁人なり、鄭の存する所以の者は、子産あればなり、殺すこと勿れと。乃ち止む。

㈠ 兩國に親交兩附す ㈡ 不法の事を爲さんとせるが故に之を誅したるにも拘はらず却つて之に倣ふ ㈢ 斯の如くんば國亂の止息する時なからん ㈣ 古くより交際せる友人の如し ㈤ 秩序を正し驕侈を制す

鄭。簡公四年。晉怒鄭與楚盟。伐鄭。鄭與盟。楚共王救鄭。敗晉兵。簡公欲與晉平。楚又囚鄭使者。十二年。簡公怒相子孔專國權。誅之。而以子産爲卿。十九年。簡公如晉。請衛君還。而封子産以六邑。子産讓。受其三邑。二十二年。呉使延陵季子於鄭。見子産如舊交。謂子産曰。鄭之執政者侈。難將至。政將及子。子爲政必以禮。不然。鄭將敗。子産厚遇季子。二十三年。諸公子爭寵相殺。又欲殺子産。公子或諫曰。子産仁人。鄭所以存者子産也。勿殺。乃止。

二十五年。鄭使子産於晉。問平公疾。平公曰。卜而曰。實沈臺駘爲祟。史官莫知。

二十五年、鄭は子産を晉に使はし、平公の疾を問はしむ。平公曰く、卜するに曰く、實沈臺駘祟を爲すと。史官知るもの莫し、敢て問ふと。對へて曰く、高辛氏に二子有り、長を閼伯と曰ひ、季を實沈と曰ふ。曠林に居りて相能からず。日に干戈を操りて以て相征伐す。后帝臧とせず、閼伯を商丘に遷し、辰を主

公子謀欲誅相子駟。子駟覺之。反盡誅諸公子。二年。晉伐鄭。鄭與盟。晉去。冬。又與楚盟。子駟畏誅。故兩親晉楚。三年。相子駟欲自立爲君。公子子孔。使尉止殺相子駟而代之。子孔又欲自立。子產曰。子駟爲不可誅之。今又效之。是亂無時息也。於是子孔從之。而相

諸公子を誅す。二年晉は鄭を伐つ、鄭與に盟ふ、晉去る。冬又楚と盟ふ。子駟誅を畏る、故に晉楚に兩親す。三年、相子駟は自立して君と爲らんと欲す。公子子孔、尉止をして相子駟を殺さしめて之に代る。子孔又自立せんと欲す。子產曰く、子駟不可を爲すに之を誅し、今又之に效ふ。是れ亂は時に息むこと無きなりと。是に於て、子孔は之に從つて鄭に相たり。簡公の四年、晉は鄭と楚と盟ふを怒りて、鄭を伐つ。鄭與に盟ふ。楚の共王鄭を救ひ、晉兵を敗る。簡公は晉と平がんと欲す。楚又鄭の使者を囚ふ。十二年、簡公は相子孔が國權を專にするを怒り、之を誅し、子產を以て卿と爲す。十九年、簡公晉に如き、衞君を請ひて還す。而して子產を封ずるに六邑を以てするに、子產は讓り、其三邑を受けたり。二十二年、吳は延陵の季子を鄭に使すに、子產を見て舊交の如くす。子產に謂つて曰く、鄭の政を執る者侈れり、難將に至らんとす、政將に子に及ばんとす。子政を爲すに、必ず禮を以てせよ。然らずんば鄭將に敗れんとすと。子產季子を厚

年。楚共王曰、鄭成公孤有德焉。使人來與盟。成公私與盟。秋。成公朝晉。晉曰。鄭私平於楚。執之。使欒書伐鄭。四年春。鄭患晉圍。公子如乃立成公庶兄繻為君。其四月。晉聞鄭立君。乃歸成公。鄭人聞成公歸。亦殺君繻迎成公。晉兵去。十年。背晉盟盟於楚。晉厲公怒。發兵伐鄭。楚共王救鄭。晉楚戰鄢陵。楚兵敗。晉射傷楚共王目。俱罷而去。十三年。晉悼公伐鄭。兵於洧上。鄭城守。晉亦去。十四年。成公卒。子惲立。是為釐公。釐公五年。鄭相子駟朝釐公。釐公不禮。子駟怒。使厨人藥殺釐公。赴諸侯曰。釐公暴病卒。立釐公子嘉。嘉時年五歲。是為簡公。

楚の共王鄭を救ひ、晉と楚と鄢陵(四)に戰ふ。楚兵敗る。晉は射て楚の共王の目を傷ふ。俱に罷めて去りぬ。十三年、晉の悼公鄭を伐ち、洧(五)上に兵す。鄭は城守す、晉も亦去る。十四年成公卒し、子惲立つ。是を釐公と爲す。釐公の五年、鄭の相子駟は釐公に朝せしに、釐公禮せず。子駟怒り、厨人(六)をして釐公を藥殺せしめ、諸侯に赴げて曰く、釐公暴に病みて卒すと。釐公の子嘉を立つ。嘉は時に年五歲なり、是を簡公と爲す。

(一) 謂言す　(二) 鄭の曲となる　(三) 我嘗て德を施せり　(四) 前出　(五) 洧水に邊れる鄭の水名　(六) 臺所の役人

簡公元年。諸

簡公の元年、諸公子謀り、相子駟を誅せんと欲す。子駟之を覺り、反つて盡く

君能制ㇾ命爲ㇾ義。臣能承ㇾ命爲ㇾ信。受二吾君命一以出。有ㇾ死無ㇾ隕。莊王曰。若之許ㇾ我。已而背ㇾ之。其信安在。解揚曰。所二以許一ㇾ王。欲三以成二吾君命一也。將ㇾ死顧謂二楚軍一曰。爲二人臣一毋ㇾ忘二盡ㇾ忠得ㇾ死者一。楚王諸弟皆諫ㇾ王赦ㇾ之。於ㇾ是赦二解揚一使ㇾ歸。晉爵ㇾ之爲二上卿一。

十八年。襄公卒。子悼公潰立。悼公元年。鄭公惡二鄭於楚一。悼公使二弟睔於楚一自訟。訟不ㇾ直。楚囚ㇾ睔。於ㇾ是鄭悼公來。與ㇾ晉平遂親。睔私二於楚子反一。子反言歸二睔於鄭一。二年。楚伐ㇾ鄭。晉兵來救。是歲悼公卒。立二其弟睔一。是爲二成公一。成公三

十八年襄公卒す、子悼公潰立つ。悼公の元年、鄭公は鄭を楚に惡しくす。(一)悼公は弟睔を楚に使はして自ら訟ふ。訟(二)直ならず、楚は睔を囚ふ。是に於て、鄭の悼公は來りて晉と平ぎ、遂に親む。睔は楚の子反に私す。子反言つて睔を鄭に歸す。二年、楚は鄭を伐つ、晉兵來り救ふ。是歳悼公卒し、其弟睔を立つ、是を成公と爲す。成公の三年、楚の共王曰く、鄭の成公は、孤徳有りと。(三)人をして來りて與に盟はしむ。成公私に與に盟ふ。秋、成公晉に朝す。晉曰ふ、鄭は私に楚に平ぐと。之を執へ、欒書をして鄭を伐たしむ。四年春、鄭は晉の圍を患ふ。公子如乃、成公の庶兄繻を立てて君と爲す。其四月、晉は鄭が君を立てしを聞き、乃ち成公を歸す。鄭人成公歸ると聞き、亦君繻を殺して成公を迎ふ。晉兵去る。十年、晉の盟に背いて楚に盟ふ。晉の厲公怒り、兵を發して鄭を伐つ。

莊士。得二霍人解揚字子虎一。誑レ楚、令二宋毋レ降。過レ鄭。鄭與レ楚親。乃執二解揚一而獻レ楚。楚王厚賜與約。使レ反二其言一。令二宋趣降一。三要乃許。於レ是楚登二解揚樓車一令レ呼レ宋。遂負二楚約一。而致二其晉君命一。曰。晉方悉二國兵一以救レ宋。宋雖レ急愼毋レ降レ楚。晉兵今至矣。楚莊王大怒。將レ殺レ之。解揚曰。

於て、楚は解揚を樓車(六)に登せて、宋に呼ばしむるに、遂に楚の約に負いて、其晉君の命を致して曰く、晉は方に國兵を悉して、以て宋を救はんとす。宋急なりと雖も、愼んで楚に降る毋れ、晉兵今に至らんと。楚の莊王大いに怒り、將に之を殺さんとす。解揚曰く、君能く命(七)を制するを義と爲し、臣能く命を承くるを信と爲す。吾君の命を受けて以て出づれば、(八)死有るも隕す無しと。莊王曰く、若の我に許して、已にして之に背くは、其信安くに在ると。解揚曰く、王に許す所以は、以て吾君(九)の命を成さんと欲するのみと。將に死せんとし、顧みて楚軍に謂つて曰く、人臣と爲りて、忠を盡し死を得たる者を忘るゝ毋れと。楚王の諸弟皆王を諫めて之を赦さしむ。是に於て解揚を赦して歸らしむ。晉は之を爵(一〇)して上卿と爲せり。

(一) 晉の大夫　(二) 壯士に同じ　(三) 欺なり　(四) 速なり　(五) 強要する事三回　(六) 車上に高く設けたる望樓
(七) 君は其命を遂行するを以て義と爲す　(八) 死すとも命令に背かず　(九) 晉君を指す　(一〇) 爵もて賞するなり

王一。孤之願也。然非レ所二敢望一也。敢布二腹心一。惟命是聽。莊王爲却三十里而後舍。楚羣臣曰。自レ郢至レ此。士大夫亦久勞矣。今得レ國舍レ之何如。莊王曰。所レ爲レ伐。伐レ不レ服也。今已服。尙何求乎。卒去。晉聞二楚之伐一レ鄭。發レ兵救レ鄭。其來持二兩端一。故遲。比レ至レ河楚兵已去。晉將率或欲レ渡或欲レ還。卒渡レ河。莊王聞。還擊レ晉。鄭反助レ楚。大破二晉軍於河上一。

(一)大門なり、鄭城の表門　(二)楚世家參照　(三)諸侯に鄭地を分與す　(四)屠せたる土地　(五)鄭伯の言行に感ずるなり　(六)楚都より鄭都までの遠征　(七)此上に何物をか求めん　(八)軍議一致せず　(九)邲の大戰なり、晉世家參照

十年。鄭來伐レ鄭。以二其反一レ晉而親レ楚也。十一年。楚莊王伐レ宋。宋告二急于晉一。晉景公欲三發レ兵救二宋。伯宗諫二晉君一曰。天方開レ楚。未レ伐也。乃求二

十年、晉來りて鄭を伐つ、其の晉に反いて楚に親むを以てなり。十一年、楚の莊王宋を伐つ、宋は急を晉に告ぐ。晉の景公は兵を發して宋を救はんと欲す。伯宗(一)晉君を諫めて曰く、天方に楚を開く、未だ伐つべからずと。乃ち(二)莊士を求め、霍人解揚字は子虎を得たり。楚を(三)詐き、宋をして降る毋らしめんとし、鄭を過ぐ。鄭は楚と親む。乃ち解揚を執へて楚に獻ず。楚王厚く賜ひ、與に約して、其言に反せしめ、宋をして(四)趣に降らしめんとす。(五)三たび要して乃ち許す。是に

與晉盟。來伐圍鄭。三月。鄭以城降楚。楚王入自皇門。鄭襄公肉袒牽羊以迎。曰。孤不能事邊邑。使君王懷怒以及弊邑。孤之罪也。敢不惟命是聽。君王遷之江南。及以賜諸侯。亦惟命是聽。若君王不忘厲宣王桓武公。哀不忍絕其社稷。錫不毛之地。使復得改事君

袒し、羊を牽いて以て迎へて曰く、孤は邊邑に事ふる能はず、君王をして怒を懷き、以て弊邑に及ばしむ。孤の罪なり。敢て惟れ命是れ聽かざらんや。君王之を江南に遷して、以て(三)諸侯に賜ふに及ぶとも、亦惟れ命是れ聽かん。若し君王厲・宣王と桓・武公を忘れず、哀みて其社稷を絕つに忍びず、(四)不毛の地を錫ひ、復改めて君王に事ふるを得しめば、孤の願なり。然も敢て望む所に非ざるなり。敢て腹心を布いて、惟れ命是れ聽かんと。莊王(五)爲に却くこと三十里にして後に舍す。楚の羣臣曰く、(六)鄭より此に至るまで、士大夫も亦久しく勞せり。今は國を得て之を舍く、何如と。莊王曰く、伐つを爲す所は、服せざるを伐つなり。今已に服す、尚何をか求めんと。卒に去る。晉は楚の鄭を伐つを聞き、兵を發して鄭を救ふ。(七)其來るや(八)兩端を持す、故に遲し。河に至る比、楚兵已に去る。晉の將率或は渡らんと欲し、或は還らんと欲し、卒に河を渡る。莊王聞き、還りて晉を擊つ。鄭反つて楚を助けて、大いに晉軍を(九)河上に破りぬ。

背レ之而出。公怒欲レ殺二子公一。子公與二子家一謀レ先。夏。弑二靈公一。鄭人欲レ立二靈公弟去疾一。去疾讓曰。必以レ賢。則去疾不肖。必以レ順。則公子堅長。堅者靈公庶弟。去疾之兄也。於レ是乃立二子堅一。是爲二襄公一。襄公立。將三盡去二繆氏一。繆氏者殺二靈公一子公之族家也。去疾曰。必去二繆氏一。我將レ去レ之。乃止。皆以爲二大夫一。襄公元年。楚怒下鄭受二宋賂一縱中華元上。伐レ鄭。鄭背レ楚與レ晉親。五年。楚復伐レ鄭。晉來救レ之。六年。子家卒。國人復逐二其族一。以三其弑二靈公一也。

たる子公の族家なり。去疾曰く、必ず繆氏を去らば、我も將に之を去らんとすと。乃ち止め、皆以て大夫と爲す。襄公の元年、楚は鄭が宋の賂を受けて華元を縱ちしを怒り、鄭を伐つ。鄭は楚に背いて晉と親む。五年、楚復鄭を伐つ。晉來りて之を救ふ。六年子家卒す。國人復其族を逐ふ(九)。其の靈公を弑せしを以てなり。

(一)大なるすつぽん　(二)手の第二指　(三)從來の經驗を語るなり　(四)珍味　(五)すつぽんの汁　(六)羹中に指を入るゝなり　(七)年長なり　(八)子公の一族　(九)子家の一家を放逐す

七年。鄭與レ晉盟二鄢陵一。八年。楚莊王以二鄭

七年、鄭と晉と鄢陵に盟ふ。八年、楚の莊王は、鄭と晉と盟へるを以て、來り伐つて鄭を圍む。三月、鄭は城を以て楚に降り、楚王は皇門(一〇)より入る。鄭の襄公肉

牛一勞レ軍。故秦兵不レ至而還。晉敗二之於殽一。初往年。鄭文公之卒也。鄭司城繒賀以二鄭情一賣レ之。秦兵故來。三年。鄭發レ兵從レ晉伐レ秦。敗二秦兵於汪一。往年楚太子商臣弑二其父成王一代立。二十一年。宋華元伐レ鄭。華元殺レ羊食レ士。不レ與二其御羊斟一。怒以馳レ鄭。鄭囚二華元一。宋贖二華元一。元亦亡去。晉使二趙穿以レ兵伐一レ鄭。二十二年。鄭繆公卒。子夷立。是爲二靈公一。

靈公元年。春。楚獻二黿於靈公一。子家子公將レ朝二靈公一。子公之食指動。謂二子家一曰。佗日指動。必食二異物一。及レ入見二靈公進二黿羹一。子公笑曰。果然。靈公問二其笑故一。具告二靈公一。靈公召レ之。獨弗レ予レ羹。子公怒染二其指一。

靈公の元年春、楚は黿を靈公に獻ず。子家と子公と將に靈公に朝せんとし、子公の食指動く。子家に謂つて曰く、佗日指動けば、必ず異物を食へりと。入るに及べば、靈公が黿羹を進むるを見る。子公笑つて曰く、果して然りと。靈公其笑ふ故を問ふ。具に靈公に告ぐ。靈公之を召し、獨り羹を予へず。子公怒り、其指を染め、之を嘗めて出づ。公怒りて子公を殺さんと欲す。子公は子家と先んぜんことを謀り、夏靈公を弑す。鄭人は靈公の弟去疾を立てんと欲す。去疾讓りて曰く、必ず賢を以てせば、則ち去疾は不肖なり。必ず順を以てせば、則ち公子堅は長ずと。堅は靈公の庶弟にして、去疾の兄なり。是に於て乃ち子堅を立つ、是を襄公と爲す。襄公立ち、將に盡く繆氏を去らんとす。繆氏とは靈公を殺し

之元妃。其後當有興者。子蘭母其後也。且夫人子盡已死。餘庶子無如蘭賢。今圍急。晉以爲請。利孰大焉。遂許晉與盟。卒而立子蘭爲太子。晉兵乃罷去。四十五年。文公卒。子蘭立。是爲繆公。繆公元年。春。秦繆公。使三將將兵。欲襲鄭。至滑。逢鄭賈人弦高。詐以十二

今圍急なるに、晉以て請を爲す、利孰か焉より大ならんと。（三）遂に晉に許して與に盟ひ、卒に子蘭を立てて太子と爲す。晉兵乃ち罷き去る。四十五年文公卒し、子蘭立つ、是を繆公と爲す。繆公の元年春、秦の繆公は三將をして兵に將たらしめ、鄭を襲はんと欲し、滑に至り、鄭の賈人弦高に逢ふに、詐つて十二牛を以て軍を勞ふ。（四）故に秦兵至らずして還る。晉は之を崤（五）に敗りき。初め往年、鄭の文公の卒するや、鄭の司城（六）繒賀は、鄭の情（七）を以て之を賣りぬ。秦兵故に來りしなり。三年、鄭は兵を發し、晉に從つて秦を伐ち、秦兵を汪（八）に敗りき。往年（九）、楚の太子商臣は、其父成王を弑して代り立つ。二十一年、宋の華元と鄭を伐つ。華元は羊を殺して士に食はしめ、其御羊斟に與へず。怒りて以て鄭に馳す（一〇）。鄭華元を囚ふ。宋華元を贖ふ、元も亦亡げ去る。晉は趙穿をして、兵を以て鄭を伐たしむ。二十二年鄭の繆公卒し、子夷立つ、是を靈公と爲す。

（一）南燕國君の姓氏　（二）南燕の出なるを指す　（三）何ぞ是以上の利福有らんや　（四）慰勞す　（五）晉世家參照　（六）城邑民事の取締役　（七）祕密とする內情　（八）陝西同州府澄城縣　（九）前年　（一〇）鄭軍に馳せ入る

文公有三夫人。寵子五人。皆以罪蚤死。公怒溉逐羣公子。子蘭奔晉。從晉文公圍鄭。時蘭事晉文公甚謹。愛幸之。乃私於晉以求入鄭爲太子。晉於是欲得叔詹爲僇。鄭文公恐。不敢爲叔詹言。詹聞言於鄭君曰。臣謂君。君不聽臣。臣卒爲患。然晉所以圍鄭以詹。詹死而赦鄭國。詹之願也。乃自殺。鄭人以詹尸與晉。晉文公曰。必欲一見鄭君。辱之而去。鄭人患之。乃使人私於秦曰。破鄭益晉。非秦之利也。秦兵罷。

て曰く、臣君に謂ひしに、君臣に聽かず。晉卒に患を爲せり。然も晉が鄭を圍める所以は、詹を以てのみ、詹死して鄭國を赦せんは、詹の願なりと。乃ち自殺す。鄭人詹の尸を以て晉に與ふ。晉の文公曰く、必ず一たび鄭君に見えて、之を辱しめて去らんと欲すと。鄭人之を患へ、乃ち人をして秦に私せしめて曰く、鄭を破り晉を益すは、秦の利に非ざらんと。秦兵罷く。

㊀公子の名　㊁文公子蘭を寵愛す　㊂誅戮　㊃解せず　㊄赦免を得るなり　㊅屍骸

晉文公欲入蘭爲太子以告鄭。鄭大夫石癸曰。吾聞姞姓乃后稷

晉の文公は、蘭を入れて太子と爲さんと欲し、以て鄭に告ぐ。鄭の大夫石癸曰く、吾聞く姞姓は乃ち后稷の元妃なり、其後當に興る者有るべしと。子蘭の母は其後なり。且夫人の子は盡く已に死し、餘の庶子は蘭の賢なるに如くは無し。

如弗レ禮。遂殺レ之。弗レ殺使二即反一レ國。爲二鄭憂一矣。文公弗レ聽。三十七年春。晉公子重耳反レ國立。是爲二文公一。秋。鄭入レ滑。滑聽レ命。已而反與レ衛。於レ是鄭伐レ滑。周襄王使二伯犕請一レ滑。鄭文公怨二惠王之亡在一レ櫟。而文公父厲公入レ之。而惠王不レ賜二厲公爵祿一。又怨三襄王之與二衛滑一。故不レ聽二襄王請一。而囚二伯犕一。王怒。與二翟人一伐レ鄭。弗レ克。冬。翟攻二伐襄王一。襄王出二奔鄭一。鄭文公居二王于氾一。

侵入するなり、滑は姫姓の小国、河南偃師縣に國せり ㊇ 河南許南許州襄城縣南の地、鄭邑なり

三十八年。晉文公入二襄王成周一。四十一年。助レ楚擊レ晉。自二晉文公之過無一レ禮。故背レ晉助レ楚。四十三年。晉文公與二秦穆公一共圍レ鄭。討二其助レ楚攻レ晉者。及文公過時之無禮一也。初鄭

三十八年、晉の文公は襄王を成周に入る。四十一年、楚を助けて晉を擊つ。晉の文公の過りしに禮無かりしより、故に晉に背いて楚を助く。四十三年、晉の文公は秦の穆公と共に鄭を圍む。其の楚を助けて晉を攻めし者、及び文公過ぎし時の無禮を討ずるなり。初め鄭の文公は、三夫人と寵子五人と有り、皆罪を以て蚤く死せり。公は溉(二)を怒り、羣公子を逐ふや、子蘭は晉に奔りて、晉の文公に從へり。鄭を圍みし時、蘭の晉の文公に事ふるや甚だ謹む。之を愛幸(二)す。乃ち晉に私して、以て鄭に入りて太子と爲らんことを求む。晉は是に於て、叔詹を得て僇(三)を爲さんと欲す。鄭の文公恐れ、敢て叔詹の爲に言(四)はず。詹聞いて鄭君に言つ

夢天與二之蘭一曰。余爲二伯鯈一。余爾祖也。以レ是爲二而子一。蘭有二國香一。以レ夢告二文公一。文公幸レ之。而予二之草蘭一爲レ符。遂生レ子。名曰レ蘭。三十六年。晉公子重耳過。文公弗レ禮。文公弟叔詹曰。重耳賢。且又同姓。窮而過レ君。不レ可レ無レ禮。文公曰。諸侯亡公子。過者多矣。安能盡禮レ之。詹曰。君

曰ふ。三十六年、晉の公子(六)重耳過ぐ。文公禮せず。文公の弟叔詹曰く、重耳は賢なり、且又同姓なり。窮して君に過ぎる、禮無かるべからずと。文公曰く、諸侯の亡公子、過ぐる者多し、安んぞ能く盡く之に禮せんと。詹曰く、君如し禮せずんば、遂に之を殺せ。殺さずして、卽ち國に反らしめば、鄭の憂を爲さんと。文公聽かず。三十七年春、晉の公子重耳は國に反り立つ、是を文公と爲す。秋鄭は滑に(七)入る、滑は命を聽く。已にして反つて衞に與す。是に於て鄭は滑を伐つ。周の襄王、伯犕をして滑を請はしむ。鄭の文公は、惠王の亡げて櫟に在りて、文公の父厲公之を入れしに、惠王が厲公に爵祿を賜はざりしを怨む。又襄王が衞に滑を與ふるを怨み、故に襄王の請を聽かずして、伯犕を囚ふ。王怒り、翟人と鄭を伐つて、克たず。冬翟は襄王を攻伐す。襄王鄭に出奔す。鄭の文公は王を(八)氾に居く。

㊀ 齊世家參照　㊁ 南燕國の祖　㊂ 國中第一の香氣　㊃ 幸福なりとす　㊄ 證據とす　㊅ 晉の文公　㊆

我。亦甚矣。原曰。事君無二心。人臣之職也。原知罪矣。遂自殺。厲公於是謂甫瑕曰。子之事君。有二心矣。遂誅之。瑕曰。重德不報。誠然哉。厲公突後元年。齊桓公始霸。五年。燕衞與周惠王弟頹伐王。王出奔溫。立弟頹爲王。六年。惠王告急鄭。厲公發兵擊周王子頹。弗勝。於是與周惠王歸。王居于櫟。七年春。鄭厲公與虢叔襲殺王子頹。而入惠王于周。秋。厲公卒。子文公踕立。厲公初立。四歲亡居櫟。居櫟十七歲。復入立七歲。與亡凡二十八年。

めて立ち、四歳にして亡げて櫟に居る。櫟に居ること十七歳、復入り立つて七歳、亡と凡そ二十八年なり。(八)

(一) 強要して鄭都に入り鄭君とならんと欲す　(二) 城内の蛇と城外の蛇と　(三) 職分なり本分なり　(四) 我は我が罪過を自覺せり　(五) 重大なる德惠を施したるもの報酬を得ず　(六) 南蕃なり姞姓にして河南衞輝府に國せる小國なり　(七) 河南懷慶京　(八) 出亡せる期間と合算す

文公十七年。齊桓公以兵破蔡。遂伐楚至召陵。二十四年。文公之賤妾曰燕姞。

文公の十七年、齊の桓公は兵を以て蔡を破り、遂に楚を伐つて召陵に至る。(一) 二十四年、文公の賤妾を燕姞と曰ふ、夢に天之に蘭を與へて曰く、余を伯鯈と爲す、(二) 余は爾の祖なり。是を以て而の子と爲す。蘭は國香有りと。(三) 夢を以て文公に告ぐ。文公之を幸とし、(四) 之に草蘭を予へて符と爲す。(五) 遂に子を生む、名づけて蘭と

櫟者。使人誘劫鄭大夫甫瑕。要以求入。瑕曰。舍我。我爲君殺鄭子而入君。厲公與盟。乃舍之。六月。甲子。瑕殺鄭子及其二子。而迎厲公突。突自櫟復入卽位。初内蛇與外蛇闘於鄭南門中。内蛇死。居六年。厲公果復入。入而讓其伯父原曰。我亡國外居。伯父無意入。

さしめ、要(一)して以て入るを求む。瑕曰く、我を舍せ、我君の爲に鄭子を殺して君を入れんと。厲公與に盟ふ、乃ち之を舍す。六月甲子、瑕は鄭子及び其二子を殺して、厲公突を迎ふ。突は櫟より復入り、位に卽く。初め内蛇(二)と外蛇と、鄭の南門の中に闘ふ。内蛇死す。居ること六年、厲公果して復入る。入りて其伯父原を讓めて曰く、我國を亡げ、外に居るに、伯父は我を入るゝに意無し、亦甚しと。原曰く、君に事へて二心無きは、人臣の職(三)なり、原罪(四)を知れりと。遂に自殺す。厲公是に於て甫瑕に謂つて曰く、子の君に事ふるや二心有りと。遂に之を誅す。瑕曰く、重德(五)は報はれずと、誠に然りと。厲公突の後の元年、齊の桓公始めて霸たり。五年、燕(六)・衞は周の惠王の弟穨と王を伐つ。王溫(七)に出奔す。弟穨を立てて王と爲す。六年、惠王は急を鄭に告ぐ。厲公兵を發して、周の王子穨を擊ち、勝たず。是に於て周の惠王と歸る。王は櫟に居る。七年春、鄭の厲公は、虢叔と襲うて王子穨を殺して、惠王を周に入る。秋厲公卒し、子文公踕立つ。厲公初

仇。及會諸侯。祭仲請子亹無行。子亹曰。齊彊而厲公居櫟。即不往。是率諸侯伐我。內厲公。我不如往。往何遽必辱。且又何至是。卒行。於是祭仲恐齊并殺之。故稱疾。子亹至。不謝齊侯。齊侯怒。遂伏甲而殺子亹。高渠彌亡歸。歸與祭仲謀。召子亹弟公子嬰於陳而立之。是爲鄭子。是歲。齊襄公使彭生醉拉殺魯桓公。鄭子八年。齊人管至父等作亂。弒其君襄公。十二年。宋人長萬弒其君湣公。鄭祭仲死。

く。是に於て、祭仲は齊の并せて之を殺さんことを恐る、故に疾と稱せしなり。子亹至り、齊侯に謝せず。齊侯怒り、遂に甲を伏せて子亹を殺す。高渠彌亡げ歸る。歸りて祭仲と謀り、子亹の弟公子嬰を陳より召して之を立つ、是を鄭子と爲す。是歲、齊の襄公は、彭生をして醉はせて魯の桓公を拉ぎ殺さしむ。鄭子の八年、齊人管至父等亂を作し、其君襄公を弑す。十二年、宋人長萬は、其君湣公を弑す。鄭の祭仲死す。

(一) 齊世家參照　(二) 其理由はと云ふなり　(三) 齊を指す　(四) 恥辱を受くとも限らざるべし　(五) 何ぞ我を害すること有らん　(六) 祭仲自身なり　(七) 甲兵　(八) 齊及び魯世家に出づ

十四年。故鄭亡厲公突在

十四年、故の鄭の亡げし厲公突は櫟に在り、人をして誘うて鄭の大夫甫瑕を劫

以レ故亦不レ伐レ櫟。昭公二年。自下昭公爲二太子一時上。父莊公欲下以二高渠彌一爲上卿。太子忽惡レ之。莊公弗レ聽。卒用二渠彌一爲レ卿。及二昭公卽一レ位。懼二其殺一レ己。冬十月辛卯。渠彌與二昭公一出獵。射二殺昭公於野一。祭仲與二渠彌一不三敢入二厲公一。乃更立二昭公弟子亹一爲レ君。是爲二子亹一也。無二諡號一。

昭公を野に射殺す。祭仲は渠彌と、敢て厲公を入れず、乃ち更めて昭公の弟子亹を立てて君と爲り。是を子亹と爲す、諡號無し。(三)

(一) 多數の兵を頼りに與ふ　(二) 渠彌自ら恐るゝなり　(三) おくり名なり

子亹元年。七月。齊襄公會二諸侯於首止一。鄭子亹往會。高渠彌相從。祭仲稱レ疾不レ行。所二以然一者。子亹自下齊襄公爲二公子一之時上。嘗會鬭相

子亹の元年七月、齊の襄公は諸侯を首止に會す。(一) 鄭の子亹も往き會す。高渠彌相とし從ふ。祭仲は疾と稱して行かず。然る所以の者は、子亹は齊の襄公が公子爲りしの時より、嘗て會鬭して相仇たればなり。(二) 諸侯を會するに及び、祭仲は子亹に行くこと無からんを請へり。子亹曰く、齊は強くして、厲公は櫟に居る。卽し往かずんば、是れ(三)諸侯を率ゐて我を伐ち、厲公を內れん。我は往くに如かじ。往くとも何ぞ遽に(四)必ずしも辱かしめられん、且又(五)何ぞ是に至らんと。卒に行

立レ之。昭公忽聞下祭仲以二宋要一。立中其弟突上。九月。辛亥。忽出二奔衛一。己亥。突至レ鄭立。是爲二厲公一。厲公四年。祭仲專二國政一。厲公患レ之。陰使二其婿雍糾一。欲レ殺二祭仲一。糾妻祭仲女也。知レ之。謂二其母一曰。父與レ夫孰親。母曰。父一而已。人盡夫也。女乃告二祭仲一。祭仲反殺二雍糾一。戮二之於市一。厲公無下奈二祭仲一何上。怒レ糾曰。謀及二婦人一。死固宜哉。夏。厲公出居二邊邑櫟一。祭仲迎二昭公忽一。

でて邊邑櫟(七)に居る。祭仲は昭公忽を迎ふ。

(一) 將に汝を殺さんとす (二) 強要求 (三) 祭仲の女婿 (四) 天下の人は盡く夫となす事を得べし (五) さらし物とするなり (六) 事を謀りて婦人に知らしむ (七) 河南開封府禹州

六月。乙亥。復入レ鄭即レ位。秋。鄭厲公突因二櫟人一。殺二其大夫單伯一。遂居レ之。諸侯聞二厲公出奔一。伐レ鄭。弗レ克而去。宋頗予二厲公兵一。自守二於櫟一。鄭

六月乙亥、復鄭に入りて位に卽く。秋、鄭の厲公突、櫟人に因りて其大夫單伯を殺し、遂に之に居る。諸侯は厲公出奔すと聞き、鄭を伐ち、克たずして去りぬ。宋は頗る厲公に兵を予へ、自ら櫟に守らしむ。鄭も故を以て亦櫟を伐たず。昭公の二年、昭公の太子爲りし時より、父莊公は高渠彌を以て卿と爲さんと欲せり。太子忽之を惡むも、莊公聽かず、卒に渠彌を用ひて卿と爲せり。昭公が位に卽くに及び、其の己(一)を殺さんことを懼れき。冬十月辛卯、渠彌は昭公と出獵し、

四十三年。鄭莊公卒。初祭仲甚有レ寵二於莊公一。莊公使レ爲レ卿。公使レ娶二鄧女一。生二太子忽一。故祭仲立レ之。是爲二昭公一。莊公又娶二宋雍氏女一。生二厲公突一。雍氏有レ寵二於宋一。宋莊公聞二祭仲之立一レ忽。乃使三人誘召二祭仲一。而執レ之。曰。不レ立レ突將レ死。亦執レ突以求レ賂焉。祭仲許レ宋與レ宋盟。以レ突歸

四十三年、鄭の莊公卒す。初め祭仲は甚だ莊公に寵有り、莊公卿爲らしむ。公に鄧の女を娶らしむるに、太子忽を生めり。故に祭仲之を立てたり。是を昭公と爲す。莊公又宋の雍氏の女を娶り、厲公突を生む。雍氏は宋に寵有り。宋の莊公は、祭仲が忽を立てたるを聞き、乃ち人をして誘うて祭仲を召さしめて、之を執へて曰く、突を立てずんば將(一)に死せんとすと。亦突を執へて以て賂を求む。祭仲宋に許し、宋と盟ひ、突を以て歸り、之を立つ。昭公忽は祭仲が宋の要(二)を以て其弟突を立つと聞き、九月辛亥、忽は衞に出奔す。己亥突は鄭に至り立つ、是を厲公と爲す。厲公の四年、祭仲は國政を專にす。厲公之を患へ、陰に其婿(三)雍糾を使ひ、祭仲を殺さんと欲す。糾の妻は祭仲の女なり。之を知り、其母に謂つて曰く、父と夫と孰か親しきと。母曰く、父は一のみ、人は(四)盡く夫たらんと。女乃ち祭仲に告ぐ。祭仲反つて雍糾を殺して、之を市に戮(五)す。厲公祭仲を奈何ともする無く、糾を怒りて曰く、謀(六)婦人に及べり、死は固に宜なる哉と。夏、厲公は出

也。二十七年。始朝二周桓王一。桓王怒二其取一レ禾弗レ禮也。二十九年。莊公怒二周弗一レ禮。與レ魯易二祊許田一。三十三年。宋殺二孔父一。三十七年。莊公不レ朝レ周。周桓王率二陳蔡虢衞一伐レ鄭。莊公與二祭仲高渠彌一。發レ兵自救。王師大敗。祝瞻射中二王臂一。祝瞻請レ從レ之。鄭伯止レ之曰。犯レ長且難レ之。況敢陵二天子一乎。乃止。夜令三祭仲問二王疾一。三十八年。北戎伐レ齊。齊使求レ救。鄭遣二太子忽將一レ兵救レ齊。齊釐公欲レ妻レ之。忽謝曰。我小國。非二齊敵一也。時祭仲與倶。勸使レ取レ之。曰。君多二內寵一。太子無二大援一。將レ不レ立。三公子皆君也。所レ謂三公子者。太子忽。其弟突。次弟子亹也。

て鄭を伐つ。莊公は祭仲・高渠彌と、兵を發して自ら救ひ、王師大いに敗る。祝(三)瞻は射て王の臂に中つ。祝瞻之(四)に從はんと請ふ。鄭伯之を止めて曰く、長(五)を犯すすら且之を難かる、況んや敢て天子を陵ぐをやと。乃ち止む。夜祭仲をして王の疾を問(六)はしむ。三十八年、北戎は齊を伐つ。齊の使救を求む。鄭は太子忽をして、兵に將として齊を救はしむ。齊の釐公之に妻せんと欲す。忽謝して曰く、我は小國なり、齊の敵(七)に非ずと。時に祭仲與に倶にす、勸めて之を取らしめて曰く、君に內寵多く、太子に大援無し、將に立たざらんとす、三公子は皆君たらんと。所謂(八)三公子とは、太子忽、其弟突、次弟子亹なり。

(一) 稻穀なり (二) 周より受けし祊邑を魯に與へ魯の許田と交易す (三) 鄭將 (四) 追擊せんとす (五) 長者を犯すすら遠慮すべし (六) 見舞 (七) 匹敵對比 (八) 鄭君に寵愛の姫多し

段至レ京。繕二治甲兵一、與二其母武姜一謀レ襲レ鄭。二十二年。段果襲レ鄭。武姜爲二內應一。莊公

泉に至りて、則ち相見えよと。是に於て遂に之に從つて母に見ゆ。

一 河南南陽府鄧州の地なり、申は姜姓の小國　二 鍾愛なりき　三 鄭の一邑なり、開封府滎陽縣の東方　四 一國の首都の稱　五 其希望を奪はず　六 鄢陵に同じ　七 鄭の附小國、今の河南衛輝府輝縣の地　八 河南許州府　九 地下の泉なり、死後を曰ふ　一〇 物を献上す　一一 黃泉下に相見えんと曰ひし誓言

發レ兵伐レ段。段走。伐レ京。京人畔レ段。段出走レ鄢。鄢潰。段出二奔共一。於レ是莊公遷二其母武姜於城潁一。誓言曰。不レ至二黃泉一。毋二相見一也。居歲餘。已悔思レ母。潁谷之考叔。有レ獻二於公一。公賜レ食。考叔曰。臣有レ母。請君食賜二臣母一。莊公曰。我甚思レ母。惡レ負レ盟奈何。考叔曰。穿レ地至二黃泉一則相見矣。於レ是遂從レ之見レ母。

二十四年。宋繆公卒。公子馮奔レ鄭。鄭侵二周地一取レ禾。二十五年衛州吁弑二其君桓公一自立。與レ宋伐レ鄭。以二馮故一

二十四年、宋の繆公卒す、公子馮は鄭に奔る。鄭は周の地を侵して、禾を取る。(一二)二十五年、衛の州吁は其君桓公を弑して自立し、宋と鄭を伐つ。馮の故を以てなり。二十七年、始めて周の桓王に朝す。桓王は其の禾を取りしを怒りて、禮せず。二十九年、莊公は周の禮せざりしを怒り、魯と祊許の田を易ふ。三十三年、宋は孔父を殺す。三十七年、莊公周に朝せず。周の(一三)桓王は、陳・蔡・虢・衛を率る

人。曰二武姜一。生二太子寤生一。生レ之難。及レ生。夫人弗レ愛。後生二少子叔段一。段生易。夫人愛レ之。二十七年。武公疾。夫人請レ公。欲三立レ段爲二太子一。公弗レ聽。是歲。武公卒。寤生立。是爲二莊公一。莊公元年。封二弟段於京一。號二太叔一。祭仲曰。京大二於國一。非レ所二以封一レ庶也。莊公曰。武姜欲レ之。我弗二敢奪一也。

を生む(二)に難し。生るゝに及びて夫人愛せず。後に少子叔段を生む、段は生るゝ易かりき。夫人之を愛す。二十七年武公疾む。夫人公に請ひ、段を立てて太子と爲さんと欲す。公聽かず。是歲武公卒し、寤生立つ。是を莊公と爲す。莊公の元年、弟段を京(三)に封じ、太叔と號す。祭仲曰く、京は國(四)よりも大なり、庶を封ずる所以に非ずと。莊公曰く、武姜之を欲む、我敢て奪(五)はざるなりと。段京に至り、甲兵を繕ひ治め、其母武姜と鄭を襲はんことを謀る。二十二年、段は果して鄭を襲ひ、武姜は内應を爲す。莊公兵を發して段を伐つ。段走る。京を伐つ。京人は段に畔き。段は出でて鄢(六)に走る。鄢潰え、段は共(七)に出奔す。是に於て、莊公は其母武姜を城潁(八)に遷し、誓言して曰く、黃泉(九)に至らずんば、相見ゆる毋らんと。居ること歲餘、已に悔いて母を思ふ。潁谷の考叔、公に獻(一〇)ずること有り。公食を賜ふ。考叔曰く、臣に母有り、請ふ君の食は臣の母に賜はんと。莊公曰く、我甚だ母を思へども、盟(一一)に負くを惡む、奈何せんと。考叔曰く、地を穿つて黃

吾欲レ居ニ西方一。何如。對曰。其民貪而好レ利。難ニ久居一。公曰。周衰何國興者。對曰。齊秦晉楚乎。夫齊姜姓。伯夷之後也。伯夷佐レ堯典レ禮。秦嬴姓伯翳之後也。伯翳佐レ舜。懷ニ柔百物一。及楚之先。皆嘗有レ功ニ於天下一。而周武王克レ紂後。成王封ニ叔虞于唐一。其地阻險。以ニ此有德一與レ周衰竝。亦必興矣。桓公曰。善。於レ是卒言レ王。東徙ニ其民雒東一。而虢鄶果獻ニ十邑一。竟國レ之。二歲。犬戎殺ニ幽王於驪山下一。并殺ニ桓公一。鄭人共立ニ其子掘突一。是爲ニ武公一。

り、伯翳の後なり。伯翳は舜を佐けて、百物を懷柔せり。(三)及び楚の先は、皆嘗て天下に(二)功有りき。而も周の武王紂に克つて後に、成王は(四)叔虞を唐に封ぜり。其地阻險なり。(五)此有德を以て、周と衰へ並ぶとも、(六)亦必ず興らんと。桓公曰く、善しと。是に於て卒に王に言ひ、東して其民を雒東に徙すに、虢鄶は果して十邑を獻じき。竟に之に國す。二歲、犬戎は幽王を(七)驪山の下に殺し、并に桓公を殺しぬ。鄭人共に其子掘突を立つ、是を武公と爲す。

(一) 五行中の火を司る官名　(二) 楚の興隆　(三) 懷け安んず　(四) 晉の始祖　(五) 山河險要の地　(六) たとひ一時は周と共に衰ふとも他日必ず興らん　(七) 本紀參照

武公十年。娶ニ申侯女一爲ニ夫

武公の十年、申侯(一)の女を娶りて、夫人と爲す。武姜と曰ふ。太子寤生を生む。之

多レ邪。諸侯或畔レ之。於レ是桓公問二太史伯一曰。王室多レ故。予安逃レ死乎。太史伯對曰。獨雒之東土。河濟之南可レ居。公曰。何以。對曰。地近二虢鄶一。虢鄶之君。貪而好レ利。百姓不レ附。今公爲二司徒一。民皆愛レ公。公誠請居レ之。虢鄶之君。見二公方用一レ事。輕分二公地一。公誠居レ之。虢鄶之民。皆公之民也。

居らば、虢鄶の民は皆公の民ならんと。

(一)末子 (二)政事を便なりとして之を愛重す (三)民事文教を掌る (四)黃河洛水の間 (五)褒姒を寵愛せし事なり周本紀參看 (六)太史伯陽 (七)洛水の東方 (八)河水濟水の南方 (九)二國の名、共に河南開封府に屬す (一〇)周室に權勢あるを見て速に地を分與せん

公曰。吾欲三南之二江上一。何如。對曰。昔祝融爲二高辛氏火正一。其功大矣。而其於レ周。未レ有二興者一。楚其後也。周衰楚必興。興非二鄭之利一也。公曰。

公曰く、吾は南して江上に之かんと欲す、何如と。對へて曰く、昔、祝融は高辛氏の火正と爲り、其功大なり。而して其の周に於けるや、未だ興るもの有らず。楚は其後なり。周衰へば楚必ず興らん、興るは鄭の利に非ざるなりと。公曰く、吾は西方に居らんと欲す、何如と。對へて曰く、其民貪りて利を好む、久しく居り難しと。公曰く、周衰へば、何の國か興る者ぞと。對へて曰く、齊秦晉楚か。夫れ齊は姜姓なり、伯夷の後なり。伯夷は堯を佐けて禮を典る。秦は嬴姓な

鄭桓公友者。周厲王少子。而宣王庶弟也。宣王立。二十二年。友初封于鄭。封三十三歲。百姓皆便愛之。幽王以爲司徒。和集周民。周民皆說。河雒之間。人便思之。爲司徒一歲。幽王以褒后故。王室治

卷四十二

鄭世家第十二

鄭の桓公友は、周の厲王の少子なり、而して宣王の庶弟なり。宣王立つ、二十二年、友初めて鄭に封ぜらる。（一）封ぜられて三十三歲、百姓皆之を（二）便とし愛す。幽王以て（三）司徒と爲し、周民を和集せしむ。周民皆說ぶ。（四）河雒の間、人々之を便とし思ふ。司徒と爲ること一歲、幽王は褒后の故を以て、（五）王室の治は邪多く、諸侯或は之に畔く。是に於て、桓公は太史伯に（六）問うて曰く、王室故多し、予安くに死を逃れんかと。太史伯對へて曰く、獨り雒の（七）東土と河濟の（八）南と居るべしと。公曰く、何を以てぞと。對へて曰く、地は虢鄶に（九）近し、虢鄶の君は、貪りて利を好み、百姓附かず。今公は司徒爲り、民皆（十一）公を愛す。公誠し請うて之に居らば、虢鄶の君は、（一〇）公が方に事を用ふるを見て、輕く公に地を分たん。公誠し之に

吾所ニ為欲レ遺ニ少子一。固為ニ其能棄レ財故也。而長者不レ能。故卒以殺ニ其弟一。事之理也。無ニ足レ悲者一。吾日夜固以望ニ其喪之來一也。故范蠡三徙。成ニ名於天下一。非ニ苟去而已一。所レ止必成レ名。卒老ニ死于陶一。故世傳曰ニ陶朱公一。

陶に老死す。故に世に傳へて陶朱公と曰ふ。

㊀財の貴きを知りて之を棄つるに忍びず ㊁生産の困難を悉知す ㊂恐れ憚かる ㊃堅車に乘り良馬を驅る ㊄毫も惜む所なし ㊅道理上當然の事なり ㊆楚に生れて越に徙り齊の海濱に徙り陶に徙る

太史公曰。禹之功大矣。漸ニ九川一。定ニ九州一。至ニ于今一。諸夏艾安。及ニ苗裔句踐一。苦レ身焦レ思。終滅ニ彊呉一。北觀ニ兵中國一。以尊ニ周室一。號稱ニ霸王一。句踐可レ不レ謂レ賢哉。蓋有ニ禹之遺烈一焉。范蠡三遷。皆有ニ榮名一。名垂ニ後世一。臣主若レ此。欲レ毋レ顯得乎。

太史公曰く、禹の功は大なり、九川を漸き、(一)九州を定む。今に至るまで、諸(二)夏艾り安し。(三)苗裔句踐に及び、身を苦め思を焦し、終に彊呉を滅し、北のかた兵を中國に觀し、(四)以て周室を尊び、號して霸王と稱せらる。句踐は賢なりと謂はざるべけんや。蓋し禹の遺烈有るなり。范蠡は三たび遷りて、皆榮名有り、名後世に垂る。(五)臣主此の若し、顯はるゝ毋きを欲すとも得んや。

㊀夏の本紀參照 ㊁同上 ㊂同上 ㊃治に同じ ㊄越の君と臣と斯の如し

王左右。故王非下能恤二楚國一。而赦上乃以二朱公子故一也。楚王大怒曰。寡人雖二不德一耳。奈何以二朱公之子故一而施レ惠乎。令レ論二殺朱公子一。明日遂下二赦令一。朱公長男竟持二其弟喪一歸至。其母及邑人盡哀レ之。

(一) 幸福を歡ぶ　(二) 歎く　(三) 罪を論じて誅殺す　(四) 殺したる翌日

唯朱公獨笑曰。吾固知三必殺二其弟一也。彼非レ不レ愛二其弟一。顧有二所レ不レ能忍者一也。是少與レ我俱見レ苦二爲レ生難一。故重レ棄レ財。至レ如二少弟一者。生而見二我富。乘レ堅驅レ良逐二狡兎一。豈知三財所二從來一。故輕レ去レ之。非レ所レ惜吝。前日

唯朱公は獨り笑つて曰く、吾は固より必ず其弟を殺さんを知れり。彼は其弟を愛せざるに非ず、顧ふに忍ぶ能はざる所の者有りしなり。是れ少きより我と倶に(一)生を爲すことの難きに苦む(二)を見たり。故に財を弃つるに(三)重かる。少弟の如きに至りては、生れながらにして我富を見、(四)堅に乘じ良を驅り狡兎を逐ふ、豈財の從り來る所を知らんや、故に之を去るを輕んず、惜吝する所に非ず。前日吾が爲に少子を遣らんと欲せし所のものは、固に其能く(五)財を棄つるが爲の故なり。而るに長者は能はず、故に卒に以て其弟を殺せり。(六)事の理なり、悲むに足る者無し。吾日夜に固に以て其喪の來るを望めりと。故に范蠡は(七)三たび徙りて、名を天下に成せり。苟も去るのみに非ずして、止る所に必ず名を成せり。卒に

以爲赦弟固當ㇾ出也。重二千金一虛弃二莊生一無ㇾ所ㇾ爲也。乃復見二莊生一。莊生驚曰。若不ㇾ去邪。長男曰。固未也。初爲ㇾ事ㇾ弟。弟今議自赦。故辭ㇾ生去。

莊生知二其意欲三復得二其金一曰。若自入ㇾ室取ㇾ金。長男即自入ㇾ室。取ㇾ金持去。獨自歡幸。莊生羞ㇾ爲二兒子所一ㇾ賣。乃入見二楚王一曰。臣前言二某星事一。王言欲二以修ㇾ德報一ㇾ之。今臣出道路皆言。陶之富人朱公之子。殺ㇾ人囚ㇾ楚。其家多持二金錢一。賂二

莊生は其意の復其金を得んと欲するを知りて曰く、若自ら室に入りて金を取れと。長男卽ち自ら室に入り、金を取りて持ち去り、獨り自ら歡幸す。(一)莊生は兒子(二)の賣る所と爲りしを羞ぢ、乃ち入りて楚王に見えて曰く、臣前に某星の事を言ひしに、王言ふらく、以て德を修めて之に報いんと欲すと。今臣出づるに、道路皆言ふ、陶の富人朱公の子、人を殺して楚に囚はる。其家多く金錢を持し、王の左右に賂へり。故に王は能く楚國を恤みて赦ししに非ず、乃ち朱公の子なる故を以てなりと。楚王大いに怒りて曰く、寡人不德なるのみと雖も、奈何ぞ朱公の子の故を以て惠を施さんやと。朱公の子を論殺(三)せしめ、明日(四)遂に赦令を下す。朱公の長男は、竟に其弟の喪を持して歸り至る。其母及び邑人、盡く之を哀む。

莊生間時入見楚王言。某星宿某。此則害於楚。楚王素信莊生。曰。今爲奈何。莊生曰。獨以德。爲可以除之。楚王曰。生休矣。寡人將行之。王乃使使者封三錢之府。楚貴人驚告朱公長男曰。王且赦。曰。何以也。曰。每王且赦。常封三錢之府。昨暮王使使封之。朱公長男

莊生は間時(一)に入り、楚王に見えて言ふらく、某星某に宿す、此は則ち楚に害ありと。楚王素より莊生を信ず。曰く、今爲すこと奈何と。莊生曰く、獨り德を以て以て之を除くべしと爲すと。楚王曰く、生休め、寡人將に之を行はんとすと。王乃ち使者をして三錢(二)の府を封ぜしむ。楚の貴人驚いて朱公の長男に告げて曰く、王且に赦さんとす(三)と。曰く、何が以ぞやと。曰く、王が且に赦さんとする每に、常に三錢の府を封ず。昨暮、王、使をして之を封ぜしめきと。朱公の長男以爲らく、赦あらば弟固より當に出づべし。(四)千金を重しとし、虛しく莊生に弃つるは、爲す所無きなりと。乃ち復莊生に見ゆ。莊生驚いて曰く、若去らずやと。長男曰く、固に未し。初は弟を事とする(五)が爲なりき。弟今は議せられて自ら赦されんとす。故に生に辭して去らんとすと。

(一) 間暇の時 (二) 黄金白銀赤銅三貨を藏する庫 (三) 罪人を赦す (四) 千金は貴重の金なり、一凡人たる莊生に與ふるは馬鹿々々しと (五) 弟を救はんとするが爲なり

貧。然長男發ㇾ書進二千金一。如二其父言一。莊生曰。可二疾去一矣。愼毋ㇾ留。卽弟出。勿ㇾ問ㇾ所二以然一。長男既去。不ㇾ過二莊生一。而私留以二其私齎一。獻二遺楚國貴人用ㇾ事者一。莊生雖ㇾ居二窮閻一。然以二廉直一聞二於國一。自二楚王一以下。皆師二尊之一。及二朱公進ㇾ金。非ㇾ有ㇾ意ㇾ受也。欲下以二成ㇾ事後一復歸ㇾ之以爲上ㇾ信耳。故金至。謂二其婦一曰。此朱公之金。有ㇾ如二病不ㇾ宿。誡後復歸勿ㇾ動。而朱公長男。不ㇾ知二其意一。以爲殊無二短長一也。

卽し弟出づとも、然る所以を問ふこと勿れと。長男既に去りて、莊生を過らず。而も私に留り、其私齎(四)を以て、楚國貴人の事を用ふる者に獻遺す。莊生は窮閻(六)に居ると雖も、然も廉直を以て國に聞え、楚王より以下、皆之を師とし尊ぶ。朱公が金を進むるに及び、受くるに意有るに非ず、事を成すの後を以て、復之を歸し、以て信(七)と爲さんと欲せしのみ。故に金至るや、其婦に謂つて曰く、此は朱公の金なり。病(八)みて宿じめせざるが如きこと有らば、誡めて後に復歸さん、動かす勿れと。而も朱公の長男は其意を知らず、以爲らく殊に短長(九)無しと。

㊀ 楚都の郭外に在るなり ㊁ あかざの茂りたる所 ㊂ 書を呈す ㊃ 出獄の理由 ㊄ 私を持ち來りし金 ㊅ 貧窮の巷 ㊆ 信實を表せんとす ㊇ 不慮の病氣に罹ることなどあらば狂忘して後此金を歸し與へんと ㊈ 尋常一樣の人なり

少子及ㇾ壯。而朱公中男殺ㇾ人囚二於楚一。朱公曰。殺ㇾ人而死職也。然吾聞千金之子。不ㇾ死二於市一。告二其少子一。往視ㇾ之。乃裝二黃金千鎰一。置二褐器中一。載以二一牛車一。且ㇾ遣二其少子一。朱公長男固請欲ㇾ行。朱公不ㇾ聽。長男曰。家有二長子一曰二家督一。今弟有ㇾ罪。大人不ㇾ遣。乃遣二少弟一。是吾不肖。欲二自殺一。其母爲言曰。今遣二少子一。未二必能生二中子一也。而先空亡二長男一奈何。朱公不ㇾ得ㇾ已。而遣二長子一。爲二一封書一。遣二故所ㇾ善莊生一。曰。至則進二千金于莊生所一。聽二其所一ㇾ爲。愼無二與爭ㇾ事。

り、故の善き所の莊生に遣りて曰く、至らば則ち千金を莊生の所に進めて、其の爲す所に聽せよ。愼んで與に事を爭ふ無かれと。

(一) 平民賤者の服　(二) 實を以て言ふ至寶と同じ　(三) 山東曹州、府定陶縣　(四) 中央　(五) 生計　(六) 節儉して備要を守る　(七) 賈買に同じ　(八) 時季を伺うて物品を轉換す　(九) 商業と云ふに同じ、十分一の利を言ふ　(一〇) 財貨　(一一) 末子　(一二) 年三十を壯といふ　(一三) 本分　(一四) 富人の子は市上に死することなし　(一五) 鎰は二十四兩なり巨額を概稱す　(一六) 賤者の衣服器具等の雜物　(一七) 一家の監督者の義　(一八) 愚者　(一九) 不確定　(二〇) 親交ありし舊友

長男既行。亦自私齎二數百金一至ㇾ楚。莊生家負ㇾ郭。披二藜藿一到ㇾ門。居甚

長男既に行き、亦自ら私に數百金を齎して楚に至る。莊生の家は郭(一)を負へり。藜藿(二)を披きて門に到るに、居甚だ貧し。然も長男は書(三)を發して、千金を進むること、其父の言の如くす。莊生曰く、疾く去るべし、愼みて留る毋れ。

受二尊名一不祥。乃歸二相印一。盡散二其財一。以分二與知友鄉黨一。而懷二其重寶一。閒行以去止二于陶一。以爲此天下之中。交二易有無一之路通。爲レ生可二以致一レ富矣。於レ是自謂二陶朱公一。復約要父子耕畜。廢居候レ時轉レ物。逐二什一之利一。居無レ何。則致レ貲累二巨萬一。天下稱二陶朱公一。朱公居レ陶生二少子一。

以て去り、陶に止る。以爲らく、此れ天下の中、有無を交易するの路通ず。生を爲さんに以て富を致すべしと。是に於て自ら陶朱公と謂ふ。復約要し、父子耕畜し、廢居し、時を候ひ物を轉じ、什一の利を逐ふ。居ること何も無くして、則ち貲を致して巨萬を累ぬ。天下陶朱公と稱す。朱公の陶に居るや、少子を生む。少子壯なるに及びて、朱公の中男は人を殺し、楚に囚はる。朱公曰く、人を殺して死するは職なり。然も吾聞く、千金の子は市に死せずと。其少子に告げ、往いて之を視しむ。乃ち黃金千鎰を裝り、褐器の中に置き、載するに一牛車を以てし、且に其少子を遣らんとす。朱公の長男、固く請うて行かんと欲す。朱公聽かず。長男曰く、家に長子有り、家督と曰ふ。今弟罪有るに、大人遣らずして、乃ち少弟を遣るは、是れ吾が不肖なるなりと。自殺せんと欲す。其母爲に言つて曰く、今少子を遣るも、未だ必ずしも中子を生かす能はざるに、而も先づ空しく長男を亡はんとす、奈何と。朱公已むを得ずして長子を遣る。一封の書を爲

爲レ書辭二句踐一曰。臣聞主憂臣勞。主辱臣死。昔者君王辱二於會稽一。所三以不二レ死。爲二此事一也。今既以雪レ恥。臣請從二會稽之誅一。句踐曰。孤將三與レ子分レ國而有二レ之一。不レ然將レ加二誅于子一。范蠡曰。君行レ令。臣行レ意。乃裝二其輕寶珠玉一。自與二其私徒屬一。乘レ舟浮レ海以行。終不レ反。於レ是句踐表二會稽山一。以爲二范蠡奉邑一。范蠡浮レ海出レ齊。變二姓名一。自謂二鴟夷子皮一。耕二于海畔一。苦レ身戮レ力。父子治レ産。居無レ幾何一。致二産數千萬一。齊人聞二其賢一。以爲レ相。

浮び、以て行る。終に反らず。是に於て、句踐は會稽山を表して(七)、以て范蠡の奉邑(八)と爲す。范蠡海に浮びて齊に出で、姓名を變じて、自ら鴟夷(九)子皮と謂ひ、海畔に耕し、身を苦め力を戮せ、父子産を治め、居ること幾何も無くして産數千萬を致す。齊人其賢を聞き、以て相と爲す。

(一)至大の名譽　(二)恥辱の報復を思ふが爲なりき　(三)會稽に於て君の辱を受けられし時死すべかりし自分の罪　(四)勝手に命令を行ふべし　(五)輕便なる珍寶珠玉　(六)自家私有の臣屬　(七)表彰す　(八)祭祀の邑　(九)鴟夷は革囊なり、進退自由の意を寓するか

范蠡喟然歎曰。居レ家則致二千金一。居レ官則至二卿相一。此布衣之極也。久

范蠡喟然として歎じて曰く、家に居ては則ち千金を致し、官に居ては則ち卿相に至るは、此れ布衣の極なり。久しく尊名を受くるは不祥なりと。乃ち相印を歸し、盡く其財を散じて、以て知友鄕黨に分與し、其重寶を懷き、間行して

至₂浙江₁。北破₂齊於徐州₁。而越以ㇾ此散。諸族子爭立。或爲ㇾ王或爲ㇾ君。濱₂於江南海上₁。服₂朝於楚₁。後七世至₂閩君搖₁。佐₂諸侯₁平ㇾ秦。漢高帝復以ㇾ搖爲₂越王₁。以奉₂越後₁。東越閩君皆其後也。

范蠡事₂越王句踐₁。既苦ㇾ身戮ㇾ力、與₂句踐₁深謀。二十餘年。竟滅ㇾ吳報₂會稽之恥₁。北渡₂兵於淮₁。以臨₂齊晉₁。號₂令中國₁。以尊₂周室₁。句踐以霸。而范蠡稱₂上將軍₁。還反ㇾ國。范蠡以爲。大名之下。難₂以久居₁。且句踐爲ㇾ人。可₂與同ㇾ患。難₂與居ㇾ安。

范蠡は越王句踐に事へ、既に身を苦め力を戮せ、句踐と深く謀ると、二十餘年、竟に吳を滅して、會稽の恥を報じ、北のかた兵を淮に渡し、以て齊晉に臨み、中國に號令して以て周室を尊び、句踐以て霸たり。而して范蠡は上將軍と稱し、還りて國に反る。范蠡以爲らく、(一)大名の下は、以て久しく居り難し。且句踐の人と爲りは、與に患を同じうすべくして、與に安に處り難しと。書を爲りて句踐に辭して曰く、臣聞く主憂ふれば臣勞し、主辱しめらるれば臣死すと。昔は君王會稽に辱しめらる。死せざりし所以は、(二)此事の爲めなりき。今既に以て恥を雪げり。臣請ふ(三)會稽の誅に從はんと。句踐曰く、孤將に子と國を分つて之を有たんとす。然らずんば將に誅を子に加へんとすと。范蠡曰く、君は(四)令を行へ、臣は意を行はんと。乃ち其(五)輕寶珠玉を裝り、自ら其(六)私徒屬と、舟に乘り海に

楚也。晉楚不鬪。越兵不起。是知二五而不知十也。此時不攻楚。臣以是知越大不王。小不伯。復讐龐長沙。楚之粟也。竟澤陵楚之材也。越窺兵通無假之關。此四邑者。不上貢事於郢矣。臣聞之。圖王不王。其敝可以伯。然而不伯者。王道失也。故願。大王之轉攻楚也。於是越遂釋齊而伐楚。楚威王興兵而伐之。大敗越。殺王無彊。盡取故吳地

れば王たらざるも、其敝は以て伯たるべしと。然り而して伯(九)たらざる者は、王道(一〇)の失あればなり。故に願くは、大王の轉じて楚を攻めんことをと。是に於て、越は遂に齊を釋てて楚を伐つ。楚の威王、兵を興して之を伐ち、大いに越を敗り、王無彊を殺し、盡く故の吳の地を取り、浙江(一一)に至る。北のかた齊を徐州に破る。而して越は此を以て散じ、諸族子爭ひ立ち、或は王と爲り、或は君と爲り、江南海上に濱して(一二)、楚に(一三)服朝す。後七世、閩君搖に至り、諸侯を佐けて秦を平ぐ。漢高帝、復搖を以て越王と爲し、以て越の後を奉ぜしむ。東越(一四)・閩君は、皆其後なり。

(一) 晉世家參照 (二) 河南南陽府鄧州なり、秦に屬す (三) 江南長沙の西北に在る楚の要塞 (四) 五の二倍が十なるを知るも十の本來十なるを知らず (五) 共に湖南長沙府長沙縣なり、楚の邑名良穀を産す (六) 共に湖北安陸府沔門縣附近なり、良材を出す (七) 楚を窺ふ兵隊 (八) 楚都に入るを得ざらん (九) 霸に同じ (一〇) 王道を圖らざるの失計 (一一) 越の要地なり (一二) 或時は江南に或時は海濱に散在す (一三) 服從朝貢す (一四) 列傳參照

而獲レ之。不二此之爲一。而頓二刃於河山之間一。以爲二齊秦用一。所レ待者如レ此。其失計奈何。其以レ此王也。齊使者曰。幸也。越之不レ亡也。吾不レ貴下其用レ智之如中目見二豪毛一。而不レ見二其睫一也。今王知二晉之失計一。而不三自知二越之過一。是目論也。王所レ待二於晉一者。非二其汗馬之力一也。又非レ可二與合レ軍連一レ和也。將三待レ之以分二楚衆一也。今楚衆已分。何待二於晉一。越王曰。奈何。曰。楚三大夫張二九軍一。北圍二曲沃於中一。以至二無假之關一。三千七百里。景翠之軍。北聚二魯齊南陽一。分有二大レ此者一乎。且王之所レ求者。鬪二晉

(一)損傷せしむ　(二)魏都　(三)齊の二邑名　(四)亦齊南境の二邑なり　(五)楚の國境なる山名　(六)楚宋の二世家參照　(七)楚より中國に通ずる道　(八)韓魏　(九)期待する所は王覇たるに在り　(一〇)毫毛なり、外物微細をも看る力を有するなり　(一一)目がその睫を知らざるが如き類なり

越王曰く、奈何と。曰く、楚の三大夫は九軍を張り、北のかた曲沃(一)と於中(二)とを圍み、以て無假の關に至るまで、三千七百里なり。景翠の軍は、北のかた魯と齊の南陽とに聚(三)れり。分るゝこと此より大なる者有らんや。且王の求むる所の者は、晉楚を鬪はしむるなり。晉楚鬪はざれば、越兵起たずとは、是れ二五(四)を知りて十を知らざるなり。此時楚を攻めず。臣是を以て越の大は王たらず小は伯たらざるを知る、復讐(五)・龐・長沙は楚の粟なり、竟(六)・澤陵は楚の材なり。越の窺(七)兵無假の關に通ぜんには、此四邑は、上貢して郢(八)に事へじ。臣之を聞く、王を圖

於晉一者。不ㇾ至二頓ㇾ刃接一ㇾ兵。而况於二攻ㇾ城圍一ㇾ邑乎。願魏以聚二大梁之下一。願齊之試二兵南陽莒地一以聚二常鄭之境一。則方城之外不ㇾ南。淮泗之間不ㇾ東。商於析酈宋胡之地。夏路以左。不ㇾ足二以備一ㇾ秦。江南泗上。不ㇾ足二以待一ㇾ越矣。則齊秦韓魏得二志於楚一也。是二晉不ㇾ戰而分ㇾ地。不ㇾ耕

城を攻め邑を圍むに於てをや。願くは魏は以て大梁（二）の下に聚めよ。願くは齊の兵を南陽（三）・莒地に試み、以て常・鄭の境に聚めよ。則ち方城（五）の外は南せず、淮泗の間は東せず。商於（六）・析・酈・宋胡の地、夏路（七）より以左、以て秦に備ふるに足らず、江南泗上、以て越を待つに足らざらん。則ち齊秦韓魏は志を楚に得ん。是れ二晉は戰はずして地を分ち、耕さずして之を穫るなり。此を之れ爲さずして、刃（八）を河山の間に頓らし、以て齊秦の用と爲る。待つ所（九）の者此の如きに、其失計奈何ぞや。其れ此を以て王たらんことと。齊の使者曰く、幸なるかな越の亡びざること。吾は其の智を用ふるの目に豪毛（一〇）を見て、其睫を見ざるが如くなるを貴ばず。今王は晉の失計を知るも、而も自ら越の過を知らず。是目の論（一一）なり。王の晉に待つ所の者は、其汗馬の力に非ず、又與に軍を合せ和を連ぬべきにも非ず。將に之を待つて以て楚衆を分たんとするのみ。今楚衆已に分る、何ぞ晉に待たんと。

翳立。王翳卒。子王之侯立。王之侯卒。子王無彊立。王無彊時。越興レ師北伐レ齊、西伐レ楚。與ニ中國一爭レ彊。當ニ楚威王之時一。越北伐レ齊。齊威王使ニ人說ニ越王一曰。越不レ伐レ楚。大不レ王。小不レ伯。圖ニ越之所レ爲。不レ伐レ楚者。爲レ不レ得レ晉也。韓魏固不レ攻レ楚。韓之攻レ楚。覆ニ其軍一殺ニ其將一。則葉陽翟危。魏亦覆ニ其軍一殺ニ其將一。則陳上蔡不レ安。故二晉之事レ越也。不レ至ニ於覆レ軍殺レ將。汗馬之力不レ效。所レ重ニ於得レ晉者。何也。

王に說かしめて曰く、越は楚を伐たずんば、大は王たらず、小は伯たらじ。(一)越の爲す所を圖るに、楚を伐たざる者は、晉を得ざるが爲なり。韓魏は固に楚を攻めず、韓の楚を攻むるや、其軍を覆し其將を殺さば、則ち葉・陽翟危からん。(二)魏も亦其軍を覆し其將を殺さば、則ち陳・上蔡安からじ。(三)故に二晉の越に事ふるや、軍を覆し將を殺すに至らず、汗馬の力效さざらん。(四)晉に得るを重る所の者は何ぞやと。

(一) 大にしては王たる能はず、小にしては霸たる能はじ (二) 韓の兩邑名なり、文意は韓にして楚を攻めて不幸敗軍せば二邑ともに楚に奪はれんとの義 (三) 魏の兩邑名、前出 (四) 以下韓魏は越と聯合せば、二國共に勞少くし功多からん、然るに越が此二國と聯合せざるは何故ぞとなり

越王曰。所レ求ニ

越王曰く、晉に求むる所の者は、刃を頓らし(一)兵を接するに至らず。而も況んや

南。以淮上地與楚。歸吳所侵宋地於宋。與魯泗東方百里。當是時。越兵橫行於江淮東。諸侯畢賀。號稱霸王。范蠡遂去。自齊遺大夫種書曰。蜚鳥盡良弓藏。狡兎死走狗烹。越王爲人長頸烏喙。可與共患難。不可與共樂。子何不去。種見書稱病不朝。人或讒種且作亂。越王乃賜種劍曰。子敎寡人伐吳七術。寡人用其三而敗吳。其四在子。子爲我從先王試之。種遂自殺。

の七術を敎へき。寡人其三を用ひて吳を敗りぬ。其四は子に在り。我爲に先王(九)に從つて之を試みよと。種遂に自殺す。

(一)越の東部なる甬江の東邊邑　(二)子胥に逢ふ面目なし　(三)貳心を抱くの罪を許するなり　(四)江蘇省に在り　(五)靈廟の祭肉　(六)泗水東方の地　(七)飛に同じ　(八)頸長くして口は烏の如き嘴なり　(九)旣に死したる先君の許に行いてその策を獻ぜよとなり

句踐卒。子王鼫與立。王鼫與卒。子王不壽立。王不壽卒。子王翁立。王翁卒。子王

句踐卒し、子王鼫與立つ。王鼫與卒し、子王不壽立つ。王不壽卒し、子王翁立つ。王翁卒し、子王翳立つ。王翳卒し、子王之侯立つ。王之侯卒し、子王無彊立つ。王無彊の時、越は師を興し、北のかた齊を伐ち、西のかた楚を伐ち、中國と彊を爭ふ。楚の威王の時に當り、越北して齊を伐つ。齊の威王は人をして越

句踐憐レ之。乃使三人謂二吳王一曰。吾置二王甬東一君二百家一。吳王謝曰。吾老矣。不レ能レ事二君王一。遂自殺。乃蔽二其面一曰。吾無三面以見二子胥一也。越王乃葬二吳王一。而誅二太宰嚭一。句踐已平レ吳。乃以レ兵北渡レ淮。與二齊晉諸侯一會二於徐州一。致二貢於周一。周元王使三人賜二句踐胙一。命爲レ伯。句踐已去。渡二淮

句踐之を憐み、乃ち人をして吳王に謂はしめて曰く、吾は王を甬東に置いて、百家に君とせんと。吳王謝して曰く、吾老いたり、君王に事ふる能はずと。遂に自殺す。乃ち其面を蔽うて曰く、吾面の以て子胥を見るべき無しと。越王乃ち吳王を葬りて、太宰嚭を誅す。句踐已に吳を平げ、乃ち兵を以て北して淮を渡り、齊晉諸侯と徐州に會し、貢を周に致す。周の元王、人をして句踐に胙を賜はしめ、命じて伯と爲す。句踐已に去り、淮南に渡り、淮上の地を以て楚に與へ、吳が侵しゝ所の宋の地を宋に歸し、魯に泗東方の百里を與ふ。是時に當り、越兵は江淮の東に橫行す。諸侯畢く賀し、號して霸王と稱す。范蠡遂に去り、齊より大夫種に書を遺りて曰く、蜚鳥盡きて良弓藏れ、狡兎死して走狗烹らる。越王の人と爲り、長頸烏喙なり、與に患難を共にすべきも、與に樂を共にすべからず。子何ぞ去らざると。種は書を見て、病と稱して朝せず。人或は種を且に亂を作さんとすと讒す。越王乃ち種に劍を賜うて曰く、子寡人に吳を伐つ

行而前。請二威越王一曰。孤臣夫差敢布二腹心一。異日嘗得二罪於會稽一。夫差不二敢逆一レ命。得下與二君王一成以歸上。今君王擧二玉趾一而誅二孤臣一。孤臣惟命是聽。意者亦欲下如二會稽一之赦中孤臣之罪上乎。句踐不レ忍。欲レ許レ之。范蠡曰。會稽之事天以レ越賜レ呉。呉不レ取。今天以レ呉賜レ越。越其可レ逆レ天乎。且夫君王蚤朝晏罷。非レ爲レ呉邪。謀レ之二十二年。一旦而棄レ之可乎。且夫天與弗レ取。反受二其咎一。伐レ柯者其則不レ遠。君忘二會稽之厄一乎。句踐曰。吾欲レ聽二子言一。吾不レ忍二其使者一。范蠡乃鼓進レ兵曰。王已屬二政於執事一。使者去。不者且レ得レ罪。呉使者泣而去。

賜へり。呉取らず。今は天呉を以て越に賜ふ、越其れ天に逆ふべけんや。且つ夫れ君王蚤に朝し晏く罷むる(六)は、呉の爲に非ずや。之を謀ること二十二年、一旦にして之を棄つること、可ならんや。且夫れ天の與ふる取らずんば、反つて其咎を受く。柯を伐る者は、其則遠からず(七)。君よ會稽の厄を忘れしかと。句踐曰く、吾子が言を聽かんと欲するも、吾其使者に忍びず(八)と。范蠡乃ち鼓して兵を進めて曰く、王已に政を執事に屬せり。使者去れ、不らずんば且に罪を得んとすと。呉の使者泣いて去りぬ。

㊀ 疲れやぶるなり、武具調度のやぶれを言ふ ㊁ 謝罪降參の體なり、前出 ㊂ 過去の某日 ㊃ 足を言ふ ㊄ 會稽山にて予が君を許したるが如く ㊅ 早朝より政を視夜に入りて休みし勤勉 ㊆ 斧の柄を作る者は木の枝を斬りて斧の柄となすに已の斧の柄を標準となす、詩經參看 ㊇ 使者を謝絕する事

池一。呉國精兵從レ王。惟獨老弱與二太子一留守。句踐復問二范蠡一。蠡曰。可矣。乃發二習流二千。教士四萬人。君子六千人。諸御千人一。伐レ呉。呉師敗。遂殺二呉太子一。呉告二急於王一。王方會二諸侯於黄池一。懼二天下聞一レ之。乃祕レ之。呉王已盟二黄池一。乃使三人厚レ禮以請二成越一。越自度亦未レ能レ滅レ呉。乃與レ呉平。

呉の東方に在り故に言ふ (四) 怒を導き諛を獻ず (五) 攻伐して可なりや (六) 河南杞縣の西方 (七) 七十以上を老とし二十以下を弱とす (八) 戰に習熟せる士卒を言ふ、こゝには水軍なり (九) 教練して養成せる兵 (一〇) 越王に親近する志操賢良の士 (一一) 理事の諸吏 (一二) 和睦

其後四年。越復伐レ呉。呉士民罷弊。輕鋭盡死二於齊晉一。而越大破レ呉。因而留圍レ之。三年。呉師敗。越遂復棲二呉王於姑蘇之山一。呉王使三公孫雄肉袒膝

其後四年、越復呉を伐つ。呉の士民罷弊し、(一)輕鋭は盡く齊晉に死す。而して越は大いに呉を破り、因りて留りて之を圍む。三年呉の師敗る。越遂に復呉王を姑蘇の山に棲ましむ。呉王公孫雄をして、肉袒膝行して前み、(二)成を越王に請はしめて曰く、孤臣夫差、敢て腹心を布く。(三)異日嘗て罪を會稽に得たり。夫差敢て命に逆はず、君王と成いで以て歸るを得たり。今君王は(四)玉趾を擧げて孤臣を誅せんとす。孤臣惟れ命是れ聽く。意ふに亦(五)會稽の如く、孤臣の罪を赦さんと欲するかと。句踐忍びず、之を許さんと欲す。范蠡曰く、會稽の事は、天越を以て呉に

我令而父霸。我又立若。若初欲分吳國半予我。我不受已。今若反以讒誅我。嗟乎嗟乎。一人固不能獨立。報使者曰。必取吾眼。置吳東門。以觀越兵入也。於是吳任嚭政。居三年。句踐召范蠡曰。吳已殺子胥。導諛者衆。可乎。對曰。未可。至明年春。吳王北會諸侯於黃

は吳國の半を分つて我に予へんと欲せり。我受けざりしのみ。今若は反つて讒を以て我を誅せんとす。嗟乎嗟乎、一人(二)固に獨立する能はずと。使者に報じて曰く、必ず吾が眼を取りて、吳の東門(三)に置け、以て越兵の入るを觀んと。是に於て吳は嚭に政を任ず。居ること三年、句踐は范蠡を召して曰く、吳は已に子胥を殺し、導き(四)諛ふ者衆し、可ならんやと。對へて曰く、未だ可ならずと。明年春に至り、吳王北して諸侯を黃池(五)に會す。吳國の精兵は王に從ひ、惟獨り老弱(七)と、太子と留守す。句踐復范蠡(六)に問ふ。蠡曰く、可なりと。乃ち習流(八)二千、敎士(九)四萬人、君子(一〇)六千人、諸御(一一)千人を發して吳を伐つ。吳の師敗る。遂に吳の太子を殺す。吳急を王に告ぐ。王方に諸侯を黃池に會す、天下の之を聞くを懼れて、乃ち之を祕す。吳王已に黃池に盟ひ、乃ち人をして禮を厚うして、以て成(一二)を越に請はしむ。越も自ら度るに、亦未だ吳を滅する能はず。乃ち吳と平ぐ。

㊀ 吳王夫差を指す、父とは闔廬を言ふ　㊁ 我死せば汝は孤獨とならん世に獨立すること能はざらん　㊂ 越は

而止之。越大夫種曰。臣觀吳王政驕矣。請試貸之。貸粟以卜其事。請貸。吳王欲與。子胥諫勿與。王遂與之。越乃私喜。子胥言曰。王不聽諫。後三年吳其墟乎。太宰嚭聞之。乃數與子胥爭越議。因讒子胥曰。伍員貌忠而實忍人。其父兄不顧。安能顧王。王前欲伐齊。員彊諫。已而有功。用是反怨王。王不備伍員。員必爲亂。與逢同共謀讒之王。王始不從。乃使子胥於齊。聞其託子於鮑氏。王乃大怒曰。伍員果欺寡人欲反。使人賜子胥屬鏤劍以自殺。

齊を伐たんと欲するや、員彊諫せり。已にして功有るや、是を用て反つて王を怨めり。王伍員に備へずんば、員は必ず亂を爲さんと。逢同（一二）と共に謀りて、之を王に讒す。王始は從はず。乃ち子胥を齊に使はす。其の子を鮑氏に託するを聞くや、王乃ち大いに怒つて曰く、伍員果して寡人を欺いて（一三）反せんと欲すと。人をして子胥に屬鏤（一四）の劍を賜うて、以て自殺せしむ。

（一）伍子胥　（二）二種以上の食品を取らず　（三）吳國の患害　（四）疥癬に同じ皮膚の小瘡なり　（五）前出　（六）齊の二大夫　（七）穀物を借るべし　（八）廢れたる城趾　（九）越の事につきて爭議す　（一〇）人に對して殘酷なり　（一一）楚世家參照　（一二）越の大夫　（一三）伍員は吳の亡びんことを懼れて子供を齊の大夫鮑氏に託したり　（一四）利劍の名

子胥大笑曰。

子胥大いに笑つて曰く、我而（一）の父をして霸たらしめ、我又若を立てき。若初

弊。可克也。句踐曰。善。

居二年。吳王將伐齊。子胥諫曰。未可。臣聞句踐食不重味。與百姓同苦樂。此人不死。必爲國患。吳有越腹心之疾。齊與吳疥癬也。願王釋齊先越。吳王弗聽。遂伐齊敗之艾陵。虜齊高國以歸。讓子胥。子胥曰。王毋喜。王怒。子胥欲自殺。王聞

居ること二年、吳王將に齊を伐たんとす。子胥諫めて曰く、未だ可ならず。臣聞く句踐は食に味を重ねず、百姓と苦樂を同じうすと。此人死せずんば、必ず國患を爲さん。吳の越有るは腹心の疾なり。齊の吳に與けるは疥癬のみ。願くは王が齊を釋いて越を先にせんことをと。吳王聽かず。遂に齊を伐ち、之を艾陵に敗り、齊の高・國を虜にして以て歸り、子胥を讓む。子胥曰く、王喜ぶこと毋れと。王怒る。子胥自殺せんと欲す。王聞いて之を止む。越の大夫種曰く、臣吳王を觀るに、政驕れり。請ふ試に之を嘗みん。粟を貸りて、以て其事を卜せんと。貸を請ふ。吳王與へんと欲す。子胥は與ふる勿れと諫む。王遂に之を與ふ。越乃ち私に喜ぶ。子胥言つて曰く、王は諫を聽かず、後三年、吳其れ墟とならんと。太宰嚭之を聞き、乃ち數〻子胥と越の議を爭ひ、因りて子胥を讒して曰く、伍員は貌忠にして實は人に忍ぶ。其父兄すら顧みず、安んぞ能く王を顧みん。王前に

甲レ死。與二百姓一同二其勞一。欲レ使三范蠡治二國政一。蠡對曰。兵甲之事種不レ如レ蠡。鎭二撫國家一。親二附百姓一。蠡不レ如レ種。於レ是擧二國政一屬二大夫種一。而使下范蠡與二大夫柘稽一行上成。爲レ質二於吳一二歲而吳歸レ蠡。句踐自二會稽一歸七年。拊二循其士民一。士民欲レ用以報レ吳。大夫逢同諫曰。國新流亡。今乃復殷給。繕飾備レ利。吳必懼。懼則難必至。且鷙鳥之擊也。必匿二其形一。今夫吳兵加二齊晉一。怨深二於楚越一。名高二天下一。實害二周室一。德少而功多。必淫自矜。爲レ越計莫レ若三結レ齊親レ楚附レ晉以厚二吳。吳之志廣。必輕レ戰。是我連二其權一。三國伐レ之。越承二其

す。士民は用ひられて(八)以て吳に報ぜんと欲す。大夫逢同諫めて曰く、國新に流亡(九)し、今は乃ち復殷給(一〇)し、繕飾(一一)して利に備ふ。吳必ず懼れん。懼るれば則ち難必ず至らん。且つ鷙鳥(一二)の擊つや、必ず其形を匿す。今夫れ吳兵は齊晉に加はり、怨は楚越に深く、名は天下に高きも、實は周室を害せり。德(一三)少く功多し、必ず淫して自ら矜らん。越の爲に計るに、齊に結び楚に親み晉に附き、以て吳に厚うするに若くは莫し。吳の志廣し、必ず戰を輕んぜん。是れ我は其權(一四)を連ね、三國之を伐ち、越は其弊(一五)を承くるなり、克つべしと。句踐曰く、善しと。

(一) 苦き膽も て心意を刺戟するなり (二) 仰ぎ飲む (三) 二種以上の彩色をなさず (四) 貧窮を救ひ死亡を弔ふ (五) 親み服従す (六) 和親を吳に結ぶ (七) 愛撫す (八) 恩に感じて主に用ひられんことを欲す (九) 漂泊危亡に瀕するなり (一〇) 盛んに供給す (一一) 兵を繕ひ武を習へて國利を興す (一二) 爪牙の銳利なる肉食鳥 (一三) 吳を指す (一四) 齊楚晉の權勢を連ぬ (一五) 敵の疲弊したる後を承けて利を受く

君。種蠡良臣。若反國將爲亂。吳王弗聽。卒赦越罷兵而歸。句踐之困會稽也。喟然歎曰。吾終於此乎。種曰。湯繫夏臺。文王囚羑里。晉重耳奔翟。齊小白奔莒。其卒王霸。由是觀之。何遽不爲福乎。

（一）王の精鋭に當るに足らん　（二）歎息の貌　（三）我命此所に盡くるか　（四）殷本紀參看　（五）周本紀參看　（六）晉文公　（七）齊桓公　（八）是の困苦が却つて幸福なりと言はれざるに非ず

吳既赦越。越王句踐反國。乃苦身焦思。置膽於坐。坐臥即仰膽。飲食亦嘗膽也。曰。女忘會稽之恥邪。身自耕作。夫人自織。食不加肉。衣不重采。折節下賢人。厚遇賓客。振貧

吳既に越を赦す。越王句踐國に反り、乃ち身を苦め思を焦し、膽(一)を坐に置き、坐臥に即ち膽を仰ぎ(二)、飲食も亦膽を嘗む。曰く、女は會稽の恥を忘れたるかと。身自ら耕作し、夫人は自ら織り、食には肉を加へず、衣には采(三)を重ねず。節を折りて賢人に下り、賓客を厚遇し、貧(四)を振ひ死を弔し、百姓と其勞を同じうす。范蠡をして國政を治めしめんと欲す。蠡對へて曰く、兵甲の事は、種は蠡に如かず。國家を鎭撫し百姓を親附(五)せんは、蠡は種に如かずと。是に於て、國政を擧げて大夫種に屬し、范蠡と大夫柘稽とをして成(六)を行はしむ。吳に質と爲ること二歳にして、吳は蠡を歸せり。句踐は會稽より歸り、七年に其士民を拊循(七)

越賜レ呉。勿レ許也。種還以報二句踐一。句踐欲下殺二妻子一燔二寶器一。觸戰以死上。種止二句踐一曰。夫呉太宰嚭貪。可二誘以レ利。請間行言レ之。於レ是句踐乃以二美女寶器一。令三種間獻二呉太宰嚭一。嚭受。乃見二大夫種於呉王一。

種頓首言曰。願大王赦二句踐之罪一。盡入二其寶器一。不幸不レ赦。句踐將下盡殺二其妻子一。燔二其寶器一。悉二五千人一。觸戰必有レ當也。嚭因説二呉王一曰。越以服爲レ臣。若將赦レ之。此國之利也。呉王將レ許レ之。子胥進諫曰。今不レ滅レ越。後必悔レ之。句踐賢

種頓首して言つて曰く、願くは大王句踐の罪を赦せ、盡く其寶器を入れん。不幸にして赦さずんば、句踐は將に盡く其妻子を殺し、其寶器を燔き、五千人を悉し、觸戰して(一)必ず當る有らんとすと。嚭因りて呉王に説いて曰く、越以に服して臣と爲る。若し將に之を赦さば、此れ國の利ならんと。呉王將に之を許さんとす。子胥進み諫めて曰く、今にして越を滅せずんば、後必ず之を悔いん。句踐は賢君なり。種・蠡は良臣なり。若し國に反らば、將に亂を爲さんとすと。呉王聽かず、卒に越を赦し、兵を罷めて歸りぬ。句踐の會稽に困むや、喟然(二)として歎じて曰く、吾此(三)に終るかと。種曰く、湯は夏臺(四)に繫がれ、文王は羑里(五)に囚はれ、晉の重耳(六)は翟に奔り、齊の小白(七)は莒に奔る。其れ卒に王霸たり。是に由つて之を觀るに、何ぞ遽(八)に福と爲さざらんやと。

曰。以レ不レ聽レ子故至二於此一。爲レ之奈何。蠡對曰。持レ滿者與レ天。定レ傾者與レ人。節レ事者以レ地。卑レ辭厚レ禮以遺レ之。不レ許而身與レ之市。句踐曰。諾。乃令三大夫種行二成於吳一。膝行頓首曰。君王亡臣句踐。使三陪臣種敢告二下執事一。句踐請レ爲レ臣妻爲レ妾。吳王將レ許レ之。子胥言二於吳王一曰。天以レ

何と。蠡對へて曰く、滿(一)を持する者は天と與にし、傾を定むる者は人と與にし、事(二)を節する者は地を以ふ。辭を卑うし禮を厚うし、以て之に遺れ。許さずんば、身(三)之と市せよと。句踐曰く、諾と。乃ち大夫種をして成(五)を吳に行はしめ、膝行(四)頓首して曰く、君王の亡臣句踐、陪臣種をして敢て下執事に告げしむ。句踐は請ふ臣と爲り、妻は妾と爲らんと。吳王將に之を許さんとす。子胥は吳王に言つて曰く、天は越を以て吳に賜ふ、許すこと勿れと。種還りて、以て句踐に報ず。句踐は妻子を殺し、寶器を燔き、觸(六)戰して以て死せんと欲す。種は句踐を止めて曰く、夫れ吳の太宰嚭は貪る。誘ふに利を以てすべし。請ふ間(七)行して之を言はんと。是に於て、句踐は乃ち美女寶器を以て、種をして間(八)に吳の太宰嚭に獻ぜしむ。嚭受く。乃ち大夫種を吳王に見えしむ。

(一) 子の說を用ひず (二) 滿に居りて驕らざれば天道と共たり (三) 用を節して事を理むる者は地の利を用ふ (四) 越王自ら吳王に事へて急を凌げ (五) 平和 (六) 決死の奮戰 (七) 竊に行く (八) 內密

年。吳王闔廬聞ニ允常死ー。乃興レ師伐レ越。越王句踐使ニ死士挑戰ー。三行至ニ吳陳ー。呼而自剄。吳師觀レ之。越因襲擊ニ吳師ー。吳師敗ニ於檇李ー。射傷ニ吳王闔廬ー。闔廬且レ死。告ニ其子夫差ー曰。必毋レ忘レ越。三年。句踐聞三吳王夫差日夜勒レ兵。且ニ以報ー越。越欲下先ニ吳未レ發往伐上レ之。范蠡諫曰。不可。臣聞兵者凶器也。戰者逆德也。爭者事之末也。陰謀ニ逆德ー。好用ニ凶器ー。試ニ身於所レ未。上帝禁レ之。行者不レ利。越王曰。吾已決レ之矣。遂興レ師。吳王聞レ之。悉發ニ精兵ー擊レ越。敗ニ之夫椒ー。越王乃以ニ餘兵五千人ー。保ニ棲於會稽ー。吳王追而圍レ之。

く、不可なり。臣聞く、兵は凶器なり、戰は逆德なり、爭は事の末なりと。陰に逆德を謀り、好みて凶器を用ひ、身を末なる所に試みんとす、(一〇)上帝之を禁じ、(一一)行ふ者利あらずと。越王曰く、吾已に之を決せりと。遂に師を興す。吳王之を聞き、悉く精兵を發し、越を擊つて之を夫椒に敗る。(一二)越王乃ち餘兵五千人を以て、會稽に保棲す。(一三)吳王追うて之を圍む。

(一) 先祖 (二) 浙江紹興府會稽縣 (三) 吳世家參照 (四) 雜草の地を開拓す (五) 戰を挑ましむ (六) 三行の各列に數人あり、之を三回に前進せしむ (七) 怪んで之を觀る (八) 浙江嘉興縣の南方 (九) 兵を整ふ (一〇) 爭は事の末とあるを受く (一一) 天帝の禁ずる所 (一二) 越の地 (一三) 鳥の棲むが如く潛まり居るを言ふ

越王謂ニ范蠡ー

越王范蠡に謂つて曰く、子に聽かざるを以ての故に此に至れり。之を爲すこと奈

越王句踐。其先禹之苗裔。而夏后帝少康之庶子也。封於會稽。以奉守禹之祀。文身斷髮。披草萊而邑焉。後二十餘世。至於允常。允常之時。與吳王闔廬戰而相怨伐。允常卒。子句踐立。是爲越王。元

卷四十一

越世家第十一

越王句踐、其先は禹の苗裔なり、而して夏后帝少康の庶子なり。會稽(二)に封ぜられて、以て禹の祀(一)を奉守す。身に文し髮を斷ち、草萊を披いて邑す。後二十餘世にして、允常に至りぬ。允常(三)の時、吳王闔廬と戰(四)ひ、相怨み伐つ。允常卒して子句踐立つ、是を越王と爲す。元年、吳王闔廬は允常死すと聞き、乃ち師を興して越を伐つ。越王句踐、死士をして挑戰(五)せしめ、三行(六)にして吳の陳に至り、呼びて自剄す。吳師(七)之を觀る。越因りて襲うて吳師を擊つ。吳師を檇李(八)に敗り、射て吳王闔廬を傷つく。闔廬且に死せんとし、其子夫差に告げて曰く、必ず越を忘るる毋れと。三年、句踐は吳王夫差が日夜兵(九)を勒して、且に以て越に報ぜんとするを聞き、越は吳が未だ發せざるに先だつて、往いて之を伐たんと欲す。范蠡諫めて曰

太史公曰。楚靈王方會諸侯於申。誅齊慶封。作章華臺。求周九鼎之時。志小天下。及餓死于申亥之家。爲天下笑。操行之不得。悲夫。勢之於人也。可不愼與。棄疾以亂立。嬖淫秦女。甚乎哉。幾再亡國。

太史公曰く、楚の靈王は、諸侯を申に會し、齊の慶封を誅し、章華臺を作り、周の九鼎を求めしの時に方りて、志(一)天下を小とせり。申亥の家に餓死するに及びて、天下の笑と爲りぬ。操行の得ざる、(二)悲しい夫。(三)勢の人に於ける、愼まざるべけんや。(四)棄疾は亂を以て立ち、秦女に(五)嬖淫せり。甚しい哉、幾ど再び國を亡ふ。

(一)前出　(二)操行に道義を得ざるなり　(三)權勢の人に關係する事　(四)平王　(五)寵愛して溺れ亂る

王使ニ春申君弔ニ祠于秦一。十六年、秦莊襄王卒、秦王趙政立。二十二年、與ニ諸侯一共伐レ秦。不レ利而去。楚東徙都ニ壽春一。命曰レ郢。二十五年、考烈王卒。子幽王悍立。李園殺ニ春申君一。幽王三年、秦魏伐レ楚。秦相呂不韋卒。九年。秦滅レ韓。十年、幽王卒。同母弟猶代立。是爲ニ哀王一。哀王立二月餘。哀王庶兄負芻之徒。襲殺ニ哀王一而立ニ負芻一爲レ王。是歲秦虜ニ趙王遷一。王負芻元年。燕太子丹使ニ荊軻刺ニ秦王一。二年。秦使ニ將軍伐レ楚。大破ニ楚軍一。亡ニ十餘城一。三年。秦滅レ魏。四年。秦將王翦破ニ我軍於蘄一而殺ニ將軍項燕一。五年。秦將王翦蒙武遂破ニ楚國一。虜ニ楚王負芻一。滅レ楚名爲ニ楚郡一云。

伐つ。秦の相呂不韋卒す。九年、秦は韓を滅す。十年幽王卒す、同母弟猶代り立つ、是を哀王と爲す。哀王立ちて二月餘、哀王の庶兄負芻の徒は、襲うて哀王を殺して負芻を立てて王と爲す。是歲、秦は趙王遷を虜にす。王の負芻元年、燕の太子丹、荊軻をして秦王を刺さしむ。二年、秦は將軍をして楚を伐たしめ、大いに楚軍を破り、(七)十餘城を亡ふ。三年、秦は魏を滅す。四年、秦將王翦は我が軍を蘄に破りて、將軍項燕を殺す。五年、秦將王翦・蒙武は、遂に楚國を破り、楚王負芻(八)を虜にして、楚を滅し、名づけて楚郡と爲すと云ふ。

(一) 州陵とも稱す、湖北漢陽府沔陽州東南の地 (二) 直隸廣平府邯鄲縣なり、趙都たり (三) 新布の中の略稱なり、直隸正定府藁城縣 (四) 秦始皇帝なり、本紀參照 (五) 安徽鳳陽府壽州 (六) 王后の兄 (七) 楚は十餘城を失へりとの義 (八) 安徽鳳陽府宿州南方の地

秦復拔二我巫黔中郡一。二十三年。襄王乃收二東地兵一。得二十餘萬一。復西取二秦所レ拔我江旁十五邑一。以爲レ郡距レ秦。二十七年。使下三萬人助二三晉一伐上レ燕。復與レ秦平。而入二太子一爲レ質二於秦一。楚使三左徒侍二太子於秦一。三十六年。頃襄王病。太子亡歸。秋。頃襄王卒。太子熊元代立。是爲二考烈王一。考烈王以二左徒一爲二令尹一。封以レ吳。號二春申君一。

と爲す。考烈王は左徒を以て令尹と爲し、封ずるに吳を以てし、春申君と號す。

㈠陝西商州の地　㈡湖北黃州黃岡縣　㈢湖北宜昌府東湖縣　㈣前出　㈤揚子江附近　㈥官名なり、名は黃歇

考烈王元年。納二州于秦一以平。是時楚益弱。六年。秦圍二邯鄲一。趙告二急楚一。楚遣二將軍景陽一救レ趙。七年。至二新中一。秦兵去。十二年。秦昭王卒。楚

考烈王の元年、州(一)を秦に納れて以て平ぐ。是時楚は益々弱し。六年、秦邯鄲(二)を圍む。趙は急を楚に告ぐ。楚は將軍景陽を遣りて趙を救はしむ。七年新中(三)に至るに、秦兵去りき。十二年、秦の昭王卒す。楚王は春申君をして秦に弔祠せしむ。十六年、秦の莊襄王卒し、秦王趙政(四)立つ。二十二年、諸侯と共に秦を伐つ、利あらずして去る。楚は東に徙りて壽春(五)に都す。命じて郢と曰ふ。二十五年考烈王卒し、子幽王悍立つ。李園(六)は春申君を殺す。幽王の三年、秦魏は楚を

之麋蒙二虎之皮一。人之攻レ之必萬二之於虎一。裂二楚之地一足二以肥レ國。詘二楚之名一足二以尊レ主。今子將以欲下誅二殘天下之共主一居二三代之傳器一。呑二三翮六翼一。以高中世主上。非レ貪而何。周書曰。欲レ起無レ先。故器南則兵至矣。於レ是楚計輟不レ行。

をなす勿れとの義、書經參照 (一四) 寶器宗器楚に入らば諸侯の兵亦至らん

十九年。秦伐レ楚。楚軍敗。割二上庸漢北地一予レ秦。二十年。秦將白起拔二我西陵一。二十一年。秦將白起遂拔二我郢一。燒二先王墓夷陵一。楚襄王兵散。遂不二復戰一。東北保二於陳城一。二十二年。

十九年、秦は楚を伐つ。楚軍敗る。上庸(一)・漢北の地を割いて秦に予ふ。二十年、秦將白起、我が西陵(二)を拔く。二十一年、秦將白起は遂に我が郢を拔き、先王の墓を夷陵(三)に燒く。楚の襄王の兵散じて、遂に復戰はず。東北して陳城を保つ。二十二年、秦復我が巫(四)・黔中郡を拔く。二十三年、襄王乃ち東地の兵を收めて、十餘萬を得、復西して秦が拔きし所の我が江旁(五)の十五邑を取り、以て郡と爲して秦を距ぐ。二十七年、三萬人をして三晉を助けて燕を伐たしむ。復秦と平ぐ。而して太子を入れて秦に質と爲す。楚は左徒をして太子に秦に侍せしむ。三十六年頃襄王病む、太子亡げ歸る。秋頃襄王卒す。太子熊元代り立つ、是を考烈王

其地不足以肥國。得其衆不足以勁兵。雖無攻之。名爲弑君。然而好事之君。喜攻之臣。發號用兵。未嘗不以周爲終始。是何也。見祭器在焉。欲器之至。而忘弑君之亂。今韓以器之在楚。臣恐天下以器讎楚也。臣請譬之。夫虎肉臊。其兵利身。人猶攻之也。若使澤中

て事を好むの君、攻を喜ぶの臣は、號を發し兵を用ひ、未だ嘗て周を以て終始を爲さずんばあらず。是れ何ぞや、祭器の在るを見ればなり。器の至る(二)を欲して、君を弑するの亂を忘るゝのみ。今韓(三)は器の楚に在るを以て、臣は天下の器(四)を以て楚を讎とせんことを恐る。臣請ふ之を譬へん。夫れ虎は肉臊し、其兵(五)は身を利す。人猶之を攻む。若し澤中の麋(六)をして、虎の皮を蒙らしめば、人の之を攻むるや必ず之を虎に萬(七)にせん。楚の地を裂くは、以て國(八)を肥すに足り、楚の名を詘く(九)るは、以て主を尊ぶに足らん。今子は將以て天下の共主を誅殘し、三代(一〇)の傳器を居き、三翮六翼(一一)を呑み、以て世主に高ぶ(一二)らんと欲す、貪に非ずして何ぞや。周書に曰く、起(一三)たんと欲せば先んずる無れと。故に器南(一四)せば則ち兵至らんと。是に於て、楚は計輟めて行はず。

(一) 周を處分せば攻めずとも汚名を受けん (二) 周室を卻くるの名を以て楚を攻め、(三) 寶器が楚に留れるによる (四) 寶器の故によりて (五) 爪牙は虎を護るに利あり (六) 大鹿 (七) 萬倍 (八) 諸侯が楚に入朝を言ふ (九) 楚の名を賤しくす (一〇) 夏殷周三代に傳はりし寶器 (一一) 三足六耳の寶鼎を奪取す (一二) 凌駕す (一三) 緩急先

爲レ號也。昭子曰。乃圖レ周則無レ之。雖レ然周何故不レ可レ圖也。對曰。軍不レ五不レ攻。城不レ十不レ圍。夫一周爲二二十晉一。公所レ知也。韓嘗以二二十萬之衆一。辱二於晉之城下一。銳士死。中士傷。而晉不レ拔。公之無二百韓以圖レ周。此天下之所レ知也。夫怨結二於兩周一。以塞二鄒魯之心一。交絕二於齊一。聲失二天下一。其爲レ事危矣。夫危二兩周一。以厚二三川一。方城之外。必爲レ韓弱矣。

鄒魯(一二)の心を塞ぎ、交は齊に絕えば、聲(一三)は天下に失ふ。其の事爲るや危いかな。夫れ兩周を危うして、以て三川(一四)を厚うすとも、方城(一五)の外は必ず韓の爲に弱められん。

(一) 定王の曾孫なり (二) 昭睢 (三) 周室の寶器 (四) 輸送を便利にす (五) 天下共同の主 (六) 累世相續の天子 (七) 名目と實質と (八) 天下に號令する所以 (九) 五倍 (一〇) 小なれども天子有り、晉に比して二十倍の力あり (一一) 東周と西周と (一二) 齊に附屬せる二國名なり、二國の心を傷へば齊の心を失ふ (一三) 聲名聞譽 (一四) 韓の地河南汝寧府なり (一五) 楚國境の連山

何以知二其然一也。西周之地。絕レ長補レ短。不レ過二百里一。名爲二天下共主一。裂二

何を以て其然るを知るか。西周の地は、長を絕ち短を補ふも百里に過ぎず。名は天下の共主爲り。其地を裂くも、以て國を肥すに足らず、其衆を得るも、以て兵を勁くするに足らず。之を攻むる無しと雖も、名は君を弑すと爲る。然り而し

尙有レ報二萬乘一。白公子胥是也。今楚之地方五千里。帶甲百萬。猶足三以踊二躍中野一也。而坐受レ困。臣竊爲二大王一弗レ取也。於レ是頃襄王遣二使於諸侯一復爲レ從。欲二以伐一レ秦。秦聞レ之。發レ兵來伐レ楚。楚欲下與二齊韓一連和伐上レ秦。因欲レ圖レ周。

周王赧使三武公謂二楚相昭子一曰。三國以レ兵割二周郊地一。以便二輸而南一レ器以尊レ楚。臣以爲不レ然。夫弑二共主一臣二世君一。大國不レ親。以レ衆脅レ寡。小國不レ附。大國不レ親。小國不レ附。不レ可三以致二名實一。名實不レ得。不レ足二以傷一レ民。夫有二圖レ周之聲一。非レ所二以

周王赧、武公[1]をして楚の相昭子に謂はしめて曰く、三國兵を以て周の郊地を割き、以て器[3]を南せしむるに便輸[2]し、以て楚を尊ぶと。臣以爲らく然らず。夫れ共主[5]を弑し世君を臣とすれば、大國は親まず。衆を以て寡を脅せば、小國も附かず。大國[6]親まず小國附かずんば、以て名實[7]を致すべからず。名實得ずんば、以て民を傷ふに足らず。夫れ周を圖るの聲有るも、號[8]を爲す所以には非ざらんと。昭子曰く、乃ち周を圖ることは則ち之れ無し。然りと雖も、周は何が故に圖るべからざるかと。對へて曰く、軍は五ならざれば攻めず、城は十ならざれば圍まず。夫れ一周は二十晉爲り、公の知る[9]所たり。韓嘗て二十萬の衆を以て、晉の城下に辱[10]しめられ、鋭士は死し、中士は傷ひ、而も晉は抜けざりき。公の百韓以て周を圖る無きは、此れ天下の知る所なり。夫れ怨は兩周[11]に結び、以て

鳥。負二海內一而處。東面而立。左臂據二趙之西南一。右臂傅二楚鄢郢一。膺擊二韓魏一。垂二頭中國一。處既形便。勢有二地利一。奮レ翼鼓レ𦐇。方三千里。則秦未レ可二得獨招以夜射一也。欲三以激二怒襄王一。故對以二此言一。襄王因召與語。遂言曰。夫先王爲二秦所一レ欺。而客二死於外一。怨莫レ大レ焉。今以二匹夫有一レ怨。

據り、右臂は楚の鄢郢に傅き、(一)膺は韓魏を擊ち、頭を中國に垂る。(二)處既に形便に、(三)勢に地利有り。翼を奮ひ𦐇を鼓し、方三千里なり。則ち秦は未だ得て(四)獨り招き以て夜射るべからざるなりと。以て(五)襄王を激怒せしめんと欲す。故に對ふるに此言を以てす。襄王因りて(六)召して與に語る。遂に言つて曰く、夫れ(七)先王が秦の欺く所と爲りて、外に客死せしは、怨焉より大なるは莫し。今(八)匹夫の怨有るを以てすら、(九)尚萬乘に報ゆること有り。(一〇)白公・子胥は是なり。今楚の地方五千里、帶甲百萬、猶以て中野に踊躍するに足る。而るに坐して困を受けんは、臣竊に大王の爲に取らざるなりと。是に於て、頃襄王は使を諸侯に遣り、復從を爲して、以て秦を伐たんと欲す。秦之を聞き、兵を發して來りて楚を伐つ。楚は齊韓と連和して秦を伐たんと欲し、因りて(一一)周を圖らんと欲す。

(一) 胸　(二) 居處其だ形便　(三) 地勢便利　(四) 容易に之を射るを得ざる義　(五) 頃襄王　(六) 宮中に召し出す
(七) 懐王を指す　(八) 賤人　(九) 大國の君　(一〇) 白公勝と伍子胥なり、前出　(一一) 周を處分せんとす

道一。則長城之東收。而太山之北擧矣。西結二境於趙一。而北達二於燕一。三國布レ翄。則從不レ待レ約而可レ成也。北遊二目於燕之遼東一。而南登二望於越之會稽一。此再發之樂也。若二夫泗上十二諸侯一。左縈而右拂レ之。可二一旦而盡一也。今秦破レ韓以爲二長憂一。得二列城一而不二敢守一也。伐レ魏而無レ功。擊レ趙而顧病。則秦魏之勇力屈矣。楚之故地。漢中析酈。可二得而復有一也。王出二寶弓一。碆二新繳一。涉二鄳塞一而待二秦之倦一也。山東河內。可二得而一一也。勞レ民休レ衆。南面稱レ王矣。

き右に之を拂ひ、一旦(一〇)にして盡すべし。今や秦は韓を破り、以て長き憂(一一)と爲し、列城を得て而も敢て守らず。魏を伐つて功無く、趙を擊つて顧つて病む。則ち秦魏の勇力屈せり。楚の故地、漢中・析・酈(一三)得て復有つべきなり。王寶弓を出し、新繳を碆し、鄳塞(一二)に涉り、而して秦の倦(一四)を待たば、山東河內は得て一にすべし。民を勞ひ衆を休め、南面して王と稱すべし。

(一) 新矢に石を附す (二) 齊に喩ふ、喙鋭き大鳥なり (三) 楚を防ぐために齊が設けし濟州淄州連亘の城塞 (四) 山東沂州府莒州 (五) 山東濟南府淄川縣 (六) 齊世家に出づ (七) 縱横に通達する要衝の地 (八) 翅翼に同じ、翅を伏するなり (九) 泗水附近の小諸侯 (一〇) 忽ちにして (一一) 破りながら却つて永遠の禍根を殘せり (一二) 河南河南府澠池縣 (一三) 河南南陽府の二地 (一四) 疲勞倦怠

故曰。秦爲二大

故に曰く、秦は大鳥爲り、海內を負うて處り、東面して立ち、左臂は趙の西南に

士一爲レ繳。時張而射レ之。此六雙者。可二得而囊載一也。其樂非二特朝夕之樂一也。其獲非二特鳧鴈之實一也。王朝張レ弓而射二魏之大梁之南一。加二其右臂一而徑屬二之於韓一。則中國之路絕。而上蔡之郡壞矣。還射二圉之東一。解二魏左肘一。而外擊二定陶一。則魏之東外弃。而大宋方與二郡者擧矣。且魏斷二二臂一顚越矣。臂擊二郯國一。大梁可二得而有一也。王繞二繳蘭臺一。飮二馬西河一。定二魏大梁一。此一發之樂也。若王之於レ弋誠好而不レ厭。則出二寶弓一碆二新繳一射二噣鳥於東海一。還二蓋長城一以爲レ防。朝射二東莒一。夕發二浿丘一。夜加二即墨一。顧據二午

上蔡縣　（一四）魏の邑名　（一五）魏の東邊境　（一六）山東曹州府定陶縣　（一七）山東濟寧州附近　（一八）胸なり、前方を言ふ　（一九）山東沂州府郯城縣　（二〇）矢を河北の恒山に引くなり、蘭臺は恒山の別名　（二一）山西汾州の地方

若し王の弋に於ける、誠に好んで厭はずんば、則ち寶弓を出し、新繳に碆し、噣鳥を東海に射て、長城を還り蓋ひ、以て防と爲し、朝に東莒を射、夕に浿丘に發ち、夜は即墨に加へ、顧りて午道に據らば、則ち長城の東は收めて、太山の北も擧り、西は境を趙に結び、北は燕に達し、三國翭を布かん。則ち從は約を待たずして成るべし。北のかた目を燕の遼東に遊ばし、南して越の會稽に登り望まんは、此れ再發の樂ならん。夫の泗上の十二諸侯の若きは、左に縈

之好射二鶀鴈羅鸗一。小矢之發也。何足下爲二大王一道上也。且稱二楚之大一。因二大王之賢一。所レ弋非二直此一也。昔者三王以弋二道德一。五覇以弋二戰國一。故秦魏燕趙者鶀鴈也。齊魯韓衞者青首也。鄒費郯邳者羅鸗也。外其餘則不レ足レ射者。見レ鳥六雙。以王何取。王何不下以二聖人一爲レ弓。以二勇

せり。故し秦魏燕趙は鶀鴈なり、齊魯韓衞は青首なり、(七)鄒費郯邳は羅鸗なり。外其餘は則ち射るに足らざる者のみ。鳥を見るに六雙あり、(八)以ふに王は何をか取るぞ。王何ぞ聖人を以て弓と爲し、勇士を以て繳と爲し、時に張りて之を射ざる。此六雙の者、得て囊載すべし。(一〇)其樂は特に朝夕の樂(九)のみに非ず、其獲は特に鳧鴈の實のみに非ざらん。王朝に弓を張りて、魏の大梁の南を射よ、其右臂(一一)に加へて徑に之を韓に屬けば、則ち中國の路は絶えん。(一二)而して上蔡の郡は壞(一三)れん。還りて圉(一四)の東を射、魏の左肘を解いて(一五)外に定陶を撃たば、(一六)則ち魏の東外は弃れて、大宋方與の二郡は擧らん。(一七)且魏は二臂を斷たば顚越せん。膺は鄭國(一八)(一九)を撃たば、大梁は得て有つべきなり。王よ繳を蘭臺に締き、(二〇)馬を西河に飮ひ、(二一)魏の大梁を定めんこと、此れ一發の樂ならん。

(一)微小なる箭なり、箭に絲をつけて射るを繳とす　(二)春雁なり、飛鴈の意　(三)鶀は小鴈なり、羅鸗は小さき野鳥　(四)相當す　(五)繳にて射ること　(六)齊宋皆秦楚　(七)鴨の類　(八)十二なり、前出の十二國を指し言ふ　(九)適當の時期　(一〇)囊中に盛るを得べし　(一一)魏都　(一二)魏の右臂を取りて直に其箭を韓に注ぐ　(一三)河南汝寧府

倖レ之。如レ悲二親戚一。諸侯由レ是不レ直レ秦。秦楚絕。六年。秦使三白起伐二韓於伊闕一。大勝。斬首二十四萬。秦乃遺二楚王書一曰。楚倍レ秦。秦且下率二諸侯一伐レ楚。爭中一旦之命上。願王之飭二士卒一。得二一樂戰一。楚頃襄王患レ之。乃謀復與レ秦平。七年。楚迎二婦於秦一。秦楚復平。十一年。齊秦各自稱爲レ帝。月餘復歸レ帝爲レ王。十四年。楚頃襄王與二秦昭王一好二會於宛一。結二和親一。十五年。楚王與二秦三晉燕一共伐レ齊。取二淮北一。十六年。與二秦昭王一好二會於鄢一。其秋。復與二秦王一會レ穰。

帝と爲る。月餘にして復帝を歸して王と爲る。十四年、楚の頃襄王は、秦の昭王と宛(七)に好會し、和親を結ぶ。十五年、楚王は秦・三晉・燕と共に齊を伐ち、淮北を取る。十六年、秦の昭王と鄢(八)に好會す。其秋復秦王と穰(九)に會す。

(一) 武靈王なり　(二) 父母の義　(三) 不正なりと爲す　(四) 河南府洛陽縣の南方なり、韓の要地　(五) 一戰の勝敗　(六) 戒め用意す　(七) 河南南陽縣の地なり　(八) 河南開封府鄢陵縣　(九) 河南南陽府鄧州の東南方

十八年。楚人有下好以二弱弓微繳一加二歸鴈之上一者上。頃襄王聞召而問レ之。對曰。小臣

十八年、楚人好く弱弓微繳(一)を以て、歸鴈(二)の上に加ふる者有り、頃襄王聞き、召して之を問ふ。對へて曰く、小臣の好く鶀鴈羅鸗(三)を射るは、小矢の發するのみ、何ぞ大王の爲に道ふに足らんや。且楚の大に稱ひ(四)、大王の賢に因らば、弋(五)する所は直に此のみに非ざらん。昔は三王は以て道德を弋し、五霸(六)は以て戰國を弋

王。是爲二頃襄王一。乃告二於秦一曰。頼二社稷神靈一。國有レ王矣。頃襄王横元年。秦要二懷王一。不レ可レ得レ地楚立レ王以應レ秦。秦昭王怒。發レ兵出二武關一。攻レ楚大敗二楚軍一。斬首五萬。取二析十五城一而去。

二年。楚懷王亡逃歸。秦覺レ之遮二楚道一。懷王恐。乃從二間道一走レ趙以求レ歸。趙主父在レ代。其子惠王初立。行二王事一。恐不三敢入二楚王一。楚王欲レ走レ魏。秦追至。遂與二秦使一復之レ秦。懷王遂發レ病。頃襄王三年。懷王卒二於秦一。秦歸二其喪於楚一。楚人皆

二年、楚の懷王亡げ逃れ歸る。秦之を覺りて、楚の道を遮る。懷王恐れ、乃ち間道より趙に走り、以て歸らんことを求む。趙の主父(一)は代に在り、其子惠王初めて立ちて王事を行ひ、恐れて敢て楚王を入れず。楚王、魏に走らんと欲す。秦の追ふもの至り、遂に秦使と復秦に之く。懷王遂に病を發す。頃襄王の三年、懷王秦に卒す。秦其喪を楚に歸る。楚人皆之を憐み、親戚(二)を悲しむが如し。諸侯是に由りて秦を直とせず。秦楚絶つ。六年、秦は白起をして韓を伊闕(四)に伐たしめ、大いに勝ち、斬首(三)二十四萬なり。秦乃ち楚王に書を遺りて曰く、楚は秦に倍く、秦且に諸侯を率ゐて楚を伐ち、一旦(五)の命を爭はんとす。願くは王の士卒を飭しめて(六)、一樂戦を得んと。楚の頃襄王之を患へ、乃ち謀りて復秦と平ぐ。七年、楚は婦を秦に迎ふ。秦楚復平ぐ。十一年、齊秦各〻自ら稱して

齊湣王謂二其相一曰。不レ若下留二太子一以求中楚之淮北上相曰。不可。郢中立レ王。是吾抱二空質一而行二不義於天下一也。或曰。不レ然。郢中立レ王。因與二其新王一市。曰。予二我下東國一。吾爲レ王殺二太子一。不レ然。將與二三國一共立レ之。然則東國必可レ得矣。齊王卒用二其相計一。而歸二楚太子一。太子横至。立爲レ

齊の湣王其相に謂つて曰く、太子を留めて以て楚の淮北を求むるに若かずと。相曰く、不可なり。郢中に王を立てば、是れ吾は空質(一)を抱いて不義を天下に行ふなりと。或ひと曰く、然らず。郢中王を立てば、因りて其新王と市せん(二)。曰く、我に下(三)東國を予へよ、吾王の爲に太子を殺さん。然らずんば將に三國(四)と共に之を立てんとすと。然らば則ち東國は必ず得べしと。齊王は卒に其相の計を用ひて、楚の太子を歸す。太子横至るや、立てて王と爲す、是を頃襄王と爲す。乃ち秦に告げて曰く、社稷の神靈に頼りて、國には王有りと。頃襄王横の元年、秦は懐王に要するも、地を得べからず。楚は王を立てて以て秦に應ずるにより、秦の昭王怒り、兵を發して武關を出で、楚を攻めて大いに楚軍を敗り、斬首五萬、析(五)と十五城とを取りて去る。

(一)空虚の抵當物　(二)交易を要求す　(三)楚都に遠き東境僻遠の地　(四)秦韓魏　(五)河南南陽府内郷縣西北の地

臣一。如ニ蕃臣一。不ニ與亢禮一。楚懷王大怒。悔ㇾ不ㇾ用ニ昭子言一。秦因留ニ楚王一。要以ㇾ割ニ巫黔中之郡一。楚王欲ㇾ盟。秦欲ニ先得ㇾ地。楚王怒曰。秦詐ㇾ我。而又彊要ㇾ我以ㇾ地。不ニ復許ㇾ秦。秦因留ㇾ之。楚大臣患ㇾ之。乃相與謀曰。吾王在ㇾ秦不ㇾ得ㇾ還。要ニ以割ㇾ地。而太子爲ㇾ質ニ於齊一。齊秦合ㇾ謀。則楚無ㇾ國矣。乃欲ㇾ立ニ懷王子在ㇾ國者一。昭睢曰。王與ニ太子一俱困ニ於諸侯一。而今又倍ニ王命一。而立ニ其庶子一不ㇾ宜。乃詐赴ニ於齊一。

き。秦は因りて楚王を留め、要するに巫黔中(五)の郡を割くことを以てす。楚王盟はんと欲す。秦は先づ地を得んと欲す。楚王怒つて曰く、秦は我を詐り、而して又彊ひて我を要するに地を以てすと。復秦に許さず。秦因りて之を留む。楚の大臣之を患へ、乃ち相與に謀つて曰く、吾王は秦に在りて、還ることを得ず、以て地を割くを要めらる。而も太子も齊に質爲り。齊秦謀を合せば、則ち楚は國無けんと。乃ち懷王の子の國に在る者を立てんと欲す。昭睢曰く、王と太子と、倶に諸侯に困む。而るに今又王命に倍いて其庶子を立つるは宜しからずと。(六)乃ち詐りて齊に赴ぐ。

(一)秦の國都　(二)宮殿の名　(三)國外の臣屬　(四)對等の禮　(五)共に四川に屬す、楚西南の邊境　(六)新君を立てんとするが如く詐り告ぐ

齊一以求レ平。寡人與レ楚接二境壤界一。故爲二婚姻一。所二從相親一久矣。而今秦楚不レ驩、則無三以令二諸侯一。寡人願與二君王一會二武關一。而相約結レ盟而去。寡人之願也。敢以聞二下執事一。楚懷王見二秦王書一。患レ之。欲レ往恐レ見レ欺。無レ往恐二秦怒一。昭睢曰。王毋レ行而發レ兵自守耳。秦虎狼。不レ可レ信。有下幷二諸侯一之心上。懷王子子蘭勸二王行一曰。奈何絕二秦之驩心一。於レ是往會二秦昭王一。

秦の怒を恐る。昭睢曰く、王行くこと毋く、兵を發して自ら守らんのみ。秦は虎狼なり、信ずべからず。諸侯を幷する(八)の心有りと。懷王の子子蘭は王に行かんことを勸めて曰く、奈何ぞ秦の驩心を絕たんと。是に於て往き、秦の昭王に會す。

㈠前出　㈡深き交歡　㈢しのぎ殺し犯す　㈣之に由る　㈤陝西商州の地　㈥面接して約束す　㈦取次の人まで申出づる義　㈧幷呑せんとする志

昭王詐令三一將軍伏二兵武關一。號爲二秦王一。楚王至。則閉二武關一。遂與西至二咸陽一。朝二章

昭王詐り、一將軍をして兵を武關に伏せしめ、號して秦王と爲す。楚王至れば則ち武關を閉ぢ、遂に與に西して咸陽(一)に至り、章臺(二)に朝すること蕃臣(三)の如くせしめ、與に亢禮(四)せず。楚の懷王大いに怒り、昭子の言を用ひざりしを悔い

遣二客卿通一將レ兵救レ楚。三國引レ兵去。二十七年。秦大夫有下私與二楚太子一鬪上。楚太子殺レ之而亡歸。二十八年。秦乃與二齊韓魏一共攻レ楚。殺二楚將唐昧一。取二我重丘一而去。二十九年。秦復攻レ楚大破レ楚。楚軍死者二萬。殺二我將軍景缺一。懷王恐。乃使二太子爲レ質二於齊一以求レ平。三十年。秦復伐レ楚。取二八城一。

(一)陝西商州の地 (二)卿の禮を以て待遇せらるゝ人物 (三)山東武定府の地、楚の東境なり

秦昭王遺二楚王書一曰。始寡人與レ王約爲二弟兄一。盟二于黃棘一。太子爲レ質。至驩也。太子陵二殺寡人之重臣一。不レ謝而亡去。寡人誠不レ勝レ怒。使二兵侵二君王之邊一。今聞君王乃令二太子質二於

秦の昭王は楚王に書を遺りて曰く、始め寡人は王と約して、弟兄と爲り、黃棘(一)に盟ひ、太子質と爲りて至驩(二)なりき。太子が寡人の重臣を陵殺して、謝せずして亡げ去るや、寡人誠に怒に勝へず、兵をして君王の邊を侵さしめき。今は聞く、君王、乃ち太子をして齊に質たらしめ、以て平を求むと。寡人は楚と境壤の界を接す。故に婚姻を爲し、從り(四)相親む所久しかりき。而今秦楚驩せずんば、則ち以て諸侯に令する無し。寡人願くは君王と武關(五)に會して、面あたり(六)相約し、盟を結んで去らん、寡人の願なり。敢て以て下執事(七)に聞すと。楚の懷王は秦王の書を見て、之を患へ、往かんと欲するに、欺かるゝを恐る。往く無くんば、

於韓者。以韓公子昧爲齊相也。韓已得武遂於秦。王甚善之。使之以齊韓重樗里疾。疾得齊韓之重。其主弗敢棄疾也。今又益之以楚之重。樗里子必言秦復與楚之侵地矣。於是懷王許之。竟不合秦而合齊。以善韓。

二十四年。倍齊而合秦。秦昭王初立。乃厚賂於楚。楚往迎婦。二十五年。懷王入與秦昭王盟約於黃棘。秦復與楚上庸。二十六年。齊韓魏爲楚負其從親而合於秦。三國共伐楚。楚使太子入質於秦而請救。秦乃

二十四年、齊に倍いて秦に合す。秦の昭王初めて立ち、乃ち厚く楚に賂ふ。楚往いて婦を迎ふ。二十五年、懷王入り、秦の昭王と黃棘に盟約す。秦復楚に上庸を與ふ。二十六年、齊・韓・魏、楚が其從親に負いて秦に合せしが爲に、三國共に楚を伐つ。楚は太子をして質を秦に入れしめて救を請ふ。秦乃ち客卿通をして兵に將として楚を救はしむ。三國兵を引いて去る。二十七年、秦の大夫、私に楚の太子と鬭ふこと有り、楚の太子之を殺して亡げ歸る。二十八年、秦乃ち齊・韓・魏と共に楚を攻め、楚將唐昧を殺し、我が重丘を取りて去る。二十九年、秦復楚を攻め、大いに楚を破る。楚軍は死者二萬あり、我將軍景缺を殺す。懷王恐れ、乃ち太子をして齊に質爲らしめ、以て平を求む。三十年、秦復楚を伐ち、八城を取る。

以刷二恥於諸侯一。王不レ如下深善二齊韓一。以重中樗里疾上。如レ是則王得二韓齊之重一以求レ地矣。秦破二韓宜陽一。而韓猶復事レ秦者。以下先王墓在二平陽一。而秦之武遂去レ之七十里上。以レ故尤畏レ秦。不レ然秦攻二三川一。趙攻二上黨一。楚攻二河外一。韓必亡。楚之救レ韓。不レ能レ使二韓不一レ亡、然存レ韓者楚也。韓已得二武遂於秦一。以二河山一爲レ塞。所レ報レ德莫レ如二楚厚一。臣以爲其事レ王必疾。齊之所レ信二

然らずんば、秦は三川(五)を攻め、趙は上黨を攻め、楚は河外を攻めんに、韓必ず亡びん。楚の韓を救ふや、韓をして亡びざらしむる能はず。然も韓を存する者は楚ならん。韓已に武遂を秦に得て、河山を以て塞と爲さば、德に報ゆる所は、楚の(六)厚きに如く莫からん。臣以爲らく、其の王に事ふるや必ず疾からんと。齊の韓に信(七)ある所の者は、韓公子昧が齊の相爲るを以てなり。韓已に武遂を秦に得ば、王甚だ之を善くし、之をして齊韓を以て樗里疾を重んぜしめよ。疾は齊韓の重を得んに、其主は敢て疾を棄てざらん。今又之を益すに、楚の重を以てせば、樗里子は必ず秦に言つて、復楚の侵地を與へんと。是に於て懷王之を許し、竟に秦に合せずして齊に合し、以て韓に善くす。

(一) 逡巡 (二) 恥辱を雪ぐ (三) 地を秦に求むるなり (四) 河南府宜陽縣なり、平陽武遂は宜陽の左右に在り (五) 韓の要地河南汝寧府 (六) 楚を德とすること深かるべし (七) 韓の齊より信用せらるゝ所

則楚爲郡縣矣。王何不與寡人幷力。收韓魏燕趙、與爲從而尊周室、以案兵息民、令於天下。莫敢不樂聽、則王名成矣。王率諸侯、並伐破秦必矣。王取武關蜀漢之地、私吳越之富、而擅江海之利、韓魏割上黨、西薄函谷、則楚之彊百萬也。且王欺於張儀、亡地漢中、兵銼藍田、天下莫不代王懷怒。今乃欲先事秦。願大王熟計之。

㈠ 大名なり、大名を察せずして衰亡に陥らんとするなり　㈡ 滅亡するを指し言ふ　㈢ 天下に號令す　㈣ 悅服して聽くを樂しむ　㈤ 王の大名　㈥ 秦の關門なり　㈦ 韓地のなり、今の山西潞安府　㈧ 挫折に同じ

楚王業已欲和於秦、見齊王書、猶豫不決。下其議羣臣。羣臣或言和秦、或曰聽齊。昭雎曰。王雖東取地於越、不足以刷恥。必且取地於秦、而後足

楚王は業に已に秦に和せんと欲して、齊王の書を見、猶豫(一)して決せず。其議を羣臣に下す。羣臣或は秦に和せよと言ひ、或は齊に聽けと曰ふ。昭雎曰く、王は東のかた地を越に取ると雖も、以て恥を刷ふに足らず。必ず且に地を秦に取らんとす。而る後に以て恥を諸侯に刷ふに足らん(二)。王は深く齊韓に善くし、以て樗里疾を重くするに如かず。是の如くんば、則ち王は韓齊の重を得て、以て地を求めん。秦が韓の宜陽を破りしも、而も韓が猶復秦に事ふる者は、先王の墓平陽(三)に在りて、秦の武遂(四)は之を去ること七十里なるを以てのみ。故を以て尤も秦を畏る。

卒。二十年。齊湣王欲爲從長。惡楚之與秦合。乃使使遺楚王書曰。寡人患楚之不察於尊名也。今秦惠王死。武王立。張儀走魏。樗里疾公孫衍用。而楚事秦。夫樗里疾善乎韓。而公孫衍善乎魏。楚必事秦。韓魏恐。必因二人求合於秦。則燕趙亦宜事秦。四國爭事秦。

合ふを惡む。乃ち使をして楚王に書を遺らしめて曰く、寡人は楚の尊名(一)を察せざるを患ふ。今秦は惠王死して、武王立ち張儀は魏に走り、樗里疾と公孫衍と用ひらる。而も楚は秦に事ふ。夫れ樗里疾は韓に善く、公孫衍は魏に善し。楚必ず秦に事へば、韓魏恐れて、必ず二人に因りて秦に合ふことを求めん。則ち燕趙も亦宜しく秦に事ふべし。四國秦に爭ひ事へば、則ち楚は郡縣(二)と爲らん。王何ぞ寡人と力を幷せ、韓魏燕趙を收め、與に從を爲して周室を尊び、以て兵を案じ民を息め、(三)天下に令せざる。敢て樂聽(四)せざるは莫からん。則ち王名(五)も成らん。王諸侯を率ゐて竝び伐たば、秦を破らんこと必せり。王は武關(六)蜀漢の地を取り、吳越の富を私して、江海の利を擅にし、韓魏は上黨(七)を割き、西のかた函谷に薄らば、則ち楚の彊は百萬ならん。且王は張儀に欺かれて、地を漢中に亡ひ、兵は藍田(八)に銼けぬ。天下王に代つて怒を懷かざるは莫し。今は乃ち先づ秦に事へんと欲するか。願くは大王之を熟計せよと。

自謝楚不レ解。且大王在。楚不レ宜二敢取一レ儀。誠殺レ儀以便レ國。臣之願也。儀遂使レ楚至。懷王不レ見。因而囚二張儀一欲レ殺レ之。儀私二於靳尙一。靳尙爲請二懷王一曰。拘二張儀一秦王必怒。天下見二楚無一レ秦。必輕レ王矣。又謂二夫人鄭袖一曰。秦王甚愛二張儀一。而王欲レ殺レ之。今將下以二上庸之地六縣一賂レ楚。以二美人一聘二楚王一。以二宮中善歌者一爲中之媵上。楚王重レ地。秦女必貴。而夫人必斥矣。夫人不レ若二言而出一レ之。鄭袖卒言二張儀於王一而出レ之。儀出。懷王因善遇レ儀。儀因說二楚王一。以下叛二從約一。而與レ秦合親約中婚姻上。張儀已去。屈原使從レ齊來。諫レ王曰。何不レ誅二張儀一。懷王悔。使二人追一レ儀。弗レ及。

が媵と爲さんとす。楚王は地を重んず、秦女は必ず貴からん、而して夫人は必ず斥(七)けられん。夫人言つて之を出すに若かずと。鄭袖卒に張儀を王に言つて之を出す(八)。儀出づ、懷王因りて善く儀を遇す。儀因りて楚王に說くに、從約に叛いて秦と合親し、婚姻を約するを以てす。張儀已に去る。屈原使し、齊より來り、王を諫めて曰く、何ぞ張儀を誅せざると。懷王悔い、人をして儀を追はしめしも、及ばざりき。

㊀滿足するまで處分す ㊁侍臣 ㊂前年の使たりし時 ㊃我が死は秦に幸福を與ふるとせんか我悅んで死せん ㊄楚に秦の援助無きを知る ㊅秦の地なり今の陝西興安府 ㊆陪從の侍女 ㊇囚より出す

是歳秦惠王

是歳秦の惠王卒す。二十年、齊の湣王は從の長と爲らんと欲し、楚の秦と

十八年。秦使ニ使約ᅳ復與ㇾ楚親。分ニ漢中之半一以和ㇾ楚。楚王曰。願得ニ張儀一不ㇾ願ㇾ得ㇾ地。張儀聞ㇾ之。請ㇾ之ㇾ楚。秦王曰。楚且ㇾ甘ニ心於子一奈何。張儀曰。臣善ニ其左右靳尙一。靳尙又能得ㇾ事ニ於楚王幸姫鄭袖一。袖所ㇾ言無ニ不ㇾ從者一。且儀以ニ前使一負ㇾ楚。以ニ商於之約一。今秦楚大戰有ㇾ惡。臣非ニ面

十八年、秦は使をして約せしめ、復楚と親み、漢中の半を分つて、以て楚に和す。楚王曰く、願くは張儀を得ん、地を得るを願はずと。張儀之を聞き、楚に之かんと請ふ。秦王曰く、楚且に子に甘心(一)せんとす、奈何と。張儀曰く、臣は其左右(二)靳尙に善し。靳尙は又能く楚王の幸姫鄭袖に事ふるを得。袖の言ふ所は從はざる者無し。且儀、前の使(三)を以て楚に負くに、商於の約を以てせり。今秦楚大いに戰うて惡むこと有り、臣面あたり自ら楚に謝するに非ずんば解けじ、且大王在り、楚は敢て儀を取るべからず、誠し(四)儀を殺して以て國に便ならば、臣の願なりと。儀遂に楚に使し、至る。懷王見ず。因りて張儀を囚へて、之を殺さんと欲す。儀は靳尙に私す。靳尙爲に懷王に請うて曰く、張儀を拘へば秦王必ず怒らん。天下(五)楚が秦無きを見ば、必ず王を輕んぜんと。又夫人鄭袖に謂つて曰く、秦王甚だ張儀を愛す。而るに王は之を殺さんと欲す。今將に上庸(六)の地六縣を以て楚に賂ひ、美人を以て楚王に聘し、宮中の善く歌ふ者を以て、之

以見ㇾ命者六百里。不ㇾ聞二六里一。卽以ㇾ命歸報二懷王一。懷王大怒。興ㇾ師將ㇾ伐ㇾ秦。陳軫又曰。伐ㇾ秦非ㇾ計也。不ㇾ如下因賂二之一名都一。與ㇾ之伐ㇾ齊。是我亡二於秦一。取二償於齊一也。吾國尚可ㇾ全。今王已絕二於齊一。而責二欺於秦一。是吾合二秦齊之交一。而來二天下之兵一也。國必大傷矣。楚王不ㇾ聽。遂絕二和於秦一。發ㇾ兵西攻ㇾ秦。秦亦發ㇾ兵擊ㇾ之。十七年。春。與ㇾ秦戰二丹陽一。秦大敗二我軍一。斬二甲士八萬一。虜二我大將軍屈匄。裨將軍逢侯丑等。七十餘人一。遂取二漢中之郡一。楚懷王大怒。乃悉二國兵一復襲ㇾ秦。戰二於藍田一。大敗二楚軍一。韓魏聞二楚之困一。乃南襲ㇾ楚至二於鄧一。楚聞乃引ㇾ兵歸。

を賂ひ、之と齊を伐つに如かず。是れ我秦に亡うて、償を齊に取るなり。吾が國(一)尚全かるべし。今王已に齊に絕つて、欺を秦に責めば、是れ吾秦齊の交を合して天下の兵を來すなり。國必ず大いに傷れん(二)と。楚王聽かず、遂に和を秦に絕ち、兵を發して西のかた秦を攻む。秦も亦兵を發して之を擊つ。十七年春、秦と丹陽に戰ふ。秦大いに我軍を敗り、甲士八萬を斬り、我大將軍屈匄、裨將軍逢侯丑(四)等七十人餘を虜にし、遂に漢中(五)の郡を取る。楚の懷王大いに怒り、乃ち國兵を悉して、復秦を襲ひ、藍田(六)に戰ふ。大いに楚軍を敗る。韓魏楚の困を聞き、乃ち南して楚を襲ひ、鄧に至る。楚聞いて、乃ち兵を引いて歸りぬ。

(一) 東西南北の面積　(二) 秦に與ふるなり　(三) 詐偽を爲せしこと　(四) 陝西漢中府に在り、楚の邑名　(五) 楚の西境なり、陝西に通ず　(六) 陝西西安府に屬す、漢中藍田關の所在地

輕レ楚矣。且先出レ地而後絶レ齊。則秦計不レ爲。先絶レ齊而後責レ地。則必見レ欺二於張儀一。見レ欺二於張儀一。則王必怨レ之。怨レ之是西起二秦患一。北絶二齊交一。西起二秦患一。北絶二齊交一。則兩國之兵必至。臣故弔。楚王弗レ聽。因使三一將軍西受二封地一。張儀至レ秦。佯醉墜レ車。稱レ病不レ出三月。地不レ可レ得。楚王曰。儀以三吾絶レ齊爲二尙薄一邪。乃使二勇士宋遺北辱二齊王一。齊王大怒。折二楚符一而合二於秦一。秦齊交合。

して封地を受けしむ。張儀秦に至り、佯り醉うて車より墜ち、病と稱して出でざること三月なり。地得べからず。楚王曰く、儀は吾の齊に絶つを以て尙薄し(三)と爲るかと。乃ち勇士宋遺をして、北のかた齊王を辱しめしむ。齊王大いに怒り、楚の符(四)を折きて秦に合す。秦齊交合(五)す。

(一) 宰相の玉印を其前に置く (二) 孤獨の國 (三) 不足なりと爲す (四) 楚と盟約せる符 (五) 結合す

張儀乃起朝。謂二楚將軍一曰。子何不レ受レ地。從レ某至レ某廣袤六里。楚將軍曰。臣之所二

張儀乃ち起つて朝し、楚の將軍に謂つて曰く、子何ぞ地を受けざる、某より某に至るまで、廣袤(一)六里と。楚の將軍曰く、臣の命ぜられたる所以の者は六百里なり、六里を聞かずと。卽ち命を以て歸りて懷王に報ず。懷王大に怒り、師を興して將に秦を伐たんとす。陳軫又曰く、秦を伐つは計に非ず、因りて之に一名都

無レ先二大王一。敝邑之王所二甚憎一者。無レ先二齊王一。雖下儀之所二甚憎一者上亦無レ先二齊王一。而大王和レ之。是以敝邑之王不レ得レ事レ王。而令二儀亦不一レ得レ爲二門闌之厮一也。王爲レ儀閉レ關而絶レ齊。今使三使者從レ儀西取二故秦所レ分楚商於之地方六百里一。如レ是則齊弱矣。是北弱レ齊。西德二於秦一。私二商於一以爲レ富。此一計而三利倶至也。懷王大悅。

乃置二相璽於張儀一、日與置酒宣言。吾復得二吾商於之地一。羣臣皆賀。而陳軫獨弔。懷王曰。何故。陳軫對曰。秦之所レ爲レ重レ王者。以二王之有一齊也。今地未レ可レ得。而齊交先絶。是楚孤也。夫秦又何重二孤國一哉。必

乃ち相の璽を張儀に置き、日に與に置酒して宣言すらく、吾復吾が商於の地を得たりと。羣臣皆賀す。而して陳軫は獨り弔す。懷王曰く、何の故ぞと。陳軫對へて曰く、秦の王を重しと爲す所の者は、王の齊を有するを以てなり。今地は未だ得べからずして、齊の交は先づ絶えば、是れ楚は孤ならん。夫れ秦又何ぞ孤國を重んぜんや、必ず楚を輕んぜん。且先づ地を出して後に齊に絶たんは、則ち秦の計爲さじ。先づ齊に絶つて後に地を責めば、則ち必ず張儀に欺かれん。張儀に欺かれば、則ち王必ず之を怨まん。之を怨まば是れ西は秦の患を起し、北は齊の交を絶つなり。西のかた秦患を起し、北のかた齊の交を絶たば、則ち兩國の兵必ず至らん。臣故に弔すと。楚王聽かず。因りて一將軍をして、西

函谷關。秦出
兵擊六國。六
國兵皆引而
歸。齊獨後。十
二年。齊湣王
伐敗趙魏軍。
秦亦伐敗韓。
與齊爭長。十
六年。秦欲伐
齊。而楚與齊
從親。秦惠王
患之。乃宣言
張儀免相。使
張儀南見楚
王。謂楚王曰。
敝邑之王所
甚說者。無先
大王。雖儀之
所甚願爲門
闌之斷者。亦

惠王之を患へて、乃ち宣言すらく、張儀の相を免ずと。張儀をして南して楚王に見えて、楚王に謂はしめて曰く、敝邑の王、甚だ說ぶ所の者は、大王より先なるは無し。儀の甚だ門闌の斷と爲るを願ふ所の者と雖も、亦大王より先なるは無し。敝邑の王の甚だ憎む所の者は、齊王より先なるは無く、儀の甚だ憎む所の者と雖も、亦齊王より先なるは無し。而して大王は之に和せり。是を以て敝邑の王は、王に事ふるを得ずして、儀をして亦門闌の斷と爲るを得ざらしむ。王よ儀の爲に關を閉ぢて齊に絕て。今使者をして儀に從ひ、西のかた故の秦の分ちし所の楚の商於の地方六百里を取らしめよ。是の如くせば、則ち齊弱からん。是れ北は齊を弱くし、西は秦に德し、商於を私して以て富を爲すなり。此れ一計にして三利俱に至ると。懷王大いに悅ぶ。

(一) 楚と魏との國境 (二) 六國合從の約束 (三) 合從して相親しむ (四) 免官せりと (五) 門戶の賤役たるなり
(六) もと楚の地なり一たび楚に入り更に秦の有となる

遂畫レ地爲レ蛇。蛇先成者獨飲レ之。一人曰。吾蛇先成。舉レ酒而起曰。吾能爲二之足一。及三其爲二之足一。而後成人奪二之酒一而飲レ之。曰。蛇固無レ足。今爲二之足一。是非レ蛇也。今君相レ楚而攻レ魏。破レ軍殺レ將功莫レ大焉。冠之上不レ可二以加一矣。今又移レ兵而攻レ齊。攻レ齊勝レ之。官爵不レ加二於此一。攻レ之不レ勝。身死爵奪。有レ毀二於楚一。此爲レ蛇爲レ足之說也。不レ若下引レ兵而去。以德中齊上。此持滿之術也。昭陽曰。善。引レ兵而去。

いて去り、以て齊に德するに若かず。此れ持滿の術なり(八)と。昭陽曰く、善しと。兵を引いて去りぬ。

(一)楚兵を制する法　(二)褒賞して身を貴顯にするなり　(三)上級の位を與へ珪を執りて登朝する顯官となす　(四)楚國官位の最上　(五)家の事務員　(六)巵一杯の酒　(七)楚國より非議せらる　(八)十分を持して失はず

燕韓君初稱レ王。秦使下張儀與二楚齊魏一相會盟中齧桑上。十一年。蘇秦約レ從。山東六國兵攻レ秦。楚懷王爲二從長一。至二

燕韓の君初めて王と稱す。秦は張儀をして楚・齊・魏と、齧桑(一)に相會盟せしむ。十一年、蘇秦は從を約す(二)。山東六國の兵秦を攻む。楚の懷王は從の長と爲り、函谷關に至るに、秦は兵を出して六國を擊てり。六國の兵皆引いて歸る、齊獨り後れたり。十二年、齊の湣王は伐ちて趙魏の軍を敗り、秦も亦伐ちて韓を敗り、齊と長を爭ふ。十六年、秦は齊を伐たんと欲し、楚と齊と從親す(三)。秦の

請令罷之。卽往見昭陽軍中曰。願聞楚國之法。破軍殺將者。何以貴之。昭陽曰。其官爲上柱國。封上爵執珪。陳軫曰。其有貴於此者乎。昭陽曰。令尹。陳軫曰。今君已爲令尹矣。此國冠之上。臣請得譬之。人有遺其舍人一卮酒者。舍人相謂曰。數人飮此。不足以徧。請

楚國の法を聞かん、軍を破り將を殺す者は、何を以て之を貴くする(二)と。昭陽曰く、其官は上柱國と爲し、上爵(三)執珪に封ずと。陳軫曰く、其れ此より貴き者有るかと。昭陽曰く、令尹なりと。陳軫曰く、今君は已に令尹爲り、此れ國冠の上(四)なり。臣請ふ之を譬ふるを得ん。人あり其舍人(五)に一卮(六)酒を遺る者有り。舍人相謂つて曰く、數人此を飮むも、以て徧くするに足らず、請ふ遂に地に畫いて蛇を爲り、蛇先づ成る者、獨り之を飮まんと。一人曰く、吾蛇先づ成ると。酒を擧げて起つて曰く、吾能く之か足を爲らんと。其の之が足を爲るに及びて、後に成りし人は、之が酒を奪うて而して之を飮んで曰く、蛇固に足無し、今之が足を爲らば、是れ蛇に非ざるなりと。今は君楚に相たり。而も魏を攻め、軍を破り將を殺す、功は焉より大なるは莫し。冠の上は以て加ふべからず。今又兵を移して齊を攻む。齊を攻めて之に勝つとも、官爵は此に加へず、之を攻めて勝たずんば、身死し、爵奪はれ、楚に(七)毀有らん。此れ蛇を爲るに足を爲すの說なり。兵を引

楚王ニ曰。王所ニ以戰ニ勝於徐州ー者。田盼子不レ用也。盼子者有レ功ニ於國ー。而百姓爲ニ之用ー。嬰子弗レ善而用ニ申紀ー。申紀者大臣不レ附。百姓不レ爲レ用。故王勝レ之也。今王逐ニ嬰子ー。嬰子逐盼子必用矣。復搏ニ其士卒ー以與レ王遇。必不レ便ニ於王ー矣。楚王因弗レ逐也。十一年。威王卒。子懷王熊槐立。魏聞ニ楚喪ー伐レ楚取ニ我陘山ー。懷王元年。張儀始相ニ秦惠王ー。四年。秦惠王初稱レ王。六年。楚使ニ柱國昭陽將レ兵而攻ニ魏。破ニ之於襄陵ー得ニ八邑ー。又移レ兵而攻レ齊。齊王患レ之。

を搏つて、以て王と遇はば、必ず王に便ならじと。楚王因りて逐はず。十一年威王卒し、子懷王熊槐(六)立つ。魏は楚の喪を聞き、楚を伐つて我陘山(七)を取る。懷王の元年、張儀始めて秦の惠王に相たり。四年、秦の惠王初めて王と稱す。六年、楚は柱國(八)昭陽をして、兵に將として魏を攻めしめ、之を襄陵(九)に破りて、八邑を得たり。又兵を移して齊を攻む。齊王之を患ふ。

㊀文王武王の廟に供へし祭肉　㊁江蘇徐州府　㊂嬰の信にする也　㊃之に服從す　㊄調練し團結せしむ　㊅會敬　㊆前出　㊇楚の官名　㊈山西平陽府襄陵縣

陳軫適爲レ秦使レ齊。齊王曰。爲レ之奈何。陳軫曰。王勿レ憂。

陳軫適ゝ秦の爲に齊に使す。齊王曰く、之を爲すこと奈何と。陳軫曰く、王憂ふる勿れ、請ふ之を罷めしめんと。卽ち往いて昭陽を軍中に見て曰く、願くは

周。鄭殺二子陽一。九年。伐レ韓取二負黍一。十一年。三晉伐レ楚。敗二我大梁楡關一。楚厚賂レ秦與レ之平。二十一年。悼王卒。子肅王臧立。肅王四年。蜀伐レ楚取二茲方一。於レ是楚爲二扞關一以距レ之。十年。魏取二我魯陽一。十一年。肅王卒。無レ子。立二其弟熊良夫一。是爲二宣王一。宣王六年。周天子賀二秦獻公一。秦始復彊。而三晉益大。魏惠王齊威王尤彊。三十年。秦封二衞鞅於商一。南侵レ楚。是年。宣王卒。子威王熊商立。

楚を伐す。是年宣王卒し、子威王熊商立つ。

(一) 山東兗州府なり、楚の東境 (二) 鄭の宰相 (三) 韓の南境 (四) 大梁西方の關名 (五) 楚の西境 (六) 四川保寧府 (七) 河南汝州魯山縣 (八) 衞の公子鞅秦に入る

威王六年。周顯王致二文武胙於秦惠王一。七年。齊孟嘗君父田嬰欺レ楚。楚威王伐レ齊敗二之於徐州一。而令二齊必レ逐二田嬰一。田嬰恐。張丑僞謂二

威王の六年、周の顯王(一)は文武の胙を秦の惠王に致す。七年、齊の孟嘗君の父田嬰は、楚を欺く。楚の威王齊を伐ち、之を徐州(二)に敗り、齊をして田嬰を逐ふを必せしむ。田嬰恐る。(三)張丑僞つて楚王に謂つて曰く、王の徐州に戰勝せし所以の者は、田盻子用ひられざればなり。盻子は國に功有りて、百姓(四)之が用を爲す。嬰子善からずして申紀を用ひたり。申紀は大臣附かず、百姓用を爲さず、故に王之に勝てり。今王嬰子を逐はんに、嬰子逐はれば、盻子必ず用ひられん。復其士卒

楚惠王之徒。與共攻二白公一殺レ之。惠王乃復レ位。是歲也、滅レ陳而縣レ之。十三年。吳王夫差彊。陵二齊晉一來伐レ楚。十六年。越滅レ吳。四十二年。楚滅レ蔡。四十四年楚滅レ杞。與レ秦平。是時越已滅レ吳而不レ能レ正二江淮北一。楚東侵廣レ地至二泗上一。

五十七年。惠王卒。子簡王中立。簡王元年。北伐滅レ莒。八年、魏文侯韓武子趙桓子。始列爲二諸侯一。二十四年。簡王卒。子聲王當立。聲王六年。盜殺二聲王一。子悼王熊疑立。悼王二年。三晉來伐レ楚。至二乘丘一而還。四年、楚伐レ

五十七年、惠王卒し、子簡王中立つ。簡王の元年、北伐して莒を滅す。八年、魏の文侯、韓武子、趙桓子、始めて列して諸侯と爲る。二十四年簡王卒す、子聲王當立つ。聲王の六年、盜あり聲王を殺す。子悼王熊疑立つ。悼王の二年、三晉來りて楚を伐ち、乘丘に至りて還る。四年、楚は周を伐つ。鄭は子陽を殺す。九年韓を伐ち、負黍を取る。十一年、三晉楚を伐ち、我を大梁楡關に敗る。楚厚く秦に賂ひ、之と平ぐ。二十一年悼王卒し、子肅王臧立つ。肅王の四年、蜀は楚を伐つて茲方を取る。是に於て、楚は扞關を爲つて以て之を距ぐ。十年魏我魯陽を取る。十一年肅王卒す。子無し。其弟熊良夫を立つ、是を宣王と爲す。宣王の六年、周の天子秦の獻王を賀す、秦始めて復彊し。而して三晉益〻大なり。魏の惠王、齊の威王尤も彊し。三十年、秦は衞鞅を商に封じ、南して

公請二兵令尹子西一伐レ鄭。初白公父建亡在レ鄭。鄭殺レ之。白公亡二走吳一。子西復召レ之。故以レ此怨レ鄭。欲レ伐レ之。子西許而未二爲發一レ兵。八年。晉伐レ鄭。鄭告二急楚一。楚使二子西救一レ鄭。受レ賂而去。白公勝怒。乃遂與二勇力死士石乞等一。襲殺二令尹子西子綦於朝一。因劫二惠王一置二之高府一。欲レ弒レ之。惠王從者屈固負レ王亡二走昭王夫人宮一。白公自立爲レ王。月餘會葉公來救レ楚。

を伐つ、鄭は急を楚に告ぐ。楚は子西をして鄭を救はしむるに、賂を受けて(三)去りぬ。白公勝怒り、乃ち遂に勇力の死士石乞等と、襲うて令尹子西・子綦を朝に殺し、因りて惠王を劫して、之を高府(四)に置き、之を弒せんと欲す。惠王の從者屈固は王を負うて、昭王夫人の宮に亡げ走る。白公自立して王と爲る。月餘にして、葉(五)公の來つて楚を救ふに會ふ。楚の惠王の徒と、與に共に白公を攻めて之を殺す。惠王乃ち位を復す。是歳や陳を滅して之を縣にす。十三年、吳王夫差彊し、齊晉を陵ぎ、來りて楚を伐つ。十六年、越は吳を滅す。四十二年、楚は蔡を滅す。四十四年、楚は杞を滅して、秦と平ぐ。是時越已に吳を滅して、而も江淮の北(六)を正すこと能はず。楚は東に侵して地を廣め、泗上に至れり。

(一) 居巣に同じ (二) 賢士を禮遇す (三) 鄭の賄賂を受く (四) 楚都の府庫の名 (五) 河南南陽府葉縣なり、葉は楚邑 (六) 江水淮水の北方を取ること能はず

孔子在レ陳聞二是言一曰。楚昭王通二大道一矣。其不レ失レ國。宜哉。昭王病甚。乃召二諸公子大夫一曰。孤不佞。再辱二楚國之師一。今乃得下以二天壽一終上。孤之幸也。讓二其弟公子申一爲レ王。不レ可。又讓二次弟公子結一。亦不レ可。乃又讓二次弟公子閭一。五讓乃後許爲レ王。將レ戰。庚寅。昭王卒二於軍中一。子閭曰。王病甚。舍二其子一讓二羣臣一。臣所二以許一レ王。以廣二王意一也。今君王卒。臣豈敢忘二君王之意一乎。乃與二子西子綦一謀。伏レ師閉レ塗。迎二越女之子章一立レ之。是爲二惠王一。然後罷レ兵歸。葬二昭王一。

子西・子綦と謀り、（八）師を伏せ塗を閉ぢ、越女の子章を迎へて之を立つ。是を惠王と爲す。然して後に兵を罷めて歸り、昭王を葬りぬ。

（一）災危を移す　（二）股肱も亦我身なりとの義　（三）黄河の神　（四）祭祀する河川は江水漢水のみ　（五）愚昧　（六）呉と戰ふなり　（七）王の意を滿足せしめんが爲のみ　（八）兵を伏せて道を閉づ

惠王二年。子西召二故平王太子建之子勝於吳一。以爲二巢大夫一。號曰二白公一。白公好レ兵而下レ士。欲レ報レ仇。六年。白

惠王の二年、子西は故の平王の太子建の子勝を呉より召し、以て巢（一）の大夫と爲し、號して白公と曰ふ。白公兵を好みて士に下る。（二）仇を報ぜんと欲す。六年、白公兵を令尹子西に請うて鄭を伐つ。初め白公の父建は、亡げて鄭に在りき、鄭の之を殺すや、白公は呉に亡げ走りぬ。子西復之を召す、故に此を以て鄭を怨み、之を伐たんと欲せるなり。子西許して、而も未だ爲に兵を發せず。八年、晉は鄭

病於軍中。有赤雲如鳥夾日而蜚。昭王問周太史。太史曰。是害於楚王。然可移於將相。將相聞是言。乃請自以身禱於神。昭王曰。將相孤之股肱也。今移禍庸去是身乎。弗聽。卜而河爲祟。大夫請禱河。昭王曰。自吾先王受封。望不過江漢。而河非所獲罪也。止不許。

く、是れ楚王に害なり、然れども將相に移すべしと。將相是言を聞き、乃ち請うて自ら身を以て神に禱らんとす。昭王(一)曰く、將相は孤の股肱なり、今禍を移すとも、庸ぞ是身(二)を去らんやと。聽かず。卜するに河(三)祟を爲すと。大夫河に禱らんと請ふ。昭王曰く、吾が先王の封を受けしより、(四)望は江漢に過ぎず、河は罪を獲る所に非ずと。止めて許さず。孔子陳に在り、是言を聞いて曰く、楚の昭王は大道に通ず、其の國を失はざるも宜なる哉と。昭王病甚し。乃ち諸公子大夫を召して曰く、孤は不佞(五)なり、再び楚國の師を辱しめき。今は乃ち天壽を以て終るを得るは、孤の幸なりと。其弟公子申に讓りて王爲らしむ。可かず。又次弟公子結に讓るに、亦可かず。乃ち又次弟公子閭に讓り、五たび讓つて乃ち後に許して王と爲る。將に戰はんとす。庚寅に昭王は軍中に卒せり。子閭曰く、王の病甚しきや、(六)其子を舍てて羣臣に讓れり。臣が王に許しし所以は、(七)以て王意を廣めしのみ。今君王卒せり。臣豈敢て君王の意を忘れんやと。乃ち

撃レ呉。十一年。六月。敗二呉於稷一。會呉王弟夫概見二呉王兵傷敗一乃亡歸。自立爲レ王。闔閭聞レ之。引レ兵去レ楚。歸撃二夫概一。夫概敗奔レ楚。楚封二之堂谿一。號爲二堂谿氏一。楚昭王滅レ唐。九月。簞入レ郢。十二年。呉復伐レ楚取レ番。楚恐去レ郢。北徙都レ鄀。十六年。孔子相レ魯。二十年楚滅レ頓滅レ胡。二十一年。呉王闔閭伐レ越。越王句踐射傷二呉王一。遂死。呉由レ此怨レ越而不二西伐一楚。

て楚に奔る。楚之を堂谿(三)に封じ、號して堂谿氏と爲す。楚の昭王唐を滅す。九月歸つて郢に入る。十二年呉復楚を伐つて番(四)を取る。楚恐れて郢を去り、北に徙りて鄀(五)に都す。十六年孔子魯に相たり。二十年、楚は頓(六)を滅し胡(七)を滅す。二十一年、呉王闔閭越を伐つ。越王句踐、射て呉王を傷つく、遂に死す。呉は此より越を怨みて、西して楚を伐たず。

(一) 車兵五萬人 (二) 河南南陽府の屬地 (三) 河南汝寧府遂平縣の西方 (四) 楚の東鄙の小邑 (五) 湖北襄陽府宜城縣 (六) 小國の名、今の河南陳州府 (七) 同安徽潁州府

二十七年。春。呉伐レ陳。楚昭王救レ之。軍二城父一。十月。昭王

二十七年春、呉は陳を伐つ。楚の昭王之を救ひ、城父に軍す。十月、昭王軍中に病む。赤雲有り鳥の如し、日を夾んで蜚ぶ。昭王周の太史に問ふに、太史曰

鄖。楚兵奔。呉乘レ勝逐レ之。五戰及レ郢。已卯。昭王出奔。庚辰。呉人入レ郢。昭王亡也。至二雲夢一。雲夢不レ知二其王一也。射傷レ王。王走レ鄖。鄖公之弟懷曰。平王殺二吾父一。今我殺二其子一。不二亦可一乎。鄖公止レ之。然恐三其弑二昭王一。乃與レ王出二奔隨一。呉王聞二昭王往一。卽進擊レ隨。謂二隨人一曰。周之子孫。封二於江漢之間一者。楚盡滅レ之。欲レ殺二昭王一。王從臣子綦乃深匿レ王。自以爲レ王。謂二隨人一曰。以レ我予レ呉。隨人卜レ予レ呉不吉。乃謝二呉王一曰。昭王亡不レ在レ隨。呉請二入自索一レ之。隨不レ聽。呉亦罷去。

王を匿し、自ら以て王と爲り、隨人に謂つて曰く、我を以て呉に予へよと。隨人呉に與ふるを卜するに、不吉なり。乃ち呉王に謝して曰く、昭王亡げて隨に在らずと。呉は入りて自ら之を索めんと請ふ、隨聽かず。呉も亦罷め去りき。

(一)呉世家參照　(二)二邑の名　(三)安徽穎州府　(四)二國の名　(五)伍子胥が父兄の故を以てなり　(六)揚子江の南北に亘れる大澤の名　(七)其地の人　(八)湖北鄖陽府鄖縣　(九)湖北德安府隨州

昭王之出レ鄖也。使三申包胥請二救於秦一。秦以二車五百乘一救レ楚。楚亦收二餘散兵一與レ秦

昭王の鄖を出づるや、申包胥をして救を秦に請はしむ。秦は車五百乘(一)を以て楚を救ふ。楚も亦餘散の兵を收めて、秦と呉を擊つ。十一年六月、呉を稷(二)に敗る。會〻呉王の弟夫概、呉王の兵傷敗したるを見て、乃ち亡げ歸り、自立して王と爲る。闔閭之を聞き、兵を引いて楚を去り、歸つて夫概を擊つ。夫概敗れ

四年。吳三公子奔レ楚。楚封レ之以扞レ吳。五年。吳伐取二楚之六潛一。七年。楚使二子常伐一レ吳。吳大敗二楚於豫章一。十年。冬。吳王闔閭。伍子胥。伯嚭與二唐蔡一俱伐レ楚。楚大敗。吳兵遂入レ郢。辱二平王之墓一。以二伍子胥故一也。吳兵之來。楚使二子常以レ兵迎一レ之。夾二漢水一陣。吳伐敗二子常一。子常亡奔レ

四年、吳の三公子楚に奔る。楚之を封じて以て吳を扞がしむ。五年、吳は伐つて楚の六(一)・潛(二)を取る。七年、楚は子常をして吳を伐たしむ。吳大いに楚を豫章(三)に敗る。十年冬、吳王闔閭、伍子胥伯嚭と唐蔡(四)と倶に楚を伐つ。楚大いに敗れ、吳兵遂に郢に入り、平王の墓を辱しむ。伍子胥の故を以てなり。吳兵の來るや、楚は子常をして兵を以て之を迎へしめ、漢水(五)を夾んで陣す。吳伐つて子常を敗る。子常亡げて鄭に奔り、楚兵奔る。吳は勝に乘じて之を逐ふ。五戰して郢に及ぶ。己卯に昭王出奔し、庚辰に吳人郢に入りき。昭王の亡ぐるや、雲夢(六)に至るに、(七)雲夢は其王なるを知らず、射て王を傷へり。王鄖(八)に走る。鄖公の弟懷曰く、平王は吾父を殺せり、今我其子を殺さん、亦可ならずやと。鄖公之を止む。然れども其の昭王を弑せんことを恐るゝや、乃ち王と隨(九)に出奔せり。吳王は昭王の往くを聞き、卽ち進んで隨を擊ち、隨人に謂つて曰く、周の子孫の江漢の間に封ぜられし者は、楚盡く之を滅せりと。昭王を殺さんと欲す。王の從臣子綦、乃ち深く

桑。兩家交怒相攻。滅二卑梁人一。卑梁大夫怒。發二邑兵一攻二鍾離一。楚王聞レ之怒。發二國兵一滅二卑梁一。吳王聞レ之大怒。亦發レ兵。使下公子光因二建母家一攻上レ楚。遂滅二鍾離居巢一。楚乃恐而城レ郢。十三年。平王卒。將軍子常曰。太子珍少。且其母乃前太子建所レ當レ娶也。欲レ立二令尹子西一。子西平王之庶弟也。有レ義。子西曰。國有二常法一。更立則亂。言レ之則致レ誅。乃立二太子珍一。是爲二昭王一。昭王元年。楚衆不レ說二費無忌一。以下其讒二亡太子建一殺丙伍奢子尙與乙郤宛甲。宛之宗姓。伯氏子嚭。及子胥皆奔レ吳。吳兵數侵レ楚。楚人怨二無忌一甚。楚令尹子常誅二無忌一以說レ衆。衆乃喜。

恐れて郢に城く。十三年平王卒す。將軍子常曰く、太子珍は少し、且つ其母は乃ち前太子建が當に娶るべかりし所なりと。令尹子西を立てんと欲す。子西は平王の庶弟なり。義有り。子西曰く、國に常法有り、更(四)め立つれば則ち亂る。之を言はば則ち誅を致さんと。乃ち太子珍を立つ、是を昭王と爲す。昭王の元年、楚の衆は費無忌を說(五)ばず、其の亡太子建を讒し、伍奢と子尙と、郤宛とを殺ししを以てなり。宛の宗姓(六)伯氏の子嚭、及び子胥は皆吳に奔り、吳兵數〻楚を侵す。楚人無忌を怨むこと甚し。楚の令尹子常、無忌を誅して以て衆に說く(七)。衆乃ち喜ぶ。

(一) 吳を導いて楚に入らしむ　(二) 首都の名なり、首都を修築す　(三) 國境邊鄙の地　(四) 更改　(五) 悅に同じ　(六) 本家の義　(七) 辯解す

然爲二楚國憂一者。必此子。於レ是王使二人召レ之。曰。來。吾免二爾父一。伍尙謂二伍胥一曰。聞二父免一而莫レ奔不孝也。父戮莫レ報無謀也。度レ能任レ事智也。子其行矣。我其歸レ死。伍尙遂歸。伍胥彎レ弓屬レ矢。出見二使者一曰。父有レ罪。何以召二其子一爲。將レ射。使者還走。遂出二奔呉一。伍奢聞レ之曰。胥亡。楚國危哉。楚人遂殺二伍奢及尙一。

び尙を殺す。

（一）來らしむ　（二）性質廉直にして節義の爲に死を顧みず　（三）歸る　（四）來らば必ず殺さると推知す　（五）誘殺
（六）才能を量りて其事に任ず　（七）楚國に歸服す

十年。楚太子建母在二居巢一。開レ呉。呉使二公子光伐一レ楚。遂敗二陳蔡一。取二太子建母一而去。楚恐城レ郢。初呉之邊邑卑梁。與二楚邊邑鍾離一小童爭レ

十年、楚の太子建の母は、居巢に在りて呉を開く。呉は公子光をして楚を伐たしめ、遂に陳蔡を敗り、太子建の母を取りて去る。楚恐れて郢に城く。初め呉の邊邑卑梁と、楚の邊邑鍾離と、小童桑を爭ひ、兩家交〻怒りて相攻め、卑梁の人を滅す。卑梁の大夫怒り、邑兵を發して鍾離を攻む。楚王之を聞きて怒り、國兵を發し、卑梁を滅す。呉王之を聞いて大いに怒り、亦兵を發し、公子光をして、建が母の家に因りて楚を攻めしめ、遂に鍾離・居巢を滅す。楚乃ち

聞レ之亡ニ奔宋一。無忌曰、伍奢有ニ二子一。不レ殺者爲ニ楚國患一。盍下以レ免ニ其父一召上レ之。必至。於レ是王使ニ使謂一奢、能致ニ二子一則生。不レ能將死。奢曰。尙至。胥不レ至。王曰。何也。奢曰。尙之爲レ人廉死レ節。慈孝而仁。聞ニ召而免一レ父。必至。不レ顧ニ其死一。胥之爲レ人智而好レ謀。勇而矜レ功。知ニ來必死一。必不レ來。

父を免すを以て之を召さざる、必ず至らんと。是に於て王は使をして奢に謂はしむらく、能く二子(一)を致さば則ち生きん、能はずんば將に死せんとすと。奢曰く、尙は至らん。胥は至らじと。王曰く、何ぞやと。奢曰く、尙の人と爲りは廉(二)にして節に死し、慈孝にして仁なり。召して父を免すと聞かば、必ず至つて、其死を顧みじ。胥の人と爲りは、智にして謀を好み、勇にして功に矜る(三)。(四)來る必ず死すと知らば、必ず來らじ。然も楚國の憂を爲す者は、必ず此子ならんと。是に於て、王は人をして之を召ばしむ。曰く、來れ、吾爾の父を免さんと。伍尙は伍胥に謂つて曰く、父の免を聞いて奔る莫きは不孝なり、父戮(五)せられて報ゆる莫きは無謀なり。(六)能を度り事を任ずるは智なり。子は其れ行れ、我は其れ死に歸せんと。伍尙遂に歸る(七)。伍胥は弓を彎り矢を屬し、出でて使者に見えて曰く、父罪有り、何を以て其子を召すことを爲さんと。將に射んとす。使者還り走る。遂に吳に出奔す。伍奢之を聞いて曰く、胥亡げたり。楚國危い哉と。楚人遂に伍奢及

子ニ娶ル。是時伍奢爲ニ太子太傅一。無忌爲ニ少傅一。無忌無レ寵ニ於太子一。常讒ニ惡太子建一。建時年十五矣。其母蔡女也。無レ寵ニ於王一。王稍益疏ニ外建一也。六年。使ニ太子建居ニ城父一守ヲ邊。無忌又日夜讒ニ太子建於王一曰。自ニ無忌入ニ秦女一。太子怨。亦不レ能レ無レ望ニ於王一。王少自備焉。且太子居ニ城父一。擅レ兵外交ニ諸侯一。且欲レ入矣。平王召ニ其傅伍奢一責レ之。伍奢知ニ無忌讒一。乃曰。王奈何以ニ小臣一疏ニ骨肉一。無忌曰。今不レ制後悔也。於レ是王遂囚ニ伍奢一而召ニ其二子一。而告以レ免ニ父死一。

しより、太子怨み、亦王に望無きこと能はず、(五)王少く自ら備へよ。且つ太子は城父に居り、兵を擅にして外諸侯と交り、且に入らんと欲すと。平王其傅伍奢を召して之を責む。伍奢は無忌の讒なるを知りて、乃ち曰く、王奈何ぞ小臣(六)を以て骨肉を疏んずるかと。無忌曰く、今制せずんば後に悔いんと。是に於て王は遂に伍奢を囚へて、其二子を召し、告ぐるに父の死を免さんことを以てす。(七)

(一) 未だ楚に到着せず　(二) 讒謗して惡しき者となす　(三) うとんじ遠ざく　(四) 怨望する點有り　(五) 楚國東北國境の要塞　(六) 無忌を指す、無忌の言を以ての義　(七) 奢の二子を召すに父を免すにより來れと言はしむるなり

乃令ニ司馬奮揚召ニ太子建一。欲レ誅レ之。太子

乃ち司馬奮揚をして太子建を召さしめ之を誅せんと欲す。太子之を聞きて、宋に亡げ奔る。無忌曰く、伍奢に二子有り、殺さずんば楚國の患を爲さん。盍ぞ其

好レ學不レ倦。生十七年。有二士五人一。有二先大夫子餘子犯一以爲二腹心一。有二魏犨賈佗一以爲二股肱一。有二齊宋秦楚一以爲二外主一。有二欒郤狐先一以爲二內主一。亡十九年。守レ志彌篤。惠懷棄レ民。民從而與レ之。故文公有レ國。不二亦宜一乎。子比無レ施二於民一。無レ援二於外一。去レ晉。晉不レ送。歸レ楚楚不レ迎。何以有レ國。子比果不レ終焉。卒立者棄疾。如二叔向言一也。

に立ちし者は棄疾なりき。叔向の言の如し。

(一)外部の援助主動者　(二)齊の大夫二家　(三)從屬せる賢士　(四)晉の惠公懷公　(五)終を完くせず

平王二年。使下費無忌如レ秦。爲二太子建一娶上レ婦。婦好。來未レ至。無忌先歸。說二平王一曰。秦女好。可二自娶一。爲二太子一更求。平王聽レ之。卒自娶二秦女一。生二熊珍一。更爲二太

平王の二年、費無忌をして秦に如き、太子建の爲に婦を娶らしむ。婦好し、來りて(一)未だ至らざるに、無忌先づ歸り、平王に說いて曰く、秦女好し、自ら娶るべし。太子の爲には更に求めよと。平王之を聽き、卒に自ら秦女を娶りて、熊珍を生み、更に太子の爲に娶る。是時伍奢は太子の太傅と爲り、無忌は少傅と爲る。無忌は太子に寵無し。常に太子建を讒惡(二)す。建は時に年十五なり。其母は蔡の女なり、王に寵無し。王稍益ゝ建を疏外(三)す。六年、太子建をして城父に居りて邊を守らしむ。無忌又日夜に太子建を王に讒して曰く、無忌が秦女を入れ

難以弑君。誰能濟之。有楚國者。其棄疾乎。君陳蔡。方城外屬焉。苛慝不作。盜賊伏隱。私欲不違。民無怨心。先神命之。國民信之。芈姓有亂。必季實立。楚之常也。子比之官則右尹也。數其貴寵則庶子也。以神所命則又遠之。民無懷焉。將何以立。

宣子曰。齊桓晉文不亦是乎。對曰。齊桓衞姬之子也。有寵於釐公。有鮑叔牙賓須無隰朋以爲輔。有莒衞以爲外主。有高國以爲內主。從善如流。施惠不倦。有國不亦宜乎。昔我文公狐季姬之子也。有寵於獻公。

宣子曰く、齊桓・晉文も、亦是ならずやと。對へて曰く、齊桓は衞姬の子なり、釐公に寵有り、鮑叔牙・賓須無・隰朋有りて、以て輔を爲し、莒衞有りて、以て外主を爲し、(一)高・國有りて以て內主を爲し、善に從ふこと流るゝが如く、惠を施して倦まず。(二)國を有つも亦宜ならずや。昔我文公は、狐の季姬の子なり、獻公に寵有り、學を好んで倦まず。生れて十七年なるに、(三)士五人有り。先大夫子餘・子犯有りて、以て腹心を爲し、魏犨・賈佗有りて、以て股肱を爲し、齊・宋・秦・楚有りて、以て外主を爲し、欒・郤・狐・先有りて、以て內主を爲す。亡げて十九年、志を守る彌〻篤し。(四)惠・懷が民を棄つるや、民從つて之に與す。故に文公の國を有つも、亦宜ならずや。子比は民に施す無く、外に援無し。晉を去るに晉送らず、楚に歸るに楚迎へず。何を以て國を有たんと。子比果して(五)終らず、卒

五難。有レ寵無レ人一也。有レ人無レ主二也。有レ主無レ謀三也。有レ謀而無レ民四也。有レ民而無レ德五也。子比在レ晉十三年矣。晉楚之從。不レ聞二通者一。可レ謂レ無レ人矣。族盡親叛。可レ謂レ無レ主矣。無レ釁而動。可レ謂レ無レ謀矣。爲レ羈終レ世。可レ謂レ無レ民矣。亡無二愛徵一。可レ謂レ無レ德矣。王虐而不レ忌。子比涉二五

親叛く、主無しと謂ふべし。釁[10]無くして動く、謀無しと謂ふべし。羈[11]と爲りて世を終ふ、民無しと謂ふべし。亡げて愛の徵[12]無し、德無しと謂ふべし。王は虐[13]なるも忌まず。子比は五難に涉りて以て君を弑す、誰か能く之を濟さん。楚國を有つ者は其れ棄疾か、陳蔡に君として、方城[14]の外は屬し、苛慝[15]作らず、盜賊伏し隱れ、私欲[16]違はず、民に怨心なし。先神[17]之に命じ、國民之を信ず。芊姓亂有れば、必ず季實[18]に立つは、楚の常なり。子比の官は則ち右尹なり、其貴寵を數ふれば則ち庶子なり。神の命ずる所を以てすれば、則ち又之に遠ざかり、民に懷ふもの無し、將何を以て立たんと。

(一) 晉の大夫　(二) 成功せん、(三) 憎むことを同じくする者の集合することは市上の商人が利に集るが如し　(四) 好む所を同じうする同志の士なし　(五) 五つの難關　(六) 天寵有りて輔佐無し　(七) 賢材有るも内應の主動者無し　(八) 通達の賢材　(九) 族人滅し親戚叛く　(一〇) すきま　(一一) 外國に寄寓すること久し　(一二) 楚人の之を愛惜する徵驗無し　(一三) 暴虐なれども忌刻ならず　(一四) 山名、險要の地なり　(一五) 甚しき邪慝　(一六) 私慾によりて民を害する事なし　(一七) 前出、神意に中るの候婆者　(一八) 季子賓に立つ

比子晳皆遠ㇾ之。平王幼。抱而入。再拜壓ㇾ紐。故康王以ㇾ長立。至二其子一失ㇾ之。圍爲二靈王一。及ㇾ身而弑。子比爲ㇾ王十餘日。子晳不ㇾ得ㇾ立。又俱誅。四子皆絕無ㇾ後。唯獨棄疾後立爲二平王一。竟續二楚祀一。如二其神符一。

四子皆絕えて後無きに、唯獨り棄疾は後れ立つて平王と爲り、竟に楚の祀を續ぐこと、其神符の如かりき。

㊀ 庶子　㊁ 遍發して祭る　㊂ 祖廟内　㊃ 齋戒　㊄ 璧の紐を押す

初子比自ㇾ晉歸。韓宣子問二叔向一曰。子比其濟乎。對曰。不ㇾ就。宣子曰。同惡相求。如二市賈一焉。何爲不ㇾ就。對曰。無二與同ㇾ好。誰與同ㇾ惡。取ㇾ國有二

初め子比の晉より歸るや、韓宣子叔向に問うて曰く、子比は其れ濟らんかと。對へて曰く、就らじと。宣子曰く、同惡相求むること市賈の如し、何爲れぞ就らざらんと。對へて曰く、與に好を同じうする無し、誰か與に惡を同じうせん。國を取るに五難有り。寵有るも人無し、一なり。人有るも主無し、二なり。主有るも謀無し、三なり。謀有るも民無し、四なり。民有るも德無し、五なり。子比晉に在ること十三年なり。晉楚の從ふ者に通者を聞かず、人無しと謂ふべし。族盡き

王至矣。國人將レ殺レ君。司馬將レ至矣。君蚤自圖。無レ取レ辱焉。衆怒如二水火一。不レ可レ救也。初王及子皙遂自殺。丙辰。棄疾卽レ位爲レ王。改二名熊居一。是爲二平王一。平王以レ詐弑二兩王一而自立。恐二國人及諸侯叛一レ之。乃施二惠百姓一。復二陳蔡之地一。而立二其後一如レ故。歸二鄭之侵地一。存二恤國中一。修二政教一。呉以二楚亂一。故獲二五率一以歸。平王謂二觀從一。恣二爾所一レ欲。欲レ爲二卜尹一。王許レ之。

を許す。

(一)新王 (二)君を殺さんとす (三)後嗣 (四)國中窮乏の者を存問救恤す (五)内亂に乘じて攻め來り五將軍を捕へ去る (六)大夫にして卜筮を取締る官なり

初共王有二寵子五人一。無二適立一。乃望二祭羣神一。請二神決一レ之。使レ主二社稷一。而陰與二巴姫一。埋二璧於室内一。召二五子一齋而入。康王跨レ之。靈王肘加レ之。子

初め共王に、寵子五人有り、適(一)として立つもの無し。乃ち羣神に望祭(二)し、神に之を決して、社稷を主らしめんことを請うて、陰に巴姫と璧を室内に埋め、五子を召して齋(四)して入らしむ。康王は之を跨ぎ、靈王は肘之に加へ、子比子皙は皆之に遠し。平王は幼なり、抱いて入るに、再拜して紐を壓す。故に康王は長を以て立ち、其子に至りて之を失へり。圍を靈王と爲す、身にして弑せらるゝに及びて、子比王と爲ること十餘日のみ。子皙は立つを得ず、又倶に誅せられき。

已ㇾ比爲ㇾ王。畏㆓靈王復來㆒。又不ㇾ聞㆓靈王死㆒。故觀從謂㆓初王比㆒曰。不ㇾ殺㆓棄疾㆒。雖ㇾ得ㇾ國猶受ㇾ禍。王曰。余不ㇾ忍。從曰。人將ㇾ忍ㇾ王。王不ㇾ聽。乃去。棄疾歸。國人每夜驚曰。靈王入矣。乙卯夜。棄疾使㆘船人從㆓江上㆒走呼㆖曰。靈王至矣。國人愈驚。又使㆔曼成然告㆓初王比及令尹子皙㆒曰。

せるを聞かず。故に觀從は初王比に謂つて曰く、棄疾を殺さずんば、國を得と雖も、猶禍を受けんと。王曰く、余は忍びずと。從曰く、人將に王に忍びんとすと。王聽かず。乃ち去る。棄疾歸る。國人每夜驚いて曰く、靈王(一二)入ると。乙卯の夜、棄疾は船人をして江上より走り呼ばしめて曰く、靈王至ると。國人愈〻驚く。又曼成然をして初王比及び令尹子皙に告げしめて曰く、王至る。國人將に君を殺さんとす。司馬も將に至らんとす。君蚤く自ら圖れ、辱を取ること無れ。衆怒は水火の如し。救ふべからずと。初王及び子皙は遂に自殺す。丙辰棄疾は位に卽いて王と爲り、名を熊居と改む。是を平王と爲す。平王は詐りて兩王を弑して自立したるを以て、國人及び諸侯の之に叛かんことを恐れ、乃ち惠を百姓に施し、陳蔡の地を復して(一三)其後を立つること故の如くし、鄭の侵地を歸して、(一四)國中を存恤し、政教を修む。吳は楚の亂を以ての故に、(一五)五率を獲て以て歸る。平王觀從に謂つて、爾の欲する所を恣にせよと。(一六)卜尹爲らんと欲す。王之

王於是獨傍徨山中。野人莫敢入王。王行遇其故涓人。謂曰。爲我求食。我已不食三日矣。涓人曰。新王下法。有敢饟王從王者。罪及三族。且又無所得食。王因枕其股而臥。涓人又以土自代逃去。王覺而弗見。遂饑不能起。芊尹申無宇之子申亥曰。吾父再犯王命。王弗誅。恩孰大焉。乃求王。遇王饑於釐澤。奉之以歸。夏。五月癸丑。王死申亥家。申亥以二女從死。幷葬之。

我爲に食を求めよ、我已に食はざること三日なりと。涓人曰く、新王法を下し、敢て王に饟り王に從ふ者有らば、罪三族(四)に及ばんと。且つ又食(五)を得る所無しと。王因りて其股を枕にして臥す。涓人又土を以て自ら代へて逃げ去る。王覺めて見ず(六)。遂に飢ゑて起つ能はず。芊尹(七)申無宇の子申亥曰く、吾父は再び王命を犯せるに、王誅せざりき。恩孰か焉より大ならんと。乃ち王を求め、王の釐澤(八)に饑ゑたるに遇ひ、之を奉じて以て歸る。夏五月癸丑、王は申亥の家に死す。申亥は二女を以て死(九)に從はしめ、之を幷せ葬る。

㈠楚の別都名　㈡彷徨なり、うろつく　㈢舊時代の宮中の小吏　㈣父母妻の族　㈤食を得るの處無し　㈥側に人無きなり　㈦芊縣の令　㈧楚澤の名なり、王は其堤陂に疲臥せり　㈨殉死

是時楚國雖

是時楚國は已に比を立てて王と爲すと雖も、靈王の復來るを畏る。又靈王の死

靈王太子祿。立ニ子比一爲レ王。公子子皙爲ニ令尹。棄疾爲ニ司馬。先除ニ王宮。觀從從ニ師于乾谿。令ニ楚衆一曰。國有レ王矣。先歸復ニ爵邑田室。後者遷レ之。楚衆皆潰去ニ靈王一而歸。靈王聞ニ太子祿之死一也。自投ニ車下一而曰。人之愛レ子亦如レ是乎。侍者曰。甚レ是。王曰。余殺ニ人之子一多矣。能無レ及レ此乎。右尹曰。請待ニ於郊。以聽ニ國人。王曰。衆怒不レ可レ犯。曰。且入ニ大縣一而乞ニ師於諸侯。王曰。皆叛矣。又曰。且奔ニ諸侯一以聽ニ大國之慮。王曰。大福不レ再。祇取レ辱耳。

ずと。曰く、且く大縣に入りて、師を諸侯に乞はんと。王曰く、皆叛けりと。又曰く、且く諸侯に奔り、以て大國の慮を聽かんと。王曰く、大福(一三)は再せず、祇辱を取らんのみと。

(一) 宮築土木の役多し (二) 辱かしむ (三) 間使 (四) 吳の間使 (五) 棄疾の命と詐稱す (六) 軍事の長官 (七) 掃除す (八) 乾谿に滯在せる楚人 (九) 身を車外に自棄するなり (一〇) 何ぞ今日の禍に遭ふを見るべけんや (一一) 侍從長の子革 (一二) 國人の我に從ふや否やを觀ん (一三) 大なる幸福は再び至ること無し

於レ是王乘レ舟將レ欲レ入レ鄢。右尹度ニ王不一レ用ニ其計。懼ニ俱死。亦去レ王亡。靈

是に於て王は舟に乘り、將に鄢に入らんと欲す。右尹は王の其計を用ひざるを度り、俱に死せんことを懼れて、亦王を去てて亡ぐ。靈王是に於て獨り山中に彷(一)徨す。野人敢て王を入るゝもの莫し。王行いて其故(二)の鋗人に遇ひ、謂つて曰く、

十二年。春。楚靈王樂二乾谿一不レ能レ去也。國人苦レ役。初靈王會二兵於申一。僇二越大夫常壽過一。殺二蔡大夫觀起一。起子從亡在レ吳。乃勸二吳王一伐レ楚。爲二間越大夫常壽過一而作レ亂。爲二吳間一使下矯二公子棄疾命一召中公子比於晉上。至レ蔡。與二吳越兵一欲レ襲レ蔡。令下公子比見二棄疾一與盟中於鄧上。遂入殺二

十二年春、楚の靈王は乾谿を樂んで、去ること能はず。國人役に苦む。(一)初め靈王は兵を申に會し、越の大夫常壽過を僇ぢしめ、(二)蔡の大夫觀起を殺す。起の子從は亡げて吳に在り、乃ち吳王に勸めて楚を伐ち、(三)間を越の大夫常壽過に爲して亂を作し、吳間を爲し、(四)公子棄疾の命を矯めて、(五)公子比を晉より召さしめ、蔡に至るころ、吳越の兵と蔡を襲はんと欲し、公子比をして棄疾に見え、與に鄧に盟はしむ。遂に入りて靈王の太子祿を殺し、子比を立てて王と爲し、公子子晳を令尹と爲し、棄疾を司馬と爲し、(六)先づ王宮を除ふ。(七)觀從は師に乾谿に從ひ、(八)楚の衆に令して曰く、國に王有り、先づ歸るものは爵邑田室を復せん、後るる者は之を遷さんと。楚衆皆潰え、靈王を去てて歸る。靈王は太子祿の死を聞くや、自ら車下に投じて(九)曰く、人の子を愛するは、亦是の如きかと。侍者曰く、是より甚しと。王曰く、余は人の子を殺すこと多し、能く此に及ぶ無からんや(一〇)と。右尹曰く(一一)、請ふ郊に待ち、以て國人に聽かん(一二)と。王曰く、衆怒は犯すべから

求レ鼎以爲レ分。其予レ我乎。析父對曰。其予二君王一哉。昔我先王熊繹辟二在荊山一。蓽露藍蔞。以處二草莽一。跋二涉山林一。以事二天子一。唯是桃弧棘矢。以共二王事一。齊王舅也。晉及魯衛王母弟也。楚是以無レ分。而彼皆有。周今共二四國一。服二事君王一。將二唯命是從一。豈敢愛レ鼎。靈王曰。昔我皇祖伯父昆吾。舊許是宅。今鄭人貪二其田一不二我予一。今我求レ之。其予レ我乎。對曰。周不レ愛レ鼎。鄭安敢愛レ田。靈王曰。昔諸侯遠レ我而畏レ晉。今吾大城二陳蔡不羹一。賦皆千乘。諸侯畏レ我乎。對曰。畏哉。靈王喜曰。析父善言二古事一焉。

許に是れ宅れり。今は鄭人其田を貪りて、我に予へず。今我之を求めんに、其れ我に予へんかと。對へて曰く、周(一一)すら鼎を愛まず。鄭安んぞ敢て田を愛まんやと。靈王曰く、昔は諸侯我を遠しとして晉を畏れき。今吾大いに陳蔡不羹に城き、賦(一二)皆千乘あり。諸侯我を畏れんかと。對へて曰く、畏れん哉と。靈王喜んで曰く、析父善く古事を言ふと。

㊀ 許國の逃亡者を納る ㊁ 安徽穎州府亳州東南の地 ㊂ 封土を受くる際に寶器をも受けたり ㊃ 寶器の分賜に充てんとす ㊄ 楚王の侍臣 ㊅ 楚の一稱を荊といふ、その地邊鄙なるを以て自ら荊山といふなり ㊆ 野人の車に爲し敝れたる衣を著る ㊇ 桃の弓に荊棘の矢 ㊈ 供ふ ㊉ 前出 (一一) 楚の勢威の強きを指し言ふ (一二) 徵收の稅額各々兵車千乘を出すに足る

叛レ之。紂爲二黎山之會一。東夷叛レ之。幽王爲二太室之盟一。戎翟叛レ之。君其愼レ終。七月。楚以二諸侯兵一伐レ吳。圍二朱方一八月克レ之。囚二慶封一滅二其族一。以レ封徇曰。無レ效下齊慶封弑二其君一而弱二其孤一。以盟中諸大夫上。封反曰。莫レ如下楚共王庶子圍弑二其君兄之子員一。而代レ之立上。於レ是靈王使二棄疾殺一レ之。

七年。就二章華臺一。下レ令內二亡人一實レ之。八年。使二公子棄疾將一レ兵滅二陳一。十年。召二蔡侯一。醉而殺レ之。使二棄疾定一レ蔡。因爲二陳蔡公一。十一年。伐レ徐以恐レ吳。靈王次二於乾谿一以待レ之。王曰。齊晉魯衞。其封皆受二寶器一。我獨不。今吾使二使周一

七年章華臺を就り、令を下して、亡人(一一)を內れて之に實てしむ。八年公子棄疾をして、兵に將として陳を滅せしむ。十年蔡侯を召し、醉はせて之を殺し、棄疾をして蔡を定めしめ、因りて陳蔡公と爲す。十一年徐を伐ち、以て吳を恐れしむ。靈王乾谿(一二)に次りて以て之を待つ。王曰く、齊・晉・魯・衞は、其封(一三)皆寶器を受く。我獨り不ず。今吾は使を周に使し、鼎を求めて以て分(一四)と爲さん。其れ我に予へんかと。析父對へて曰く、其れ君王に予へん哉。昔は我が先王熊繹、荊山に辟在(一五)し、蓽露藍蔞(一六)、以て草莽に居り、山林を跋渉し、以て天子に事へ、唯是れ桃(一八)弧棘矢(一七)、以て王事に共(一九)しき。齊は王舅なり。晉及び魯衞は王の母弟なり。楚は是を以て分無うして而して彼は皆有り。周今は四國と共に君王に服事す、將に唯れ命是れ從はんとす、豈敢て鼎を愛せんやと。靈王曰く、昔は我が皇祖(二〇)伯父昆吾は、舊

昔夏啓有鈞臺之饗。商湯有景亳之命。周武王有盟津之誓。成王有岐陽之蒐。康王有豐宮之朝。穆王有塗山之會。齊桓有召陵之師。晉文有踐土之盟。君其何用。靈王曰。用桓公。時鄭子產在焉。於是晉宋魯衞不往。靈王已盟有驕色。伍舉曰。桀爲有仍之會。有緡

山の會有り、齊桓に召陵の師有り、晉文に踐土の盟有り。君其れ何をか用ひんと。靈王曰く、桓公を用ひんと（六）。時に鄭に子產在り（七）。是に於て晉・宋・魯・衞は往かず。靈王已に盟つて驕色有り（八）。伍擧曰く、桀は有仍の會を爲し（九）、有緡之に叛き（一〇）、紂は黎山の會を爲して（一一）、東夷之に叛き、幽王太室の盟を爲して（一二）、戎翟之に叛けり、君其れ終を愼めと（一三）。七月、楚は諸侯の兵を以て吳を伐ち、朱方を圍む。八月之に克ち、慶封を囚へて其族を滅す。封を以て徇へて曰く（一六）、齊の慶封が（一四）其君を弑して其孤を弱しとし（一五）、以て諸大夫に盟へるに效ふこと無れと。封は反つて曰く、楚の共王の庶子圍が、其君なる兄の子員を弑して之に代り立ちしが如くなる莫れと。是に於て靈王は棄疾をして之を殺さしむ。

（一）河南汝寧府　（二）書經湯誥篇參照　（三）同秦誓篇　（四）會猶　（五）朝見　（六）齊世家參照　（七）晉世家參照　（八）驕傲の色有り　（九）國名　（一〇）同　（一一）山名　（一二）河南省の嵩山なり　（一三）驕を戒むるなり　（一四）吳世家參照　（一五）齊の慶封亡げて吳に在り　（一六）衆人に示す

年。晉伐鄭。鄭告急。共王救鄭。與晉兵戰鄢陵。晉敗楚。射中共王目。共王召將軍子反。子反嗜酒。從者豎陽穀進酒。醉。王怒。射殺子反。遂罷兵歸。三十一年。共王卒。子康王招立。康王立。十五年卒。子員立。是爲郟敖。康王寵弟公子圍子比子晳棄疾。郟敖三年。以其季父康王弟公子圍爲令尹。主兵事。四年。圍使鄭。道聞王疾而還。十二月。己酉。圍入問王疾。絞而弑之。遂殺其子莫及平。夏。使使赴於鄭。伍擧問曰。誰爲後。對曰。寡大夫圍。伍擧更曰。共王之子圍爲長。子比奔晉而圍立。是爲靈王。

王の疾を聞いて還りぬ。十二月己酉、圍は入りて王の疾を問ひ、絞して之を弑し、遂に其子莫及び平を殺す。夏、使をして鄭に赴げしむ。伍擧問うて曰く、誰か後と爲ると。對へて曰く、寡大夫圍と。伍擧更に曰く、共王の子圍を長と爲すと。子比晉に奔りて圍立つ、是を靈王と爲す。

(一)鄢の戰なり　(二)他人の子を食ひ人の骨を炊事に用ふ　(三)實際の事情　(四)晉世家參照　(五)子反の從者なる小者の陽穀といふ者　(六)鄭問ふの誤か、或は伍擧使者たり伍擧に問ふの誤か

靈王三年。六月。楚使使告晉。欲會諸侯。諸侯皆會楚于申。伍擧曰。

靈王の三年六月、楚は使をして晉に告げしめ、諸侯を會せんと欲す。諸侯皆楚に申に會す。伍擧曰く、昔は夏啓に鈞臺の饗有り、商湯に景亳の命有り、周の武王に盟津の誓有り、成王に岐陽の蒐有り、康王に豐宮の朝有り、穆王に塗

能信ニ用其民一。庸可レ絕乎。莊王自手レ旗。左右麾レ軍引レ兵。去三十里而舍。遂許ニ之平一。潘尫入盟。
子良出質。

夏。六月。晉救レ鄭與レ楚戰。大敗ニ晉師河上一。遂至ニ衡雍一而歸。二十年。圍レ宋。以レ殺ニ楚使一也。圍レ宋五月。城中食盡。易レ子而食。析レ骨而炊。宋華元出。告以レ情。莊王曰。君子哉。遂罷レ兵去。二十三年。莊王卒。子共王審立。共王十六

夏六月、晉は鄭を救ひ、楚と戰ふ。大いに晉師を(一)河上に敗り、遂に衡雍に至りて歸る。二十年、宋を圍む、楚使を殺すを以てなり。宋を圍むこと五月、城中食盡く。(二)子を易へて食ひ、骨を析きて炊ぐ。宋の華元出で告ぐるに情を以てす。莊王曰く、君子なる哉と。遂に兵を罷め去る。二十三年莊王卒す、子(三)共王審立つ、共王の十六年、晉は鄭を伐つ。鄭急を告ぐ。共王鄭を救ひ、(四)晉兵と鄢陵に戰ふ、晉は楚を敗り、射て共王の目に中つ。共王將軍子反を召すに、子反は酒を嗜む。(五)從者豎の陽穀酒を進め、醉へり。王怒り、子反を射殺し、遂に兵を罷め歸る。三十一年共王卒し、子康王招立つ、康王立ち、十五年に卒す。子員立つ、是を郟敖と爲す。康王には、寵弟公子圍・子比・子晳・棄疾あり。郟敖の三年、其季父康王の弟公子圍を以て令尹と爲し、兵事を主らしむ。四年圍は鄭に使し、道に

不ㇾ直矣。取ニ之牛一。不ニ亦甚一乎。且王以ニ陳之亂一。而率ニ諸侯一。伐ㇾ之以ㇾ義。伐ㇾ之而貪ニ其縣一。亦何以復令ニ於天下一。莊王乃復ニ陳國後一。

十七年。春。楚莊王圍ㇾ鄭。三月克ㇾ之。入ㇾ自ニ皇門一。鄭伯肉袒。牽ㇾ羊以逆曰。孤不天。不ㇾ能ㇾ事ㇾ君。君用懷ㇾ怒。以及ニ敝邑一。孤之罪也。敢不ニ唯命是聽一。賓ニ之南海一。若以ニ臣妾一賜ニ諸侯一。亦唯命是聽。若君不ㇾ忘ニ厲宣桓武一。不ㇾ絕ニ其社稷一。使ニ改事一ㇾ君。孤之願也。非ㇾ所ニ敢望一也。敢布ニ腹心一。楚羣臣曰。王勿ㇾ許。莊王曰。其君能下ㇾ人。必

ざらんや。之を南海に賓し(九)、若しくは臣妾を以て(一〇)諸侯に賜ふとも、亦唯れ命是れ聽かん、若し君厲宣桓武を忘れず(一一)、其社稷を絶たず(一二)、改めて君に事へしめんは、孤の願なり。敢て望む所に非ざるなり(一三)。敢て腹心を布くのみと。楚の羣臣曰く、王許すこと勿れと。莊王曰く、其君能く人に下る、必ず能く其民を信用せん。庸ぞ絕つべけんやと。莊王自ら旗(一四)を手にし、左右に軍を麾き、兵を引いて去ること、三十里(一五)にして舍す。遂に之に平(一六)を許す。潘尫(一七)入り盟ふ。子良(一八)出でて質となる。

(一) 安徽盧州府 (二) 陳世家參照 (三) 楚の縣となす (四) 俗間の諺に (五) 他人の田中を踏み行く (六) 城門 (七) 迎ふ (八) 天意に背く (九) 遷して客寓せしむ (一〇) 臣妾となして諸侯に分賜す (一一) 周の兩王厲宣は鄭の始祖なり、桓武は鄭初の二賢君 (一二) 國家の祭祀 (一三) 是非にと希望するに非ず (一四) 指麾の旗 (一五) 行軍一日の行程 (一六) 平和を許す (一七) 楚の大夫 (一八) 鄭伯の弟

遷二於殷一。載祀六百。殷紂暴虐鼎遷二於周一。德之休明。雖レ小必重。其姦回昏亂。雖レ大必輕。昔成王定二鼎于郟鄏一。卜レ世三十。卜レ年七百。天所レ命也。周德雖レ衰。天命未レ改。鼎之輕重未レ可レ問也。楚王乃歸。

九年相二若敖氏一。人或讒二之王一。恐レ誅反攻レ王。王擊滅二若敖氏之族一。十三年滅レ舒。十六年。伐陳殺二夏徵舒一。徵舒弒二其君一。故誅レ之也。已破レ陳卽縣レ之。羣臣皆賀。申叔時使齊來不レ賀。王問。對曰。鄙語曰。牽レ牛徑二人田一。田主取二其牛一。徑者則

九年若敖氏を相とす。人或は之を王に讒す。誅を恐れて、反つて王を攻む。王擊つて若敖氏の族を滅す。十三年(一)舒を滅す。十六年陳を伐ち、夏徵舒を殺す。徵舒が其君を弒する故に之を誅するなり。已に陳を破つて、卽ち之を縣にす。(三)(二)羣臣皆賀す。申叔時は齊に使して來り、賀せず。王問ふ。對へて曰く、(四)鄙語に曰く、牛を牽きて人の田(五)を徑るに、田主其牛を取ると。徑るは則ち直ならざるも、之が牛を取るは、亦甚しからずや。且王は陳の亂を以て諸侯を率ゐて之を伐つに義を以てし、之を伐つて其縣を貪らば、亦何を以て復天下に令せんやと。莊王乃ち陳國の後を復す。十七年春、楚の莊王鄭を圍む。三月之に克つ。(六)皇門より入る。鄭伯肉袒して羊を牽きて以て逆(七)へて曰く、孤(八)不天なり、君に事ふる能はず。君用て怒を懷き、以て敝邑に及べるは、孤の罪なり。敢て唯れ命是れ聽か

陸渾戎。遂至洛。觀兵於周郊。周定王使王孫滿勞楚王。楚王問鼎大小輕重。對曰。在德不在鼎。莊王曰。子無阻九鼎。楚國折鉤之喙。足以爲九鼎。王孫滿曰。嗚呼。君王其忘之乎。昔虞夏之盛。遠方皆至。貢金九牧。鑄鼎象物。百物而爲之備。使民知神姦。桀有亂德。鼎

鼎(四)の大小輕重を問ふ。對へて曰く、德に在りて鼎に在らずと。莊王曰く、子九鼎を阻む(五)こと無れ、楚國は鉤(六)の喙を折るも、以て九鼎を爲るに足ると。王孫滿曰く、嗚呼君王其れ之を忘れしか。昔は虞夏(七)の盛なるや、遠方皆至り、金を九牧(八)に貢せしめ、鼎を鑄て物に象り(九)、百物にして(一〇)之が備を爲し、民をして神姦(一一)を知らしむ。桀に亂德有り、鼎殷に遷りき。載祀(一二)六百。殷紂暴虐なるや、鼎は周に遷りぬ。德の休明(一三)は、小と雖も必ず重し。其姦回昏亂(一四)は、大と雖も必ず輕し。昔は成王は鼎を郟鄏(一五)に定め、世をトすること三十、年をトするに七百なり。天の命ずる所なり、周德衰ふと雖も、天命未だ改まらず。鼎の輕重は未だ問ふべからざるなりと。楚王乃ち歸りぬ。

(一) 湖北鄖陽府竹山縣東の地　(二) 昔は瓜州の陸渾に住み後に洛東附近の伊川に移り住める戎種　(三) 示威運動を行ふ　(四) 周の寶器たる九鼎　(五) 依頼す　(六) 戟の鋒尖を折りたる斷片　(七) 虞舜と夏禹　(八) 九州の牧民長官　(九) 百物の形象を彫刻す　(一〇) 殊俗異類に就いて之が防備をなす　(一一) 神靈と姦怪　(一二) 年數　(一三) 美にして明かなり　(一四) 姦邪　(一五) 成周の地なり

諫者ニ死無レ赦。伍擧入諫。莊王左抱ニ鄭姬ー。右抱ニ越女ー。坐ニ鐘鼓之間ー。伍擧曰。願有レ進隱。曰。有レ鳥在ニ於阜ー。三年不レ蜚不レ鳴。是何鳥也。莊王曰。三年不レ蜚。蜚將レ冲レ天。三年不レ鳴。鳴將レ驚レ人。擧退矣。吾知レ之矣。居數月。淫益甚。大夫蘇從乃入諫。王曰。若不レ聞レ令乎。對曰。殺レ身以明レ君。臣之願也。於レ是乃罷ニ淫樂ー聽レ政。所レ誅者數百人。所レ進者數百人。任ニ伍擧蘇從ー以レ政。國人大說。

かば將に人を驚さんとす。擧退け、吾之を知れりと。居ること數月、淫益く(二)甚し。大夫蘇從乃ち入り諫む。王曰く、若は令を聞かずやと。對へて曰く、身を殺して以て君を明にするは、臣の願なりと。是に於て乃ち淫樂を罷めて政を聽き、誅する所の者數百人、進むる所の者數百人なり。伍擧・蘇從に任ずるに政を以てし、國人大いに說ぶ。

(一) 河南江州の地 (二) 安徽六安州の地、望も其附近 (三) 鐘鼓の音樂 (四) 死刑に處して赦さず (五) 鐘太鼓の宴席 (六) 隱語なり謎に同じ (七) 昇上なり (八) 荒淫

是歲滅レ庸。六年。伐レ宋獲ニ五百乘ー。八年。伐ニ

是歲庸(一)を滅す。六年宋を伐つて五百乘を獲たり。八年陸渾(二)の戎を伐ち、遂に洛に至り、兵(三)を周の郊に觀す。周の定王は王孫滿をして楚王を勞はしむ。楚王

姫江芈而勿レ敬也。商臣從レ之。江芈怒曰。宜乎王之欲ニ殺レ若而立レ職也。商臣告ニ潘崇ー曰。信矣。崇曰。能事レ之乎。曰不レ能。能亡去乎。曰不レ能。能行ニ大事ー乎。曰能。冬十月。商臣以ニ宮衛兵ー圍ニ成王ー。成王請下食ニ熊蹯ー而死上。不レ聽。丁未。成王自絞殺。商臣代立。是爲ニ穆王ー。穆王立。以ニ其太子宮ー予ニ潘崇ー。使下爲ニ太師ー掌中國事上。

㊀楚の行政長官　㊁年齢　㊂後宮に寵愛する婦人　㊃太子を擧ぐるは常に年少公子を以てす　㊄目は蜂の如く聲は豺狼の如し　㊅殘忍刻薄の人物　㊆公子職を指す　㊇弑逆の事を暗示す　㊈熊掌の羹汁　㊉太子たりし時の宮殿　(一一)師傅の最上役

穆王三年。滅レ江。四年。滅ニ六蓼ー。六蓼皐陶之後。八年。伐レ陳。十三年卒。子莊王侶立。莊王即位。三年不レ出ニ號令ー。日夜爲レ樂。令ニ國中ー曰。有ニ敢

穆王の三年(一)江を滅し、四年六蓼(二)を滅す。六蓼は皐陶の後なり。八年陳を伐ち、十三年に卒す。子莊王侶立つ。莊王位に即き、三年まで號令を出さず、日夜樂(三)を爲し、國中に令して曰く、敢て諫むる者有らば、死して赦すこと無けんと。伍擧(四)入り諫む。莊王左に鄭姬を抱き、右に越女を抱き、鐘(五)鼓の間に坐す。伍擧曰く、願くは隱(六)を進むる有らん。曰く、鳥有り阜に在り、三年蜚ばず鳴かずと。是れ何の鳥ぞと。莊王曰く、三年蜚ばず、蜚ばば將に天に沖(七)らんとす。三年鳴かず、鳴

四十六年。初成王將下以二商臣一爲中太子上。語二令尹子上一。子上曰。君之齒未也。而又多二内寵一。絀乃亂也。楚國之擧。常在二少者一。且商臣蠭目而豺聲。忍人也。不レ可レ立也。王不レ聽立レ之。後又欲下立二子職一而絀中太子商臣上。商臣聞而未レ審也。告二其傅潘崇一曰。何以得二其實一。崇曰。饗二王之寵

四十六年、初め成王は將に商臣を以て太子と爲さんとし、令尹子上に語る。子上曰く、君の齒未だし、而して又內寵多し、絀くるは乃ち亂なり。楚國の擧は常に少者に在り。且つ商臣は蠭目にして豺聲、忍人なり。立つべからずと。王聽かずして之を立つ。後又子職を立てて太子商臣を絀けんと欲す。商臣聞いて未だ審にせず。其傅潘崇に告げて曰く、何を以て其實を得んと。崇曰く、王の寵姬江芈を饗して敬する勿れと。商臣之に從ふ。江芈怒つて曰く、宜なるかな王の若を殺して職を立てんと欲するやと。商臣潘崇に告げて曰く、信なりと。崇曰く、能く之に事へんかと。曰く、能はずと。能く亡げ去らんかと。曰く、能はずと。能く大事を行はんかと。曰く、能くせんと。冬十月、商臣は宮衞の兵を以て成王を圍む。成王熊蹯を食うて死せんと請ふ。聽かず。丁未成王自ら絞殺す。商臣代り立つ、是を穆王と爲す。穆王立ち、其太子の宮を以て潘崇に予へ、太師と爲りて國事を掌らしむ。

公遂病ㇾ創死。三十五年。晉公子重耳過ㇾ楚。成王以二諸侯客禮一饗。而厚送二之於秦一。三十九年。魯僖公來請ㇾ兵以伐ㇾ齊。楚使二申侯將ㇾ兵伐ㇾ齊。取ㇾ穀置二齊桓公子雍一焉。齊桓公七子皆奔ㇾ楚。楚盡以爲二上大夫一。滅ㇾ夔。夔不ㇾ祀二祝融鬻熊一故也。夏伐ㇾ宋。宋告二急於晉一。晉救ㇾ宋。成王罷歸。將軍子玉請ㇾ戰。成王曰。重耳亡居ㇾ外久。卒得ㇾ反ㇾ國。天之所ㇾ開不ㇾ可ㇾ當。子玉固請。乃與二之少師一而去。晉果敗二子玉於城濮。成王怒誅二子玉一。

僖公來りて兵を請ひ、以て齊を伐つ。楚は申侯をして、兵に將として齊を伐たしめ、穀(二)を取り、齊の桓公の子雍を置く。齊の桓公の七子皆齊に奔る、楚盡く以て上大夫と爲す。夔(三)を滅す、夔が祝融・鬻熊を祀らざるが故なり。夏宋を伐つ、宋は急を晉に告ぐ、晉宋を救ふ。成王罷め歸らんとす。將(四)軍子玉戰はんと請ふ。成王曰く、重耳亡げて外に居ること久し、卒に國に反るを得たり。天の開く所は當るべからずと。子玉固く請ふ。乃ち之に少師(五)を與へて去る。晉果して子玉を城濮(六)に敗る。成王怒つて子玉を誅す。

(一) 宋世家參照　(二) 山東泰安府　(三) 楚の熊渠の子が別に立てし國なり、湖北宜昌府歸州の西南方　(四) 晉世家參照　(五) 少數の軍隊　(六) 山東曹州府に在り

王惲元年。初卽レ位。布レ德施レ惠。結二舊好於諸侯一。使三人獻二天子一。天子賜レ胙曰。鎭二爾南方一。夷二越之亂一。無レ侵二中國一。於レ是楚地千里。十六年。齊桓公以レ兵侵レ楚至二陘山一。楚。成王使下將軍屈完以レ兵禦上レ之。與二桓公一盟。桓公數以二周之賦不一レ入二王室一。楚許レ之。乃去。十八年。成王以レ兵北伐レ許。許君肉袒謝。乃釋レ之。二十二年。伐レ黃。二十六年。滅レ英。三十三年。宋襄公欲レ爲二盟會一。召レ楚。楚王怒曰。召レ我。我將二好往襲辱一レ之。遂行至レ盂。遂執辱二宋公一。已而歸レ之。

て許を伐つ。許君肉袒(五)して謝す、乃ち之を釋す。二十二年黃(六)を伐つ。二十六年英(七)を滅す。三十三年、宋の襄公盟會を爲さんと欲し、楚を召す。楚王怒つて曰く、我を召す、我將に好く(八)往き、襲うて之を辱しめんとすと。遂に行いて盂(九)に至り、遂に執へて宋公を辱しめ、已にして之を歸す。

(一)貢獻す　(二)祭肉　(三)齊世家參照　(四)承諾す　(五)肩衣を脫して肉を露はし謝罪の意を表す　(六)湖北黃州府黃岡縣　(七)安徽六安州　(八)好を以て行く　(九)河南歸德府睢州の西北方

三十四年。鄭文公南朝レ楚。楚成王北伐レ宋。敗二之泓一。射傷二宋襄公一。襄

三十四年、鄭の文公は南して楚に朝す。楚の成王は北して宋を伐ち、之を泓(一)に敗り、射て宋の襄公を傷ふ。襄公遂に創を病みて死す。三十五年、晉の公子重耳楚を過ぐ。成王諸侯の客禮を以て饗して、厚く之を秦に送る。三十九年、魯の

卒二師中一而兵罷。子文王熊貲立。始都レ郢。文王二年。伐レ申。過レ鄧。鄧人曰。楚人易レ取。鄧侯不レ許也。

六年。伐レ蔡。虜二蔡哀侯一以歸。已而釋レ之。楚彊。陵二江漢間小國一。小國皆畏レ之。十一年。齊桓公始霸。楚亦始大。十二年。伐レ鄧。滅レ之。十三年卒。子熊囏立。是爲二杜敖一。杜敖五年。欲レ殺二其弟熊惲一。惲奔レ隨。與レ隨襲弑二杜敖一代立。是爲二成王一。成

六年蔡を伐ち、蔡の哀侯を虜にして以て歸る。已にして之を釋す。楚彊し。江漢間の小國を陵ぎ、小國は皆之を畏る。十一年、齊の桓公始めて霸たり。楚亦始めて大なり。十二年、鄧を伐つて之を滅す。十三年に卒す。子熊囏立つ、是を杜敖と爲す。杜敖の五年、其弟熊惲を殺さんと欲す、惲は隨に奔り、隨と襲うて杜敖を弑して代り立つ、是を成王と爲す。成王惲の元年、初めて位に卽き、德を布き惠を施し、舊好を諸侯に結び、人をして天子に獻ぜしむ。天子胙を賜うて曰く、爾の南方を鎭せよ、越の亂を夷げよ、中國を侵すこと無れと。是に於て楚の地千里なり。十六年、齊の桓公は兵を以て楚を侵し、陘山に至る。楚の成王、將軍屈完をして兵を以て之を禦がしめ、桓公と盟ふ。桓公數むるに周の賦が王室に入らざるを以てす。楚之を許す、乃ち去る。十八年、成王兵を以て北し

其君爲公。三十五年。楚伐隨。隨曰。我無罪。楚曰。我蠻夷也。今諸侯皆爲叛。相侵或相殺。我有敝甲。欲以觀中國之政。請王室尊吾號。隨人爲之周請尊楚。王室不聽。還報楚。三十七年。楚熊通怒曰。吾先鬻熊文王之師也。早終。成王擧我先公。乃以子男田令居楚。蠻夷皆率服。而王不加位。我自尊耳。乃自立爲武王。與隨人盟而去。於是始開濮地而有之。五十一年。周召隨侯。數以立楚爲王。楚怒以隨背己伐隨。武王

爲に周に之いて、楚を尊くせんことを請ふ、王室聽かず。還りて楚に報ず。三十七年楚の熊通怒りて曰く、吾が先鬻熊は文王の師なり、早く終りぬ。成王我が先公を擧げ、乃ち子男の田を以てして、楚に居らしむ。蠻夷皆率ひ服す。(四)而も王は位を加へず、我は自ら尊くせんのみと。乃ち自ら立つて武王と爲り、隨人と盟つて去る。是に於て始めて濮の地を開いて(五)之を有つ。五十一年、周は隨侯を召し、數むるに(六)楚を立てて王と爲すを以てす。楚怒り、隨が己に背くを以て隨を伐つ。武王師中に卒して兵罷む。子文王熊貲立ち、始めて郢に(七)都す。文王の二年、(八)申を伐つて鄧を過ぐ、(九)鄧人曰く、楚人は取り易しと。(一〇)鄧侯許さず。

(一)湖北德安府隨州の地、周と同姓なり　(二)破れたる甲兵　(三)爵號を尊貴にせんと欲す　(四)順ひ服す　(五)開拓す　(六)數へたてて人の罪を責むること　(七)湖北荊州府江陵縣の地、歷代の楚都たり　(八)河南汝寧府　(九)湖北襄陽府襄陽縣　(一〇)敗りて取ること容易なり

狗。熊狗十六年。鄭桓公初封二於鄭一。二十二年。熊狗卒。子熊咢立。熊咢九年卒。子熊儀立。是爲二若敖一。若敖二十年。周幽王爲二犬戎所一レ弑。周東徙。而秦襄公始列爲二諸侯一。二十七年。若敖卒。子熊坎立。是爲二霄敖一。霄敖六年卒。子熊眴立。是爲二蚡冒一。蚡冒十三年。晉始亂。以二曲沃之故一。蚡冒十七年卒。蚡冒弟熊通。弑二蚡冒子一而代立。是爲二楚武王一。武王十七年。晉之曲沃莊伯弑二主國晉孝侯一。十九年。鄭伯弟段作レ亂。二十一年。鄭侵二天子之田一。

蚡冒の弟熊通、蚡冒の子を弑して代り立つ、是を楚の武王と爲す。武王の十七年、晉の曲沃の莊伯は、主國晉の孝侯を弑す。十九年、鄭伯(三)の弟段は亂を作す。二十一年、鄭は天子の田(四)を侵す。

(一)楚の西南蠻夷境に在り　(二)晉世家參照　(三)鄭世家參照　(四)周室の領地を侵略す

二十三年。衞弑二其君桓公一。二十九年。魯弑二其君隱公一。三十一年。宋太宰華督弑二

二十三年、衞は其君桓公を弑す。二十九年、魯は其君隱公を弑す。三十一年、宋の太宰華督は其君殤公を弑す。三十五年楚は隨を伐つ。隨曰く、我は罪無しと。楚曰く、我は蠻夷なり。今諸侯皆叛を爲し、相侵し、或は相殺す。我に敝甲(二)有り、以て中國の政を觀んと欲す。王室に請うて吾號(三)を尊くせんとすと。隨人

蠻夷也。不レ與二中國之號謚一。乃立二其長子康一爲二句亶王一。中子紅爲二鄂王一。少子執疵爲二越章王一。皆在二江上楚蠻之地一。及二周厲王之時一暴虐。熊渠畏二其伐レ楚。亦去二其王一。後爲二熊毋康一。毋康早死。熊渠卒。子熊摯紅立。摯紅卒。其弟弑而代立。曰二熊延一。熊延生二熊勇一。熊勇六年。而周人作レ亂攻二厲王一。厲王出二奔彘一。熊勇十年卒。弟熊嚴爲レ後。

熊嚴十年卒。有二子四人一。長子伯霜。中子仲雪。次子叔堪。少子季狥。熊嚴卒。長子伯霜代立。是爲二熊霜一。熊霜元年。周宣王初立。熊霜六年卒。三弟爭レ立。仲雪死。叔堪亡避二難於濮一。而少弟季狥立。是爲二熊

熊嚴は十年に卒す。子四人有り、長子は伯霜、中子は仲雪、次子は叔堪、少子は季狥。熊嚴卒し長子伯霜代り立つ、是を熊霜と爲す。熊霜の元年、周の宣王初めて立つ、熊霜は六年に卒し、三弟立つを爭ひ、仲雪は死し、叔堪は亡げて、難を濮に避く。少弟季狥立つ、是を熊狥と爲す。熊狥の十六年、鄭の桓公初めて鄭に封ぜらる。二十二年熊狥卒す、子熊咢立つ、熊咢九年に卒し、子熊儀立つ、是を若敖と爲す。若敖の二十年、周の幽王は犬戎の弑する所と爲り、周は東に徙り、而して秦の襄公始めて列して諸侯と爲る。二十七年若敖卒す、子熊坎立つ、是を霄敖と爲す。霄敖は六年に卒し、子熊眴立つ、是を蚡冒と爲す。蚡冒の十三年、晉始めて亂る、曲沃の故を以てなり。蚡冒は十七年に卒す。

楚子熊繹與魯公伯禽。衞康叔子牟。晉侯燮。齊太公子呂伋。俱事成王。熊繹生熊艾。熊艾生熊黮。熊黮生熊勝。熊勝以弟熊楊。爲後。熊楊生熊渠。熊渠生子三人。當周夷王之時。王室微。諸侯或不朝相伐。熊渠甚得江漢間民和。乃興兵伐庸楊粵。至于鄂。熊渠曰。我

楚子熊繹、魯公伯禽、衞康叔子牟、晉侯燮、齊の太公子呂伋と、倶に成王に事ふ。熊繹は熊艾を生み、熊艾は熊黮を生み、熊黮は熊勝を生む。熊勝は弟熊楊を以て後と爲す。熊楊は熊渠を生み、熊渠は子三人を生む。周の夷王の時に當り王室微なり、諸侯或は朝せずして相伐つ。熊渠は甚だ江漢間(一)の民和を得たり。乃ち兵を興して庸楊粵を伐ち、鄂に至る。熊渠曰く、我は蠻夷なり、中國の號諡(二)に與からずと。乃ち其長子康を立てて句亶王と爲し、中子紅を鄂王と爲し、少子執疵を越章王と爲す。皆江上楚蠻の地に在り。周厲王の時に及び、暴虐(三)なり。熊渠其の楚を伐つを畏れ、亦其王を去つ(四)。後を熊毋康と爲す。毋康は早く死す。熊渠卒し、子熊摯紅立つ。摯紅卒し、其弟弑して代り立つ、熊延と曰ふ。熊延は熊勇を生む。熊勇の六年、周人亂を作して厲王を攻め、厲王彘に出奔す。熊勇は十年に卒し、弟熊嚴後と爲る。

(一) 揚子江と漢水と (二) 爵號賜謚に無關係なり (三) 厲王の政事暴虐 (四) 王號を去る

帝嚳使重黎誅之。而不盡。帝乃以庚寅日誅重黎。而以其弟吳回。爲重黎後。復居火正。爲祝融。吳回生陸終。陸終生子六人。坼剖而產焉。其長一曰昆吾。二曰參胡。三曰彭祖。四曰會人。五曰曹姓。六曰季連。芈姓。楚其後也。昆吾氏夏之時嘗爲侯伯。桀之時湯滅之。彭祖氏殷之時嘗爲侯伯。殷之末世。滅彭祖氏。季連生附沮。附沮生穴熊。其後中微。或在中國。或在蠻夷。弗能紀其世。周文王之時。季連之苗裔曰鬻熊。鬻熊子事文王。蚤卒。其子曰熊麗。熊麗生熊狂。熊狂生熊繹。熊繹當周成王之時。擧文武勤勞之後嗣。而封熊繹於楚蠻。封以子男之田。姓芈氏。居丹陽。

と爲る。桀(七)の時に湯之を滅す。彭祖氏は、殷の時に嘗て侯伯と爲り、殷の末世に彭祖氏を滅す。季連は附沮を生み、附沮は穴熊を生む。其後中ごろ微なり(八)。或は中國に在り、或は蠻夷に在り、其世(九)を紀する能はず。周の文王の時、季連の苗裔を鬻熊と曰ふ。鬻熊の子は文王に事へて、蚤く卒す。其子を熊麗と曰ふ。熊麗は熊狂を生み、熊狂は熊繹を生む。熊繹は周の成王の時に當り、文武(一〇)勤勞の後嗣を擧げて、熊繹を楚蠻に封じ、封ずるに子男(一一)の田を以てす。姓は芈氏、丹陽(一二)に居る。

(一)五行中の火を司る官名　(二)光被に同じ　(三)大いに明かなる義　(四)完全に成功せず　(五)身自ら裂けて子を生む　(六)季連の姓氏　(七)夏后最終の帝君　(八)中世に微賤なり　(九)變遷年數を記すること難し　(一〇)文王武王に仕へて勤勞したる者の後嗣　(一一)子爵男爵の受くべき土地　(一二)江蘇省江府丹陽縣

史記 卷四十

楚世家 第十

楚之先祖。出レ自二帝顓頊高陽一。高陽者。黄帝之孫。昌意之子也。高陽生レ稱。稱生二卷章一。卷章生二重黎一。重黎爲二帝嚳高辛一居二火正一。甚有レ功。能光二融天下一。帝嚳命曰二祝融一。共工氏作レ亂。

楚の先祖は、帝顓頊高陽より出づ。高陽は黄帝の孫にして、昌意の子なり。高陽は稱を生み、稱は卷章を生み、卷章は重黎を生む。重黎は帝嚳高辛の爲に火正(一)に居り、甚だ功有り、能く天下に光融す。(二)帝嚳命じて祝融(三)と曰ふ。共工氏亂を作す。帝嚳重黎をして之を誅せしむ、而も盡さず。(四)帝乃ち庚寅の日を以て重黎を誅し、其弟吳回を以て重黎の後と爲す。復火正に居りて、祝融と爲る。吳回は陸終を生み、陸終は子六人を生む。(五)坼剖して産す。其長一を昆吾と曰ひ、二を參胡と曰ひ、三を彭祖と曰ひ、四を會人と曰ひ、五を曹姓と曰ひ、六を季連と曰ふ。(六)芊姓なり。楚は其後なり。昆吾氏は、夏の時に嘗て侯伯

——(史記第三目次終)——

目次

史記 第三

史

記

三